



SICAT FUNCTION バージョン1.4

取扱説明書 | 日本語

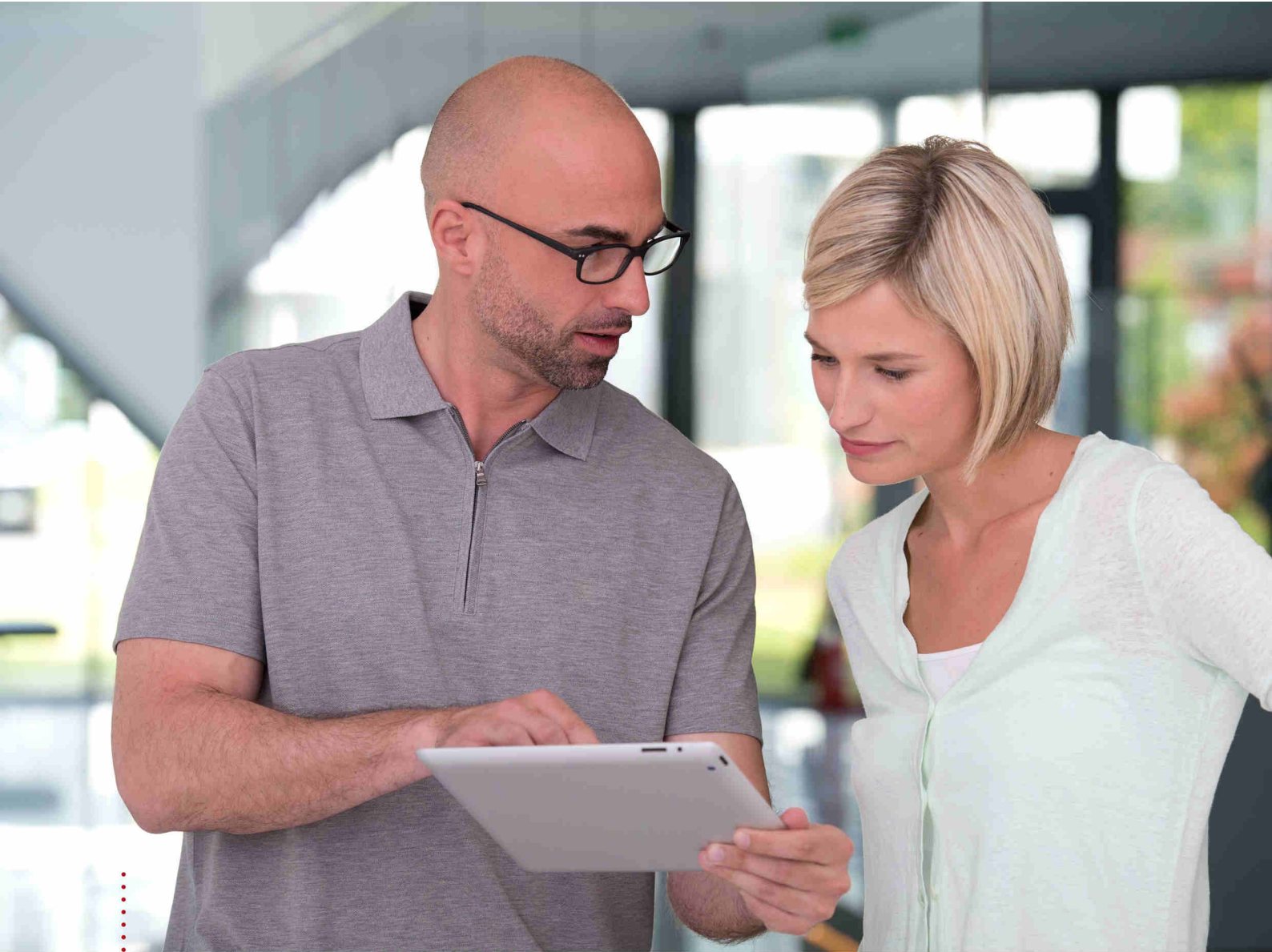
取扱説明書の構成

この取扱説明書にはSICAT Functionについて三種類の異なる種類の文書が含まれています。

- SIDEXIS 4-ModulとしてのSICAT Function用
- SIDEXIS XGプラグインとしてのSICAT Function用
- スタンドアロン版としてのSICAT Function用

それぞれの取扱説明書には特定の種類用の情報が全て含まれています。例えば、SICAT FunctionをSIDEXIS 4モジュールとしてのみ使用している場合は取扱説明書の該当部分のみ読む必要があります。

例外はマークの説明と最終ページのメーカーおよびサポートへの連絡先と取扱説明書の項目番号のみです。全文書の最後でこれらの情報を一覧することができます。



SICAT FUNCTION バージョン1.4

取扱説明書 | 日本語 | SIDEXIS 4

目次 - SIDEXIS 4

1 用途	8
2 バージョン履歴	9
3 システム要件	10
4 安全に関する情報.....	13
4.1 危険レベルの定義	14
4.2 オペレーターの資格	15
5 使用するアイコンおよび強調.....	16
6 取扱説明書の概要.....	17
7 SICAT Suiteの概要	18
8 SICAT Suiteのインストール	20
9 OSアップデートの確認手順を実行する	26
10 SICAT Suiteの更新、修復.....	32
11 このバージョンでの特徴.....	33
12 SICAT Functionの標準ワークフロー.....	37
13 SICAT SuiteをSIDEXIS 4のモジュールとして登録する、削除する	42
14 SIDEXIS 4のSICAT Function撮影結果	44
15 SICAT Suite をスタートする	46
16 SICAT Suiteのユーザーインターフェース.....	48
17 SICATのアプリケーションを相互に切り替える	49
18 取扱説明書を開く	50
19 ライセンス.....	51
19.1 「ライセンス一覧」ウインドウを開く	53
19.2 インターネット接続を使用してライセンスを有効にする	54
19.3 ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする	56
19.4 ライセンスをライセンスプールへ返却する	58
19.5 バウチャーコードを使用する	60
20 SICAT Functionのユーザーインターフェース	61
20.1 ワークフローのツールバー.....	63
20.2 オブジェクトバー	65
20.3 オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理	66

20.4	オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理	68
20.5	SICAT Functionオブジェクト	70
21	ワークスペース	72
21.1	パノラマワークスペースの概要	73
21.2	TMJワークスペースに関する概要	75
21.3	MPR/放射性ワークスペースの概要	77
21.4	アクティブなワークスペースを切り替える	78
21.5	アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット	79
21.6	ワークスペースのスクリーンショットを作成する	80
22	ビュー	81
22.1	ビューの調整	82
22.2	アクティブなビューの切り替え	84
22.3	ビューの最大化および復元	85
22.4	2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット	86
22.5	ビューのズームおよび切り抜きの移動	88
22.6	レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール	89
22.7	十字線およびフレームの移動、非表示、表示	90
22.8	検査ウィンドウの移動、非表示、表示	91
22.9	ビューをリセットする	93
22.10	画像のスクリーンショットを作成する	94
23	3Dビューの調整	95
23.1	3Dビューの目線を変更する	96
23.2	3Dビューの表示タイプ	98
23.3	3Dビューの表示タイプを切り替える	101
23.4	3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する	102
23.5	切り抜きを移動する	104
24	ボリュームの配置およびパノラマエリア	106
24.1	ボリュームの配置を調整する	109
24.2	パノラマエリアを調整する	114
25	顎運動データ	118
25.1	互換性のある顎運動撮影機器	119
25.2	顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録	120
26	セグメンテーション	126
26.1	下顎骨をセグメントする	127
26.2	窩をセグメントする	130

27 光学印象	133
27.1 光学印象をインポートし記録する	134
27.2 STLフォーマットの光学印象の場合の追加手順	140
27.3 他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する	142
28 解剖学的な咬合	144
28.1 顎運動と連携する	145
28.2 3Dビューで運動の軌跡を表示する	148
28.3 検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する	149
28.4 レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する	150
29 TMJワークスペースの各種機能	151
29.1 軌跡点を移動する	152
29.2 上下顎中切歯の交点をセットする	153
29.3 Bonwillの三角を利用する	154
29.4 セグメンテーション限度の表示	155
29.5 下顎頭を中心に顎運動を表示する	156
30 咬合器値	157
30.1 下顎頭が視認可能な時に咬合器値を読み込む	161
30.2 下顎頭が視認不可能な時に咬合器値を読み込む	163
31 距離/角度測定	166
31.1 距離測定を追加する	167
31.2 角度測定を追加する	168
31.3 測定、個々の測定ポイント、測定値を移動する	170
32 データエクスポート	172
33 注文プロセス	173
33.1 治療位置の設定	174
33.2 治療プリントをショッピングカートに入れる	176
33.3 カートを開く	180
33.4 カートをチェックして、注文プロセスを完了する	181
33.5 インターネット接続を使用した注文の終了	182
33.6 SICATポータルでの注文手順	183
33.7 SICAT WebConnector	184
33.8 インターネット接続を使用しない注文の終了	186
34 設定	190
34.1 一般設定の使用	191
34.2 SMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーション	193

34.3 歯科医院情報の使用	195
34.4 可視化設定の変更	196
34.5 SICAT Function設定の変更	198
35 サポート	199
35.1 サポート態勢のページを開く	200
35.2 連絡先情報およびサポートツール	201
35.3 インフォメーション	202
36 データを書き込み禁止で開く	203
37 SICAT Suiteを閉じる	205
38 ショートカットキー	206
39 SICAT Suiteのアンインストール	207
40 安全に関する注意事項	210
41 精度	218
用語集	219
索引	220

1 用途

SICAT Functionは、口腔顎顔面部分の画像情報をビジュアル化してセグメント化し、さらに、顎運動を表示する目的で使用するソフトウェアです。

画像情報は、医療スキャナ（CT/DVT/光学印象システムスキャナなど）によるものです。運動情報は、コンジロググラフィーデバイスなどによるものです。

SICAT Functionは、MKG領域における認証、診断、治療計画および咀嚼問題の治療計画において資格のある歯科医をサポートしています。

計画データはSICAT Functionからエクスポートすることができ、治療の実施のために使用されません。

2 バージョン履歴

バージョン1.4

- SICATアプリケーションには登録要件の理由により、ビューアモードでもライセンスが必要です。アプリケーションをライセンスなしで使用することはできません。SICATは使用国で許可されているアプリケーションのビューアライセンスを顧客アクティベーションキーに自動的に追加します。任意のライセンスを無効にして再度有効にすることにより、ビューアライセンスを有効にすることができます。これに関する情報はライセンス [▶ ページ 51 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
- 取扱説明書はスタンドアロン版内でもSIDEXIS XGプラグイン形式の使用時でもPDFファイルとして参照可能です。
- SICAT Function 顎運動データから仮想軸を算出することができます。
- SICAT Function ボンウィル三角の辺の長さを表示します。

バージョン1.3

- SIDEXIS 4のモジュールを追加
- 表記言語をイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、オランダ語、ロシア語でサポート
- このバージョンより、SICAT Functionのバージョン番号がSICAT Suiteのバージョン番号と一致
- 顎関節症治療用スプリントについて、石膏模型を製作してからの注文を選択可能とする
- TMJ-セグメント化した下顎頭の運動を表示するワークスペース
- セグメント化のウィンドウを閉じた後でも、セグメント化の編集を続行可能とする

バージョン1.1

- 表記言語をフランス語と日本語でサポート
- ボリュームの配置の補正機能を追加
- 治療スプリントの注文
- 顎運動データのフォーマットを.jmt形式のファイルに変更
- 顎運動の軌跡とまとめて光学印象をエクスポートする機能を追加

バージョン1.0

- 初版発行
- 表記言語を英語とドイツ語でサポート

3 システム要件



注意

お手元のシステムがシステム要件を満たしていない場合は、結果として、このソフトウェアが起動しなくなったり、または正常に機能しない可能性があります。

ソフトウェアをインストールする前に、ご使用のシステムが最小ソフトウェア/ハードウェア要件を満たしているか確認してください。

プロセッサ	クワッドコア：2.3 GHz
メインメモリ	8 GB
グラフィックカード	専用* DirectX 11以上 ビデオメモリ：2 GB 現行のドライバで、ウィンドウズ・ディスプレイ・ドライバ・メモリWDDM1.0以降のバージョンを使用できること。
ディスプレイ	画面解像度：画素密度が100%～125%のとき、1920×1080ドット以上** 画面解像度：画素密度が100%～200%のとき、3840×2160ドット以下**
ハードディスクの空き容量	20 GB、その他、データセット用の補助メモリ容量が必要
記憶媒体	インストールファイルが保存された外部記憶媒体へのアクセス
入力装置	キーボード、マウス
ネットワーク	Ethernetで、100 Mbpsまたは1000 Mbpsを推奨
患者教化用プリンター	300 dpi以上 紙形式はDIN A4またはUSレターサイズ
オペレーティングシステム	Windows 7 SP1 (64ビット版)、更新ファイルKB2670838を適用済みであること Windows 8 (64ビット版、デスクトップ) Windows 8.1 (64ビット版、デスクトップ) Windows 10 (64ビット版、デスクトップ)

ウェブブラウザ	Microsoft Internet Explorer 11以降のバージョン Mozilla Firefox 39以降のバージョン Google Chrome 44以降のバージョン JavaScriptが有効になっていること。 標準のブラウザに設定しておいてください。
PDFビューア	例えば、Adobe Reader DC以降のバージョン
SICAT Suiteをプラグインとして、SIDEXIS XGにインストール	バージョン2.6.1（64ビット版）
SICAT Suiteをモジュールとして、SIDEXIS 4にインストール	バージョン4.2 SiPlanAPI V4
SICAT Suiteをプラグインとして、SIDEXIS 4にインストール	バージョン4.1.2（64ビット版）



*SICAT Suiteでご使用いただけるグラフィックカードは、パフォーマンスレベルがNVIDIA GeForce 960 GTXと同等か、または、それを上回る専用のものに限りです。統合グラフィックカードには対応していません。

**画面を低解像度にして画素密度を大きくすると、それが原因で、ユーザーインターフェースのある一部で、ソフトウェアの表示が不完全になることがあります。

ディスプレイは、SMPTEテスト画像が正確に表示されるように調整する必要があります。この調整に関する内容は、*SMPTEテスト画像によるモニターのカリブレーション* [▶ ページ 193 - SIDEXIS 4]をご覧ください。

前提ソフトウェア

SICAT Suiteは、以下のソフトウェア・コンポーネントを必要としますが、これらコンポーネントが未インストールのときは、SICAT Suiteがインストールを行います。

- Microsoft .NET Framework 4.5
- CodeMeterライセンス管理ソフト6.30d
- SQL Server Compact Edition 4.0
- SICAT WebConnector

SICAT WebConnectorはSICATサーバーとの通信用に特定のポートを必要とします。このポートはファイアウォール内でも有効にされている必要があります。

プロトコル	接続方向	ポート
HTTP	送信	80
HTTPS	送信	443
FTPS管理	送信	21
FTPSデータ転送	送信	49152~65534



SICAT WebConnectorがなくても注文を実行することができます。これに関する情報は注文プロセス [▶ ページ 173 - SIDEXIS 4]を参照してください。


4 安全に関する情報

安全関連の章節を以下に挙げますが、お読みいただくことが大切です。

- 危険レベルの定義 [▶ ページ 14 - SIDEXIS 4]
- オペレーターの資格 [▶ ページ 15 - SIDEXIS 4]
- 安全に関する注意事項 [▶ ページ 210 - SIDEXIS 4]

4.1 危険レベルの定義

この取扱説明書では、オペレータ要員の皆様や患者様が負傷しないようにすること、および、物的損害を予防することの両者を目的として、安全にかかわる識別表示として以下のものを使用しています。

 注意	この表示は、回避しなかった場合に、比較的、軽度の負傷を招く原因になりうる、危険な状況であることを示します。
---	---

注記	重要であるが、安全に関連していると思なされない情報を示しています。
----	-----------------------------------

4.2 オペレーターの資格



注意

資格のない者が本ソフトウェアを使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

ソフトウェアの使用は、必ず専門の知識のある有資格者が行ってください。

このソフトウェアを使用する要員の皆様は、スキルを有する熟練者の方か、または、正規の教育訓練を修了された方のいずれかに限定してください。

教育またはトレーニングを終了する、または本ソフトウェアを一般的なトレーニングの枠内で使用する場合、必ず有資格者が常時監視している状態で使用してください。

本ソフトウェアを使用するための前提条件：

- 本取扱説明書を読んでいること。
- ソフトウェアの基本構造および機能に習熟していること。
- ソフトウェアの故障を認識し、必要に応じて、適切な手順を実行することができること。

5 使用するアイコンおよび強調

アイコン

この取扱説明書では、以下の記号を使用しています。



この注意アイコンは、例えば代替手順のような追加情報を示しています。

強調

SICAT Suiteに表示される要素のテキストおよび記号は、**太字**で強調されています。これに含まれるユーザーインターフェースのオブジェクト：

- 範囲の記号
- ボタンの記号
- アイコンの記号
- 画面に表示される注意およびメッセージのテキスト

取扱説明

取扱説明は番号付きリストで記載されています。

☑ 前提条件にはこのアイコンが付けられています。

1. 手順には番号が付けられています。

▶ 中間結果はこのアイコンが付けられ、挿入されています。

2. 中間結果の後、それ以降の手順が続きます。

▶ 最終条件にはこのアイコンが付けられています。

- 一つの手順のみで構成される指示にはこのアイコンが付けられています。

6 取扱説明書の概要

SICAT Function は、他の各種アプリケーションとともに、SICAT Suiteの一部を構成します。

SICAT Suiteは、SICATの各種アプリケーションを実行させる環境を提供します。したがって、各種アプリケーションのインストールは、SICAT Suiteにより行います。これに関する情報は*SICAT Suiteのインストール* [▶ ページ 20 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

現在、SICAT Suiteとしてお使いいただけるバージョンは、3種類あります。バージョンによって、操作手順の異なるものがいくらかあります。そのため、この取扱説明書では、バージョンごとで以下のように独立させています。

- *SIDEXIS 4*のモジュールを追加
- *SIDEXIS XG*のプラグイン
- スタンドアロン版

SICAT Suiteをインストールするときは、いずれか1バージョンを選択する操作は不要です。

各種アプリケーションのアンインストールも同様に、SICAT Suiteにより行います。これに関する情報は*SICAT Suiteのアンインストール* [▶ ページ 207 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

7 SICAT SUITEの概要

SICAT Suiteは、以下のコンポーネントより構成されています。

- SICAT Function - SICAT Functionの用途については、SICAT Functionの取扱説明書をご参照ください。
- SICAT Air - SICAT Airの用途については、SICAT Airの取扱説明書をご参照ください。
- SICAT Endo - SICAT Endoの用途については、SICAT Endoの取扱説明書をご参照ください。

言語

SICAT Suiteのユーザーインターフェースは以下の言語に対応しています。

- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 日本語
- スペイン語
- イタリア語
- オランダ語
- ポルトガル語
- ロシア語

ライセンス認証

SICATアプリケーションまたは各機能を有効にするには以下の手順が必要となります。

- その場で販売担当者にご連絡ください。
- バウチャーコードを受け取ることができます。
- SICATポータルでバウチャーコードからライセンスキーが生成されます (SICATホームページからアクセス可能)。
- SICATがお客様のアクティベーションキーにライセンスキーを追加します。
- アクティベーションキーでSICATアプリケーションまたはSICAT Suiteをインストールしたコンピュータ上の各機能を有効化します。

フルバージョンおよびビューアモード

SICAT Suiteは2種類のモードでスタートすることができます。

- 最低一つのSICATアプリケーションのビューアライセンスが有効な場合、SICAT Suiteがビューアモードで起動します。
- 少なくとも一つのSICATアプリケーションのフルバージョンライセンスを有効にしている場合、SICAT Suiteはフルバージョンで起動します。

原則として以下のルールを適用しています。

- 有効なフルバージョンライセンスのあるアプリケーションはフルバージョンでスタートします。
- 有効なビューアライセンスのあるアプリケーションはビューアモードでスタートします。
- 有効なライセンスのないアプリケーションはスタートしません。
- SICAT Suiteをインストールするときに、一つのモードに決定する必要はありません。

8 SICAT SUITEのインストール



注意

ソフトウェアに改変を加えると、結果として、このソフトウェアが起動しなかったり、または正常に機能しない可能性があります。

1. ソフトウェアのインストールに変更を加えないでください。
2. ソフトウェアのインストールディレクトリにあるコンポーネントを削除または変更しないでください。



注意

インストールメディアが損傷すると、インストールに失敗する可能性があります。

インストールメディアは慎重に取り扱い、適切に保管してください。



注意

お手元のシステムがシステム要件を満たしていない場合は、結果として、このソフトウェアが起動しなくなったり、または正常に機能しない可能性があります。

ソフトウェアをインストールする前に、ご使用のシステムが最小ソフトウェア/ハードウェア要件を満たしているか確認してください。



注意

不十分な承認は、ソフトウェアインストールまたはソフトウェアアップデートが失敗する原因になる場合があります。

ソフトウェアをインストールまたはアップデートする場合、使用するシステムに十分な承認があることを確認してください。



お手元のコンピュータでは、Windowsの **オートスタート** 機能がオフに設定されていることがあります。この場合、光媒体をWindowsファイルエクスプローラーで開き、ファイル名にSICAT Suiteのバージョンが含まれる **SICATSuiteSetup.exe** ファイルを手動でスタートすることができます。

SICAT Suiteをインストールするには、次のように行います。

☑ お手元のコンピュータでは、システムの要件が満たされているようにしておいてください。これに関する情報は**システム要件** [▶ ページ 10 - SIDEXIS 4]を参照してください。

1. SICAT Suiteインストールメディアをコンピューターの光学ドライブに挿入します。

▶ オートスタートのウィンドウが開きます。



2. オートスタートのウィンドウで、**SICATSuiteSetup.exe** を実行する のオプションを選択します。このとき、ファイル名には、SICAT Suiteのバージョン番号が含まれています。

▶ ソフトウェアがコンピューター上で使用できない場合、前提ソフトウェアをインストールします。

- ▶ SICAT Suiteのインストールプログラムが起動し、はじめに のウィンドウが開きます。



3. SICAT Suiteのインストールプログラムで使用する言語は、お好みのものを、はじめに のウィンドウの右上隅から選択したら、次へ をクリックします。

- ▶ 使用許諾契約書のウィンドウが開きます。



- 4. エンドユーザー使用許諾契約書をもれなく通読し、使用許諾契約書に同意します。 のチェックボックスにチェックマークを入れたら、次へをクリックします。

- ▶ オプションのウィンドウが開きます。



- SICAT Suiteのインストールプログラムにより、SICAT Suiteをインストールする先のフォルダが、ハードディスク上にありますが、このフォルダを変更するときは、**検索する**のボタンをクリックします。

- ▶ **フォルダを選択する** のウィンドウが開きます。

- SICAT Suiteインストールプログラムに「SICAT Suite」ディレクトリを作成させたいフォルダを参照し、**OK**をクリックしてください。

- ▶ フォルダを選択すると、SICAT Suiteのインストールプログラムが、そのフォルダへのパスを **ソフトウェアをどこにインストールしますか?** のボックス内に貼り付けます。

- お手元のコンピュータにSIDEXIS XGか、または、SIDEXIS 4がインストールしてある場合、**SIDEXIS 搭載の SICAT Suite を使用したい** のチェックボックスは、入力が可能です。SICAT Suiteの登録は、インストール中でも可能ですが、後ほど、SIDEXIS XGのプラグインか、または、SIDEXIS 4のモジュールとして、マニュアル操作によっても結構です。

- ▶ **SIDEXIS 搭載の SICAT Suite を使用したい** のチェックボックスにチェックマークを入れた場合、**デスクトップにショートカットを作成します** のチェックボックスは、グレースアウト表示で入力できません。

- 入力が可能な場合は、**デスクトップにショートカットを作成します** のチェックボックスにチェックマークを入れるか外すかのいずれかを行います。

- インストールする** のボタンをクリックします。

- ▶ **進捗状況** のウィンドウが開きます。



- ▶ SICAT Suiteと残りの前提ソフトウェアをインストールします。
- ▶ インストールが完了すると、**確認** のウィンドウが開きます。



10. **終了する**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteインストールプログラムが閉じます。

9 OSアップデートの確認手順を実行する



注意

OSに改変を加えると、結果として、SICATアプリケーションが起動しなかったり、または正常に機能しない可能性があります。

1. SICATアプリケーションを起動する前に、必ずお手元のコンピュータのオペレーションシステムが前回SICATアプリケーションを使用してからアップデートやセキュリティアップデートをインストールしたかを確認してください。
2. お手元のコンピュータのオペレーションシステムに更新プログラムまたは背級レティアップデートがインストールされている場合、取扱説明書に記載されている必要手順でSICATアプリケーションのチェックを実行してください。
3. SICATアプリケーションの動作が取扱説明書に記載されている動作と異なる場合、ソフトウェアをそれ以上使用せず、直ちにSICATサポートまでお問い合わせください。

お使いのコンピュータのオペレーションシステムに更新プログラムがインストールされている場合、SICAT Functionが正常に動作しているか確認します。以下の点検手順を実行してください。点検中に異常を発見した場合は影響を受けるコンピュータ上のSICAT Functionの使用を中止し、SICATサポートまでお問い合わせください。

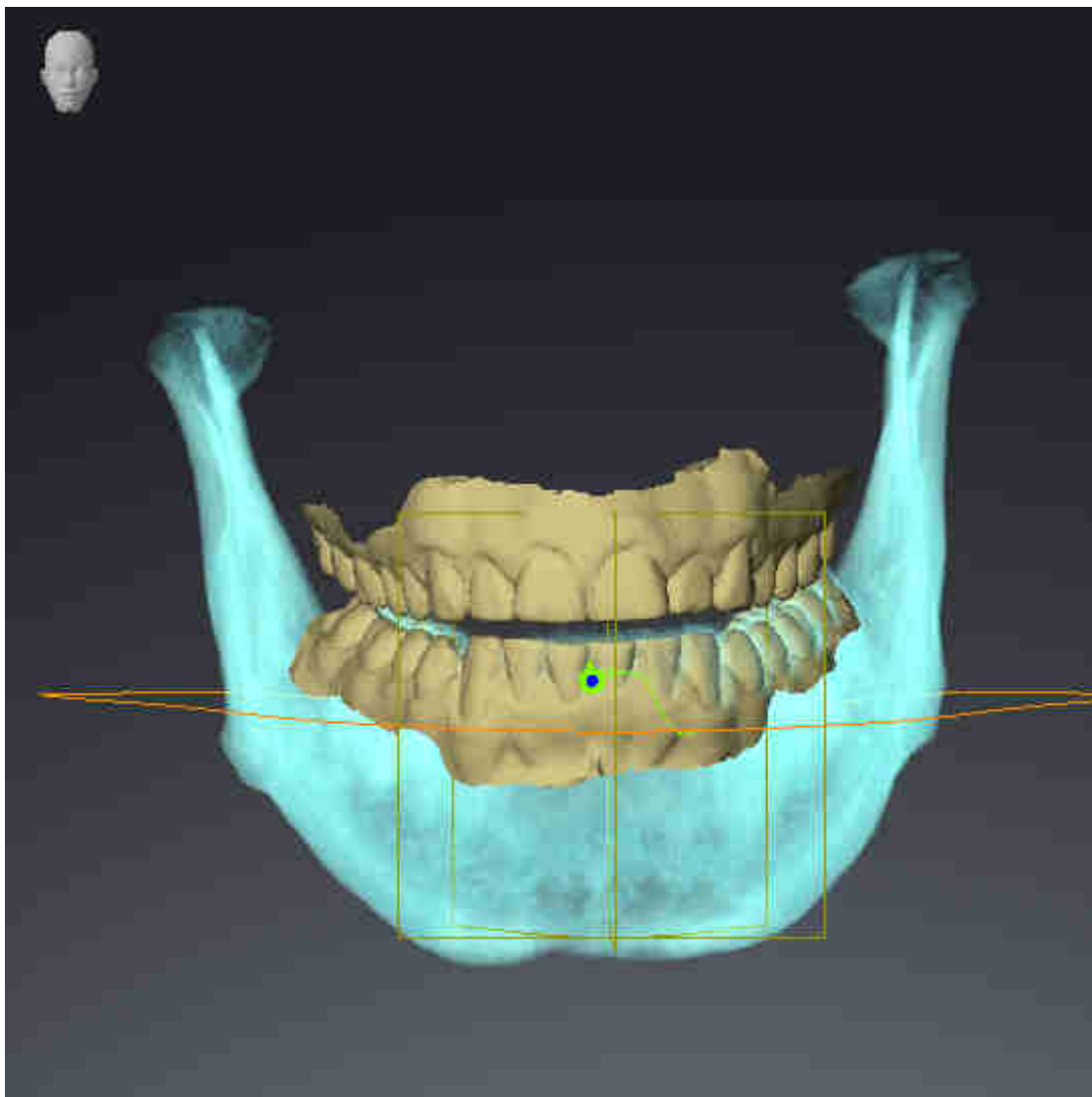
準備

1. 誰も意図せぬ変更をしていないことを確認するために、患者「Axx Patient」を削除します。
2. ファイル「SICATSuite_ReferenceDataset_1.4.zip」から基準データセットをインポートします。SICAT Suiteのインストールメディア状にデータセットがあります。
3. 基準データセット「Patient Axx」をSICAT Functionで開きます。

下顎骨セグメンテーション

1. パノラマワークスペースが有効であることを確認してください。
2. ビューを標準値に戻します。
3. 3Dビューが3DX線撮影画像を前方から示しているか確認してください。
4. 表示モードを背景領域を非表示にするにセットしてください。
5. リストアクティブな顎関係：から要素「lateral_lt.1」を選択してください。

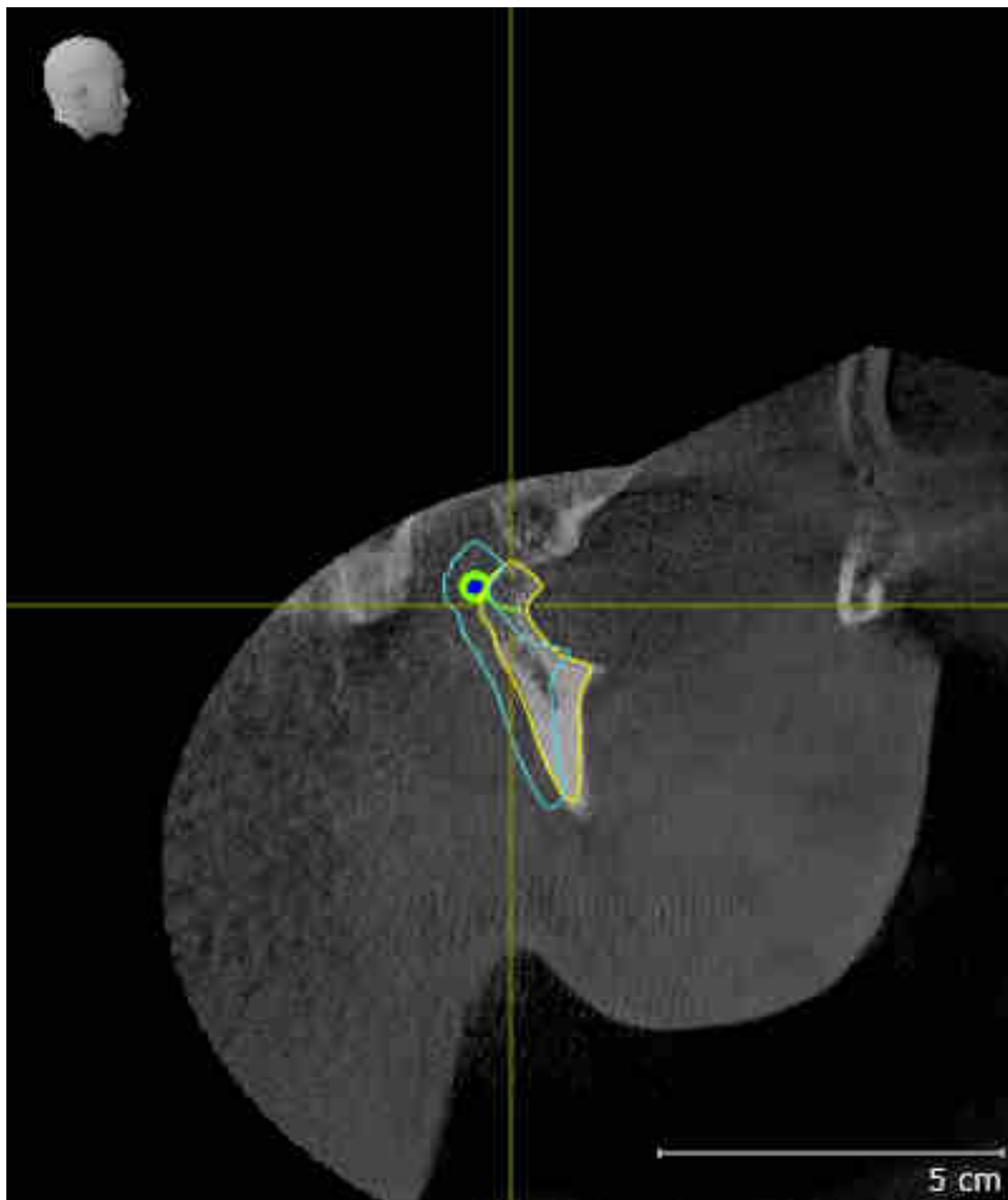
6. 以下のスクリーンショットで3Dビューを比較してください。特に、下顎骨セグメンテーションと光学印象の表示をチェックします。



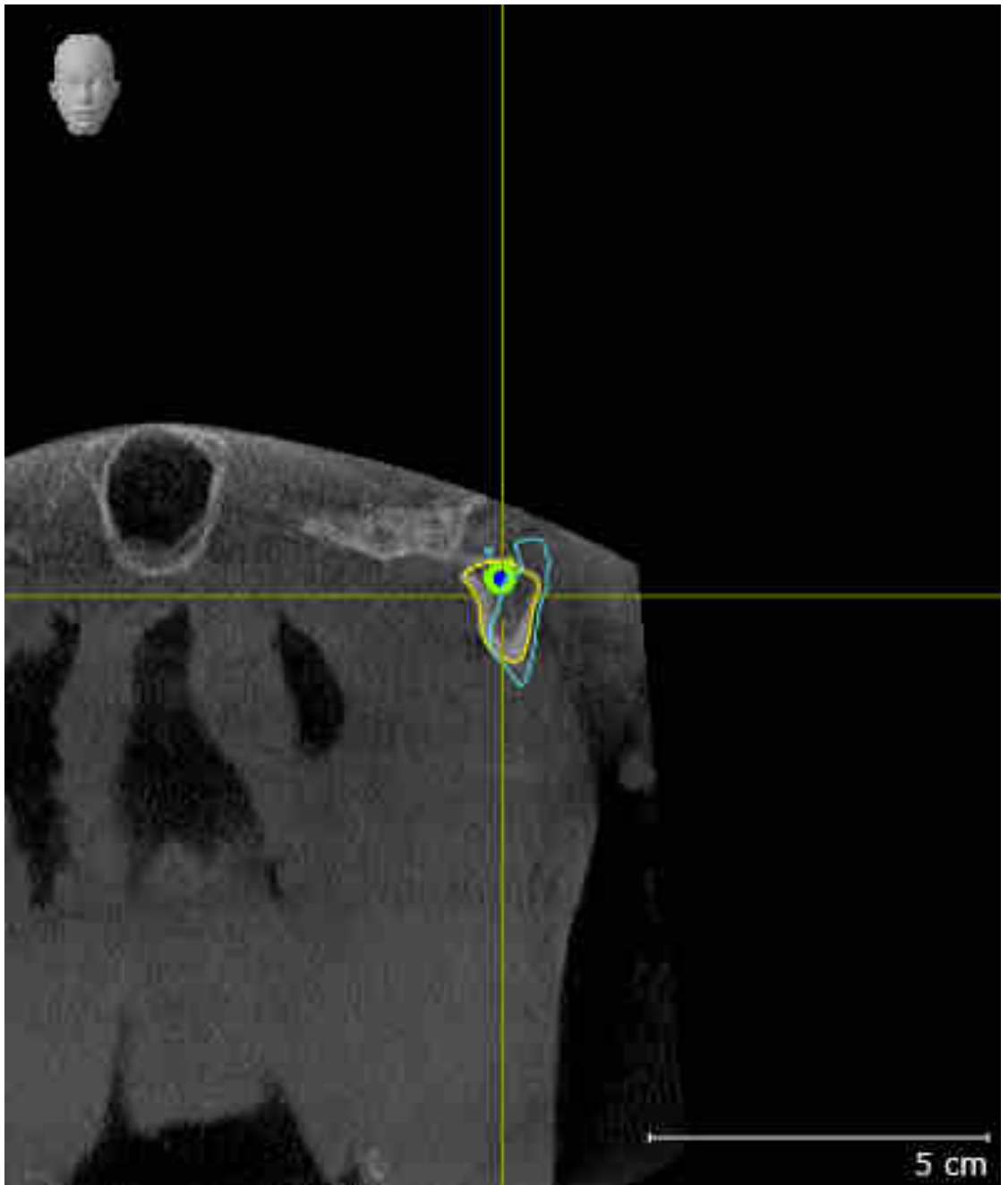
顎運動データ

1. TMJワークスペースが有効であることを確認してください。
2. 輝度およびコントラストに対する値がそれぞれ基準値の50%に一致していることを確認してください。
3. リストアクティブな顎関係：から要素「lateral_lt.1」を選択してください。
4. オブジェクトブラウザの下ボリューム-部位 > 下顎骨で要素 下顎の右側を選択し、その要素に焦点を合わせてください。
5. オブジェクトブラウザの下ボリューム-部位 > 下顎骨で要素 下顎の左側を選択し、その要素に焦点を合わせてください。
6. オブジェクトブラウザで要素ボリューム-部位を選択してください。

7. プロパティエリアでオプションセグメンテーション限度の表示を有効化してください。
8. 以下のスクリーンショットで **右顆状突起 矢状方向ビュー**を比較してください。

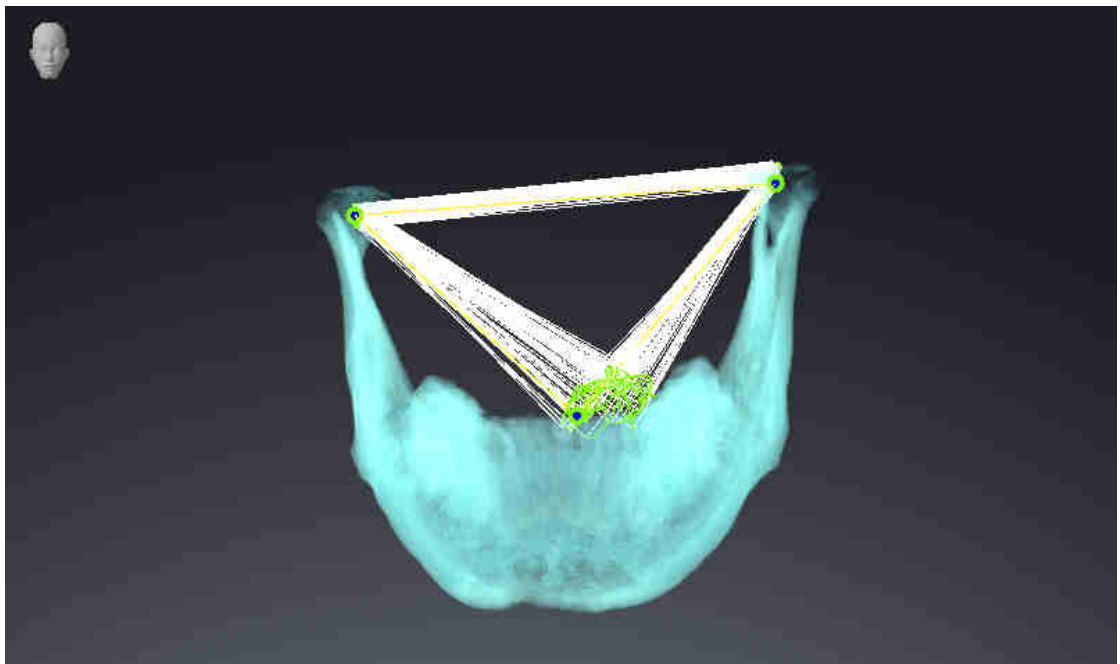


9. 以下のスクリーンショットで左顆状突起冠状ビューを比較してください。



BONWILLの三角

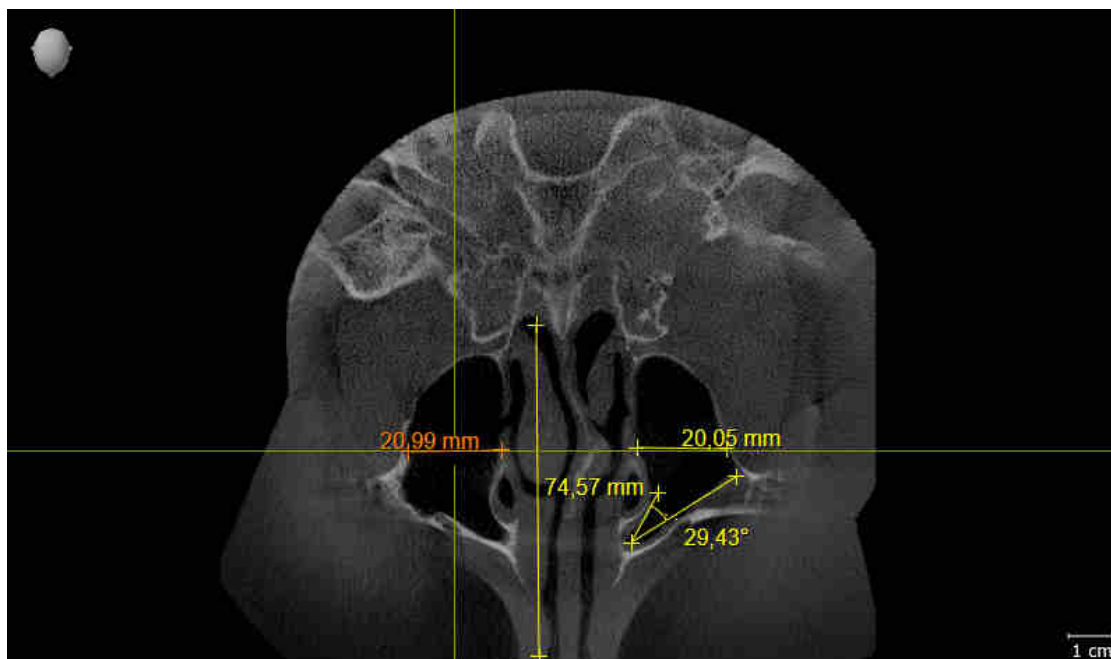
1. TMJワークスペースが有効であることを確認してください。
2. 3Dビューが3DX線撮影画像を前方から示しているか確認してください。
3. オブジェクトブラウザで要素**顎運動データ**を選択してください。
4. プロパティエリアでオプション**Bonwillの三角**を有効化してください。ステップ幅に対する値が5であることを確認してください。
5. リストアクティブな顎関係：から要素「chewing.1」を選択してください。
6. 3Dビューの表示モードを**背景領域を非表示にする**にセットしてください。
7. 光学印象を非表示にします。
8. 以下のスクリーンショットで3Dビューを比較してください。特に、ボンウィル三角の描画と使用可能なトラッキングポイントをチェックします。



測定

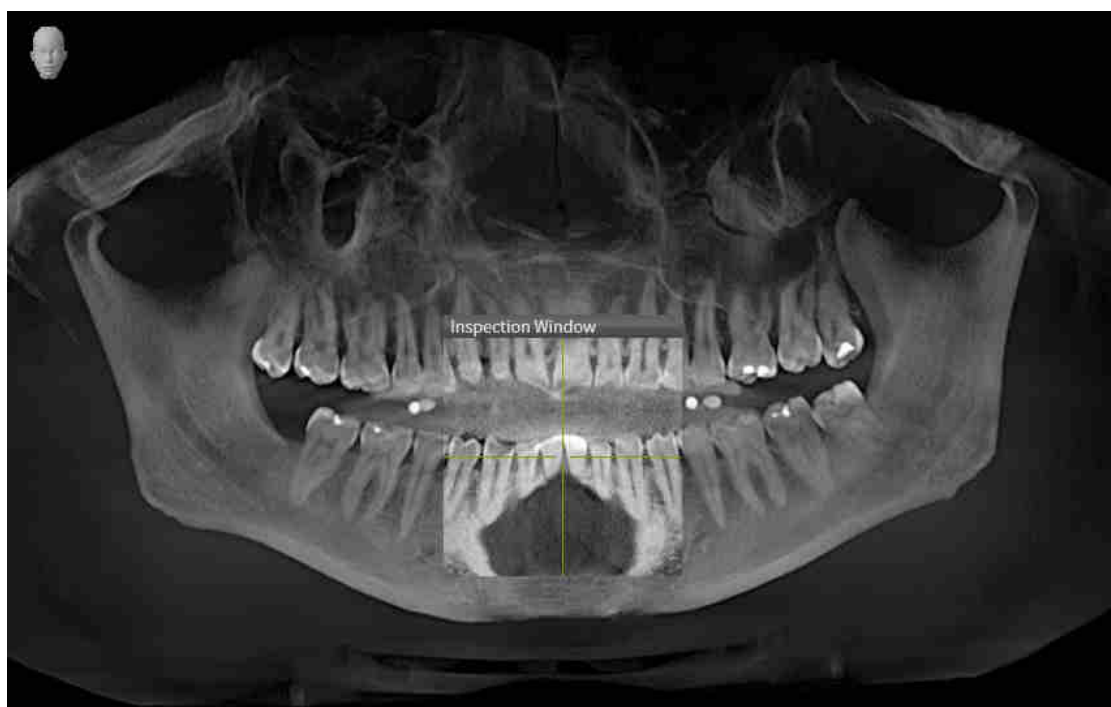
1. MPR/放射性ワークスペースが有効であることを確認してください。
2. 軸方向ビューで輝度およびコントラストに対する値がそれぞれ基準値の50%に一致していることを確認してください。
3. オブジェクトブラウザの測定下で要素「20,99 mm」を選択し、その要素に焦点を合わせてください。

- 以下のスクリーンショットで **軸方向** ビューを比較してください。測定オブジェクトの表示を特にチェックしてください(20,99 mm、20,05 mm、74,57 mmおよび29,43°)。



パノラマビュー

- パノラマワークスペースが有効であることを確認してください。
- ビューを標準値に戻します。
- 以下のスクリーンショットで **パノラマビュー**を比較してください。特にパノラマビューと検査ウィンドウの表示を確認してください。



10 SICAT SUITEの更新、修復

SICAT SUITEの更新

SICAT Suiteを更新するときは、SICAT Suiteのインストールプログラムを起動して、**更新する**のボタンをクリックしてください。更新にあたって、インストールプログラムは、最初にSICAT Suiteの旧バージョンをアンインストールします。データと設定内容は、いずれももれなく保持されます。



SICAT Suiteのスタンドアロン版では、バージョンの更新にあたって、患者カルテフォルダの更新が必要です。新規バージョンの初回起動時や、更新前の患者ファイリングを開いた場合、SICAT Suiteでは、患者カルテフォルダの更新を希望するかどうかを尋ねてきます。尋ねるメッセージを確認したら、SICAT Suiteは、患者ファイルの更新を自動で行います。**注意！更新後の患者ファイルは、SICAT Suiteの旧バージョンで使用することができなくなります。**



SIDEXIS XGをSIDEXIS 4.1.3以降のバージョンに更新し、その後、SICAT Suiteを更新すると、SICAT Suiteのインストールプログラムは、SICAT SuiteをSIDEXIS 4のモジュールとして登録します。3D X線撮影画像を開くと、SICAT Suiteでは、その3D X線撮影画像に関する3D治療計画スタディがSIDEXIS XG内に存在するかどうかをチェックし、存在すれば、そのスタディをSIDEXIS XGからSIDEXIS 4へ適用します。

SICAT SUITEの修復

SICAT Suiteを修復するときは、SICAT Suiteのインストールプログラムを起動して、**修理する**のボタンをクリックしてください。データと設定内容は、いずれももれなく保持されます。

SICAT Suiteでは、更新と修復の両方で、SICAT Suiteのインストールプログラムを使用します。これに関する情報はSICAT Suiteのインストール [▶ ページ 20 - SIDEXIS 4]を参照してください。

SIDEXIS 4でプラグインからモジュールへの更新を実行する

バージョン1.3以降のSICAT Suiteは、バージョン4.1.3以降のSIDEXIS 4を、プラグインとしてではなく、モジュールとしてサポートします。SICAT Suiteをバージョン1.3に更新して、SIDEXIS 4へインストールすると、SIDEXIS 4は、モジュールとして自動で登録されます。SICAT Suiteの更新を完了してから、SIDEXIS 4の更新を行うときは、モジュールとしての登録をマニュアル操作により行ってください。この更新に関する内容は、SICAT SuiteをSIDEXIS 4のモジュールとして登録する、削除する [▶ ページ 42 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

11 このバージョンでの特徴

SICAT Functionを単独で使用するか、他のソフトウェアと併用するかに応じて、特定のエリアに違いがあります。

SIDEXIS 4 のモジュールとしてマニュアル操作により登録する

SICAT Suiteは、インストール中に自動で登録を行うことができますが、SIDEXIS 4のモジュールとしてマニュアル操作により登録や削除を行うことが可能です。これに関する情報は*SICAT Suite*をSIDEXIS 4のモジュールとして登録する、削除する [▶ ページ 42 - SIDEXIS 4]を参照してください。

プログラムの起動

SICAT SuiteがSIDEXIS 4のモジュールの場合、SICAT Suiteの起動は、SIDEXIS 4の内部で**治療計画立案、治療**の段階で行われます。SICAT SuiteがSIDEXIS 4のモジュールの場合に、SICAT Suiteを起動する手順は、*SICAT Suite* をスタートする [▶ ページ 46 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

患者データ、立体画像のデータ

SIDEXISに結合したバージョンのSICAT Functionでは、SIDEXISの患者データとボリュームデータを利用します。したがって、データのバックアップは、SIDEXIS向けで設定されている手順に沿って行われます。



患者データに加えて、SICATの各種アプリケーションのユーザー設定内容についても、バックアップ保存を行っておくのがよいでしょう。ユーザー設定内容は、各ユーザー別に2つのディレクトリに分割して保存されています。これら2つのディレクトリを開くときは、Windowsのエクスプローラで、アドレスバーに %appdata%\SICAT GmbH & Co. KGと %localappdata%\SICAT GmbH & Co. KG を入力してください。

設定

SICAT Suiteの設定内容は、SIDEXIS 4の設定内容の中で、カテゴリとして保存されています。

SIDEXISに結合したバージョンでは、SICAT Suiteで表示されるパラメータが、いくつかの設定内容のもののみ限定されますが、その理由は、SICAT Suiteで適用されるのがSIDEXISの設定内容であるためです。

ライセンス

スタンドアロン版と、別のソフトウェアに結合した、SICAT Suiteのバージョンは、いずれも共通のライセンスで使用できます。SICAT Suiteをインストールするときに、一つのバージョンに決定する必要はありません。

SICAT FUNCTION とSIDEXIS 4でデータを互いに同期させる

SICAT Function とSIDEXIS 4の間では、ボリュームの配置とパノラマエリアについて、互いの両方向で同期が行われます。この同期では、以下の制約があります。

- SICAT Function ボリュームの配置で、回転が可能な角度は、最大30°までに限定されていません。
- 診断や治療計画の各対象（以下、オブジェクト）で、別のボリュームの配置をベースとするものが、すでに追加されているときに、ボリュームの配置を同期させると、それらのオブジェクトに影響が及ぶ場合は、SICAT Function のメッセージボックスが表示されます。このメッセージボックスでは、同期による影響の詳細をお知らせしますので、以下に挙げるオプションから、いずれかを選択します。
 - 同期する
 - 今ではない
 - 一度もない SIDEXIS 4で、3D X線撮影画像やボリュームの配置について、いずれも現時点のものがあるときは、こちらを選択します
- 診断や治療計画の各対象（以下、オブジェクト）で、別の設定済みパノラマエリアをベースとするものが、すでに追加されているときに、パノラマエリアを同期させると、それらのオブジェクトに影響が及ぶ場合は、SICAT Function のメッセージボックスが表示されます。メッセージウィンドウでは以下の二つのオプションを選択できます。
 - OK - SICAT Function 同期を実行し、オブジェクトを削除します。
 - 中止する - SICAT Function 同期を実行せず、オブジェクトを残します。
- SICAT Function サポートするのは、SIDEXIS 4の標準パノラマ歯列弓のみです。各点をそれぞれで移動させることはできません。
- SICAT Function サポートするパノラマエリアは、幅が10 mm以上のものに限りです。
- SICAT Function サポートするパノラマ歯列弓は、SIDEXIS 4で回転させていないものに限りです。

上記の制約のうち、1項目でもサポート範囲外に該当するものがあれば、SICAT Function とSIDEXIS 4の両方で、ボリュームの配置とパノラマエリア、または、パノラマエリア単独のいずれかについては、同期を行いません。

さらに、SICAT Function で3D X線撮影画像を初めて開くと、SICAT Function では、**3D**画像の焦点と視線方向として、SIDEXIS 4のものが適用されます。

データエクスポート

SICAT SuiteをSIDEXIS 4のモジュールとして実行させると、データのエクスポートは、その目的で用意されている、SIDEXIS 4の各種機能を利用して行われます。このエクスポートに関する内容は、SIDEXIS 4の取扱説明書を参照してください。

SIDEXIS 4の出力ページへスクリーンショットを追加する

画像や作業画面の各スクリーンショットは、SIDEXIS 4の出力ページに追加することができます。追加したら、2D出力ページに用意されている、SIDEXIS 4の各種機能が利用できるようになります。このエクスポートに関する内容は、SIDEXIS 4の取扱説明書を参照してください。

カート

カートは、SICAT Suiteで用意されていますが、SIDEXIS 4では**出力**のフェーズで利用できます。

スタディで、書込権限のあるものとなないものを開く



SIDEXIS 4やSICAT Suiteを実行させるコンピュータがネットワークに接続する環境にあって、さらに、SIDEXIS 4とネットワークの構成設定によっては、複数のワークステーションに一括インストールできる場合、SIDEXIS 4は、その一括インストールに含まれる1台となることがあります。この一括インストールに含まれているときは、データセットを開いていても、結果として、他のワークステーションが原因で書込権限を失ってしまう可能性が大いにあります。こうしたケースが発生したときは、SIDEXIS 4がデータセットを直ちに閉じて終了しますので、SICAT Functionの3D治療計画スタディでは、変更内容を保存できなくなります。

SICAT Functionのスタディで変更を行って、変更内容を保存できるようにするためには、以下の条件を満たしておく必要があります。

- SICAT Functionのフルバージョンライセンスのアクティベーションを完了しておくこと。

以下の表には、ライセンスのアクティベーション状況に応じた、機能の利用可否を示します。

機能	フルバージョンライセンスはアクティベーション済み	ビューアライセンスはアクティベーション済み	ライセンスはアクティベーションが未完了
サポート領域	有	有	有
一般設定	有	有	有
SICAT Function-設定	有	有	無
変更を行う	有	無	無
変更内容を保存せず、データを確認する	無	有	無
ヘルプ	有	有	有

以下の場合にはビューアライセンスがなくてもSICAT Function のスタディを参照することができます。

- SIDEXIS 4からSICAT Functionのスタディを外部にエクスポートし、他のコンピューター上のデータをSIDEXISにインポートします。SICAT Function このコンピューター上にインストールされている必要があります。
- SIDEXIS 4から外部に SICAT Functionのスタディを含むWrap&Goパッケージを作成します。他のコンピューターにWrap&Goパッケージをインストールしてください。SICAT Functionの後にインストールしてください。

いずれの場合でも計画の変更も保存もできません。

アプリケーションのライセンスに対して、アクティベーションが完了していても、条件によっては、SICAT Functionのスタディで変更を行ったり、変更内容を保存したりが、いずれもできないときがあります。その原因として、例えば注文プロセス実行中の場合が考えられます。

詳細はデータを書き込み禁止で開く [▶ ページ 203 - SIDEXIS 4]を参照してください。

12 SICAT FUNCTIONの標準ワークフロー



情報システムにあるセキュリティの脆弱性は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

1. 情報処理のシステム環境において、セキュリティ上の脅威を発見し、それらを回避するために、組織内部で指針を定めて周知するよう、徹底してください。
2. 最新のウィルススキャナをインストールし、ウィルススキャンを実行してください。
3. ウィルススキャナの定義ファイルを定期的に更新してください。



ワークステーションへの不正なアクセスは、患者データの秘密情報およびインテグリティに関するリスクにつながるおそれがあります。

ワークステーションへのアクセスは資格のある人に限定してください。



サイバーセキュリティの問題は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

お手元のSICATアプリケーションにおいて、サイバーセキュリティにかかわるトラブルの疑いがあるときは、直ちにテクニカルサポートまで、ご連絡ください。



SICATアプリケーションデータを信頼できないネットワークファイルシステムに保存すると、データの損失につながるおそれがあります。

ネットワーク管理者と共に、SICATアプリケーションデータを希望のネットワークファイルシステムに保存できるようにしてください。



SICAT Suiteおよび付属のSICATアプリケーションを他の機器と一つのコンピューターネットワークまたはメモリーネットワーク内で供用すると、患者、ユーザー、その他の人に未知の危険が及ぶおそれがあります。

ネットワークに関連する危険を特定、分析、判断するため、各組織内で規則を作成してください。



ネットワーク環境を変更すると、新しい危険につながるおそれがあります。例えば、ネットワーク構成の変更、追加機器またはコンポーネントのネットワークへの接続、機器またはコンポーネントのネットワークからの分離、ネットワーク機器またはコンポーネントのアップデートまたはアップグレードなどです。

ネットワークを変更する度に、新たなネットワークリスク分析を実施してください。



SICAT Suiteを使った作業を始める前に、本取扱説明書および、特にすべての安全上の注意事項をよくお読みください。後で情報を調べる時のため、本取扱説明書は手元に置いてください。

データセット

SICAT Function では、以下に挙げる、3種類の異なるデータセットを結合します。

- 3D X線撮影画像。例として、Sirona GALILEOSによるものがあります。
- 顎運動データ。例として、SICAT JMT*によるものがあります。
- デジタル光学印象。例として、Sirona CERECによるものがあります。

インストール

SICAT Suiteをインストールする手順は、*SICAT Suite*のインストール [▶ ページ 20 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。

SICAT Suiteが*SIDEXIS 4*のモジュールの場合に、SICAT Suiteを手動で起動する手順は、*SICAT Suite*を*SIDEXIS 4*のモジュールとして登録する、削除する [▶ ページ 42 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。

フルバージョンで使用可能にする

- SICAT Functionのライセンスが取得済みのときは、ライセンスのアクティベーションを行って、フルバージョンで使用できるようにします。これに関する情報はライセンス [▶ ページ 51 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。



SICAT Functionのライセンスを取得していない場合は、3D X線撮影画像をビューアモードで個別に開いてください。ビューアモードに関する内容は、データを書き込み禁止で開く [▶ ページ 203 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。

設定

各種設定について、お好みの内容に変更するときは、**設定**のコーナーから行ってください。これに関する情報は**設定** [▶ ページ 190 - SIDEXIS 4]を参照してください。

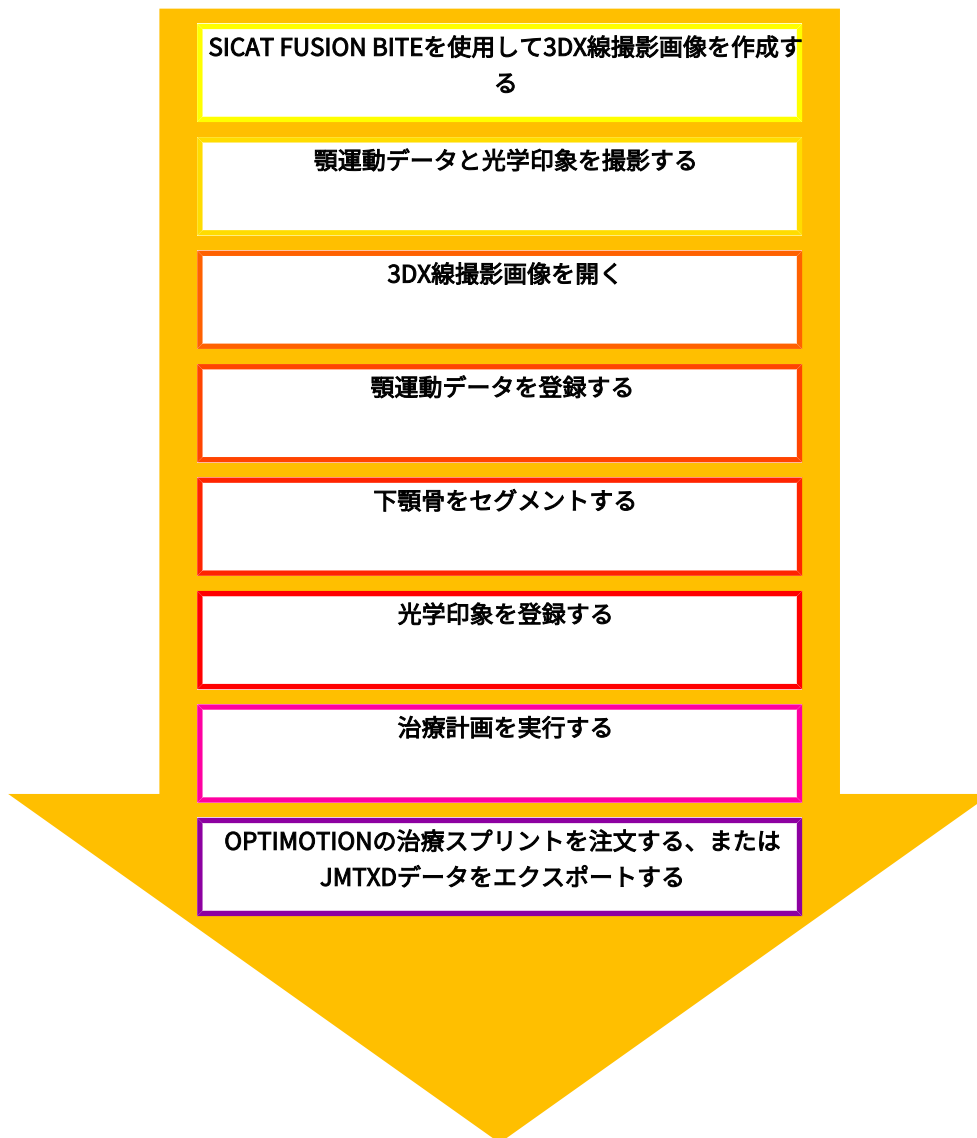
データセットを収集する

1. 患者の3D X線撮影画像は、患者がSICAT Fusion Biteを咬合している間に作成します。この手順に関する内容は、SICAT JMT*のクイックガイドをご覧ください。
2. 患者専用の顎運動データを撮影します。この手順に関する内容は、SICAT JMT*の取扱説明書をご覧ください。
3. 上顎骨と下顎骨のデジタル光学印象を作成します。この手順に関する内容は、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

データセットを開く

1. タイムラインに沿って並ぶ中から、3D X線撮影画像か、または、SICAT Functionのスタディを選択します。
2. SICAT Functionを起動します。これに関する情報は**SICAT Suite** をスタートする [▶ ページ 46 - SIDEXIS 4]を参照してください。

SICAT FUNCTIONの処理手順



SICAT FUNCTIONでデータセットを編集する

1. 必要に応じて、ボリュームの配置とパノラマエリアを調整します。これに関する情報は**ボリュームの配置およびパノラマエリア** [▶ ページ 106 - SIDEXIS 4]を参照してください。
2. SICAT Functionで、顎運動データをインポートして記録します。これに関する情報は**顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録** [▶ ページ 120 - SIDEXIS 4]を参照してください。
3. 下顎骨、さらに必要に応じて、切歯窩をセグメント化します。患者との練習に関する情報は**下顎骨をセグメントする** [▶ ページ 127 - SIDEXIS 4]と**窩をセグメントする** [▶ ページ 130 - SIDEXIS 4]を参照してください。
 - ▶ SICAT Function では、インポートした、顎運動データを、3D画像としてビジュアル化します。

4. 3D X線撮影画像のデータとともに、光学印象をインポートして記録します。これに関する情報は光学印象をインポートし記録する [▶ ページ 134 - SIDEXIS 4]を参照してください。
5. **TMJ**ワークスペースで、顎運動を評価します。患者との練習に関する情報は**TMJ**ワークスペースに関する概要 [▶ ページ 75 - SIDEXIS 4]と**TMJ**ワークスペースの各種機能 [▶ ページ 151 - SIDEXIS 4]を参照してください。セグメンテーションが行われない場合は特に、解剖学的な運動経路を補助ツールとして使用してください。これに関する情報は**3D**ビューで運動の軌跡を表示する [▶ ページ 148 - SIDEXIS 4]、検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する [▶ ページ 149 - SIDEXIS 4]、レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する [▶ ページ 150 - SIDEXIS 4]と顎運動と連携する [▶ ページ 145 - SIDEXIS 4]を参照してください。
6. 顎関節症治療用スプリントの用に、治療位置を決定します。これに関する情報は治療位置の設定 [▶ ページ 174 - SIDEXIS 4]を参照してください。
7. の治療スプリントを注文してください。これに関する情報は注文プロセス [▶ ページ 173 - SIDEXIS 4]を参照してください。
8. 例えば、セカンドオピニオンを求める場合、データをエクスポートします。これに関する情報はデータエクスポート [▶ ページ 172 - SIDEXIS 4]を参照してください。

データセットを使用する作業を終了する、中断する

- お手元の作業を終了したり中断したりするときは、SIDEXIS 4からSICAT Suiteを閉じて、その作業内容を保存します。これに関する情報はSICAT Suiteを閉じる [▶ ページ 205 - SIDEXIS 4]を参照してください。

取扱説明書、サポート

取扱説明書は、**SICAT Suite ヘルプ**のウィンドウからご覧ください。これに関する情報は取扱説明書を開く [▶ ページ 50 - SIDEXIS 4]を参照してください。

それ以降のサポートは、**サポート**のページをご覧ください。これに関する情報はサポート [▶ ページ 199 - SIDEXIS 4]を参照してください。

13 SICAT SUITEをSIDEXIS 4のモジュールとして登録する、削除する

SIDEXIS 4によるSICAT Suiteの使用に関して、一般的な内容は、このバージョンでの特徴 [▶ ページ 33 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。



SICAT SuiteをSIDEXIS 4へインストールすると、SICAT Suiteのインストールプログラムが、SICAT SuiteをSIDEXIS 4のモジュールとして、自動で登録を行います。このインストールに関する内容は、*SICAT Suite*のインストール [▶ ページ 20 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

「SIDEXIS 4」のウィンドウを開く

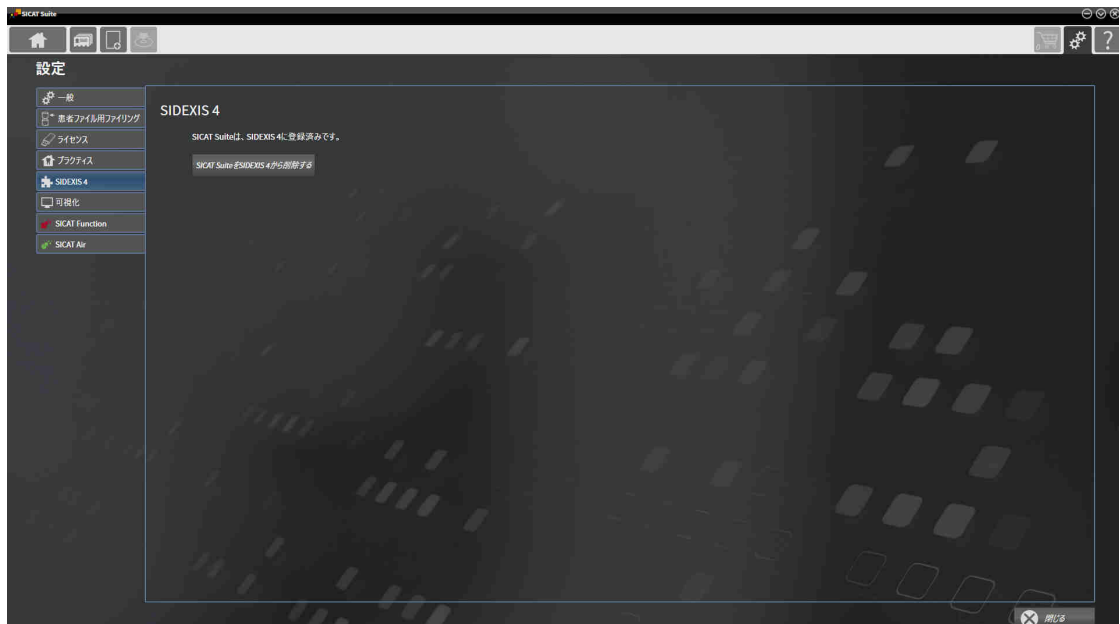
1. SICAT Suiteのスタンドアロン版を起動します。これに関する情報は*SICAT Suite* をスタートする [▶ ページ 46 - SIDEXIS 4]を参照してください。



2. **設定**のアイコンをクリックします。
▶ **設定**のウィンドウが開きます。



3. **SIDEXIS 4**のタブをクリックします。
▶ **SIDEXIS 4**のウィンドウが開きます。



SICAT SUITEをSIDEXIS 4のモジュールとして登録する

☑ SICAT Suiteを正常にインストールします。これに関する情報はSICAT Suiteのインストール [▶ ページ 20 - SIDEXIS 4]を参照してください。

☑ SIDEXIS 4は、開かないでおきます。

☑ SICAT Suiteのスタンドアロン版を起動させておきます。

☑ **SIDEXIS 4**ウィンドウはすでに開いています：

1. **SICAT SuiteをSIDEXIS 4で登録する**のボタンをクリックします。

2. SIDEXIS 4を起動します。

▶ SICAT Suiteは、SIDEXIS 4のモジュールとして登録を完了しておきます。SIDEXIS 4への登録が支障なく完了したら、**治療計画立案、治療**のフェーズが見えるようになります。



SIDEXIS 4のモジュールとして登録したSICAT SUITEを削除する

☑ SICAT Suiteが、SIDEXIS 4のモジュールとして、すでに登録されていることが必要です。

☑ SIDEXIS 4は、開かないでおきます。

☑ SICAT Suiteのスタンドアロン版を起動させておきます。

☑ **SIDEXIS 4**ウィンドウはすでに開いています：

1. **SICAT SuiteをSIDEXIS 4から削除する**のボタンをクリックします。

2. SIDEXIS 4を起動します。

▶ 以上で、SICAT Suiteは、SIDEXIS 4のモジュールとして使用することは、できなくなります。

14 SIDEXIS 4のSICAT FUNCTION撮影結果



DICOMに適合していないX線機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、DICOM規格に適合することが証明されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。



不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。



不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。



表示品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

SICATアプリケーションを使用する前に、表示品質が十分であるか確認してください（例えば、SMPTEテストビューで）。



環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。



正確な診断、正確な治療、顎運動データの正確な記録を確実にするため、SICATは次のパラメーターを含む3D X線データを使用することを推奨します。

1. レイヤーの厚さ：0.7mm以下
2. ボクセルサイズ：全3次元で0.7mm以下

SICAT SuiteをSIDEXIS 4のモジュールとして実行させる場合、患者データの管理は、SIDEXIS 4で行ってください。

以下の条件が満たされていれば、SIDEXIS 4では、SICAT Functionのスタディに関するプレビュー画像を表示します。

- SICAT SuiteをSIDEXIS 4のモジュールとして使用している。
- 選択した患者について、SICAT Functionのスタディが作成済みである。



1 顎運動データ

2 セグメンテーション

3 光学印象

4 治療位置

5 治療計画

6 注文

プレビュービューでは、以下の情報をお知らせします。

- 顎運動データの有無
- 顎関節のセグメント化データの有無
- 光学印象の可用
- 治療位置の有無
- 治療計画について、未作成、編集中、作成完了の別
- 注文について、未注文、注文する顎関節症治療用スプリントがカート内にある、注文をアップロード済みの別

アイコンが明るく表示されていれば、それに該当するアイテムは、スタディの中に含まれています。

15 SICAT SUITE をスタートする



注意

患者名や3D X線撮影画像の突き合わせでミスがあると、結果として、患者を撮影した画像の取り違えを招くことになりかねません。

3D X線撮影ビューで、インポートしようとしているものや、すでにSICATのアプリケーションに読み込みのものがあれば、突き合わせる先の患者名が正しいこと、突き合わせる撮影画像に関する情報が正しいことをいずれもチェックしてください。



注意

不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。



注意

不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。

SICAT Functionを開始するには、まずSICAT Suiteを起動する必要があります。

SICAT SuiteをSIDEXIS 4 モジュールとして起動させるには、以下の手順に従って操作を行ってください。

- ☑ SICAT Suiteを正常にインストールします。これに関する情報は、*SICAT Suite*のインストール [▶ ページ 20 - *SIDEXIS 4*]をご参照ください。
- ☑ SICAT SuiteがSIDEXIS 4のモジュールとして、すでに登録されている。これに関する情報は、*SICAT Suite*を*SIDEXIS 4*のモジュールとして登録する、削除する [▶ ページ 42 - *SIDEXIS 4*]をご参照ください。SICAT SuiteをSIDEXIS 4にインストールしたときに、登録が自動で行われることがあります。
- ☑ SIDEXIS 4で、3D X線撮影画像またはスタディがすでに選択されています。



1. **3D検査に表示** のボタンの横に **表示** のアイコンがありますので、それをクリックします。
2. **表示** のウィンドウで、**SICAT Suite**のアイコンをクリックします。
 - ▶ SIDEXIS 4のフェーズは、**治療計画立案**、**治療**に切り替わります。
 - ▶ SICAT Suiteでは、SICATのアプリケーションで、3D X線撮影画像が開きます。

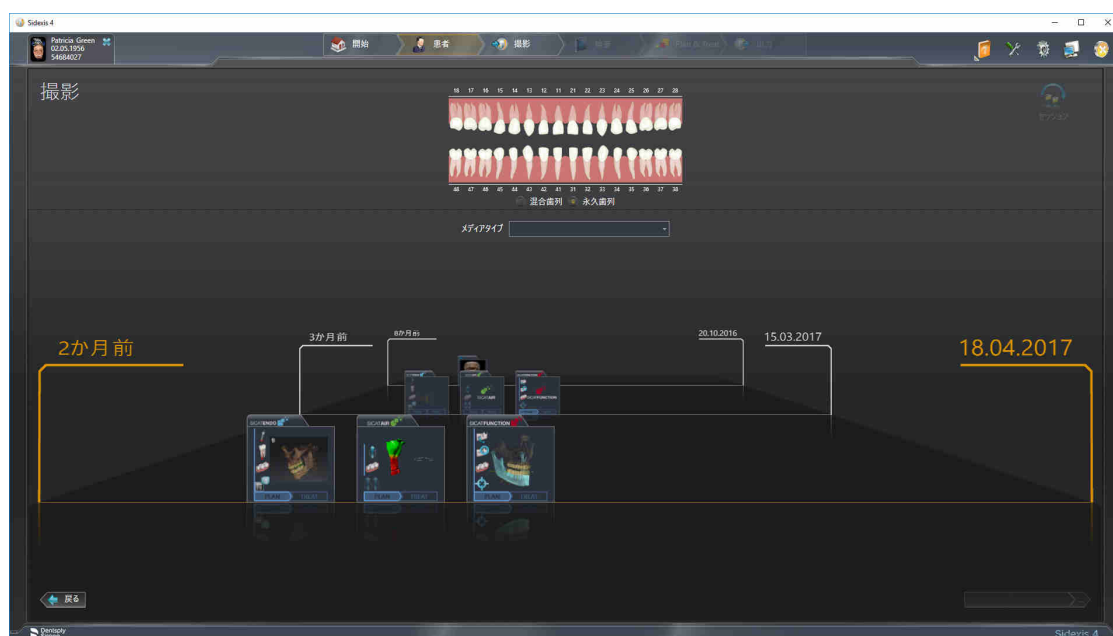




3D X線撮影画像を、それが関係するスタディなしに開き、かつ、ライセンスのアクティベーションを完了している、SICATのアプリケーションが1つのみのときは、そのSICATのアプリケーションが起動します。3D X線撮影画像を、それが関係する、複数のスタディとともに開き、かつ、ライセンスのアクティベーションを完了している、SICATのアプリケーションが複数あるときは、前回、スタディに変更を加えたアプリケーションが起動します。

3D X線撮影画像を開いた後は、SICATの別アプリケーションへ切り替えることができます。これに関する情報は、*SICATのアプリケーションを相互に切り替える* [▶ ページ 49 - *SIDEXIS 4*]をご参照ください。

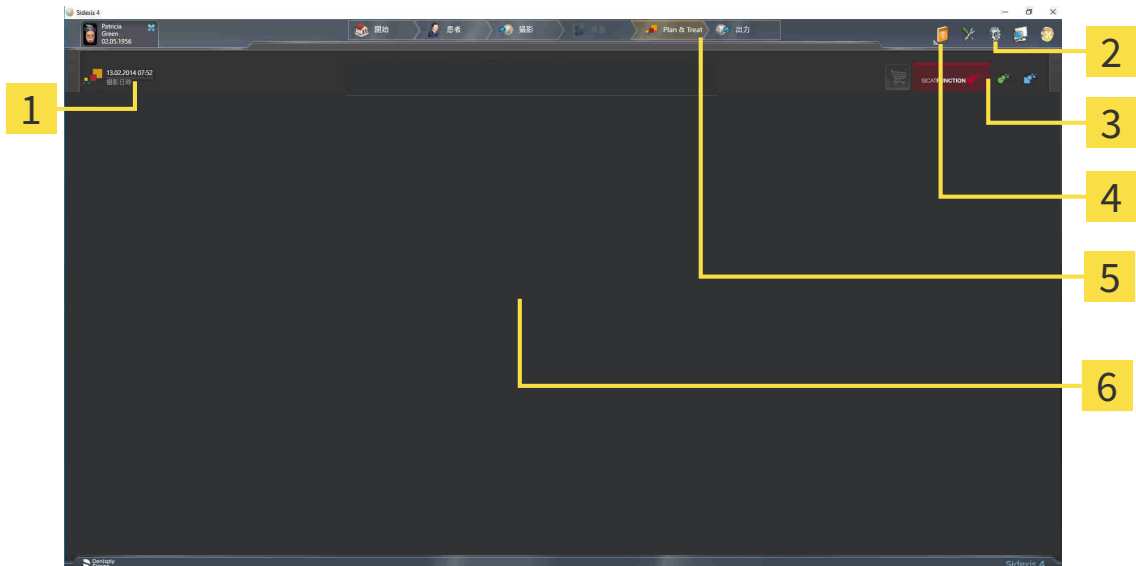
アプリケーション固有のスタディで保存済みのものがあるときは、このスタディを**撮影図**のウィンドウから直接選択して、そのスタディが関係する、SICATのアプリケーションで開くことができます。すでにショッピングカートに入れた商品で、このスタディをベースとするものがあるときは、ショッピングカートが開きます。



SIDEXIS 4でも同様に、**最後の撮影図**のコーナーにある、**患者の詳細**のウィンドウで3D治療計画スタディを表示します。この表示に関する内容は、*SIDEXIS 4のSICAT Function撮影結果* [▶ ページ 44 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。

16 SICAT SUITEのユーザーインターフェース

SICAT Suiteのユーザーインターフェースは、以下のアイテムから構成されています。



1 現時点で開いているスタディ

4 ヘルプ

2 設定

5 SIDEXIS 4のフェーズバー

3 アプリケーション切替用のボタン、ボタン
カート

6 アプリケーション領域

- 現時点で開いているスタディ - 現時点で開いているスタディに関する内容とSICAT Suiteを閉じるボタンを表示します。
- **設定** - これに関する情報は**設定** [▶ ページ 190 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- アプリケーション切替用のボタン、**カート**のボタン - これらのボタンに関する内容は、**SICATのアプリケーションを相互に切り替える** [▶ ページ 49 - SIDEXIS 4]、**注文プロセス** [▶ ページ 173 - SIDEXIS 4]の各節をご覧ください。
- **ヘルプ** - これに関する情報は**取扱説明書を開く** [▶ ページ 50 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- **アプリケーション領域**は、SICAT Suiteの上記以外の部分にあって、SICATのアプリケーションのうち、開いているもののユーザーインターフェースを表示します。

17 SICATのアプリケーションを相互に切り替える

SICATアプリケーションを相互に切り替えるには、次のように行います。



- SICATのアプリケーションで、切替をご希望のものが表示されているボタンをクリックします。
- ▶ SICAT Suiteは、選択したアプリケーションに切り替わります。

18 取扱説明書を開く

SIDEXIS 4では、ヘルプのメニューから、PDFファイルの形式で、SICATのアプリケーションの取扱説明書呼び出すことができます。SICATのアプリケーションの取扱説明書を開くときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. ヘルプのアイコンをクリックします。
 - ▶ 利用が可能な取扱説明書のリストが開きます。



2. お好みの使用説明書をクリックします。
 - ▶ 選択した使用説明書が開きます。

SICATアプリケーションが開いている場合、対応するヘルプを開くには同様にF1ボタンを押します。

19 ライセンス

SICAT Suiteはライセンスがアクティベート済みのSICATアプリケーションのみ表示します。



SICAT SuiteのSIDEXISと接続されたバージョンではSICAT Function治療計画も有効なSICAT Functionライセンスなしで表示することができます。

以下の種類のライセンスがあります。

- ビューライセンスがあればアプリケーションをビューモードで無期限使用することができます。
- デモライセンスでは一つまたは複数のSICATアプリケーションのフルバージョンに期間限定でアクセスすることができます。
- フルバージョンライセンスでは一つまたは複数のSICATアプリケーションのフルバージョンに無期限でアクセスすることができます。

SICATアプリケーションまたは各機能を有効にするには以下の手順が必要となります。

- その場で販売担当者にご連絡ください。
- バウチャーコードを受け取ることができます。
- SICATポータルでバウチャーコードからライセンスキーが生成されます (SICATホームページからアクセス可能)。
- SICATがお客様のアクティベーションキーにライセンスキーを追加します。
- アクティベーションキーでSICATアプリケーションまたはSICAT Suiteをインストールしたコンピュータ上の各機能を有効化します。

以下はライセンスの有効化および無効化に適用されます。

- お客様が受け取るSICATアプリケーションのライセンスキーはお使いの国で許可されているものだけです。
- コンピューター上でアクティベーションキーを有効化すると、含まれているSICATアプリケーションの各ライセンスまたは機能がコンピューターに結合されます。使用したライセンスは、もう別のコンピューターでのアクティベーションに使用することはできません。
- ライセンスは、各SICATアプリケーションまたは各機能用に無効化することができます。ライセンスを返却すると、そのライセンスをあらためてアクティベーションできるコンピュータは、同一または別の違いを問いません。
- SICATアプリケーションのフルバージョンライセンスを返却した場合、お使いの国で許可されている限り、自動的にビューライセンスを受け取ります。
- フルバージョンライセンスを有効化すると、自動的にお使いの国で許可されている全てのアプリケーション用のビューライセンスを受け取ります。

バウチャーコードをアクティベーションキーと交換する方法はバウチャーコードを使用する [▶ ページ 60 - SIDEXIS 4]をご覧ください。

お手元のコンピューターでアクティベーションが完了しているライセンスについては、**ライセンスの概要**のウィンドウで概要をご覧ください。デモライセンス使用時はSICAT Suiteは有効期限を表示します。これに関する情報は「**ライセンス一覧**」ウィンドウを開く [▶ ページ 53 - SIDEXIS 4]を参照してください。

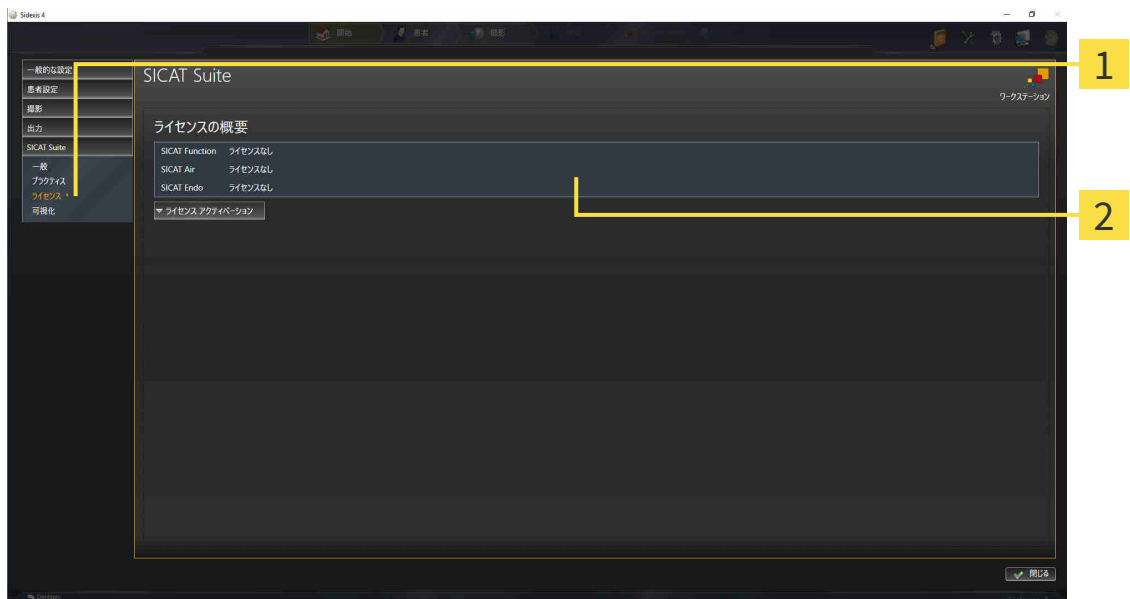
ライセンスは次の二通りの方法で有効にすることができます。

- SICAT Suiteが作動しているコンピューターがインターネットに接続されている場合、ライセンスのアクティベーションは自動で行うことができます。これに関する情報はインターネット接続を使用してライセンスを有効にする [▶ ページ 54 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- 希望に応じて、またはSICAT Suiteが作動しているコンピューターがインターネットに接続されていない場合、ライセンス要求ファイルを使用することにより、ライセンスのアクティベーションを手動で行うことができます。ライセンス要求ファイルをSICATのインターネットページにアップロードする必要があります。これで、ライセンスアクティベーションファイルを取得でき、これをSICAT Suiteで有効にしてください。これに関する情報はライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする [▶ ページ 56 - SIDEXIS 4]を参照してください。

各アプリケーションまたは機能のライセンスを個別に無効にすることができます。ライセンスを無効にした後、同じ、または別のアクティベーションキーを入力することができます。返却されたライセンスは、同一または別のコンピューターでのアクティベーションに使用することができます。これに関する情報はライセンスをライセンスプールへ返却する [▶ ページ 58 - SIDEXIS 4]を参照してください。

19.1 「ライセンス一覧」 ウィンドウを開く

1. SIDEXIS 4のタイトルバーで、**設定**のアイコンをクリックします。
▶ **設定** のウィンドウが開きます。
2. **SICAT Suite**のグループをクリックします。
▶ **SICAT Suite**のグループが開きます。
3. **ライセンス**のボタンをクリックします。
▶ **ライセンスの概要** のウィンドウが開きます。



1 タブ ライセンス

2 ウィンドウ ライセンスの概要

以下の操作を続行します：

- インターネット接続を使用してライセンスを有効にする [▶ ページ 54 - SIDEXIS 4]
- ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする [▶ ページ 56 - SIDEXIS 4]
- ライセンスをライセンスプールへ返却する [▶ ページ 58 - SIDEXIS 4]

19.2 インターネット接続を使用してライセンスを有効にする

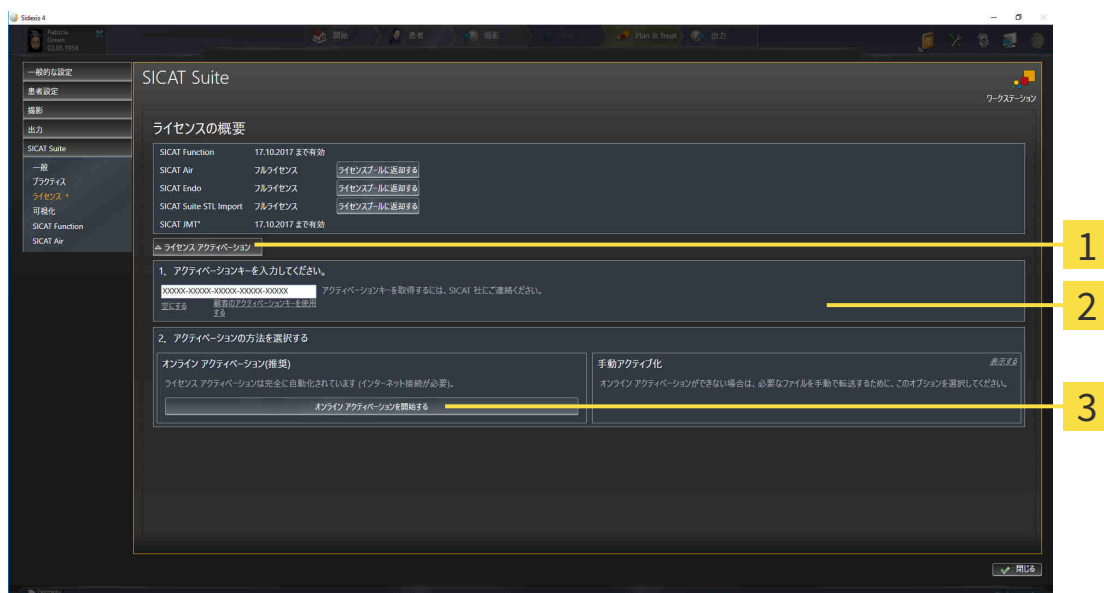
注記 患者ファイルが閉じている必要があります
ライセンスで変更を加えるときは、開いている患者ファイルを事前に閉じてください。

アクティベーションの手順を開始するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 少なくとも一つのSICATアプリケーションまたは個々の機能に有効なライセンスが欠けています。
- ☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されています。
- ☑ **ライセンスの概要** ウィンドウはすでに開いています：これに関する情報は「**ライセンス一覧**」ウィンドウを開く [▶ ページ 53 - SIDEXIS 4]を参照してください。

1. **ライセンスの概要** のウィンドウで、**ライセンス アクティベーション** のボタンをクリックします。

▶ **ライセンスの概要** エリアが開きます：



1 ボタン **ライセンス アクティベーション**

2 エリア

3 ボタン **オンライン アクティベーションを開始する**

2. 欄にアクティベーションキーを入力します。
3. **オンライン アクティベーションを開始する** のボタンをクリックします。

4. **Windows ファイヤーウォールの**ウィンドウが開いたら、SICAT Suiteをインターネットへ接続します。
- ▶ 取得されてインストールされているアプリケーションまたは個々の機能のためのライセンスは、ライセンスプールから取り除かれ、使用中のコンピューター上のSICAT Suiteで有効になります。
 - ▶ 通知ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。**ライセンスは正常に有効化されました。**

再起動が必要

注記

ライセンス変更後、SICATアプリケーションのSIDEXISと接続されたバージョンが再起動を要する場合、SICAT Suiteが対応するメッセージウィンドウを表示します。



SICATアプリケーションのライセンスのアクティベーションをあらためて行うときは、エリアにあるボタン**顧客のアクティベーションキーを使用する**をクリックすると、アクティベーションキーが使用できるようになります。現時点のライセンスキーが入力されているボックスを空欄にするときは、ボタン**空にする**をクリックしてください。

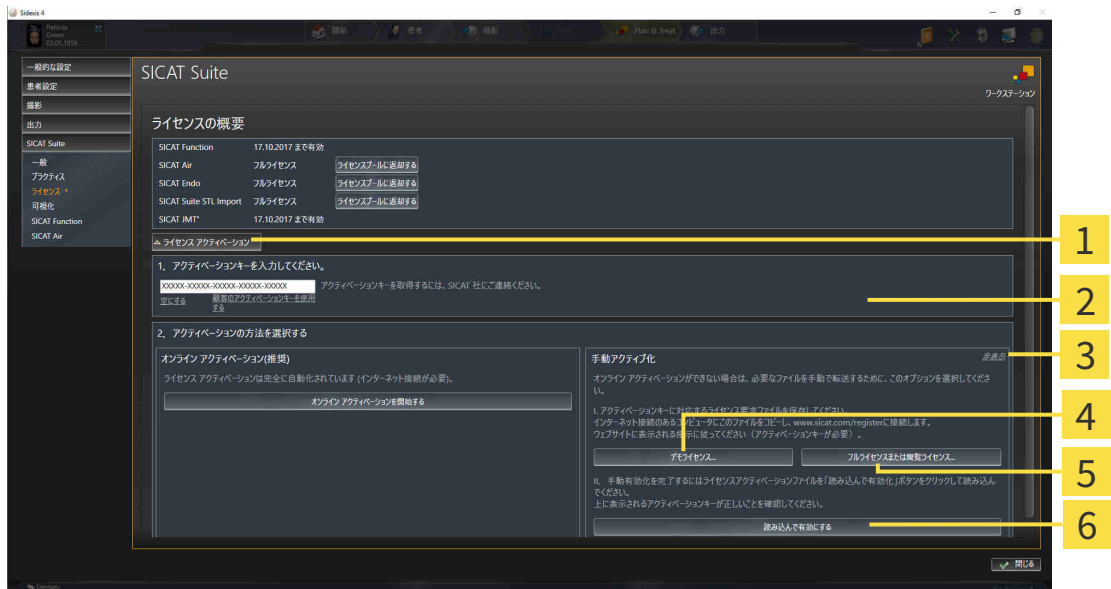
19.3 ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする

注記 患者ファイルが閉じている必要があります
ライセンスで変更を加えるときは、開いている患者ファイルを事前に閉じてください。

ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にするには、次のように行います。

- ☑ 少なくとも一つのSICATアプリケーションまたは個々の機能に有効なライセンスが欠けています。
- ☑ **ライセンスの概要** ウィンドウはすでに開いています：これに関する情報は「**ライセンス一覧**」ウィンドウを開く [▶ ページ 53 - *SIDEXIS 4*] を参照してください。

1. **ライセンスの概要** ウィンドウの **ライセンス アクティベーション** をクリックします。
▶ **ライセンス アクティベーション** のコーナーがドロップダウンで展開します。
2. **手動アクティブ化エリアの表示する** をクリックします。
▶ **手動アクティブ化エリア** が開きます：



- 1 **ライセンス アクティベーション**
- 2 **エリア**
- 3 **表示する**
- 4 **ボタン デモライセンス**
- 5 **ボタン フルライセンスまたは閲覧ライセンス**
- 6 **ボタン 読み込んで有効にする**

3. フルライセンスのアクティベーションをご希望のときは、**フルライセンスまたは閲覧ライセンス**のボタンをクリックします。

4. デモライセンスのアクティベーションをご希望のときは、**デモライセンス**のボタンをクリックします。
 - ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。
5. ライセンス要求用のファイルを保存する目的で、お好みのフォルダを選択したら、**OK**をクリックします。
 - ▶ ファイル拡張子を**WibuCmRaC**として、ライセンス要求用のファイルが作成され、選択しておいたフォルダに保存されます。
6. USBスティックなどの補助ツールを使用して、インターネットに接続しているコンピューターにライセンス要求ファイルをコピーします。
7. インターネットに接続されたコンピューター上でウェブブラウザを開き、インターネットページ<http://www.sicat.com/register>を開きます。
8. インターネットのアクティベーションページに表示される指示に従ってください。
 - ▶ インストールしたアプリケーションや個別の機能のために取得してあるライセンスが、お持ちのライセンスプールからピックアップされます。
 - ▶ SICATのライセンスサーバーは、ファイル拡張子を**WibuCmRaU**として、ライセンスのアクティベーション用ファイルを作成しますので、このファイルをお手元のコンピューターへダウンロードしてください。
9. ダウンロードしたライセンスアクティベーションファイルをSICAT Suiteが作動しているコンピューターにコピーします。
10. アクティベーションキーが正確に入力されていることをチェックします。
11. **ライセンスの概要**のウィンドウで、**読み込んで有効にする**のボタンをクリックします。
 - ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。
12. ライセンスのアクティベーション用ファイルを探して見つかったら、そのファイルをハイライト表示にして、**OK**をクリックします。
 - ▶ ライセンスアクティベーションファイルのライセンスは、SICAT Suiteでは現在のコンピューターにインストールされます。
 - ▶ 通知ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。**ライセンスは正常に有効化されました。**

再起動が必要

注記

ライセンス変更後、SICATアプリケーションのSIDEXISと接続されたバージョンが再起動を要する場合、SICAT Suiteが対応するメッセージウィンドウを表示します。

19.4 ライセンスをライセンスプールへ返却する

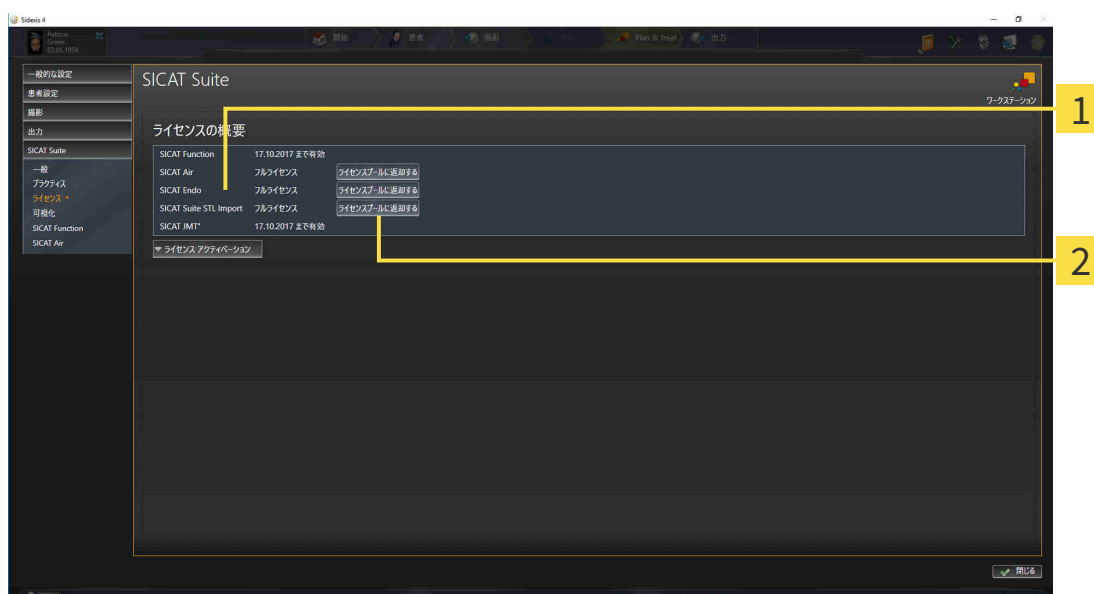
注記

患者ファイルが閉じている必要があります

ライセンスで変更を加えるときは、開いている患者ファイルを事前に閉じてください。

フルライセンスのアクティベーションを解除して、そのライセンスをライセンスプールに返却するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ SICATアプリケーションのフルライセンスはすでに有効になっています。
- ☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されています。
- ☑ **ライセンスの概要**ウィンドウはすでに開いています：これに関する情報は「**ライセンス一覧**」ウィンドウを開く [▶ ページ 53 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。



1 SICATアプリケーションおよび個々の機能のライセンスステータス

2 ボタン **ライセンスプールに返却する**

- **ライセンスの概要**のウィンドウから、SICATのアプリケーションで返却をご希望のものか、または、個別の機能の列にある**ライセンスプールに返却する**のボタンをクリックします。
- ▶ 選択したライセンスはライセンスプールに返却され、再びアクティベーションのために使用できる状態になります。
- ▶ 通知ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。**ライセンスは正常にライセンスプールに返却されました。**
- ▶ ライセンスがない場合、アプリケーションはビューアモードでしか使用できません。全てのSICATアプリケーションのライセンスがライセンスプールに返却されると、SICAT Suiteは完全にビューアモードになります。

注記**再起動が必要**

ライセンス変更後、SICATアプリケーションのSIDEXISと接続されたバージョンが再起動を要する場合、SICAT Suiteが対応するメッセージウィンドウを表示します。



インターネット接続のないコンピュータでライセンスを無効化したい場合はSICATサポートまでお問い合わせください。

19.5 バウチャーコードを使用する

1. インターネットに接続されたコンピューター上でウェブブラウザを開き、インターネットページ<http://www.sicat.com>を開きます。
2. SICATポータルへのリンクをクリックします。
 - ▶ SICATポータルが開きます。
3. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
4. アカウントマネジャーに、ご自分のライセンスを管理するためのアイテムがありますので、それをクリックします。
5. ご自分のバウチャーコードを入力し、コードを確認します。
 - ▶ SICATポータルがライセンスキーを生成し、ライセンスキーをお客様のアクティベーションキーに追加します。
6. SICAT Suiteを起動して、ライセンスのアクティベーションを行います。

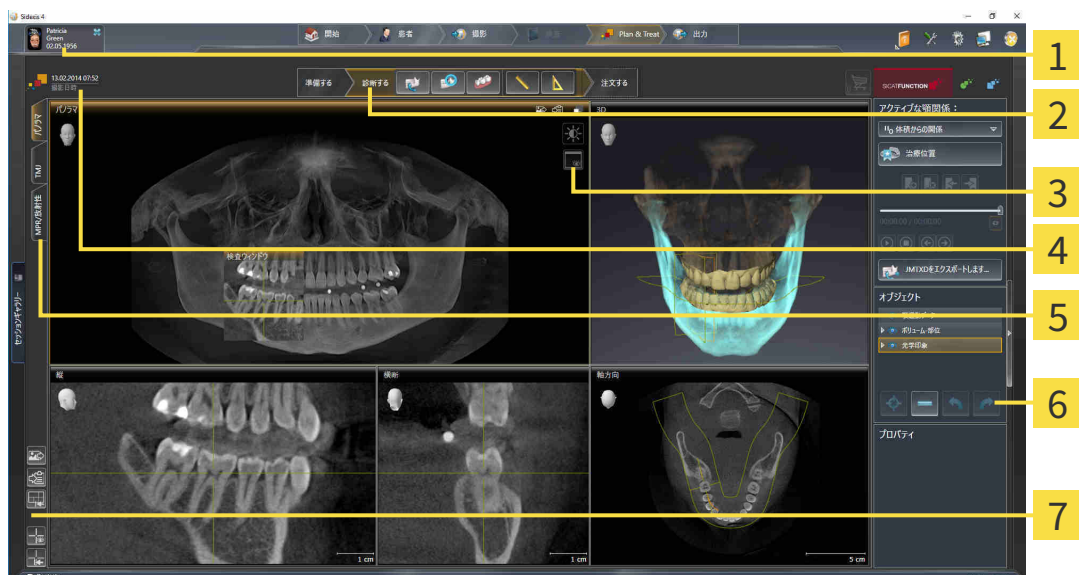
これに関する情報はインターネット接続を使用してライセンスを有効にする [▶ ページ 54 - *SIDEXIS 4*]と ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする [▶ ページ 56 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。



詳細なヘルプは、SICATのポータルページにFAQ（よくあるご質問）がありますので、そちらをご覧ください。

20 SICAT FUNCTIONのユーザーインターフェース

SICAT Functionのユーザーインターフェースは、以下のアイテムから構成されています。



- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1 タブ 有効な患者ファイル | 5 ワークスペースの切替用ボタン |
| 2 ワークフローのツールバー | 6 オブジェクトバー |
| 3 画像のツールバー | 7 ワークスペースのツールバー |
| 4 開いている3D X線撮影画像に関する情報 | |

- **有効な患者ファイル** のタブには、開いている患者ファイルの属性を表示します。
- **ワークフローのツールバー** は、複数のワークフロー・ステップから構成されますが、その中には、アプリケーションのワークフローで使用する主要ツールが用意されています。これには、診断オブジェクトおよび計画オブジェクトを追加およびインポートすることのできるツールが含まれます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 63 - SIDEXIS 4] を参照してください。
- **ワークスペースエリア** は、ワークフローのツールバーの下側にあって、ユーザーインターフェースの一部を構成します。この部分には、SICAT Functionで開いているワークスペースを表示します。各ワークスペースに特定のビュー構造が含まれています。これに関する情報はワークスペース [▶ ページ 72 - SIDEXIS 4] を参照してください。
- 有効なビューにのみ**画像のツールバー**が表示されます。付属のビューの表示を調整するツールがあります。これに関する情報は**ビューの調整** [▶ ページ 82 - SIDEXIS 4] と **3Dビューの調整** [▶ ページ 95 - SIDEXIS 4] を参照してください。

- **オブジェクトバー**には、診断や治療計画のそれぞれで対象とするもの（オブジェクト）を管理するための各種ツールが用意されています。これに関する情報は**オブジェクトバー** [▶ ページ 65 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- **ワークスペースのツールバー**には、各種ツールが用意されていますが、これらのツールで、ワークスペースの一般的な各種設定や、含まれる画像のすべてに対して変更を加えたり、ワークスペースの内容を記録したりすることができます。これに関する情報は**十字線およびフレームの移動、非表示、表示** [▶ ページ 90 - SIDEXIS 4]、**ビューをリセットする** [▶ ページ 93 - SIDEXIS 4]、**アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット** [▶ ページ 79 - SIDEXIS 4]と**ワークスペースのスクリーンショットを作成する** [▶ ページ 80 - SIDEXIS 4]を参照してください。

20.1 ワークフローのツールバー

SICAT Functionでは、ワークフローのツールバーは3つのワークフローステップで構成されています：

1. 準備する
2. 診断する
3. 注文する

ワークフローステップの開閉

以下の各アイコンをクリックすると、ワークフロー・ステップを展開させたり畳み込んだりすることができます。

1. ワークフロー・ステップ「準備する」

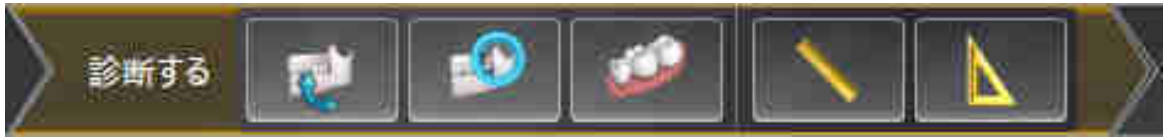


ワークフロー・ステップ「準備する」では、以下のツールが使用できます。



- ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整します - これに関する情報はボリュームの配置を調整する [▶ ページ 109 - SIDEXIS 4]とパノラマエリアを調整する [▶ ページ 114 - SIDEXIS 4]を参照してください。

2. ワークフロー・ステップ「診断する」



ワークフロー・ステップ「診断する」では、以下のツールが使用できます。



- **顎運動データをインポートして記録する** - これに関する情報は顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録 [▶ ページ 120 - SIDEXIS 4]を参照してください。



- **下顎と顎状突起をセグメントする** - これに関する情報はセグメンテーション [▶ ページ 126 - SIDEXIS 4]を参照してください。



- **光学印象をインポートし記録する** - これに関する情報は光学印象をインポートし記録する [▶ ページ 134 - SIDEXIS 4]を参照してください。



- **距離測定を追加する(D)** - これに関する情報は距離測定を追加する [▶ ページ 167 - SIDEXIS 4]を参照してください。



- **角度測定を追加する(A)** - これに関する情報は角度測定を追加する [▶ ページ 168 - SIDEXIS 4]を参照してください。

3. ワークフロー・ステップ「注文する」



ワークフロー・ステップ「注文する」では、以下のツールが使用できます。



- **治療スプリントを注文します** - これに関する情報は治療スプリントをショッピングカートに入れる [▶ ページ 176 - SIDEXIS 4]を参照してください。

20.2 オブジェクトバー



1 オブジェクトブラウザ

2 ボタンオブジェクトバーを非表示にするまたはボタンオブジェクトバーを表示する

3 オブジェクトツールバー

4 エリアプロパティ

オブジェクトバーには、以下のアイテムが用意されています。

- **オブジェクトブラウザ**には、診断や治療計画の対象（オブジェクト）として、現時点のステディに追加したりインポートしたりしたものをもれなく、カテゴリ分類して列挙したリストを表示します。**オブジェクトブラウザ**は、複数のオブジェクトを自動でグループ分けします。例えば、**測定**のグループには、測定対象のオブジェクトがもれなく含まれています。オブジェクトグループを開閉する、オブジェクトおよびオブジェクトグループをアクティブにする、オブジェクトおよびオブジェクトグループを非表示または表示にすることができます。これに関する情報は以下を参照してください **オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理** [▶ ページ 66 - SIDEXIS 4]。
- **オブジェクトツールバー**には、各種のツールが用意されていますが、これらのツールにより、オブジェクトに合焦すること、オブジェクトやオブジェクトグループを削除すること、オブジェクトまたはオブジェクトグループに対して行った操作を取り消して元に戻したり、再度、実行したりすることができます。これに関する情報は**オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理** [▶ ページ 68 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- **プロパティ**のコーナーには、作業対象として選択しているオブジェクトについて、その詳細を表示します。

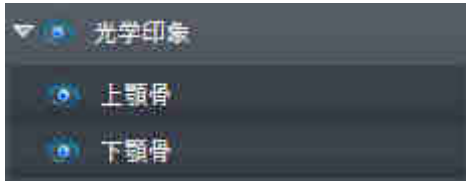
オブジェクトバーの視点をオブジェクトバーの右側の二つのボタンで変更することができます。**オブジェクトバーを非表示にする** および **オブジェクトバーを表示する**

SICAT Function で作業対象として選択可能なオブジェクトは、**SICAT Functionオブジェクト** [▶ ページ 70 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

20.3 オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理

オブジェクトグループの開閉

オブジェクトグループを展開したり畳み込んだりするときは、以下の手順に沿って操作を行ってください。



☑ 現在、希望のオブジェクトグループが開いています。



1. 畳み込みたいオブジェクトグループの横にある **閉じる**のアイコンをクリックします。
▶ オブジェクトグループの畳み込みが行われます。



2. 畳み込みたいオブジェクトグループの横にある **開く**のアイコンをクリックします。
▶ オブジェクトグループが展開します。

オブジェクトおよびオブジェクトグループをアクティブにする

ツールによっては、作業対象として選択しているオブジェクトやオブジェクトグループ以外では、利用できないものが、いくらかあります。

オブジェクトまたはオブジェクトグループを有効にするには、次のように行います。

☑ 現在、希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループが無効になっています。

- 希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は、それまで有効であったオブジェクトまたはオブジェクトグループを無効にします。
 - ▶ SICAT Function は希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループを有効にします。
 - ▶ SICAT Function は、**オブジェクトブラウザ**と画像のそれぞれで、オブジェクトやオブジェクトグループに色を付けてハイライト表示します。



オブジェクトをクリックすることによって、2Dビューで特定のオブジェクトも有効にすることができます。

オブジェクトおよびオブジェクトグループの表示/非表示



この機能は、特定のオブジェクトタイプを除いて利用できません。

オブジェクトやオブジェクトグループを非表示/表示にするには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 現在、希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループは表示されています。



1. お好みのオブジェクトまたはオブジェクトグループの横にある **表示** のアイコンか、または、**一部表示** のアイコンをクリックします。



▶ SICAT Function はオブジェクトまたはオブジェクトグループを非表示にします。

▶ SICAT Function では、オブジェクトまたはオブジェクトグループの横に **アイコン非表示** が表示されます。



2. お好みのオブジェクトまたはオブジェクトグループの横にある **非表示** のアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function はオブジェクトまたはオブジェクトグループを表示します。

▶ SICAT Function では、オブジェクトまたはオブジェクトグループの横に **アイコン表示** が表示されます。

20.4 オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理



この機能は、特定のオブジェクトタイプを除いて利用できません。

オブジェクトに焦点を合わせる

この機能は、画像内でオブジェクトを探す目的で使用してください。

あるオブジェクトに焦点を合わせるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望のオブジェクトはすでにアクティブになっています。これに関する情報は以下を参照してください [オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理](#) [▶ ページ 66 - SIDEXIS 4]。



- **アクティブ オブジェクトを合わせる(F)**のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function は、ビューの焦点をアクティブなオブジェクトに移動させます。
- ▶ SICAT Function には、ビュー内でアクティブなオブジェクトが表示されます。



オブジェクトへの合焦は、**オブジェクトブラウザ**からか、または、ビューで、オブジェクトをダブルクリックしても同様に可能です。ただし、**3D**画像を除きます。

オブジェクトおよびオブジェクトグループの除去

オブジェクトまたはオブジェクトグループを削除するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループは既にアクティブにしています。これに関する情報は以下を参照してください [オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理](#) [▶ ページ 66 - SIDEXIS 4]。



- **アクティブ オブジェクト/アクティブグループを削除する(Del)**のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function はオブジェクトまたはオブジェクトグループを除去します。

オブジェクトアクションを元に戻し、もう一度実行する

オブジェクトまたはオブジェクトグループに対して直前に行った操作を取り消して元に戻したり、再度、実行したりするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



1. **前回のオブジェクトアクションを元に戻す (Ctrl+Z)** のアイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は、最後のオブジェクトアクションまたはグループアクションを元に戻します。



2. オブジェクト/グループアクションを再実行する (Ctrl+Y) のアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function は、前回戻したオブジェクトアクションまたはグループアクションをもう一度実行します。



SICATアプリケーションで撮影結果を開いている間のみ、元に戻してもう一度実行することができます。

20.5 SICAT FUNCTIONオブジェクト

SICAT Functionでは、オブジェクトブラウザで、アプリケーション固有のオブジェクトが以下のグループに分類されます。

- 顎運動データ
- ボリューム-部位
 - 下顎骨
- 光学印象

顎運動データ-オブジェクト



顎運動データのインポートを完了すると、SICAT Functionでは、オブジェクトブラウザに、**顎運動データ**オブジェクトを表示します。

ボリューム-部位-オブジェクトおよび下顎骨-オブジェクト

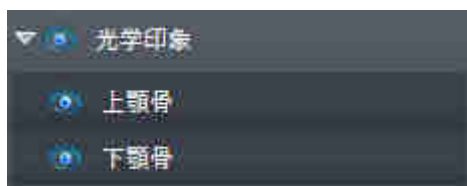


下顎骨をセグメントした後、SICAT Functionがオブジェクト**ボリューム-部位**をオブジェクトブラウザに表示します。**ボリューム-部位**オブジェクトは**下顎骨**オブジェクトを含んでいます。下顎骨のオブジェクトは、以下の下位オブジェクトから構成されます。

- 下顎の左側
- 下顎の右側
- 下顎の正面

下位オブジェクトのいずれか1つにピントを合わせると、SICAT Functionでは、いずれの2Dビューでも、選択しているオブジェクトにピントが合います。

光学印象オブジェクト



光学印象のインポートと登録が完了すると、SICAT Functionが**光学印象**オブジェクトを**オブジェクトブラウザ**に表示します。**光学印象**のオブジェクトは、以下の下位オブジェクトから構成されます。

- 上顎骨
- 下顎骨

下位オブジェクトのいずれか1つにピントを合わせると、SICAT Functionでは、いずれの2Dビューでも、選択しているオブジェクトにピントが合います。

上顎骨のオブジェクトや**下顎骨**のオブジェクトを削除すると、SICAT Functionでは、既存の光学印象がもれなくスタディから削除されます。

21 ワークスペース

SICATのアプリケーションでは、スタディを複数のビューで表示し、ワークスペースに画像をまとめて配置します。

SICAT Functionでは、異なる3種類のワークスペースが用意されています。

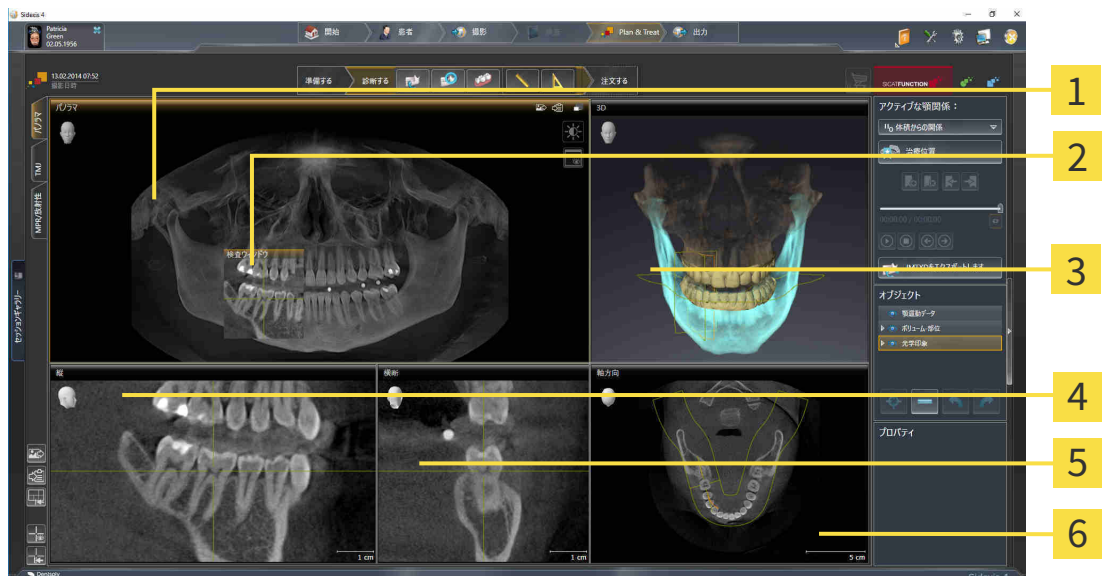


- **パノラマ**-ワークステーション-これに関する情報は**パノラマワークスペースの概要** [▶ ページ 73 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
- **TMJ**-ワークステーション-これに関する情報は**TMJワークスペースに関する概要** [▶ ページ 75 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
- **MPR/放射性**-ワークステーション-これに関する情報は**MPR/放射性ワークスペースの概要** [▶ ページ 77 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

ワークスペースおよびそれに含まれるビュー用として、以下の操作を行うことができます。

- アクティブなワークスペースを切り替える。 [▶ ページ 78 - *SIDEXIS 4*].
- アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット [▶ ページ 79 - *SIDEXIS 4*].
- ビューの調整 [▶ ページ 82 - *SIDEXIS 4*].
- **3Dビュー**を調整することもできます。これに関する情報は**3Dビューの調整** [▶ ページ 95 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
- アクティブなワークスペースは、その内容を記録することができます。これに関する情報は**ワークスペースのスクリーンショットを作成する** [▶ ページ 80 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

21.1 パノラマワークスペースの概要



1 パノラマビュー

2 検査ウィンドウ

3 3Dビュー

4 縦ビュー

5 横断ビュー

6 軸方向ビュー

パノラマビュー

パノラマビューは、仮想的なオルソパントモグラフ（OPG）に相当します。これは、正射影を特定の太さのパノラマ曲線上に表示します。パノラマ曲線および太さを両顎に調整することができます。この調整に関する内容は、[パノラマエリアを調整する](#) [▶ ページ 114 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

検査ウィンドウ

検査ウィンドウは、パノラマビューに埋め込まれています。レイヤーをパノラマ曲線に対して平行にすることによって、パノラマビューに、3次元の画像が追加されることになります。検査ウィンドウは、表示/非表示することができます。この切替に関する内容は、[検査ウィンドウの移動、非表示、表示](#) [▶ ページ 91 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

3Dビュー

3Dビューには、開いている3D治療計画スタディの3Dビューを表示します。

縦ビュー

縦ビューには、パノラマ歯列弓に対して接線をなすレイヤーを表示します。

横断ビュー

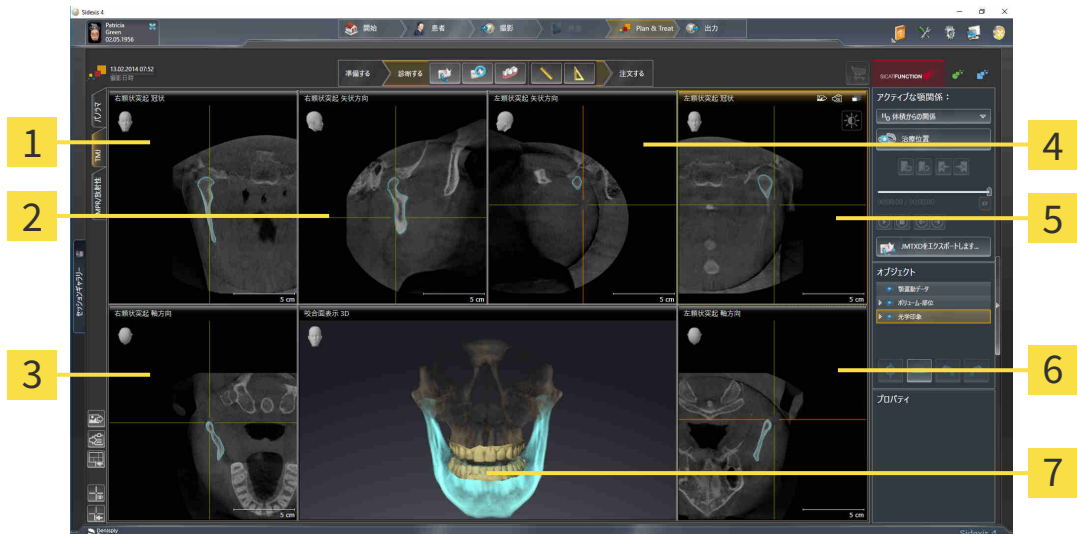
横断ビューには、パノラマ歯列弓に対して矢状断のレイヤーを表示します。

軸方向ビュー

デフォルトの軸方向ビューでは、上方からみたレイヤーを表示します。軸方向ビューでは、視線方向の切替が可能です。この切替に関する内容は、[可視化設定の変更 \[▶ ページ 196 - SIDEXIS 4\]](#)の節をご覧ください。

ビューの機能に関しては、[ビューの調整 \[▶ ページ 82 - SIDEXIS 4\]](#)および[3Dビューの調整 \[▶ ページ 95 - SIDEXIS 4\]](#)をご参照ください。

21.2 TMJワークスペースに関する概要

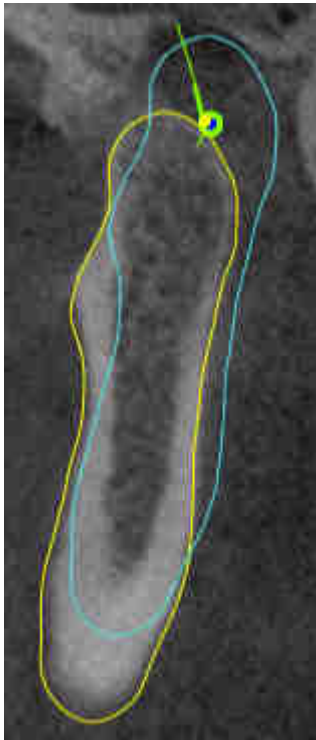


- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 右顎状突起 冠状-ビュー | 5 左顎状突起 冠状-ビュー |
| 2 右顎状突起 矢状方向-ビュー | 6 左顎状突起 軸方向-ビュー |
| 3 右顎状突起 軸方向-ビュー | 7 咬合面表示 3D |
| 4 左顎状突起 矢状方向-ビュー | |

患者個別の解剖学的な咬合は、JMTのコーナーで選択して、画像中で所見を検討することが可能です。JMTのコーナーに関する内容は、顎運動と連携する [▶ ページ 145 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

TMJワークスペースには、下顎頭を左側と右側とで同時に表示します。同時に表示することで、左右両側の顎関節が直接、比較できるようになります。また、顎関節の運動や形態の上で非対称性があれば、この比較を利用して特定できます。

SICAT Function では、下顎頭が移動しても、その位置の違いを識別表示します。

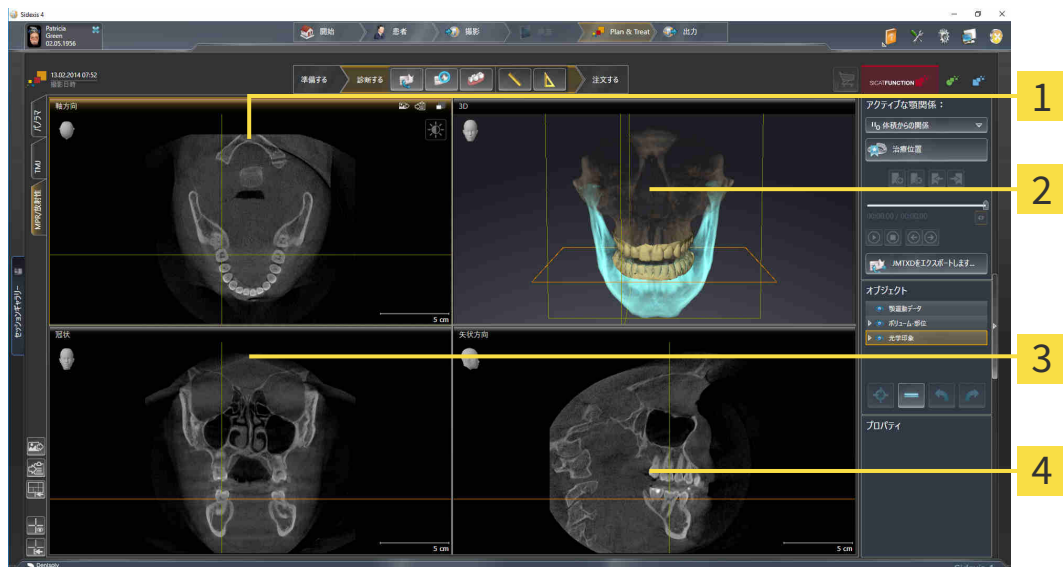


- SICAT Functionでは、下顎頭が移動すると、それをレイヤービューで青色の輪郭により、表示します。
- SICAT Functionでは、セグメント化した境界線を、レイヤービューで黄色の輪郭により、表示します。
- SICAT Function では、下顎頭が移動すると、それを3Dビューで青色の3Dオブジェクトとして表示します。

頭部を正中矢状面（鏡像対称面）で分割した方向に、各画像を揃えると、左側の顎関節と右側の顎関節とが互いに比較しやすくなります。3DX線の撮影中に位置決めを誤って、それを調整するときは、**ボリュームの配置を調整する**の機能を利用してください。これに関する情報は**ボリュームの配置を調整する** [▶ ページ 109 - SIDEXIS 4]を参照してください。ボリュームの配置を調整するには、顎関節が正中矢状面に対して、可能な限り対称な位置で表示されるようにしてください。

TMJワークスペースでは、顎運動データとボリューム-部位の分析用に追加のオプションが用意されています。これに関する情報は**TMJワークスペースの各種機能** [▶ ページ 151 - SIDEXIS 4]、**Bonwillの三角を利用する** [▶ ページ 154 - SIDEXIS 4]、**セグメンテーション限度の表示** [▶ ページ 155 - SIDEXIS 4]と**下顎頭を中心に顎運動を表示する** [▶ ページ 156 - SIDEXIS 4]を参照してください。

21.3 MPR/放射性ワークスペースの概要



1 軸方向-ビュー

3 冠状-ビュー

2 3D-ビュー

4 矢状方向-ビュー

軸方向ビュー

デフォルトの軸方向ビューでは、上方からみたレイヤーを表示します。軸方向ビューでは、視線方向の切替が可能です。この切替に関する内容は、[可視化設定の変更](#) [▶ ページ 196 - SIDEXIS 4] の節をご覧ください。

3Dビュー

3Dビューには、開いている3D治療計画スタディの3Dビューを表示します。

冠状ビュー

冠状ビューには、前方から見たレイヤーを表示します。

矢状方向ビュー

デフォルトの矢状方向ビューでは、右側から見たレイヤーを表示します。矢状方向ビューでは、視線方向の切替が可能です。この切替に関する内容は、[可視化設定の変更](#) [▶ ページ 196 - SIDEXIS 4] の節をご覧ください。

ビューの機能については以下をご覧ください。 [ビューの調整](#) [▶ ページ 82 - SIDEXIS 4] および [3Dビューの調整](#) [▶ ページ 95 - SIDEXIS 4]。

21.4 アクティブなワークスペースを切り替える.

アクティブなワークスペースを切り替えるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



- ワークスペースエリアの左上の隅にある任意のワークスペースタブをクリックします。
- ▶ 選択したワークスペースが開きます。

21.5 アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット

アクティブなワークスペースのレイアウトを調整する

アクティブなワークスペースのレイアウトのレイアウトを調整するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを二つ以上のビューの間を境界線上に移動させます。
 - ▶ マウスポインタの形状が切り替わります。



2. マウスの左ボタンをクリックしたら、その左ボタンを押したままにします。
3. マウスを動かします。
 - ▶ 境界線の位置が変わります。
 - ▶ 境界線の全側面でビューの大きさが変わります。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、境界線の現在位置、および、ビューの現在のサイズが、境界線のすべての側で維持されます。

アクティブなワークスペースのレイアウトをリセットする

アクティブなワークスペースのレイアウトをデフォルトに復元するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



- ワークスペースのツールバーで、アクティブなワークスペースのレイアウトをリセットするのアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function は、アクティブなワークスペースを標準のレイアウトにリセットします。これは、ソフトウェアがすべてのビューを標準サイズに表示することを意味しています。

21.6 ワークスペースのスクリーンショットを作成する

ワークスペースのスクリーンショットは、Windowsのクリップボードにコピーして、文書を作成する目的で使用することができます。

ワークスペースのスクリーンショットをSIDEXIS 4の出力ページに追加する

ワークスペースのスクリーンショットをSIDEXIS 4の出力ページに追加するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ ご希望のワークスペースはすでにアクティブです。これに関する情報はアクティブなワークスペースを切り替える。[▶ ページ 78 - SIDEXIS 4]を参照してください。



- ワークスペースのツールバーから、**アクティブなワークスペースのスクリーンショットをSIDEXIS 4出力に追加する**のアイコンをクリックします。

- ▶ SICAT Function では、ワークスペースのスクリーンショットがSIDEXIS 4の出力ページに追加されます。

ワークスペースのスクリーンショットをWINDOWSのクリップボードにコピーする

ワークスペースのスクリーンショットをWindowsのクリップボードに追加するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ ご希望のワークスペースはすでにアクティブです。これに関する情報はアクティブなワークスペースを切り替える。[▶ ページ 78 - SIDEXIS 4]を参照してください。



- ワークスペースのツールバーから、**アクティブなワークスペースのスクリーンショットをクリップボードにコピーする**のアイコンをクリックします。

- ▶ SICAT Function では、ワークスペースのスクリーンショットがWindowsのクリップボードにコピーされます。



クリップボードからスクリーンショットを貼り付けることができるアプリケーションは、例えば、画像処理やワープロのソフトウェアなど多数あります。貼り付けのショートカットキーは、大半のアプリケーションで「Ctrl + V」を使用します。

22 ビュー

ビューはワークスペースに含まれています。ワークスペースとビューは、各種ありますが、その詳細は以下の節をご覧ください。 [ワークスペース](#) [▶ ページ 72 - *SIDEXIS 4*].

ビューを調整することができます。これに関する情報は[ビューの調整](#) [▶ ページ 82 - *SIDEXIS 4*]と[3Dビューの調整](#) [▶ ページ 95 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

22.1 ビューの調整

ビューの調整に用いるツールの中には、アクティブなビュー以外では使用できないものもあります。ビューを有効にする手順は、次をご参照ください。 [アクティブなビューの切り替え](#) [▶ ページ 84 - SIDEXIS 4]。

アクティブなビューに含まれる要素：



- 1 タイトルバー
- 2 オリエンテーションヘッド
- 3 画像のツールバー
- 4 十字線
- 5 尺度

2Dレイヤービューには十字線が表示されます。十字線は別のレイヤービューとの交差線です。SICAT Function すべてのレイヤービューを同期させます。これは、全ての十字線が3D X線データ内で同じ位置に表示されることを意味します。これにより、円弧構造をビュー超しに割り当てることができます。

3Dビューでは、フレームを表示して、2Dレイヤービューの現在位置を表示します。

ビューの調整には、次の操作が使用できます：

- アクティブなビューの切り替え [▶ ページ 84 - SIDEXIS 4]
- ビューの最大化および復元 [▶ ページ 85 - SIDEXIS 4]
- 2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット [▶ ページ 86 - SIDEXIS 4]
- ビューのズームおよび切り抜きの移動 [▶ ページ 88 - SIDEXIS 4]
- レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール [▶ ページ 89 - SIDEXIS 4]
- 十字線およびフレームの移動、非表示、表示 [▶ ページ 90 - SIDEXIS 4]
- 検査ウィンドウの移動、非表示、表示 [▶ ページ 91 - SIDEXIS 4]
- ビューをリセットする [▶ ページ 93 - SIDEXIS 4]

3Dビューを調整することもできます。これに関する情報は、**3Dビューの調整** [▶ ページ 95 - SIDEXIS 4]をご参照ください。

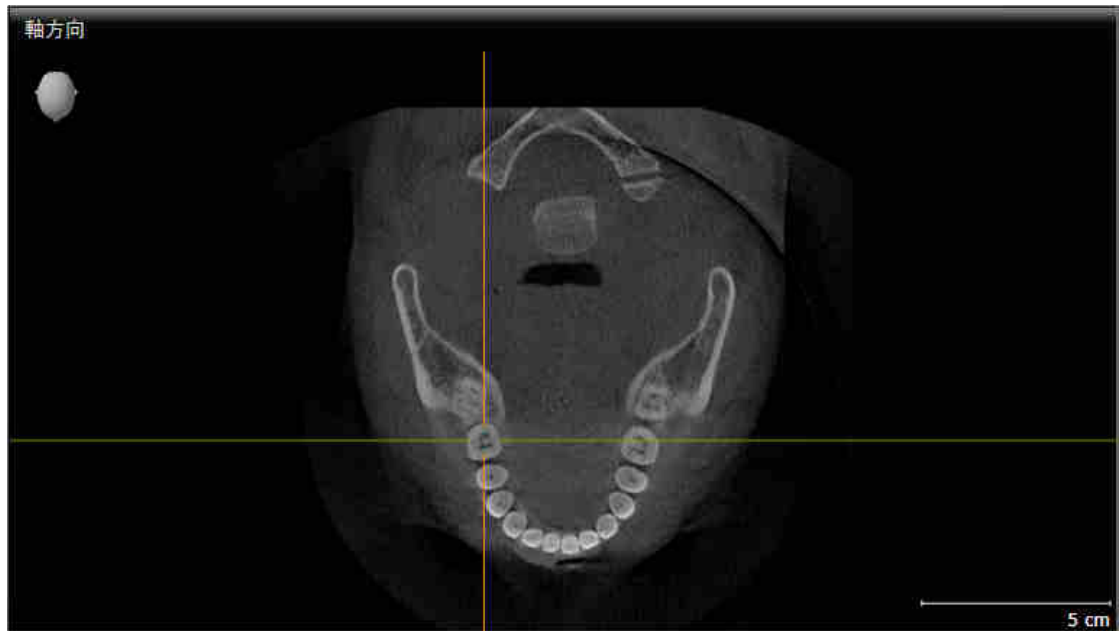
アクティブなビューの内容を記録することができます。これに関する情報は、**画像のスクリーンショットを作成する** [▶ ページ 94 - SIDEXIS 4]をご参照ください。

22.2 アクティブなビューの切り替え

画像のツールバーとタイトルバーが表示されるのは、アクティブなビューに限ります。

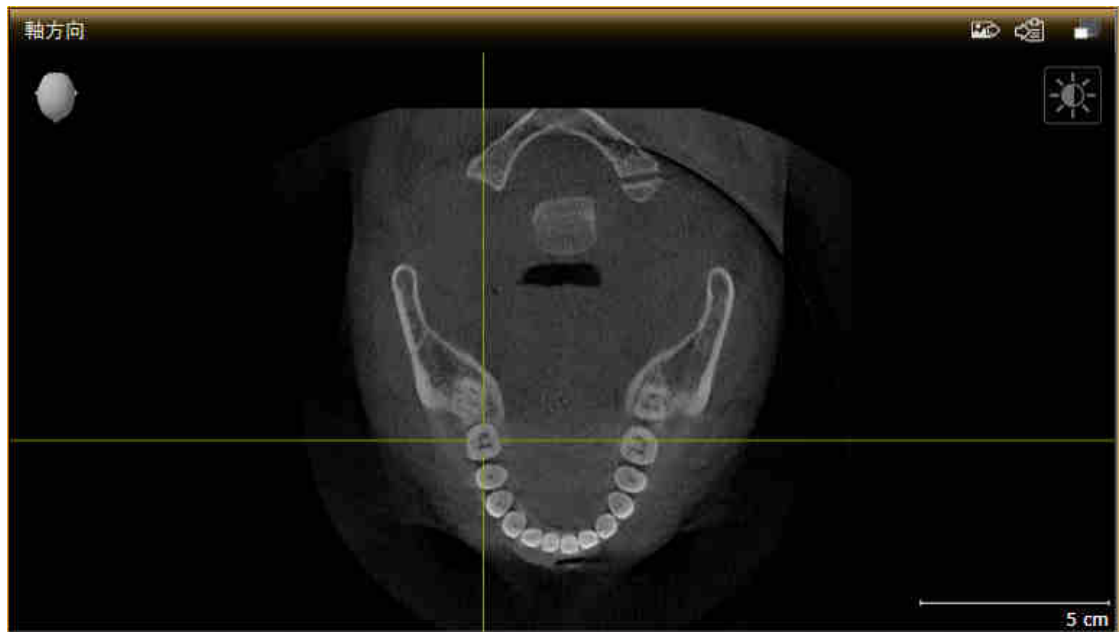
ビューをアクティブにするには、次のように行います。

1. マウスポインタを希望のビュー上に動かします。



2. 希望のビューをクリックします。

▶ SICAT Function がビューをアクティブにします。



アクティブなビューは、タイトルバーがオレンジ色になりますので、それとわかります。

22.3 ビューの最大化および復元

ビューの最大化および前回のサイズの復元は、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望のビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報は以下を参照してください [アクティブなビューの切り替え](#) [▶ ページ 84 - SIDEXIS 4]。
- ☑ 希望のビューは最大化していません。



1. 希望のビューのタイトルバーにある**最大化する**のアイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function がビューを最大化します。



2. 最大化したビューのタイトルバーにある、**戻す**のアイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function では、ビューが元のサイズに戻ります。



ビューの最大化および前回のサイズの復元のために、次の代替操作を使用できます。

- ビューを最大化するために、希望のビューのタイトルバーをダブルクリックすることができます。
- ビューの前回のサイズを復元するために、最大化したビューのタイトルバーをダブルクリックすることができます。

22.4 2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット

2Dビューで、明るさとコントラストを調整するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望の2Dビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報はアクティブなビューの切り替え [▶ ページ 84 - SIDEXIS 4] を参照してください。



1. 2Dビューの画像のツールバーに**輝度およびコントラストの調整**のアイコンがありますので、それにマウスポインタを重ねます。

▶ **輝度およびコントラストの調整**の透明なウィンドウが開きます。



2. マウスポインタを**輝度**のスライダーに重ねます。
3. 左マウスボタンをクリックしたら、押したままにして、マウスポインタを上下方向に移動させます。

▶ SICAT Function では、2Dビューを**輝度**のスライダー位置に応じた明るさに調整します。

4. マウスの左ボタンを放します。
▶ SICAT Function は2Dビューの現在の輝度を保持します。



5. マウスポインタを**コントラスト**のスライダーに重ねます。
6. 左マウスボタンをクリックしたら、左マウスボタンを押したままにして、マウスポインタを上下方向に移動させます。

▶ SICAT Function では、2Dビューを**コントラスト**のスライダー位置に応じたコントラストに調整します。

7. マウスの左ボタンを放します。
▶ SICAT Function は2Dビューの現在のコントラストを保持します。

8. マウスポインタを、**輝度およびコントラストの調整**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

▶ **輝度およびコントラストの調整**の透明なウィンドウが閉じます。



2Dビューの明るさとコントラストをデフォルトに復元するときは、**明るさとコントラストをリセットする**のアイコンをクリックしてください。



全2Dレイヤービューの輝度とコントラストは相互に関連しています。

22.5 ビューのズームおよび切り抜きの移動

ビューのズーム

ズーム機能は、ビューの内容を拡大または縮小します。

ビューをズームするときには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを希望のビュー上に動かします。
2. マウスホイールを前に回します。
▶ ビューがズームインします。
3. マウスホイールを後ろに回します。
▶ ビューがズームアウトします。



上記の手順に代えて、マウスホイールをクリックして、マウスを上下方向に移動させても、ズームインやズームアウトができます。

ビューの切り抜きを移動する

トリミング部分を移動させるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを希望のビュー上に動かします。
2. マウスの右ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
▶ マウスポインタの形が切り替わります。
3. マウスを動かします。
▶ ビューの切り抜きは、マウスポインタの動きに応じて移動します。
4. マウスの右ボタンを放します。
▶ SICAT Function では、移動後のトリミング部分がそのまま維持されます。

22.6 レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール

2Dレイヤービューで、レイヤーをスクロールするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを希望の2Dレイヤービュー上に動かします。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
 - ▶ マウスポインタは双方向の矢印になります。
3. マウスを上下方向に移動させます。
 - ▶ **横断**のレイヤーを除き、レイヤーは、平行に移動します。
 - ▶ **横断**のレイヤーは、パノラマ歯列弓に沿って移動した状態が表示されます。
 - ▶ SICAT Function は別のビューのレイヤーおよび十字線を現在の焦点に応じて調整します。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで、その時点の焦点でピントが合うようにフレームの調整が行われます。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、スクロールしてからのレイヤーが維持されます。

22.7 十字線およびフレームの移動、非表示、表示

十字線の移動

2Dレイヤービューで、十字線を移動させるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 現在、すべての字線とフレームが表示されています。
- 1. マウスポインタを希望のビューで十字線の中心に動かします。
 - ▶ マウスポインタが下記の十字線に切り替わります。



- 2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
- 3. マウスを動かします。
 - ▶ ビューの十字線は、マウスポインタの動きに従います。
 - ▶ SICAT Function は別のビューのレイヤーおよび十字線を現在の焦点に応じて調整します。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで、その時点の焦点でピントが合うようにフレームの調整が行われます。
- 4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、十字線が移動後の位置を維持します。



十字線をすぐにマウスポインタの位置へ移動させる場合、2Dビューでダブルクリックすることができます。

十字線およびフレームの非表示/表示

十字線およびフレームを非表示/表示にするには、次のように行います。

- ☑ 現在、すべての字線とフレームが表示されています。



- 1. ワークスペースのツールバーで、**十字線とフレームを非表示にするのアイコン**をクリックします。
 - ▶ SICAT Function では、すべての2Dレイヤービューで十字線が隠れます。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューでフレームが隠れます。



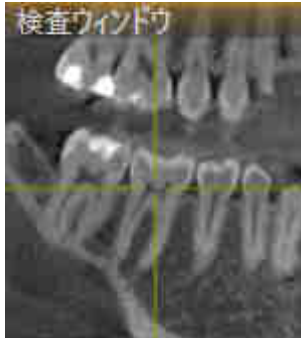
- 2. **十字線とフレームを表示するのアイコン**をクリックします。
 - ▶ SICAT Function では、すべての2Dレイヤービューで十字線が表示されます。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューでフレームが表示されます。

22.8 検査ウィンドウの移動、非表示、表示

検査ウィンドウの移動

検査ウィンドウを移動させるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ パノラマワークスペースはすでに開いています。これに関する情報は以下を参照してください
アクティブなワークスペースを切り替える [▶ ページ 78 - SIDEXIS 4]。
- ☑ 検査ウィンドウは、隠さずに表示しておきます。



1. パノラマビューで、**検査ウィンドウ**のタイトルバーにマウスポインタを重ねます。
 - ▶ マウスポインタは手のマークになります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスを動かします。
 - ▶ **検査ウィンドウ**は、マウスポインタの動きに追従します。
 - ▶ SICAT Function は別のビューのレイヤーおよび十字線を現在の焦点に応じて調整します。
 - ▶ SICAT Function では、**3Dビュー**で、その時点の焦点でピントが合うようにフレームの調整が行われます。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、**検査ウィンドウ**が移動後の位置を維持します。

検査ウィンドウの非表示/表示



検査ウィンドウの表示と隠すの別を表示するアイコンは、ステータス表示と切替用のアイコンとを同時に兼ねています。

検査ウィンドウを隠したり表示したりするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ パノラマワークスペースはすでに開いています。これに関する情報はアクティブなワークスペースを切り替える。[▶ ページ 78 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- ☑ 検査ウィンドウは、隠さず表示しておきます。



1. パノラマビューで、画像のツールバーから、検査ウィンドウを非表示にするのアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function では、検査ウィンドウが隠れます。



2. パノラマビューで、画像のツールバーから、検査ウィンドウを表示するのアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function では、検査ウィンドウが表示されます。

22.9 ビューをリセットする

すべてのビューをリセットするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



- ワークスペースのツールバーで、**ビューをリセットする**のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function では、すべてのビューで、ズーム、トリミング部分の移動、スクロール、十字線の移動、**検査ウィンドウ**の移動のそれぞれがデフォルト値に復元されます。
- ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで視線方向がデフォルト値に復元されます。

22.10 画像のスクリーンショットを作成する

画像のスクリーンショットを作成し、以下の手順で出力すると、文書作成を目的として使用することができます。

- SIDEXIS 4の出力ページに追加する
- Windowsのクリップボードにコピーする

画像のスクリーンショットをSIDEXIS 4の出力ページに追加する

- ☑ SICAT Functionは、SIDEXIS 4から起動させておきます。
- ☑ 希望のビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報はアクティブなビューの切り替え [▶ ページ 84 - SIDEXIS 4]を参照してください。



- ビューのタイトルバーから、スクリーンショットをSIDEXIS 4の出力ページに追加するのアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function では、画像のスクリーンショットがSIDEXIS 4の出力ページに追加されません。

画像のスクリーンショットをWINDOWSのクリップボードにコピーする

画像のスクリーンショットをWindowsのクリップボードに追加するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望のビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報はアクティブなビューの切り替え [▶ ページ 84 - SIDEXIS 4]を参照してください。



- ビューのタイトルバーから、スクリーンショットをクリップボードにコピーする (Ctrl+C) のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function では、画像のスクリーンショットがWindowsのクリップボードにコピーされません。



クリップボードからスクリーンショットを貼り付けることができるアプリケーションは、例えば、画像処理やワープロのソフトウェアなど多数あります。貼り付けのショートカットキーは、大半のアプリケーションで「Ctrl+V」を使用します。

23 3Dビューの調整

3Dビューでは、随時、視線方向を変更することが可能です。これに関する情報は以下を参照してください [3Dビューの目線を変更する \[▶ ページ 96 - SIDEXIS 4\]](#)。

3D画像の構成設定を行うときは、以下の操作を行うことができます。

- [3Dビューの表示タイプを切り替える \[▶ ページ 101 - SIDEXIS 4\]](#)
- [3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する \[▶ ページ 102 - SIDEXIS 4\]](#)
- [切り抜きを移動する \[▶ ページ 104 - SIDEXIS 4\]](#)

23.1 3Dビューの目線を変更する

3Dビューで視線方向を変更する手段は、2種類あります。

- インタラクティブ方式により変更を行う
- 標準目線を選択する

インタラクティブ方式により3Dビューの目線を変更する

3Dビューでインタラクティブ方式により視線方向を変更するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを **3D** 画像に重ねます。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
 - ▶ マウスポインタは手のマークになります。
3. マウスを動かします。
 - ▶ 目線はマウスの動きに合わせて変化します。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで変更後の視線方向をそのまま維持します。

標準目線を選択する

3Dビューで、デフォルトの視線方向を選択するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



1. **3D**ビューで左上隅にある、オリエンテーションヘッドのアイコンにマウスポインタを重ねます。
 - ▶ **目線**の透明なウィンドウが開きます。



- ▶ **目線**の透明なウィンドウ中央部で、オリエンテーションヘッドのハイライト表示されているものがありますが、それが現時点の視線方向です。
2. オリエンテーションヘッドのアイコンのうち、デフォルトにしたい視線方向を示しているものをクリックします。

- ▶ 3D画像の視線方向が、選択した視線方向に切り替わります。
3. マウスポインタを、**目線**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。
- ▶ **目線**の透明なウィンドウが閉じます。

23.2 3Dビューの表示タイプ

3Dビューに関する一般的な情報は3Dビューの調整 [▶ ページ 95 - SIDEXIS 4]に記載されています。

SICAT Function では、3D画像の表示タイプとして、異なる2種類が用意されています。



- 概要の表示タイプでは、3D X線撮影画像全体の概要を表示します。





- セグメントの表示タイプでは、3D X線撮影画像のトリミング部分に限りますが、移動自在です。



3D画像の表示タイプを選択する手順は、3Dビューの表示タイプを切り替える [▶ ページ 101 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

有効な表示タイプを調整する手順は、3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する [▶ ページ 102 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

23.3 3Dビューの表示タイプを切り替える



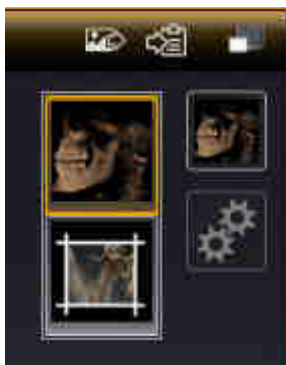
いずれの表示タイプも、すべてのワークスペースで使用できます。

3D画像の表示タイプを切り替えるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 3D画像を作業対象として選択しておきます。これに関する情報は以下を参照してください [アクティブなビューの切り替え](#) [▶ ページ 84 - SIDEXIS 4]。

1. 3Dビューの画像のツールバーで、**表示モードを切り替える**のアイコンにマウスポインタを重ねます。

▶ **表示モードを切り替える**の透明なウィンドウが開きます。



2. 任意の表示タイプのアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function は希望の表示タイプをアクティブにします。

3. マウスポインタを、**表示モードを切り替える**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

▶ **表示モードを切り替える**の透明なウィンドウが閉じます。

23.4 3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する



アクティブな表示モードを設定するのアイコンを表示する表示タイプは、構成設定が可能なものに限られています。アクティブな表示モードを設定するの透明なウィンドウで表示される設定内容は、選択した表示タイプに適用されるものに限られています。

3Dビューで選択している表示タイプについて、構成設定を行うときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 3D画像を作業対象として選択しておきます。これに関する情報はアクティブなビューの切り替え [▶ ページ 84 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- ☑ 希望の表示タイプはすでにアクティブになっています。これに関する情報は3Dビューの表示タイプを切り替える [▶ ページ 101 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- ☑ アクティブな表示タイプは設定可能です。



1. 3Dビューの画像のツールバーで、アクティブな表示モードを設定するのアイコンにマウスポインタを重ねます。
 - ▶ アクティブな表示モードを設定するの透明なウィンドウが開きます。



2. 希望のスライダーを動かします。
 - ▶ SICAT Function では、3D画像に対して、スライダーの位置に応じた調整が行われます。
3. 表示があれば、**詳細設定**の横にある矢印アイコンをクリックします。
 - ▶ **詳細設定**のコーナーがドロップダウンで展開します。
4. 使用できるチェックボックスをアクティブまたは無効にします。
 - ▶ SICAT Function では、3D画像に対して、チェックボックス内のチェックマーク有無に応じた調整が行われます。
5. 希望のスライダーを動かします。

▶ SICAT Function では、3D画像に対して、スライダーの位置に応じた調整が行われます。

6. マウスポインタを、**アクティブな表示モードを設定する**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

▶ **アクティブな表示モードを設定する**の透明なウィンドウが閉じます。



現在の設定内容は、**現在の表示タイプの設定をデフォルト設定にリセットする**のボタンをクリックすると、変更前にプリセットしていた設定内容へ戻して復元することができます。



現在の設定内容は、**現在の表示タイプの設定をデフォルト設定として保存する**のボタンをクリックすると、プリセットの設定内容として保存できます。



利用できる場合、処理速度が低速のコンピュータでは、**表示速度**のスライダーの位置を左の方向へスライドさせてください。

23.5 切り抜きを移動する

3Dビューに関する一般的な情報は以下に記載されています。 *3Dビューの調整* [▶ ページ 95 - *SIDEXIS 4*].

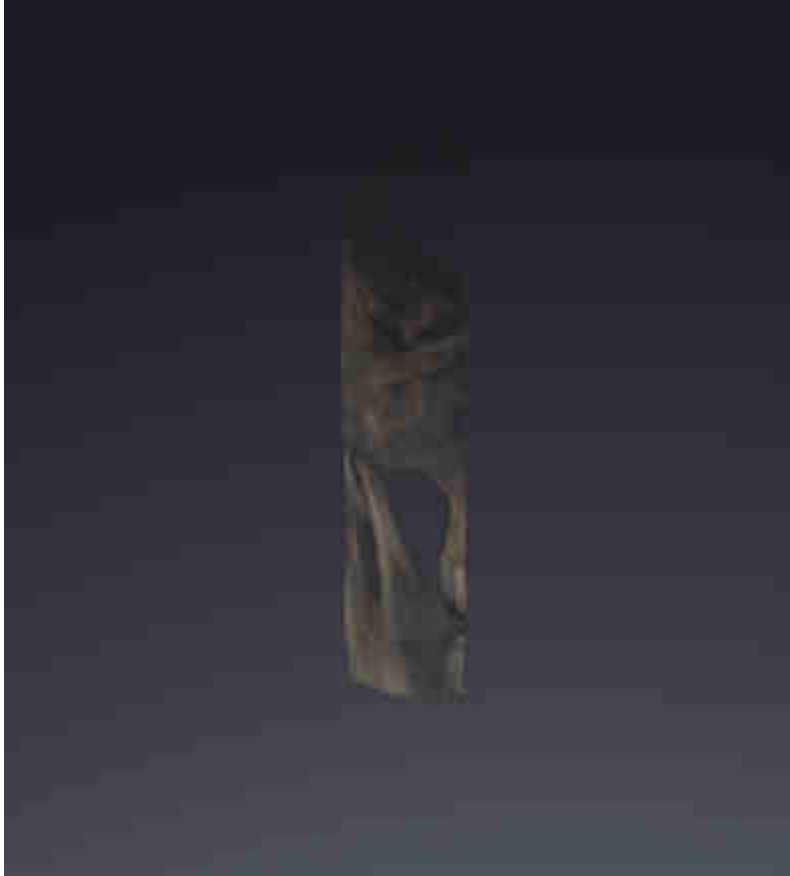
セグメントの表示タイプを利用すると、3Dビューで、立体画像の一部を隠すことができます。その後、SICAT Functionはボリュームの切り抜きデスクのみ表示し、その位置でSICAT Functionが十字線と同期します。切り抜きデスクを移動するには、次のように行います：

- ☑ セグメントの表示タイプはすでにアクティブになっています。これに関する情報は以下を参照してください *3Dビューの表示タイプを切り替える* [▶ ページ 101 - *SIDEXIS 4*]。



- 軸方向画像、冠状画像、矢状方向画像のいずれかで、お好みのレイヤーへスクロールします。これに関する情報はレイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール [▶ ページ 89 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

- ▶ SICAT Functionは選択したレイヤーに応じて切り抜きデスクを移動します：



24 ボリュームの配置およびパノラマエリア



ボリュームの配置の調整が必要な場合は、作業開始に3D X線ビューでこれを実行してください。ボリュームの配置を後で調整する場合は、診断または計画の一部を場合によっては繰り返す必要があります。

ボリュームの配置

すべてのビューのボリューム配置は、3本の主軸にボリュームを回して調整できます。これは、次のような場合に必要になることがあります。

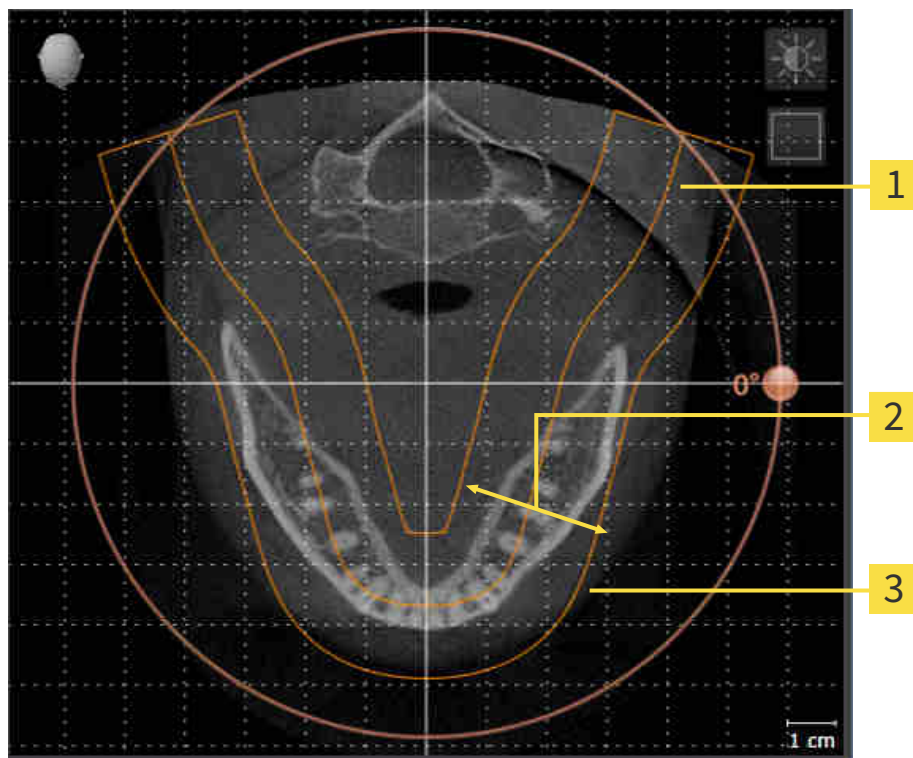
- 3D X線撮影の際に、患者の位置決めが最適ではなかった
- 軸方向レイヤーの配置がフランクフルト水平に平行または咬合平面に平行などの用途後の配置
- パノラマビューの最適化

SICAT Functionで、ボリュームの配置を調整すると、この調整した内容は、SICATの別アプリケーションすべてに適用されます。

ボリュームの配置を調整する手順は、[ボリュームの配置を調整する](#) [▶ ページ 109 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

パノラマ エリア

SICAT Function では、ボリュームとパノラマ エリアをベースとして計算を行い、パノラマ画像を出力します。パノラマビューを最適化するには、パノラマエリアが患者の両顎と合致するように調整を行うとよいでしょう。これは、効果的かつ効率的な診断および治療計画のために重要となります。



1 パノラマ曲線

2 厚さ

3 パノラマエリア

パノラマエリアは次の二つの要素によって確定されています。

- パノラマ歯列弓の形状と位置
- パノラマエリアの幅

最適な調整結果を得るために、パノラマエリアは、以下の2項目の条件をいずれも満たしておいてください。

- パノラマエリアは、全ての歯と両顎が完全に含まれていなくてはなりません。
- パノラマエリアは、できるだけ薄くしてください。

SICAT Function で、パノラマエリアを調整すると、この調整した内容は、SICATの別アプリケーションのすべてに適用されます。

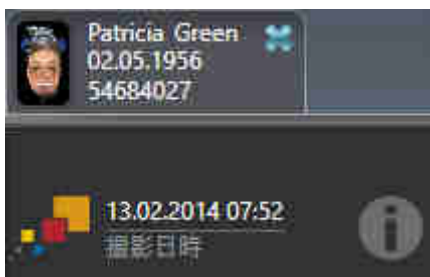
パノラマエリアを調整する手順は、以下の節をご覧ください。パノラマエリアを調整する [▶ ページ 114 - SIDEXIS 4].

SICAT FUNCTION とSIDEXIS 4でデータを互いに同期させる

SICAT Function とSIDEXIS 4の間では、ボリュームの配置とパノラマエリアについて、互いの両方向で同期が行われます。この同期では、以下の制約があります。

- SICAT Function ボリュームの配置で、回転が可能な角度は、最大30°までに限定されていません。
- 診断や治療計画の各対象（以下、オブジェクト）で、別のボリュームの配置をベースとするものが、すでに追加されているときに、ボリュームの配置を同期させると、それらのオブジェクトに影響が及ぶ場合は、SICAT Function のメッセージボックスが表示されます。このメッセージボックスでは、同期による影響の詳細をお知らせしますので、以下に挙げるオプションから、いずれかを選択します。
 - 同期する
 - 今ではない
 - 一度もない SIDEXIS 4で、3D X線撮影画像やボリュームの配置について、いずれも現時点のものがあるときは、こちらを選択します
- 診断や治療計画の各対象（以下、オブジェクト）で、別の設定済みパノラマエリアをベースとするものが、すでに追加されているときに、パノラマエリアを同期させると、それらのオブジェクトに影響が及ぶ場合は、SICAT Function のメッセージボックスが表示されます。メッセージウィンドウでは以下の二つのオプションを選択できます。
 - OK - SICAT Function 同期を実行し、オブジェクトを削除します。
 - 中止する - SICAT Function 同期を実行せず、オブジェクトを残します。
- SICAT Function サポートするのは、SIDEXIS 4の標準パノラマ歯列弓のみです。各点をそれぞれで移動させることはできません。
- SICAT Function サポートするパノラマエリアは、幅が10 mm以上のものに限りです。
- SICAT Function サポートするパノラマ歯列弓は、SIDEXIS 4で回転させていないものに限りです。

上記の制約のうち、1項目でもサポート範囲外に該当するものがあれば、SICAT Function とSIDEXIS 4の両方で、ボリュームの配置とパノラマエリア、または、パノラマエリア単独のいずれかについては、同期を行いません。



SICAT Function では、この場合に、その時点の3D X線撮影画像に関する情報の横に、お知らせアイコンを表示します。このお知らせアイコンにマウスポインタを重ねると、同期しなくなっているデータの情報と、そのデータを再度、同期させるようにするための操作手順をお知らせします。

24.1 ボリウムの配置を調整する

ボリウムの配置に関する一般的な情報はボリウムの配置およびパノラマエリア [▶ ページ 106 - SIDEXIS 4] に記載されています。

ボリウムの配置は、以下の手順で調整を行います。

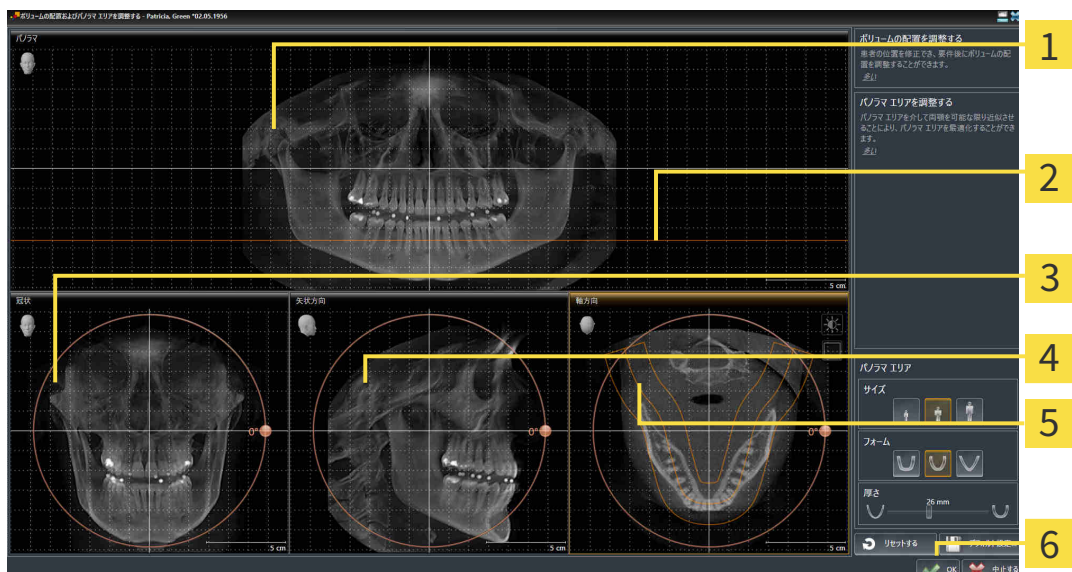
- ボリウムの配置およびパノラマエリアを調整するのウィンドウを開く
- 冠状ビューでボリウムを回す
- 矢状方向ビューでボリウムを回す
- 軸方向ビューでボリウムを回す

「ボリウムの配置およびパノラマエリアを調整する」のウィンドウを開く

ワークフロー・ステップの準備する は、展開させておきます。



- ボリウムの配置およびパノラマエリアを調整しますのアイコンをクリックします。
- ▶ ボリウムの配置およびパノラマエリアを調整する のウィンドウが開きます。



1 パノラマ-ビュー

2 軸方向基準線

3 冠状ビューと回転スライダー

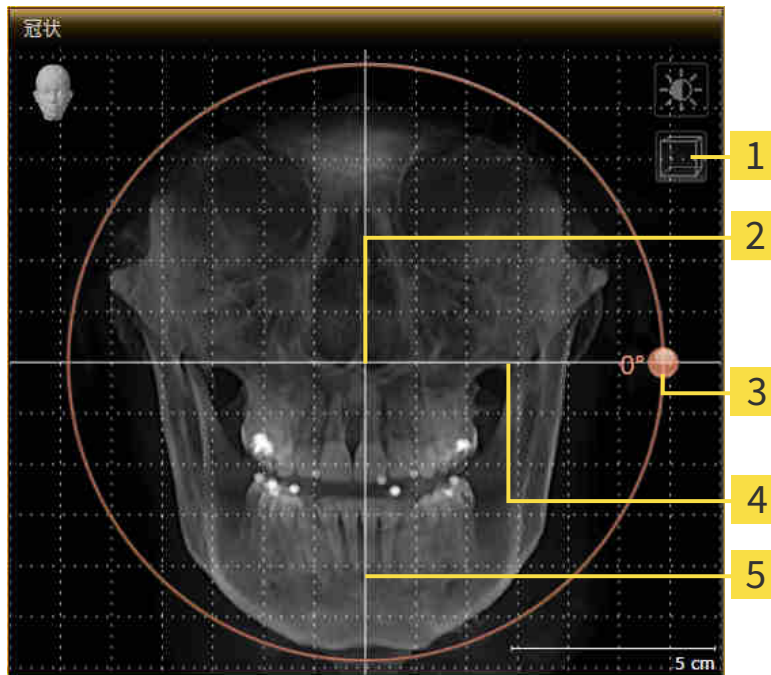
4 矢状方向ビューと回転スライダー

5 軸方向ビューと回転スライダー

6 ボタン OK

冠状ビューでボリウムを回す

1. 冠状ビューをアクティブにします。

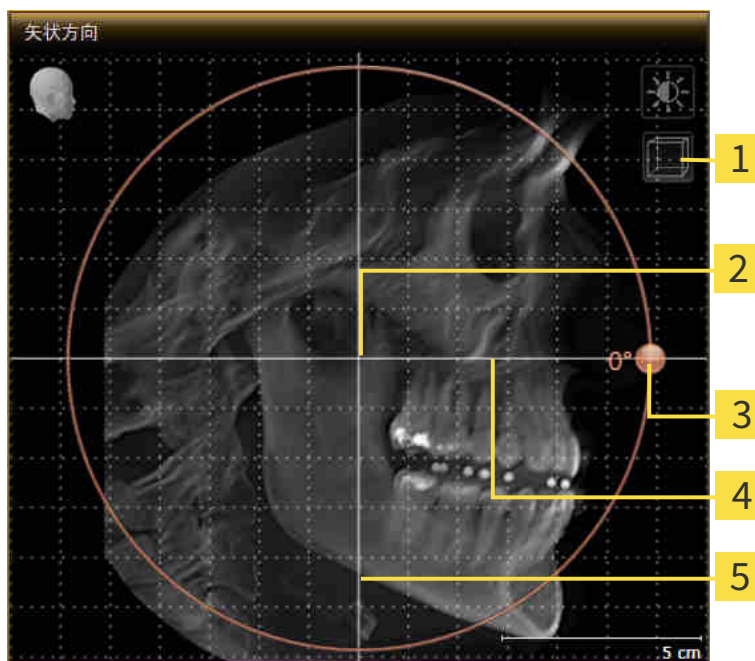


- アイコンレイヤーモードをアクティブにするまたはアイコン 投影モードをアクティブにする
- 1 アイコンレイヤーモードをアクティブにするまたはアイコン 投影モードをアクティブにする
- 2 回転中心
- 3 回転調整つまみ
- 4 水平基準線
- 5 垂直基準線

2. 投影モードがアクティブであることを確認してください。必要に応じて、**投影モードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。
3. マウスポインタを**回転調整つまみ**に重ねます。
4. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
5. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転調整つまみ**を移動させます。
 - ▶ SICAT Function では、**冠状ビュー**で立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。
6. 希望するボリウムの回転がなされた場合はマウスの左ボタンを放します。水平基準線、垂直基準線、格子線は、位置や方向の確認に利用します。

矢状方向ビューでボリユームを回す

1. 矢状方向ビューをアクティブにします。

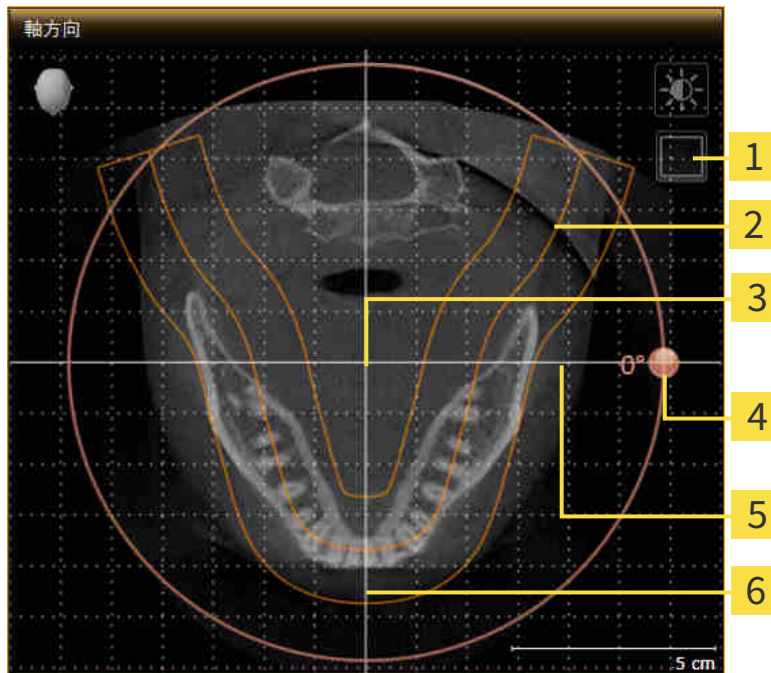


- | | |
|--|----------------|
| 1 アイコンレイヤーモードをアクティブにするまたはアイコン 投影モードをアクティブにする | 4 水平基準線 |
| 2 回転中心 | 5 垂直基準線 |
| 3 回転調整つまみ | |

2. 投影モードがアクティブであることを確認してください。必要に応じて、**投影モードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。
3. マウスポインタを**回転調整つまみ**に重ねます。
4. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
5. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転調整つまみ**を移動させます。
 - ▶ SICAT Function では、**矢状方向ビュー**で立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。
6. 希望するボリユームの回転がなされた場合はマウスの左ボタンを放します。水平基準線、垂直基準線、格子線は、位置や方向の確認に利用します。

軸方向ビューでボリユームを回す

1. 軸方向ビューをアクティブにします。



アイコン投影モードをアクティブにする

- | | |
|----------------------------------|------------------|
| 1 またはアイコンレイヤーモードをアクティブにする | 4 回転調整つまみ |
| 2 パノラマエリア | 5 水平基準線 |
| 3 回転中心 | 6 垂直基準線 |

2. レイヤーモードがアクティブであることを確認してください。必要に応じて、**レイヤーモードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。
3. 例えば、パノラマビューで軸方向基準線をマウスの左ボタンをクリックし、左ボタンを押したままマウスを上下に動かして下顎骨/歯の根のレイヤーをスクロールします。
4. その必要があれば、パノラマエリアの移動は、**軸方向ビュー**で行います。このときは、パノラマエリア上で左マウスボタンをクリックしたら、左マウスボタンを押したまま、マウスを移動させます。SICAT Function では、パノラマエリアが移動すれば、それに応じて、回転中心、水平基準線、垂直基準線がいずれも移動します。
5. マウスポインタを**回転調整つまみ**に重ねます。
6. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
7. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転調整つまみ**を移動させます。
 - ▶ SICAT Function では、**軸方向ビュー**で立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。

8. 希望するボリユームの回転がなされた場合はマウスの左ボタンを放します。パノラマエリア、水平基準線、垂直基準線、格子線は、位置や方向の確認に利用します。
9. 調整した後の内容を保存するときは、**OK**をクリックします。
 - ▶ ボリユームの配置を調整すると、それがSICATのアプリケーションに現在あるオブジェクトに影響する場合は、SICAT Functionで、通知ウィンドウが開き、影響の詳細についてお知らせします。
10. それでもなお、ボリユームの配置の調整を行いたいときは、通知ウィンドウに**調整する**のボタンがありますので、それをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は調整されたボリユームの配置を保存し、配置に応じてボリユームをすべてのビューで表示します。

説明のある手順に加えて、**ボリユームの配置およびパノラマエリアを調整する**のウィンドウでは、以下の各操作が可能です。



- 2Dビューでは、明るさやコントラストを調整できます。このときは、希望のビューをアクティブにし、**輝度およびコントラストの調整**のアイコンをクリックしてください。これに関する情報は**2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット** [▶ ページ 86 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- ビューでズームすることができます。SICAT Function **軸方向**ビューの画像付のビュー間のズームを同期します。
- **リセットする**のボタンをクリックすると、ボリユームの配置やパノラマエリアをデフォルトに復元できます。
- **デフォルト設定を保存する**のボタンをクリックすると、立体画像の現時点の方向や現時点のパノラマエリアを、プリセットの設定内容として保存できます。
- 調整した後の内容を保存する必要がないときは、**中止する**をクリックしてください。

24.2 パノラマエリアを調整する

パノラマエリアに関する一般的な情報は、*ボリユームの配置およびパノラマエリア* [▶ ページ 106 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。

パノラマエリアの調整は、以下の手順で調整を行います。

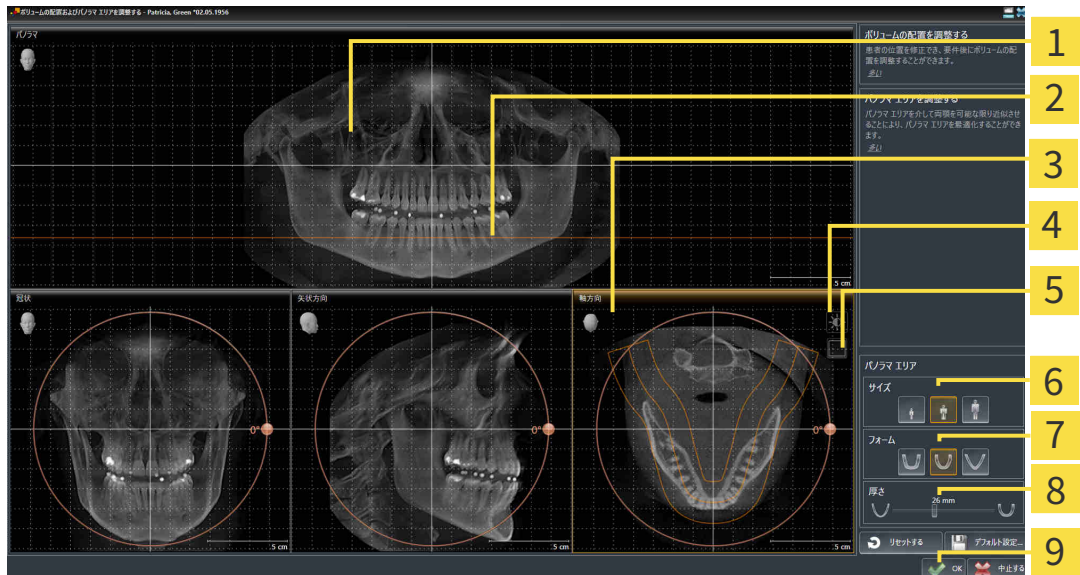
- **ボリユームの配置およびパノラマエリアを調整する**のウィンドウを開く
- 軸方向ビューのレイヤー位置を調整する
- パノラマエリアを移動する
- 軸方向ビューでボリユームを回す
- サイズ、フォーム、厚さのそれぞれのパノラマエリアを調整する

「ボリユームの配置およびパノラマエリアを調整する」のウィンドウを開く

ワークフロー・ステップの**準備する**は、展開させておきます。



- ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整しますのアイコンをクリックします。
- ▶ ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する のウィンドウが開きます。



1 パノラマ-ビュー

2 軸方向基準線

3 軸方向ビューと回転スライダー

4 アイコン 輝度およびコントラストの調整

5 アイコン 投影モードをアクティブにする
またはアイコン レイヤーモードをアクティブにする

6 サイズ-ボタン

7 フォーム-ボタン

8 厚さ-スライダー

9 ボタン OK

軸方向ビューのレイヤー位置を調整する



1. 軸方向ビューで、レイヤーモードが選択されていることを確認します。必要に応じて、**レイヤーモードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。
2. パノラマビューで、軸方向基準線にマウスポインタを重ねます。軸方向基準線は、**軸方向ビュー**の現在のレイヤー位置を示しています。
3. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
4. マウスを上下方向に移動させます。
 - ▶ 軸方向画像のレイヤーは、パノラマビューで、水平断面の基準線がある位置に合わせて、調整が行われます。
5. 軸方向基準線が下顎骨/歯の根に来たら、マウスの左ボタンから指を放します。
 - ▶ 軸方向ビューでは、調整後のレイヤーが表示されて維持されます。

パノラマエリアを移動する

1. 軸方向ビューで、マウスポインタをパノラマエリアに重ねます。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
 - ▶ マウスポインタの形が切り替わります。
3. マウスを動かします。
 - ▶ SICAT Function では、マウスポインタの位置に合わせて、パノラマエリアの調整が行われます。
4. パノラマエリアの中央の曲線が下顎骨/歯の根に来たら、マウスの左ボタンから指を放します。
 - ▶ パノラマエリアは現在位置を保持します。

軸方向ビューでボリュームを回す

1. 軸方向ビューで、マウスポインタを**回転調整つまみ**に重ねます。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転調整つまみ**を移動させます。
 - ▶ SICAT Function では、**軸方向ビュー**で、**回転調整つまみ**に合わせて、立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われず。
4. 下顎骨/歯の根がパノラマエリアの中央の曲線に来たら、マウスの左ボタンから指を放します。

パノラマエリアのサイズ、フォームおよび厚さを調整する



1. パノラマエリアの**サイズ**は、患者の下顎骨と合致が最も良好なものを選択します。このときは、そのサイズに該当する、**サイズ**のボタンをクリックします。



2. パノラマエリアの**フォーム**は、患者の下顎骨と合致が最も良好なものを選択します。このときは、そのサイズに該当する、**フォーム**のボタンをクリックします。



3. **軸方向ビュー**で、**投影モード**が選択してあることを確認します。必要に応じて、**投影モードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。



4. **厚さ**のスライダー位置を移動させて、パノラマエリアの**厚さ**を選択します。パノラマエリアに全ての歯と両顎が完全に含まれていることを確認します。厚さは、できるだけ薄くしてください。

5. 調整した後の内容を保存するときは、**OK**をクリックします。

- ▶ SICAT Function では、ボリュームの配置とパノラマエリアについて、いずれも調整した後のものが保存され、**パノラマ画像**は、その調整後のデータにより表示されます。

説明のある手順に加えて、**ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する**のウィンドウでは、以下の各操作が可能です。



- 2Dビューでは、明るさやコントラストを調整できます。このときは、希望のビューをアクティブにし、**輝度およびコントラストの調整**のアイコンをクリックしてください。これに関する情報は**2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット** [▶ ページ 86 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- ビューでズームすることができます。SICAT Function **軸方向ビュー**の画像付のビュー間のズームを同期します。
- **リセットする**のボタンをクリックすると、ボリュームの配置やパノラマエリアをデフォルトに復元できます。
- **デフォルト設定を保存する**のボタンをクリックすると、立体画像の現時点の方向や現時点のパノラマエリアを、プリセットの設定内容として保存できます。
- 調整した後の内容を保存する必要がないときは、**中止する**をクリックしてください。

25 顎運動データ

顎運動や顎の位置は、患者別で固有ですが、これらより患者の咀嚼動作に関する情報が得られます。これらの情報は、患者の分析および診断のために利用することができます。さらに、これらのデータを患者の治療計画に組み込むこともできます。

SICAT Functionは、患者固有の顎運動と顎位置を可視化します。アプリケーションは、以下の顎運動データソースを使用します。

- 顎運動撮影機器（JMT）からの顎運動データ
- 顎運動撮影機器の静的位置
- 口内カメラで撮影した頬の咀嚼位置

顎運動データを収集する機器として、ソフトウェアを使用できるもののリストは、*互換性のある顎運動撮影機器* [▶ ページ 119 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。

頬の咀嚼位置光学印象と共にインポートすることができます。これに関する情報は*光学印象* [▶ ページ 133 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

顎運動データを表示するための準備をするには、顎運動データのインポートの他に、その他のステップを実施する必要があります。これに関する情報は*SICAT Functionの標準ワークフロー* [▶ ページ 37 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

必要なデータがすべて準備できたら、顎運動データに関する次の操作を行うことができます：

- 顎運動と連携する [▶ ページ 145 - *SIDEXIS 4*]
- 3Dビューで運動の軌跡を表示する [▶ ページ 148 - *SIDEXIS 4*]
- 検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する [▶ ページ 149 - *SIDEXIS 4*]
- レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する [▶ ページ 150 - *SIDEXIS 4*]

顎運動データに関する表示の正確性

0.6 mm以下

25.1 互換性のある顎運動撮影機器



注意

使用目的に適合しない顎運動撮影機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

必ずSICAT Functionで顎運動データの利用をカバーするという使用目的に適合する顎運動撮影機器を使用してください。



注意

対応していない顎運動撮影機器または互換性のない記録装置を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

顎運動データの記録にあたり、顎運動の記録機器（例えば、SICAT JMT⁺）と、これに適合する、採得用の器具（例えば、SICAT Fusion Bite）をコンビにしますが、これは、SICAT Functionがサポートするものを使用し、また、それ以外の機器や器具によるデータは、利用しないでください。

必ず互換性のある顎運動撮影機器と対応している記録装置の組み合わせで取得した顎運動データを使用してください。互換性のある顎運動撮影機器で撮影した顎運動データのみSICAT Functionにインポートしてください。SICAT JTIフォーマットV1.0インターフェースに対応している顎運動撮影機器で撮影した顎運動撮影データのみSICAT Functionにインポートすることができます。

現在、SICAT Functionは、次の顎運動撮影機器と顎運動記録装置の組合せに対応しています。

- SICAT JMT⁺とSICAT Fusion Biteの組合せ。製造元は、次のとおりです：SICAT GmbH & Co. KG, Brunnenallee 6, 53177 Bonn

25.2 顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録



注意

3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



注意

不適切な顎運動データ用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の顎運動データを使用してください。



注意

間違って撮影された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データおよび3D X線撮影画像は、各機器のメーカーの指示に従って撮影してください。指定されたタイプの参照オブジェクトを使用してください。



注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない顎運動データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



注意

顎運動データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした顎運動データのインテグリティと品質を確認してください。



注意

顎運動データの品質、正確性、解像度が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質、解像度、正確性の顎運動データを利用してください。



注意

過度なアーチファクト、不十分な解像度、または3D X線撮影画像の品質が十分でない場合、マーカーおよび参照オブジェクトを認識するメカニズムにエラーが生じるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確なマーカー/参照オブジェクト認識を可能にする3D X線撮影画像を使用してください。



注意

参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が間違っていると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

JMTウィザードが参照オブジェクトを認識した後、3D X線撮影画像を考慮しながら、参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が正しいか確認してください。



注意

間違って記録された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された顎運動データが3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

注記

顎運動データを正確に記録するために、SICATは次のパラメーターを含む3D X線データを使用することを推奨します。

1. レイヤーの厚さ：0.7mm以下
2. ボクセルサイズ：全3次元で0.7mm以下



撮影した顎運動データをSICAT Functionにインポートする前に、顎運動データ用機器のソフトウェアからデータをエクスポートする必要があります。SICAT Functionに適合しているファイルのエクスポートについては、顎運動データ用機器の取扱説明書に記載されています。



開いている撮影結果がすでに記録済みの顎運動データを含んでいる場合、**顎運動データをインポートして記録する**を再度開く際に、SICAT Functionがこれらのデータを削除することを確認する必要があります。



顎運動データのインポート中に、SICAT Functionが後で認識できるように、**軸方向の顎運動データをインポートして記録する**ビュー内に3個のボールマーカーを識別表示する必要があります。

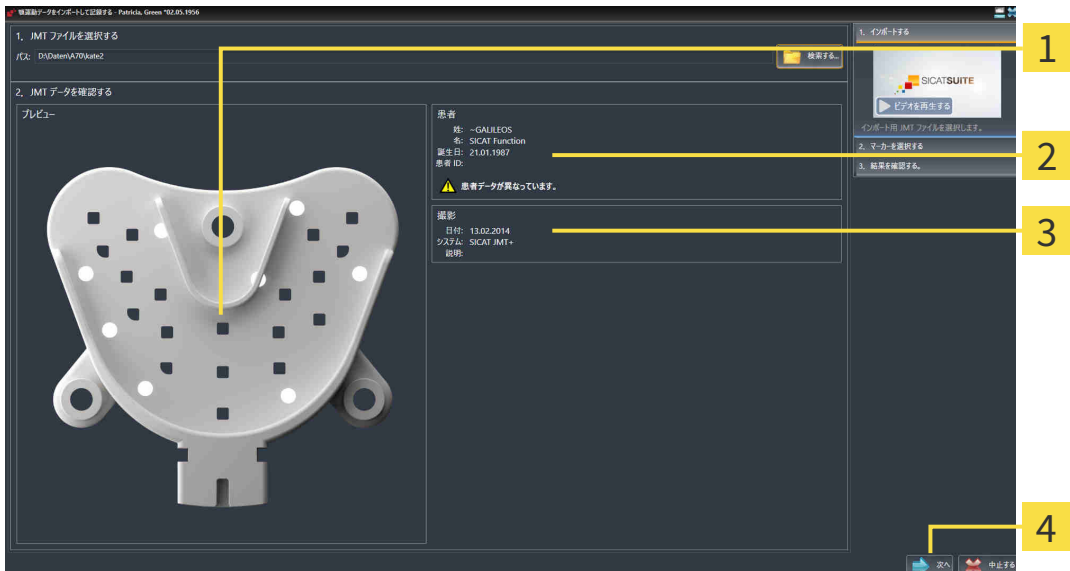
顎運動データに関しての一般的な内容は以下の節をご覧ください。 [顎運動データ](#) [▶ ページ 118 - *SIDEXIS 4*].

顎運動データのインポートおよび記録は、次のように行います。

- ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 63 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。



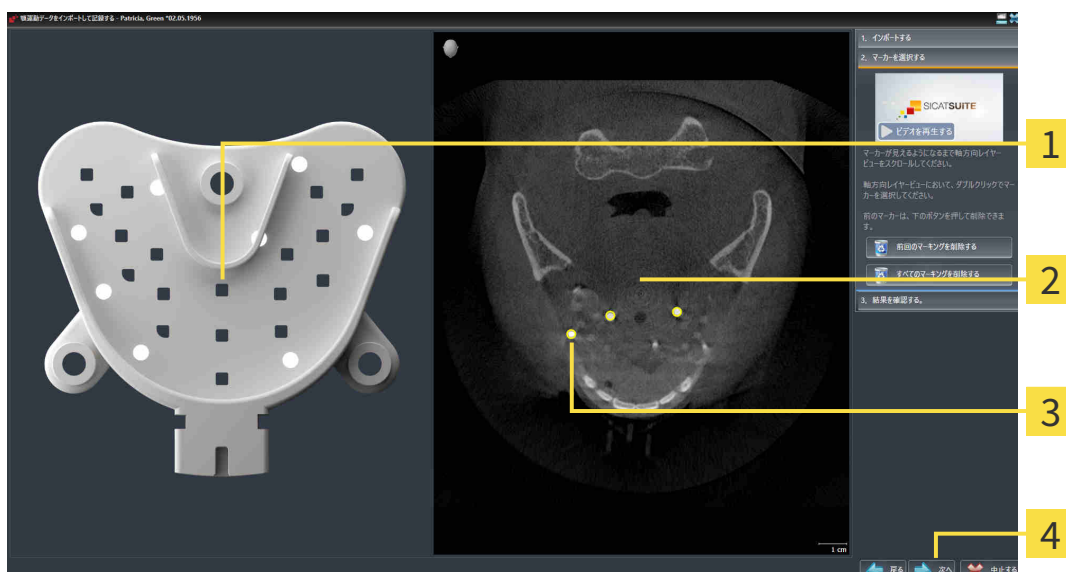
1. **顎運動データをインポートして記録する**のアイコンをクリックします。
 - ▶ のステップで、アシスタント機能**顎運動データをインポートして記録する**が開いています。
2. アシスタントの **顎運動データをインポートして記録する** で、**検索する**のボタンをクリックします。
 - ▶ **JMT エクスポートファイルを読み込む**のウィンドウが開きます。
3. **JMT エクスポートファイルを読み込む**のウィンドウで、顎運動データを保存してある、お好みのファイルに変更したら、そのファイルをハイライト表示にして、**開く**をクリックします。
 - ▶ **JMT エクスポートファイルを読み込む**のウィンドウが閉じ、SICAT Functionは、顎運動データを保存してある、お好みのファイルへのパスを、**パス**のボックスへ転送します。
 - ▶ **バイトフォークビュー**には、顎運動データを記録する間に使用した咬合ピースのプレビューを表示します。
 - ▶ **患者** エリアと **撮影** エリアには、顎運動データのファイルに保存してある情報を表示します。



- | | |
|--|---|
| <p>1 SICAT Fusion Biteのビュー</p> <p>2 エリア 患者</p> | <p>3 エリア 撮影</p> <p>4 ボタン 次へ</p> |
|--|---|

4. 顎運動データを含むファイルが現在のスタディに適合するか確認します。
5. **次へ**をクリックします。

▶ のステップが開きます。



1 バイトフォーク-ビュー

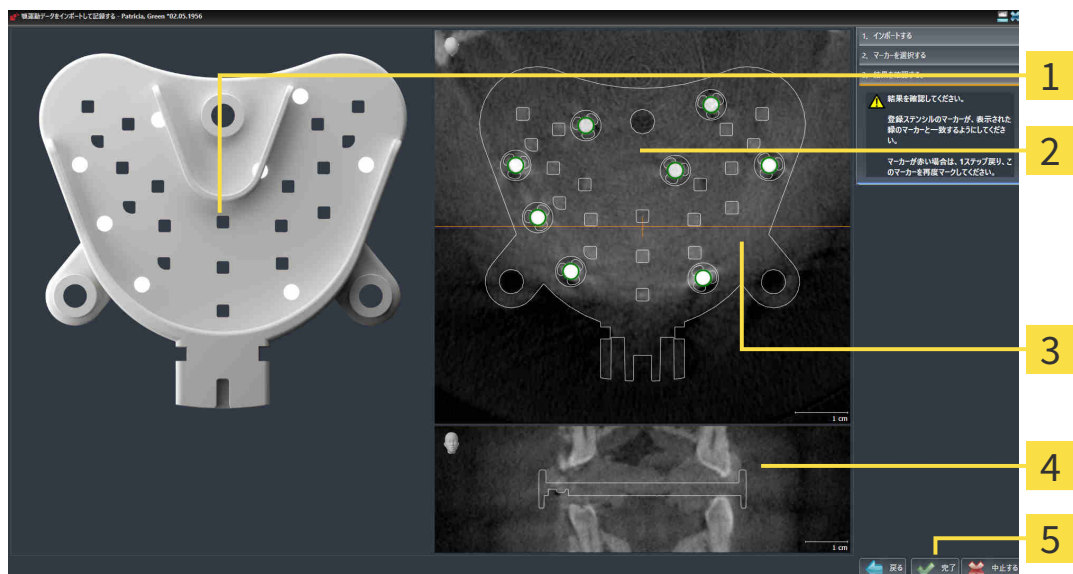
3 選択されたマーキング

2 軸方向-ビュー

4 ボタン 次へ

6. 軸方向のレイヤービューにボールマーカが1個以上表示されるまで、軸方向レイヤーをスクロールします。
7. 軸方向のレイヤービューで、ボールマーカをダブルクリックします。
 - ▶ SICAT Function がボールマーカにマークを付けます。
8. 3個のボールマーカにマークが付けられるまで、最後の手順を繰り返します。
9. 次へをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は顎運動データを記録します。

▶ のステップが開きます。



1 バイトフォーク-ビュー

4 冠状-ビュー

2 軸方向-レイヤービュー

5 ボタン完了

3 冠状の基準線

10. ボールマーカーがバイトフォーク上と軸方向レイヤービュー内で一致していることを確認してください。

11. SICAT Functionでは、咬合ピースの位置が正確に認識されていることを、**冠状ビュー**で確認します。**軸方向ビュー**で、冠状断の基準線を移動させるか、または、**冠状ビュー**で、断層面をスクロールします。

12. **完了**をクリックします。

▶ SICAT Function は記録済みの顎運動データをインポートします。

▶ アシスタント機能の **顎運動データをインポートして記録する** が閉じます。

▶ SICAT Function では、**オブジェクトブラウザ**で、**顎運動データ**のオブジェクトを表示します。これに関する情報はSICAT Functionオブジェクト [▶ ページ 70 - SIDEXIS 4]を参照してください。



記載されている手順に加え、以下の操作が**顎運動データをインポートして記録する**で使用できます。

- 前回セットしたマーカーを取り消したいときは、**前回のマーキングを削除する**のボタンをクリックします。
- **バイトフォーク**がX線データに正確に合わせられていない場合、**戻る**ボタンをクリックし、別の位置にあるマーカーでの手順を繰り返します。
- 顎運動データのインポートおよび記録を中断する場合、**中止する**をクリックすることができます。

26 セグメンテーション



注意

3D X線撮影画像の過度なアーチファクトまたは不十分な解像度は、セグメンテーションプロセスの失敗または不十分な結果につながるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトの可能性ががあります。

解剖学的構造関連のセグメンテーションの品質が十分である3D X線撮影画像のみ使用してください。



注意

セグメンテーションの品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

セグメンテーションの品質が使用目的に対して十分であるか確認してください。

下顎骨の運動を表示するときは、下顎骨と背景の境界線を指定してください。これがセグメンテーションと呼ばれます。下顎のセグメンテーションで、患者の下顎と窩の両方ともセグメントすることができます。SICAT Functionでは、セグメンテーションは半自動プロセスです。

半自動プロセスとは、下顎と窩のパーツを描画ツールにより手動で下顎のセグメンテーションに描かなくてはならないことを意味します。マークを付けると、セグメンテーションアシストは類似のエリアを自動指定します。

下顎と窩のセグメンテーション用として、以下の操作を行うことができます。

- 下顎骨をセグメントする [▶ ページ 127 - SIDEXIS 4]
- 窩をセグメントする [▶ ページ 130 - SIDEXIS 4]

下顎をセグメントした後、以下の操作を行うことができます。

- 3Dビューでの患者の解剖学的動作の可視化および再生。これに関する情報は顎運動と連携する [▶ ページ 145 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- 3Dビューでの患者の解剖学的運動経路の可視化および再生。これに関する情報は3Dビューで運動の軌跡を表示する [▶ ページ 148 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- TMJのワークスペースで、移動後の顎関節をビジュアル化する。これに関する情報はTMJワークスペースの各種機能 [▶ ページ 151 - SIDEXIS 4]を参照してください。

26.1 下顎骨をセグメントする



アシスタント機能の **下顎と顎状突起をセグメントする**は、起動時に毎回セグメントの事前計算を実行します。事前計算の時間は、使用するコンピューターの性能によって異なります。



SICAT Function のセグメンテーションは解剖学的輪郭の代わりにエリアで作業します。従って、解剖学的輪郭を正確にトレースする必要はありません。それに代えて、そのエリアの内部にラインを引いて、セグメント化に関するエリアを指定してください。

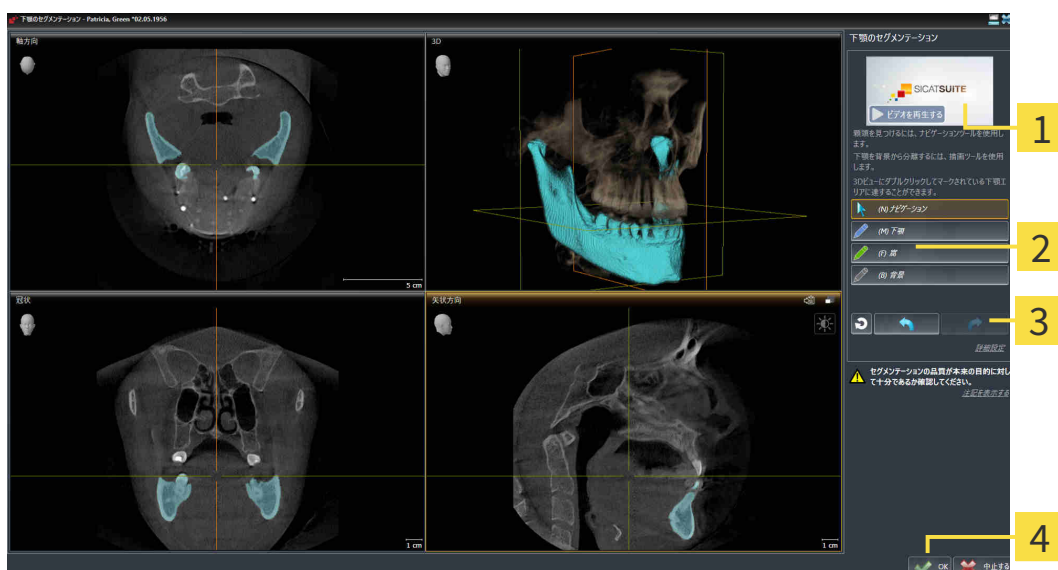
セグメンテーションに関する内容は、[セグメンテーション](#) [▶ ページ 126 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。

下顎骨をセグメントするには、次のように行います。

- ☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 63 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。



1. **下顎と顎状突起をセグメントする**のアイコンをクリックします。
▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション**が開きます。



1 事例ビデオ

3 ボタンリセットする、ボタン戻す、およびボタン繰り返す

2 エリア 描画ツール

4 ボタン OK

- ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション**は、セグメントの事前計算を実行します。

2. 軸方向ビュー、冠状ビュー、矢状方向ビューを下顎と窩が見えるように調整します。



3. 下顎のボタンをクリックします。
4. マウスポインタを希望の2Dレイヤービューで下顎骨上に動かします。

- ▶ マウスポインタはペンになります。
- 5. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
- 6. 下顎骨の内側の部分でマウスをドラッグします。
 - ▶ SICAT Function に、青色の線によるマーキングが表示されます。
- 7. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function はマーキングに従って下顎骨をセグメントします。
- 8. 補助エリアを下顎骨に追加する場合、ナビゲーションアイコンをクリックし、2Dビュー内で希望の構造に移動し、これらに上記の手順でマークを付けます。
- 9. セグメンテーションが希望通りの場合、OK ボタンをクリックします。
 - ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** が閉じます。
 - ▶ SICAT Function では、オブジェクトブラウザで、**ボリューム-部位**のオブジェクトを表示します。これに関する情報は *SICAT Function* オブジェクト [▶ ページ 70 - *SIDEXIS 4*] を参照してください。
 - ▶ 3Dビューにセグメンテーション結果が表示されます



背景描画ツールは、範囲に背景としてマークを付ける、または半自動セグメンテーションの大き過ぎる範囲を修正する際に使用することができます。

セグメント作業は、後からの時点でも、再開したり、修正したりすることが可能です。



ナビゲーションモードに切り替えると、2Dレイヤービューをスクロールすることができます。

記載されている手順に加え、以下の操作が**下顎と顎状突起をセグメントする**のウィンドウでは、以下の操作を行うことができます。



- **下顎と顎状突起をセグメントする**ウィンドウで使用できます。これに関する情報はショートカットキー [▶ ページ 206 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- **3Dビュー**で、セグメントしたエリアに含まれる1箇所をダブルクリックすると、すべての2Dレイヤービューで、それに帰属する断層面が表示されます。SICAT Functionでは、さらに、このダブルクリックした箇所に十字線の中心が移動します。この誘導アシストツールを使用すれば、例えば、はみ出た部分を補正したり、穴を塞いだりすることができます。
- セグメンテーションが解剖学的条件と一致している場合、**戻す**ボタンをクリックしてください。
- 取り消した実行アクションを再度行いたい場合は、**繰り返す**ボタンをクリックします。
- すべてのステップを元に戻したいときは、**リセットする**タンをクリックします。
- データセットの事前計算が最適な結果を示さない場合もあります。事前に行った計算で最適な結果が得られないときは、**詳細設定**をクリックして、**背景を自動的に検出**のチェックボックスからチェックマークを外してください。その後、**背景**のツールを利用して、下顎と窩のいずれからも外れた箇所で、1本以上のラインを引いて、エリア指定を行います。
- 下顎頭や下顎骨部分のセグメンテーションを中断する場合、**中止する**をクリックします。

26.2 窩をセグメントする

TMJのワークスペースを導入すると、大半のケースで、窩のセグメントが不可欠ではなくなります。また、TMJのワークスペースを利用すると、窩のセグメントをすることなく、下顎と窩の動的な相互関係についても、評価を行うことができるようになります。



アシスタント機能の **下顎と顎状突起をセグメントする**は、起動時に毎回セグメントの事前計算を実行します。事前計算の時間は、使用するコンピューターの性能によって異なります。



SICAT Function のセグメンテーションは解剖学的輪郭の代わりにエリアで作業します。従って、解剖学的輪郭を正確にトレースする必要はありません。それに代えて、そのエリアの内部にラインを引いて、セグメント化に関するエリアを指定してください。

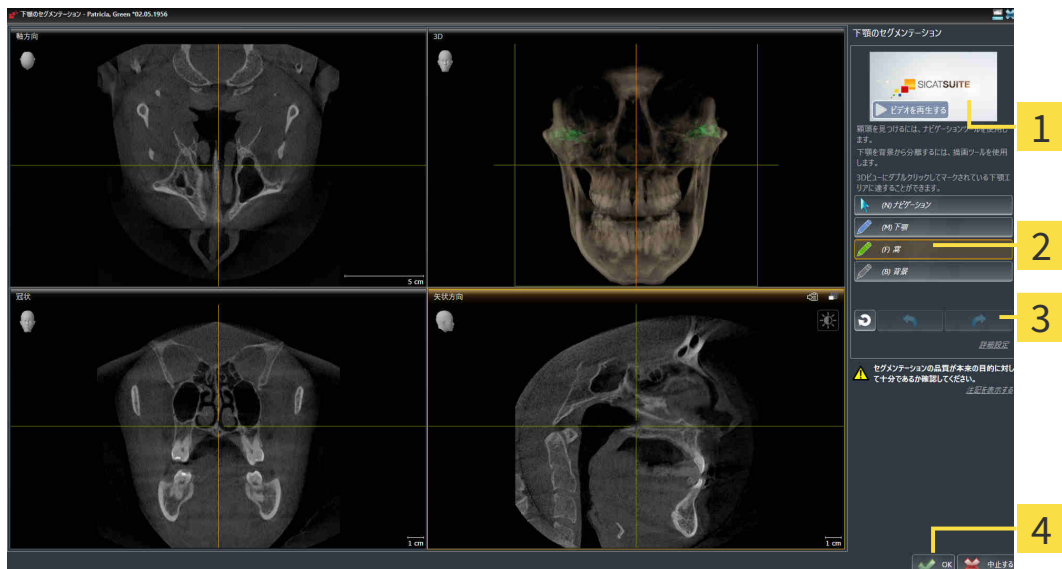
セグメンテーションに関する内容は、[セグメンテーション](#) [▶ ページ 126 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

窩をセグメントするには、次のように行います。

- ☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 63 - SIDEXIS 4]を参照してください。



1. **下顎と顎状突起をセグメントする**のアイコンをクリックします。
▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** が開きます。



1 事例ビデオ

3 ボタンリセットする、ボタン戻す、およびボタン繰り返す

2 エリア 描画ツール

4 ボタン OK

- ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** は、セグメントの事前計算を実行しません。

2. **軸方向ビュー、冠状ビュー、矢状方向ビュー**を下顎と窩が見えるように調整します。



3. 窩のボタンをクリックします。
4. マウスポインタを希望の2Dレイヤービューで窩上に動かします。
 - ▶ マウスポインタはペンになります。
5. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
6. 窩の内側部分でマウスをドラッグします。
 - ▶ SICAT Function に、緑色の線によるマーキングが表示されます。
7. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function はマーキングに従って窩をセグメントします。
8. 補助エリアを窩に追加する場合、ナビゲーションアイコンをクリックし、2Dビュー内で希望の構造に移動し、これらに上記の手順でマークを付けます。
9. セグメンテーションが希望通りの場合、OK ボタンをクリックします。
 - ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** が閉じます。
 - ▶ SICAT Function では、**オブジェクトブラウザ**で、**ボリューム-部位**のオブジェクトを表示します。これに関する情報は *SICAT Function* オブジェクト [[▶ ページ 70 - SIDEXIS 4](#)]を参照してください。

▶ 3Dビューにセグメンテーション結果が表示されます



背景描画ツールは、範囲に背景としてマークを付ける、または半自動セグメンテーションの大き過ぎる範囲を修正する際に使用することができます。

セグメント作業は、後からの時点でも、再開したり、修正したりすることが可能です。



ナビゲーションモードに切り替えると、2Dレイヤービューをスクロールすることができます。

記載されている手順に加え、以下の操作が**下顎と顎状突起をセグメントする**のウィンドウでは、以下の操作を行うことができます。

- **下顎と顎状突起をセグメントする**ウィンドウで使用できます。これに関する情報はショートカットキー [▶ ページ 206 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
- **3Dビュー**で、セグメントしたエリアに含まれる1箇所をダブルクリックすると、すべての**2Dレイヤービュー**で、それに帰属する断層面が表示されます。**SICAT Function**では、さらに、このダブルクリックした箇所に十字線の中心が移動します。この誘導アシストツールを使用すれば、例えば、はみ出た部分を補正したり、穴を塞いだりすることができます。
- セグメンテーションが解剖学的条件と一致している場合、**戻す**ボタンをクリックしてください。
- 取り消した実行アクションを再度行いたい場合は、**繰り返す**ボタンをクリックします。
- すべてのステップを元に戻したいときは、**リセットする**タンをクリックします。
- データセットの事前計算が最適な結果を示さない場合もあります。事前に行った計算で最適な結果が得られないときは、**詳細設定**をクリックして、**背景を自動的に検出**のチェックボックスからチェックマークを外してください。その後、**背景**のツールを利用して、下顎と窩のいずれからも外れた箇所で、1本以上のラインを引いて、エリア指定を行います。
- 下顎頭や下顎骨部分のセグメンテーションを中断する場合、**中止する**をクリックします。



27 光学印象



光学印象は、Sirona 3D X線機器で作成したX線データにのみインポートおよび記録することができます。

SICAT Function 同じ患者1名について、X線撮影画像と光学印象の対応が相互にとれていれば、その両者を同時に表示できます。表示の組み合わせは、分析および診断のための追加情報を提供します。さらに、治療の実施は光学印象をベースにしています。

光学印象を含むデータを SICAT Function で使用するには、次の操作が必要となります。

- 下顎骨の撮影ビューと上顎骨の撮影ビューから構成される光学印象のファイルをインポートする。このファイルには、例えば、Open GALILEOSのライセンスが付属するCERECなどの光学印象システムで採得した光学印象のデータを含めます。
- X線データへの光学印象の記録

SICAT Function は、次の光学印象用ファイルフォーマットに対応しています。

- SIXDファイル（上顎骨の光学印象と下顎骨の光学印象が含まれます）
- SSIファイル（上顎骨の光学印象と下顎骨の光学印象が含まれます）
- 上顎または下顎の光学印象を含むSTLファイル (SICAT Suite STL インポートライセンスが必要です)

次のツールは光学印象に使用することができます。

- [光学印象をインポートし記録する \[▶ ページ 134 - SIDEXIS 4\]](#)
- [他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する \[▶ ページ 142 - SIDEXIS 4\]](#)
- 光学印象のアクティベーション、非表示および表示に関する情報は[オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 66 - SIDEXIS 4\]](#)をご覧ください。
- 光学印象に焦点を当てること、および光学印象を削除することに関する情報は、[オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 68 - SIDEXIS 4\]](#)の節をご覧ください。

STL形式の光学印象はインポートの際に追加の操作が必要です。これに関する情報は[STLフォーマットの光学印象の場合の追加手順 \[▶ ページ 140 - SIDEXIS 4\]](#)を参照してください。

27.1 光学印象をインポートし記録する



3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



不適切な光学印象用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の光学印象データを使用してください。



3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない光学印象データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

患者データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



光学印象データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした光学印象データのインテグリティと品質を確認してください。



光学印象データの品質および正確性が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質および正確性の光学印象データを利用してください。



過度なアーチファクト、不十分な解像度、または記録のための点の欠如は、光学印象の記録に失敗する原因になるおそれがあります。
例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確な記録を可能にする光学印象と3D X線撮影画像のみを使用してください。



互いに一致しない光学印象の記録プロセスでマークを選択すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

光学印象データを記録する場合、3D X線撮影画像と光学印象に一致するマーキングで慎重に選択します。



間違って記録された光学印象データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された光学印象が3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。



これにより、3DX線撮影画像と光学印象が互いに適合しているかどうか確認することができ、アシスタント**光学印象をインポートし記録する**が患者データを常時表示し、設定**匿名にする**を無視します。



光学印象がX線データに正確に配置されているか検査するには、**検査ウィンドウ**を使用することができます。**検査ウィンドウ**を移動し、**検査ウィンドウ**でレイヤーをスクロールすることができます。

光学印象に関する一般的な情報は、**光学印象** [▶ ページ 133 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

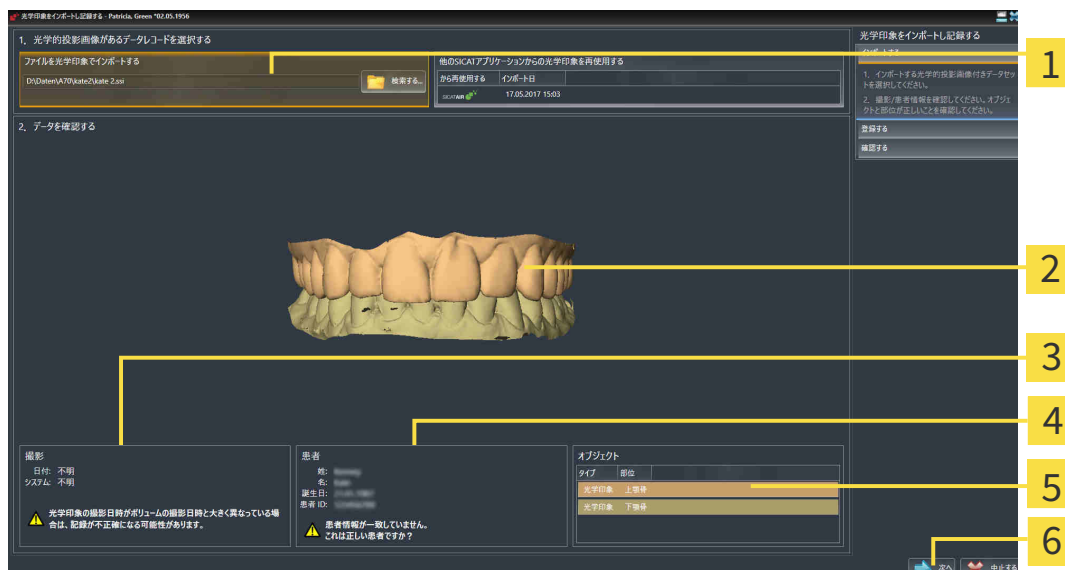
光学印象のインポートおよび記録は、次のように行います。

☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。



1. **光学印象をインポートし記録する**のアイコンをクリックします。
 - ▶ **インポートする**のステップで、アシスタント機能**光学印象をインポートし記録する**が開いています。
2. **検索する**のボタンをクリックします。
 - ▶ **ファイルを光学印象で開く**のウィンドウが開きます。
3. **ファイルを光学印象で開く** ウィンドウで、光学印象を含む任意のファイルに切り替え、ファイルを選択し、**開く**をクリックします。
 - ▶ **ファイルを光学印象で開く** ウィンドウが閉じます。

▶ SICAT Function 選択した光学印象を含むファイルを開きます：



- | | |
|--------------------------------|--------------------|
| 1 エリア ファイルを光学印象でインポートする | 4 患者情報 |
| 2 3D光学印象のビュー | 5 オブジェクトリスト |
| 3 撮影図情報 | 6 ボタン 次へ |

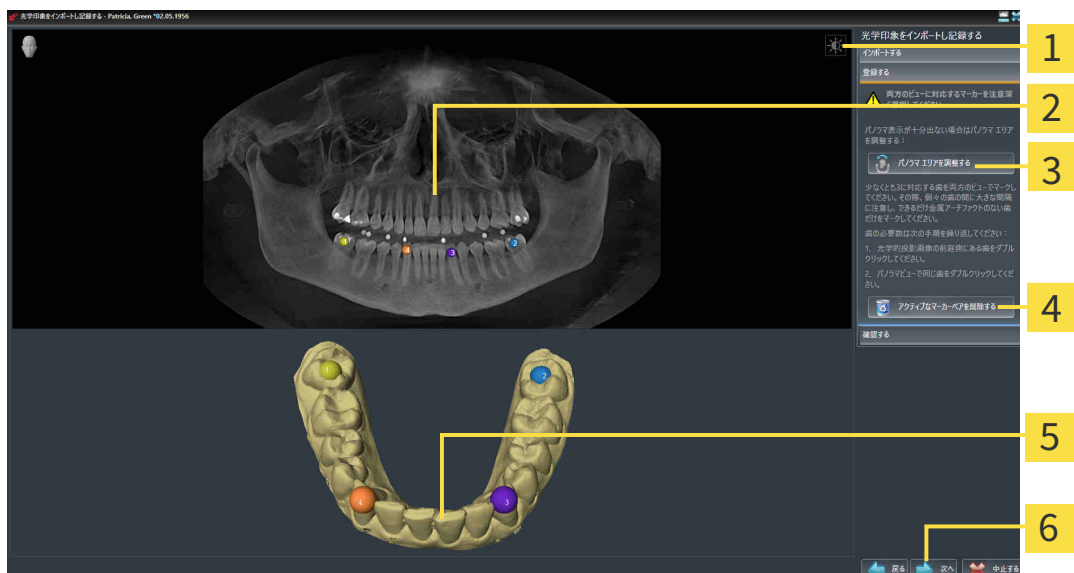
4. 撮影図情報と患者情報を確認してください。
5. オブジェクトと部位が正しいことを確認してください。オブジェクトリストの背景色は3Dビューでのオブジェクトの色に相当します。
6. 次へをクリックします。

- ▶ 3DX線撮影画像内と光学印象内の患者データが一致しない場合、SICAT Functionがウィンドウ異なる患者情報を開きます。



- 7. 患者情報を比較してください。光学印象が現在の患者に合わせて調整されていることを確認したらはいボタンをクリックしてください。

- ▶ 最初の光学印象用に登録するのステップが開きます。



- | | |
|------------------------------|-------------------------------------|
| 1 アイコン 輝度およびコントラストの調整 | 4 ボタン アクティブなマーカーパーを削除する |
| 2 パノラマ-ビュー | 5 3Dビュー (最初の光学印象が表示されま
す) |
| 3 ボタン パノラマエリアを調整する | 6 ボタン 次へ |

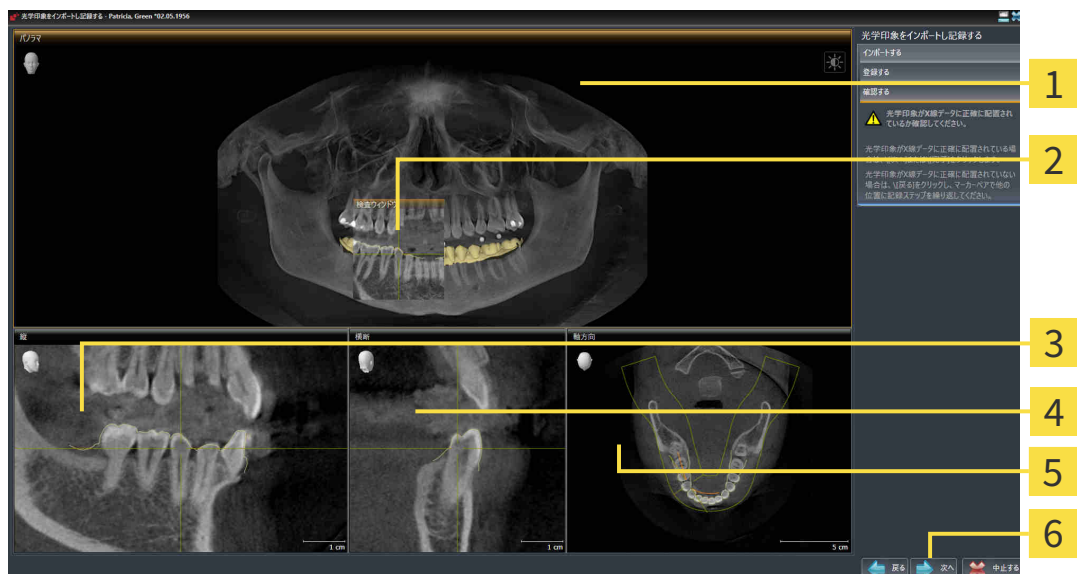
8. 最初の光学印象に関して、**パノラマビュー**と**3Dビュー**の光学印象の前庭側の両方で、同じ歯をダブルクリックします。その際、個々の歯の間に大きな間隔に注意し、金属アーチファクトのない歯だけをマークしてください。両方のビューで一致する歯が3個以上識別表示されるまで、この手順を繰り返します。

- ▶ 両方のビューにある様々な色と番号のマークは、最初の光学印象の割り当てられた歯を示しています。

9. **次へ**をクリックします。

- ▶ SICAT Function は、X線データによる最初の光学印象の記録を計算します。

- ▶ 最初の光学印象用に**確認する**のステップが開きます。



- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 パノラマ-ビュー | 4 横断-ビュー |
| 2 検査ウィンドウ | 5 軸方向-ビュー |
| 3 縦-ビュー | 6 ボタン次へ |

10. 光学印象がX線データに正確に配置されているか2Dレイヤービューを確認してください。レイヤーをスクロールし、表示されている輪郭をチェックしてください。

11. 光学印象がX線データに正確に配置されていない場合、**戻る** ボタンをクリックし、別の位置にあるマーカのペアで **登録する** の手順を繰り返します。

12. 最初の光学印象がX線データに正確に配置されている場合は、**次へ**ボタンをクリックします。

- ▶ 2番目の光学印象用に **登録する** のステップが開きます。

13. 2番目の光学印象に関して、**パノラマビュー**と**3Dビュー**の光学印象の前庭側の両方で、同じ歯をダブルクリックします。その際、個々の歯の間に大きな間隔に注意し、できるだけ金属アーチファクトのない歯だけをマークしてください。両方のビューで一致する歯が3個以上識別表示されるまで、この手順を繰り返します。歯の本数として5本まで指定すれば、取込の精度を向上させることができます。

- ▶ 両方のビューにある様々な色と番号のマークは、2番目の光学印象の割り当てられた歯を示しています。

14. 次へをクリックします。

- ▶ SICAT Function は、X線データによる2番目の光学印象の記録を計算します。
- ▶ 2番目の光学印象用に **確認する** のステップが開きます。

15. 光学印象がX線データに正確に配置されているか2Dレイヤービューを確認してください。レイヤーをスクロールし、表示されている輪郭をチェックしてください。

16. 光学印象がX線データに正確に配置されていない場合、**戻る** ボタンをクリックし、別の位置にあるマーカーのペアで **登録する** の手順を繰り返します。歯の本数として5本まで指定すれば、取込の精度を向上させることができます。

17. 2回目の光学印象がX線データに正確に配置されている場合は、**完了** ボタンをクリックします。

- ▶ アシスタント機能の **光学印象をインポートし記録する** が閉じます。
- ▶ SICAT Function 選択した光学印象を **オブジェクトブラウザ** に追加する
- ▶ SICAT Function に記録されている光学印象が表示されます。

記載されている手順に加え、以下の操作が**光学印象をインポートし記録する**で使用できます。



- アイコン**輝度およびコントラストの調整**をクリックして、2Dビューの輝度およびコントラストを調整することができます。これに関する情報は**2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット** [▶ ページ 86 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- パノラマエリアは、**パノラマエリアを調整する**アイコンをクリックして調整することができます。これに関する情報は**パノラマエリアを調整する** [▶ ページ 114 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- **登録する** で特定のマーカーペアを削除する場合、ペアのマーカーを選択し、**アクティブなマーカーペアを削除する** ボタンをクリックします。
- 光学印象のインポートおよび記録を中断する場合、**中止する**をクリックします。

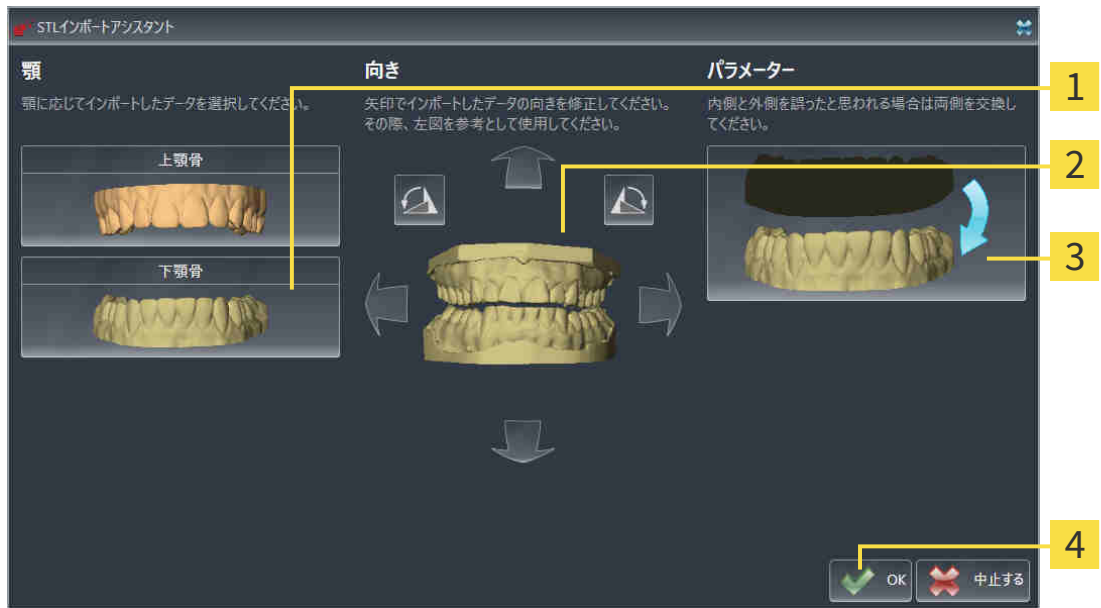
27.2 STLフォーマットの光学印象の場合の追加手順

STLファイルに光学印象の位置と向きに関する情報は含まれていません。そのため、位置と向きを必要に応じて調整する必要があります。

☑ SICAT Suite STL Importライセンスは既に有効化済みです。

1. STL形式のファイルから光学印象を開きます。これに関する情報は**光学印象をインポートし記録する** [▶ ページ 134 - SIDEXIS 4]を参照してください。

▶ ウィンドウ**STLインポートアシスタント**が開きます。



1 顎の選択

3 内側と外側の交換

2 向きの変更

4 ボタン OK

2. **顎**エリアで光学印象が**上顎骨**か**下顎骨**のいずれを含んでいるか、対応するアイコンをクリックして選択してください。



3. 大まかな事前配置のために、**向き**エリアで矢印アイコンまたは回転アイコンをクリックすることで、必要に応じて光学印象の向きを変更してください。

4. **パラメーター**エリアで光学印象表示をクリックすることで、光学印象の内側と外側を必要に応じて交換してください。

5. **OK**のボタンをクリックします。

6. 必要に応じて二つ目のSTLファイルに同様の手順を行ってください。SICAT Function 二つ目のSTFファイルをそれぞれ異なる顎に割り当てます。

▶ SICAT Function にインポートした光学印象**光学印象をインポートし記録する**がアシスタントに表示されます。

7. 光学印象の登録に進みます。これに関する情報は[光学印象をインポートし記録する \[▶ ページ 134 - SIDEXIS 4\]](#)を参照してください。

27.3 他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する



注意

3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



注意

不適切な光学印象用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の光学印象データを使用してください。



注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない光学印象データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

患者データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



注意

光学印象データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした光学印象データのインテグリティと品質を確認してください。



注意

光学印象データの品質および正確性が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質および正確性の光学印象データを利用してください。



注意

間違って記録された光学印象データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された光学印象が3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。



これにより、3DX線撮影画像と光学印象が互いに適合しているかどうか確認することができ、アシスタント光学印象をインポートし記録するが患者データを常時表示し、設定匿名にするを無視します。

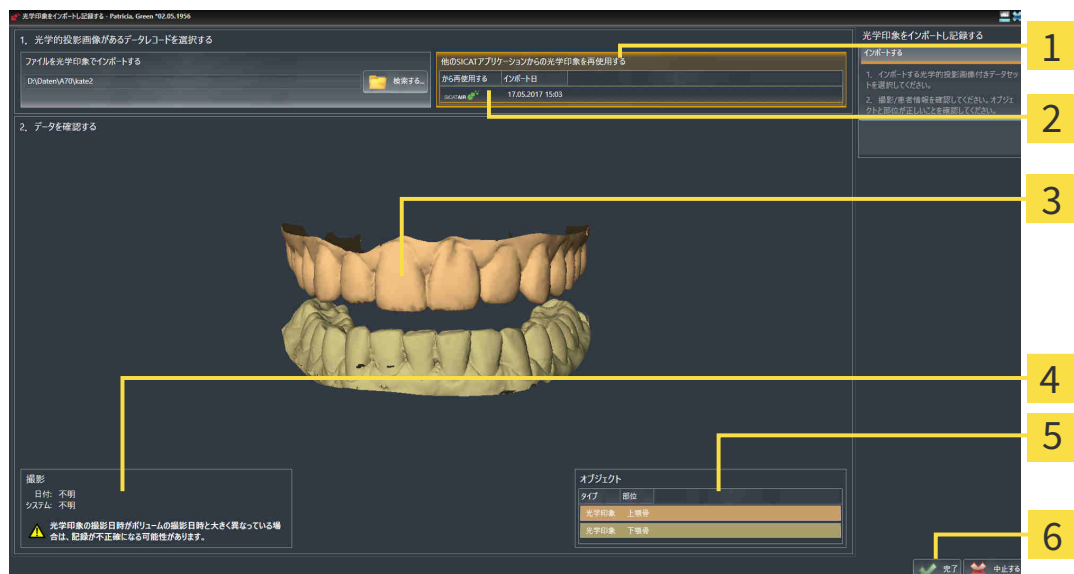
光学印象に関する一般的な情報は、以下の節をご覧ください。 [光学印象](#) [▶ ページ 133 - SIDEXIS 4]。

他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用するには、次のように行います：

- ☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。
- ☑ 開いているスタディのために、光学印象を他のSICATアプリケーションにすでにインポートしましたが、SICAT Functionでまだ使用していません。



1. **光学印象をインポートし記録する**のアイコンをクリックします。
 - ▶ インポートするのステップで、アシスタント機能**光学印象をインポートし記録する**が開いています。
2. **他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する**エリアで希望の光学印象のある行をクリックします。
3. SICAT Function に選択した光学印象が表示されます。



- | | |
|--|------------------------|
| 1 エリア 他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する | 4 撮影図情報 |
| 2 他のSICATアプリケーションからの光学印象のリスト | 5 オブジェクトリスト |
| 3 3D光学印象のビュー | 6 ボタン 完了 |

4. 撮影図情報と患者情報を確認してください。オブジェクトと部位が正しいことを確認してください。オブジェクトリストの背景色は3Dビューでのオブジェクトの色に相当します。

5. **完了**のボタンをクリックします。

- ▶ アシスタント機能の **光学印象をインポートし記録する** が閉じます。
- ▶ SICAT Function 選択した光学印象を**オブジェクトブラウザ**に追加する
- ▶ SICAT Function に選択した光学印象が表示されます。

他のSICATアプリケーションからの光学印象の引き継ぎを中断する場合は、**中止する**をクリックします。

28 解剖学的な咬合

SICAT Function 患者の解剖学的な咬合をビジュアル化できます。すなわち、測定機器で顎運動を記録し、ソフトウェアがその顎運動データと3D X線撮影画像とを同期させます。これを解剖学的な咬合と呼びます。下顎骨をセグメントすると、顎関節に至るまで、患者の顎運動をもれなく再現できます。

SICAT Function 解剖学的な咬合に以下のデータが必要です。

- セグメントされた3D X線撮影データ - これに関する情報は、[セグメンテーション \[▶ ページ 126 - SIDEXIS 4\]](#)の節をご覧ください。
- 記録された顎運動データ - これに関する情報は、[顎運動データ \[▶ ページ 118 - SIDEXIS 4\]](#)の節をご覧ください。

SICAT Function は、光学印象を追加の情報源として利用することができます。例えば、顎を完全に閉じる咬合までの顎運動が、光学印象を利用して解析できます。これに関する情報は[光学印象 \[▶ ページ 133 - SIDEXIS 4\]](#)を参照してください。

これらのツールを使用して、患者の個々の顎運動を判定することができます。

- JMTエリア - この表示に関する内容は、[顎運動と連携する \[▶ ページ 145 - SIDEXIS 4\]](#)の節をご覧ください。JMTエリアでは、動画再生ボタンを押すと、3Dビュー内で、患者の下顎骨の運動を個別に再生できます。さらに、JMTエリアでは、顎運動データをエクスポートできるボタンが用意されています。
- 3D- ビュー-これに関する情報は[3Dビューの調整 \[▶ ページ 95 - SIDEXIS 4\]](#)を参照してください。
- 検査ウィンドウ -これに関する情報は[検査ウィンドウの移動、非表示、表示 \[▶ ページ 91 - SIDEXIS 4\]](#)を参照してください。

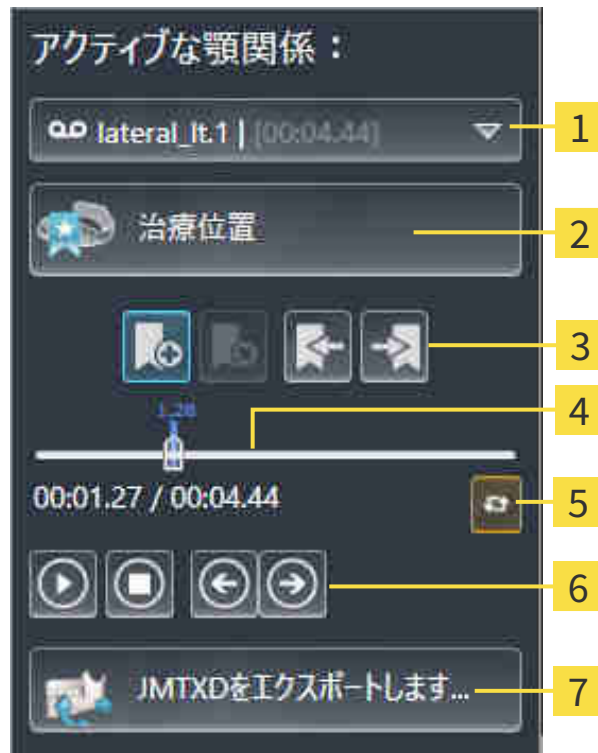
患者の下顎骨の個々の動作を判定するために、2Dレイヤービューで十字線を下顎骨の選択した位置にセットします。SICAT Function その後、3Dのビューには、選択しておいた位置に、その位置に対応する、運動の軌跡が表示されます。これに関する情報は[十字線およびフレームの移動、非表示、表示 \[▶ ページ 90 - SIDEXIS 4\]](#)を参照してください。

また、**検査ウィンドウ**を下顎骨の選択した位置にセットすることもできます。これに関する情報は[3Dビューで運動の軌跡を表示する \[▶ ページ 148 - SIDEXIS 4\]](#)を参照してください。

3Dビューでは、SICAT Functionは、選択した位置がセグメントされた下顎骨上または外側にあるか、様々な色で表示します。これに関する情報は[検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する \[▶ ページ 149 - SIDEXIS 4\]](#)と [レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する \[▶ ページ 150 - SIDEXIS 4\]](#)を参照してください。

28.1 顎運動と連携する

顎運動データを管理するために、SICAT Functionでは、JMTのエリアが用意されています。



1 リスト アクティブな顎関係：

2 ボタン 治療位置

3 ブックマークボタン

4 スライダー付きシークバー

5 アイコン 再生モードを切り替える

6 動画再生ボタン

7 ボタン JMTXDをエクスポートします

JMTエリアでは、これで次の操作を行うことができます。

- 静的な顎関係または顎運動を選択する。
- 顎運動と連携する。
- ブックマークを管理する。
- 治療位置を設定する。これに関する情報は治療位置の設定 [▶ ページ 174 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- 顎運動データをエクスポートする。

静的な顎関係または顎運動を選択する

静的な顎関係や動的な顎関係を選択するには、次の手順で行います。

1. アクティブな顎関係：リストをクリックします。

▶ アクティブな顎関係：リストが開きます。



2. 希望の静的な顎関係または、動的な顎関係を選択します。

▶ アクティブな顎関係：リストが閉じます。



▶ JMTエリアでは、顎の相対関係のうち、選択したものの名称を表示します。

▶ 3Dビューに選択した顎関係が表示されます。

顎運動と連携する

顎運動と連携するには、次のように行います：

☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録 [▶ ページ 120 - SIDEXIS 4] を参照してください。



1. 動画の再生を開始するときは、**開始** アイコンをクリックします。



2. 動画の再生を停止するときは、**停止** アイコンをクリックします。



3. フレームを早送りには、**次に進む** アイコンをクリックします。



4. フレームを巻き戻すには、**前に戻る** アイコンをクリックします。



5. 再生モードをシングルとエンドレスの間で切り替える時は、**再生モードを切り替える** アイコンをクリックします。

6. 時間軸上の位置を手動で変更する時は、JMTエリアのスライダーをクリックし、マウスを動かし、希望の位置でマウスの左ボタンから指を放します。

JMTエリアでブックマークを管理する

JMTエリアでブックマークを管理するには、次の手順で行います。



1. 時間軸上の現在の位置にブックマークを追加するには、**ブックマークを追加**アイコンをクリックします。



2. 時間軸上の現在の位置からブックマークを削除するには、**ブックマークを削除**アイコンをクリックします。



3. スライダーを次のブックマークの位置に移動させるには、**次のブックマークに進む**アイコンをクリックします。



4. スライダーを前のブックマークの位置に移動させるには、**前のブックマークに戻る**アイコンをクリックします。

以下の場合には、ブックマークを削除することができません。

- 治療位置として指定したブックマークがあり、その治療位置に関する注文がカートに入っている場合です。そのブックマークを削除するときは、注文を完了するか、または、注文を削除するかのいずれかを行ってください。
- 削除するために選択したブックマークが、顎の相対関係で、表示中のものにセットしてある場合。そのブックマークを削除するときは、運動の軌跡か、または、静止した状態の顎の相対関係で、該当するものを選択して、**次のブックマークに進む**アイコンをクリックします。

顎運動データをエクスポートします

顎運動データをエクスポートは、次のように行います。

- 顎運動データはすでにインポートされ、記録されています。
- 両顎の光学印象はすでにインポートされ、記録されています。



1. **JMTXDをエクスポートします**のボタンをクリックします。
 - ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。
2. ディレクトリを選択し、必要に応じてファイル名を変更してください。
3. **保存**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function Windowsファイルエクスプローラーウィンドウを閉じます。
 - ▶ SICAT Function 指定したファイルへ顎運動データと光学印象がエクスポートされます（ファイル形式は、JMTXDで、CEREC 4.4やInLab 15で使用できます）。



事前に設定で匿名化をアクティブにすると、顎運動データを匿名でエクスポートすることができます。

28.2 3Dビューで運動の軌跡を表示する

顎運動の軌跡では、動きの3次元推移を下顎骨の各点個別に表示します。従来式のアキシオグラフ装置で描く軌跡と類似しています。運動の軌跡を表示する各点は、軌跡点と呼びます。SICAT Functionでは、軌跡点を任意に選択できます。JMTエリアで患者の個々の運動を選択し、3Dビューで判定することができます。JMTエリアに関する内容は、**顎運動と連携する** [▶ ページ 145 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。

運動経路を3Dビューに表示させるには、次の手順を実行する必要があります。

- 3D X線撮影画像を含む顎運動データを記録します。これに関する情報は、**顎運動データ** [▶ ページ 118 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。
- セグメントされた3D X線撮影画像 - これに関する情報は、**セグメンテーション** [▶ ページ 126 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。

顎運動データをインポートし、3D X線撮影画像を3セグメントした後、3Dビューは、次に3D X線撮影図の元の関係を示します。撮影された動作を選択すると、3Dビューに運動経路が表示されます。

SICAT Function 様々な色によって運動経路の位置を識別表示します。

- SICAT Functionでは、運動の軌跡が患者の下顎骨上にあるときは、この軌跡を緑色で表示します。
- SICAT Functionでは、運動の軌跡が患者の下顎骨上にないときは、この軌跡を赤色で表示します。

解剖学的運動経路は、患者の下顎骨上にセットすることができます。これに関する情報は**検査ウインドウにより運動の軌跡を調整する** [▶ ページ 149 - *SIDEXIS 4*]と**レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する** [▶ ページ 150 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

3Dビューの表示タイプを選択し、これを需要に応じて調整することができます。これに関する情報は**3Dビューの調整** [▶ ページ 95 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

軌跡点は、異なる3点を結んで表示させることができます。これに関する情報は**Bonwillの三角を利用する** [▶ ページ 154 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

セグメントした部分の境界線は、表示したり隠したりの切替ができます。これに関する情報は**セグメンテーション限度の表示** [▶ ページ 155 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

顎運動は、下顎頭を中心にして表示させることができますこれに関する情報は**下顎頭を中心に顎運動を表示する** [▶ ページ 156 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

28.3 検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する

下顎骨全体で患者の顎運動を個別に解析する目的で、**検査ウィンドウ**を利用するには、次の手順で行います：

- ☑ **パノラマワークスペース**はすでにアクティブです。これに関する情報は**アクティブなワークスペースを切り替える** [▶ ページ 78 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
- ☑ **パノラマ画像**を作業対象として選択しておきます。これに関する情報は**アクティブなビューの切り替え** [▶ ページ 84 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
- ☑ **検査ウィンドウ**は、隠さず表示しておきます。これに関する情報は**検査ウィンドウの移動、非表示、表示** [▶ ページ 91 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

- **検査ウィンドウ**を希望の部位に動かします。



- ▶ SICAT Function 運動経路の位置を**3Dビュー**で**検査ウィンドウ**の位置に応じて更新します。その時点で最新の軌跡点は、検査ウィンドウの十字線で囲まれています。

- ▶ 運動経路は新しい位置にあります。

軌跡点が患者の下顎骨を外れた箇所にあるときは、運動経路を患者の下顎骨上に位置決めすることが可能です。これに関する情報は**レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する** [▶ ページ 150 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

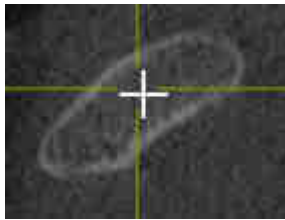


検査ウィンドウを直ちに希望の解剖学的部位に移動させるには、**パノラマビュー**で希望の位置をダブルクリックします。

28.4 レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する

下顎骨全体で患者の顎運動を個別に解析する目的で、十字線を利用するには、次の手順で行います：

- ☑ 十字線は現在2Dレイヤービューに表示されています。これに関する情報は *十字線およびフレームの移動、非表示、表示* [▶ ページ 90 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- 1. 任意の2Dレイヤービューをアクティブにします。これに関する情報は *アクティブなビューの切り替え* [▶ ページ 84 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- 2. 十字線を希望の解剖学的部位に動かします。これに関する情報は *十字線およびフレームの移動、非表示、表示* [▶ ページ 90 - SIDEXIS 4]を参照してください。



▶ SICAT Function 運動経路の位置を3Dビューで十字線の位置に更新します。



3Dビューでは、SICAT Functionは患者の下顎骨以外の位置を選択すると、運動経路を赤色で識別表示します。

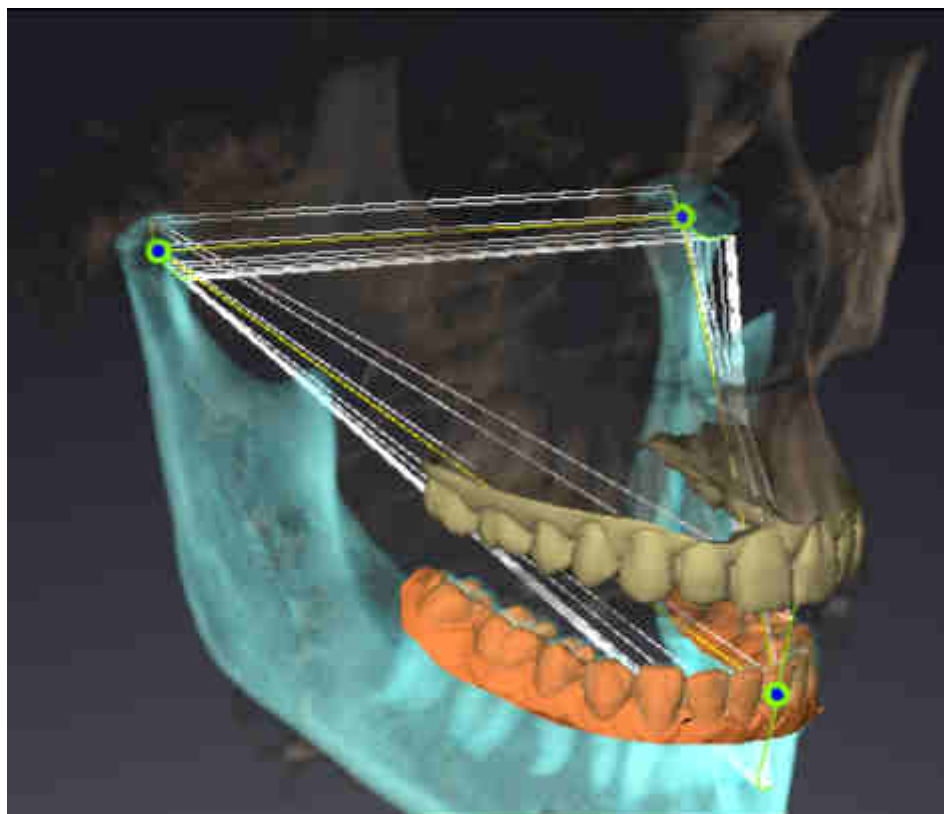


十字線をすぐにマウスポインタの位置へ移動させる場合、2Dビューでダブルクリックすることができます。

29 TMJワークスペースの各種機能

TMJワークスペースは、顎関節機能障害の診断と治療計画の立案を行うときに役立ちます。TMJワークスペースでは、形態と運動の面から、顎関節を左側と右側とで互いに比較できます。

TMJワークスペースでは、1つの顎運動ごとで3種類の異なる、運動経路を表示できます。



- 左側の下顎頭の軌跡
- 右側の下顎頭の軌跡
- 咬合上にある1点の軌跡。例えば、上下顎中切歯の交点

TMJワークスペースのレイヤービューでは、左側と右側のそれぞれについて、下顎頭の軌跡点を移動させることができます。これに関する情報は軌跡点を移動する [▶ ページ 152 - SIDEXIS 4]を参照してください。

3Dビューでは、ダブルクリックにより、上下顎中切歯の交点の軌跡点をセットできます。これに関する情報は上下顎中切歯の交点をセットする [▶ ページ 153 - SIDEXIS 4]を参照してください。

患者の解剖学的咬合について、個別に所見の検討を行うにあたっては、TMJワークスペースにオプションとして追加されているアイテムがいくらかあります。これに関する情報はセグメンテーション限度の表示 [▶ ページ 155 - SIDEXIS 4]、下顎頭を中心に顎運動を表示する [▶ ページ 156 - SIDEXIS 4]と Bonwillの三角を利用する [▶ ページ 154 - SIDEXIS 4]を参照してください。同様に Bonwillの三角は咬合器値の読み取りに使用できます。これに関する情報は咬合器値 [▶ ページ 157 - SIDEXIS 4]を参照してください。

29.1 軌跡点を移動する

SICAT Function では、下顎頭の左側と右側とで互いに対応する軌跡点の軌跡を同時に表示します。この軌跡を利用すると、顎関節の運動全体を左右相互で比較することができます。

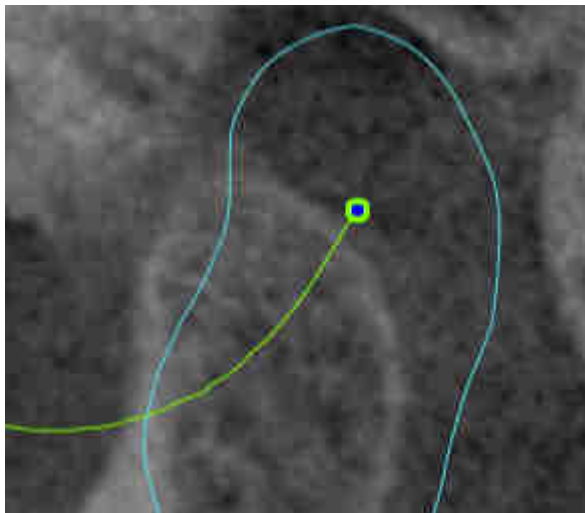
レイヤービューで、下顎頭の左側と右側の各軌跡点を移動させるには、次の手順で行います。

☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。**TMJワークスペース**に関する一般的な情報は、**TMJワークスペースの各種機能** [▶ ページ 151 - *SIDEXIS 4*]と**TMJワークスペースに関する概要** [▶ ページ 75 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。

☑ 既に動的顎関係が選択されています。

1. マウスポインタを希望の軌跡点上に動かします。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタをご希望の軌跡点の位置に動かします。
4. マウスの左ボタンを放します。

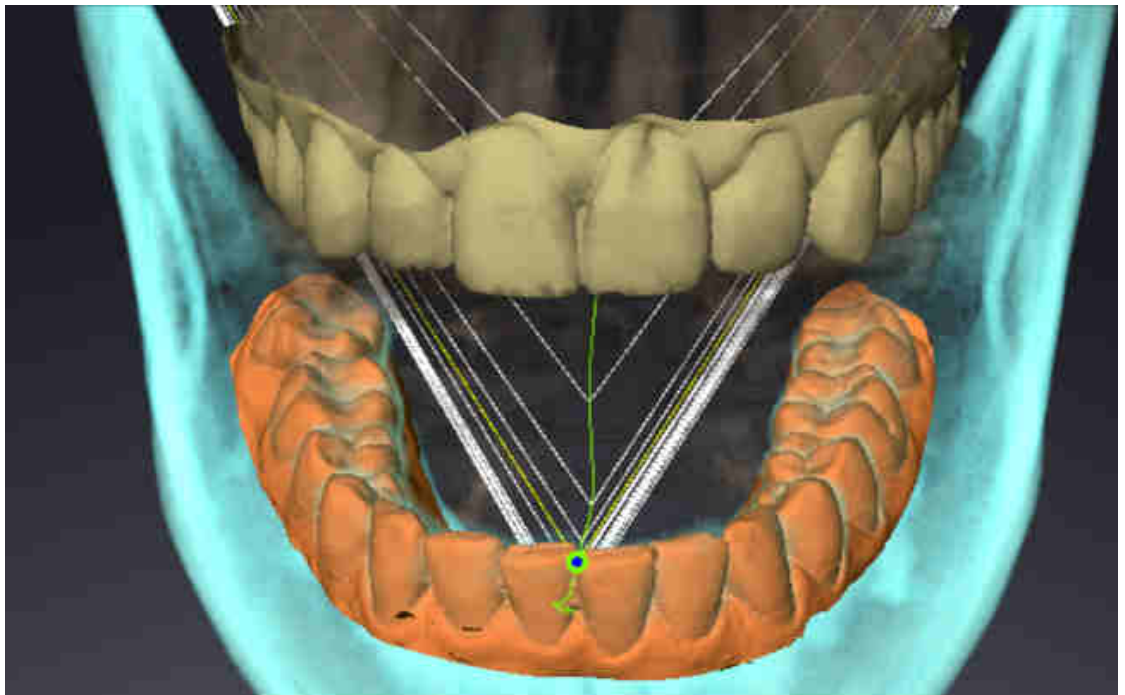
▶ SICAT Function レイヤービューで、選択しておいた位置へ下顎頭の左側と右側の各軌跡点が移動します。



29.2 上下顎中切歯の交点をセットする

3Dビューで、上下顎中切歯の交点をセットするには、次の手順で行います。

- ☑ TMJワークスペースはすでに開いています。TMJワークスペースに関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能* [▶ ページ 151 - *SIDEXIS 4*]と*TMJワークスペースに関する概要* [▶ ページ 75 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。
- ☑ 既に動的顎関係が選択されています。
 - 3Dビューでマウスポインタをお好みの位置に重ねたら、左マウスボタンをダブルクリックします。
 - ▶ SICAT Function では、光学印象上で選択した位置を軌跡点として利用します。



上下顎中切歯の交点を正面から見ると、下顎の側方運動が識別できてより詳細な観察が可能になります。

29.3 BONWILLの三角を利用する

BONWILLの三角を表示する

SICAT Functionでは、**Bonwillの三角**により、3点の軌跡点を結んで表示します。顎運動に非対称性や急激な変動があれば、この表示により、それらがより特定しやすくなります。

Bonwillの三角を表示するには、次の手順で行います：

- ☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。**TMJワークスペース**に関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能* [▶ ページ 151 - *SIDEXIS 4*]と *TMJワークスペースに関する概要* [▶ ページ 75 - *SIDEXIS 4*]の節をご覧ください。
- ☑ 既に動的顎関係が選択されています。
 - オブジェクトブラウザで、**顎運動データ**をクリックします。
 - ▶ SICAT Function **プロパティ**の下に**Bonwillの三角**を表示します。



BONWILLの三角の構成設定を行う

Bonwillの三角の表示個数を設定するには、次の手順で行います。

1. オブジェクトブラウザで、**顎運動データ**をクリックします。
 2. **プロパティ** エリアにある**ステップ幅**横の上下矢印キーのいずれかをクリックします。
- ▶ SICAT Function では、**ステップ幅**のボックスの数値が切り替わります。
 - ▶ 3Dビューでは、選択した個数でBonwillの三角が表示されます。



上記の個数は、顎運動に非対称性があったときに、それが検出しやすくなる数値に設定してください。

29.4 セグメンテーション限度の表示

セグメンテーション限度の表示ようにしておく、セグメント化の質を3D X線撮影画像と比較することができます。セグメントした部分の境界線が3D X線撮影画像と異なるときは、**下顎と顎状突起をセグメントする**のウィンドウで、セグメントした部分を修正することができます。

青色の輪郭線は、現時点での運動に基づく下顎頭の位置を表示します。そのため、通常、この青色の輪郭線が3D X線撮影画像と重なって一致することはなく、セグメントの質をチェックする目的には、適切ではありません。代わりに黄色い輪郭をセグメンテーション限度のチェックに使用してください。

セグメンテーション限度の表示には、次の手順で行います。

- ☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。**TMJワークスペース**に関する一般的な情報は、以下の節をご覧ください。 *TMJワークスペースの各種機能* [▶ ページ 151 - SIDEXIS 4] および *TMJワークスペースに関する概要* [▶ ページ 75 - SIDEXIS 4]。

- ☑ 既に動的または静的顎関係を選択しています。

1. オブジェクトブラウザで、ボリューム-部位をクリックします。

- ▶ SICAT Function プロパティに、**セグメンテーション限度の表示**のオプションが表示されます：



2. セグメンテーション限度の表示のオプションで、スライダーをオンの位置に移動させます。

- ▶ 2Dビューでは、セグメントした部分の境界線を黄色の輪郭で表示します。

SICAT Function 咬合でセグメントした位置を色違いで識別表示します。

- SICAT Functionでは、セグメントした位置にあって運動中の下顎頭を青色で識別表示します。
- 3D X線撮影画像の元来のセグメンテーションはSICAT Functionをチェックラインで表示します。SICAT Function チェックラインを黄色で識別表示します。

29.5 下顎頭を中心に顎運動を表示する

下顎を中心とする顎運動を利用すると、運動する下顎頭を窩との相対関係で表示することができます。下顎を中心とする顎運動を起動すると、TMJのレイヤービューで顎運動が開始して終了するまでの間、下顎にある点のすべてをワークスペースに表示させることができます。下顎を中心とする顎運動を停止すると、TMJのレイヤービューで顎運動が開始して終了するまでの間、窩にある点のすべてをワークスペースに表示させることができます。

下顎を中心とする顎運動を表示するには、次の手順で行います。

☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。**TMJワークスペース**に関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能* [▶ ページ 151 - SIDEXIS 4]と *TMJワークスペースに関する概要* [▶ ページ 75 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

☑ 既に動的または静的顎関係を選択しています。

1. **オブジェクトブラウザ**で、**ボリューム**部位をクリックします。

▶ **SICAT Function プロパティ**に、**顎状突起中心の動作**のオプションが表示されます：



2. **顎状突起中心の動作**のオプションで、スライダーを**オン**の位置に移動させます。

▶ **3Dビュー**で、下顎を中心とする顎運動を表示します。

30 咬合器値



注意

誤ったボリュームの配置や切歯点の固定は、誤った診断および治療につながるおそれがあります。

1. 3DX線撮影画像の方向が上顎骨の咬合平面が軸レイヤーと平行になるようになっているか確認してください。
2. 患者の歯が上顎骨と下顎骨の咬合平面が一致する咬合状態にある顎関係を選択していることを確認してください。
3. 切歯点がソフトウェア内で下顎中切歯間の解剖学的に正しい位置に設置されているか確認してください。



注意

正確性に欠けるボンウィル三角の定義は間違った診断および治療につながるおそれがあります。

1. 正確な解剖学的指標に応じたボンウィル三角の定義を採用したことを確認してください。
2. ボンウィル三角の定義が本来の使用目的に対して適切かどうか確認してください。



注意

不適切な顎運動データの使用は誤った蝶番軸の算出につながるおそれがあります。

蝶番軸の算出には実際の開口運動または閉口運動を使用してください。

SICAT Function 患者固有の咬合器値を決定する際、サポートします。咬合器上の値を送信することにより、個別修復を構成し、完了することができます。現時点では咬合平面を基準平面として使用する咬合器のパラメータの決定は最適化されています。

咬合平面を基準平面として使用する咬合器の例はCEREC-Software (Dentsply Sirona)の仮想咬合器です。CEREC咬合器を個々の値を使ってプログラムする手順はCERECの取扱説明書をご覧ください。

必要な顎運動データ

最大の咬合器値を顎運動の記録を基に決定することができます。値を決定するには特定の種類の顎運動データが必要です。

咬合器値	必要な顎運動データ
左右の顎関節の矢状顎路角	突起
左右のベネット角および左右の即時切替	左右のラテロトルージョン
蝶番軸	実際の開口運動または閉口運動

CEREC咬合器用の値

SICAT Functionを使用してCEREC咬合器用の以下の値を決定することができます。

CEREC咬合器のパラメータ	説明
辺	辺とは下顎中切歯間の左または右の下顎頭から切歯点までの距離です。SICAT Function ボンウィル三角の辺の長さを直接示します。
基準	基準は左右の下顎頭間の距離です（下顎頭間距離）。SICAT Function ボンウィル三角の基準の長さを直接示します。
バルクウィル角	バルクウィル角は咬合平面とボンウィル三角の間の角です。SICAT Function ボンウィル三角でバルクウィル角を直接示します。
左右の矢状顎路角	矢状顎路角は左の突起部または右の下顎頭と咬合平面の間の角です。この角をTMJワークスペースの矢状ビューで突起部を使って測定することができます。3DX線撮影画像が上顎骨の咬合平面に対して水平方向を向いていることを確認してください。この点についてボリュームの配置についての安全指示に必ず留意してください。左右の顎関節の突起部と水平面の間の角を測定してください。
左右のベネット角	ベネット角は突起部運動とラテロトルージョンの間の角です。この角をTMJワークスペースの軸方向ビューでラテロトルージョンを使って右側および左側で測定することができます。3DX線撮影データが上顎骨の咬合平面に対して水平方向を向いていることを確認してください。この点についてボリュームの配置についての安全指示に必ず留意してください。ラテロトルージョン突起と矢状平面の間の角を測定してください。
左右の即時切替	

3DX線撮影画像における視認可能な下顎頭

咬合器値は主に顎運動の記録をもとに決定することができます。下顎頭間距離（CEREC咬合器でのボンウィル三角の「基準」長さ）を顎運動データのみで決定することはできません。

3DX線撮影画像で顎関節が見えない場合、ボンウィル三角の「基準」辺長さを蝶番軸を使って決定することができます。蝶番軸は実際の開口または閉口運動から決定することができます。その際に重要なのは下顎骨は純粋な回転運動を行い、前進はしないことです。

ただし、下顎頭間距離は3DX線撮影画像から決定することができます。どの咬合器値にどの顎運動データが必要かは以下の表を参照してください。

	下顎頭が3DX線撮影画像で視認可能	下顎頭が3DX線撮影画像で視認不可能
原因	<ul style="list-style-type: none"> 大きなField of View (FOV)付の3DX線撮影用のX線装置を持っています。 	<p>小さなField of View (FOV)付の3DX線撮影用のX線装置を持っています。</p> <p>石膏模型の3DX線撮影画像を作成しました。</p>
結果	3DX線撮影画像では下顎頭に左右のトレースポイントを配置することができます。	3DX線撮影画像では下顎頭に左右のトレースポイントを配置することができません。
必要な手順	<p>TMJワークスペースのレイヤービューに左右のトレースポイントを配置してください。その際、3DX線撮影画像内で下顎頭の位置を参照してください。</p>	<p>蝶番軸の算出には実際の開口運動または閉口運動の画像が必要です。患者が顎を数ミリメートル開けるか閉めるかすること、およびお客様が下顎骨が前進しないように下顎頭をLauritzenグリップまたはDawsonグリップで操作することにより、実際の開口運動または閉口運動の特徴が決まります。</p> <p>SICAT Function 両方のトレースポイントが顎関節の蝶番軸上に来るように左右のトレースポイントを配置します。</p>

ボンウィル三角 SICAT FUNCTION

以下の咬合器値を決定する際、SICAT Function内でボンウィル三角をサポートしてください。

- 左右の辺 [mm]
- 基準 [mm]
- バルクウィル角 [°]

ボンウィル三角の3つの頂点が正確に配置されている必要があります。

- 左トレースポイント
- 右トレースポイント
- 切歯点

TMJワークスペース内で3Dビューで解剖学的に正確な点をダブルクリックすることで、切歯点を配置することができます。下顎頭が3DX線撮影画像内で見えるかどうかによって左右両方のトレースポイントが異なる配置になるかどうかが決まります。

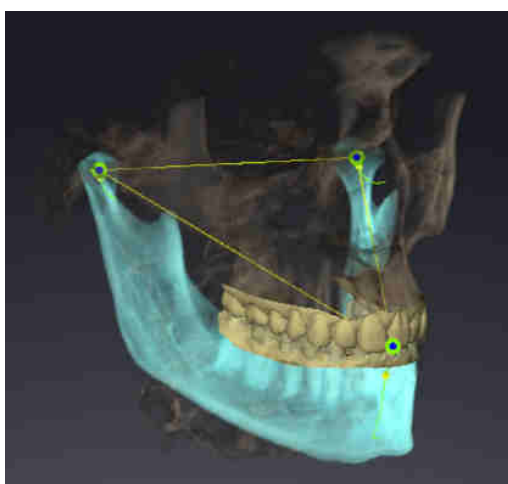
咬合器値を読み取る手順は、下顎頭が視認可能な時に咬合器値を読み込む [▶ ページ 161 - SIDEXIS 4]、または下顎頭が視認不可能な時に咬合器値を読み込む [▶ ページ 163 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

30.1 下顎頭が視認可能な時に咬合器値を読み込む

下顎頭が視認可能な場合のボンウィル三角の設定

以下の手順にはTMJワークスペース内でレイヤービューを使用してください。

1. 左右いずれかのトレースポイントをクリックし、マウスの左ボタンを押したまま各下顎頭にトレースポイントを配置します。
2. 解剖学的に正確な位置をダブルクリックして下顎の切歯間に切歯点を配置します。下顎骨の切歯間に切歯点が見えない場合は開口運動を選択し、顎を少しだけ開いてください。顎運動データ内で特定の位置を選択する方法に関する情報は顎運動と連携する [▶ ページ 145 - SIDEXIS 4] を参照してください。



スクリーンショットは3DX線撮影画像を大きなField of View (FOV) で示します。その中にはボンウィル三角が患者の解剖学的構造と整合しています。下顎頭が視認可能です。左右のトレースポイントは視認可能な下顎頭の中央に配置されています。SICAT昨日内の切歯点の下顎骨切歯間の中央に配置されています。



SICAT機能はボンウィル三角の辺の長さをmm単位で表示します。咬合器に対して直接値を記録することができます。SICAT機能が同様にバルクウィル角を表示します。バルクウィル角は閉じた顎に対してのみ適用されます。

下顎頭が可視の場合の咬合器値の決定

咬合器値を決定するには、次のように行います。

- ☑ 上顎骨の咬合平面が水平に向き、顎が正中矢状面に対して可能な限り対称になるように3DX線撮影画像の位置を調整済みです。正確なデータを収集し、咬合器に転送するには、正確な調整が必要です。これに関する情報はボリュームの配置およびパノラマエリア [▶ ページ 106 - SIDEXIS 4] を参照してください。
- ☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は顎運動データ [▶ ページ 118 - SIDEXIS 4] を参照してください。
- ☑ TMJワークスペースはすでに開いています。これに関する情報はTMJワークスペースに関する概要 [▶ ページ 75 - SIDEXIS 4] を参照してください。

☑ リスト **アクティブな顎関係**：で既に動的顎関係が選択されています。これに関する情報は**顎運動と連携する** [▶ ページ 145 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

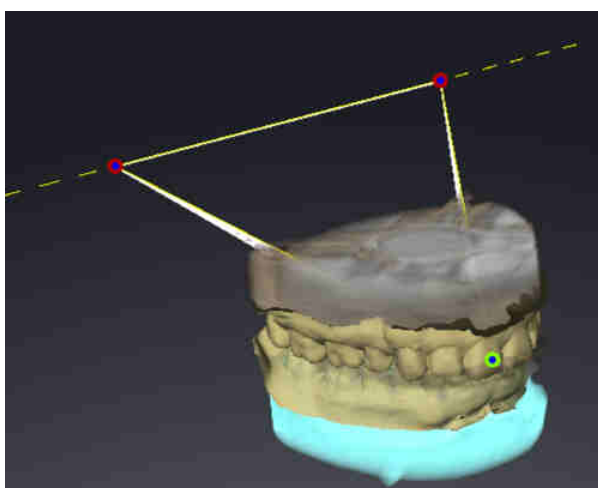
1. **オブジェクトブラウザ**でオブジェクト **顎運動データ**を選択します。
▶ **プロパティエリア**にSICAT Functionボンウィル三角が表示されます。
2. セグメンテーションされた下顎上で解剖学的に正確な位置または光学印象をダブルクリックして**3Dビュー**で下顎中切歯間に切歯点をセットします。下顎から切歯までの切歯点が隠れている場合、下顎から切歯までが表示されるまで、顎の運動を再開して開きます。ダブルクリックで切歯点を配置し、顎を再び閉じてください。
3. トレースポイントを冠状、矢状、および事項方向に動かして下顎頭の中央に左右のトレースポイントをセットしてください。
4. 辺の長さが対称であることを確認してください。
5. 基準値、辺の値（これらの値は両側で同じです）およびバルクウィル角を記録しておきます。
6. 選択した突起部運動の際は顎が閉じている時点を選択してください。顎運動データ内で特定の位置を選択する方法に関する情報は**顎運動と連携する** [▶ ページ 145 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
7. 歯がしっかり閉じていることを確認してください。
8. ツール**角度測定を追加する(A)**を使って矢状ビューで左右の顎関節での下顎頭の傾きを測定してください。値を記録しておきます。
9. 左へのラテロトルージョンを選択してください。ツール**角度測定を追加する(A)**を使って軸方向ビューで右の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。
10. もしある場合は、右の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。
11. 右へのラテロトルージョンを選択してください。ツール**角度測定を追加する(A)**を使って軸方向ビューで左の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。
12. もしある場合は、左の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。

30.2 下顎頭が視認不可能な時に咬合器値を読み込む

下顎頭が視認不可能な場合のボンウィル三角の設定

手順は次の通りです。

1. リストアクティブな顎関係：から実際の開口または閉口運動を選択します。
2. **軸を計算する**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function 3Dビューで算出された軸を破線で示します。SICAT Function TMJワークスペースで両方のトレースポイントが算出された蝶番軸上に来るように、左のトレースポイントと右のトレースポイントを自動的に配置します。
 - ▶ オブジェクトブラウザで **顎運動データ**オブジェクトを選択すると、SICAT Functionが算出された軸を **プロパティ**エリアに表示します。



スクリーンショットは例として下顎頭が見えない石膏模型のスキャンを示しています。蝶番軸は実際の開口運動から決定されました。破線は算出された軸を意味しています。SICAT機能は自動的に左右のトレースポイントを両方が算出された軸上に来るように配置します。SICAT機能内の切歯点が下顎骨切歯間の中央に配置されています。



SICAT機能はボンウィル三角の辺の長さをmm単位で表示します。咬合器に対して直接値を記録することができます。SICAT機能が同様にバルクウィル角を表示します。バルクウィル角は閉じた顎に対してのみ適用されます。

下顎頭が不可視の場合の咬合器値の決定

咬合器値を決定するには、次のように行います。

- ☑ 上顎骨の咬合平面が水平に向き、顎が正中矢状面に対して可能な限り対称になるように3DX線撮影画像の位置を調整済みです。正確なデータを収集し、咬合器に転送するには、正確な調整が必要です。これに関する情報は**ボリュームの配置およびパノラマエリア** [▶ ページ 106 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
- ☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は**顎運動データ** [▶ ページ 118 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
- ☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。これに関する情報は**TMJワークスペースに関する概要** [▶ ページ 75 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
- ☑ リスト **アクティブな顎関係**：で既に動的顎関係が選択されています。これに関する情報は**顎運動と連携する** [▶ ページ 145 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。

1. **オブジェクトブラウザ**でオブジェクト **顎運動データ**を選択します。
 - ▶ **プロパティ**エリアに**SICAT Function**ボンウィル三角が表示されます。
2. セグメンテーションされた下顎上で解剖学的に正確な位置または光学印象をダブルクリックして**3Dビュー**で下顎中切歯間に切歯点をセットします。下顎から切歯までの切歯点が隠れている場合、下顎から切歯までが表示されるまで、顎の運動を再開して開きます。ダブルクリックで切歯点を配置し、顎を再度閉じます。
3. リスト**アクティブな顎関係**：から実際の開口または閉口運動を選択します。
4. **プロパティ**のコーナーで、**軸を計算する**のボタンをクリックします。必要に応じて基準の長さを100mmの平均値にセットします。
5. 辺の長さが対称であることを確認してください。
6. **オブジェクトブラウザ**でオブジェクト **顎運動データ**を選択します。
 - ▶ **SICAT Function** **プロパティ**エリアに基準、辺、およびバルクウィル角用の値を表示します。
7. 基準値、辺の値(咬合器のプログラミングのため、左右両方の値が等しくなければなりません)とバルクウィル角を記録しておきます。
8. 突起部運動を選択します。突起部運動の際は顎が閉じている時点を選択してください。顎運動データ内で特定の位置を選択する方法に関する情報は**顎運動と連携する** [▶ ページ 145 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
9. 歯がしっかり閉じていることを確認してください。
10. ツール**角度測定を追加する(A)**を使って矢状ビューで左右の顎関節での下顎頭の傾きを測定してください。値を記録しておきます。
11. 左へのラテロトルージョンを選択してください。ツール**角度測定を追加する(A)**を使って軸方向ビューで右の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。

12. もしある場合は、右の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。
13. 右へのラテロトルージョンを選択してください。ツール**角度測定を追加する(A)**を使って軸方向ビューで左の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。
14. もしある場合は、左の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。

31 距離/角度測定

SICAT Functionには2種類の測定タイプがあります：



- 距離測定



- 角度測定

測定を追加するツールは、ワークフローのツールバーの**診断する**に記載されています。すべての2Dレイヤービューに測定を追加することができます。測定を追加する度に、SICAT Functionはその測定を**測定**のグループオブジェクトブラウザにも追加します。

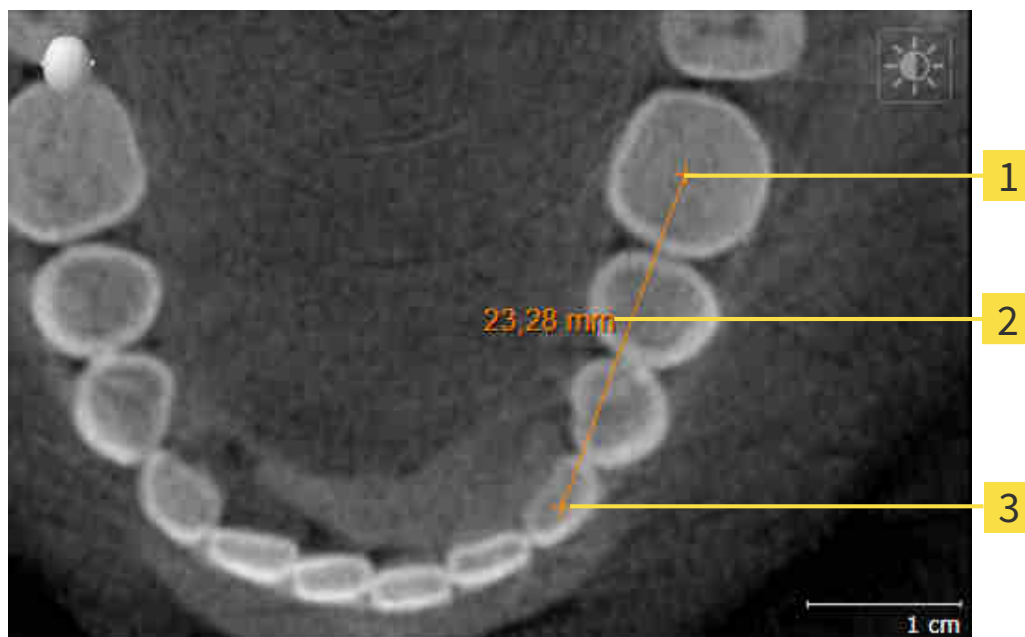


検査ウィンドウには、測定対象のオブジェクトを追加できません。

測定に使用できる操作：

- **距離測定を追加する** [▶ ページ 167 - SIDEXIS 4]
- **角度測定を追加する** [▶ ページ 168 - SIDEXIS 4]
- **測定、個々の測定ポイント、測定値を移動する** [▶ ページ 170 - SIDEXIS 4]
- 測定のアクティベーション、非表示および表示に関する情報は**オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理** [▶ ページ 66 - SIDEXIS 4]をご覧ください。
- 測定に焦点を当てる、測定を削除する、測定操作を元に戻して再度実行する手順に関する情報は、**オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理** [▶ ページ 68 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

31.1 距離測定を追加する



1 始点

2 測定値

3 終点

距離測定を追加するには、次の手順で行います。

☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。

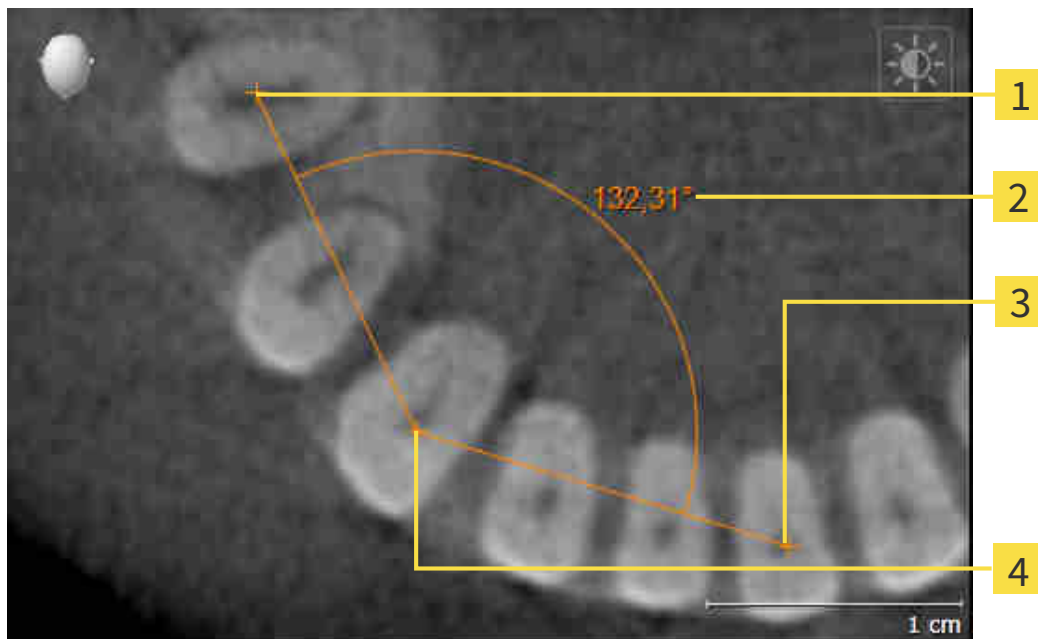


1. ワークフローステップ **診断する** で **距離測定を追加する(D)** アイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function 新しい距離測定を**オブジェクトブラウザ**に追加します。
2. マウスポインタを希望の2Dレイヤビュー上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
3. 距離測定の始点をクリックします。
 - ▶ SICAT Function は小さい十字で始点を表します。
 - ▶ SICAT Function は始点とマウスポインタ間に距離線を表示します。
 - ▶ SICAT Function 距離線の中央および **オブジェクトブラウザ**に始点とマウスポインタ間の現在の距離を表示します。
4. マウスポインタを距離測定の終点に移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は小さい十字で終点を表します。



測定の追加は、**ESC**を押すことによっていつでも中断することができます。

31.2 角度測定を追加する



- 1** 始点
- 2** 測定値
- 3** 終点
- 4** 頂点

角度測定を追加するには、次の手順で行います。

☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。



1. ワークフローステップ **診断する** で **角度測定を追加する(A)** アイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function 新しい角度測定を**オブジェクトブラウザ**に追加します。
2. マウスポインタを希望の2Dレイヤビュー上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
3. 角度測定の始点をクリックします。
 - ▶ SICAT Function は小さい十字で始点を表します。
 - ▶ SICAT Function は、角度測定の1本目の辺を始点からマウスポインタまでの線で表します。
4. マウスポインタを角度測定の頂点に移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は小さい十字で頂点を表します。
 - ▶ SICAT Function は、角度測定の2本目の辺を頂点からマウスポインタまでの線で表します。

- ▶ SICAT Function 角度測定 of 2 つの頂点の間およびオブジェクトブラウザに現在の角度を表示します。

5. マウスポインタを2本目の辺の終点に移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。

- ▶ SICAT Function は小さい十字で終点を表します。



測定の追加は、**ESC**を押すことによっていつでも中断することができます。

31.3 測定、個々の測定ポイント、測定値を移動する

測定を移動する

測定を移動させるには、次の手順で行います。

☑ SICAT Function はすでに希望の測定をいずれかの2Dレイヤービューに表示しています。これに関する情報は[オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 66 - SIDEXIS 4\]](#)と [オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 68 - SIDEXIS 4\]](#)を参照してください。

1. マウスポインタを測定の線上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタを任意の測定位置に動かします。
 - ▶ 測定はマウスポインタの動きに従います。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function は現在の測定ポイントを保持します。

個々の測定ポイントを移動する

個々の測定ポイントを移動するには、次の手順で行います。

☑ SICAT Function はすでに希望の測定をいずれかの2Dレイヤービューに表示しています。これに関する情報は[オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 66 - SIDEXIS 4\]](#)と [オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 68 - SIDEXIS 4\]](#)を参照してください。

1. マウスポインタを希望の測定ポイント上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタをご希望の測定ポイントの位置に動かします。
 - ▶ 測定ポイントはマウスポインタの動きに従います。
 - ▶ マウスを動かすと、測定値は変化します。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function は現在の測定ポイントの位置を保持します。

測定値を移動する

測定値を移動するには、次の手順で行います。

- ☑ SICAT Function はすでに希望の測定をいずれかの2Dレイヤービューに表示しています。これに関する情報は [オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 66 - SIDEXIS 4\]](#) と [オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 68 - SIDEXIS 4\]](#) を参照してください。
- 1. マウスポインタを希望の測定値上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
- 2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
- 3. マウスポインタをご希望の測定値の位置に動かします。
 - ▶ 測定値はマウスポインタの動きに従います。
 - ▶ SICAT Function は、測定値と付属の測定間に点線を表示します。
- 4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function は現在の測定値の位置を保持します。



1回の測定値を移動すると、SICAT Functionはその値を1つの絶対位置に設定します。その数値の位置を、そのときの測定ツールに対する相対位置に戻すときは、その数値をダブルクリックします。

32 データエクスポート

データをエクスポートすることができます。

SICAT SuiteをSIDEXIS 4のモジュールとして実行させると、データのエクスポートは、その目的で用意されている、SIDEXIS 4の機能を利用してください。このエクスポートに関する内容は、SIDEXIS 4の取扱説明書を参照してください。

33 注文プロセス

希望の製品を注文するには、次の手順で行います。

- SICAT Functionで、治療位置を設定し、治療スプリントのための希望する計画データをショッピングカートに入れます。これに関する情報は治療位置の設定 [▶ ページ 174 - SIDEXIS 4] と 治療スプリントをショッピングカートに入れる [▶ ページ 176 - SIDEXIS 4] を参照してください。
- ショッピングカートを確認し、注文を開始します。これに関する情報はカートをチェックして、注文プロセスを完了する [▶ ページ 181 - SIDEXIS 4] を参照してください。
- 注文は、SICAT Suiteが作動しているコンピューターで直接終了するか、インターネットに接続されている別のコンピューターで終了します。これに関する情報はインターネット接続を使用した注文の終了 [▶ ページ 182 - SIDEXIS 4] またはインターネット接続を使用しない注文の終了 [▶ ページ 186 - SIDEXIS 4] を参照してください。



同一の3D X線撮影画像に関する注文であれば、複数の注文内容をカートに追加できます。

33.1 治療位置の設定

治療位置を設定するには、次の手順で行います。

- ☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録 [▶ ページ 120 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- ☑ 光学印象はすでにインポートされています。これに関する情報は光学印象をインポートし記録する [▶ ページ 134 - SIDEXIS 4]と他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する [▶ ページ 142 - SIDEXIS 4]を参照してください。

1. 治療位置をベースにして静的な顎関係に設定する場合は、**アクティブな顎関係：**のリストから静的な顎関係を選択します。これに関する情報は顎運動と連携する [▶ ページ 145 - SIDEXIS 4]を参照してください。
2. 治療位置をベースにして顎運動に設定する場合は、**アクティブな顎関係：**のリストから、顎運動を1件選択し、お好みの位置へ移動します。これに関する情報は顎運動と連携する [▶ ページ 145 - SIDEXIS 4]を参照してください。



3. **治療位置**のボタンをクリックします。

- ▶ 顎運動に基づく治療位置を選択したら、SICAT Functionでは、その該当する位置にブックマークがセットされます。
- ▶ **治療位置**のボタンが、**治療位置をキャンセルする**のボタンに切り替わります。
- ▶ SICAT Function は選択した治療位置を治療スプリントの注文のために保存します。

治療位置をキャンセルする

指定した治療位置をキャンセルするには、次の手順で行います。

- ☑ 顎の静的な相対関係か、または、顎運動のブックマークのうち、治療位置の指定でベースとしたものを選択しておきます。



1. **治療位置をキャンセルする**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function 通知ウィンドウが開き、以下の内容をお知らせします：**治療位置を本当に取り消しますか？**
2. 治療位置を削除する場合は、**継続する**をクリックしてください。

治療位置に上書きする

指定した治療位置に上書きするには、次の手順で行います。

- ☑ 治療位置はすでに設定されています。

1. 顎の静的な相対関係か、または、顎運動の位置のうち、指定した治療位置に該当しないものを選択します。



2. **治療位置**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Function 通知ウィンドウが開き、以下の内容をお知らせします：**治療位置はすでに設定されました。続行する場合は、位置が上書きされます。**

3. 治療位置に上書きする場合は、**継続する**をクリックしてください。

治療スプリントをショッピングカートに入れる [▶ ページ 176 - SIDEXIS 4]で続行してください。

33.2 治療スプリントをショッピングカートに入れる



注文に誤ったデータがあると、誤った注文となる可能性があります。

注文をするときには、注文のための正しいデータの選択と転送を確認してください。



注文を誤ると誤った治療の原因となるおそれがあります。

1. 注文を送信する前にご注文内容をご確認ください。
2. 注文の適切な治療計画を確認してください。

注文プロセスに関する一般的な情報は、[注文プロセス](#) [▶ ページ 173 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

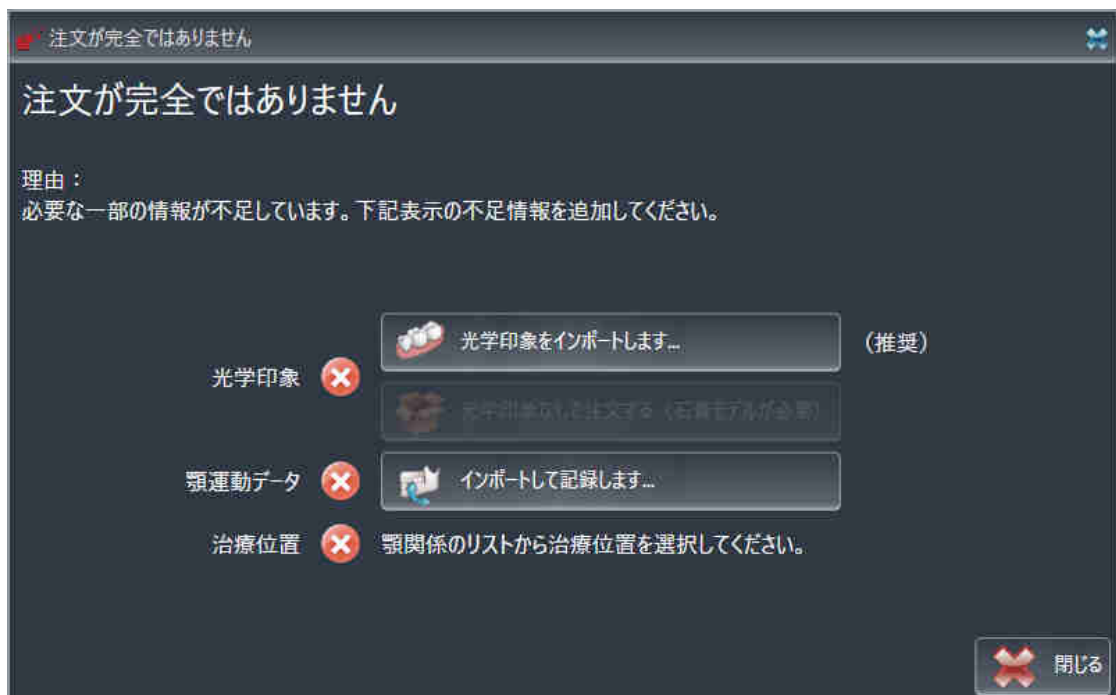
SICAT Functionで最初の注文プロセスの治療スプリントをショッピングカートに入れます。治療スプリントをショッピングカートに入れるには、特定の条件を満たす必要があります。すべての条件をまだ満たしていない場合は、SICAT Functionを参照してください。

充足されていない前提条件があるとき

- ☑ ワークフロー・ステップの**注文する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 63 - SIDEXIS 4]を参照してください。



1. 治療スプリントを注文しますのアイコンをクリックします。
 - ▶ **注文が完全ではありません**のウィンドウが開きます。





2. 光学印象をまだインポートしていない場合は、**インポートして記録します**ボタンをクリックし、3D X線撮影図のための適切な光学印象をインポートします。これに関する情報は**光学印象をインポートし記録する** [▶ ページ 134 - SIDEXIS 4]を参照してください。



3. 顎運動データをまだインポートしていない場合は、**インポートして記録します**ボタンをクリックし、顎運動データをインポートします。これに関する情報は**顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録** [▶ ページ 120 - SIDEXIS 4]を参照してください。

4. 治療位置をまだ設定していない場合は、**注文が完全ではありません**ウインドウを閉じ、治療位置を設定します。これに関する情報は**治療位置の設定** [▶ ページ 174 - SIDEXIS 4]を参照してください。



場合によっては、光学印象をインポートする前にボリュームの配置およびパノラマ曲線を調整する必要があります。**ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する**ウインドウを**光学印象をインポートし記録する**ウインドウからステップ**登録する**で直接呼び出すことができます。直接呼び出すにはボタン**パノラマエリアを調整する**をクリックします。これに関する情報は**パノラマエリアを調整する** [▶ ページ 114 - SIDEXIS 4]を参照してください。



光学印象の代わりにギブスをSICATに送信したい場合は、**注文が完全ではありません**ウインドウの**光学印象なしで注文する (石膏モデルが必要)**ボタンをクリックし、治療スプリントを光学印象なしでショッピングカートに入れることができます。その後、ステップ**治療スプリントを注文する**は情報この注文には光学印象は含まれていません。該当する石膏モデルをSICATまでお送りください。のを示します。

前提条件がすべて充足されているとき

- 光学印象はすでにインポートされています。
- 顎運動データはすでにインポートされています。
- 治療位置はすでに設定されています。
- ワークフロー・ステップの**注文する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 63 - SIDEXIS 4]を参照してください。



- **治療スプリントを注文します**のアイコンをクリックします。
 - ▶ **治療スプリントを注文する**のウインドウが開きます。

「治療スプリントを注文する」ウインドウの注文を確認してください

- 治療スプリントを注文するウインドウはすでに開いています：



1. 患者情報と撮影図情報が正しいかどうか**患者エリア**と**注文への詳細エリア**を確認してください。
2. **3Dビュー**で治療位置が正しいかどうか確認してください。
3. 希望する場合、**追加情報欄**にSICATの追加情報を入力します。



4. **ショッピングカート**にのボタンをクリックします。

- ▶ SICAT Function 治療スプリントに適用する治療計画のデータで、お好みのものがSICAT Suiteのカートに入ります。
- ▶ **治療スプリントを注文するウインドウ**が閉じます。
- ▶ SICAT Function SICAT Suiteのカートが開きます。



注文がショッピングカート内にある間は、計画の光学印象、顎運動データおよび治療位置に上書きすることはできません。これは、注文を終了するか削除した場合において初めて可能です。計画の光学印象、顎運動データおよび治療位置に上書きまたは削除した場合は、同じ治療スプリントを再度注文することはできません。



中止するをクリックすると、注文をキャンセルできます。

カートをチェックして、注文プロセスを完了する [▶ ページ 181 - SIDEXIS 4]で続行してください。

33.3 カートを開く

- ☑ カートには、製品を1個以上、入れておきます。
- ☑ 出力のフェーズで、カートの表示を開いておきます。この操作に関する内容は、SIDEXIS 4の取扱説明書をご覧ください。



- ショッピングカートはまだ開いていない場合、ナビゲーションバーのカートボタンをクリックします。

▶ カートのウィンドウが開きます。

上記に代えて、出力のフェーズで、カートボタンをクリックしても結構です。

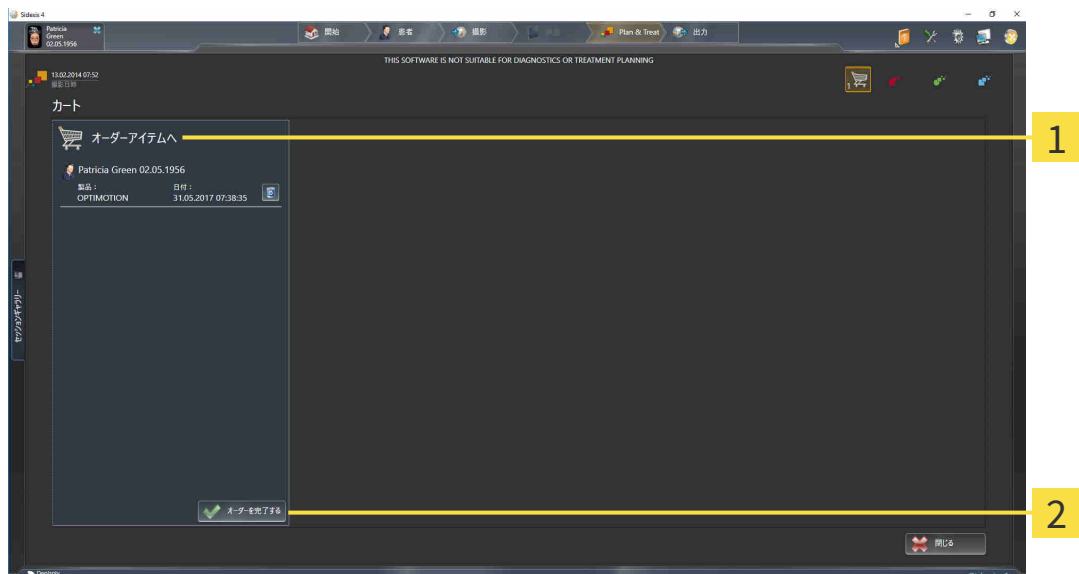


以下の操作で、処理を続けてください。

- カートをチェックして、注文プロセスを完了する [▶ ページ 181 - SIDEXIS 4]

33.4 カートをチェックして、注文プロセスを完了する

- ☑ カートウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は [カートを開く \[▶ ページ 180 - SIDEXIS 4\]](#) を参照してください。



1 リスト オーダーアイテムへ

2 ボタン オーダーを完了する

1. カートウィンドウで、希望の製品が含まれてるか確認します。
2. **オーダーを完了する**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteは注文ステータスを**準備中**にし、さらに、SICAT WebConnector経由で、SICATサーバーに接続します。

▶ インターネットに接続して注文した場合、注文の変更はSICATポータルでのみ可能です。

以下の操作を続行します：

- インターネット接続を使用した注文の終了 [[▶ ページ 182 - SIDEXIS 4](#)]
- インターネット接続を使用しない注文の終了 [[▶ ページ 186 - SIDEXIS 4](#)]

33.5 インターネット接続を使用した注文の終了



Windowsのバージョンによっては、注文プロセスを行うために、標準的なWebブラウザに設定しなければならない場合があります。

- ☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されています。
 - ☑ SICATポータルは自動的にブラウザで開かれました。
1. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
 - ▶ 注文一覧が開き、含まれている製品および価格が患者毎にグループ分けして表示されず。
 2. SICATポータルでの注文手順 [▶ ページ 183 - SIDEXIS 4]以下の手順に従ってください。
 - ▶ SICAT Suiteはアップロード用の注文データを準備します。
 - ▶ 準備が完了すると、SICAT WebConnectorは注文データを暗号化された接続経由でSICATサーバーに転送します。
 - ▶ ショッピングカートの注文ステータスが**アップロードする**に変わります。

また、トリート項目が強調されるよう、SIDEXIS 4のタイムラインでスタディのアイコンが変わります。



SICAT Suiteでは、アップロードが完了するまで、注文内容の表示を続けます。複数のコンピューターで現在のSIDEXISサーバーを利用している場合は、他のコンピューターでアップロードされる注文にもこれは適応されます。注文内容のアップロードを開始したコンピューターであれば、そのコンピューターで、注文プロセスを一時停止する、再開する、キャンセルするの各操作を行うことができます。



アップロード中にWindowsをログオフすると、SICAT WebConnectorはアップロードを一時停止します。ソフトウェアは再度ログオン後に、自動的にアップロードを続行します。

33.6 SICATポータルでの注文手順

SICAT Suiteで注文プロセスを実行して完了したら、お手元の標準ブラウザでSICAT Portalのページが開きます。SICAT Portalでは、ご自分の注文内容をカスタマイズして、製作依頼先にする、有資格の歯科技工所を選択し、製品の価格を確認できます。

SICAT Portalで注文プロセスを実行するには、次の手順で行います。

1. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
2. 希望の製品が含まれてるか確認します。
3. 必要に応じて、患者および付属の全製品を注文一覧から除去してください。注文を完了すると、SICAT Suiteでは、SICAT Portalで実施した変更内容が適用されます。
4. 請求書送付先と配送先住所が正しいか確認してください。正しくない場合修正してください。
5. 希望の配達方法を選択してください。
6. 一般条件を承認し、注文を提出してください。



患者を選択し、患者の削除のボタンをクリックすることにより、患者および全ての付属プリントをSICATポータルから除去することができます。その後、ショッピングカートでは再び製品の構成にフルアクセスすることができます。

33.7 SICAT WEBCONNECTOR



SICAT WebConnectorはSICATサーバーとの通信用に特定のポートを必要とします。これに関する情報はシステム要件 [▶ ページ 10 - SIDEXIS 4]を参照してください。



Windowsのバージョンによっては、注文プロセスを行うために、標準的なWebブラウザに設定しなければならない場合があります。

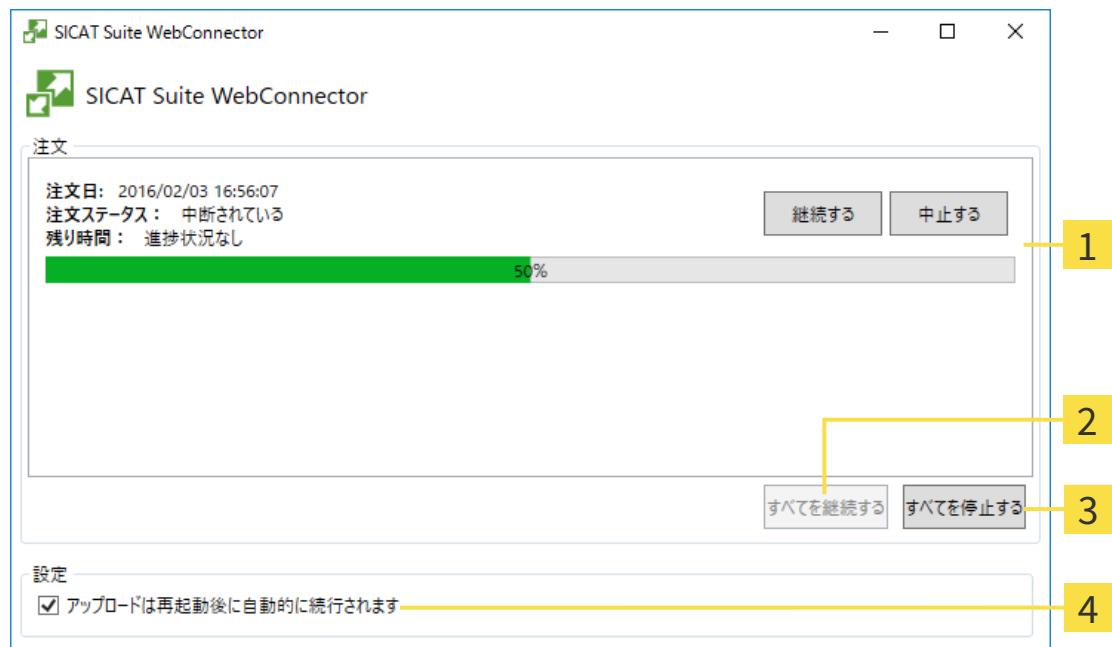
SICAT Suiteを実行させているコンピュータがインターネットに接続できるときは、SICAT Suiteで、ご自分の注文内容がバックグラウンドで暗号化され、WebConnector経由で送信されます。SICAT Function 直接、カートから送信のステータスを表示しますので、SICAT WebConnectorを一時停止させることがあります。SICAT WebConnectorが送信を再開するのは、SICAT Suiteを閉じて終了させた後になります。ご希望に沿ってアップロードが行われないことがありますが、そのときは、SICAT WebConnectorのユーザーインターフェースを開いてください。

「SICAT SUITE WEBCONNECTOR」のウィンドウを開く



- タスクバーの通知ウィンドウで、**SICAT Suite WebConnector**アイコンをクリックします。

▶ SICAT Suite WebConnector のウィンドウが開きます。



1 リスト 注文

2 ボタン すべて再開する

3 ボタン すべて停止する

4 チェックボックス 再起動後にアップロードを自動で再開する

注文 のリストには、処理待機中の注文内容が表示されます。

アップロードの中断および続行

アップロードの処理は、中断させることができます。この操作は、例えば、お使いのインターネット接続で負荷が過大なときに役立ちます。設定内容で制御する対象は、SICAT WebConnectorでのアップロード処理に限定されています。Webブラウザを利用するアップロード処理は、この操作の影響を受けません。

SICAT Suite WebConnectorウインドウはすでに開いています：

1. **すべて停止する**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT WebConnectorでは、すべての注文について、アップロードを中断します。
2. **すべて再開する**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT WebConnectorでは、すべての注文について、アップロードを再開します。

再起動後の自動アップロード再開をオフにする

Windowsを再起動しても、SICAT WebConnectorでアップロードが自動で再開することがないようにすることができます。

SICAT Suite WebConnectorウインドウはすでに開いています：

- **再起動後にアップロードを自動で再開する**のチェックボックスで、チェックマークを外します。
- ▶ お手元のコンピュータを再起動させても、SICAT WebConnectorでは、ご自分の注文のアップロードが自動で再開することは、なくなります。

33.8 インターネット接続を使用しない注文の終了

SICAT Suiteを起動しているコンピューターにSICATサーバーとの接続が確立できない場合、SICAT SuiteがウィンドウSICAT サーバーへの接続エラーを開きます。ウィンドウは問題に対する以下の原因を表示します。

- インターネット接続が利用できません。SICAT WebConnectorはSICATサーバーへの接続を確立できません。
- SICATポータルにアクセスできません。
- 「SICATWebConnector」サービスがインストールされていません。
- 「SICATWebConnector」サービスが起動していません。
- 未知のエラーが発生しました。SICAT WebConnectorはSICATサーバーへの接続を確立できません。

この章ではインターネット接続が使用できない場合のみを対象にスクリーンショットを示しています。

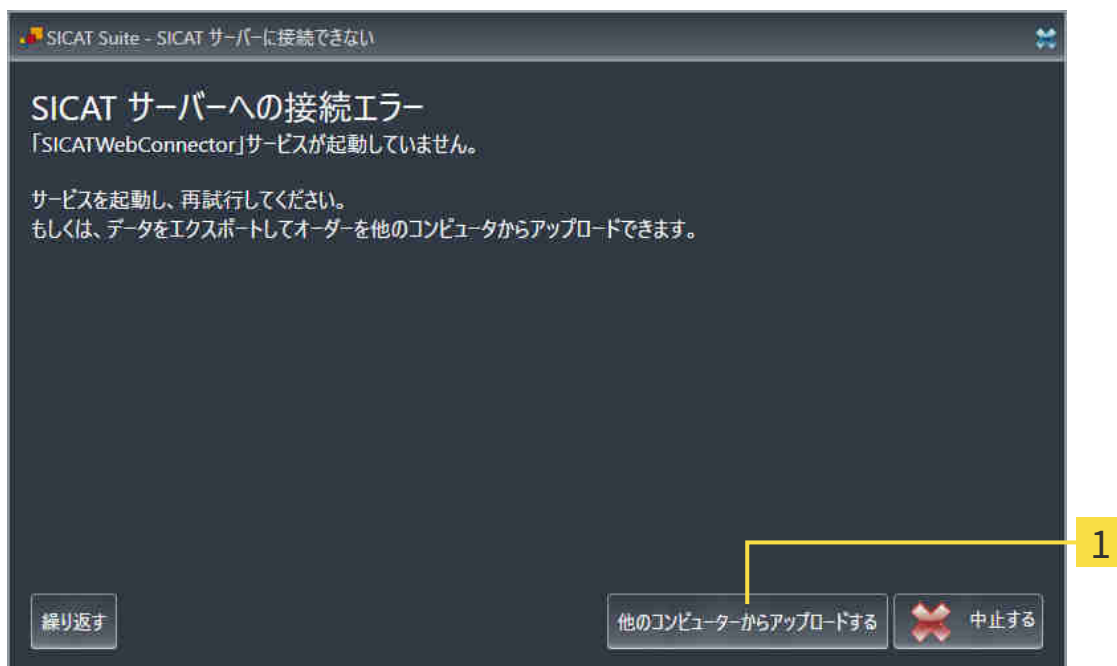
その原因の下で可能な問題を解決できる手順を発見します。

トラブルシューティングの代替手段として、注文をインターネット接続が有効な他のコンピューターのウェブブラウザからアップロードする方法があります。ウェブブラウザによる注文に対して、SICAT Suiteは一度に全ての製品をショッピングカートにエクスポートし、患者毎に一つのサブフォルダを作成します。各サブフォルダには注文情報付のXMLファイルと製造に必要なデータが付いているZIPアーカイブがあります。SICATポータルではXMLファイルとZIPアーカイブを連続してアップロードすることができます。この送信は、暗号化して行われます。

インターネット接続を利用しない注文プロセスを完了するには、次の手順で行います。

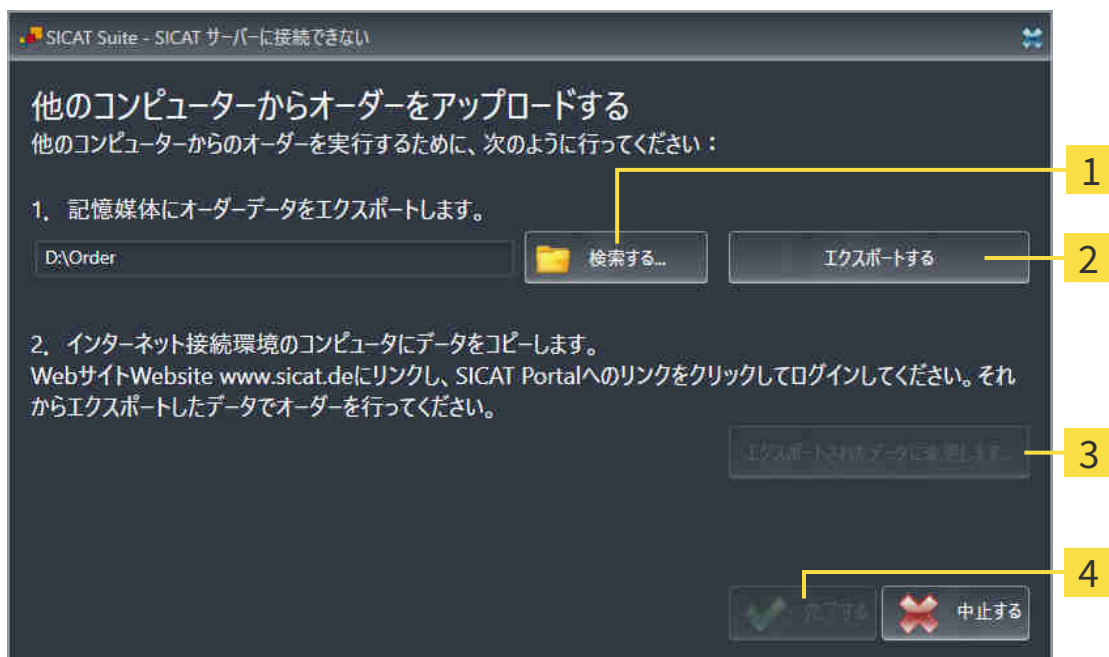
- ☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されていません。

☑ ウィンドウに表示されるメッセージ： SICAT サーバーへの接続エラー

**1** ボタン 他のコンピューターからアップロードする

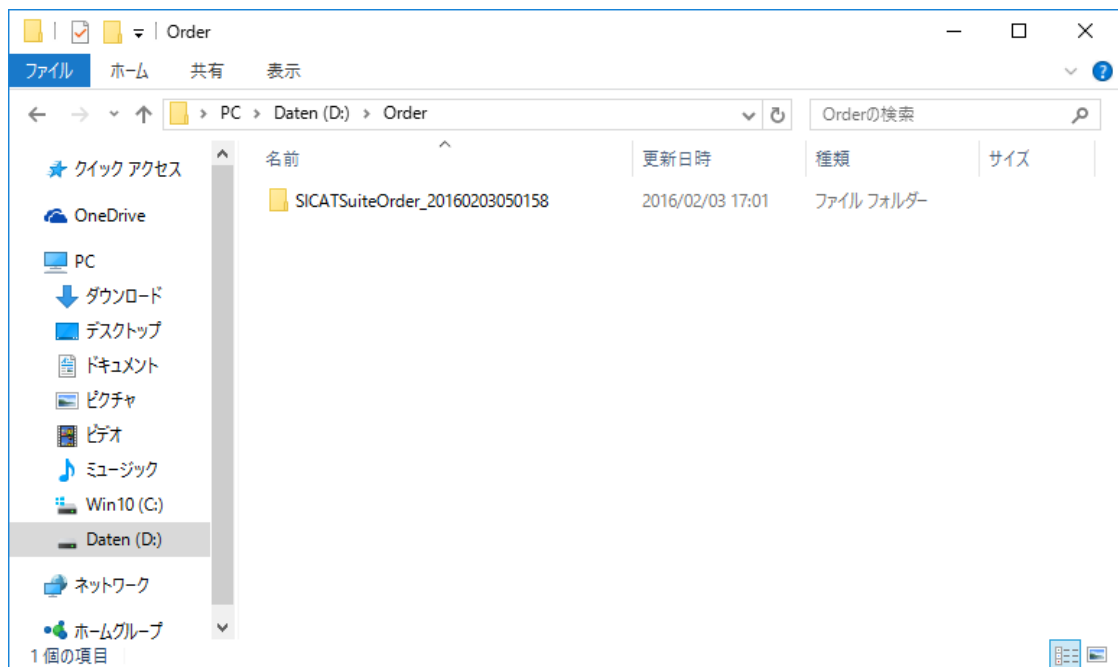
1. 他のコンピューターからアップロードするのボタンをクリックします。

▶ 他のコンピューターからオーダーをアップロードする のウィンドウが開きます。

**1** ボタン 検索する**2** ボタン エクスポートする**3** ボタン エクスポートされたデータに変更します**4** ボタン 完了する

2. 検索するのボタンをクリックします。

- ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。
- 3. 既存のディレクトリを選択するか、新しいディレクトリを作成して、**OK**をクリックします。ディレクトリのパス名は、字数を160字以下にしておく必要がありますので、ご注意ください。
- 4. **エクスポートする**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは、ショッピングカートの内容の注文に必要な全データを指定のフォルダにエクスポートします。この時、SICAT Suiteは患者毎に一つのサブフォルダを作成します。
- 5. **エクスポートされたデータに変更します**のボタンをクリックします。
 - ▶ Windowsファイルエクスプローラーウィンドウが開き、エクスポートしたデータのあるディレクトリが表示されます：



- 6. USBスティックなどの補助ツールを使用して、インターネットに接続しているコンピューターに希望のスプリントのデータが含まれるフォルダをコピーします。
- 7. **他のコンピューターからオーダーをアップロードする**ウィンドウの**完了する**をクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは**他のコンピューターからオーダーをアップロードする**ウィンドウを閉じます。
 - ▶ SICAT Suiteは、注文に含まれる全ての製品をショッピングカートから除去します。
- 8. インターネットに接続されたコンピューター上でウェブブラウザを開き、インターネットページ<http://www.sicat.de>を開きます。
- 9. SICATポータルへのリンクをクリックします。
 - ▶ SICATポータルが開きます。

10. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
11. 注文をアップロードするためのリンクをクリックします。
12. インターネットに接続したコンピューターで希望の注文を選択します。これは、ファイル名が**SICATSuiteOrder**で始まるXMLファイルです。
 - ▶ 注文一覧が開き、含まれている患者、付属の製品および価格が表示されます。
13. SICATポータルでの注文手順 [▶ ページ 183 - SIDEXIS 4]以下の手順に従ってください。
14. 製品の治療計画データをアップロードするためのリンクがありますので、それをクリックします。
15. インターネットに接続したコンピューターで適切な製品データを選択します。これは、以前アップロードしてXMLファイルと同じフォルダ内にあり、ファイル名が**SICATSuiteExport**で始まるZipアーカイブです。
 - ▶ 注文を実行した場合、ブラウザは製品データが含まれるアーカイブを暗号化された接続経由でSICATサーバーに転送します。



SICAT Suiteは、エクスポートしたデータを自動的に削除しません。注文プロセスが完了したら、セキュリティ上の理由により、エクスポートしたデータを手動で削除する必要があります。

34 設定



SICAT Suiteのバージョンのうち、SIDEXISと結合して、SIDEXISの設定内容の多くが適用されるものは、複数あります。こうして適用された設定内容のデータは、SICAT Functionで確認できますが、変更を加えることができるのは、SIDEXISの各種設定においてのみに限定されています。

設定ウインドウで一般設定を変更または閲覧することができます。設定のグループをクリックすると、メニューで左側に以下のボタンが表示されます。

- **一般** - これに関する情報は **一般設定の使用** [▶ ページ 191 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- **ライセンス** - これに関する情報は **ライセンス** [▶ ページ 51 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- **プラクティス** - 施設のロゴおよび情報テキストを表示または変更します（例えば、プリントアウトして使用するため）。これに関する情報は **歯科医院情報の使用** [▶ ページ 195 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- **可視化** - ビジュアル化に関連する、一般的な設定内容を変更します。これに関する情報は **可視化設定の変更** [▶ ページ 196 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- **SICAT Function** - SICAT Functionで、アプリケーション固有の設定内容を変更します。これに関する情報は **SICAT Function設定の変更** [▶ ページ 198 - SIDEXIS 4]を参照してください。

設定を変更した場合、SICAT Functionが変更をすぐに反映し、お客様のユーザープロフィールに設定を保存します。



SICAT Suiteの設定は現在のワークステーションのアクティブなユーザーに適用されます。SICAT Suiteには設定で変更した事項がすぐに反映されます。SICAT Suiteでは、各種設定で別の種類へ切り替えても、変更後の設定内容を継続的に保存して、同様に維持します。

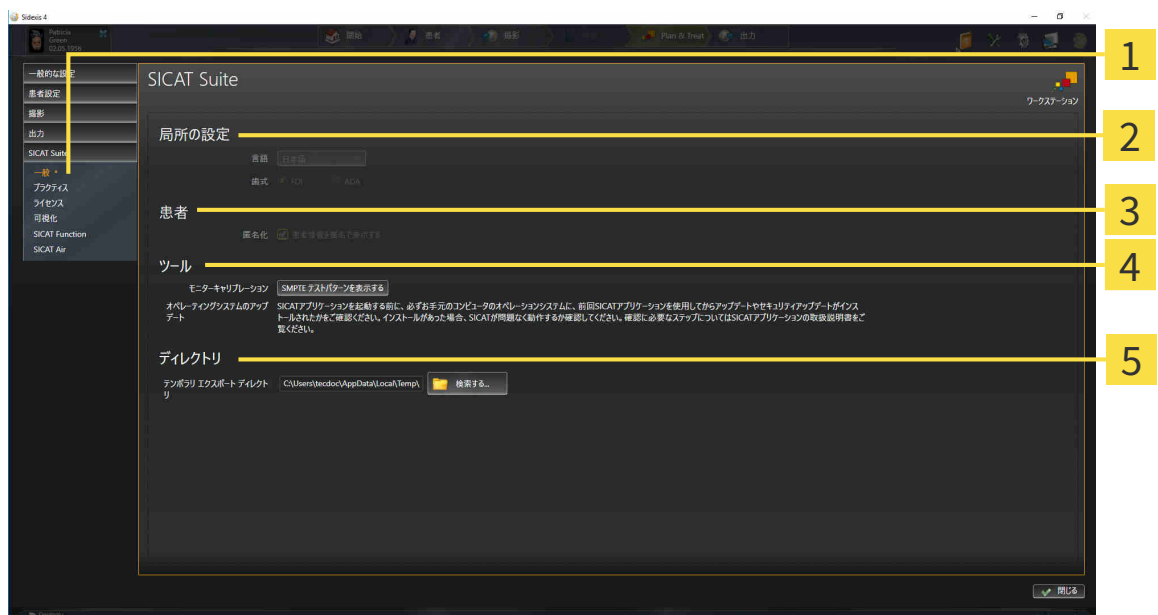
34.1 一般設定の使用



SICAT Suiteのバージョンのうち、SIDEXISと結合して、SIDEXISの設定内容の多くが適用されるものは、複数あります。こうして適用された設定内容のデータは、SICAT Functionで確認できますが、変更を加えることができるのは、SIDEXISの各種設定においてのみに限定されています。

一般的な設定内容を開くには、次の手順で行います。

1. SIDEXIS 4のタイトルバーで、**設定**のアイコンをクリックします。
 - ▶ **設定**のウィンドウが開きます。
2. **SICAT Suite**のグループをクリックします。
 - ▶ **SICAT Suite**のグループが開きます。
3. **一般**のボタンをクリックします。
 - ▶ **一般**のウィンドウが開きます。



1 タブ 一般

4 エリア ツール

2 エリア 局所の設定

5 エリア ディレクトリ

3 エリア 患者

SICAT Function では、SIDEXISの各種設定のうち、以下に挙げる内容が適用されますが、これらは、このページで確認できます。

- **局所の設定**エリアでは、**言語**リストからユーザーインターフェースの言語を閲覧することができます。
- **局所の設定**エリアでは、**歯式**で現在の歯型図を閲覧できます。
- **患者**エリアでは、**患者情報を匿名で表示する**のチェックボックスのステータスを閲覧できます。このチェックボックスにチェックマークがあれば、SICAT Functionでは、SIDEXISで匿名化した患者データを引き継ぎます。

変更が可能な設定内容は、以下のとおりです。

- **ディレクトリ**エリアでは、**テンポラリ エクスポート ディレクトリ**欄にSICAT Suiteが注文データを保存するフォルダを指定することができます。このフォルダには、フルアクセスでなくてはなりません。

一般設定の表示または変更の他に、SMPTEテスト画像を開いて、モニターをキャリブレーションすることもできます。

- **ツール、モニターキャリブレーション**で**SMPTE テストパターンを表示する**ボタンをクリックして、モニターをキャリブレーションします。これに関する情報は**SMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーション** [▶ ページ 193 - SIDEXIS 4]を参照してください。



SICAT Functionがサポートしていない言語を、SIDEXISで選択すると、SICAT Functionでは、ユーザーインターフェースのテキストを英語で表示します。



対応している歯型図はFDIとADAです。

34.2 SMPTEテスト画像によるモニターのカリブレーション



注意

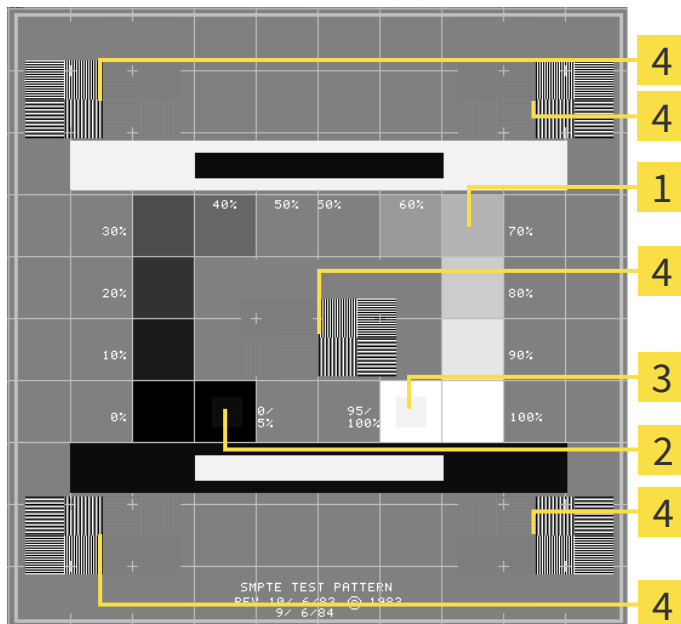
環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

4個のメインプロパティが、SICATアプリケーションのデータを表示させるモニターの特性を決定します。

- 輝度
- コントラスト
- 空間分解能（直線性）
- ひずみ（エイリアシング）

SMPTEテスト画像は参照画像であり、モニターのプロパティをチェックする際に使用します。



1 グレースケールスクエア

2 0%スクエア

3 100%スクエア

4 高コントラストのバーパターンが含まれるスクエア

輝度およびコントラストの点検

SMPTEテスト画像の中央では、一連のスクエアが黒（輝度0%）～白（輝度100%）のグレースケールを示しています。

- 0%スクエアには、0%～5%間の輝度の違いを示す小さ方のスクエアが含まれます。
- 100%スクエアには、95%～100%間の輝度の違いを示す小さ方のスクエアが含まれます。

モニターを点検または設定するには、次のように行います。

SMPTEテスト画像はすでに開いています。

- 0%スクエアおよび100%スクエアで、内側のスクエアと外側のスクエア間に視覚的違いが見えるか点検してください。必要に応じて、モニターの設定を変更してください。



多くのモニターは、100%スクエア内の輝度の相違のみ表示され、0%スクエア内には表示されません。0%スクエア内の様々な輝度レベルの相違を改善するために、アンビエントライトを減らすことができます。

空間分解能およびひずみの点検

SMPTEテスト画像の角および中央では、6個のスクエアに高コントラストのバーパターンが表示されます。空間分解能およびひずみについては、様々な幅の、黒と白で切り替わる、垂直の線で区別できる必要があります。

- 幅が広い～狭い（6ピクセル、4ピクセル、2ピクセル）
- 水平および垂直

モニターを点検または設定するには、次のように行います。

- 高コントラストのバーパターンが表示される6個のスクエアで、全ての線が区別できるかどうか点検します。必要に応じて、モニターの設定を変更してください。

SMPTEテスト画像を閉じる

SMPTEテスト画像を閉じるには、次の手順で行います。

- ESCボタンを押します。
- ▶ SMPTEテスト画像が閉じます。

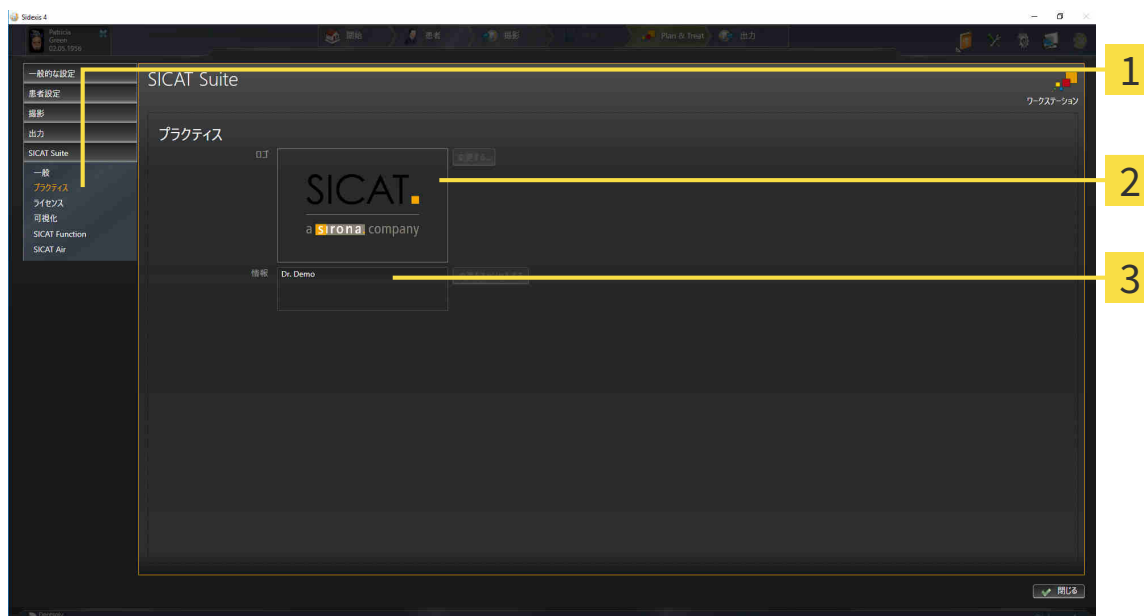
34.3 歯科医院情報の使用

SIDEXISと結合しているSICAT Suiteのバージョンには施設ロゴとSIDEXISの情報テキストが適用されています。そのため、SICAT Suiteの設定でこれらの設定の値しか閲覧できません。これらの設定内容は、SIDEXISからご希望の変更を加えるようにしてください。

SICAT Suiteの各種アプリケーションでは、このページで表示する説明文を利用して、印刷物やPDFファイルをカスタマイズします。

歯科クリニックの説明文を開くには、次の手順で行います。

1. SIDEXIS 4のタイトルバーで、**設定**のアイコンをクリックします。
▶ **設定**のウィンドウが開きます。
2. **SICAT Suite**のグループをクリックします。
▶ **SICAT Suite**のグループが開きます。
3. **プラクティス**のボタンをクリックします。
▶ **プラクティス**のウィンドウが開きます。



1 タブ プラクティス

2 エリア ロゴ

3 エリア 情報

以下の設定を閲覧することができます。

- **ロゴ**エリアでは、施設ロゴを閲覧することができます。
- **情報**エリアでは、施設を識別するテキスト（名前、住所など）を閲覧することができます。

34.4 可視化設定の変更



表示品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

SICATアプリケーションを使用する前に、表示品質が十分であるか確認してください（例えば、SMPTEテストビューで）。



環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

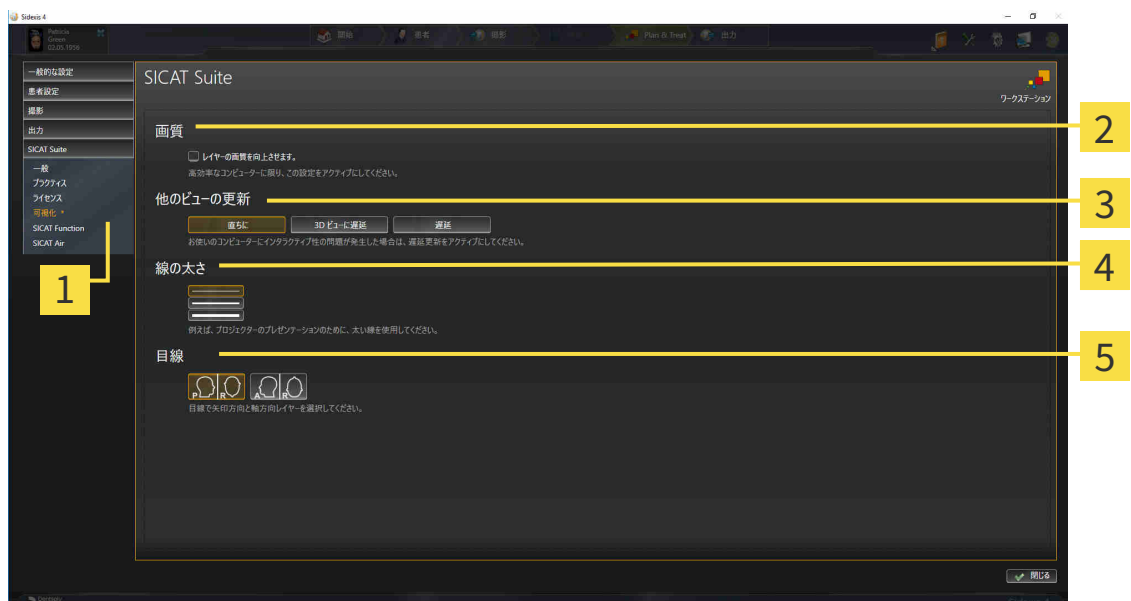
1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

可視化設定は、すべてのSICATアプリケーションのボリューム、診断オブジェクト、計画オブジェクトの可視化を決定します。

可視化 ウィンドウを開くには、次の手順で行います。

1. SIDEXIS 4のタイトルバーで、**設定**のアイコンをクリックします。
 - ▶ **設定**のウィンドウが開きます。
2. **SICAT Suite**のグループをクリックします。
 - ▶ **SICAT Suite**のグループが開きます。
3. **可視化**のボタンをクリックします。

▶ 可視化のウィンドウが開きます。



1 タブ 可視化

4 エリア 線の太さ

2 エリア 画質

5 エリア 目線

3 エリア 他のビューの更新

設定：

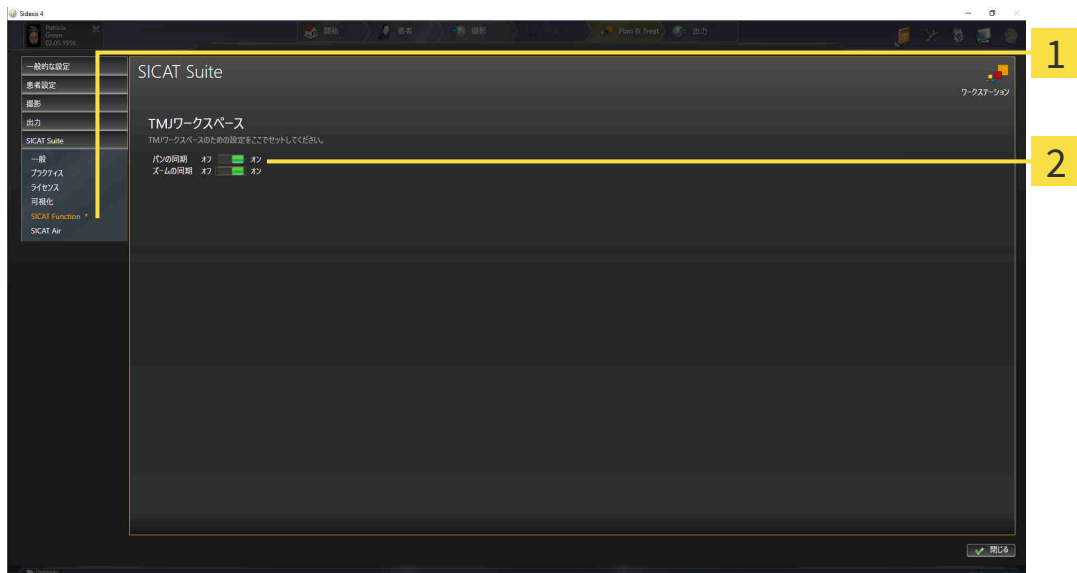
- **レイヤーの画質を向上させます。** - ソフトウェアが隣接するレイヤーを検知することにより、レイヤーの表示品質を改善します。高効率なコンピューターに限り、この設定をアクティブにしてください。
- **他のビューの更新** - 遅延更新は、別のレイヤーの遅延更新を犠牲にして作業に使用しているビューのインタラクティブ性を向上させます。遅延更新は、コンピューターにインタラクティブ性の不具合が確認された場合のみアクティブにします。
- **線の太さ** - 線の太さを変更します。太めの線は、プロジェクターでのプレゼンテーションに使用します。
- **目線** - 軸方向レイヤービューと矢状方向レイヤービューの目線を切り替えます。

34.5 SICAT FUNCTION設定の変更

SICAT Functionの各種設定では、SICAT FunctionのTMJワークスペースにおけるパニングやズームの同期を定義します。

SICAT Function設定を変更するには、次の手順で行います。

1. SIDEXIS 4のタイトルバーで、**設定**のアイコンをクリックします。
 - ▶ **設定**のウィンドウが開きます。
2. **SICAT Suite**のグループをクリックします。
 - ▶ **SICAT Suite**のグループが開きます。
3. **SICAT Function**のボタンをクリックします。
 - ▶ **SICAT Function**のウィンドウが開きます。



1 タブ SICAT Function

2 エリア TMJワークスペースのための設定をここでセットしてください。

設定：

- **パンの同期**
- **ズームの同期**

SICAT FunctionのTMJワークスペースでは、下顎頭を左側と右側とで同期させながら、ビューをパニングしたりズームしたりができますが、この同期のオンとオフは、上記の設定内容で切り替えることができます。

35 サポート

SICATでご利用いただけるサポート態勢を以下に挙げます。

- PDFドキュメント
- 連絡先情報
- SICAT SuiteやSICATの各種アプリケーションで、インストール済みのものに関するご案内
以下の操作で、処理を続けてください。
- サポート態勢のページを開く [▶ ページ 200 - SIDEXIS 4]



35.1 サポート態勢のページを開く

SICAT Suite の**情報** ウィンドウを開くには、次の手順で行います。

1. ヘルプのアイコンをクリックします。
2. SICAT Suite の**情報**項目をクリックします。

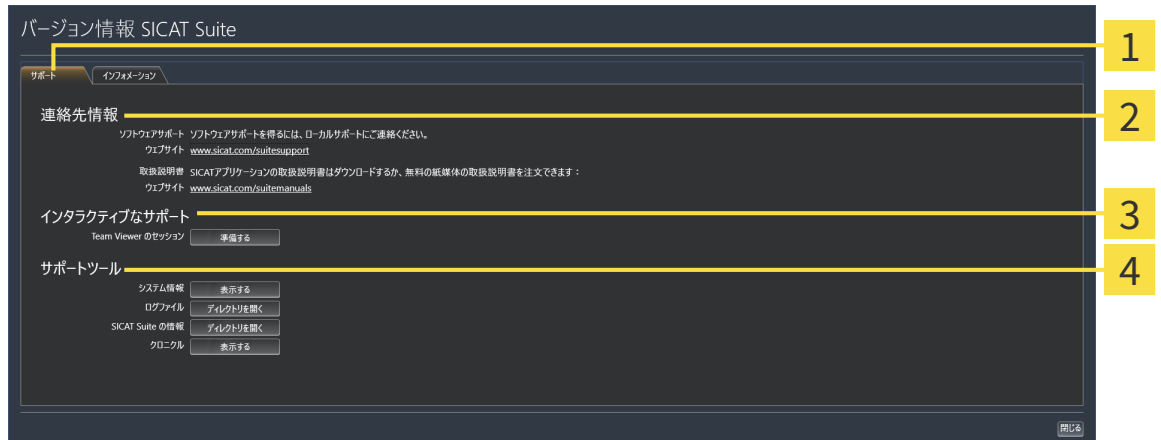
▶ SICAT Suite の**情報** のウィンドウが開きます。

SICAT Suite の**情報** ウィンドウは次のタブで構成されています：

- **サポート** - これに関する情報はサポート [▶ ページ 199 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- **インフォメーション** - これに関する情報はインフォメーション [▶ ページ 202 - SIDEXIS 4]を参照してください。

35.2 連絡先情報およびサポートツール

サポートウィンドウには、SICATサポートの補助をうけられるように、関連する全ての情報およびツールが含まれています。



1 タブ サポート

3 エリア インタラクティブなサポート

2 エリア 連絡先情報

4 エリア サポートツール

各種の取扱説明書を入手するときのお問い合わせ先は、**連絡先情報**エリアをご覧ください。

次のツールは**インタラクティブなサポート**エリアで使用することができます。

- SICAT Function では、**Team Viewer のセッション**エリアで、**準備する**のボタンをクリックすると、TeamViewerセッションが開きます。

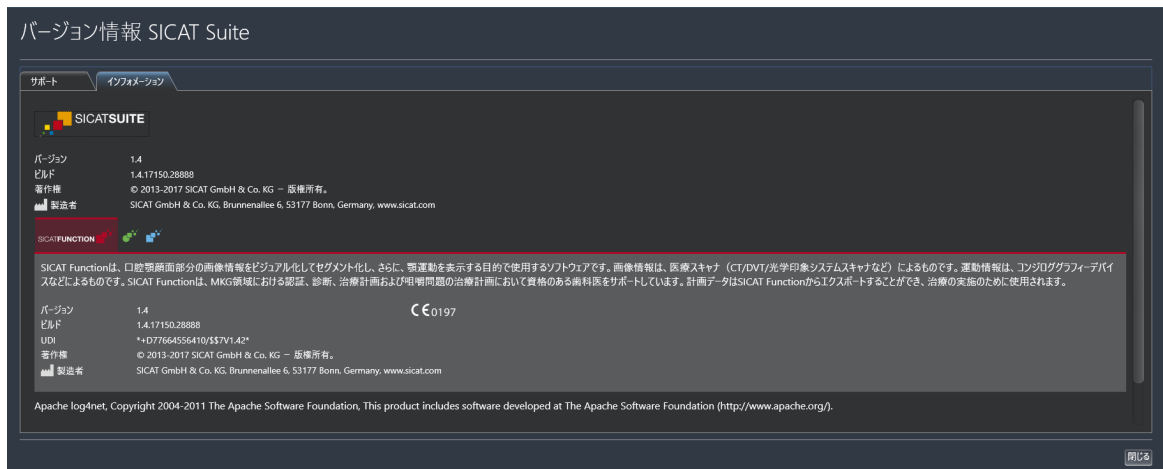
TeamViewerは、マウス/キーボードのコマンドを遠隔操作し、コンピューターの画面に表示されている内容をインターネット接続経由で転送することのできるソフトウェアです。TeamViewerは、明確な承認がある場合のみ接続を確立します。その際、SICATサポートにTeamViewer IDとパスワードを通知します。これにより、SICATサポートは現地で直接補助できるようになります。

次のツールは**サポートツール**エリアで使用することができます。

- SICAT Function では、**システム情報**エリアで、**表示する**ボタンをクリックすると、OSのシステムに関する情報が開きます。
- SICAT Functionでは、**ログファイル**エリアで、**ディレクトリを開く**ボタンをクリックすると、Windowsエクスプローラのウィンドウで、SICAT Suiteのログディレクトリが開きます。
- SICAT Function では、**SICAT Suite の情報**エリアで、**ディレクトリを開く**ボタンをクリックすると、現時点でのインストール状況に関する情報をテキストファイルとしてエクスポートします。
- **SICAT Suite の情報**エリアでボタン**通知を表示する**をクリックするとSICAT Functionが通知ウィンドウを表示します。

35.3 インフォメーション

インフォメーションウィンドウでは、複数のタブにSICAT Suiteおよびインストールされている全SICATアプリケーション経由で情報が表示されます。



36 データを書き込み禁止で開く

データを書き込み禁止で開くことができます。

SIDEXIS 4モジュールとしてインストールしたSICAT Functionでは、データとして変更や保存はできませんが、確認が可能なものがありますが、いずれのデータがそれに該当するのかは、ライセンスのステータスに応じて異なります。

SICAT FUNCTIONライセンスの種類	変更せずに参照することはできますか？
なし	無
ビューア	有
フルバージョン	無

以下の場合にはビューアライセンスがなくてもSICAT Functionのスタディを参照することができます。

- SIDEXIS 4からSICAT Functionのスタディを外部にエクスポートし、他のコンピューター上のデータをSIDEXISにインポートします。SICAT Function このコンピューター上にインストールされている必要があります。
- SIDEXIS 4から外部にSICAT Functionのスタディを含むWrap&Goパッケージを作成します。他のコンピューターにWrap&Goパッケージをインストールしてください。SICAT Functionの後にインストールしてください。

いずれの場合でも計画の変更も保存もできません。



SIDEXIS 4やSICAT Suiteを実行させるコンピューターがネットワークに接続する環境にあって、さらに、SIDEXIS 4とネットワークの構成設定によっては、複数のワークステーションに一括インストールできる場合、SIDEXIS 4は、その一括インストールに含まれる1台となることがあります。この一括インストールに含まれているときは、データセットを開いていても、結果として、他のワークステーションが原因で書込権限を失ってしまう可能性が大いにあります。こうしたケースが発生したときは、SIDEXIS 4がデータセットを直ちに閉じて終了しますので、SICAT Functionの3D治療計画スタディでは、変更内容を保存できなくなります。

変更や保存が不可能な状態でデータを開くには、次の手順で行います。

- SICAT Suiteを3D X線撮影画像と一緒にSirona SIDEXIS 4から起動します。これに関する情報はSICAT Suite をスタートする [▶ ページ 46 - SIDEXIS 4]を参照してください。
- ▶ SICAT Suiteは3D X線撮影画像および計画プロジェクトを現在のSIDEXIS 4検査からビューアモードで開きます。
- ▶ 特に問題ない場合はSICAT FunctionはSIDEXIS 4のボリュームの配置とパノラマ曲線を採用します。これに関する情報はボリュームの配置およびパノラマエリア [▶ ページ 106 - SIDEXIS 4]を参照してください。



ボリュームの配置とパノラマ曲線を調整するには以下の条件を満たしている必要があります。

- 3DX線撮影画像またはSICAT Functionスタディを開くことができるライセンスを有効化済みです。これに関する情報はライセンス [▶ ページ 51 - *SIDEXIS 4*]を参照してください。
- SICAT機能による、または他のSICATアプリケーションに関する3DX線撮影画像用の読み取り専用スタディ内にも、ボリュームの配置またはパノラマ曲線の変更による影響を受けるオブジェクトはありません。

条件が満たされていない場合、SICAT Functionがウィンドウ**ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する**内でボリュームの配置やパノラマ曲線の変更に使用できるボタンと制御素子を無効化します。

37 SICAT SUITEを閉じる



- 現時点で開いているスタディの左上隅にある閉じるボタンをクリックします。
- ▶ SICAT Suiteが閉じます。
- ▶ SICAT Suiteでは、SICATの各種アプリケーションのうち、フルバージョンで実行させているものすべてで、変更後の治療計画プロジェクトがSIDEXIS 4に保存されます。

38 ショートカットキー



マウスポインタを特定の機能上に動かすと、SICAT Functionは機能の名称に加えて括弧内にショートカットキーを表示します。

次のショートカットキーはすべてのSICATアプリケーションで使用できます。

ショートカットキー	説明
A	角度測定を追加する
D	距離測定を追加する
F	アクティブなオブジェクトに焦点を合わせる
Ctrl + C	アクティブなビューの内容をクリップボードにコピーする
Ctrl + Z	前回のオブジェクト アクションを元に戻す
Ctrl + Y	前回戻したオブジェクト アクションをもう一度実行する
Del	アクティブなオブジェクトまたはオブジェクトグループを削除する
ESC	現在の操作を中断する（測定の追加など）
F1	有効なSICATアプリケーションで取扱説明書が開いている場合、ウィンドウ サポート が開きます。

次のショートカットキーはSICAT Functionの**下顎のセグメンテーション**ウィンドウで使用することができます。

ショートカットキー	説明
N	ナビゲーション
M	下顎骨をセグメントする
F	窩をセグメントする
B	背景をセグメントする

39 SICAT SUITEのアンインストール



SICAT Suiteアンインストールプログラムは、コンピューターに有効なライセンスを保持します。そのため、SICAT Suiteインストールプログラムはアンインストール前に、ライセンスを自動的に削除しないように警告します。SICAT Suiteを特定のコンピューターで使用するのをやめる場合、アンインストールする前にライセンスを無効にしてください。これに関する情報はライセンスをライセンスプールへ返却する [▶ ページ 58 - SIDEXIS 4]に記載されています。



アンインストールプログラムは、SICAT WebConnectorを自動的に閉じてしまうため、SICAT Suiteをアンインストールする前に、SICAT WebConnectorがすべての注文を完全にアップロードしているかを確認してください。SICAT WebConnectorに関する内容は、*SICAT WebConnector* [▶ ページ 184 - SIDEXIS 4]の節をご覧ください。

SICAT Suiteをアンインストールするには、次のように行います。

- ☑ SICAT WebConnector はすべての注文を正常にアップロードしました。
- 1. Windowsコントロールパネルで**プログラムおよび機能**をクリックします。
 - ▶ **プログラムおよび機能**のウィンドウが開きます。
- 2. リストから、SICAT Suiteのバージョンが含まれる**SICAT Suite**を選択します。
- 3. **アンインストール**のボタンをクリックします。

- ▶ アンインストールプログラムが起動し、**進捗状況**ウィンドウが開きます。



- ▶ アンインストールが終了すると、**確認**ウィンドウが開きます。



4. 終了するのボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteアンインストールプログラムが閉じます。



SICAT Suiteアンインストールプログラムを開くために、SICAT-SuiteインストールプログラムをSICAT Suiteがすでにインストールされているコンピューター上で起動することができます。



SICAT Suiteアンインストールプログラムは、SICAT Suiteと一緒にインストールされたいくつかの前提ソフトウェアのアンインストールプログラムを呼び出します。別のアプリケーションが引き続き前提ソフトウェアを必要としている場合、これらは保持されます。

40 安全に関する注意事項

3D X線撮影図



注意

不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。



注意

不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。



注意

DICOMに適合していないX線機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、DICOM規格に適合することが証明されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。

表示条件



注意

表示品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

SICATアプリケーションを使用する前に、表示品質が十分であるか確認してください（例えば、SMPTEテストビューで）。



注意

環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

データ管理



注意

患者名や3D X線撮影画像の突き合わせでミスがあると、結果として、患者を撮影した画像の取り違えを招くことになりかねません。

3D X線撮影ビューで、インポートしようとしているものや、すでにSICATのアプリケーションに読み込みのものがあれば、突き合わせる先の患者名が正しいこと、突き合わせる撮影画像に関する情報が正しいことをいずれもチェックしてください。



オリジナルデータを削除すると、データを消失するおそれがあります。
インポートした後にオリジナルデータを削除しないでください。



患者ファイリングのデータバックアップシステムが故障すると、患者データが完全に消失するおそれがあります。
定期的に全ての患者ファイリングのデータバックアップを取ってください。



患者ファイルを削除すると、それに含まれる3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルも全て削除されます。
患者ファイルの削除は、それに含まれる3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルが全て再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。



削除した患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトは元に戻すことができません。
患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトの削除は、これらのデータが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。



3D X線撮影画像を削除すると、それに依存する計画プロジェクトも全て削除されます。
3D X線撮影画像の削除は、それに依存する全計画プロジェクトが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

ネットワーク



SICATアプリケーションデータを信頼できないネットワークファイルシステムに保存すると、データの損失につながるおそれがあります。
ネットワーク管理者と共に、SICATアプリケーションデータを希望のネットワークファイルシステムに保存できるようにしてください。



SICAT Suiteおよび付属のSICATアプリケーションを他の機器と一つのコンピューターネットワークまたはメモリーネットワーク内で供用すると、患者、ユーザー、その他の人に未知の危険が及ぶおそれがあります。
ネットワークに関連する危険を特定、分析、判断するため、各組織内で規則を作成してください。



ネットワーク環境を変更すると、新しい危険につながるおそれがあります。例えば、ネットワーク構成の変更、追加機器またはコンポーネントのネットワークへの接続、機器またはコンポーネントのネットワークからの分離、ネットワーク機器またはコンポーネントのアップデートまたはアップグレードなどです。

ネットワークを変更する度に、新たなネットワークリスク分析を実施してください。

オペレーターの資格



資格のない者が本ソフトウェアを使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

ソフトウェアの使用は、必ず専門の知識のある有資格者が行ってください。

安全性



情報システムにあるセキュリティの脆弱性は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

1. 情報処理のシステム環境において、セキュリティ上の脅威を発見し、それらを回避するために、組織内部で指針を定めて周知するよう、徹底してください。
2. 最新のウィルススキャナをインストールし、ウィルススキャンを実行してください。
3. ウィルススキャナの定義ファイルを定期的に更新してください。



ワークステーションへの不正なアクセスは、患者データの秘密情報およびインテグリティに関するリスクにつながるおそれがあります。

ワークステーションへのアクセスは資格のある人に限定してください。



サイバーセキュリティの問題は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

お手元のSICATアプリケーションにおいて、サイバーセキュリティにかかわるトラブルの疑いがあるときは、直ちにテクニカルサポートまで、ご連絡ください。

ソフトウェアインストール



ソフトウェアに改変を加えると、結果として、このソフトウェアが起動しなかったり、または正常に機能しない可能性があります。

1. ソフトウェアのインストールに変更を加えないでください。
2. ソフトウェアのインストールディレクトリにあるコンポーネントを削除または変更しないでください。



インストールメディアが損傷すると、インストールに失敗する可能性があります。

インストールメディアは慎重に取り扱い、適切に保管してください。



お手元のシステムがシステム要件を満たしていない場合は、結果として、このソフトウェアが起動しなくなったり、または正常に機能しない可能性があります。

ソフトウェアをインストールする前に、ご使用のシステムが最小ソフトウェア/ハードウェア要件を満たしているか確認してください。



不十分な承認は、ソフトウェアインストールまたはソフトウェアアップデートが失敗する原因になる場合があります。

ソフトウェアをインストールまたはアップデートする場合、使用するシステムに十分な承認があることを確認してください。

注文



注文に誤ったデータがあると、誤った注文となる可能性があります。

注文をするときには、注文のための正しいデータの選択と転送を確認してください。



注文を誤ると誤った治療の原因となるおそれがあります。

1. 注文を送信する前にご注文内容をご確認ください。
2. 注文の適切な治療計画を確認してください。

顎運動データ



3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



不適切な顎運動データ用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の顎運動データを使用してください。



使用目的に適合しない顎運動撮影機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

必ずSICAT Functionで顎運動データの利用をカバーするという使用目的に適合する顎運動撮影機器を使用してください。



対応していない顎運動撮影機器または互換性のない記録装置を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

顎運動データの記録にあたり、顎運動の記録機器（例えば、SICAT JMT+）と、これに適合する、採得用の器具（例えば、SICAT Fusion Bite）をコンビにしますが、これは、SICAT Functionがサポートするものを使用し、また、それ以外の機器や器具によるデータは、利用しないでください。



間違って撮影された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データおよび3D X線撮影画像は、各機器のメーカーの指示に従って撮影してください。指定されたタイプの参照オブジェクトを使用してください。



3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない顎運動データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



顎運動データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした顎運動データのインテグリティと品質を確認してください。



顎運動データの品質、正確性、解像度が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質、解像度、正確性の顎運動データを利用してください。



過度なアーチファクト、不十分な解像度、または3D X線撮影画像の品質が十分でない場合、マーカーおよび参照オブジェクトを認識するメカニズムにエラーが生じるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確なマーカー/参照オブジェクト認識を可能にする3D X線撮影画像を使用してください。



参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が間違っていると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

JMTウィザードが参照オブジェクトを認識した後、3D X線撮影画像を考慮しながら、参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が正しいか確認してください。



間違って記録された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された顎運動データが3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

光学印象



3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



不適切な光学印象用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の光学印象データを使用してください。



注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない光学印象データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

患者データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



注意

光学印象データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした光学印象データのインテグリティと品質を確認してください。



注意

光学印象データの品質および正確性が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質および正確性の光学印象データを利用してください。



注意

過度なアーチファクト、不十分な解像度、または記録のための点の欠如は、光学印象の記録に失敗する原因になるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確な記録を可能にする光学印象と3D X線撮影画像のみを使用してください。



注意

互いに一致しない光学印象の記録プロセスでマークを選択すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

光学印象データを記録する場合、3D X線撮影画像と光学印象に一致するマーキングで慎重に選択します。



注意

間違って記録された光学印象データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された光学印象が3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

セグメンテーション



注意

3D X線撮影画像の過度なアーチファクトまたは不十分な解像度は、セグメンテーションプロセスの失敗または不十分な結果につながるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトの可能性ががあります。

解剖学的構造関連のセグメンテーションの品質が十分である3D X線撮影画像のみ使用してください。



注意

セグメンテーションの品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

セグメンテーションの品質が使用目的に対して十分であるか確認してください。

41 精度

次の表はすべてのSICATアプリケーションの精度を示しています。

距離測定の精度	< 100 μm
角度測定の精度	< 1度
表示精度	< 20 μm
顎運動データに関する表示の正確性	0.6 mm以下

用語集

ADA

American Dental Association (米国歯科医師会)

FDI

Fédération Dentaire Internationale (国際歯科連盟)

SICAT JMT+

SICAT JMT+は下顎の動きを記録します。

SICATポータル

SICATポータルは、SICATにプリントを注文することのできるインターネットページです。

SIXD

光学印象を交換するためのファイルフォーマット。

SMPTE

Society of Motion Picture and Television Engineers (映画テレビ技術者協会)

SSI

光学印象を交換するためのファイルフォーマット。

STL

Surface Tessellation Language、メッシュデータを交換するための標準ファイルフォーマット (例えば、光学印象を含む)。

アプリケーション

SICATの各種アプリケーションは、いずれもSICAT Suiteに付属するプログラムです。

バイトフォーク

バイトフォークは、SICATが3D X線撮影画像のデータと顎運動データを一致させるために使用するX線不透過性マーカー付きバイトプレートです。

フレーム

3Dビューでは、フレームに2Dレイヤービューの位置が表示されます。

記録

空間配置

光学印象

光学印象は、歯、印象材または石膏モデルの3D表面撮影の結果です。

撮影結果

3D治療計画スタディは、3D X線撮影画像と、それに関する治療計画プロジェクトとで構成されます。

十字線

十字線は別のレイヤービューとの交差線です。

通知ウィンドウ

通知ウィンドウとは、完了した手順に関するメッセージを、モニター画面の右下端に表示するものをいいます。

索引

アイコン

解剖学的な咬合	144	治療位置に上書きする	174
ビュー	81	治療スプリントをショッピングカートに入れる	176
画像のツールバー	82	カートをチェックする	181
トリミング部分を移動させる	88	用途	8
十字線、フレーム	90	運動の軌跡	
輝度およびコントラスト	86	検査ウィンドウにより調整する	149
最大化と復元	85	運動経路	144
スクリーンショットの作成	94	3D ビューで表示する	148
スクロール	89	十字線により調整する	150
切替	84	CEREC	
検査ウィンドウの非表示/表示	92	咬合器値	157
検査ウィンドウの移動	91	データを書き込み禁止で開く	203
ズームング	88	データエクスポート	172
リセットする	93	アンインストール	207
アプリケーションを切り替える	49	設定	190
ワークスペース	72	一般的な設定内容を確認する、変更する	191
調整する	79	Praxis情報を表示または変更する	195
ワークスペースのツールバー	62	SICAT Function設定の表示または変更	198
MPR/放射性	77	可視化設定の変更	196
パノラマ	74	最初のステップ	38
スクリーンショットの作成	80	窩をセグメントする	130
SIDEXIS 4の出力ページヘスクリーンショットを		取扱説明書	
追加する	80	オンラインヘルプとして開く	50
TMJ	75	記号、スタイル	16
切り替える	78	概要	17
リセットする	79	インストール	20
咬合器値		アンインストール	207
一般的なお知らせ	157	JMTエリア	145
下顎頭が視認不可能な時に読み込む	163	ブックマークを管理する	147
下顎頭が視認可能な時に読み込む	161	顎運動データ	118
ユーザーインターフェース		解剖学的運動経路を再生する	145
SICAT Function	61	エクスポートする	147
SICAT Suite	48	機器	119
このバージョンの特徴	33	インポートして記録する	121
注文	173	静的な顎関係または顎運動を選択する	146
再起動後の自動アップロード	185	ライセンス	51
データを別のコンピュータから送信する	186	表示する	53
バックグラウンドでのデータ送信	182	自動アクティベート	54
アップロードの中断および続行	185	ライセンスプールに返却する	58
SICATポータル	183	手動でアクティブ化する	56
治療位置をキャンセルする	174	バウチャーコードを使用する	60
治療位置の設定	174	下顎骨をセグメントする	127
		測定	

距離測定を追加する	167	SIDEXIS 4	
測定点を移動する	170	モジュールを登録する	42
測定値を移動する	171	フェーズバー	43
概要	166	ビューのスクリーンショットを追加する	94
移動	170	ワークスペースのスクリーンショットを追加する	80
角度測定を追加する	168	SICAT Functionのスタディ	45
モジュールを登録する		タイムライン	47
SIDEXIS 4	42	SMPTEテストパターン	193
モニターキャリブレーション	193	言語	18
オブジェクト		STLインポート	140
削除する	68	サポート	199
焦点を合わせる	68	ヘルプを開く	50
オブジェクトおよびオブジェクトグループをア クティブにする	66	連絡先情報	201
オブジェクトおよびオブジェクトグループの表 示/非表示	67	サポートウィンドウを開く	200
オブジェクトグループの開閉	66	製品情報	202
オブジェクトバー	65	ツール	201
オブジェクトツールバー	68	システム要件	10
元に戻し、もう一度実行する	68	ショートカットキー	206
SICAT Functionオブジェクト	70	TMJワークスペース	76
光学印象	133	一般的なお知らせ	75
他のSICATアプリケーションから再使用する	143	咬合器値	157
インポートして記録する	135	Bonwillの三角を利用する	154
STLインポート	140	機能	151
パノラマエリア	107	上下顎中切歯の交点をセットする	153
調整する	114	下顎頭を中心に顎運動を表示する	156
閉じる	205	セグメンテーション限度の表示	155
スクリーンショット		軌跡点を移動する	152
ビューで作成する	94	SICAT Suiteの概要	18
ワークスペースを使って作成する	80	切替	
セグメンテーション	126	アプリケーション	49
窩をセグメントする	130	検査ウィンドウ	73
下顎骨をセグメントする	127	バージョン	
SICAT Function		様々な	33
ユーザーインターフェース	61	ボリュームの配置	106
SICAT Functionのスタディ		調整する	109
SIDEXIS 4内	45	バウチャーコードを使用する	60
SICATポータル	183	カート	
SICAT Suite		開く	180
ユーザーインターフェース	48	ワークフロー・ステップ	
閉じる	205	注文する	64
開始する	46	診断する	64
SICAT WebConnector	184	準備する	63
安全に関する情報	13	ワークフローのツールバー	63
危険レベル	14	ワークフロー	38
オペレーターの資格	15		

数字

3Dビュー	95
切り抜きを移動する	104
視線方向を変更する	96
表示モードを切り替える	101
表示タイプ	99
構成設定を行う	102



SICAT FUNCTION バージョン1.4

取扱説明書 | 日本語 | SIDEXIS XG

目次 - SIDEXIS XG

1 用途	6
2 バージョン履歴	7
3 システム要件	8
4 安全に関する情報.....	11
4.1 危険レベルの定義	12
4.2 オペレーターの資格	13
5 使用するアイコンおよび強調.....	14
6 取扱説明書の概要.....	15
7 SICAT Suiteの概要	16
8 SICAT Suiteのインストール	18
9 OSアップデートの確認手順を実行する	24
10 SICAT Suiteの更新、修復.....	31
11 このバージョンでの特徴.....	32
12 SICAT Functionの標準ワークフロー.....	35
13 SIDEXIS XGのプラグインとしてSICAT Suiteを登録、削除する	40
14 SICAT Suite をスタートする	42
15 SICAT Suiteのユーザーインターフェース.....	44
16 SICATのアプリケーションを相互に切り替える	46
17 取扱説明書を開く	47
18 ライセンス.....	48
18.1 「ライセンス一覧」ウインドウを開く	50
18.2 インターネット接続を使用してライセンスを有効にする	51
18.3 ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする	53
18.4 ライセンスをライセンスプールへ返却する	55
18.5 バウチャーコードを使用する	57
19 SICAT Functionのユーザーインターフェース	58
19.1 ワークフローのツールバー	60
19.2 オブジェクトバー	62
19.3 オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理	64
19.4 オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理.....	66
19.5 SICAT Functionオブジェクト.....	68

20 ワークスペース	70
20.1 パノラマワークスペースの概要	71
20.2 TMJワークスペースに関する概要	73
20.3 MPR/放射性ワークスペースの概要	75
20.4 アクティブなワークスペースを切り替える	76
20.5 アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット	77
20.6 ワークスペースのスクリーンショットを作成する	78
21 ビュー	79
21.1 ビューの調整	80
21.2 アクティブなビューの切り替え	82
21.3 ビューの最大化および復元	83
21.4 2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット	84
21.5 ビューのズームおよび切り抜きの移動	86
21.6 レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール	87
21.7 十字線およびフレームの移動、非表示、表示	88
21.8 検査ウィンドウの移動、非表示、表示	89
21.9 ビューをリセットする	91
21.10 画像のスクリーンショットを作成する	92
22 3Dビューの調整	93
22.1 3Dビューの目線を変更する	94
22.2 3Dビューの表示タイプ	96
22.3 3Dビューの表示タイプを切り替える	99
22.4 3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する	100
22.5 切り抜きを移動する	102
23 ボリュームの配置およびパノラマエリア	104
23.1 ボリュームの配置を調整する	106
23.2 パノラマエリアを調整する	111
24 顎運動データ	115
24.1 互換性のある顎運動撮影機器	116
24.2 顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録	117
25 セグメンテーション	123
25.1 下顎骨をセグメントする	124
25.2 窩をセグメントする	127
26 光学印象	130
26.1 光学印象をインポートし記録する	131

26.2	STLフォーマットの光学印象の場合の追加手順	137
26.3	他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する	139
27	解剖学的な咬合	141
27.1	顎運動と連携する	142
27.2	3Dビューで運動の軌跡を表示する	145
27.3	検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する	146
27.4	レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する	147
28	TMJワークスペースの各種機能	148
28.1	軌跡点を移動する	149
28.2	上下顎中切歯の交点をセットする	150
28.3	Bonwillの三角を利用する	151
28.4	セグメンテーション限度の表示	152
28.5	下顎頭を中心に顎運動を表示する	153
29	咬合器値	154
29.1	下顎頭が視認可能な時に咬合器値を読み込む	158
29.2	下顎頭が視認不可能な時に咬合器値を読み込む	160
30	距離/角度測定	162
30.1	距離測定を追加する	163
30.2	角度測定を追加する	164
30.3	測定、個々の測定ポイント、測定値を移動する	166
31	データエクスポート	168
31.1	「データの転送」ウィンドウを開く	169
31.2	データのエクスポート	170
32	注文プロセス	172
32.1	治療位置の設定	173
32.2	治療プリントをショッピングカートに入れる	175
32.3	カートを開く	179
32.4	カートをチェックして、注文プロセスを完了する	180
32.5	インターネット接続を使用した注文の終了	181
32.6	SICATポータルでの注文手順	182
32.7	SICAT WebConnector	183
32.8	インターネット接続を使用しない注文の終了	185
33	設定	189
33.1	一般設定の使用	190
33.2	SMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーション	192

33.3 歯科医院情報の使用	194
33.4 可視化設定の変更	195
33.5 SICAT Function設定の変更	197
34 サポート	198
34.1 サポート態勢のページを開く	199
34.2 連絡先情報およびサポートツール	200
34.3 インフォメーション	202
35 データを書き込み禁止で開く	203
36 SICAT Suiteを閉じる	205
37 ショートカットキー	206
38 SICAT Suiteのアンインストール	207
39 安全に関する注意事項	210
40 精度	218
用語集	219
索引	220

1 用途

SICAT Functionは、口腔顎顔面部分の画像情報をビジュアル化してセグメント化し、さらに、顎運動を表示する目的で使用するソフトウェアです。

画像情報は、医療スキャナ（CT/DVT/光学印象システムスキャナなど）によるものです。運動情報は、コンジロググラフィーデバイスなどによるものです。

SICAT Functionは、MKG領域における認証、診断、治療計画および咀嚼問題の治療計画において資格のある歯科医をサポートしています。

計画データはSICAT Functionからエクスポートすることができ、治療の実施のために使用されません。

2 バージョン履歴

バージョン1.4

- SICATアプリケーションには登録要件の理由により、ビューアモードでもライセンスが必要です。アプリケーションをライセンスなしで使用することはできません。SICATは使用国で許可されているアプリケーションのビューアライセンスを顧客アクティベーションキーに自動的に追加します。任意のライセンスを無効にして再度有効にすることにより、ビューアライセンスを有効にすることができます。これに関する情報はライセンス [▶ ページ 48 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- 取扱説明書はスタンドアロン版内でもSIDEXIS XGプラグイン形式の使用時でもPDFファイルとして参照可能です。
- SICAT Function 顎運動データから仮想軸を算出することができます。
- SICAT Function ボンウィル三角の辺の長さを表示します。

バージョン1.3

- SIDEXIS 4のモジュールを追加
- 表記言語をイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、オランダ語、ロシア語でサポート
- このバージョンより、SICAT Functionのバージョン番号がSICAT Suiteのバージョン番号と一致
- 顎関節症治療用スプリントについて、石膏模型を製作してからの注文を選択可能とする
- TMJ-セグメント化した下顎頭の運動を表示するワークスペース
- セグメント化のウィンドウを閉じた後でも、セグメント化の編集を続行可能とする

バージョン1.1

- 表記言語をフランス語と日本語でサポート
- ボリュームの配置の補正機能を追加
- OPTIMOTION 治療スプリントの注文
- 顎運動データのフォーマットを.jmt形式のファイルに変更
- 顎運動の軌跡とまとめて光学印象をエクスポートする機能を追加

バージョン1.0

- 初版発行
- 表記言語を英語とドイツ語でサポート

3 システム要件



お手元のシステムがシステム要件を満たしていない場合は、結果として、このソフトウェアが起動しなくなったり、または正常に機能しない可能性があります。

ソフトウェアをインストールする前に、ご使用のシステムが最小ソフトウェア/ハードウェア要件を満たしているか確認してください。

プロセッサ	クワッドコア：2.3 GHz
メインメモリ	8 GB
グラフィックカード	専用* DirectX 11以上 ビデオメモリ：2 GB 現行のドライバで、ウィンドウズ・ディスプレイ・ドライバ・メモリWDDM1.0以降のバージョンを使用できること。
ディスプレイ	画面解像度：画素密度が100%～125%のとき、1920×1080ドット以上** 画面解像度：画素密度が100%～200%のとき、3840×2160ドット以下**
ハードディスクの空き容量	20 GB、その他、データセット用の補助メモリ容量が必要
記憶媒体	インストールファイルが保存された外部記憶媒体へのアクセス
入力装置	キーボード、マウス
ネットワーク	Ethernetで、100 Mbpsまたは1000 Mbpsを推奨
患者教化用プリンター	300 dpi以上 紙形式はDIN A4またはUSレターサイズ
オペレーティングシステム	Windows 7 SP1 (64ビット版)、更新ファイルKB2670838を適用済みであること Windows 8 (64ビット版、デスクトップ) Windows 8.1 (64ビット版、デスクトップ) Windows 10 (64ビット版、デスクトップ)

ウェブブラウザ	Microsoft Internet Explorer 11以降のバージョン Mozilla Firefox 39以降のバージョン Google Chrome 44以降のバージョン JavaScriptが有効になっていること。 標準のブラウザに設定しておいてください。
PDFビューア	例えば、Adobe Reader DC以降のバージョン
SICAT Suiteをプラグインとして、SIDEIXIS XGにインストール	バージョン2.6.1（64ビット版）
SICAT Suiteをモジュールとして、SIDEIXIS 4にインストール	バージョン4.2 SiPlanAPI V4
SICAT Suiteをプラグインとして、SIDEIXIS 4にインストール	バージョン4.1.2（64ビット版）



*SICAT Suiteでご使用いただけるグラフィックカードは、パフォーマンスレベルがNVIDIA GeForce 960 GTXと同等か、または、それを上回る専用のものに限りです。統合グラフィックカードには対応していません。

**画面を低解像度にして画素密度を大きくすると、それが原因で、ユーザーインターフェースのある一部で、ソフトウェアの表示が不完全になることがあります。

ディスプレイは、SMPTEテスト画像が正確に表示されるように調整する必要があります。この調整に関する内容は、*SMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーション* [▶ ページ 192 - SIDEIXIS XG](#)をご覧ください。

前提ソフトウェア

SICAT Suiteは、以下のソフトウェア・コンポーネントを必要としますが、これらコンポーネントが未インストールのときは、SICAT Suiteがインストールを行います。

- Microsoft .NET Framework 4.5
- CodeMeterライセンス管理ソフト6.30d
- SQL Server Compact Edition 4.0
- SICAT WebConnector

SICAT WebConnectorはSICATサーバーとの通信用に特定のポートを必要とします。このポートはファイアウォール内でも有効にされている必要があります。

プロトコル	接続方向	ポート
HTTP	送信	80
HTTPS	送信	443
FTPS管理	送信	21
FTPSデータ転送	送信	49152~65534



SICAT WebConnectorがなくても注文を実行することができます。これに関する情報は注文プロセス [▶ ページ 172 - SIDEXIS XG]を参照してください。


4 安全に関する情報

安全関連の章節を以下に挙げますが、お読みいただくことが大切です。

- 危険レベルの定義 [▶ ページ 12 - SIDEXIS XG]
- オペレーターの資格 [▶ ページ 13 - SIDEXIS XG]
- 安全に関する注意事項 [▶ ページ 210 - SIDEXIS XG]

4.1 危険レベルの定義

この取扱説明書では、オペレータ要員の皆様や患者様が負傷しないようにすること、および、物的損害を予防することの両者を目的として、安全にかかわる識別表示として以下のものを使用しています。

 注意	この表示は、回避しなかった場合に、比較的、軽度の負傷を招く原因になりうる、危険な状況であることを示します。
---	---

注記	重要であるが、安全に関連していると思なされない情報を示しています。
----	-----------------------------------

4.2 オペレーターの資格



注意

資格のない者が本ソフトウェアを使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

ソフトウェアの使用は、必ず専門の知識のある有資格者が行ってください。

このソフトウェアを使用する要員の皆様は、スキルを有する熟練者の方か、または、正規の教育訓練を修了された方のいずれかに限定してください。

教育またはトレーニングを終了する、または本ソフトウェアを一般的なトレーニングの枠内で使用する場合、必ず有資格者が常時監視している状態で使用してください。

本ソフトウェアを使用するための前提条件：

- 本取扱説明書を読んでいること。
- ソフトウェアの基本構造および機能に習熟していること。
- ソフトウェアの故障を認識し、必要に応じて、適切な手順を実行することができること。

5 使用するアイコンおよび強調

アイコン

この取扱説明書では、以下の記号を使用しています。



この注意アイコンは、例えば代替手順のような追加情報を示しています。

強調

SICAT Suiteに表示される要素のテキストおよび記号は、**太字**で強調されています。これに含まれるユーザーインターフェースのオブジェクト：

- 範囲の記号
- ボタンの記号
- アイコンの記号
- 画面に表示される注意およびメッセージのテキスト

取扱説明

取扱説明は番号付きリストで記載されています。

☑ 前提条件にはこのアイコンが付けられています。

1. 手順には番号が付けられています。

▶ 中間結果はこのアイコンが付けられ、挿入されています。

2. 中間結果の後、それ以降の手順が続きます。

▶ 最終条件にはこのアイコンが付けられています。

- 一つの手順のみで構成される指示にはこのアイコンが付けられています。

6 取扱説明書の概要

SICAT Function は、他の各種アプリケーションとともに、SICAT Suiteの一部を構成します。

SICAT Suiteは、SICATの各種アプリケーションを実行させる環境を提供します。したがって、各種アプリケーションのインストールは、SICAT Suiteにより行います。これに関する情報は*SICAT Suiteのインストール* [▶ ページ 18 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

現在、SICAT Suiteとしてお使いいただけるバージョンは、3種類あります。バージョンによって、操作手順の異なるものがいくらかあります。そのため、この取扱説明書では、バージョンごとで以下のように独立させています。

- *SIDEXIS 4*のモジュールを追加
- *SIDEXIS XG*のプラグイン
- スタンドアロン版

SICAT Suiteをインストールするときは、いずれか1バージョンを選択する操作は不要です。

各種アプリケーションのアンインストールも同様に、SICAT Suiteにより行います。これに関する情報は*SICAT Suiteのアンインストール* [▶ ページ 207 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

7 SICAT SUITEの概要

SICAT Suiteは、以下のコンポーネントより構成されています。

- SICAT Function - SICAT Functionの用途については、SICAT Functionの取扱説明書をご参照ください。
- SICAT Air - SICAT Airの用途については、SICAT Airの取扱説明書をご参照ください。
- SICAT Endo - SICAT Endoの用途については、SICAT Endoの取扱説明書をご参照ください。

言語

SICAT Suiteのユーザーインターフェースは以下の言語に対応しています。

- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 日本語
- スペイン語
- イタリア語
- オランダ語
- ポルトガル語
- ロシア語

ライセンス認証

SICATアプリケーションまたは各機能を有効にするには以下の手順が必要となります。

- その場で販売担当者にご連絡ください。
- バウチャーコードを受け取ることができます。
- SICATポータルでバウチャーコードからライセンスキーが生成されます (SICATホームページからアクセス可能)。
- SICATがお客様のアクティベーションキーにライセンスキーを追加します。
- アクティベーションキーでSICATアプリケーションまたはSICAT Suiteをインストールしたコンピュータ上の各機能を有効化します。

フルバージョンおよびビューアモード

SICAT Suiteは2種類のモードでスタートすることができます。

- 最低一つのSICATアプリケーションのビューアライセンスが有効な場合、SICAT Suiteがビューアモードで起動します。
- 少なくとも一つのSICATアプリケーションのフルバージョンライセンスを有効にしている場合、SICAT Suiteはフルバージョンで起動します。

原則として以下のルールを適用しています。

- 有効なフルバージョンライセンスのあるアプリケーションはフルバージョンでスタートします。
- 有効なビューアライセンスのあるアプリケーションはビューアモードでスタートします。
- 有効なライセンスのないアプリケーションはスタートしません。
- SICAT Suiteをインストールするときに、一つのモードに決定する必要はありません。

8 SICAT SUITEのインストール



ソフトウェアに改変を加えると、結果として、このソフトウェアが起動しなかったり、または正常に機能しない可能性があります。

1. ソフトウェアのインストールに変更を加えないでください。
2. ソフトウェアのインストールディレクトリにあるコンポーネントを削除または変更しないでください。



インストールメディアが損傷すると、インストールに失敗する可能性があります。

インストールメディアは慎重に取り扱い、適切に保管してください。



お手元のシステムがシステム要件を満たしていない場合は、結果として、このソフトウェアが起動しなくなったり、または正常に機能しない可能性があります。

ソフトウェアをインストールする前に、ご使用のシステムが最小ソフトウェア/ハードウェア要件を満たしているか確認してください。



不十分な承認は、ソフトウェアインストールまたはソフトウェアアップデートが失敗する原因になる場合があります。

ソフトウェアをインストールまたはアップデートする場合、使用するシステムに十分な承認があることを確認してください。



お手元のコンピュータでは、Windowsの **オートスタート** 機能がオフに設定されていることがあります。この場合、光媒体をWindowsファイルエクスプローラーで開き、ファイル名にSICAT Suiteのバージョンが含まれる **SICATSuiteSetup.exe** ファイルを手動でスタートすることができます。

SICAT Suiteをインストールするには、次のように行います。

☑ お手元のコンピュータでは、システムの要件が満たされているようにしておいてください。これに関する情報は**システム要件** [▶ ページ 8 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

1. SICAT Suiteインストールメディアをコンピューターの光学ドライブに挿入します。

▶ オートスタートのウィンドウが開きます。



2. オートスタートのウィンドウで、**SICATSuiteSetup.exe** を実行する のオプションを選択します。このとき、ファイル名には、SICAT Suiteのバージョン番号が含まれています。

▶ ソフトウェアがコンピューター上で使用できない場合、前提ソフトウェアをインストールします。

- ▶ SICAT Suiteのインストールプログラムが起動し、はじめに のウィンドウが開きます。



3. SICAT Suiteのインストールプログラムで使用する言語は、お好みのものを、はじめに のウィンドウの右上隅から選択したら、次へ をクリックします。

- ▶ 使用許諾契約書のウィンドウが開きます。



4. エンドユーザー使用許諾契約書をもれなく通読し、使用許諾契約書に同意します。のチェックボックスにチェックマークを入れたら、次へをクリックします。

- ▶ オプションのウィンドウが開きます。



- SICAT Suiteのインストールプログラムにより、SICAT Suiteをインストールする先のフォルダが、ハードディスク上にありますが、このフォルダを変更するときは、**検索する**のボタンをクリックします。

- ▶ **フォルダを選択する**のウィンドウが開きます。

- SICAT Suiteインストールプログラムに「SICAT Suite」ディレクトリを作成させたいフォルダを参照し、**OK**をクリックしてください。

- ▶ フォルダを選択すると、SICAT Suiteのインストールプログラムが、そのフォルダへのパスを**ソフトウェアをどこにインストールしますか?**のボックス内に貼り付けます。

- お手元のコンピュータにSIDEXIS XGか、または、SIDEXIS 4がインストールしてある場合、**SIDEXIS 搭載の SICAT Suite を使用したい**のチェックボックスは、入力が可能です。SICAT Suiteの登録は、インストール中でも可能ですが、後ほど、SIDEXIS XGのプラグインか、または、SIDEXIS 4のモジュールとして、マニュアル操作によっても結構です。

- ▶ **SIDEXIS 搭載の SICAT Suite を使用したい**のチェックボックスにチェックマークを入れた場合、**デスクトップにショートカットを作成します**のチェックボックスは、グレースアウト表示で入力できません。

- 入力が可能な場合は、**デスクトップにショートカットを作成します**のチェックボックスにチェックマークを入れるか外すかのいずれかを行います。

- インストールする**のボタンをクリックします。

- ▶ 進捗状況のウィンドウが開きます。



- ▶ SICAT Suiteと残りの前提ソフトウェアをインストールします。
- ▶ インストールが完了すると、確認のウィンドウが開きます。



10. **終了する**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteインストールプログラムが閉じます。

9 OSアップデートの確認手順を実行する



OSに改変を加えると、結果として、SICATアプリケーションが起動しなかったり、または正常に機能しない可能性があります。

1. SICATアプリケーションを起動する前に、必ずお手元のコンピュータのオペレーションシステムが前回SICATアプリケーションを使用してからアップデートやセキュリティアップデートをインストールしたかを確認してください。
2. お手元のコンピュータのオペレーションシステムに更新プログラムまたは背景レディアップデートがインストールされている場合、取扱説明書に記載されている必要手順でSICATアプリケーションのチェックを実行してください。
3. SICATアプリケーションの動作が取扱説明書に記載されている動作と異なる場合、ソフトウェアをそれ以上使用せず、直ちにSICATサポートまでお問い合わせください。

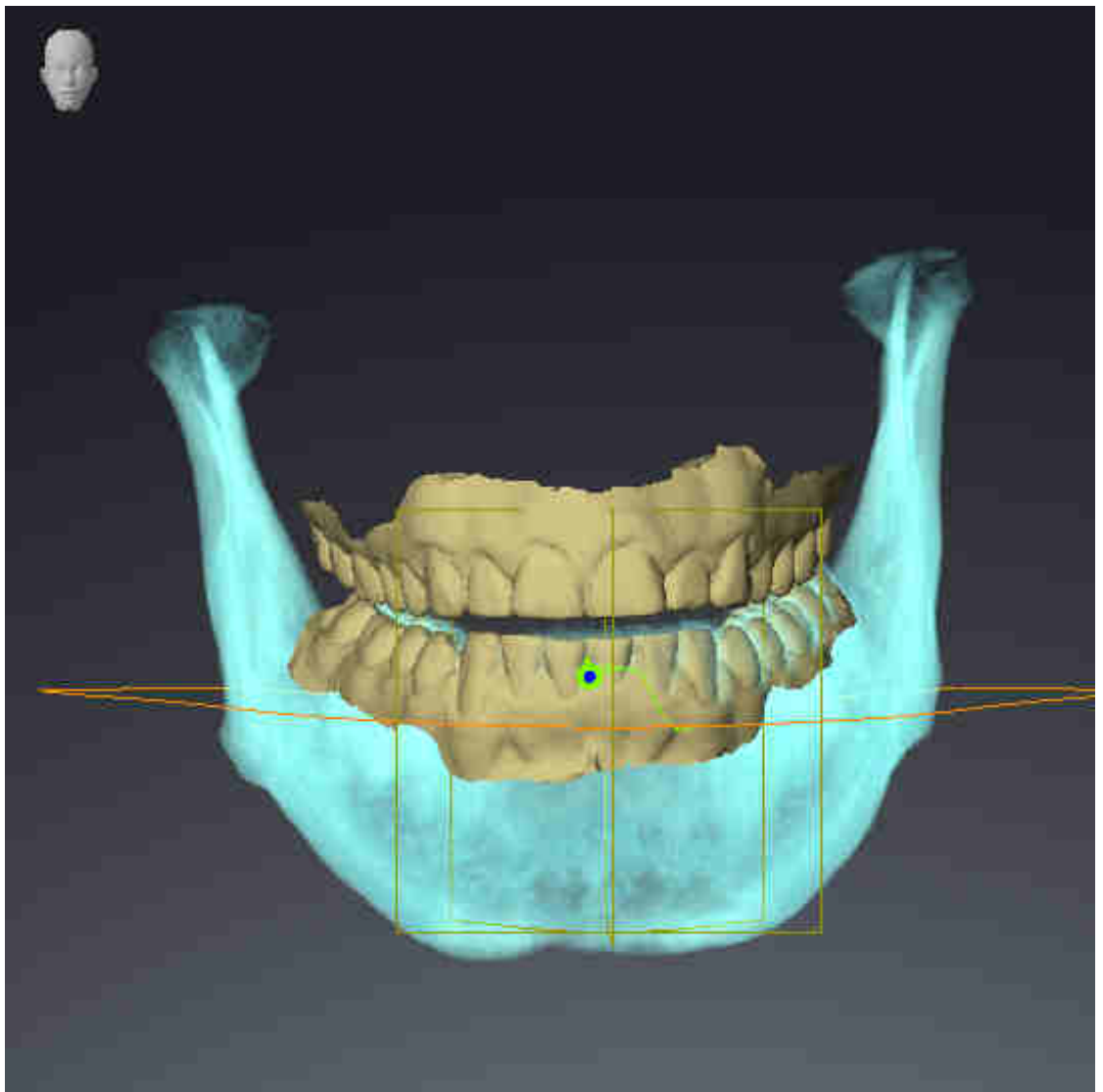
お使いのコンピュータのオペレーションシステムに更新プログラムがインストールされている場合、SICAT Functionが正常に動作しているか確認します。以下の点検手順を実行してください。点検中に異常を発見した場合は影響を受けるコンピュータ上のSICAT Functionの使用を中止し、SICATサポートまでお問い合わせください。

準備

1. 誰も意図せぬ変更をしていないことを確認するために、患者「Axx Patient」を削除します。
2. ファイル「SICATSuite_ReferenceDataset_1.4.zip」から基準データセットをインポートします。SICAT Suiteのインストールメディア状にデータセットがあります。
3. 基準データセット「Patient Axx」をSICAT Functionで開きます。

下顎骨セグメンテーション

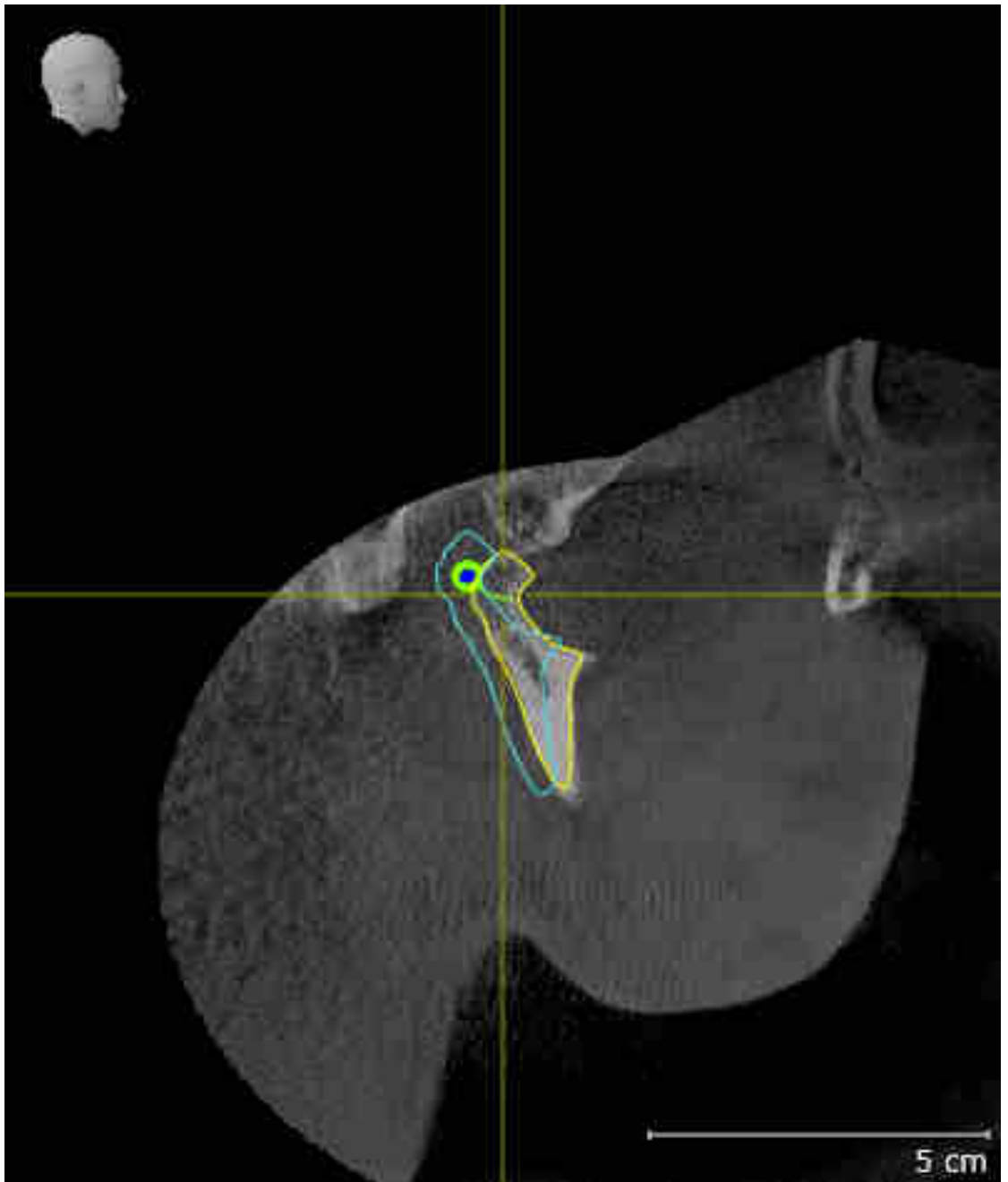
1. パノラマワークスペースが有効であることを確認してください。
2. ビューを標準値に戻します。
3. 3Dビューが3DX線撮影画像を前方から示しているか確認してください。
4. 表示モードを背景領域を非表示にするにセットしてください。
5. リストアクティブな顎関係：から要素「lateral_lt.1」を選択してください。
6. 以下のスクリーンショットで3Dビューを比較してください。特に、下顎骨セグメンテーションと光学印象の表示をチェックします。



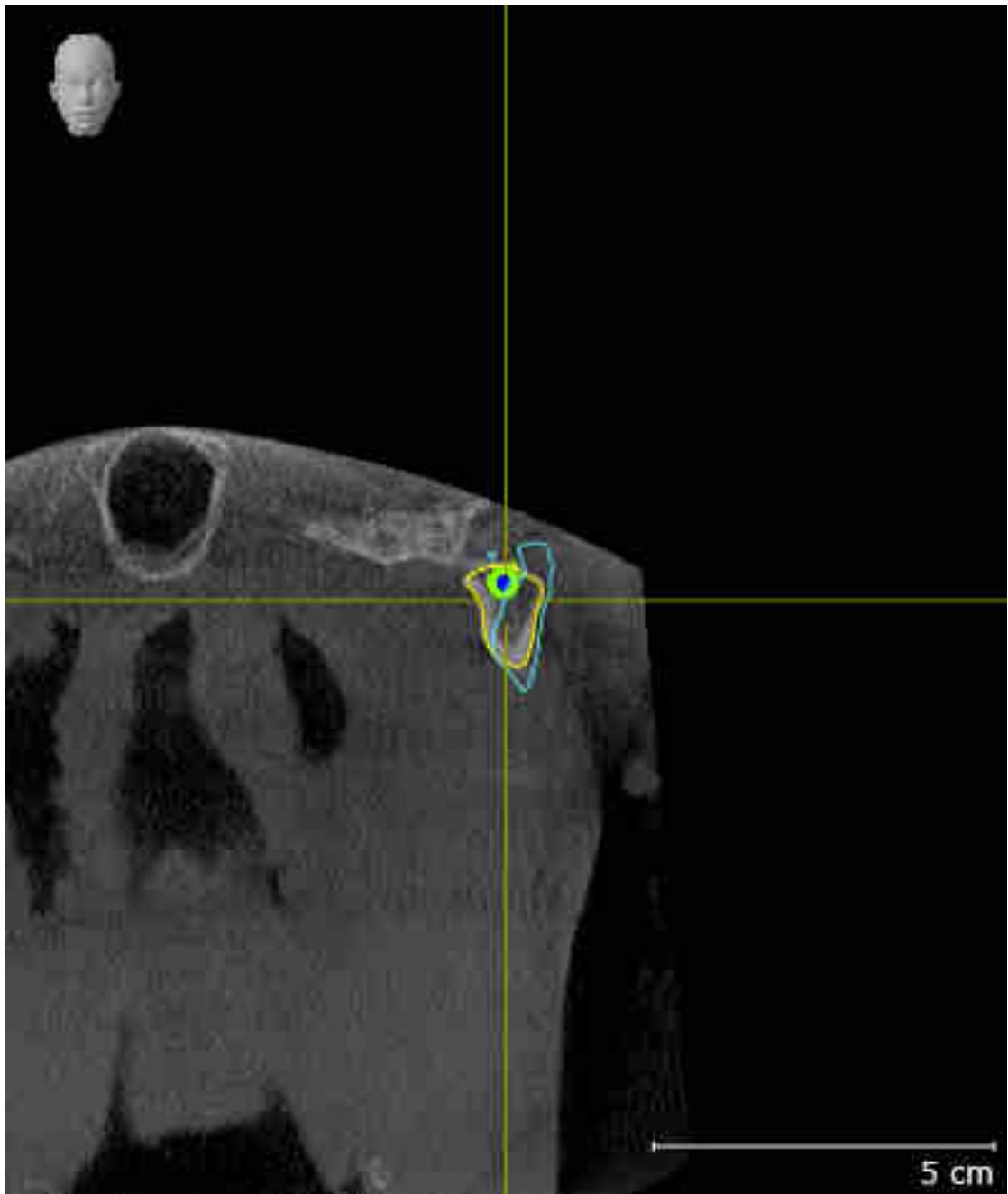
顎運動データ

1. TMJワークスペースが有効であることを確認してください。
2. 輝度およびコントラストに対する値がそれぞれ基準値の50%に一致していることを確認してください。
3. リストアクティブな顎関係：から要素「lateral_lt.1」を選択してください。
4. オブジェクトブラウザの下ボリューム-部位 > 下顎骨で要素 下顎の右側を選択し、その要素に焦点を合わせてください。
5. オブジェクトブラウザの下ボリューム-部位 > 下顎骨で要素 下顎の左側を選択し、その要素に焦点を合わせてください。
6. オブジェクトブラウザで要素ボリューム-部位を選択してください。
7. プロパティエリアでオプションセグメンテーション限度の表示を有効化してください。

8. 以下のスクリーンショットで **右顆状突起 矢状方向ビュー**を比較してください。



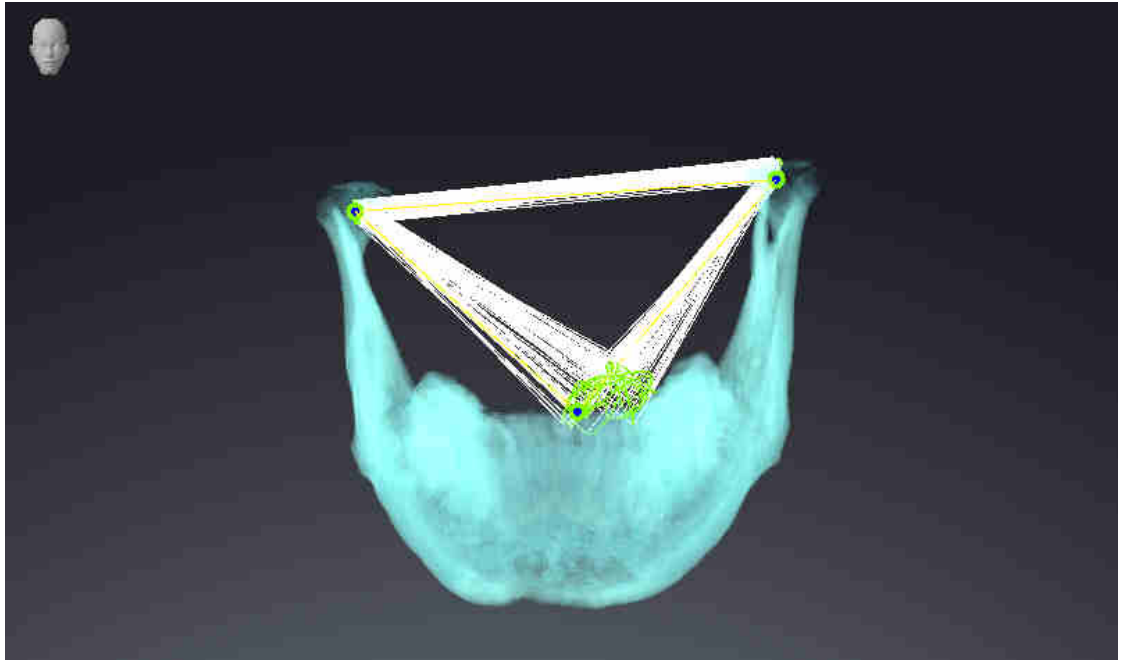
9. 以下のスクリーンショットで **左顆状突起 冠状ビュー**を比較してください。



BONWILLの三角

1. TMJワークスペースが有効であることを確認してください。
2. 3Dビューが3DX線撮影画像を前方から示しているか確認してください。
3. オブジェクトブラウザで要素**顎運動データ**を選択してください。
4. プロパティエリアでオプション**Bonwillの三角**を有効化してください。ステップ幅に対する値が5であることを確認してください。
5. リストアクティブな顎関係：から要素「chewing.1」を選択してください。

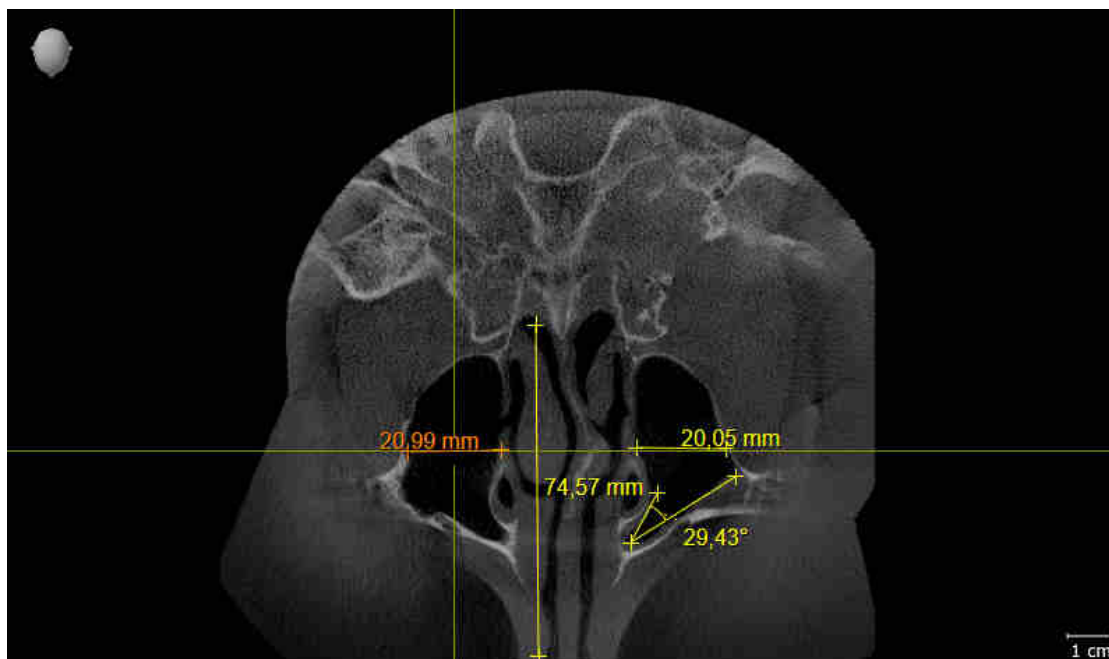
6. 3Dビューの表示モードを背景領域を非表示にするにセットしてください。
7. 光学印象を非表示にします。
8. 以下のスクリーンショットで3Dビューを比較してください。特に、ボンウィル三角の描画と使用可能なトラッキングポイントをチェックします。



測定

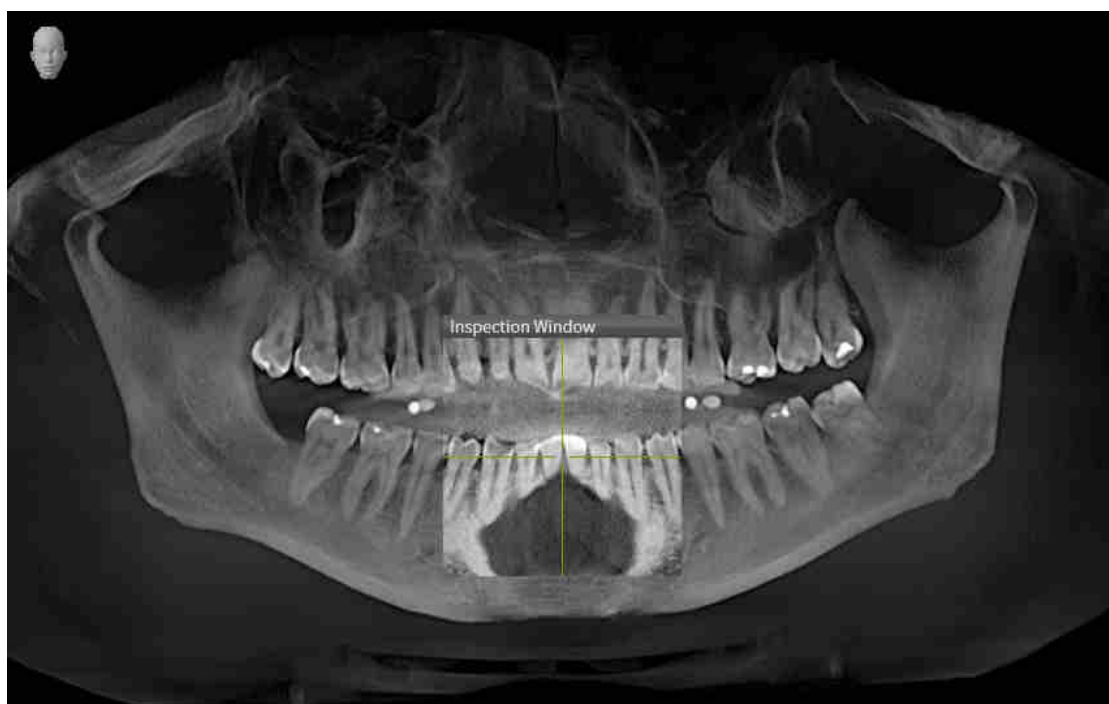
1. MPR/放射性ワークスペースが有効であることを確認してください。
2. 軸方向ビューで輝度およびコントラストに対する値がそれぞれ基準値の50%に一致していることを確認してください。
3. オブジェクトブラウザの測定下で要素「20,99 mm」を選択し、その要素に焦点を合わせてください。

4. 以下のスクリーンショットで **軸方向** ビューを比較してください。測定オブジェクトの表示を特にチェックしてください(20,99 mm、 20,05 mm、 74,57 mmおよび29,43°)。



パノラマビュー

1. パノラマワークスペースが有効であることを確認してください。
2. ビューを標準値に戻します。
3. 以下のスクリーンショットで **パノラマビュー**を比較してください。特にパノラマビューと検査ウィンドウの表示を確認してください。



10 SICAT SUITEの更新、修復

SICAT SUITEの更新

SICAT Suiteを更新するときは、SICAT Suiteのインストールプログラムを起動して、**更新する**のボタンをクリックしてください。更新にあたって、インストールプログラムは、最初にSICAT Suiteの旧バージョンをアンインストールします。データと設定内容は、いずれももれなく保持されます。



SICAT Suiteのスタンドアロン版では、バージョンの更新にあたって、患者カルテフォルダの更新が必要です。新規バージョンの初回起動時や、更新前の患者ファイリングを開いた場合、SICAT Suiteでは、患者カルテフォルダの更新を希望するかどうかを尋ねてきます。尋ねるメッセージを確認したら、SICAT Suiteは、患者ファイルの更新を自動で行います。**注意！更新後の患者ファイルは、SICAT Suiteの旧バージョンで使用することができなくなります。**



SIDEXIS XGをSIDEXIS 4.1.3以降のバージョンに更新し、その後、SICAT Suiteを更新すると、SICAT Suiteのインストールプログラムは、SICAT SuiteをSIDEXIS 4のモジュールとして登録します。3D X線撮影画像を開くと、SICAT Suiteでは、その3D X線撮影画像に関する3D治療計画スタディがSIDEXIS XG内に存在するかどうかをチェックし、存在すれば、そのスタディをSIDEXIS XGからSIDEXIS 4へ適用します。

SICAT SUITEの修復

SICAT Suiteを修復するときは、SICAT Suiteのインストールプログラムを起動して、**修理する**のボタンをクリックしてください。データと設定内容は、いずれももれなく保持されます。

SICAT Suiteでは、更新と修復の両方で、SICAT Suiteのインストールプログラムを使用します。これに関する情報はSICAT Suiteのインストール [▶ ページ 18 - SIDEXIS XG]を参照してください。

11 このバージョンでの特徴

SICAT Functionを単独で使用するか、他のソフトウェアと併用するかに応じて、特定のエリアに違いがあります。

SIDEXIS XGのプラグインとしてマニュアル操作により記録します

SICAT Suiteは、インストール中に自動で埋込が行われますが、さらに、SIDEXIS XGのプラグインとしてマニュアル操作により記録や削除を行うことができます。これに関する情報は *SIDEXIS XGのプラグインとしてSICAT Suiteを登録、削除する* [▶ ページ 40 - *SIDEXIS XG*] を参照してください。

プログラムの起動

SIDEXIS XGのプラグインとした場合、SICAT Suiteは、外部のアプリケーションとして起動します。SICAT SuiteをSIDEXIS XGのプラグインとして起動させる手順は、*SICAT Suite* をスタートする [▶ ページ 42 - *SIDEXIS XG*] の節をご覧ください。

患者データ、立体画像のデータ

SIDEXISに結合したバージョンのSICAT Functionでは、SIDEXISの患者データとボリュームデータを利用します。したがって、データのバックアップは、SIDEXIS向けで設定されている手順に沿って行われます。



患者データに加えて、SICATの各種アプリケーションのユーザー設定内容についても、バックアップ保存を行っておくのがよいでしょう。ユーザー設定内容は、各ユーザー別に2つのディレクトリに分割して保存されています。これら2つのディレクトリを開くときは、Windowsのエクスプローラで、アドレスバーに `%appdata%\SICAT GmbH & Co. KG` と `%localappdata%\SICAT GmbH & Co. KG` を入力してください。

設定

SIDEXISに結合したバージョンでは、SICAT Suiteで表示されるパラメータが、いくらかの設定内容のものだけに限定されますが、その理由は、SICAT Suiteで適用されるのがSIDEXISの設定内容であるためです。

ライセンス

スタンドアロン版と、別のソフトウェアに結合した、SICAT Suiteのバージョンは、いずれも共通のライセンスで使用できます。SICAT Suiteをインストールするときに、一つのバージョンに決定する必要はありません。

スタディで、書込権限のあるものとなないものを開く



SIDEXIS XGとSICAT Suiteが作動しているコンピューターが一つのネットワーク環境にあり、SIDEXIS XGとネットワーク構成がこれを可能にするなら、SIDEXIS XGはマルチワークステーションインストールの一部となることができます。これにより、別のワークステーションで開かれているデータセットを書き込み禁止のAモードのみで開けるようになります。

SICAT Functionのスタディで変更を行って、変更内容を保存できるようにするためには、以下の条件を満たしておく必要があります。

- SICAT Functionのフルバージョンライセンスのアクティベーションを完了しておくこと。
- SICAT Functionのスタディが所属する3D X線撮影画像を開いているワークステーションが他にないこと。

ライセンスのアクティベーションが完了していなければ、SICAT Functionのスタディでは、変更と変更内容の保存がいずれもできません。ビューアライセンスをアクティベーション済みの場合、3DX線撮影画像とSICAT Functionスタディを表示することができます。

以下の表には、ライセンスのアクティベーション状況に応じた、機能の利用可否を示します。

機能	フルバージョンライセンスはアクティベーション済み	ビューアライセンスはアクティベーション済み	ライセンスはアクティベーションが未完了
サポート領域	有	有	有
一般設定	有	有	有
SICAT Function-設定	有	有	無
変更を行う	有	無	無
変更内容を保存せず、データを確認する	無	有	無
ヘルプ	有	有	有

以下の場合にはビューアライセンスがなくてもSICAT Function のスタディを参照することができます。

- SIDEXIS 4からSICAT Functionのスタディを外部にエクスポートし、他のコンピューター上のデータをSIDEXISにインポートします。SICAT Function このコンピューター上にインストールされている必要があります。
- SIDEXIS 4から外部に SICAT Functionのスタディを含むWrap&Goパッケージを作成します。他のコンピューターにWrap&Goパッケージをインストールしてください。SICAT Functionの後にインストールしてください。

いずれの場合でも計画の変更も保存もできません。

アプリケーションのライセンスに対して、アクティベーションが完了していても、条件によっては、SICAT Functionのスタディで変更を行ったり、変更内容を保存したりが、いずれもできないときがあります。その原因として、例えば注文プロセス実行中の場合が考えられます。

詳細はデータを書き込み禁止で開く [▶ ページ 203 - SIDEXIS XG](#)を参照してください。

12 SICAT FUNCTIONの標準ワークフロー



情報システムにあるセキュリティの脆弱性は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

1. 情報処理のシステム環境において、セキュリティ上の脅威を発見し、それらを回避するために、組織内部で指針を定めて周知するよう、徹底してください。
2. 最新のウィルススキャナをインストールし、ウィルススキャンを実行してください。
3. ウィルススキャナの定義ファイルを定期的に更新してください。



ワークステーションへの不正なアクセスは、患者データの秘密情報およびインテグリティに関するリスクにつながるおそれがあります。

ワークステーションへのアクセスは資格のある人に限定してください。



サイバーセキュリティの問題は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

お手元のSICATアプリケーションにおいて、サイバーセキュリティにかかわるトラブルの疑いがあるときは、直ちにテクニカルサポートまで、ご連絡ください。



SICATアプリケーションデータを信頼できないネットワークファイルシステムに保存すると、データの損失につながるおそれがあります。

ネットワーク管理者と共に、SICATアプリケーションデータを希望のネットワークファイルシステムに保存できるようにしてください。



SICAT Suiteおよび付属のSICATアプリケーションを他の機器と一つのコンピューターネットワークまたはメモリーネットワーク内で供用すると、患者、ユーザー、その他の人に未知の危険が及ぶおそれがあります。

ネットワークに関連する危険を特定、分析、判断するため、各組織内で規則を作成してください。



ネットワーク環境を変更すると、新しい危険につながるおそれがあります。例えば、ネットワーク構成の変更、追加機器またはコンポーネントのネットワークへの接続、機器またはコンポーネントのネットワークからの分離、ネットワーク機器またはコンポーネントのアップデートまたはアップグレードなどです。

ネットワークを変更する度に、新たなネットワークリスク分析を実施してください。



SICAT Suiteを使った作業を始める前に、本取扱説明書および、特にすべての安全上の注意事項をよくお読みください。後で情報を調べる時のため、本取扱説明書は手元に置いてください。

データセット

SICAT Function では、以下に挙げる、3種類の異なるデータセットを結合します。

- 3D X線撮影画像。例として、Sirona GALILEOSによるものがあります。
- 顎運動データ。例として、SICAT JMT*によるものがあります。
- デジタル光学印象。例として、Sirona CERECによるものがあります。

インストール

SICAT Suiteをインストールする手順は、*SICAT Suite*のインストール [▶ ページ 18 - *SIDEXIS XG*] の節をご覧ください。

*SIDEXIS XG*のプラグインとしてSICAT Suiteを登録する手順は、*SIDEXIS XG*のプラグインとして *SICAT Suite*を登録、削除する [▶ ページ 40 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

フルバージョンで使用可能にする

- SICAT Functionのライセンスが取得済みのときは、ライセンスのアクティベーションを行って、フルバージョンで使用できるようにします。これに関する情報はライセンス [▶ ページ 48 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。



SICAT Functionのライセンスを取得していない場合は、3D X線撮影画像をビューアモードで個別に開いてください。ビューアモードに関する内容は、データを書き込み禁止で開く [▶ ページ 203 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

設定

各種設定について、お好みの内容に変更するときは、**設定**のコーナーから行ってください。これに関する情報は設定 [▶ ページ 189 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

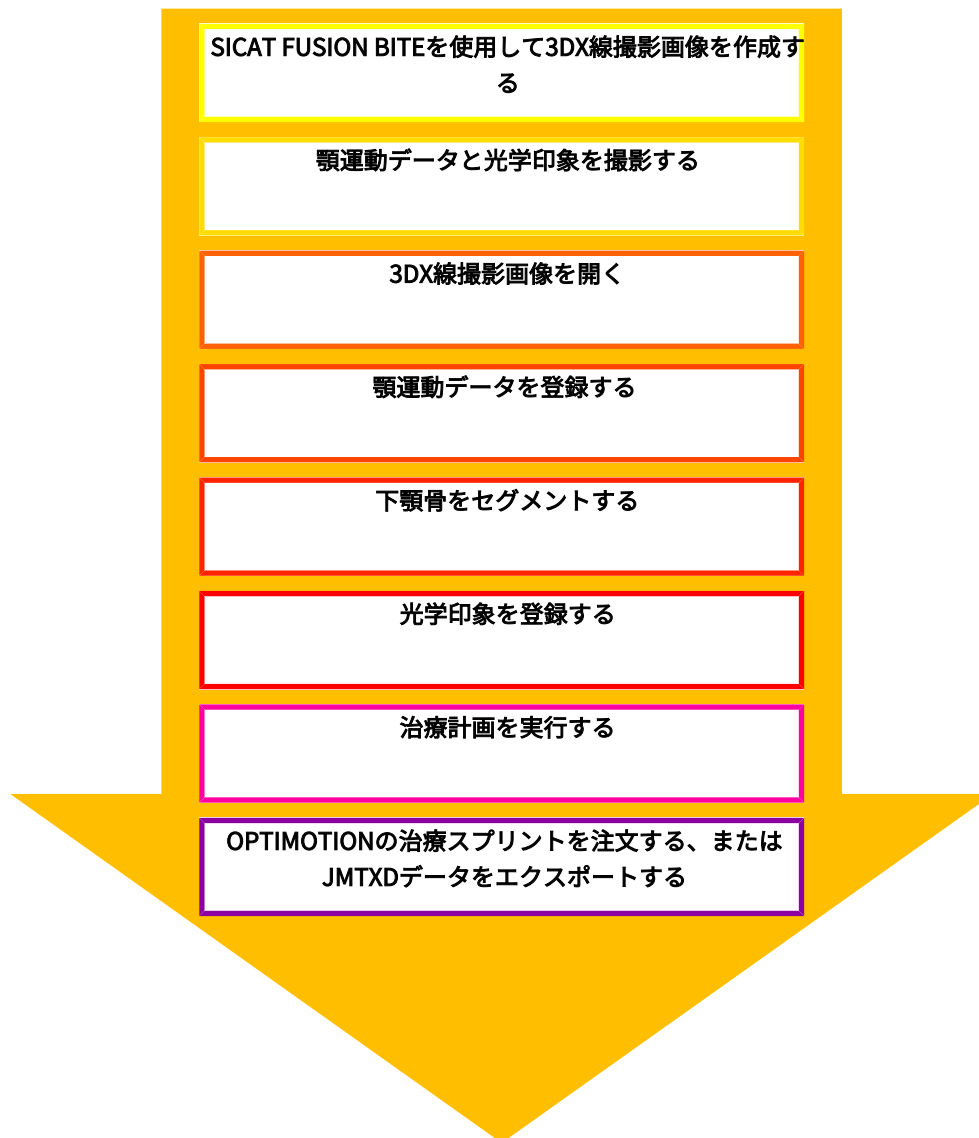
データセットを収集する

1. 患者の3D X線撮影画像は、患者がSICAT Fusion Biteを咬合している間に作成します。この手順に関する内容は、SICAT JMT+のクイックガイドをご覧ください。
2. 患者専用の顎運動データを撮影します。この手順に関する内容は、SICAT JMT+の取扱説明書をご覧ください。
3. 上顎骨と下顎骨のデジタル光学印象を作成します。この手順に関する内容は、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

データセットを開く

- SIDEXIS XGのデータを使って作業するために、SIDEXIS XGで3D X線撮影画像が含まれる検査を開き、SICAT Suiteをスタートします。これに関する情報はSICAT Suite をスタートする [▶ ページ 42 - SIDEXIS XG]を参照してください。

SICAT FUNCTIONの処理手順



SICAT FUNCTIONでデータセットを編集する

1. 必要に応じて、ボリュームの配置とパノラマエリアを調整します。これに関する情報は**ボリュームの配置およびパノラマエリア** [▶ ページ 104 - SIDEXIS XG]を参照してください。
2. SICAT Functionで、顎運動データをインポートして記録します。これに関する情報は**顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録** [▶ ページ 117 - SIDEXIS XG]を参照してください。
3. 下顎骨、さらに必要に応じて、切歯窩をセグメント化します。患者との練習に関する情報は**下顎骨をセグメントする** [▶ ページ 124 - SIDEXIS XG]と**窩をセグメントする** [▶ ページ 127 - SIDEXIS XG]を参照してください。
 - ▶ SICAT Function では、インポートした、顎運動データを、3D画像としてビジュアル化します。

4. 3D X線撮影画像のデータとともに、光学印象をインポートして記録します。これに関する情報は[光学印象をインポートし記録する \[▶ ページ 131 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。
5. **TMJ**ワークスペースで、顎運動を評価します。患者との練習に関する情報は[TMJワークスペースに関する概要 \[▶ ページ 73 - SIDEXIS XG\]](#)と[TMJワークスペースの各種機能 \[▶ ページ 148 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。セグメンテーションが行われない場合は特に、解剖学的な運動経路を補助ツールとして使用してください。これに関する情報は[3Dビューで運動の軌跡を表示する \[▶ ページ 145 - SIDEXIS XG\]](#)、[検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する \[▶ ページ 146 - SIDEXIS XG\]](#)、[レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する \[▶ ページ 147 - SIDEXIS XG\]](#)と[顎運動と連携する \[▶ ページ 142 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。
6. 顎関節症治療用スプリントのOPTIMOTION用に、治療位置を決定します。これに関する情報は[治療位置の設定 \[▶ ページ 173 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。
7. OPTIMOTIONの治療スプリントを注文してください。これに関する情報は[注文プロセス \[▶ ページ 172 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。
8. 例えば、セカンドオピニオンを求める場合、データをエクスポートします。これに関する情報は[データエクスポート \[▶ ページ 168 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。

データセットを使用する作業を終了する、中断する

- 作業を終了または中断する時は、SICAT Suiteを閉じて、これを保存してください。これに関する情報は[SICAT Suiteを閉じる \[▶ ページ 205 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。

取扱説明書、サポート

取扱説明書は、**SICAT Suite ヘルプ**のウィンドウからご覧ください。これに関する情報は[取扱説明書を開く \[▶ ページ 47 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。

それ以降のサポートは、**サポート**のページをご覧ください。これに関する情報は[サポート \[▶ ページ 198 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。

13 SIDEXIS XGのプラグインとしてSICAT SUITEを登録、削除する



SICAT SuiteをSIDEXIS XGへインストールし、該当するチェックボックスにチェックマークを入れておくと、SICAT Suiteのインストールプログラムは、プラグインとしての登録を自動で行います。このインストールに関する内容は、*SICAT Suite*のインストール [▶ ページ 18 - SIDEXIS XG]の節をご覧ください。

「NGPLUGINMANAGER」ウィンドウを開く

1. Windowsのキーを押して、**SIDEXIS Manager**を入力し、**SIDEXIS Manager**アイコンをクリックします。
 - ▶ **SIDEXIS Manager** のウィンドウが開きます。
2. **SIDEXIS Manager** のウィンドウで、**NGPluginManager**のアイコンをクリックします。
3. 必要に応じて、Windowsのユーザーアカウント制御のメッセージが出力されますので、それを承諾します。
 - ▶ **プラグイン・マネジャー** のウィンドウが開きます。

SICAT SUITEを登録する

- ☑ SICAT Suiteを正常にインストールします。これに関する情報は*SICAT Suite*のインストール [▶ ページ 18 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- ☑ **プラグイン・マネジャー**ウィンドウはすでに開いています：
 1. **Add**のボタンをクリックします。
 - ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。
 2. SICAT Suiteのインストールディレクトリに切り替えます。名称は、例えば、C:\Program Files\SICAT\SICAT Suiteになっています。
 3. Sicat.PlanAndTreat.XG.exeのファイルを選択します。
 4. **開く**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは、SIDEXISのプラグインとして登録しておきます。

SICAT SUITEアイコンをセットする

1. ビューのメニューで、**設定**のアイテムをクリックします。
 - ▶ **設定**ウィンドウが開き、そこに**コマンド**のタブがあります。
2. **カテゴリ**で、**プラグイン・プログラム**項目をクリックします。
3. **設定**ウィンドウから、SIDEXIS XGアイコンバー内でご希望の位置まで、**SICAT Suite**のアイコンをドラッグします。

SICAT SUITEを削除する

- SICAT Suiteは、プラグインとしてSIDEXISに登録してある状態にしておきます。
 - プラグイン・マネジャー**ウィンドウはすでに開いています：
1. **SICAT Suite**項目を選択します。
 2. **Remove**のボタンをクリックします。
 3. SIDEXISを再起動します。
- ▶ 以上で、SICAT SuiteをSIDEXISのプラグインとして使用することは、できなくなります。

14 SICAT SUITE をスタートする



注意

患者名や3D X線撮影画像の突き合わせでミスがあると、結果として、患者を撮影した画像の取り違えを招くことになりかねません。

3D X線撮影ビューで、インポートしようとしているものや、すでにSICATのアプリケーションに読み込み済みのものがあれば、突き合わせる先の患者名が正しいこと、突き合わせる撮影画像に関する情報が正しいことをいずれもチェックしてください。



注意

不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。



注意

不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。

SICAT Functionを開始するには、まずSICAT Suiteを起動する必要があります。

SIDEXIS XGのプラグインとしたSICAT Suiteを起動させるときは、次の手順で行います。

- ☑ SICAT Suiteを正常にインストールします。これに関する情報は*SICAT Suiteのインストール* [▶ ページ 18 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- ☑ SICAT Suiteは、SIDEXIS XGのプラグインとして登録を完了させておきます。これに関する情報は*SIDEXIS XGのプラグインとしてSICAT Suiteを登録、削除する* [▶ ページ 40 - SIDEXIS XG]を参照してください。SIDEXIS XGへSICAT Suiteをインストールすると、登録は、自動で行うことが可能です。
- ☑ SICAT Suiteボタンは、すでにSIDEXIS XGに作成されています。
- ☑ SIDEXIS XGで、3D X線撮影画像を開いておきます。

- SICAT Suiteのボタンをクリックします。

- ▶ SICAT Suiteにより、SICATのアプリケーションの1つでデータセットが開きます。



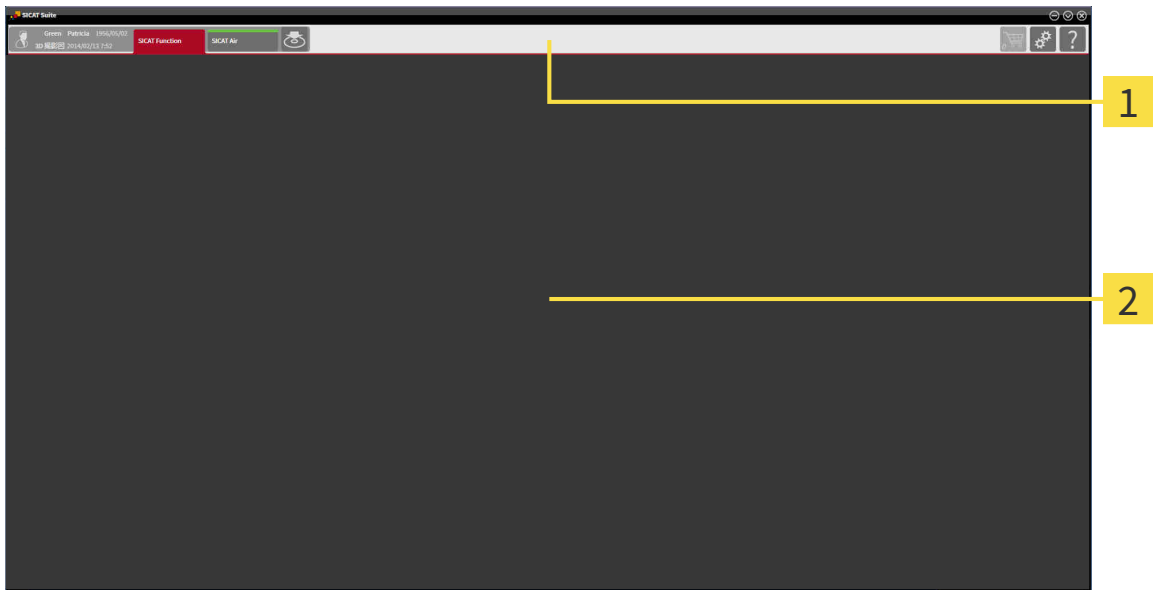
3D X線撮影画像を、それが関係するスタディなしに開き、かつ、ライセンスのアクティベーションを完了している、SICATのアプリケーションが1つのみのときは、そのSICATのアプリケーションが起動します。3D X線撮影画像を、それが関係する、複数のスタディとともに開き、かつ、ライセンスのアクティベーションを完了している、SICATのアプリケーションが複数あるときは、前回、スタディに変更を加えたアプリケーションが起動します。



次の2つの場合、データセットはビューアモードでしか開きません：ライセンスがアクティブになっていない場合、または別のSIDEXIS XGワークステーションがそのデータセットを使用している場合。ビューアモードに関する内容は、[データを書き込み禁止で開く](#) [▶ ページ 203 - SIDEXIS XG]の節をご覧ください。

15 SICAT SUITEのユーザーインターフェース

SICAT Suiteのユーザーインターフェースは、以下のアイテムから構成されています。



1 ナビゲーションバー

2 アプリケーション領域

- SICAT Suite 上端のナビゲーションバーは、各種ウインドウとアプリケーション間で切り替えるためのタブが表示されます。
- **アプリケーション領域**は、SICAT Suiteの上記以外の部分にあって、SICATのアプリケーションのうち、開いているもののユーザーインターフェースを表示します。

ナビゲーションバーは、2つの異なるエリアから構成されています。左側のエリアと右側のエリアは常に表示されています。

左側のエリアには次のタブがあります。



- **患者データ、ボリュームデータ** - 作業対象として選択している患者データとボリュームデータの属性で、SIDEXIS XGの設定内容に応じて異なります。

- **アプリケーション** - ボタンを利用すると、SICATの各種アプリケーションを相互に切り替えることができます。これに関する情報は *SICATのアプリケーションを相互に切り替える* [▶ ページ 46 - *SIDEXIS XG*] を参照してください。



- **データを共有する** - これに関する情報は *データエクスポート* [▶ ページ 168 - *SIDEXIS XG*] を参照してください。

右側のエリアには次のタブがあります。



- カート - これに関する情報は注文プロセス [▶ ページ 172 - SIDEXIS XG]を参照してください。



- 設定 - これに関する情報は設定 [▶ ページ 189 - SIDEXIS XG]を参照してください。



- サポート - これに関する情報はサポート [▶ ページ 198 - SIDEXIS XG]を参照してください。

16 SICATのアプリケーションを相互に切り替える

SICATアプリケーションを相互に切り替えるには、次のように行います。



- ナビゲーションバーから、SICATのアプリケーションで、切替をご希望のものが表示されている方のボタンをクリックしてください。
- ▶ SICAT Suiteは、選択したアプリケーションに切り替わります。

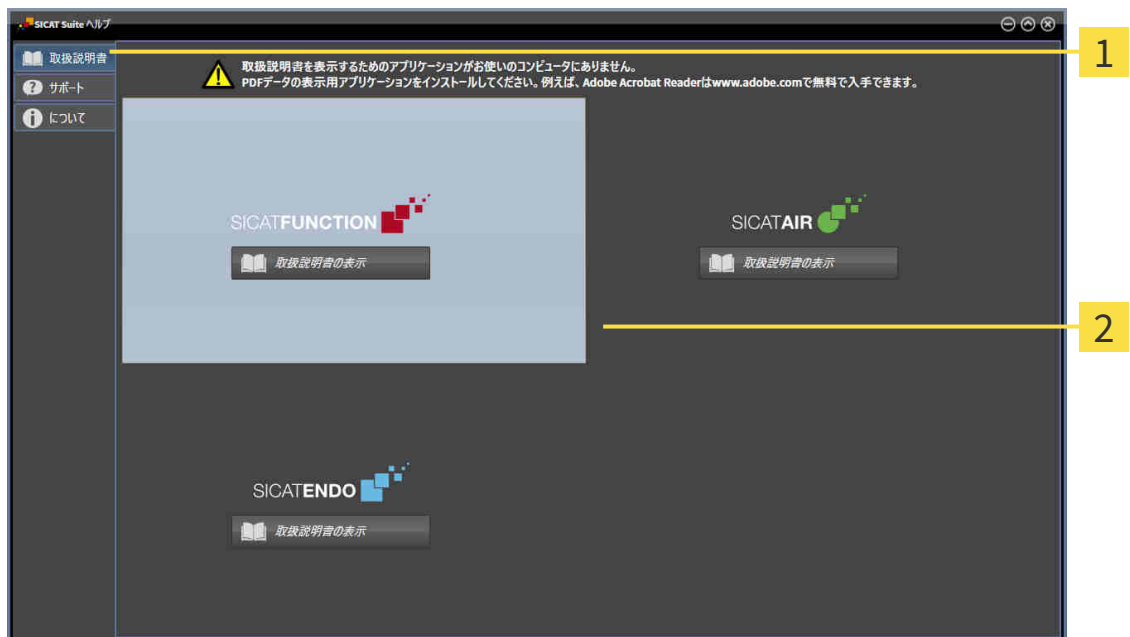
17 取扱説明書を開く

サポートウィンドウを経由することで、SICATアプリケーションの取扱説明書をPDFファイル形式で参照可能です。



サポートウィンドウは、ナビゲーションバーのサポートアイコンをクリックする、またはF1ボタンをクリックすることによって開くことができます。

サポートウィンドウは、以下に示す外観です。



1 タブ 取扱説明書

2 ウィンドウ 取扱説明書

希望するヘルプは、**取扱説明書を表示する**ボタンをクリックして開くことができます。

18 ライセンス

SICAT Suiteはライセンスがアクティベート済みのSICATアプリケーションのみ表示します。



SICAT SuiteのSIDEXISと接続されたバージョンではSICAT Function治療計画も有効なSICAT Functionライセンスなしで表示することができます。

以下の種類のライセンスがあります。

- ビューアライセンスがあればアプリケーションをビューアモードで無期限使用することができます。
- デモライセンスでは一つまたは複数のSICATアプリケーションのフルバージョンに期間限定でアクセスすることができます。
- フルバージョンライセンスでは一つまたは複数のSICATアプリケーションのフルバージョンに無期限でアクセスすることができます。

SICATアプリケーションまたは各機能を有効にするには以下の手順が必要となります。

- その場で販売担当者にご連絡ください。
- バウチャーコードを受け取ることができます。
- SICATポータルでバウチャーコードからライセンスキーが生成されます (SICATホームページからアクセス可能)。
- SICATがお客様のアクティベーションキーにライセンスキーを追加します。
- アクティベーションキーでSICATアプリケーションまたはSICAT Suiteをインストールしたコンピュータ上の各機能を有効化します。

以下はライセンスの有効化および無効化に適用されます。

- お客様が受け取るSICATアプリケーションのライセンスキーはお使いの国で許可されているものだけです。
- コンピューター上でアクティベーションキーを有効化すると、含まれているSICATアプリケーションの各ライセンスまたは機能がコンピューターに結合されます。使用したライセンスは、もう別のコンピューターでのアクティベーションに使用することはできません。
- ライセンスは、各SICATアプリケーションまたは各機能用に無効化することができます。ライセンスを返却すると、そのライセンスをあらためてアクティベーションできるコンピュータは、同一または別の違いを問いません。
- SICATアプリケーションのフルバージョンライセンスを返却した場合、お使いの国で許可されている限り、自動的にビューアライセンスを受け取ります。
- フルバージョンライセンスを有効化すると、自動的にお使いの国で許可されている全てのアプリケーション用のビューアライセンスを受け取ります。

バウチャーコードをアクティベーションキーと交換する方法はバウチャーコードを使用する [▶ ページ 57 - SIDEXIS XG]をご覧ください。

お手元のコンピューターでアクティベーションが完了しているライセンスについては、**ライセンスの概要**のウィンドウで概要をご覧ください。デモライセンス使用時はSICAT Suiteは有効期限を表示します。これに関する情報は「**ライセンス一覧**」ウィンドウを開く [▶ ページ 50 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

ライセンスは次の二通りの方法で有効にすることができます。

- SICAT Suiteが作動しているコンピューターがインターネットに接続されている場合、ライセンスのアクティベーションは自動で行うことができます。これに関する情報はインターネット接続を使用してライセンスを有効にする [▶ ページ 51 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- 希望に応じて、またはSICAT Suiteが作動しているコンピューターがインターネットに接続されていない場合、ライセンス要求ファイルを使用することにより、ライセンスのアクティベーションを手動で行うことができます。ライセンス要求ファイルをSICATのインターネットページにアップロードする必要があります。これで、ライセンスアクティベーションファイルを取得でき、これをSICAT Suiteで有効にしてください。これに関する情報はライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする [▶ ページ 53 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

各アプリケーションまたは機能のライセンスを個別に無効にすることができます。ライセンスを無効にした後、同じ、または別のアクティベーションキーを入力することができます。返却されたライセンスは、同一または別のコンピューターでのアクティベーションに使用することができます。これに関する情報はライセンスをライセンスプールへ返却する [▶ ページ 55 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

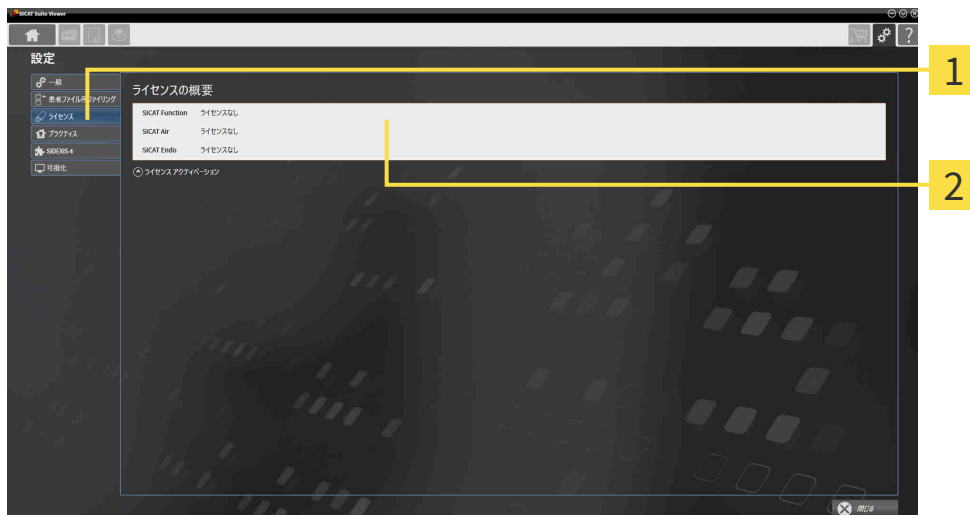
18.1 「ライセンス一覧」 ウィンドウを開く



1. ナビゲーションバーで、**設定**のアイコンをクリックします。
▶ **設定**のウィンドウが開きます。



2. **ライセンス**タブをクリックします。
▶ **ライセンスの概要**のウィンドウが開きます。



1 タブ **ライセンス**

2 ウィンドウ **ライセンスの概要**

以下の操作を続行します：

- インターネット接続を使用してライセンスを有効にする [▶ ページ 51 - *SIDEXIS XG*]
- ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする [▶ ページ 53 - *SIDEXIS XG*]
- ライセンスをライセンスプールへ返却する [▶ ページ 55 - *SIDEXIS XG*]

18.2 インターネット接続を使用してライセンスを有効にする

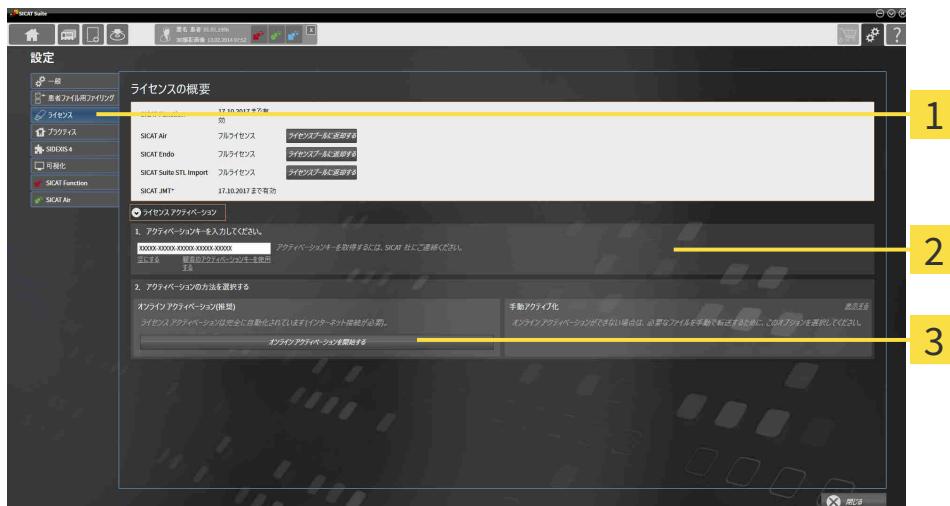
注記 カートが空になっている必要があります
ライセンスの変更を可能にする前にカートを空にしておく必要があります。

アクティベーションの手順を開始するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 少なくとも一つのSICATアプリケーションまたは個々の機能に有効なライセンスが欠けています。
- ☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されています。
- ☑ **ライセンスの概要** ウィンドウはすでに開いています：これに関する情報は「**ライセンス一覧**」ウィンドウを開く [▶ ページ 50 - SIDEXIS XG]を参照してください。

1. **ライセンスの概要** のウィンドウで、**ライセンス アクティベーション** のボタンをクリックします。

▶ **ライセンスの概要** エリアが開きます：



- 1 ボタン **ライセンス アクティベーション**
- 2 エリア
- 3 ボタン **オンライン アクティベーションを開始する**

2. 欄にアクティベーションキーを入力します。
3. **オンライン アクティベーションを開始する** のボタンをクリックします。

4. **Windows ファイヤーウォールのウィンドウが開いたら、SICAT Suiteをインターネットへ接続します。**
- ▶ 取得されてインストールされているアプリケーションまたは個々の機能のためのライセンスは、ライセンスプールから取り除かれ、使用中のコンピューター上のSICAT Suiteで有効になります。
- ▶ 通知ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。**ライセンスは正常に有効化されました。**

再起動が必要

注記

ライセンス変更後、SICATアプリケーションのSIDEXISと接続されたバージョンが再起動を要する場合、SICAT Suiteが対応するメッセージウィンドウを表示します。



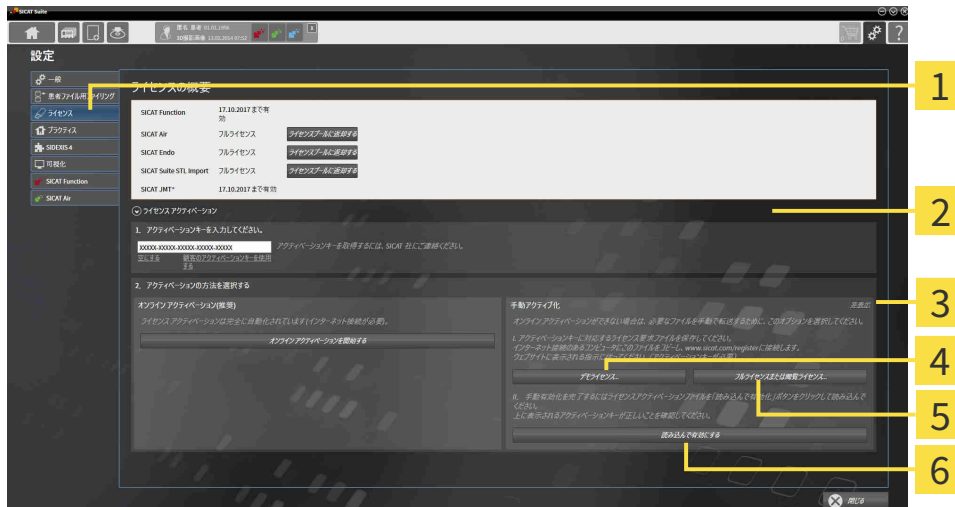
SICATアプリケーションのライセンスのアクティベーションをあらためて行うときは、エリアにあるボタン**顧客のアクティベーションキーを使用する**をクリックすると、アクティベーションキーが使用できるようになります。現時点のライセンスキーが入力されているボックスを空欄にするときは、ボタン**空にする**をクリックしてください。

18.3 ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする

注記 カートが空になっている必要があります
ライセンスの変更を可能にする前にカートを空にしておく必要があります。

ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にするには、次のように行います。

- ☑ 少なくとも一つのSICATアプリケーションまたは個々の機能に有効なライセンスが欠けています。
 - ☑ **ライセンスの概要** ウィンドウはすでに開いています：これに関する情報は「**ライセンス一覧**」ウィンドウを開く [▶ ページ 50 - SIDEXIS XG]を参照してください。
1. **ライセンスの概要** ウィンドウの**ライセンス アクティベーション**をクリックします。
 - ▶ **ライセンス アクティベーション**のコーナーがドロップダウンで展開します。
 2. **手動アクティブ化エリア**の**表示する**をクリックします。
 - ▶ **手動アクティブ化エリア**が開きます：



1 ライセンス アクティベーション **4** ボタン デモライセンス

2 エリア

5 ボタン フルライセンスまたは閲覧ライセンス

3 表示する

6 ボタン 読み込んで有効にする

3. フルライセンスのアクティベーションをご希望のときは、**フルライセンスまたは閲覧ライセンス**のボタンをクリックします。
4. デモライセンスのアクティベーションをご希望のときは、**デモライセンス**のボタンをクリックします。

- ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。
5. ライセンス要求用のファイルを保存する目的で、お好みのフォルダを選択したら、**OK**をクリックします。
 - ▶ ファイル拡張子を**WibuCmRaC**として、ライセンス要求用のファイルが作成され、選択しておいたフォルダに保存されます。
6. USBスティックなどの補助ツールを使用して、インターネットに接続しているコンピューターにライセンス要求ファイルをコピーします。
7. インターネットに接続されたコンピューター上でウェブブラウザを開き、インターネットページ<http://www.sicat.com/register>を開きます。
8. インターネットのアクティベーションページに表示される指示に従ってください。
 - ▶ インストールしたアプリケーションや個別の機能のために取得してあるライセンスが、お持ちのライセンスプールからピックアップされます。
 - ▶ SICATのライセンスサーバーは、ファイル拡張子を**WibuCmRaU**として、ライセンスのアクティベーション用ファイルを作成しますので、このファイルをお手元のコンピューターへダウンロードしてください。
9. ダウンロードしたライセンスアクティベーションファイルをSICAT Suiteが作動しているコンピューターにコピーします。
10. アクティベーションキーが正確に入力されていることをチェックします。
11. **ライセンスの概要**のウィンドウで、**読み込んで有効にする**のボタンをクリックします。
 - ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。
12. ライセンスのアクティベーション用ファイルを探して見つかったら、そのファイルをハイライト表示にして、**OK**をクリックします。
 - ▶ ライセンスアクティベーションファイルのライセンスは、SICAT Suiteでは現在のコンピューターにインストールされます。
 - ▶ 通知ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。**ライセンスは正常に有効化されました。**

再起動が必要

注記

ライセンス変更後、SICATアプリケーションのSIDEXISと接続されたバージョンが再起動を要する場合、SICAT Suiteが対応するメッセージウィンドウを表示します。

18.4 ライセンスをライセンスプールへ返却する

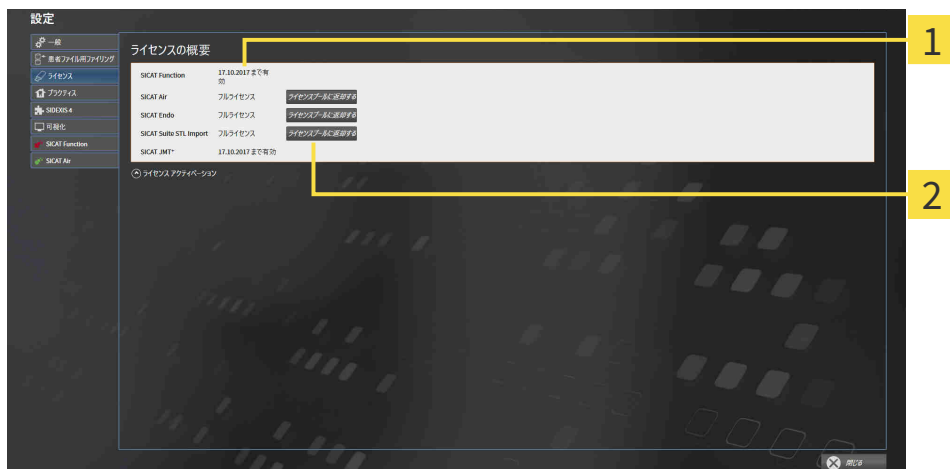
注記

カートが空になっている必要があります

ライセンスの変更を可能にする前にカートに空にしておく必要があります。

フルライセンスのアクティベーションを解除して、そのライセンスをライセンスプールへ返却するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- SICATアプリケーションのフルライセンスはすでに有効になっています。
- SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されています。
- ライセンスの概要**ウィンドウはすでに開いています：これに関する情報は「**ライセンス一覧**」ウィンドウを開く [▶ ページ 50 - SIDEXIS XG]を参照してください。



1 SICATアプリケーションおよび個々の機能のライセンスステータス

2 ボタン **ライセンスプールに返却する**

- **ライセンスの概要**のウィンドウから、SICATのアプリケーションで返却をご希望のものか、または、個別の機能の列にある**ライセンスプールに返却する**のボタンをクリックします。
- ▶ 選択したライセンスはライセンスプールに返却され、再びアクティベーションのために使用できる状態になります。
- ▶ 通知ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。**ライセンスは正常にライセンスプールに返却されました。**
- ▶ ライセンスがない場合、アプリケーションはビューアモードでしか使用できません。全てのSICATアプリケーションのライセンスがライセンスプールに返却されると、SICAT Suiteは完全にビューアモードになります。

注記**再起動が必要**

ライセンス変更後、SICATアプリケーションのSIDEXISと接続されたバージョンが再起動を要する場合、SICAT Suiteが対応するメッセージウィンドウを表示します。



インターネット接続のないコンピュータでライセンスを無効化したい場合はSICATサポートまでお問い合わせください。

18.5 バウチャーコードを使用する

1. インターネットに接続されたコンピューター上でウェブブラウザを開き、インターネットページ<http://www.sicat.com>を開きます。
2. SICATポータルへのリンクをクリックします。
▶ SICATポータルが開きます。
3. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
4. アカウントマネジャーに、ご自分のライセンスを管理するためのアイテムがありますので、それをクリックします。
5. ご自分のバウチャーコードを入力し、コードを確認します。
▶ SICATポータルがライセンスキーを生成し、ライセンスキーをお客様のアクティベーションキーに追加します。
6. SICAT Suiteを起動して、ライセンスのアクティベーションを行います。

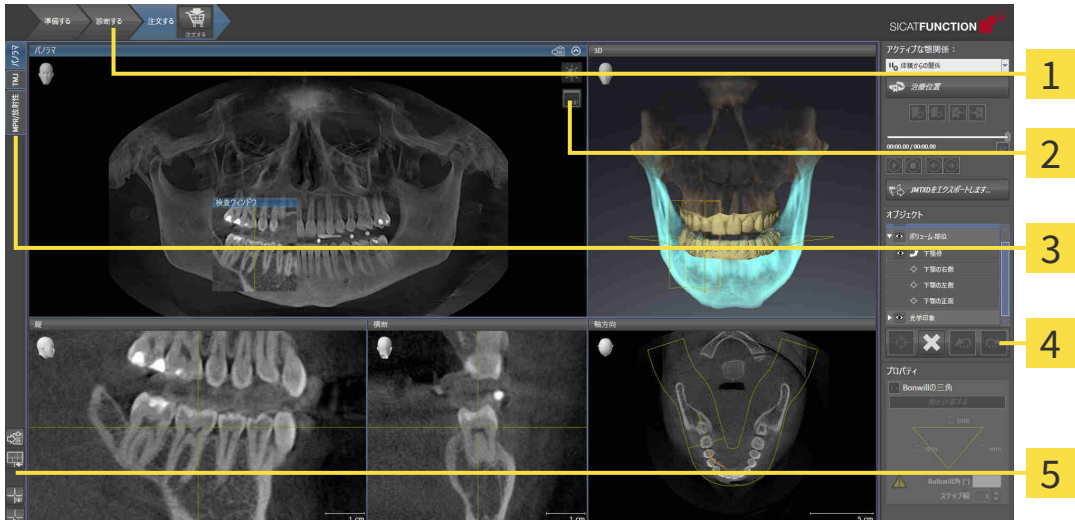
これに関する情報はインターネット接続を使用してライセンスを有効にする [▶ ページ 51 - *SIDEXIS XG*]と ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする [▶ ページ 53 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。



詳細なヘルプは、SICATのポータルページにFAQ（よくあるご質問）がありますので、そちらをご覧ください。

19 SICAT FUNCTIONのユーザーインターフェース

SICAT Functionのユーザーインターフェースは、以下のアイテムから構成されています。



1 ワークフローのツールバー

4 オブジェクトバー

2 画像のツールバー

5 ワークスペースのツールバー

3 ワークスペースの切替用ボタン

- **ワークフローのツールバー**は、複数のワークフロー・ステップから構成されますが、その中には、アプリケーションのワークフローで使用する主要ツールが用意されています。これには、診断オブジェクトおよび計画オブジェクトを追加およびインポートすることのできるツールが含まれます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 60 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- **ワークスペースエリア**は、**ワークフローのツールバー**の下側にあって、ユーザーインターフェースの一部を構成します。この部分には、SICAT Functionで開いているワークスペースを表示します。各ワークスペースに特定のビュー構造が含まれています。これに関する情報はワークスペース [▶ ページ 70 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- 有効なビューにのみ**画像のツールバー**が表示されます。付属のビューの表示を調整するツールがあります。これに関する情報は**ビューの調整** [▶ ページ 80 - SIDEXIS XG]と**3Dビューの調整** [▶ ページ 93 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- **オブジェクトバー**には、診断や治療計画のそれぞれで対象とするもの（オブジェクト）を管理するための各種ツールが用意されています。これに関する情報は**オブジェクトバー** [▶ ページ 62 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- **ワークスペースのツールバー**には、各種ツールが用意されていますが、これらのツールで、ワークスペースの一般的な各種設定や、含まれる画像のすべてに対して変更を加えたり、ワークスペースの内容を記録したりすることができます。これに関する情報は**十字線およびフレームの移動、非表示、表示** [▶ ページ 88 - SIDEXIS XG]、**ビューをリセットする** [▶ ページ

91 - *SIDEXIS XG*]、アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット [▶ ページ 77 - *SIDEXIS XG*]とワークスペースのスクリーンショットを作成する [▶ ページ 78 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

19.1 ワークフローのツールバー

SICAT Functionでは、ワークフローのツールバーは3つのワークフローステップで構成されています：

1. 準備する
2. 診断する
3. 注文する

ワークフローステップの開閉

以下の各アイコンをクリックすると、ワークフロー・ステップを展開させたり畳み込んだりすることができます。

1. ワークフロー・ステップ「準備する」



ワークフロー・ステップ「準備する」では、以下のツールが使用できます。



- ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整します - これに関する情報は**ボリュームの配置を調整する** [▶ ページ 106 - *SIDEXIS XG*]と**パノラマエリアを調整する** [▶ ページ 111 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

2. ワークフロー・ステップ「診断する」



ワークフロー・ステップ「診断する」では、以下のツールが使用できます。



- **顎運動データをインポートして記録する** - これに関する情報は顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録 [[▶ ページ 117 - SIDEXIS XG](#)]を参照してください。



- **下顎と顎状突起をセグメントする** - これに関する情報はセグメンテーション [[▶ ページ 123 - SIDEXIS XG](#)]を参照してください。



- **光学印象をインポートし記録する** - これに関する情報は光学印象をインポートし記録する [[▶ ページ 131 - SIDEXIS XG](#)]を参照してください。



- **距離測定を追加する(D)** - これに関する情報は距離測定を追加する [[▶ ページ 163 - SIDEXIS XG](#)]を参照してください。



- **角度測定を追加する(A)** - これに関する情報は角度測定を追加する [[▶ ページ 164 - SIDEXIS XG](#)]を参照してください。

3. ワークフロー・ステップ「注文する」

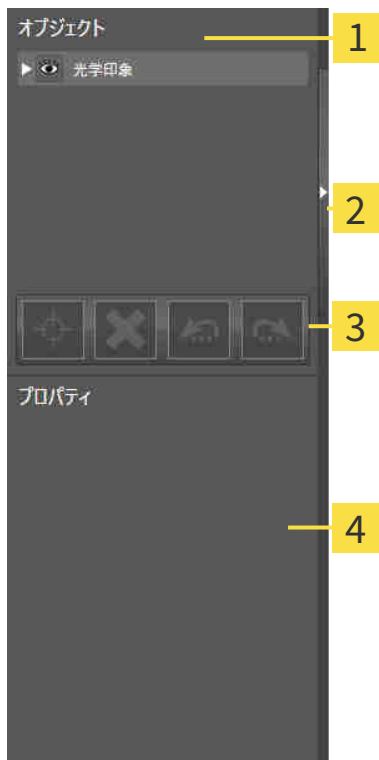


ワークフロー・ステップ「注文する」では、以下のツールが使用できます。



- **治療スプリントを注文します** - これに関する情報は治療スプリントをショッピングカートに入れる [[▶ ページ 175 - SIDEXIS XG](#)]を参照してください。

19.2 オブジェクトバー



- 1 オブジェクトブラウザ
- 2 ボタンオブジェクトバーを非表示にするまたはボタン オブジェクトバーを表示する
- 3 オブジェクトツールバー
- 4 エリア プロパティ

オブジェクトバーには、以下のアイテムが用意されています。

- **オブジェクトブラウザ**には、診断や治療計画の対象（オブジェクト）として、現時点のスタディに追加したりインポートしたりしたものをもれなく、カテゴリ分類して列挙したリストを表示します。**オブジェクトブラウザ**は、複数のオブジェクトを自動でグループ分けします。例えば、**測定**のグループには、測定対象のオブジェクトがもれなく含まれています。オブジェクトグループを開閉する、オブジェクトおよびオブジェクトグループをアクティブに

する、オブジェクトおよびオブジェクトグループを非表示または表示にすることができます。これに関する情報は以下を参照してください [オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理](#) [▶ ページ 64 - *SIDEXIS XG*]。

- **オブジェクトツールバー**には、各種のツールが用意されていますが、これらのツールにより、オブジェクトに合焦すること、オブジェクトやオブジェクトグループを削除すること、オブジェクトまたはオブジェクトグループに対して行った操作を取り消して元に戻したり、再度、実行したりすることができます。これに関する情報は[オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理](#) [▶ ページ 66 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- **プロパティ**のコーナーには、作業対象として選択しているオブジェクトについて、その詳細を表示します。

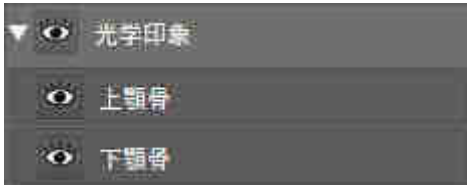
オブジェクトバーの視点をオブジェクトバーの右側の二つのボタンで変更することができます。
オブジェクトバーを非表示にする および オブジェクトバーを表示する

SICAT Function で作業対象として選択可能なオブジェクトは、[SICAT Functionオブジェクト](#) [▶ ページ 68 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

19.3 オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理

オブジェクトグループの開閉

オブジェクトグループを展開したり畳み込んだりするときは、以下の手順に沿って操作を行ってください。



☑ 現在、希望のオブジェクトグループが開いています。



1. 畳み込みたいオブジェクトグループの横にある **閉じる** のアイコンをクリックします。

▶ オブジェクトグループの畳み込みが行われます。



2. 畳み込みたいオブジェクトグループの横にある **開く** のアイコンをクリックします。

▶ オブジェクトグループが展開します。

オブジェクトおよびオブジェクトグループをアクティブにする

ツールによっては、作業対象として選択しているオブジェクトやオブジェクトグループ以外では、利用できないものが、いくらかあります。

オブジェクトまたはオブジェクトグループを有効にするには、次のように行います。

☑ 現在、希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループが無効になっています。

- 希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は、それまで有効であったオブジェクトまたはオブジェクトグループを無効にします。
 - ▶ SICAT Function は希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループを有効にします。
 - ▶ SICAT Function は、**オブジェクトブラウザ**と画像のそれぞれで、オブジェクトやオブジェクトグループに色を付けてハイライト表示します。



オブジェクトをクリックすることによって、2Dビューで特定のオブジェクトも有効にすることができます。

オブジェクトおよびオブジェクトグループの表示/非表示



この機能は、特定のオブジェクトタイプを除いて利用できません。

オブジェクトやオブジェクトグループを非表示/表示にするには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 現在、希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループは表示されています。



1. お好みのオブジェクトまたはオブジェクトグループの横にある **表示** のアイコンか、または、**一部表示** のアイコンをクリックします。



- ▶ SICAT Function はオブジェクトまたはオブジェクトグループを非表示にします。
- ▶ SICAT Function では、オブジェクトまたはオブジェクトグループの横に **アイコン非表示** が表示されます。



2. お好みのオブジェクトまたはオブジェクトグループの横にある **非表示** のアイコンをクリックします。

- ▶ SICAT Function はオブジェクトまたはオブジェクトグループを表示します。
- ▶ SICAT Function では、オブジェクトまたはオブジェクトグループの横に **アイコン表示** が表示されます。

19.4 オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理



この機能は、特定のオブジェクトタイプを除いて利用できません。

オブジェクトに焦点を合わせる

この機能は、画像内でオブジェクトを探す目的で使用してください。

あるオブジェクトに焦点を合わせるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望のオブジェクトはすでにアクティブになっています。これに関する情報は以下を参照してください [オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理](#) [▶ ページ 64 - *SIDEXIS XG*]



- **アクティブ オブジェクトを合わせる(F)**のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function は、ビューの焦点をアクティブなオブジェクトに移動させます。
- ▶ SICAT Function には、ビュー内でアクティブなオブジェクトが表示されます。



オブジェクトへの合焦は、**オブジェクトブラウザ**からか、または、ビューで、オブジェクトをダブルクリックしても同様に可能です。ただし、**3D**画像を除きます。

オブジェクトおよびオブジェクトグループの除去

オブジェクトまたはオブジェクトグループを削除するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループは既にアクティブにしています。これに関する情報は以下を参照してください [オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理](#) [▶ ページ 64 - *SIDEXIS XG*]



- **アクティブ オブジェクト/アクティブグループを削除する(Del)**のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function はオブジェクトまたはオブジェクトグループを除去します。

オブジェクトアクションを元に戻し、もう一度実行する

オブジェクトまたはオブジェクトグループに対して直前に行った操作を取り消して元に戻したり、再度、実行したりするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



1. **前回のオブジェクトアクションを元に戻す (Ctrl+Z)** のアイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は、最後のオブジェクトアクションまたはグループアクションを元に戻します。



2. オブジェクト/グループアクションを再実行する (Ctrl+Y) のアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function は、前回戻したオブジェクトアクションまたはグループアクションをもう一度実行します。



SICATアプリケーションで撮影結果を開いている間のみ、元に戻してもう一度実行することができます。

19.5 SICAT FUNCTIONオブジェクト

SICAT Functionでは、オブジェクトブラウザで、アプリケーション固有のオブジェクトが以下のグループに分類されます。

- 顎運動データ
- ボリューム-部位
 - 下顎骨
- 光学印象

顎運動データ-オブジェクト



顎運動データのインポートを完了すると、SICAT Functionでは、オブジェクトブラウザに、**顎運動データ**オブジェクトを表示します。

ボリューム-部位-オブジェクトおよび下顎骨-オブジェクト



下顎骨をセグメントした後、SICAT Functionがオブジェクト**ボリューム-部位**を**オブジェクトブラウザ**に表示します。**ボリューム-部位**オブジェクトは**下顎骨**オブジェクトを含んでいます。下顎骨のオブジェクトは、以下の下位オブジェクトから構成されます。

- 下顎の左側
- 下顎の右側
- 下顎の正面

下位オブジェクトのいずれか1つにピントを合わせると、SICAT Functionでは、いずれの2Dビューでも、選択しているオブジェクトにピントが合います。

光学印象オブジェクト



光学印象のインポートと登録が完了すると、SICAT Functionが**光学印象**オブジェクトを**オブジェクトブラウザ**に表示します。**光学印象**のオブジェクトは、以下の下位オブジェクトから構成されます。

- 上顎骨
- 下顎骨

下位オブジェクトのいずれか1つにピントを合わせると、SICAT Functionでは、いずれの2Dビューでも、選択しているオブジェクトにピントが合います。

上顎骨のオブジェクトや**下顎骨**のオブジェクトを削除すると、SICAT Functionでは、既存の光学印象がもれなくスタディから削除されます。

20 ワークスペース

SICATのアプリケーションでは、スタディを複数のビューで表示し、ワークスペースに画像をまとめて配置します。

SICAT Functionでは、異なる3種類のワークスペースが用意されています。

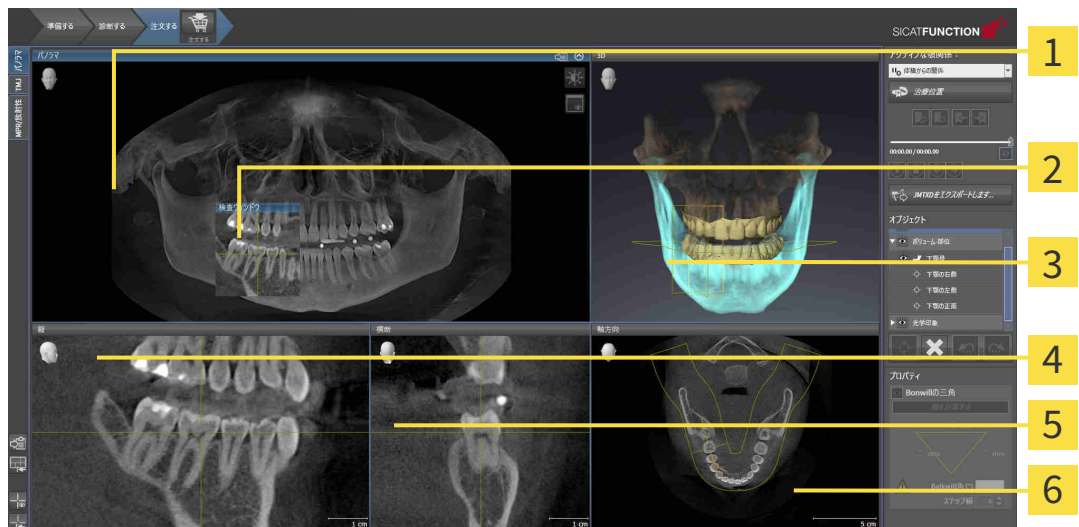


- **パノラマ**-ワークステーション-これに関する情報は**パノラマワークスペースの概要** [▶ ページ 71 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- **TMJ**-ワークステーション-これに関する情報は**TMJワークスペースに関する概要** [▶ ページ 73 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- **MPR/放射性**-ワークステーション-これに関する情報は**MPR/放射性ワークスペースの概要** [▶ ページ 75 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

ワークスペースおよびそれに含まれるビュー用として、以下の操作を行うことができます。

- アクティブなワークスペースを切り替える。 [▶ ページ 76 - *SIDEXIS XG*].
- アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット [▶ ページ 77 - *SIDEXIS XG*].
- ビューの調整 [▶ ページ 80 - *SIDEXIS XG*].
- 3Dビューを調整することもできます。これに関する情報は**3Dビューの調整** [▶ ページ 93 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- アクティブなワークスペースは、その内容を記録することができます。これに関する情報は**ワークスペースのスクリーンショットを作成する** [▶ ページ 78 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

20.1 パノラマワークスペースの概要



1 パノラマビュー

2 検査ウィンドウ

3 3Dビュー

4 縦ビュー

5 横断ビュー

6 軸方向ビュー

パノラマビュー

パノラマビューは、仮想的なオルソパントモグラフィ（OPG）に相当します。これは、正射影を特定の太さのパノラマ曲線上に表示します。パノラマ曲線および太さを両顎に調整することができます。この調整に関する内容は、[パノラマエリアを調整する](#) [▶ ページ 111 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

検査ウィンドウ

検査ウィンドウは、パノラマビューに埋め込まれています。レイヤーをパノラマ曲線に対して平行にすることによって、パノラマビューに、3次元の画像が追加されることになります。**検査ウィンドウ**は、表示/非表示することができます。この切替に関する内容は、[検査ウィンドウの移動、非表示、表示](#) [▶ ページ 89 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

3Dビュー

3Dビューには、開いている3D治療計画スタディの3Dビューを表示します。

縦ビュー

縦ビューには、パノラマ歯列弓に対して接線をなすレイヤーを表示します。

横断ビュー

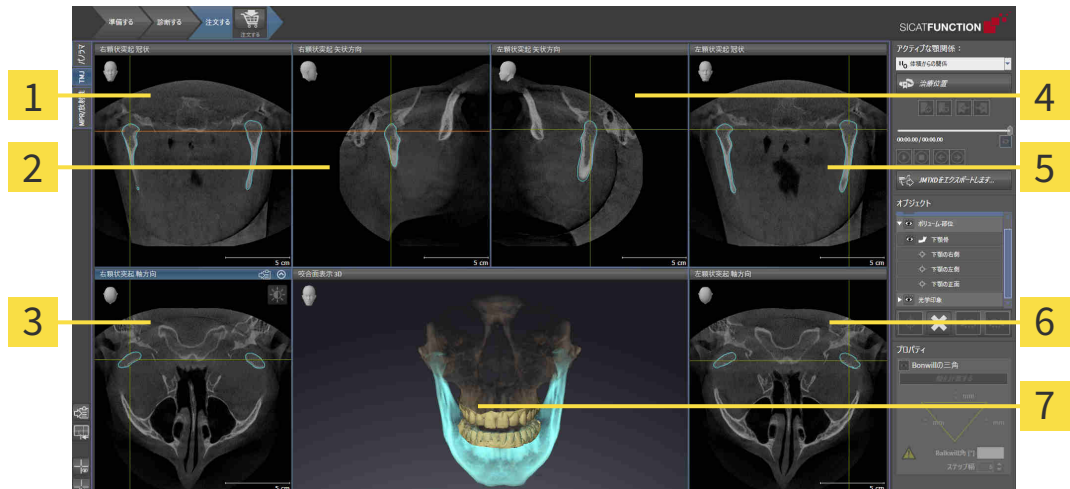
横断ビューには、パノラマ歯列弓に対して矢状断のレイヤーを表示します。

軸方向ビュー

デフォルトの軸方向ビューでは、上方からみたレイヤーを表示します。軸方向ビューでは、視線方向の切替が可能です。この切替に関する内容は、[可視化設定の変更](#) [▶ ページ 195 - SIDEXIS XG]の節をご覧ください。

ビューの機能に関しては、[ビューの調整](#) [▶ ページ 80 - SIDEXIS XG]および[3Dビューの調整](#) [▶ ページ 93 - SIDEXIS XG]をご参照ください。

20.2 TMJワークスペースに関する概要



1 右顎状突起 冠状-ビュー

5 左顎状突起 冠状-ビュー

2 右顎状突起 矢状方向-ビュー

6 左顎状突起 軸方向-ビュー

3 右顎状突起 軸方向-ビュー

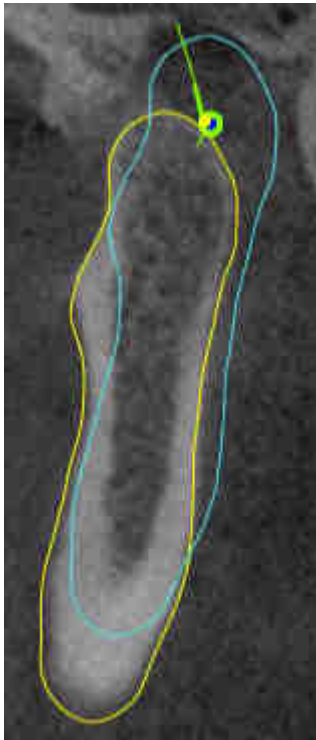
7 咬合面表示 3D

4 左顎状突起 矢状方向-ビュー

患者個別の解剖学的な咬合は、JMTのコーナーで選択して、画像中で所見を検討することが可能です。JMTのコーナーに関する内容は、[顎運動と連携する \[▶ ページ 142 - SIDEXIS XG\]](#)の節をご覧ください。

TMJワークスペースには、下顎頭を左側と右側とで同時に表示します。同時に表示することで、左右両側の顎関節が直接、比較できるようになります。また、顎関節の運動や形態の上で非対称性があれば、この比較を利用して特定できます。

SICAT Function では、下顎頭が移動しても、その位置の違いを識別表示します。

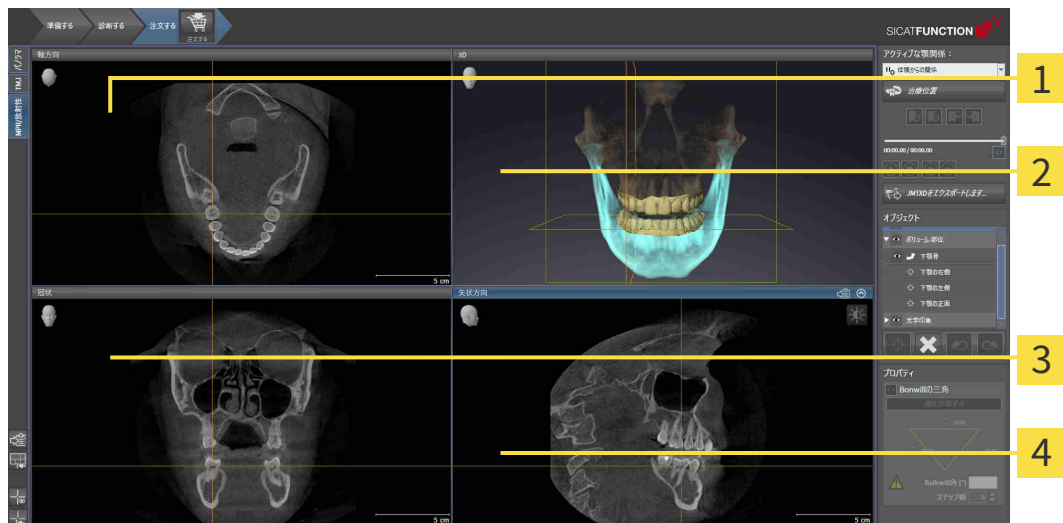


- SICAT Functionでは、下顎頭が移動すると、それをレイヤービューで青色の輪郭により、表示します。
- SICAT Functionでは、セグメント化した境界線を、レイヤービューで黄色の輪郭により、表示します。
- SICAT Function では、下顎頭が移動すると、それを3Dビューで青色の3Dオブジェクトとして表示します。

頭部を正中矢状面（鏡像対称面）で分割した方向に、各画像を揃え、左側の顎関節と右側の顎関節とが互いに比較しやすくなります。3D X線の撮影中に位置決めを誤って、それを調整するときは、**ボリュームの配置を調整する**の機能を利用してください。これに関する情報は**ボリュームの配置を調整する** [▶ ページ 106 - SIDEXIS XG]を参照してください。ボリュームの配置を調整するには、顎関節が正中矢状面に対して、可能な限り対称な位置で表示されるようにしてください。

TMJワークスペースでは、顎運動データとボリューム-部位の分析用に追加のオプションが用意されています。これに関する情報は**TMJワークスペースの各種機能** [▶ ページ 148 - SIDEXIS XG]、**Bonwillの三角を利用する** [▶ ページ 151 - SIDEXIS XG]、**セグメンテーション限度の表示** [▶ ページ 152 - SIDEXIS XG]と**下顎頭を中心に顎運動を表示する** [▶ ページ 153 - SIDEXIS XG]を参照してください。

20.3 MPR/放射性ワークスペースの概要



1 軸方向-ビュー

3 冠状-ビュー

2 3D-ビュー

4 矢状方向-ビュー

軸方向ビュー

デフォルトの**軸方向**ビューでは、上方から見たレイヤーを表示します。**軸方向**ビューでは、視線方向の切替が可能です。この切替に関する内容は、[可視化設定の変更](#) [▶ ページ 195 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

3Dビュー

3Dビューには、開いている**3D治療計画スタディ**の**3D**ビューを表示します。

冠状ビュー

冠状ビューには、前方から見たレイヤーを表示します。

矢状方向ビュー

デフォルトの**矢状方向**ビューでは、右側から見たレイヤーを表示します。**矢状方向**ビューでは、視線方向の切替が可能です。この切替に関する内容は、[可視化設定の変更](#) [▶ ページ 195 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

ビューの機能については以下をご覧ください。[ビューの調整](#) [▶ ページ 80 - *SIDEXIS XG*]および[3Dビューの調整](#) [▶ ページ 93 - *SIDEXIS XG*]。

20.4 アクティブなワークスペースを切り替える.

アクティブなワークスペースを切り替えるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



- ワークスペースエリアの左上の隅にある任意のワークスペースタブをクリックします。
- ▶ 選択したワークスペースが開きます。

20.5 アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット

アクティブなワークスペースのレイアウトを調整する

アクティブなワークスペースのレイアウトのレイアウトを調整するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを二つ以上のビューの間を境界線上に移動させます。
 - ▶ マウスポインタの形状が切り替わります。



2. マウスの左ボタンをクリックしたら、その左ボタンを押したままにします。
3. マウスを動かします。
 - ▶ 境界線の位置が変わります。
 - ▶ 境界線の全側面でビューの大きさが変わります。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、境界線の現在位置、および、ビューの現在のサイズが、境界線のすべての側で維持されます。

アクティブなワークスペースのレイアウトをリセットする

アクティブなワークスペースのレイアウトをデフォルトに復元するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



- ワークスペースのツールバーで、アクティブなワークスペースのレイアウトをリセットするのアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function は、アクティブなワークスペースを標準のレイアウトにリセットします。これは、ソフトウェアがすべてのビューを標準サイズに表示することを意味しています。

20.6 ワークスペースのスクリーンショットを作成する

ワークスペースのスクリーンショットは、Windowsのクリップボードにコピーして、文書を作成する目的で使用することができます。

ワークスペースのスクリーンショットをWINDOWSのクリップボードにコピーする

ワークスペースのスクリーンショットをWindowsのクリップボードに追加するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ ご希望のワークスペースはすでにアクティブです。これに関する情報はアクティブなワークスペースを切り替える。▶ ページ 76 - SIDEXIS XGを参照してください。



- ワークスペースのツールバーから、**アクティブなワークスペースのスクリーンショットをクリップボードにコピーする**のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function では、ワークスペースのスクリーンショットがWindowsのクリップボードにコピーされます。



クリップボードからスクリーンショットを貼り付けることができるアプリケーションは、例えば、画像処理やワープロのソフトウェアなど多数あります。貼り付けのショートカットキーは、大半のアプリケーションで「Ctrl +V」を使用します。

21 ビュー

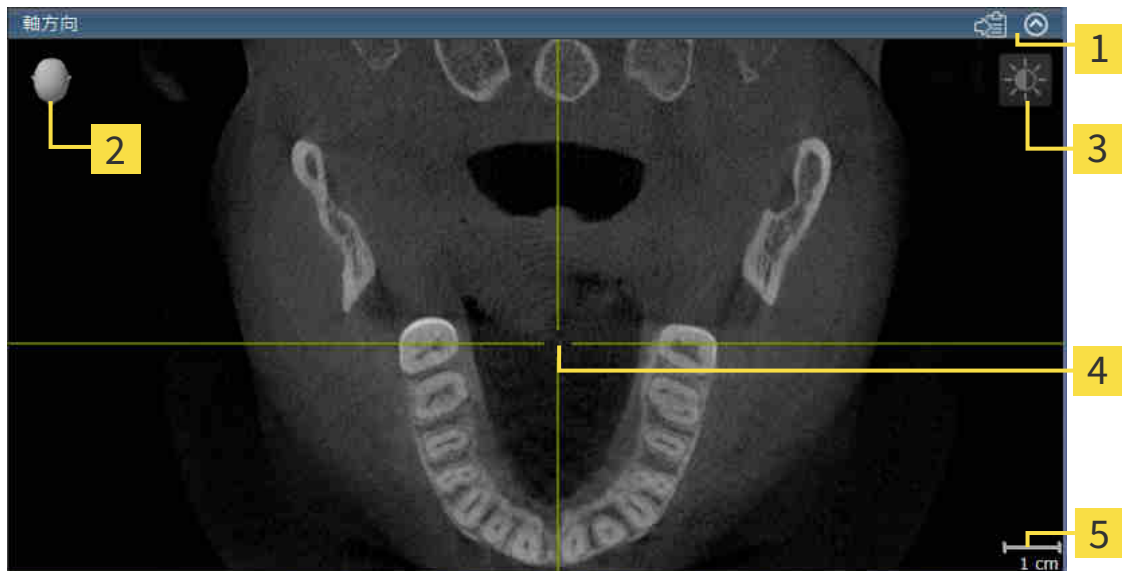
ビューはワークスペースに含まれています。ワークスペースとビューは、各種ありますが、その詳細は以下の節をご覧ください。 [ワークスペース](#) [[▶ ページ 70 - SIDEXIS XG](#)].

ビューを調整することができます。これに関する情報は[ビューの調整](#) [[▶ ページ 80 - SIDEXIS XG](#)]と[3Dビューの調整](#) [[▶ ページ 93 - SIDEXIS XG](#)]を参照してください。

21.1 ビューの調整

ビューの調整に用いるツールの中には、アクティブなビュー以外では使用できないものもあります。ビューを有効にする手順は、次をご参照ください。 [アクティブなビューの切り替え](#) [▶ ページ 82 - *SIDEXIS XG*]。

アクティブなビューに含まれる要素：



- 1 タイトルバー
- 2 オリエンテーションヘッド
- 3 画像のツールバー
- 4 十字線
- 5 尺度

2Dレイヤービューには十字線が表示されます。十字線は別のレイヤービューとの交差線です。SICAT Function すべてのレイヤービューを同期させます。これは、全ての十字線が3D X線データ内で同じ位置に表示されることを意味します。これにより、円弧構造をビュー超しに割り当てることができます。

3Dビューでは、フレームを表示して、2Dレイヤービューの現在位置を表示します。

ビューの調整には、次の操作が使用できます：

- アクティブなビューの切り替え [▶ ページ 82 - SIDEXIS XG]
- ビューの最大化および復元 [▶ ページ 83 - SIDEXIS XG]
- 2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット [▶ ページ 84 - SIDEXIS XG]
- ビューのズームおよび切り抜きの移動 [▶ ページ 86 - SIDEXIS XG]
- レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール [▶ ページ 87 - SIDEXIS XG]
- 十字線およびフレームの移動、非表示、表示 [▶ ページ 88 - SIDEXIS XG]
- 検査ウィンドウの移動、非表示、表示 [▶ ページ 89 - SIDEXIS XG]
- ビューをリセットする [▶ ページ 91 - SIDEXIS XG]

3Dビューを調整することもできます。これに関する情報は、*3Dビューの調整* [▶ ページ 93 - SIDEXIS XG]をご参照ください。

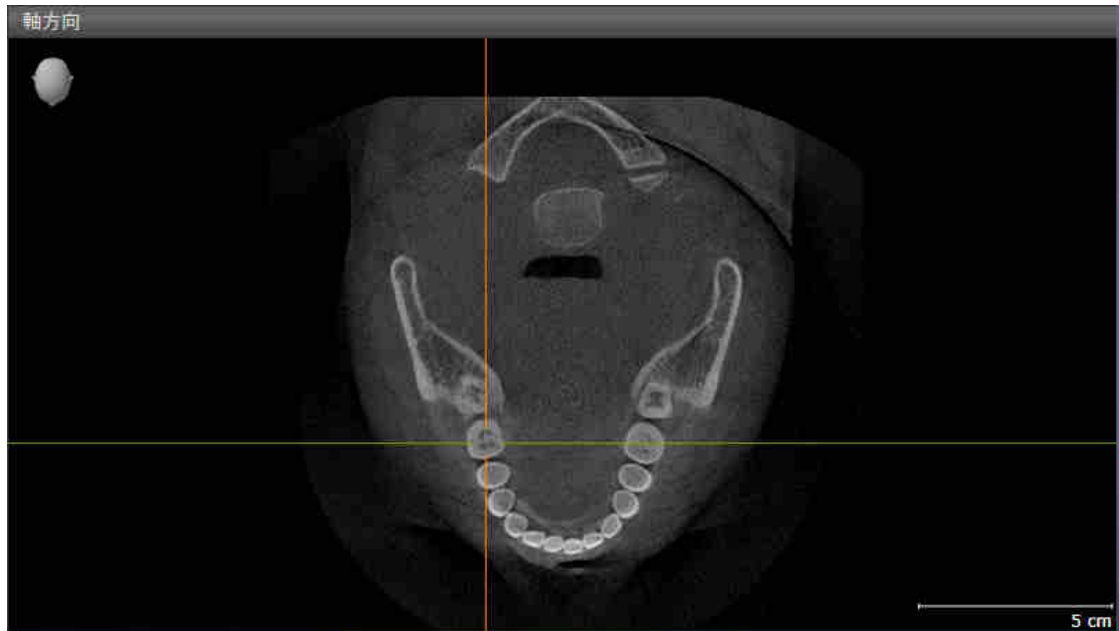
アクティブなビューの内容を記録することができます。これに関する情報は、*画像のスクリーンショットを作成する* [▶ ページ 92 - SIDEXIS XG]をご参照ください。

21.2 アクティブなビューの切り替え

画像のツールバーとタイトルバーが表示されるのは、アクティブなビューに限ります。

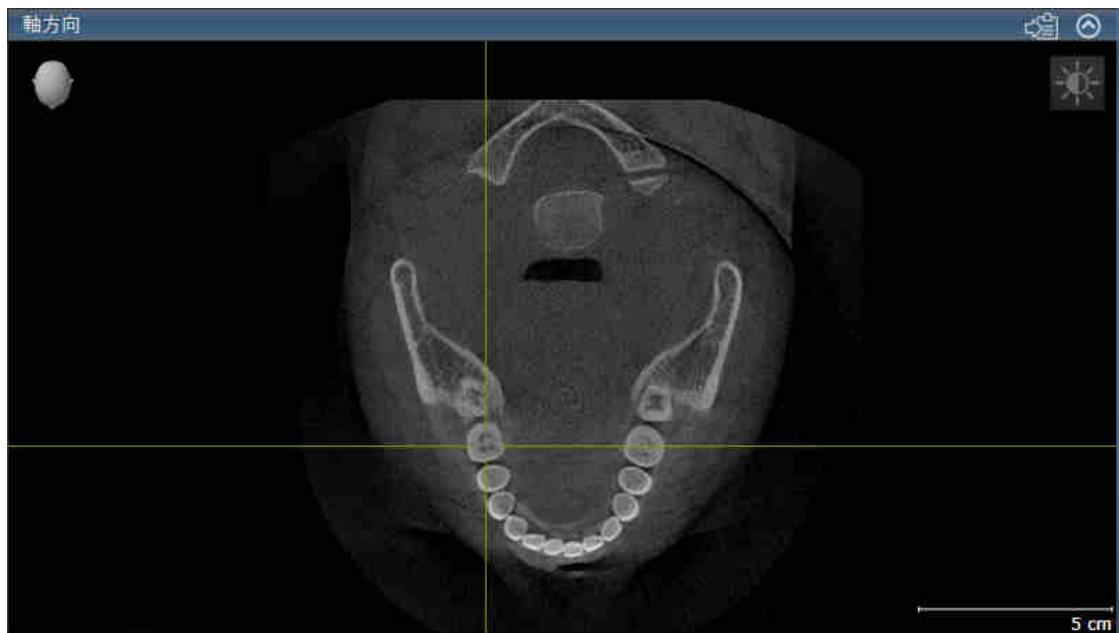
ビューをアクティブにするには、次のように行います。

1. マウスポインタを希望のビュー上に動かします。



2. 希望のビューをクリックします。

▶ SICAT Function がビューをアクティブにします。



アクティブなビューは、タイトルバーがオレンジ色になりますので、それとわかります。

21.3 ビューの最大化および復元

ビューの最大化および前回のサイズの復元は、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望のビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報は以下を参照してください [アクティブなビューの切り替え](#) [▶ ページ 82 - *SIDEXIS XG*]。
- ☑ 希望のビューは最大化していません。



1. 希望のビューのタイトルバーにある**最大化する**のアイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function がビューを最大化します。



2. 最大化したビューのタイトルバーにある、**戻す**のアイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function では、ビューが元のサイズに戻ります。



ビューの最大化および前回のサイズの復元のために、次の代替操作を使用できます。

- ビューを最大化するために、希望のビューのタイトルバーをダブルクリックすることができます。
- ビューの前回のサイズを復元するために、最大化したビューのタイトルバーをダブルクリックすることができます。

21.4 2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット

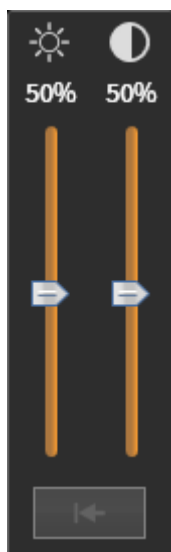
2Dビューで、明るさとコントラストを調整するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望の2Dビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報はアクティブなビューの切り替え [▶ ページ 82 - SIDEXIS XG]を参照してください。



1. 2Dビューの画像のツールバーに**輝度およびコントラストの調整**のアイコンがありますので、それにマウスポインタを重ねます。

▶ **輝度およびコントラストの調整**の透明なウィンドウが開きます。



2. マウスポインタを**輝度**のスライダーに重ねます。
3. 左マウスボタンをクリックしたら、押したままにして、マウスポインタを上下方向に移動させます。

▶ SICAT Function では、2Dビューを**輝度**のスライダー位置に応じた明るさに調整します。

4. マウスの左ボタンを放します。
- ▶ SICAT Function は2Dビューの現在の輝度を保持します。



5. マウスポインタを**コントラスト**のスライダーに重ねます。
6. 左マウスボタンをクリックしたら、左マウスボタンを押したままにして、マウスポインタを上下方向に移動させます。

▶ SICAT Function では、2Dビューを**コントラスト**のスライダー位置に応じたコントラストに調整します。

7. マウスの左ボタンを放します。
- ▶ SICAT Function は2Dビューの現在のコントラストを保持します。

- マウスポインタを、**輝度およびコントラストの調整**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

▶ **輝度およびコントラストの調整**の透明なウィンドウが閉じます。

2Dビューの明るさとコントラストをデフォルトに復元するときは、**明るさとコントラストをリセットする**のアイコンをクリックしてください。



全2Dレイヤービューの輝度とコントラストは相互に関連しています。

21.5 ビューのズームおよび切り抜きの移動

ビューのズーム

ズーム機能は、ビューの内容を拡大または縮小します。

ビューをズームするときには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを希望のビュー上に動かします。
2. マウスホイールを前に回します。
▶ ビューがズームインします。
3. マウスホイールを後ろに回します。
▶ ビューがズームアウトします。



上記の手順に代えて、マウスホイールをクリックして、マウスを上下方向に移動させても、ズームインやズームアウトができます。

ビューの切り抜きを移動する

トリミング部分を移動させるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを希望のビュー上に動かします。
2. マウスの右ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
▶ マウスポインタの形が切り替わります。
3. マウスを動かします。
▶ ビューの切り抜きは、マウスポインタの動きに応じて移動します。
4. マウスの右ボタンを放します。
▶ SICAT Function では、移動後のトリミング部分がそのまま維持されます。

21.6 レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール

2Dレイヤービューで、レイヤーをスクロールするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを希望の2Dレイヤービュー上に動かします。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
 - ▶ マウスポインタは双方向の矢印になります。
3. マウスを上下方向に移動させます。
 - ▶ **横断**のレイヤーを除き、レイヤーは、平行に移動します。
 - ▶ **横断**のレイヤーは、パノラマ歯列弓に沿って移動した状態が表示されます。
 - ▶ SICAT Function は別のビューのレイヤーおよび十字線を現在の焦点に応じて調整します。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで、その時点の焦点でピントが合うようにフレームの調整が行われます。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、スクロールしてからのレイヤーが維持されます。

21.7 十字線およびフレームの移動、非表示、表示

十字線の移動

2Dレイヤービューで、十字線を移動させるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 現在、すべての字線とフレームが表示されています。
- 1. マウスポインタを希望のビューで十字線の中心に動かします。
 - ▶ マウスポインタが下記の十字線に切り替わります。



- 2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
- 3. マウスを動かします。
 - ▶ ビューの十字線は、マウスポインタの動きに従います。
 - ▶ SICAT Function は別のビューのレイヤーおよび十字線を現在の焦点に応じて調整します。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで、その時点の焦点でピントが合うようにフレームの調整が行われます。
- 4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、十字線が移動後の位置を維持します。



十字線をすぐにマウスポインタの位置へ移動させる場合、2Dビューでダブルクリックすることができます。

十字線およびフレームの非表示/表示

十字線およびフレームを非表示/表示にするには、次のように行います。

- ☑ 現在、すべての字線とフレームが表示されています。



- 1. ワークスペースのツールバーで、**十字線とフレームを非表示にするのアイコン**をクリックします。
 - ▶ SICAT Function では、すべての2Dレイヤービューで十字線が隠れます。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューでフレームが隠れます。



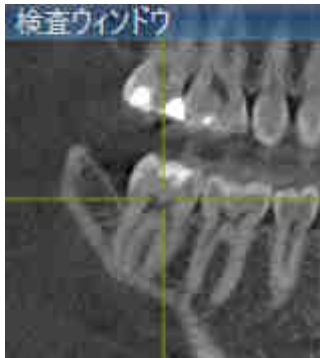
- 2. **十字線とフレームを表示するのアイコン**をクリックします。
 - ▶ SICAT Function では、すべての2Dレイヤービューで十字線が表示されます。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューでフレームが表示されます。

21.8 検査ウィンドウの移動、非表示、表示

検査ウィンドウの移動

検査ウィンドウを移動させるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ パノラマワークスペースはすでに開いています。これに関する情報は以下を参照してください
アクティブなワークスペースを切り替える [▶ ページ 76 - SIDEXIS XG]。
- ☑ 検査ウィンドウは、隠さずに表示しておきます。



1. パノラマビューで、**検査ウィンドウ**のタイトルバーにマウスポインタを重ねます。
 - ▶ マウスポインタは手のマークになります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスを動かします。
 - ▶ **検査ウィンドウ**は、マウスポインタの動きに追従します。
 - ▶ SICAT Function は別のビューのレイヤーおよび十字線を現在の焦点に応じて調整します。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで、その時点の焦点でピントが合うようにフレームの調整が行われます。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、**検査ウィンドウ**が移動後の位置を維持します。

検査ウィンドウの非表示/表示



検査ウィンドウの表示と隠すの別を表示するアイコンは、ステータス表示と切替用のアイコンとを同時に兼ねています。

検査ウィンドウを隠したり表示したりするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ パノラマワークスペースはすでに開いています。これに関する情報はアクティブなワークスペースを切り替える。▶ ページ 76 - *SIDEXIS XG*を参照してください。
- ☑ **検査ウィンドウ** は、隠さず表示しておきます。



1. パノラマビューで、**画像のツールバーから、検査ウィンドウを非表示にするのアイコン**をクリックします。

▶ SICAT Function では、**検査ウィンドウ** が隠れます。



2. パノラマビューで、**画像のツールバーから、検査ウィンドウを表示するのアイコン**をクリックします。

▶ SICAT Function では、**検査ウィンドウ** が表示されます。

21.9 ビューをリセットする

すべてのビューをリセットするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



- ワークスペースのツールバーで、**ビューをリセットする**のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function では、すべてのビューで、ズーム、トリミング部分の移動、スクロール、十字線の移動、**検査ウィンドウ**の移動のそれぞれがデフォルト値に復元されます。
- ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで視線方向がデフォルト値に復元されます。

21.10 画像のスクリーンショットを作成する

画像のスクリーンショットを作成し、以下の手順で出力すると、文書作成を目的として使用することができます。

- SIDEXIS XGで現時点の診察ページにエクスポートする。
- Windowsのクリップボードにコピーする

ビューのスクリーンショットを、SIDEXISで現時点の診察ページにエクスポートする

ビューのスクリーンショットを、SIDEXISで現時点の診察ページにエクスポートするときは、次の手順で行います。

- ☑ 希望のビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報はアクティブなビューの切り替え [▶ ページ 82 - SIDEXIS XG]を参照してください。



- ビューのタイトルバーから、スクリーンショットをSIDEXISで現在の診察ページにエクスポートするのアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function ビューのスクリーンショットが、SIDEXISで現在の診察ページにエクスポートされます。

SICATアプリケーション内に作成したスクリーンショットをSIDEXIS XGから開く場合は対応するスタディでSICATアプリケーションを起動します。

画像のスクリーンショットをWINDOWSのクリップボードにコピーする

画像のスクリーンショットをWindowsのクリップボードに追加するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望のビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報はアクティブなビューの切り替え [▶ ページ 82 - SIDEXIS XG]を参照してください。



- ビューのタイトルバーから、スクリーンショットをクリップボードにコピーする (Ctrl+C) のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function では、画像のスクリーンショットがWindowsのクリップボードにコピーされます。



クリップボードからスクリーンショットを貼り付けることができるアプリケーションは、例えば、画像処理やワープロのソフトウェアなど多数あります。貼り付けのショートカットキーは、大半のアプリケーションで「Ctrl+V」を使用します。

22 3Dビューの調整

3Dビューでは、随時、視線方向を変更することが可能です。これに関する情報は以下を参照してください [3Dビューの目線を変更する \[▶ ページ 94 - SIDEXIS XG\]](#)。

3D画像の構成設定を行うときは、以下の操作を行うことができます。

- [3Dビューの表示タイプを切り替える \[▶ ページ 99 - SIDEXIS XG\]](#)
- [3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する \[▶ ページ 100 - SIDEXIS XG\]](#)
- [切り抜きを移動する \[▶ ページ 102 - SIDEXIS XG\]](#)

22.1 3Dビューの目線を変更する

3Dビューで視線方向を変更する手段は、2種類あります。

- インタラクティブ方式により変更を行う
- 標準目線を選択する

インタラクティブ方式により3Dビューの目線を変更する

3Dビューでインタラクティブ方式により視線方向を変更するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを **3D** 画像に重ねます。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
 - ▶ マウスポインタは手のマークになります。
3. マウスを動かします。
 - ▶ 目線はマウスの動きに合わせて変化します。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで変更後の視線方向をそのまま維持します。

標準目線を選択する

3Dビューで、デフォルトの視線方向を選択するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



1. **3D**ビューで左上隅にある、オリエンテーションヘッドのアイコンにマウスポインタを重ねます。
 - ▶ **目線**の透明なウィンドウが開きます。



- ▶ **目線**の透明なウィンドウ中央部で、オリエンテーションヘッドのハイライト表示されているものがありますが、それが現時点の視線方向です。
2. オリエンテーションヘッドのアイコンのうち、デフォルトにしたい視線方向を示しているものをクリックします。

- ▶ 3D画像の視線方向が、選択した視線方向に切り替わります。
3. マウスポインタを、**目線**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。
- ▶ **目線**の透明なウィンドウが閉じます。

22.2 3Dビューの表示タイプ

3Dビューに関する一般的な情報は3Dビューの調整 [▶ ページ 93 - SIDEXIS XG]に記載されています。

SICAT Function では、3D画像の表示タイプとして、異なる2種類が用意されています。



- 概要の表示タイプでは、3D X線撮影画像全体の概要を表示します。





- セグメントの表示タイプでは、3D X線撮影画像のトリミング部分に限りますが、移動自在です。



3D画像の表示タイプを選択する手順は、3Dビューの表示タイプを切り替える [▶ ページ 99 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

有効な表示タイプを調整する手順は、3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する [▶ ページ 100 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

22.3 3Dビューの表示タイプを切り替える



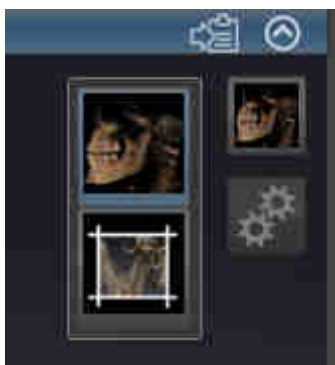
いずれの表示タイプも、すべてのワークスペースで使用できます。

3D画像の表示タイプを切り替えるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 3D画像を作業対象として選択しておきます。これに関する情報は以下を参照してください [アクティブなビューの切り替え](#) [▶ ページ 82 - *SIDEXIS XG*]。

1. 3Dビューの画像のツールバーで、**表示モードを切り替える**のアイコンにマウスポインタを重ねます。

▶ **表示モードを切り替える**の透明なウィンドウが開きます。



2. 任意の表示タイプのアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function は希望の表示タイプをアクティブにします。

3. マウスポインタを、**表示モードを切り替える**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

▶ **表示モードを切り替える**の透明なウィンドウが閉じます。

22.4 3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する



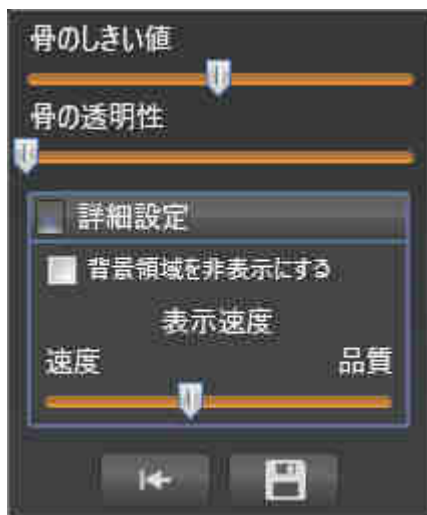
アクティブな表示モードを設定するのアイコンを表示する表示タイプは、構成設定が可能なものに限られています。アクティブな表示モードを設定するの透明なウィンドウで表示される設定内容は、選択した表示タイプに適用されるものに限られています。

3Dビューで選択している表示タイプについて、構成設定を行うときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 3D画像を作業対象として選択しておきます。これに関する情報はアクティブなビューの切り替え [▶ ページ 82 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- ☑ 希望の表示タイプはすでにアクティブになっています。これに関する情報は3Dビューの表示タイプを切り替える [▶ ページ 99 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- ☑ アクティブな表示タイプは設定可能です。



1. 3Dビューの画像のツールバーで、アクティブな表示モードを設定するのアイコンにマウスポインタを重ねます。
 - ▶ アクティブな表示モードを設定するの透明なウィンドウが開きます。



2. 希望のスライダーを動かします。
 - ▶ SICAT Function では、3D画像に対して、スライダーの位置に応じた調整が行われます。
3. 表示があれば、**詳細設定**の横にある矢印アイコンをクリックします。
 - ▶ **詳細設定**のコーナーがドロップダウンで展開します。
4. 使用できるチェックボックスをアクティブまたは無効にします。
 - ▶ SICAT Function では、3D画像に対して、チェックボックス内のチェックマーク有無に応じた調整が行われます。
5. 希望のスライダーを動かします。
 - ▶ SICAT Function では、3D画像に対して、スライダーの位置に応じた調整が行われます。

6. マウスポインタを、**アクティブな表示モードを設定する**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

▶ **アクティブな表示モードを設定する** の透明なウィンドウが閉じます。



現在の設定内容は、**現在の表示タイプの設定をデフォルト設定にリセットする**のボタンをクリックすると、変更前にプリセットしていた設定内容へ戻して復元することができます。



現在の設定内容は、**現在の表示タイプの設定をデフォルト設定として保存する**のボタンをクリックすると、プリセットの設定内容として保存できます。



利用できる場合、処理速度が低速のコンピュータでは、**表示速度**のスライダーの位置を左の方向へスライドさせてください。

22.5 切り抜きを移動する

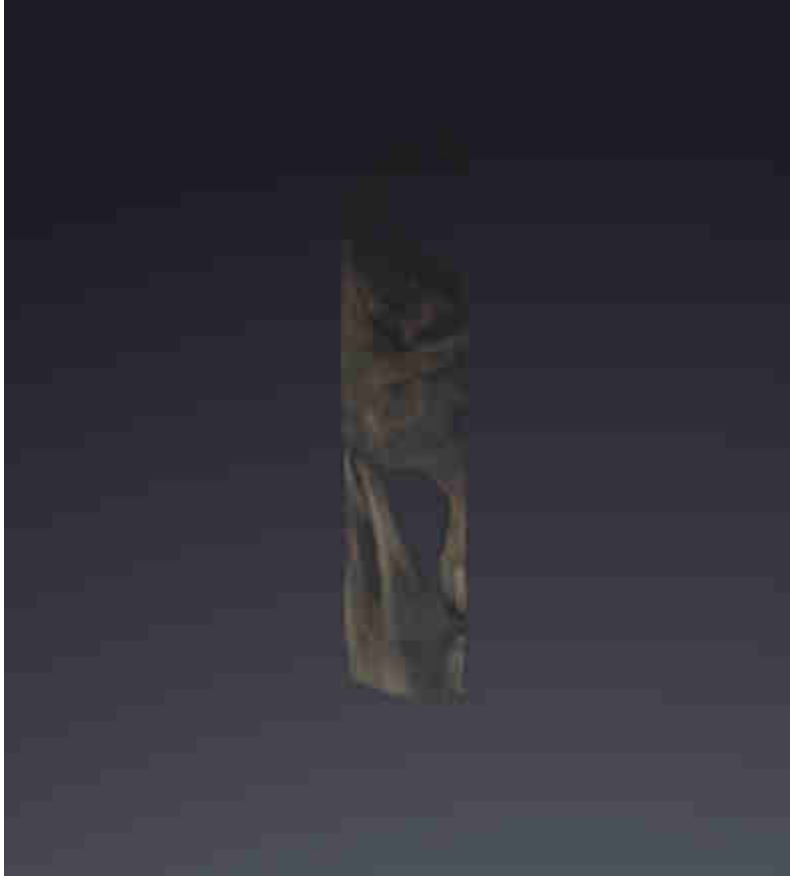
3Dビューに関する一般的な情報は以下に記載されています。 *3Dビューの調整* [▶ ページ 93 - *SIDEXIS XG*].

セグメントの表示タイプを利用すると、3Dビューで、立体画像の一部を隠すことができます。その後、SICAT Functionはボリュームの切り抜きデスクのみ表示し、その位置でSICAT Functionが十字線と同期します。切り抜きデスクを移動するには、次のように行います：

- ☑ セグメントの表示タイプはすでにアクティブになっています。これに関する情報は以下を参照してください *3Dビューの表示タイプを切り替える* [▶ ページ 99 - *SIDEXIS XG*].



- 軸方向画像、冠状画像、矢状方向画像のいずれかで、お好みのレイヤーへスクロールします。これに関する情報はレイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール [▶ ページ 87 - *SIDEXIS XG*] を参照してください。
- ▶ SICAT Functionは選択したレイヤーに応じて切り抜きデスクを移動します：



23 ボリュームの配置およびパノラマエリア



ボリュームの配置の調整が必要な場合は、作業開始に3D X線ビューでこれを実行してください。ボリュームの配置を後で調整する場合は、診断または計画の一部を場合によっては繰り返す必要があります。

ボリュームの配置

すべてのビューのボリューム配置は、3本の主軸にボリュームを回して調整できます。これは、次のような場合に必要になることがあります。

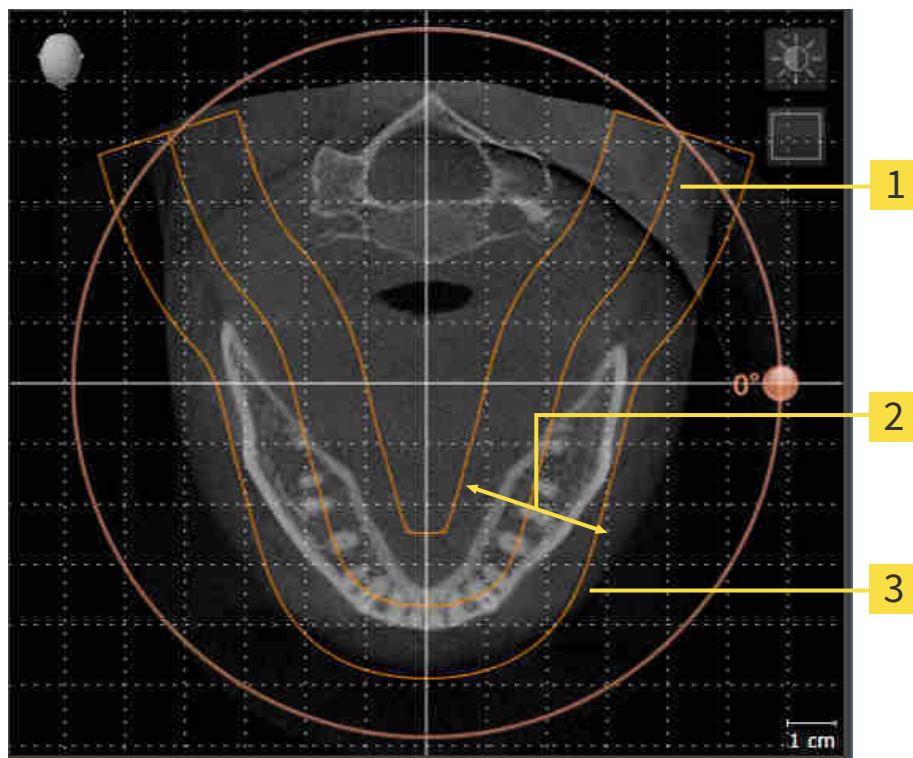
- 3D X線撮影の際に、患者の位置決めが最適ではなかった
- 軸方向レイヤーの配置がフランクフルト水平に平行または咬合平面に平行などの用途後の配置
- パノラマビューの最適化

SICAT Functionで、ボリュームの配置を調整すると、この調整した内容は、SICATの別アプリケーションすべてに適用されます。

ボリュームの配置を調整する手順は、[ボリュームの配置を調整する](#) [▶ ページ 106 - SIDEXIS XG] の節をご覧ください。

パノラマ エリア

SICAT Function では、ボリュームとパノラマ エリアをベースとして計算を行い、パノラマ画像を出力します。パノラマビューを最適化するには、パノラマエリアが患者の両顎と合致するように調整を行うとよいでしょう。これは、効果的かつ効率的な診断および治療計画のために重要となります。



1 パノラマ曲線

2 厚さ

3 パノラマエリア

パノラマエリアは次の二つの要素によって確定されています。

- パノラマ歯列弓の形状と位置
- パノラマエリアの幅

最適な調整結果を得るために、パノラマエリアは、以下の2項目の条件をいずれも満たしておいてください。

- パノラマエリアは、全ての歯と両顎が完全に含まれていなくてはなりません。
- パノラマエリアは、できるだけ薄くしてください。

SICAT Function で、パノラマエリアを調整すると、この調整した内容は、SICATの別アプリケーションのすべてに適用されます。

パノラマエリアを調整する手順は、以下の節をご覧ください。パノラマエリアを調整する [▶ ページ 111 - SIDEXIS XG].

23.1 ボリ्यूムの配置を調整する

ボリ्यूムの配置に関する一般的な情報はボリ्यूムの配置およびパノラマエリア [▶ ページ 104 - SIDEXIS XG] に記載されています。

ボリ्यूムの配置は、以下の手順で調整を行います。

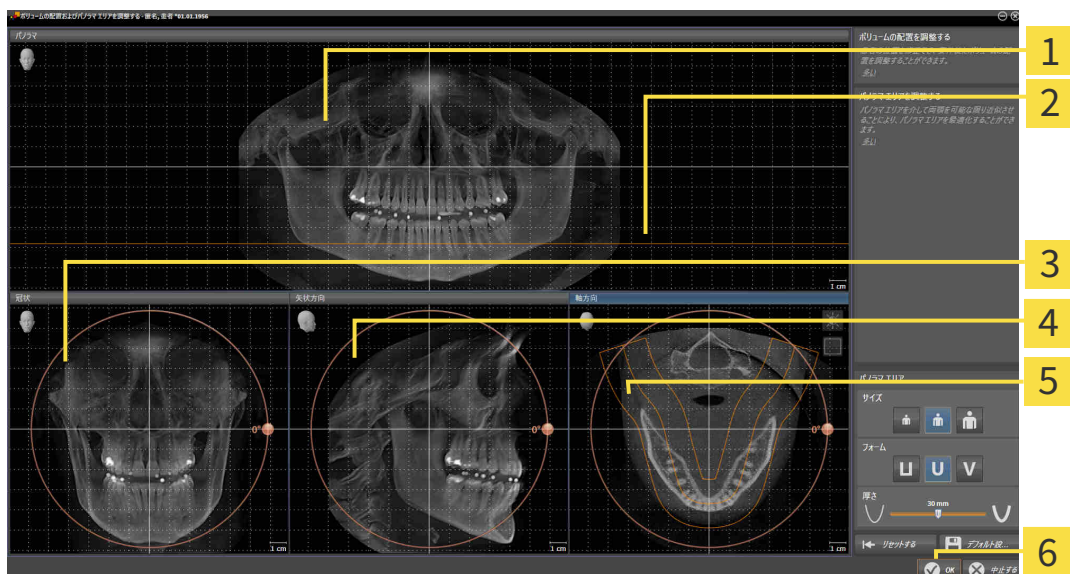
- ボリ्यूムの配置およびパノラマエリアを調整するのウィンドウを開く
- 冠状ビューでボリ्यूムを回す
- 矢状方向ビューでボリ्यूムを回す
- 軸方向ビューでボリ्यूムを回す

「ボリ्यूムの配置およびパノラマ エリアを調整する」のウィンドウを開く

☑ ワークフロー・ステップの準備するは、展開させておきます。



- ボリ्यूムの配置およびパノラマエリアを調整しますのアイコンをクリックします。
- ▶ ボリ्यूムの配置およびパノラマエリアを調整する のウィンドウが開きます。



1 パノラマ-ビュー

2 軸方向基準線

3 冠状ビューと回転スライダー

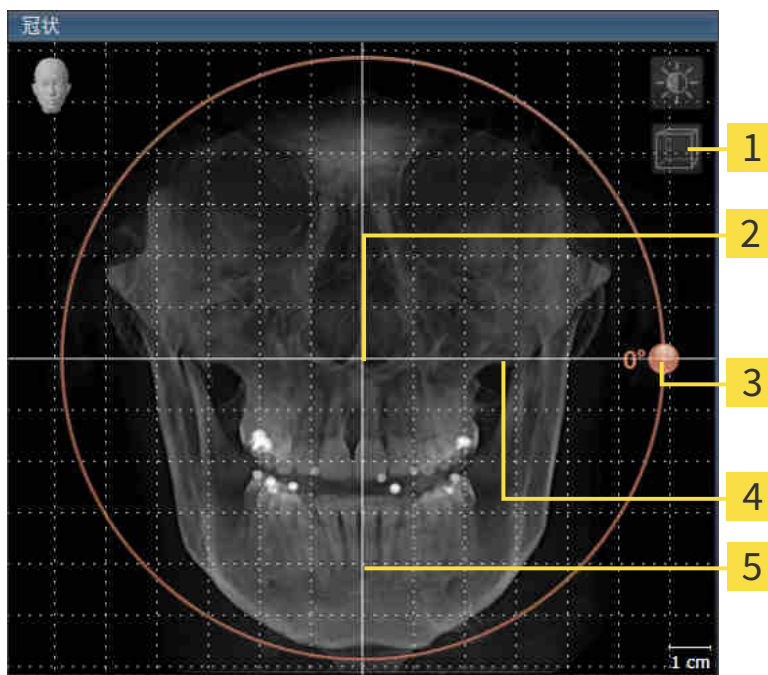
4 矢状方向ビューと回転スライダー

5 軸方向ビューと回転スライダー

6 ボタン OK

冠状ビューでボリユームを回す

1. 冠状ビューをアクティブにします。

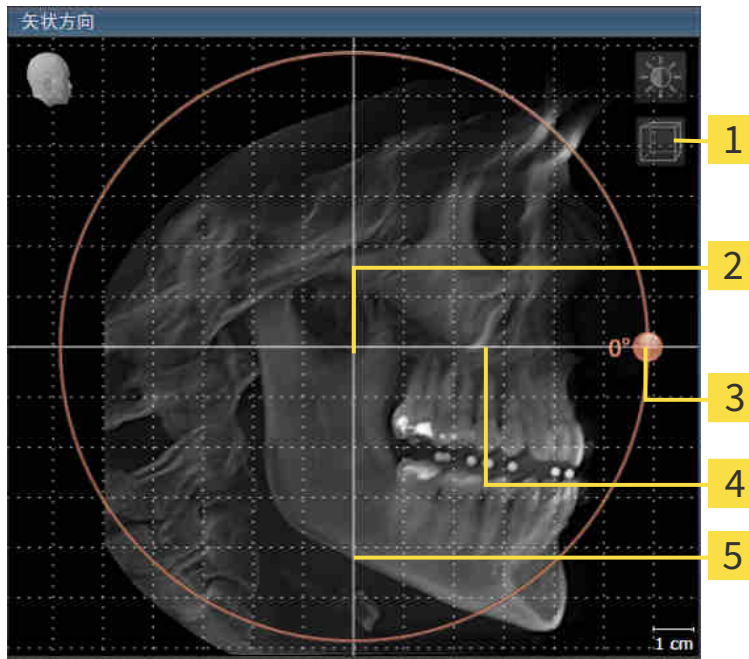


- アイコンレイヤーモードをアクティブにするまたはアイコン 投影モードをアクティブにする
- 1 アイコンレイヤーモードをアクティブにするまたはアイコン 投影モードをアクティブにする
- 2 回転中心
- 3 回転調整つまみ
- 4 水平基準線
- 5 垂直基準線

2. 投影モードがアクティブであることを確認してください。必要に応じて、**投影モードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。
3. マウスポインタを**回転調整つまみ**に重ねます。
4. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
5. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転調整つまみ**を移動させます。
 - ▶ SICAT Function では、**冠状ビュー**で立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。
6. 希望するボリユームの回転がなされた場合はマウスの左ボタンを放します。水平基準線、垂直基準線、格子線は、位置や方向の確認に利用します。

矢状方向ビューでボリウムを回す

1. 矢状方向ビューをアクティブにします。

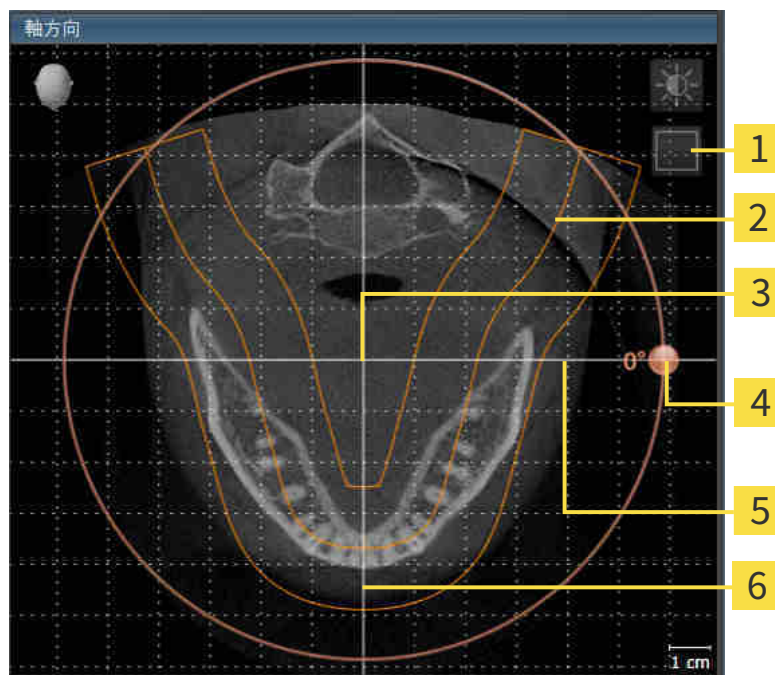


- | | |
|---|----------------|
| 1 アイコンレイヤーモードをアクティブにするまたはアイコン 投影モードをアクティブにする | 4 水平基準線 |
| 2 回転中心 | 5 垂直基準線 |
| 3 回転調整つまみ | |

2. 投影モードがアクティブであることを確認してください。必要に応じて、**投影モードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。
3. マウスポインタを**回転調整つまみ**に重ねます。
4. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
5. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転調整つまみ**を移動させます。
 - ▶ SICAT Function では、**矢状方向ビュー**で立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。
6. 希望するボリウムの回転がなされた場合はマウスの左ボタンを放します。水平基準線、垂直基準線、格子線は、位置や方向の確認に利用します。

軸方向ビューでボリウムを回す

1. 軸方向ビューをアクティブにします。



- | | |
|--|------------------|
| 1 アイコン投影モードをアクティブにする
またはアイコンレイヤーモードをアクティブにする | 4 回転調整つまみ |
| 2 パノラマエリア | 5 水平基準線 |
| 3 回転中心 | 6 垂直基準線 |

2. レイヤーモードがアクティブであることを確認してください。必要に応じて、レイヤーモードをアクティブにするのアイコンをクリックします。
3. 例えば、パノラマビューで軸方向基準線をマウスの左ボタンをクリックし、左ボタンを押したままマウスを上下に動かして下顎骨/歯の根のレイヤーをスクロールします。
4. その必要があれば、パノラマエリアの移動は、軸方向ビューで行います。このときは、パノラマエリア上で左マウスボタンをクリックしたら、左マウスボタンを押したまま、マウスを移動させます。SICAT Function では、パノラマエリアが移動すれば、それに応じて、回転中心、水平基準線、垂直基準線がいずれも移動します。
5. マウスポインタを回転調整つまみに重ねます。
6. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
7. 円形に沿って、お好みの方向へ回転調節つまみを移動させます。
 - ▶ SICAT Function では、軸方向ビューで立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。

8. 希望するボリュームの回転がなされた場合はマウスの左ボタンを放します。パノラマエリア、水平基準線、垂直基準線、格子線は、位置や方向の確認に利用します。
9. 調整した後の内容を保存するときは、**OK**をクリックします。
 - ▶ ボリュームの配置を調整すると、それがSICATのアプリケーションに現在あるオブジェクトに影響する場合は、SICAT Functionで、通知ウィンドウが開き、影響の詳細についてお知らせします。
10. それでもなお、ボリュームの配置の調整を行いたいときは、通知ウィンドウに**調整する**のボタンがありますので、それをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は調整されたボリュームの配置を保存し、配置に応じてボリュームをすべてのビューで表示します。

説明のある手順に加えて、**ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する**のウィンドウでは、以下の各操作が可能です。



- 2Dビューでは、明るさやコントラストを調整できます。このときは、希望のビューをアクティブにし、**輝度およびコントラストの調整**のアイコンをクリックしてください。これに関する情報は**2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット** [▶ ページ 84 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- ビューでズームすることができます。SICAT Function **軸方向**ビューの画像付のビュー間のズームを同期します。
- **リセットする**のボタンをクリックすると、ボリュームの配置やパノラマエリアをデフォルトに復元できます。
- **デフォルト設定を保存する**のボタンをクリックすると、立体画像の現時点の方向や現時点のパノラマエリアを、プリセットの設定内容として保存できます。
- 調整した後の内容を保存する必要がないときは、**中止する**をクリックしてください。

23.2 パノラマエリアを調整する

パノラマエリアに関する一般的な情報は、ボリユームの配置およびパノラマエリア [▶ ページ 104 - SIDEXIS XG]の節をご覧ください。

パノラマエリアの調整は、以下の手順で調整を行います。

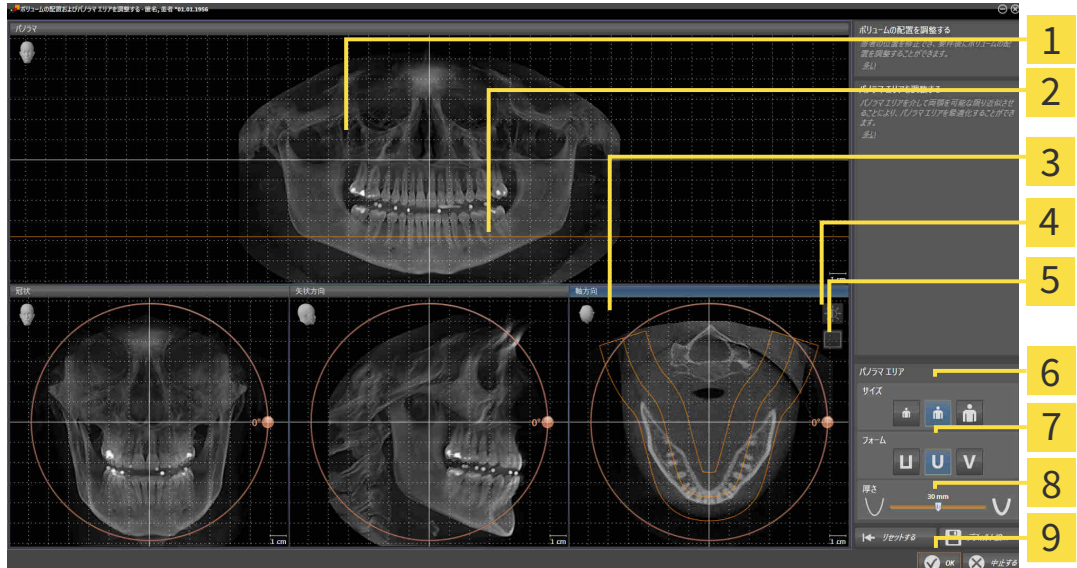
- ボリユームの配置およびパノラマエリアを調整するのウィンドウを開く
- 軸方向ビューのレイヤー位置を調整する
- パノラマエリアを移動する
- 軸方向ビューでボリユームを回す
- サイズ、フォーム、厚さのそれぞれのパノラマエリアを調整する

「ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する」のウィンドウを開く

☑ ワークフロー・ステップの準備するは、展開させておきます。



- ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整しますのアイコンをクリックします。
- ▶ ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整するのウィンドウが開きます。



- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1 パノラマ-ビュー | 6 サイズ-ボタン |
| 2 軸方向基準線 | 7 フォーム-ボタン |
| 3 軸方向ビューと回転スライダー | 8 厚さ-スライダー |
| 4 アイコン 輝度およびコントラストの調整 | 9 ボタン OK |

- 5** アイコン投影モードをアクティブにする
またはアイコンレイヤーモードをアクティブにする

軸方向ビューのレイヤー位置を調整する



1. 軸方向ビューで、レイヤーモードが選択されていることを確認します。必要に応じて、**レイヤーモードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。
2. パノラマビューで、軸方向基準線にマウスポインタを重ねます。軸方向基準線は、**軸方向ビュー**の現在のレイヤー位置を示しています。
3. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
4. マウスを上下方向に移動させます。
 - ▶ 軸方向画像のレイヤーは、パノラマビューで、水平断面の基準線がある位置に合わせて、調整が行われます。
5. 軸方向基準線が下顎骨/歯の根に来たら、マウスの左ボタンから指を放します。
 - ▶ 軸方向ビューでは、調整後のレイヤーが表示されて維持されます。

パノラマエリアを移動する

1. 軸方向ビューで、マウスポインタをパノラマエリアに重ねます。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
 - ▶ マウスポインタの形が切り替わります。
3. マウスを動かします。
 - ▶ SICAT Function では、マウスポインタの位置に合わせて、パノラマエリアの調整が行われます。
4. パノラマエリアの中央の曲線が下顎骨/歯の根に来たら、マウスの左ボタンから指を放します。
 - ▶ パノラマエリアは現在位置を保持します。

軸方向ビューでボリユームを回す

1. 軸方向ビューで、マウスポインタを**回転調整つまみ**に重ねます。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転調整つまみ**を移動させます。
 - ▶ SICAT Function では、**軸方向ビュー**で、**回転調整つまみ**に合わせて、立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。
4. 下顎骨/歯の根がパノラマエリアの中央の曲線に来たら、マウスの左ボタンから指を放します。

パノラマエリアのサイズ、フォームおよび厚さを調整する



1. パノラマエリアの**サイズ**は、患者の下顎骨と合致が最も良好なものを選択します。このときは、そのサイズに該当する、**サイズ**のボタンをクリックします。



2. パノラマエリアの**フォーム**は、患者の下顎骨と合致が最も良好なものを選択します。このときは、そのサイズに該当する、**フォーム**のボタンをクリックします。



3. **軸方向ビュー**で、**投影モード**が選択してあることを確認します。必要に応じて、**投影モードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。



4. **厚さ**のスライダー位置を移動させて、パノラマエリアの**厚さ**を選択します。パノラマエリアに全ての歯と両顎が完全に含まれていることを確認します。厚さは、できるだけ薄くしてください。

5. 調整した後の内容を保存するときは、**OK**をクリックします。

- ▶ SICAT Function では、ボリュームの配置とパノラマエリアについて、いずれも調整した後のものが保存され、パノラマ画像は、その調整後のデータにより表示されます。

説明のある手順に加えて、**ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する**のウィンドウでは、以下の各操作が可能です。



- 2Dビューでは、明るさやコントラストを調整できます。このときは、希望のビューをアクティブにし、**輝度およびコントラストの調整**のアイコンをクリックしてください。これに関する情報は**2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット** [▶ ページ 84 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- ビューでズームすることができます。SICAT Function **軸方向ビュー**の画像付のビュー間のズームを同期します。
- **リセットする**のボタンをクリックすると、ボリュームの配置やパノラマエリアをデフォルトに復元できます。
- **デフォルト設定を保存する**のボタンをクリックすると、立体画像の現時点の方向や現時点のパノラマエリアを、プリセットの設定内容として保存できます。
- 調整した後の内容を保存する必要がないときは、**中止する**をクリックしてください。

24 顎運動データ

顎運動や顎の位置は、患者別で固有ですが、これらより患者の咀嚼動作に関する情報が得られます。これらの情報は、患者の分析および診断のために利用することができます。さらに、これらのデータを患者の治療計画に組み込むこともできます。

SICAT Functionは、患者固有の顎運動と顎位置を可視化します。アプリケーションは、以下の顎運動データソースを使用します。

- 顎運動撮影機器（JMT）からの顎運動データ
- 顎運動撮影機器の静的位置
- 口内カメラで撮影した頬の咀嚼位置

顎運動データを収集する機器として、ソフトウェアを使用できるもののリストは、*互換性のある顎運動撮影機器* [▶ ページ 116 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

頬の咀嚼位置光学印象と共にインポートすることができます。これに関する情報は*光学印象* [▶ ページ 130 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

顎運動データを表示するための準備をするには、顎運動データのインポートの他に、その他のステップを実施する必要があります。これに関する情報は*SICAT Functionの標準ワークフロー* [▶ ページ 35 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

必要なデータがすべて準備できたら、顎運動データに関する次の操作を行うことができます：

- 顎運動と連携する [▶ ページ 142 - *SIDEXIS XG*]
- 3Dビューで運動の軌跡を表示する [▶ ページ 145 - *SIDEXIS XG*]
- 検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する [▶ ページ 146 - *SIDEXIS XG*]
- レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する [▶ ページ 147 - *SIDEXIS XG*]

顎運動データに関する表示の正確性

0.6 mm以下

24.1 互換性のある顎運動撮影機器



使用目的に適合しない顎運動撮影機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

必ずSICAT Functionで顎運動データの利用をカバーするという使用目的に適合する顎運動撮影機器を使用してください。



対応していない顎運動撮影機器または互換性のない記録装置を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

顎運動データの記録にあたり、顎運動の記録機器（例えば、SICAT JMT⁺）と、これに適合する、採得用の器具（例えば、SICAT Fusion Bite）をコンビにしますが、これは、SICAT Functionがサポートするものを使用し、また、それ以外の機器や器具によるデータは、利用しないでください。

必ず互換性のある顎運動撮影機器と対応している記録装置の組み合わせで取得した顎運動データを使用してください。互換性のある顎運動撮影機器で撮影した顎運動データのみSICAT Functionにインポートしてください。SICAT JTIフォーマットV1.0インターフェースに対応している顎運動撮影機器で撮影した顎運動撮影データのみSICAT Functionにインポートすることができます。

現在、SICAT Functionは、次の顎運動撮影機器と顎運動記録装置の組合せに対応しています。

- SICAT JMT⁺とSICAT Fusion Biteの組合せ。製造元は、次のとおりです：SICAT GmbH & Co. KG, Brunnenallee 6, 53177 Bonn

24.2 顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録



3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



不適切な顎運動データ用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の顎運動データを使用してください。



間違って撮影された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データおよび3D X線撮影画像は、各機器のメーカーの指示に従って撮影してください。指定されたタイプの参照オブジェクトを使用してください。



3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない顎運動データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



顎運動データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした顎運動データのインテグリティと品質を確認してください。



顎運動データの品質、正確性、解像度が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質、解像度、正確性の顎運動データを利用してください。



注意

過度なアーチファクト、不十分な解像度、または3D X線撮影画像の品質が十分でない場合、マーカーおよび参照オブジェクトを認識するメカニズムにエラーが生じるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確なマーカー/参照オブジェクト認識を可能にする3D X線撮影画像を使用してください。



注意

参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が間違っていると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

JMTウィザードが参照オブジェクトを認識した後、3D X線撮影画像を考慮しながら、参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が正しいか確認してください。



注意

間違って記録された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された顎運動データが3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

注記

顎運動データを正確に記録するために、SICATは次のパラメーターを含む3D X線データを使用することを推奨します。

1. レイヤーの厚さ：0.7mm以下
2. ボクセルサイズ：全3次元で0.7mm以下



撮影した顎運動データをSICAT Functionにインポートする前に、顎運動データ用機器のソフトウェアからデータをエクスポートする必要があります。SICAT Functionに適合しているファイルのエクスポートについては、顎運動データ用機器の取扱説明書に記載されています。



開いている撮影結果がすでに記録済みの顎運動データを含んでいる場合、**顎運動データをインポートして記録する**を再度開く際に、SICAT Functionがこれらのデータを削除することを確認する必要があります。



顎運動データのインポート中に、SICAT Functionが後で認識できるように、**軸方向の顎運動データをインポートして記録する**ビュー内に3個のボールマーカーを識別表示する必要があります。

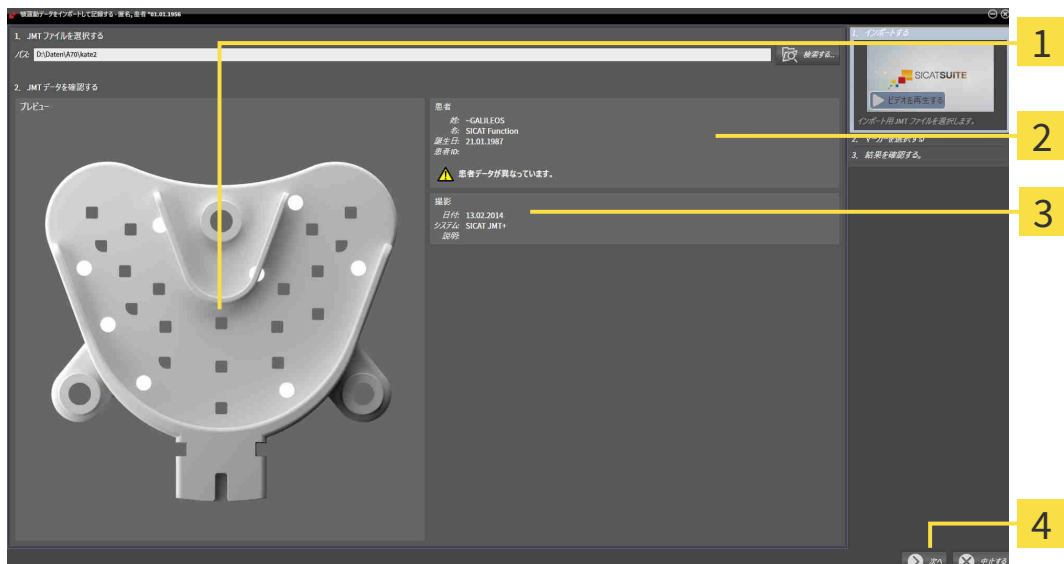
顎運動データに関しての一般的な内容は以下の節をご覧ください。 [顎運動データ](#) [▶ ページ 115 - *SIDEXIS XG*]。

顎運動データのインポートおよび記録は、次のように行います。

- ☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 60 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。



1. **顎運動データをインポートして記録する**のアイコンをクリックします。
 - ▶ のステップで、アシスタント機能**顎運動データをインポートして記録する**が開いています。
2. アシスタントの**顎運動データをインポートして記録する**で、**検索する**のボタンをクリックします。
 - ▶ **JMT エクスポートファイルを読み込む**のウィンドウが開きます。
3. **JMT エクスポートファイルを読み込む**のウィンドウで、顎運動データを保存してある、お好みのファイルに変更したら、そのファイルをハイライト表示にして、**開く**をクリックします。
 - ▶ **JMT エクスポートファイルを読み込む**のウィンドウが閉じ、SICAT Functionは、顎運動データを保存してある、お好みのファイルへのパスを、**パス**のボックスへ転送します。
 - ▶ **バイトフォークビュー**には、顎運動データを記録する間に使用した咬合ピースのプレビューを表示します。
 - ▶ **患者** エリアと **撮影** エリアには、顎運動データのファイルに保存してある情報を表示します。



1 SICAT Fusion Biteのビュー

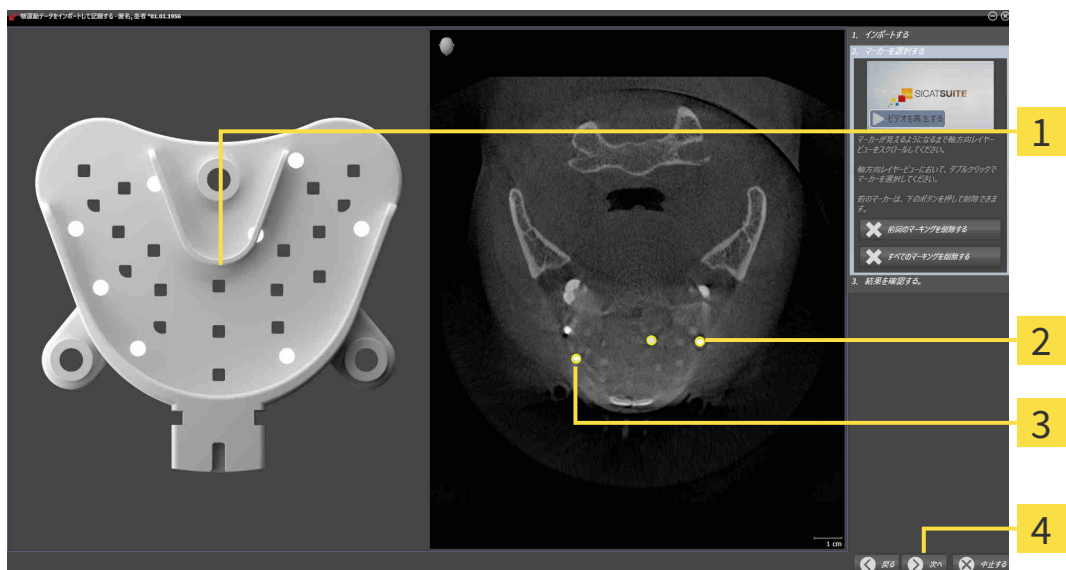
3 エリア 撮影

2 エリア 患者

4 ボタン 次へ

4. 顎運動データを含むファイルが現在のスタディに適合するか確認します。
5. **次へ**をクリックします。

▶ のステップが開きます。



1 バイトフォーク-ビュー

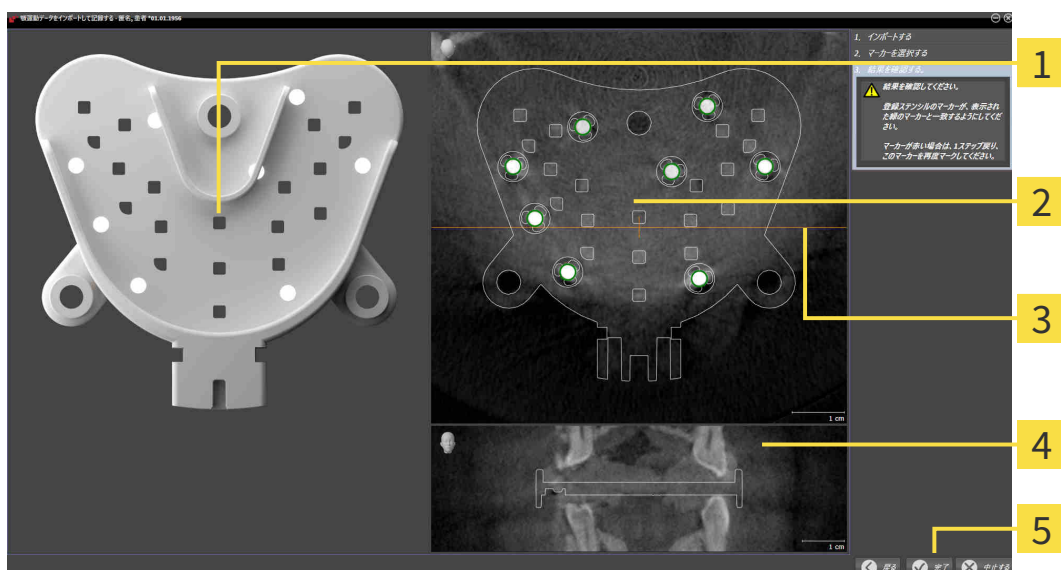
3 選択されたマーキング

2 軸方向-ビュー

4 ボタン次へ

6. 軸方向のレイヤービューにボールマーカーが1個以上表示されるまで、軸方向レイヤーをスクロールします。
7. 軸方向のレイヤービューで、ボールマーカーをダブルクリックします。
 - ▶ SICAT Function がボールマーカーにマークを付けます。
8. 3個のボールマーカーにマークが付けられるまで、最後の手順を繰り返します。
9. 次へをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は顎運動データを記録します。

▶ のステップが開きます。



1 バイトフォーク-ビュー

4 冠状-ビュー

2 軸方向-レイヤービュー

5 ボタン 完了

3 冠状の基準線

10. ボールマーカーがバイトフォーク上と軸方向レイヤービュー内で一致していることを確認してください。

11. SICAT Functionでは、咬合ピースの位置が正確に認識されていることを、**冠状ビュー**で確認します。**軸方向ビュー**で、冠状断の基準線を移動させるか、または、**冠状ビュー**で、断層面をスクロールします。

12. **完了**をクリックします。

▶ SICAT Function は記録済みの顎運動データをインポートします。

▶ アシスタント機能の **顎運動データをインポートして記録する** が閉じます。

▶ SICAT Function では、**オブジェクトブラウザ**で、**顎運動データのオブジェクト**を表示します。これに関する情報は**SICAT Functionオブジェクト** [▶ ページ 68 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。



記載されている手順に加え、以下の操作が**顎運動データをインポートして記録する**で使用できます。

- 前回セットしたマーカーを取り消したいときは、**前回のマーキングを削除する**のボタンをクリックします。
- バイトフォークがX線データに正確に合わせられていない場合、**戻る**ボタンをクリックし、別の位置にあるマーカーでの手順を繰り返します。
- 顎運動データのインポートおよび記録を中断する場合、**中止する**をクリックすることができます。

25 セグメンテーション



注意

3D X線撮影画像の過度なアーチファクトまたは不十分な解像度は、セグメンテーションプロセスの失敗または不十分な結果につながるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトの可能性ががあります。

解剖学的構造関連のセグメンテーションの品質が十分である3D X線撮影画像のみ使用してください。



注意

セグメンテーションの品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

セグメンテーションの品質が使用目的に対して十分であるか確認してください。

下顎骨の運動を表示するときは、下顎骨と背景の境界線を指定してください。これがセグメンテーションと呼ばれます。下顎のセグメンテーションで、患者の下顎と窩の両方ともセグメントすることができます。SICAT Functionでは、セグメンテーションは半自動プロセスです。

半自動プロセスとは、下顎と窩のパーツを描画ツールにより手動で下顎のセグメンテーションに描かなくてはならないことを意味します。マークを付けると、セグメンテーションアシストは類似のエリアを自動指定します。

下顎と窩のセグメンテーション用として、以下の操作を行うことができます。

- 下顎骨をセグメントする [▶ ページ 124 - SIDEXIS XG]
- 窩をセグメントする [▶ ページ 127 - SIDEXIS XG]

下顎をセグメントした後、以下の操作を行うことができます。

- 3Dビューでの患者の解剖学的動作の可視化および再生。これに関する情報は顎運動と連携する [▶ ページ 142 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- 3Dビューでの患者の解剖学的運動経路の可視化および再生。これに関する情報は3Dビューで運動の軌跡を表示する [▶ ページ 145 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- TMJのワークスペースで、移動後の顎関節をビジュアル化する。これに関する情報はTMJワークスペースの各種機能 [▶ ページ 148 - SIDEXIS XG]を参照してください。

25.1 下顎骨をセグメントする



アシスタント機能の **下顎と顎状突起をセグメントする**は、起動時に毎回セグメントの事前計算を実行します。事前計算の時間は、使用するコンピューターの性能によって異なります。



SICAT Function のセグメンテーションは解剖学的輪郭の代わりにエリアで作業します。従って、解剖学的輪郭を正確にトレースする必要はありません。それに代えて、そのエリアの内部にラインを引いて、セグメント化に関するエリアを指定してください。

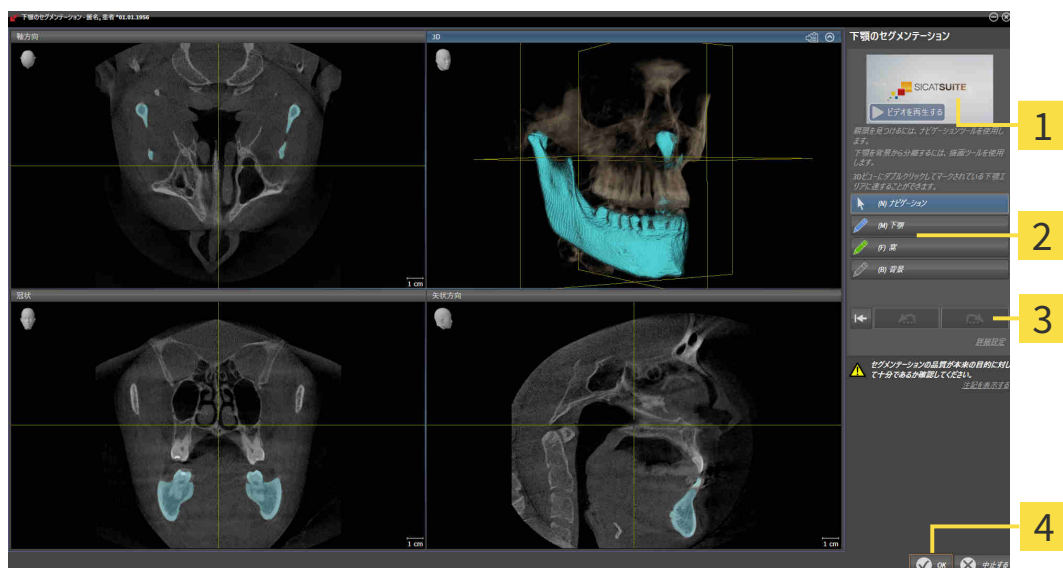
セグメンテーションに関する内容は、**セグメンテーション** [▶ ページ 123 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

下顎骨をセグメントするには、次のように行います。

- ☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 60 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。



1. **下顎と顎状突起をセグメントする**のアイコンをクリックします。
▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** が開きます。



1 事例ビデオ

3 ボタンリセットする、ボタン戻す、およびボタン繰り返す

2 エリア 描画ツール

4 ボタン OK

- ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** は、セグメントの事前計算を実行します。

2. 軸方向ビュー、冠状ビュー、矢状方向ビューを下顎と窩が見えるように調整します。



3. **下顎**のボタンをクリックします。
4. マウスポインタを希望の2Dレイヤービューで下顎骨上に動かします。

- ▶ マウスポインタはペンになります。
- 5. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
- 6. 下顎骨の内側の部分でマウスをドラッグします。
 - ▶ SICAT Function に、青色の線によるマーキングが表示されます。
- 7. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function はマーキングに従って下顎骨をセグメントします。
- 8. 補助エリアを下顎骨に追加する場合、**ナビゲーションアイコン**をクリックし、2Dビュー内で希望の構造に移動し、これらに上記の手順でマークを付けます。
- 9. セグメンテーションが希望通りの場合、**OK** ボタンをクリックします。
 - ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** が閉じます。
 - ▶ SICAT Function では、**オブジェクトブラウザ**で、**ボリューム-部位**のオブジェクトを表示します。これに関する情報は *SICAT Function* オブジェクト [▶ ページ 68 - *SIDEXIS XG*] を参照してください。
 - ▶ **3D**ビューにセグメンテーション結果が表示されます



背景描画ツールは、範囲に背景としてマークを付ける、または半自動セグメンテーションの大き過ぎる範囲を修正する際に使用することができます。

セグメント作業は、後からの時点でも、再開したり、修正したりすることが可能です。



ナビゲーションモードに切り替えると、2Dレイヤービューをスクロールすることができます。

記載されている手順に加え、以下の操作が**下顎と顎状突起をセグメントする**のウィンドウでは、以下の操作を行うことができます。

- **下顎と顎状突起をセグメントする**ウィンドウで使用できます。これに関する情報はショートカットキー [▶ ページ 206 - *SIDEXIS XG*] を参照してください。
- 3Dビューで、セグメントしたエリアに含まれる1箇所をダブルクリックすると、すべての2Dレイヤービューで、それに帰属する断層面が表示されます。SICAT Functionでは、さらに、このダブルクリックした箇所に十字線の中心が移動します。この誘導アシストツールを使用すれば、例えば、はみ出た部分を補正したり、穴を塞いだりすることができます。
- セグメンテーションが解剖学的条件と一致している場合、**戻す**ボタンをクリックしてください。
- 取り消した実行アクションを再度行いたい場合は、**繰り返す**ボタンをクリックします。
- すべてのステップを元に戻したいときは、**リセットする**タンをクリックします。
- データセットの事前計算が最適な結果を示さない場合もあります。事前に行った計算で最適な結果が得られないときは、**詳細設定**をクリックして、**背景を自動的に検出**のチェックボックスからチェックマークを外してください。その後、**背景**のツールを利用して、下顎と窩のいずれからも外れた箇所で、1本以上のラインを引いて、エリア指定を行います。
- 下顎頭や下顎骨部分のセグメンテーションを中断する場合、**中止する**をクリックします。



25.2 窩をセグメントする

TMJのワークスペースを導入すると、大半のケースで、窩のセグメントが不可欠ではなくなります。また、TMJのワークスペースを利用すると、窩のセグメントをすることなく、下顎と窩の動的な相互関係についても、評価を行うことができますようになります。



アシスタント機能の **下顎と顎状突起をセグメントする**は、起動時に毎回セグメントの事前計算を実行します。事前計算の時間は、使用するコンピュータの性能によって異なります。



SICAT Function のセグメンテーションは解剖学的輪郭の代わりにエリアで作業します。従って、解剖学的輪郭を正確にトレースする必要はありません。それに代えて、そのエリアの内部にラインを引いて、セグメント化に関するエリアを指定してください。

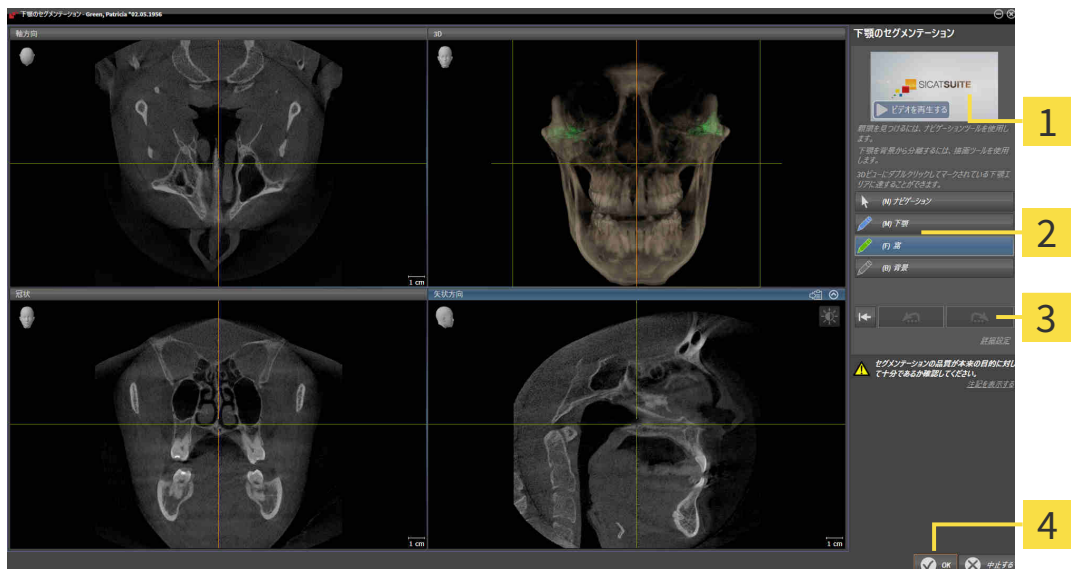
セグメンテーションに関する内容は、[セグメンテーション](#) [▶ ページ 123 - SIDEXIS XG]の節をご覧ください。

窩をセグメントするには、次のように行います。

- ☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 60 - SIDEXIS XG]を参照してください。



1. **下顎と顎状突起をセグメントする**のアイコンをクリックします。
▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション**が開きます。



1 事例ビデオ

3 ボタンリセットする、ボタン戻す、およびボタン繰り返す

2 エリア 描画ツール

4 ボタン OK

- ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション**は、セグメントの事前計算を実行します。

2. **軸方向ビュー、冠状ビュー、矢状方向ビュー**を下顎と窩が見えるように調整します。



3. 窩のボタンをクリックします。
4. マウスポインタを希望の2Dレイヤービューで窩上に動かします。
 - ▶ マウスポインタはペンになります。
5. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
6. 窩の内側部分でマウスをドラッグします。
 - ▶ SICAT Function に、緑色の線によるマーキングが表示されます。
7. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function はマーキングに従って窩をセグメントします。
8. 補助エリアを窩に追加する場合、ナビゲーションアイコンをクリックし、2Dビュー内で希望の構造に移動し、これらに上記の手順でマークを付けます。
9. セグメンテーションが希望通りの場合、OK ボタンをクリックします。
 - ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** が閉じます。
 - ▶ SICAT Function では、**オブジェクトブラウザ**で、**ボリューム-部位**のオブジェクトを表示します。これに関する情報は *SICAT Function* オブジェクト [▶ ページ 68 - *SIDEXIS XG*] を参照してください。
 - ▶ **3Dビュー**にセグメンテーション結果が表示されます



背景描画ツールは、範囲に背景としてマークを付ける、または半自動セグメンテーションの大き過ぎる範囲を修正する際に使用することができます。

セグメント作業は、後からの時点でも、再開したり、修正したりすることが可能です。



ナビゲーションモードに切り替えると、2Dレイヤービューをスクロールすることができます。

記載されている手順に加え、以下の操作が**下顎と顎状突起をセグメントする**のウィンドウでは、以下の操作を行うことができます。



- **下顎と顎状突起をセグメントする**ウィンドウで使用できます。これに関する情報はショートカットキー [▶ ページ 206 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- **3Dビュー**で、セグメントしたエリアに含まれる1箇所をダブルクリックすると、すべての2Dレイヤービューで、それに帰属する断層面が表示されます。SICAT Functionでは、さらに、このダブルクリックした箇所に十字線の中心が移動します。この誘導アシストツールを使用すれば、例えば、はみ出た部分を補正したり、穴を塞いだりすることができます。
- セグメンテーションが解剖学的条件と一致している場合、**戻す**ボタンをクリックしてください。
- 取り消した実行アクションを再度行いたい場合は、**繰り返す**ボタンをクリックします。
- すべてのステップを元に戻したいときは、**リセットする**タンをクリックします。
- データセットの事前計算が最適な結果を示さない場合もあります。事前に行った計算で最適な結果が得られないときは、**詳細設定**をクリックして、**背景を自動的に検出**のチェックボックスからチェックマークを外してください。その後、**背景**のツールを利用して、下顎と窩のいずれからも外れた箇所で、1本以上のラインを引いて、エリア指定を行います。
- 下顎頭や下顎骨部分のセグメンテーションを中断する場合、**中止する**をクリックします。

26 光学印象



光学印象は、Sirona 3D X線機器で作成したX線データにのみインポートおよび記録することができます。

SICAT Function 同じ患者1名について、X線撮影画像と光学印象の対応が相互にとれていれば、その両者を同時に表示できます。表示の組み合わせは、分析および診断のための追加情報を提供します。さらに、治療の実施は光学印象をベースにしています。

光学印象を含むデータを SICAT Function で使用するには、次の操作が必要となります。

- 下顎骨の撮影ビューと上顎骨の撮影ビューから構成される光学印象のファイルをインポートする。このファイルには、例えば、Open GALILEOSのライセンスが付属するCERECなどの光学印象システムで採得した光学印象のデータを含めます。
- X線データへの光学印象の記録

SICAT Function は、次の光学印象用ファイルフォーマットに対応しています。

- SIXDファイル（上顎骨の光学印象と下顎骨の光学印象が含まれます）
- SSIファイル（上顎骨の光学印象と下顎骨の光学印象が含まれます）
- 上顎または下顎の光学印象を含むSTLファイル (SICAT Suite STL インポートライセンスが必要です)

次のツールは光学印象に使用することができます。

- [光学印象をインポートし記録する \[▶ ページ 131 - SIDEXIS XG\]](#)
- [他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する \[▶ ページ 139 - SIDEXIS XG\]](#)
- 光学印象のアクティベーション、非表示および表示に関する情報は[オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 64 - SIDEXIS XG\]](#)をご覧ください。
- 光学印象に焦点を当てること、および光学印象を削除することに関する情報は、[オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 66 - SIDEXIS XG\]](#)の節をご覧ください。

STL形式の光学印象はインポートの際に追加の操作が必要です。これに関する情報は[STLフォーマットの光学印象の場合の追加手順 \[▶ ページ 137 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。

26.1 光学印象をインポートし記録する



注意

3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



注意

不適切な光学印象用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の光学印象データを使用してください。



注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない光学印象データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

患者データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



注意

光学印象データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした光学印象データのインテグリティと品質を確認してください。



注意

光学印象データの品質および正確性が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質および正確性の光学印象データを利用してください。



注意

過度なアーチファクト、不十分な解像度、または記録のための点の欠如は、光学印象の記録に失敗する原因になるおそれがあります。
例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず精確な記録を可能にする光学印象と3D X線撮影画像のみを使用してください。



注意

互いに一致しない光学印象の記録プロセスでマークを選択すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

光学印象データを記録する場合、3D X線撮影画像と光学印象に一致するマーキングで慎重に選択します。

**注意**

間違って記録された光学印象データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違っただん断および治療になるおそれがあります。

記録された光学印象が3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。



これにより、3DX線撮影画像と光学印象が互いに適合しているかどうか確認することができ、アシスタント**光学印象をインポートし記録する**が患者データを常時表示し、設定**匿名にする**を無視します。



光学印象がX線データに正確に配置されているか検査するには、**検査ウィンドウ**を使用することができます。**検査ウィンドウ**を移動し、**検査ウィンドウ**でレイヤーをスクロールすることができます。

光学印象に関する一般的な情報は、**光学印象** [▶ ページ 130 - SIDEXIS XG]の節をご覧ください。

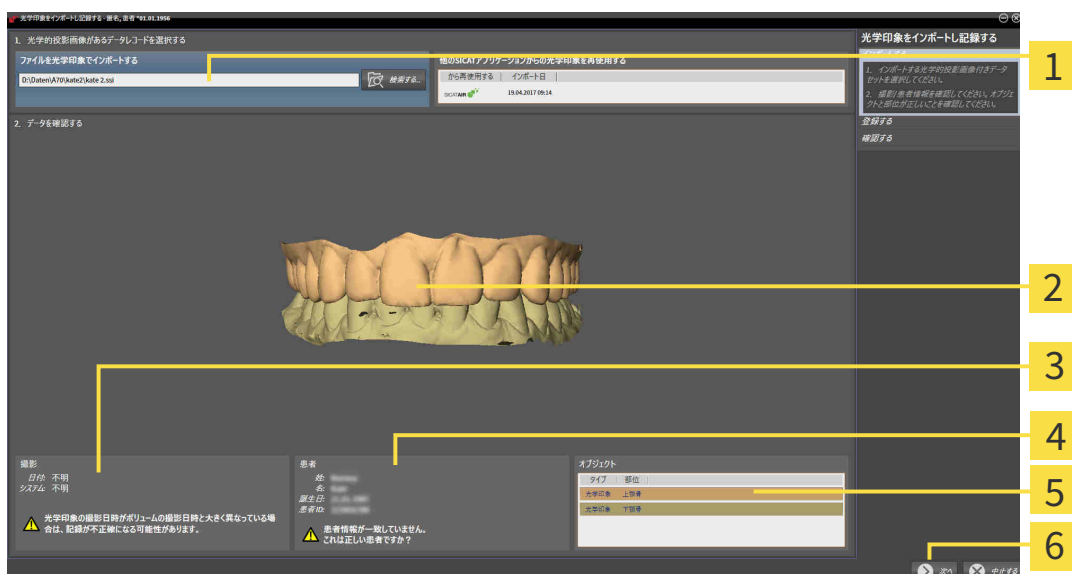
光学印象のインポートおよび記録は、次のように行います。

☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。



1. **光学印象をインポートし記録する**のアイコンをクリックします。
 - ▶ **インポートする**のステップで、アシスタント機能**光学印象をインポートし記録する**が開いています。
2. **検索する**のボタンをクリックします。
 - ▶ **ファイルを光学印象で開く**のウィンドウが開きます。
3. **ファイルを光学印象で開く** ウィンドウで、光学印象を含む任意のファイルに切り替え、ファイルを選択し、**開く**をクリックします。
 - ▶ **ファイルを光学印象で開く**ウインドウが閉じます。

▶ SICAT Function 選択した光学印象を含むファイルを開きます：



1 エリア ファイルを光学印象でインポートする

4 患者情報

2 3D光学印象のビュー

5 オブジェクトリスト

3 撮影図情報

6 ボタン 次へ

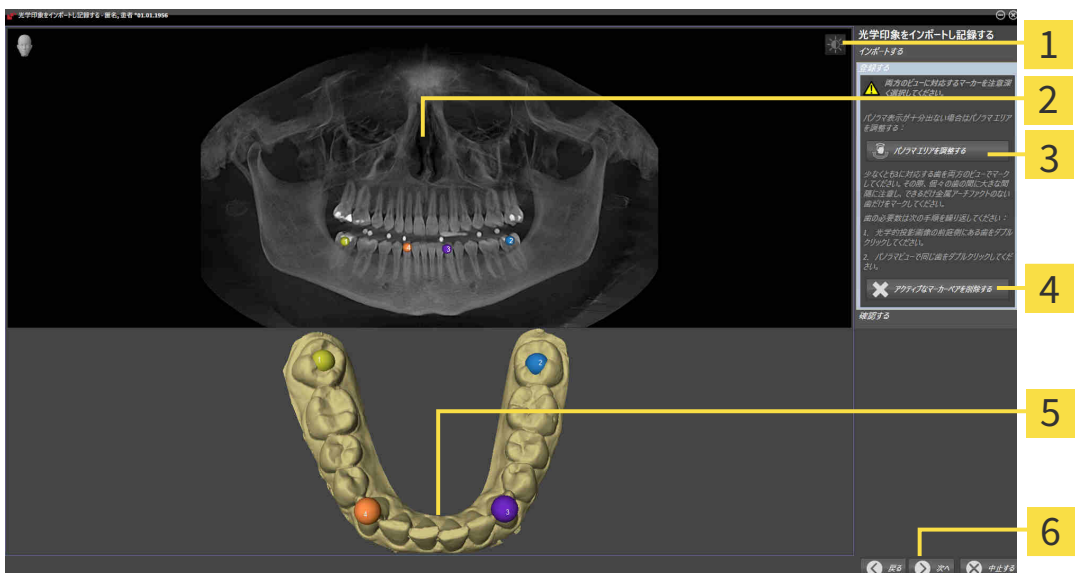
4. 撮影図情報と患者情報を確認してください。
5. オブジェクトと部位が正しいことを確認してください。オブジェクトリストの背景色は3Dビューでのオブジェクトの色に相当します。
6. 次へをクリックします。

- ▶ 3DX線撮影画像内と光学印象内の患者データが一致しない場合、SICAT Functionがウィンドウ異なる患者情報を開きます。



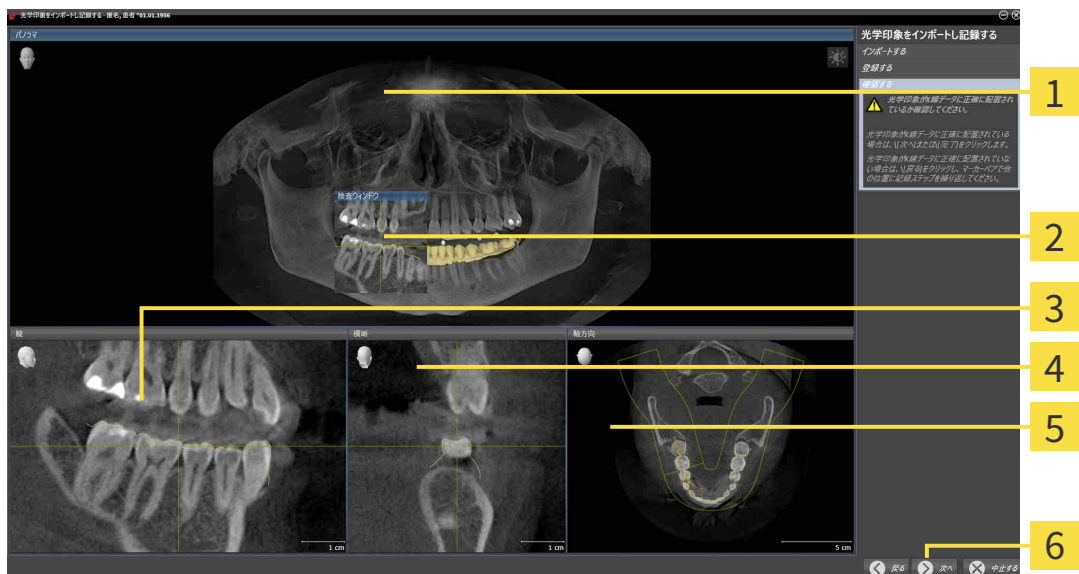
- 7. 患者情報を比較してください。光学印象が現在の患者に合わせて調整されていることを確認したらはいボタンをクリックしてください。

- ▶ 最初の光学印象用に登録するのステップが開きます。



- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 アイコン 輝度およびコントラストの調整 | 4 ボタン アクティブなマーカークーパを削除する |
| 2 パノラマ-ビュー | 5 3Dビュー（最初の光学印象が表示されます） |
| 3 ボタン パノラマエリアを調整する | 6 ボタン 次へ |

8. 最初の光学印象に関して、**パノラマビュー**と**3D ビュー**の光学印象の前庭側の両方で、同じ歯をダブルクリックします。その際、個々の歯の間に大きな間隔に注意し、金属アーチファクトのない歯だけをマークしてください。両方のビューで一致する歯が3個以上識別表示されるまで、この手順を繰り返します。
 - ▶ 両方のビューにある様々な色と番号のマークは、最初の光学印象の割り当てられた歯を示しています。
9. **次へ**をクリックします。
 - ▶ SICAT Function は、X線データによる最初の光学印象の記録を計算します。
 - ▶ 最初の光学印象用に**確認する**のステップが開きます。



- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 パノラマ-ビュー | 4 横断-ビュー |
| 2 検査ウィンドウ | 5 軸方向-ビュー |
| 3 縦-ビュー | 6 ボタン 次へ |

10. 光学印象がX線データに正確に配置されているか2Dレイヤービューを確認してください。レイヤーをスクロールし、表示されている輪郭をチェックしてください。
11. 光学印象がX線データに正確に配置されていない場合、**戻る** ボタンをクリックし、別の位置にあるマーカーのペアで**登録する**の手順を繰り返します。
12. 最初の光学印象がX線データに正確に配置されている場合は、**次へ**ボタンをクリックします。
 - ▶ 2番目の光学印象用に**登録する**のステップが開きます。
13. 2番目の光学印象に関して、**パノラマビュー**と**3D ビュー**の光学印象の前庭側の両方で、同じ歯をダブルクリックします。その際、個々の歯の間に大きな間隔に注意し、できるだけ金属アーチファクトのない歯だけをマークしてください。両方のビューで一致する歯が3個以上識別表示されるまで、この手順を繰り返します。歯の本数として5本まで指定すれば、取込の精度を向上させることができます。

- ▶ 両方のビューにある様々な色と番号のマークは、2番目の光学印象の割り当てられた歯を示しています。

14. 次へをクリックします。

- ▶ SICAT Function は、X線データによる2番目の光学印象の記録を計算します。
- ▶ 2番目の光学印象用に **確認する** のステップが開きます。

15. 光学印象がX線データに正確に配置されているか2Dレイヤービューを確認してください。レイヤーをスクロールし、表示されている輪郭をチェックしてください。

16. 光学印象がX線データに正確に配置されていない場合、**戻る** ボタンをクリックし、別の位置にあるマーカのペアで **登録する** の手順を繰り返します。歯の本数として5本まで指定すれば、取込の精度を向上させることができます。

17. 2回目の光学印象がX線データに正確に配置されている場合は、**完了** ボタンをクリックします。

- ▶ アシスタント機能の **光学印象をインポートし記録する** が閉じます。
- ▶ SICAT Function 選択した光学印象を **オブジェクトブラウザ** に追加する
- ▶ SICAT Function に記録されている光学印象が表示されます。

記載されている手順に加え、以下の操作が**光学印象をインポートし記録する**で使用できます。



- アイコン**輝度およびコントラストの調整**をクリックして、2Dビューの輝度およびコントラストを調整することができます。これに関する情報は**2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット** [▶ ページ 84 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- パノラマエリアは、**パノラマエリアを調整する**アイコンをクリックして調整することができます。これに関する情報は**パノラマエリアを調整する** [▶ ページ 111 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- **登録する** で特定のマーカペアを削除する場合、ペアのマーカを選択し、**アクティブなマーカペアを削除する**ボタンをクリックします。
- 光学印象のインポートおよび記録を中断する場合、**中止する**をクリックします。

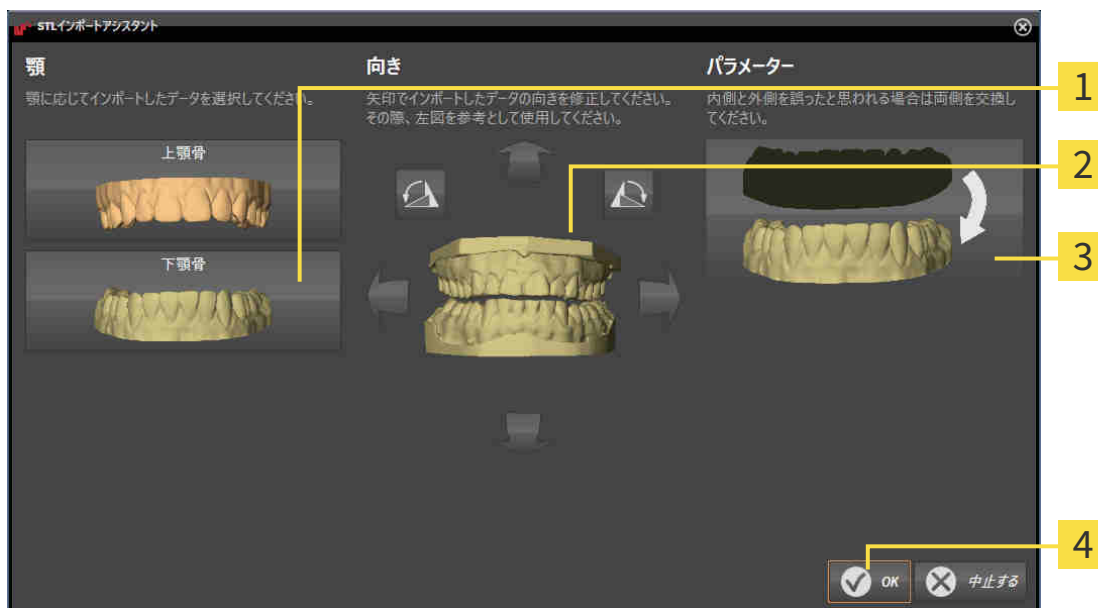
26.2 STLフォーマットの光学印象の場合の追加手順

STLファイルに光学印象の位置と向きに関する情報は含まれていません。そのため、位置と向きを必要に応じて調整する必要があります。

☑ SICAT Suite STL Importライセンスは既に有効化済みです。

1. STL形式のファイルから光学印象を開きます。これに関する情報は[光学印象をインポートし記録する](#) [▶ ページ 131 - SIDEXIS XG]を参照してください。

▶ ウィンドウSTLインポートアシスタントが開きます。



- | | |
|----------------|-------------------|
| 1 顎の選択 | 3 内側と外側の交換 |
| 2 向きの変更 | 4 ボタン OK |

2. 顎エリアで光学印象が上顎骨か下顎骨のいずれを含んでいるか、対応するアイコンをクリックして選択してください。



3. 大まかな事前配置のために、向きエリアで矢印アイコンまたは回転アイコンをクリックすることで、必要に応じて光学印象の向きを変更してください。

4. パラメータエリアで光学印象表示をクリックすることで、光学印象の内側と外側を必要に応じて交換してください。

5. OKのボタンをクリックします。

6. 必要に応じて二つ目のSTLファイルに同様の手順を行ってください。SICAT Function 二つ目のSTFファイルをそれぞれ異なる顎に割り当てます。

▶ SICAT Function にインポートした光学印象が[光学印象をインポートし記録する](#)がアシスタントに表示されます。

7. 光学印象の登録に進みます。これに関する情報は[光学印象をインポートし記録する](#) [▶ ページ 131 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

26.3 他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する



注意

3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



注意

不適切な光学印象用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の光学印象データを使用してください。



注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない光学印象データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

患者データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



注意

光学印象データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした光学印象データのインテグリティと品質を確認してください。



注意

光学印象データの品質および正確性が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質および正確性の光学印象データを利用してください。



注意

間違って記録された光学印象データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された光学印象が3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。



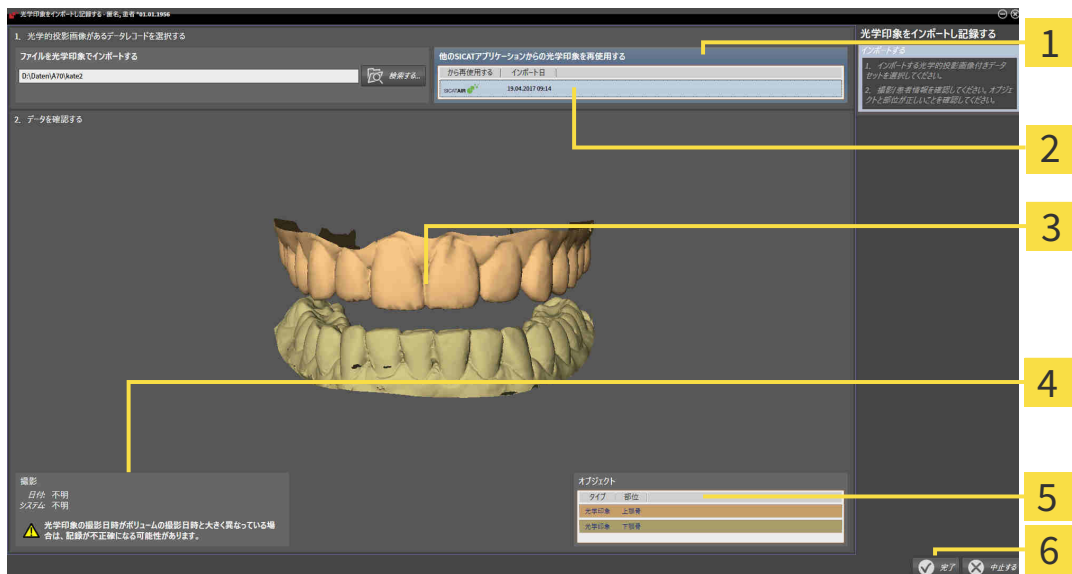
これにより、3DX線撮影画像と光学印象が互いに適合しているかどうか確認することができ、アシスタント光学印象をインポートし記録するが患者データを常時表示し、設定匿名にするを無視します。

光学印象に関する一般的な情報は、以下の節をご覧ください。 [光学印象](#) [▶ ページ 130 - SIDEXIS XG].

他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用するには、次のように行います：

- ☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。
- ☑ 開いているスタディのために、光学印象を他のSICATアプリケーションにすでにインポートしましたが、SICAT Functionでまだ使用していません。

1. **光学印象をインポートし記録する**のアイコンをクリックします。
 - ▶ **インポートする**のステップで、アシスタント機能**光学印象をインポートし記録する**が開いています。
2. **他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する**エリアで希望の光学印象のある行をクリックします。
3. SICAT Function に選択した光学印象が表示されます。



- | | |
|--|------------------------|
| 1 エリア 他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する | 4 撮影図情報 |
| 2 他のSICATアプリケーションからの光学印象のリスト | 5 オブジェクトリスト |
| 3 3D光学印象のビュー | 6 ボタン 完了 |

4. 撮影図情報と患者情報を確認してください。オブジェクトと部位が正しいことを確認してください。オブジェクトリストの背景色は3Dビューでのオブジェクトの色に相当します。

5. **完了**のボタンをクリックします。

- ▶ アシスタント機能の **光学印象をインポートし記録する** が閉じます。
- ▶ SICAT Function 選択した光学印象を**オブジェクトブラウザ**に追加する
- ▶ SICAT Function に選択した光学印象が表示されます。

他のSICATアプリケーションからの光学印象の引き継ぎを中断する場合は、**中止する**をクリックします。

27 解剖学的な咬合

SICAT Function 患者の解剖学的な咬合をビジュアル化できます。すなわち、測定機器で顎運動を記録し、ソフトウェアがその顎運動データと3D X線撮影画像とを同期させます。これを解剖学的な咬合と呼びます。下顎骨をセグメントすると、顎関節に至るまで、患者の顎運動をもれなく再現できます。

SICAT Function 解剖学的な咬合に以下のデータが必要です。

- セグメントされた3D X線撮影データ - これに関する情報は、[セグメンテーション \[▶ ページ 123 - SIDEXIS XG\]](#)の節をご覧ください。
- 記録された顎運動データ - これに関する情報は、[顎運動データ \[▶ ページ 115 - SIDEXIS XG\]](#)の節をご覧ください。

SICAT Function は、光学印象を追加の情報源として利用することができます。例えば、顎を完全に閉じる咬合までの顎運動が、光学印象を利用して解析できます。これに関する情報は[光学印象 \[▶ ページ 130 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。

これらのツールを使用して、患者の個々の顎運動を判定することができます。

- JMTエリア - この表示に関する内容は、[顎運動と連携する \[▶ ページ 142 - SIDEXIS XG\]](#)の節をご覧ください。JMTエリアでは、動画再生ボタンを押すと、**3D**ビュー内で、患者の下顎骨の運動を個別に再生できます。さらに、JMTエリアでは、顎運動データをエクスポートできるボタンが用意されています。
- **3D**-ビュー - これに関する情報は[3Dビューの調整 \[▶ ページ 93 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。
- **検査ウィンドウ** - これに関する情報は[検査ウィンドウの移動、非表示、表示 \[▶ ページ 89 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。

患者の下顎骨の個々の動作を判定するために、2Dレイヤービューで十字線を下顎骨の選択した位置にセットします。SICAT Function その後、**3D**のビューには、選択しておいた位置に、その位置に対応する、運動の軌跡が表示されます。これに関する情報は[十字線およびフレームの移動、非表示、表示 \[▶ ページ 88 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。

また、**検査ウィンドウ**を下顎骨の選択した位置にセットすることもできます。これに関する情報は[3Dビューで運動の軌跡を表示する \[▶ ページ 145 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。

3Dビューでは、SICAT Functionは、選択した位置がセグメントされた下顎骨上または外側にあるか、様々な色で表示します。これに関する情報は[検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する \[▶ ページ 146 - SIDEXIS XG\]](#)と[レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する \[▶ ページ 147 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。

27.1 顎運動と連携する

顎運動データを管理するために、SICAT Functionでは、JMTのエリアが用意されています。



- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| 1 リスト アクティブな顎関係： | 5 アイコン 再生モードを切り替える |
| 2 ボタン 治療位置 | 6 動画再生ボタン |
| 3 ブックマークボタン | 7 ボタン JMTXDをエクスポートします |
| 4 スライダー付きシークバー | |

JMTエリアでは、これで次の操作を行うことができます。

- 静的な顎関係または顎運動を選択する。
- 顎運動と連携する。
- ブックマークを管理する。
- 治療位置を設定する。これに関する情報は治療位置の設定 [▶ ページ 173 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- 顎運動データをエクスポートする。

静的な顎関係または顎運動を選択する

静的な顎関係や動的な顎関係を選択するには、次の手順で行います。

1. アクティブな顎関係：リストをクリックします。
 - ▶ アクティブな顎関係：リストが開きます。
2. 希望の静的な顎関係または、動的な顎関係を選択します。
 - ▶ アクティブな顎関係：リストが閉じます。
 - ▶ JMTエリアでは、顎の相対関係のうち、選択したものの名称を表示します。
 - ▶ 3Dビューに選択した顎関係が表示されます。



顎運動と連携する

顎運動と連携するには、次のように行います：

- ☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録 [▶ ページ 117 - SIDEXIS XG] を参照してください。



1. 動画の再生を開始するときは、**開始** アイコンをクリックします。



2. 動画の再生を停止するときは、**停止** アイコンをクリックします。



3. フレームを早送りには、**次に進む** アイコンをクリックします。



4. フレームを巻き戻すには、**前に戻る** アイコンをクリックします。



5. 再生モードをシングルとエンドレスの間で切り替える時は、**再生モードを切り替える** アイコンをクリックします。
6. 時間軸上の位置を手動で変更する時は、JMTエリアのスライダーをクリックし、マウスを動かし、希望の位置でマウスの左ボタンから指を放します。

JMTエリアでブックマークを管理する

JMTエリアでブックマークを管理するには、次の手順で行います。



1. 時間軸上の現在の位置にブックマークを追加するには、**ブックマークを追加** アイコンをクリックします。



2. 時間軸上の現在の位置からブックマークを削除するには、**ブックマークを削除アイコン**をクリックします。



3. スライダーを次のブックマークの位置に移動させるには、**次のブックマークに進むアイコン**をクリックします。



4. スライダーを前のブックマークの位置に移動させるには、**前のブックマークに戻るアイコン**をクリックします。

以下の場合、ブックマークを削除することができません。

- 治療位置として指定したブックマークがあり、その治療位置に関する注文がカートに入っている場合です。そのブックマークを削除するときは、注文を完了するか、または、注文を削除するかのいずれかを行ってください。
- 削除するために選択したブックマークが、顎の相対関係で、表示中のものにセットしてある場合。そのブックマークを削除するときは、運動の軌跡か、または、静止した状態の顎の相対関係で、該当するものを選択して、**次のブックマークに進むアイコン**をクリックします。

顎運動データをエクスポートします

顎運動データをエクスポートは、次のように行います。

- 顎運動データはすでにインポートされ、記録されています。
- 両顎の光学印象はすでにインポートされ、記録されています。



1. **JMTXDをエクスポートしますのボタン**をクリックします。
 - ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。
2. ディレクトリを選択し、必要に応じてファイル名を変更してください。
3. **保存のボタン**をクリックします。
 - ▶ SICAT Function Windowsファイルエクスプローラーウィンドウを閉じます。
 - ▶ SICAT Function 指定したファイルへ顎運動データと光学印象がエクスポートされます（ファイル形式は、JMTXDで、CEREC 4.4やInLab 15で使用できます）。



事前に設定で匿名化をアクティブにすると、顎運動データを匿名でエクスポートすることができます。

27.2 3Dビューで運動の軌跡を表示する

顎運動の軌跡では、動きの3次元推移を下顎骨の各点個別に表示します。従来式のアキシオグラフ装置で描く軌跡と類似しています。運動の軌跡を表示する各点は、軌跡点と呼びます。SICAT Functionでは、軌跡点を任意に選択できます。JMTエリアで患者の個々の運動を選択し、3Dビューで判定することができます。JMTエリアに関する内容は、**顎運動と連携する** [▶ ページ 142 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

運動経路を3Dビューに表示させるには、次の手順を実行する必要があります。

- 3D X線撮影画像を含む顎運動データを記録します。これに関する情報は、**顎運動データ** [▶ ページ 115 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。
- セグメントされた3D X線撮影画像 - これに関する情報は、**セグメンテーション** [▶ ページ 123 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

顎運動データをインポートし、3D X線撮影画像を3セグメントした後、3Dビューは、次に3D X線撮影図の元の関係を示します。撮影された動作を選択すると、3Dビューに運動経路が表示されます。

SICAT Function 様々な色によって運動経路の位置を識別表示します。

- SICAT Functionでは、運動の軌跡が患者の下顎骨上にあるときは、この軌跡を緑色で表示します。
- SICAT Functionでは、運動の軌跡が患者の下顎骨上にないときは、この軌跡を赤色で表示します。

解剖学的運動経路は、患者の下顎骨上にセットすることができます。これに関する情報は**検査ウインドウにより運動の軌跡を調整する** [▶ ページ 146 - *SIDEXIS XG*]と**レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する** [▶ ページ 147 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

3Dビューの表示タイプを選択し、これを需要に応じて調整することができます。これに関する情報は**3Dビューの調整** [▶ ページ 93 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

軌跡点は、異なる3点を結んで表示させることができます。これに関する情報は**Bonwillの三角を利用する** [▶ ページ 151 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

セグメントした部分の境界線は、表示したり隠したりの切替ができます。これに関する情報は**セグメンテーション限度の表示** [▶ ページ 152 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

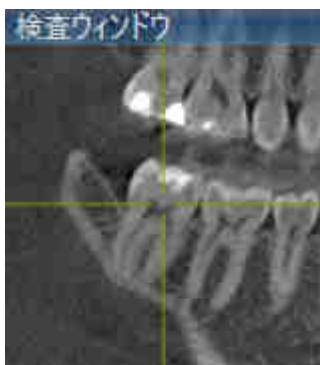
顎運動は、下顎頭を中心にして表示させることができますこれに関する情報は**下顎頭を中心に顎運動を表示する** [▶ ページ 153 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

27.3 検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する

下顎骨全体で患者の顎運動を個別に解析する目的で、**検査ウィンドウ**を利用するには、次の手順で行います：

- ☑ **パノラマワークスペース**はすでにアクティブです。これに関する情報はアクティブなワークスペースを切り替える。[▶ ページ 76 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- ☑ **パノラマ画像**を作業対象として選択しておきます。これに関する情報はアクティブなビューの切り替え [▶ ページ 82 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- ☑ **検査ウィンドウ**は、隠さず表示しておきます。これに関する情報は**検査ウィンドウの移動、非表示、表示** [▶ ページ 89 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

- **検査ウィンドウ**を希望の部位に動かします。



- ▶ SICAT Function 運動経路の位置を**3Dビュー**で**検査ウィンドウ**の位置に応じて更新します。その時点で最新の軌跡点は、検査ウィンドウの十字線で囲まれています。

- ▶ 運動経路は新しい位置にあります。

軌跡点が患者の下顎骨を外れた箇所にあるときは、運動経路を患者の下顎骨上に位置決めすることが可能です。これに関する情報は**レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する** [▶ ページ 147 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

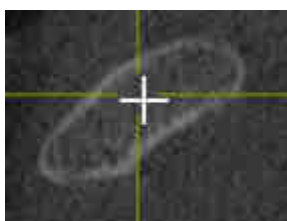


検査ウィンドウを直ちに希望の解剖学的部位に移動させるには、**パノラマビュー**で希望の位置をダブルクリックします。

27.4 レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する

下顎骨全体で患者の顎運動を個別に解析する目的で、十字線を利用するには、次の手順で行います：

- ☑ 十字線は現在2Dレイヤービューに表示されています。これに関する情報は [十字線およびフレームの移動、非表示、表示](#) [▶ ページ 88 - *SIDEXIS XG*] を参照してください。
- 1. 任意の2Dレイヤービューをアクティブにします。これに関する情報は [アクティブなビューの切り替え](#) [▶ ページ 82 - *SIDEXIS XG*] を参照してください。
- 2. 十字線を希望の解剖学的部位に動かします。これに関する情報は [十字線およびフレームの移動、非表示、表示](#) [▶ ページ 88 - *SIDEXIS XG*] を参照してください。



- ▶ SICAT Function 運動経路の位置を3Dビューで十字線の位置に更新します。



3Dビューでは、SICAT Functionは患者の下顎骨以外の位置を選択すると、運動経路を赤色で識別表示します。

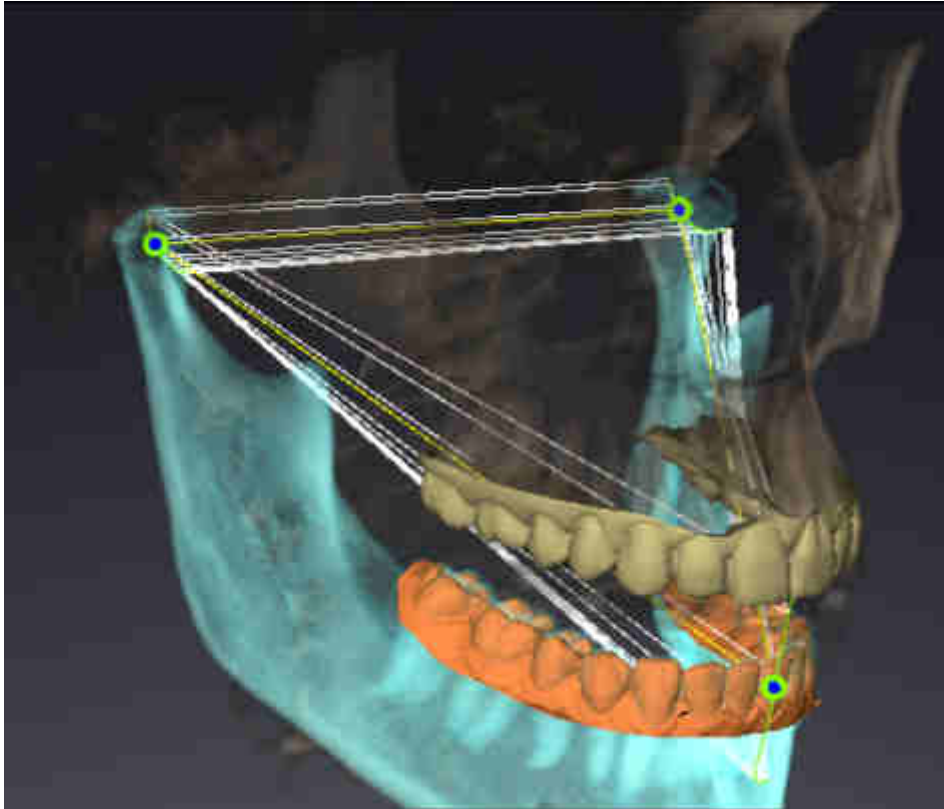


十字線をすぐにマウスポインタの位置へ移動させる場合、2Dビューでダブルクリックすることができます。

28 TMJワークスペースの各種機能

TMJワークスペースは、顎関節機能障害の診断と治療計画の立案を行うときに役立ちます。TMJワークスペースでは、形態と運動の面から、顎関節を左側と右側とで互いに比較できます。

TMJワークスペースでは、1つの顎運動ごとで3種類の異なる、運動経路を表示できます。



- 左側の下顎頭の軌跡
- 右側の下顎頭の軌跡
- 咬合上にある1点の軌跡。例えば、上下顎中切歯の交点

TMJワークスペースのレイヤービューでは、左側と右側のそれぞれについて、下顎頭の軌跡点を移動させることができます。これに関する情報は軌跡点を移動する [▶ ページ 149 - SIDEXIS XG] を参照してください。

3Dビューでは、ダブルクリックにより、上下顎中切歯の交点の軌跡点をセットできます。これに関する情報は上下顎中切歯の交点をセットする [▶ ページ 150 - SIDEXIS XG] を参照してください。

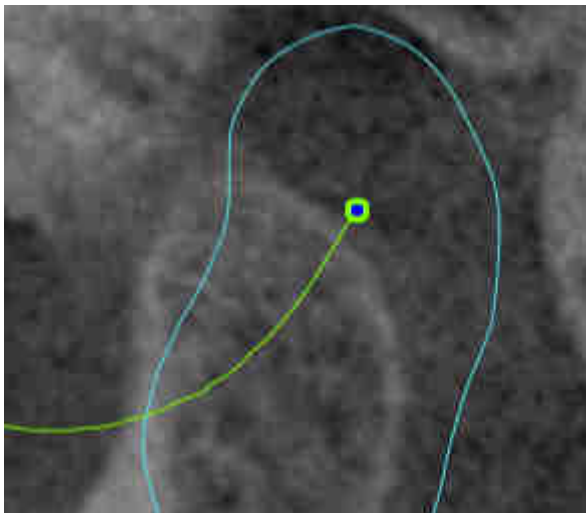
患者の解剖学的咬合について、個別に所見の検討を行うにあたっては、TMJワークスペースにオプションとして追加されているアイテムがいくらかあります。これに関する情報はセグメンテーション限度の表示 [▶ ページ 152 - SIDEXIS XG]、下顎頭を中心に顎運動を表示する [▶ ページ 153 - SIDEXIS XG] と Bonwillの三角を利用する [▶ ページ 151 - SIDEXIS XG] を参照してください。同様にBonwillの三角は咬合器値の読み取りに使用できます。これに関する情報は咬合器値 [▶ ページ 154 - SIDEXIS XG] を参照してください。

28.1 軌跡点を移動する

SICAT Function では、下顎頭の左側と右側とで互に対応する軌跡点の軌跡を同時に表示します。この軌跡を利用すると、顎関節の運動全体を左右相互で比較することができます。

レイヤービューで、下顎頭の左側と右側の各軌跡点を移動させるには、次の手順で行います。

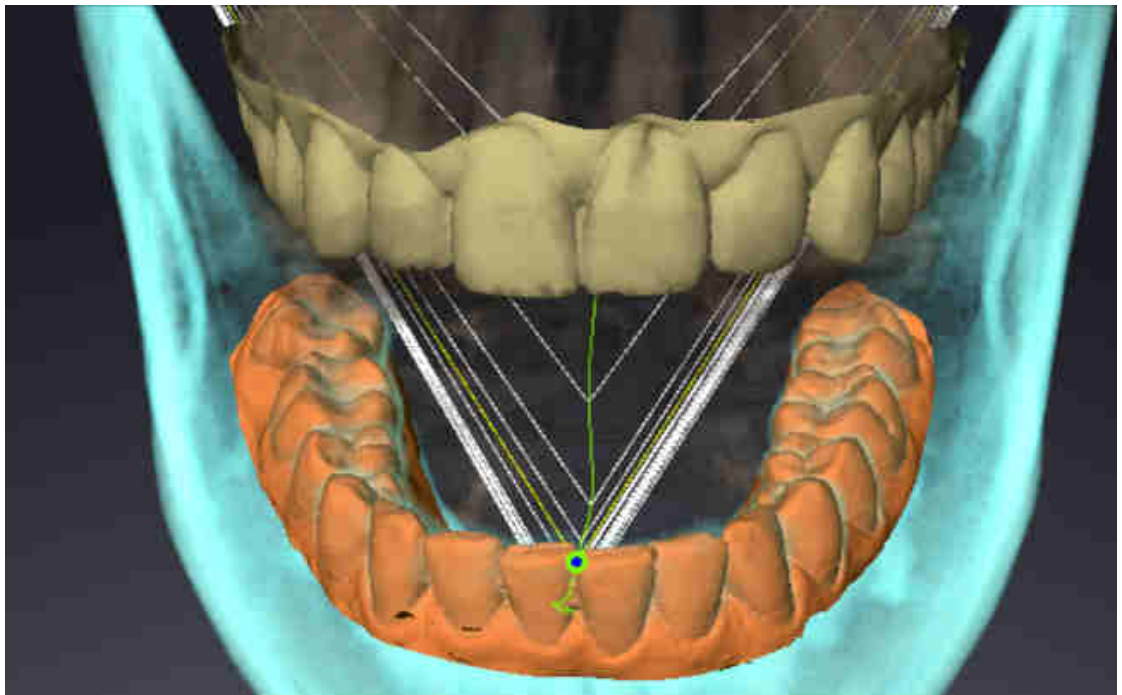
- ☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。**TMJワークスペース**に関する一般的な情報は、**TMJワークスペースの各種機能** [▶ ページ 148 - *SIDEXIS XG*]と**TMJワークスペースに関する概要** [▶ ページ 73 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。
 - ☑ 既に動的顎関係が選択されています。
1. マウスポインタを希望の軌跡点上に動かします。
 2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
 3. マウスポインタをご希望の軌跡点の位置に動かします。
 4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function レイヤービューで、選択しておいた位置へ下顎頭の左側と右側の各軌跡点が移動します。



28.2 上下顎中切歯の交点をセットする

3Dビューで、上下顎中切歯の交点をセットするには、次の手順で行います。

- ☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。**TMJワークスペース**に関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能* [▶ ページ 148 - *SIDEXIS XG*]と *TMJワークスペースに関する概要* [▶ ページ 73 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。
- ☑ 既に動的顎関係が選択されています。
 - 3Dビューでマウスポインタをお好みの位置に重ねたら、左マウスボタンをダブルクリックします。
 - ▶ **SICAT Function** では、光学印象上で選択した位置を軌跡点として利用します。



上下顎中切歯の交点を正面から見ると、下顎の側方運動が識別できてより詳細な観察が可能になります。

28.3 BONWILLの三角を利用する

BONWILLの三角を表示する

SICAT Functionでは、**Bonwillの三角**により、3点の軌跡点を結んで表示します。顎運動に非対称性や急激な変動があれば、この表示により、それらがより特定しやすくなります。

Bonwillの三角を表示するには、次の手順で行います：

- ☑ TMJワークスペースはすでに開いています。TMJワークスペースに関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能* [▶ ページ 148 - *SIDEXIS XG*]と*TMJワークスペースに関する概要* [▶ ページ 73 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。
- ☑ 既に動的顎関係が選択されています。
 - オブジェクトブラウザで、**顎運動データ**をクリックします。
 - ▶ SICAT Function **プロパティ**の下に**Bonwillの三角**を表示します。



BONWILLの三角の構成設定を行う

Bonwillの三角の表示個数を設定するには、次の手順で行います。

1. オブジェクトブラウザで、**顎運動データ**をクリックします。
2. プロパティ エリアにある**ステップ幅**の上下矢印キーのいずれかをクリックします。
 - ▶ SICAT Function では、**ステップ幅**のボックスの数値が切り替わります。
 - ▶ 3Dビューでは、選択した個数でBonwillの三角が表示されます。



上記の個数は、顎運動に非対称性があったときに、それが検出しやすくなる数値に設定してください。

28.4 セグメンテーション限度の表示

セグメンテーション限度の表示ようにしておく、セグメント化の質を3D X線撮影画像と比較することができます。セグメントした部分の境界線が3D X線撮影画像と異なるときは、**下顎と顎状突起をセグメントする**のウィンドウで、セグメントした部分を修正することができます。

青色の輪郭線は、現時点での運動に基づく下顎頭の位置を表示します。そのため、通常、この青色の輪郭線が3D X線撮影画像と重なって一致することはなく、セグメントの質をチェックする目的には、適切ではありません。代わりに黄色い輪郭をセグメンテーション限度のチェックに使用してください。

セグメンテーション限度の表示には、次の手順で行います。

- ☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。**TMJワークスペース**に関する一般的な情報は、以下の節をご覧ください。 *TMJワークスペースの各種機能* [▶ ページ 148 - *SIDEXIS XG*]および *TMJワークスペースに関する概要* [▶ ページ 73 - *SIDEXIS XG*]。
- ☑ 既に動的または静的顎関係を選択しています。

1. オブジェクトブラウザで、**ボリューム**部位をクリックします。

- ▶ **SICAT Function プロパティ**に、**セグメンテーション限度の表示**のオプションが表示されます：



2. **セグメンテーション限度の表示**のオプションで、スライダーを**オン**の位置に移動させます。

- ▶ 2Dビューでは、セグメントした部分の境界線を黄色の輪郭で表示します。

SICAT Function 咬合でセグメントした位置を色違いで識別表示します。

- SICAT Functionでは、セグメントした位置にあって運動中の下顎頭を青色で識別表示します。
- 3D X線撮影画像の元来のセグメンテーションはSICAT Functionをチェックラインで表示します。SICAT Function チェックラインを黄色で識別表示します。

28.5 下顎頭を中心に顎運動を表示する

下顎を中心とする顎運動を利用すると、運動する下顎頭を窩との相対関係で表示することができます。下顎を中心とする顎運動を起動すると、TMJのレイヤービューで顎運動が開始して終了するまでの間、下顎にある点のすべてをワークスペースに表示させることができます。下顎を中心とする顎運動を停止すると、TMJのレイヤービューで顎運動が開始して終了するまでの間、窩にある点のすべてをワークスペースに表示させることができます。

下顎を中心とする顎運動を表示するには、次の手順で行います。

- ☑ TMJワークスペースはすでに開いています。TMJワークスペースに関する一般的な情報は、[TMJワークスペースの各種機能](#) [▶ ページ 148 - *SIDEXIS XG*]と [TMJワークスペースに関する概要](#) [▶ ページ 73 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。
- ☑ 既に動的または静的顎関係を選択しています。

1. オブジェクトブラウザで、**ボリューム-部位**をクリックします。

▶ SICAT Function プロパティに、**顎状突起中心の動作**のオプションが表示されます：



2. **顎状突起中心の動作**のオプションで、スライダーを**オン**の位置に移動させます。

▶ 3Dビューで、下顎を中心とする顎運動を表示します。

29 咬合器値



注意

誤ったボリュームの配置や切歯点の固定は、誤った診断および治療につながるおそれがあります。

1. 3DX線撮影画像の方向が上顎骨の咬合平面が軸レイヤーと平行になるようになっているか確認してください。
2. 患者の歯が上顎骨と下顎骨の咬合平面が一致する咬合状態にある顎関係を選択していることを確認してください。
3. 切歯点がソフトウェア内で下顎中切歯間の解剖学的に正しい位置に設置されているか確認してください。



注意

正確性に欠けるボンウィル三角の定義は間違った診断および治療につながるおそれがあります。

1. 正確な解剖学的指標に応じたボンウィル三角の定義を採用したことを確認してください。
2. ボンウィル三角の定義が本来の使用目的に対して適切かどうか確認してください。



注意

不適切な顎運動データの使用は誤った蝶番軸の算出につながるおそれがあります。

蝶番軸の算出には実際の開口運動または閉口運動を使用してください。

SICAT Function 患者固有の咬合器値を決定する際、サポートします。咬合器上の値を送信することにより、個別修復を構成し、完了することができます。現時点では咬合平面を基準平面として使用する咬合器のパラメータの決定は最適化されています。

咬合平面を基準平面として使用する咬合器の例はCEREC-Software (Dentsply Sirona)の仮想咬合器です。CEREC咬合器を個々の値を使ってプログラムする手順はCERECの取扱説明書をご覧ください。

必要な顎運動データ

最大の咬合器値を顎運動の記録を基に決定することができます。値を決定するには特定の種類の顎運動データが必要です。

咬合器値	必要な顎運動データ
左右の顎関節の矢状顎路角	突起
左右のベネット角および左右の即時切替	左右のラテロトルージョン
蝶番軸	実際の開口運動または閉口運動

CEREC咬合器用の値

SICAT Functionを使用してCEREC咬合器用の以下の値を決定することができます。

CEREC咬合器のパラメータ	説明
辺	辺とは下顎中切歯間の左または右の下顎頭から切歯点までの距離です。SICAT Function ボンウィル三角の辺の長さを直接示します。
基準	基準は左右の下顎頭間の距離です（下顎頭間距離）。SICAT Function ボンウィル三角の基準の長さを直接示します。
バルクウィル角	バルクウィル角は咬合平面とボンウィル三角の間の角です。SICAT Function ボンウィル三角でバルクウィル角を直接示します。
左右の矢状顎路角	矢状顎路角は左の突起部または右の下顎頭と咬合平面の間の角です。この角をTMJワークスペースの矢状ビューで突起部を使って測定することができます。3DX線撮影画像が上顎骨の咬合平面に対して水平方向を向いていることを確認してください。この点についてボリュームの配置についての安全指示に必ず留意してください。左右の顎関節の突起部と水平面の間角を測定してください。
左右のベネット角	ベネット角は突起部運動とラテロトルージョンの間の角です。この角をTMJワークスペースの軸方向ビューでラテロトルージョンを使って右側および左側で測定することができます。3DX線撮影データが上顎骨の咬合平面に対して水平方向を向いていることを確認してください。この点についてボリュームの配置についての安全指示に必ず留意してください。ラテロトルージョン突起と矢状平面の間角を測定してください。
左右の即時切替	

3DX線撮影画像における視認可能な下顎頭

咬合器値は主に顎運動の記録をもとに決定することができます。下顎頭間距離（CEREC咬合器でのボンウィル三角の「基準」長さ）を顎運動データのみで決定することはできません。

3DX線撮影画像で顎関節が見えない場合、ボンウィル三角の「基準」辺長さを蝶番軸を使って決定することができます。蝶番軸は実際の開口または閉口運動から決定することができます。その際に重要なのは下顎骨は純粋な回転運動を行い、前進はしないことです。

ただし、下顎頭間距離は3DX線撮影画像から決定することができます。どの咬合器値にどの顎運動データが必要かは以下の表を参照してください。

	下顎頭が3DX線撮影画像で視認可能	下顎頭が3DX線撮影画像で視認不可能
原因	<ul style="list-style-type: none"> 大きなField of View (FOV)付の3DX線撮影用のX線装置を持っています。 	<p>小さなField of View (FOV)付の3DX線撮影用のX線装置を持っています。</p> <p>石膏模型の3DX線撮影画像を作成しました。</p>
結果	3DX線撮影画像では下顎頭に左右のトレースポイントを配置することができます。	3DX線撮影画像では下顎頭に左右のトレースポイントを配置することができません。
必要な手順	TMJワークスペースのレイヤービューに左右のトレースポイントを配置してください。その際、3DX線撮影画像内で下顎頭の位置を参照してください。	<p>蝶番軸の算出には実際の開口運動または閉口運動の画像が必要です。患者が顎を数ミリメートル開けるか閉めるかすること、およびお客様が下顎骨が前進しないように下顎頭をLauritzenグリップまたはDawsonグリップで操作することにより、実際の開口運動または閉口運動の特徴が決まります。</p> <p>SICAT Function 両方のトレースポイントが顎関節の蝶番軸上に来るように左右のトレースポイントを配置します。</p>

ボンウィル三角 SICAT FUNCTION

以下の咬合器値を決定する際、SICAT Function内でボンウィル三角をサポートしてください。

- 左右の辺 [mm]
- 基準 [mm]
- バルクウィル角 [°]

ボンウィル三角の3つの頂点が正確に配置されている必要があります。

- 左トレースポイント
- 右トレースポイント
- 切歯点

TMJワークスペース内で**3D**ビューで解剖学的に正確な点をダブルクリックすることで、切歯点を配置することができます。下顎頭が3DX線撮影画像内で見えるかどうかによって左右両方のトレースポイントが異なる配置になるかどうかが決まります。

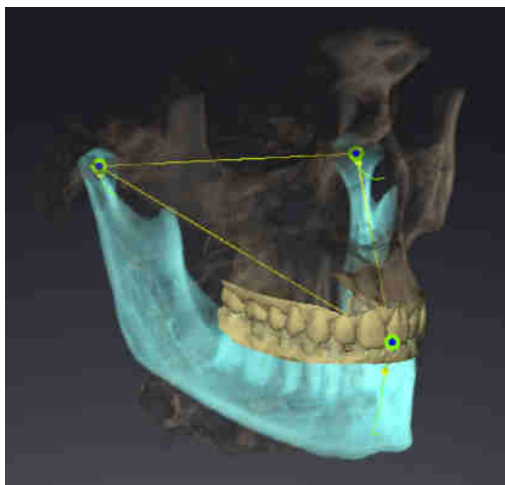
咬合器値を読み取る手順は、**下顎頭が視認可能な時に咬合器値を読み込む** [▶ ページ 158 - *SIDEXIS XG*]、または**下顎頭が視認不可能な時に咬合器値を読み込む** [▶ ページ 160 - *SIDEXIS XG*]の節をご覧ください。

29.1 下顎頭が視認可能な時に咬合器値を読み込む

下顎頭が視認可能な場合のボンウィル三角の設定

以下の手順にはTMJワークスペース内でレイヤービューを使用してください。

1. 左右いずれかのトレースポイントをクリックし、マウスの左ボタンを押したまま各下顎頭にトレースポイントを配置します。
2. 解剖学的に正確な位置をダブルクリックして下顎の切歯間に切歯点を配置します。下顎骨の切歯間に切歯点が見えない場合は開口運動を選択し、顎を少しだけ開いてください。顎運動データ内で特定の位置を選択する方法に関する情報は顎運動と連携する [▶ ページ 142 - SIDEXIS XG]を参照してください。



スクリーンショットは3DX線撮影画像を大きなField of View (FOV)で示します。その中にはボンウィル三角が患者の解剖学的構造と整合しています。下顎頭が視認可能です。左右のトレースポイントは視認可能な下顎頭の中央に配置されています。SICAT機能内の切歯点の下顎骨切歯間の中央に配置されています。



SICAT機能はボンウィル三角の辺の長さをmm単位で表示します。咬合器に対して直接値を記録することができます。SICAT機能が同様にバルクウィル角を表示します。バルクウィル角は閉じた顎に対してのみ適用されます。

下顎頭が可視の場合の咬合器値の決定

咬合器値を決定するには、次のように行います。

- ☑ 上顎骨の咬合平面が水平に向き、顎が正中矢状面に対して可能な限り対称になるように3DX線撮影画像の位置を調整済みです。正確なデータを収集し、咬合器に転送するには、正確な調整が必要です。これに関する情報はボリュームの配置およびパノラマエリア [▶ ページ 104 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- ☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は顎運動データ [▶ ページ 115 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- ☑ TMJワークスペースはすでに開いています。これに関する情報はTMJワークスペースに関する概要 [▶ ページ 73 - SIDEXIS XG]を参照してください。

☑ リスト **アクティブな顎関係**：で既に動的顎関係が選択されています。これに関する情報は**顎運動と連携する** [▶ ページ 142 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

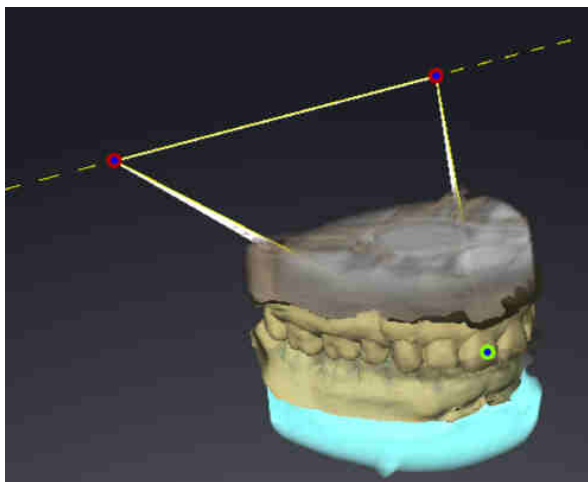
1. **オブジェクトブラウザ**でオブジェクト **顎運動データ**を選択します。
▶ **プロパティエリア**にSICAT Functionボンウィル三角が表示されます。
2. セグメンテーションされた下顎上で解剖学的に正確な位置または光学印象をダブルクリックして**3Dビュー**で下顎中切歯間に切歯点をセットします。下顎から切歯までの切歯点が隠れている場合、下顎から切歯までが表示されるまで、顎の運動を再開して開きます。ダブルクリックで切歯点を配置し、顎を再び閉じてください。
3. トレースポイントを冠状、矢状、および事項方向に動かして下顎頭の中央に左右のトレースポイントをセットしてください。
4. 辺の長さが対称であることを確認してください。
5. 基準値、辺の値（これらの値は両側で同じです）およびバルクウィル角を記録しておきます。
6. 選択した突起部運動の際は顎が閉じている時点を選択してください。顎運動データ内で特定の位置を選択する方法に関する情報は**顎運動と連携する** [▶ ページ 142 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
7. 歯がしっかり閉じていることを確認してください。
8. ツール**角度測定を追加する(A)**を使って矢状ビューで左右の顎関節での下顎頭の傾きを測定してください。値を記録しておきます。
9. 左へのラテロトルージョンを選択してください。ツール**角度測定を追加する(A)**を使って軸方向ビューで右の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。
10. もしある場合は、右の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。
11. 右へのラテロトルージョンを選択してください。ツール**角度測定を追加する(A)**を使って軸方向ビューで左の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。
12. もしある場合は、左の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。

29.2 下顎頭が視認不可能な時に咬合器値を読み込む

下顎頭が視認不可能な場合のボンウィル三角の設定

手順は次の通りです。

1. リストアクティブな顎関係：から実際の開口または閉口運動を選択します。
 2. 軸を計算するのボタンをクリックします。
- ▶ SICAT Function 3Dビューで算出された軸を破線で示します。SICAT Function TMJワークスペースで両方のトレースポイントが算出された蝶番軸上に来るように、左のトレースポイントと右のトレースポイントを自動的に配置します。
 - ▶ オブジェクトブラウザで顎運動データオブジェクトを選択すると、SICAT Functionが算出された軸をプロパティエリアに表示します。



スクリーンショットは例として下顎頭が見えない石膏模型のスキャンを示しています。蝶番軸は実際の開口運動から決定されました。破線は算出された軸を意味しています。SICAT機能は自動的に左右のトレースポイントを両方が算出された軸上に来るように配置します。SICAT機能内の切歯点が下顎骨切歯間の中央に配置されています。



SICAT機能はボンウィル三角の辺の長さをmm単位で表示します。咬合器に対して直接値を記録することができます。SICAT機能が同様にバルクウィル角を表示します。バルクウィル角は閉じた顎に対してのみ適用されます。

下顎頭が不可視の場合の咬合器値の決定

咬合器値を決定するには、次のように行います。

- ☑ 上顎骨の咬合平面が水平に向き、顎が正中矢状面に対して可能な限り対称になるように3DX線撮影画像の位置を調整済みです。正確なデータを収集し、咬合器に転送するには、正確な調整が必要です。これに関する情報はボリュームの配置およびパノラマエリア [▶ ページ 104 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- ☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は顎運動データ [▶ ページ 115 - SIDEXIS XG]を参照してください。

- ☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。これに関する情報は**TMJワークスペースに関する概要** [▶ ページ 73 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
 - ☑ リスト **アクティブな顎関係**：で既に動的顎関係が選択されています。これに関する情報は**顎運動と連携する** [▶ ページ 142 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
1. **オブジェクトブラウザ**でオブジェクト **顎運動データ**を選択します。
 - ▶ **プロパティエリア**にSICAT Functionボンウィル三角が表示されます。
 2. セグメンテーションされた下顎上で解剖学的に正確な位置または光学印象をダブルクリックして**3Dビュー**で下顎中切歯間に切歯点をセットします。下顎から切歯までの切歯点が隠れている場合、下顎から切歯までが表示されるまで、顎の運動を再開して開きます。ダブルクリックで切歯点を配置し、顎を再度閉じます。
 3. リスト**アクティブな顎関係**：から実際の開口または閉口運動を選択します。
 4. **プロパティ**のコーナーで、**軸を計算する**のボタンをクリックします。必要に応じて基準の長さを100mmの平均値にセットします。
 5. 辺の長さが対称であることを確認してください。
 6. **オブジェクトブラウザ**でオブジェクト **顎運動データ**を選択します。
 - ▶ SICAT Function **プロパティエリア**に基準、辺、およびバルクウィル角用の値を表示します。
 7. 基準値、辺の値(咬合器のプログラミングのため、左右両方の値が等しくなければなりません)とバルクウィル角を記録しておきます。
 8. 突起部運動を選択します。突起部運動の際は顎が閉じている時点を選択してください。顎運動データ内で特定の位置を選択する方法に関する情報は**顎運動と連携する** [▶ ページ 142 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
 9. 歯がしっかり閉じていることを確認してください。
 10. ツール**角度測定を追加する(A)**を使って矢状ビューで左右の顎関節での下顎頭の傾きを測定してください。値を記録しておきます。
 11. 左へのラテロトルージョンを選択してください。ツール**角度測定を追加する(A)**を使って軸方向ビューで右の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。
 12. もしある場合は、右の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。
 13. 右へのラテロトルージョンを選択してください。ツール**角度測定を追加する(A)**を使って軸方向ビューで左の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。
 14. もしある場合は、左の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。

30 距離/角度測定

SICAT Functionには2種類の測定タイプがあります：



- 距離測定



- 角度測定

測定を追加するツールは、ワークフローのツールバーの**診断する**に記載されています。すべての2Dレイヤービューに測定を追加することができます。測定を追加する度に、SICAT Functionはその測定を**測定**のグループオブジェクトブラウザにも追加します。

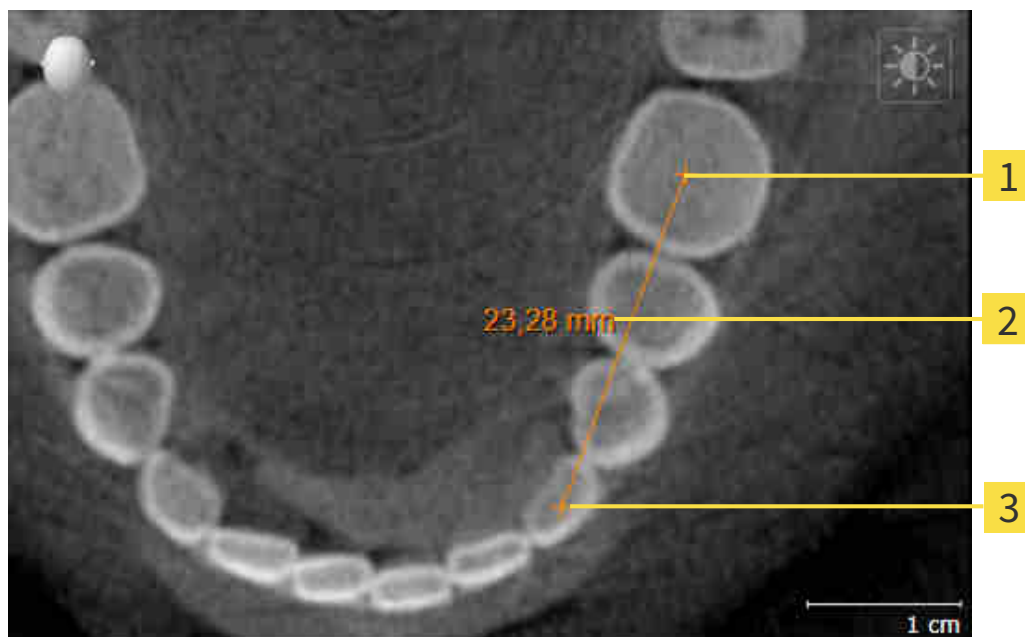


検査ウィンドウには、測定対象のオブジェクトを追加できません。

測定に使用できる操作：

- **距離測定を追加する** [▶ ページ 163 - SIDEXIS XG]
- **角度測定を追加する** [▶ ページ 164 - SIDEXIS XG]
- **測定、個々の測定ポイント、測定値を移動する** [▶ ページ 166 - SIDEXIS XG]
- 測定のアクティベーション、非表示および表示に関する情報は**オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理** [▶ ページ 64 - SIDEXIS XG]をご覧ください。
- 測定に焦点を当てる、測定を削除する、測定操作を元に戻して再度実行する手順に関する情報は、**オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理** [▶ ページ 66 - SIDEXIS XG]の節をご覧ください。

30.1 距離測定を追加する



1 始点

2 測定値

3 終点

距離測定を追加するには、次の手順で行います。

☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。

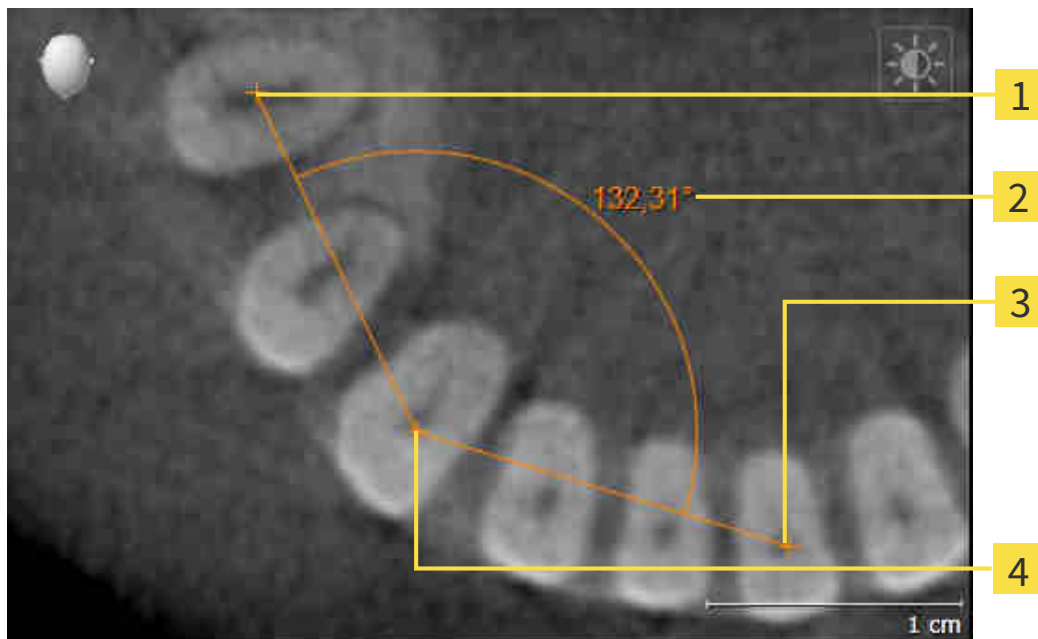


1. ワークフローステップ **診断する** で **距離測定を追加する(D)** アイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function 新しい距離測定を**オブジェクトブラウザ**に追加します。
2. マウスポインタを希望の2Dレイヤビュー上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
3. 距離測定の始点をクリックします。
 - ▶ SICAT Function は小さい十字で始点を表します。
 - ▶ SICAT Function は始点とマウスポインタ間に距離線を表示します。
 - ▶ SICAT Function 距離線の中央および **オブジェクトブラウザ**に始点とマウスポインタ間の現在の距離を表示します。
4. マウスポインタを距離測定の終点に移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は小さい十字で終点を表します。



測定の追加は、**ESC**を押すことによっていつでも中断することができます。

30.2 角度測定を追加する



- 1** 始点
- 2** 測定値
- 3** 終点
- 4** 頂点

角度測定を追加するには、次の手順で行います。

☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。



1. ワークフローステップ **診断する** で **角度測定を追加する(A)** アイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function 新しい角度測定を**オブジェクトブラウザ**に追加します。
2. マウスポインタを希望の2Dレイヤビュー上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
3. 角度測定の始点をクリックします。
 - ▶ SICAT Function は小さい十字で始点を表します。
 - ▶ SICAT Function は、角度測定の1本目の辺を始点からマウスポインタまでの線で表します。
4. マウスポインタを角度測定の頂点に移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は小さい十字で頂点を表します。
 - ▶ SICAT Function は、角度測定の2本目の辺を頂点からマウスポインタまでの線で表します。

- ▶ SICAT Function 角度測定 of 2 つの頂点の間およびオブジェクトブラウザに現在の角度を表示します。

5. マウスポインタを2本目の辺の終点に移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。

- ▶ SICAT Function は小さい十字で終点を表します。



測定の追加は、**ESC**を押すことによっていつでも中断することができます。

30.3 測定、個々の測定ポイント、測定値を移動する

測定を移動する

測定を移動させるには、次の手順で行います。

☑ SICAT Function はすでに希望の測定をいずれかの2Dレイヤービューに表示しています。これに関する情報は[オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 64 - SIDEXIS XG\]](#)と [オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 66 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。

1. マウスポインタを測定の線上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタを任意の測定位置に動かします。
 - ▶ 測定はマウスポインタの動きに従います。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function は現在の測定ポイントを保持します。

個々の測定ポイントを移動する

個々の測定ポイントを移動するには、次の手順で行います。

☑ SICAT Function はすでに希望の測定をいずれかの2Dレイヤービューに表示しています。これに関する情報は[オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 64 - SIDEXIS XG\]](#)と [オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 66 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。

1. マウスポインタを希望の測定ポイント上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタをご希望の測定ポイントの位置に動かします。
 - ▶ 測定ポイントはマウスポインタの動きに従います。
 - ▶ マウスを動かすと、測定値は変化します。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function は現在の測定ポイントの位置を保持します。

測定値を移動する

測定値を移動するには、次の手順で行います。

☑ SICAT Function はすでに希望の測定をいずれかの2Dレイヤービューに表示しています。これに関する情報はオブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 [▶ ページ 64 - SIDEXIS XG] と オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 [▶ ページ 66 - SIDEXIS XG] を参照してください。

1. マウスポインタを希望の測定値上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタをご希望の測定値の位置に動かします。
 - ▶ 測定値はマウスポインタの動きに従います。
 - ▶ SICAT Function は、測定値と付属の測定間に点線を表示します。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function は現在の測定値の位置を保持します。



1回の測定値を移動すると、SICAT Functionはその値を1つの絶対位置に設定します。その数値の位置を、そのときの測定ツールに対する相対位置に戻すときは、その数値をダブルクリックします。

31 データエクスポート

データをエクスポートすることができます。

患者データとボリュームデータは、いずれも現時点で開いているものをエクスポートできます。

このとき対象となるスタディは、SIDEXIS XGから開いたものになります。

注記

エクスポートしたデータの再インポート

SICAT SuiteをSIDEXIS XGのプラグインとしてインストールしたときは、SICAT Suiteから事前にエクスポートしたデータをインポートできる先は、SICAT Suiteのスタンドアロン版に限定されます。

SICAT Suiteは以下のデータをエクスポートすることができます。

- 患者ファイル (DICOM)
- 3Dスタディ
- 文書

エクスポートしたデータには次の要素が含まれています。

データタイプ	エクスポートフォーマット
3D撮影画像	DICOM
3Dスタディ	SICAT所有者
文書	PDF

SICAT Suiteでは、3D X線撮影画像とスタディのエクスポートにあたって、ZIP形式の圧縮ファイルか、または、DICOMディレクトリのいずれかを利用します。必要な場合、SICAT Suiteは患者ファイルをエクスポートのために匿名化することができます。

データをエクスポートするには、次の操作を規定の手順で実行します。

- **データを共有する** ウィンドウを開く。これに関する情報は「データの転送」ウィンドウを開く [▶ ページ 169 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- 希望のデータをエクスポートします。これに関する情報はデータのエクスポート [▶ ページ 170 - SIDEXIS XG]を参照してください。

31.1 「データの転送」ウィンドウを開く

データをエクスポートするにはまず**データを共有する**ウィンドウを開く必要があります。

SICAT SuiteをSIDEXIS XGのプラグインとしてインストールした場合に、**データを共有する**ウィンドウを開くには、次の手順で行います。



- ナビゲーションバーで、**データを共有する**のアイコンをクリックします。

▶ **データを共有する**のウィンドウが開きます。



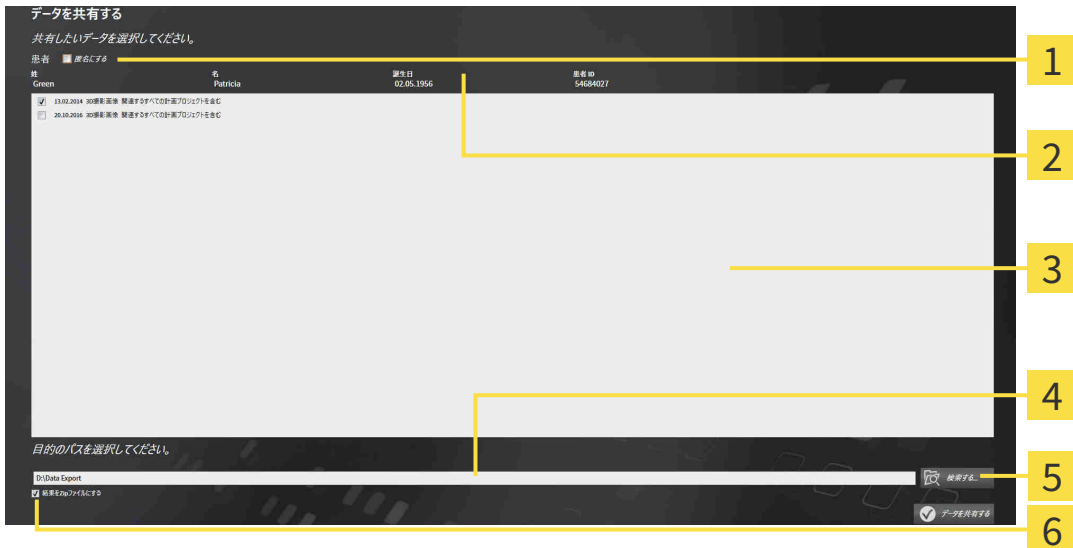
SICAT Suiteはアクティブな患者ファイルの選択した3D X線撮影画像と計画プロジェクトのみエクスポートします。

データのエクスポート [▶ ページ 170 - SIDEXIS XG]で続行してください。

31.2 データのエクスポート

スタディをエクスポートするには、次の手順で行います。

- ☑ **データを共有する** ウィンドウはすでに開いています：これに関する情報は「データの転送」ウィンドウを開く ▶ ページ 169 - *SIDEXIS XG* を参照してください。



1 チェックボックス **匿名にする**

4 欄 **目的のパスを選択してください。**

2 患者ファイルの特性

5 ボタン **データを共有する**

3 3Dスタディのリスト

6 チェックボックス **結果をZipファイルにする**

- 希望する場合、**データを共有する** ウィンドウで**匿名にする**のチェックボックスにチェックを入れます。
 - ▶ エクスポートした患者ファイルの特性は、**姓（患者）、名（匿名）、1月1日（誕生日が誕生年月）**に変わります。患者ファイリング内の患者ファイルの特性は変更されません。

- 希望の患者の任意の3Dスタディが選択されていることを確認してください。



- 検索する**のボタンをクリックします。

▶ **フォルダを検索する**のウィンドウが開きます。

- フォルダを検索する** ウィンドウでエクスポート先フォルダを選択し、**OK**をクリックします。

▶ **フォルダを検索する** ウィンドウが閉じ、SICAT Suiteが任意のフォルダへのパスを**目的のパスを選択してください。**欄に転記します。

- 結果をZipファイルにする**のチェックボックスをアクティブまたは無効にします。



6. データを共有するのボタンをクリックします。

- ▶ SICAT Suiteは選択したスタディをZIP形式の圧縮ファイルか、または、選択したフォルダにエクスポートします。

ZIP形式の圧縮ファイルとフォルダの両者いずれにおいても、それぞれで保存されるのは、DICOM形式の3D X線撮影画像、および、ファイル形式がプロプライエタリ・フォーマットの治療計画データです。3D X線撮影画像は、すべてのDICOMビューワで確認できますが、治療計画データは、SICATの各種アプリケーションのうち、そのデータが関係するものを使用します。

32 注文プロセス

希望の製品を注文するには、次の手順で行います。

- SICAT Functionで、治療位置を設定し、治療スプリントのための希望する計画データをショッピングカートに入れます。これに関する情報は治療位置の設定 [▶ ページ 173 - SIDEXIS XG]と 治療スプリントをショッピングカートに入れる [▶ ページ 175 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- ショッピングカートを確認し、注文を開始します。これに関する情報はカートをチェックして、注文プロセスを完了する [▶ ページ 180 - SIDEXIS XG]を参照してください。
- 注文は、SICAT Suiteが作動しているコンピューターで直接終了するか、インターネットに接続されている別のコンピューターで終了します。これに関する情報はインターネット接続を使用した注文の終了 [▶ ページ 181 - SIDEXIS XG]またはインターネット接続を使用しない注文の終了 [▶ ページ 185 - SIDEXIS XG]を参照してください。



同一の3D X線撮影画像に関する注文であれば、複数の注文内容をカートに追加できます。SICAT Suite終了時にショッピングカートの内容が消失するため、注文は最後まで実行する必要があります。

32.1 治療位置の設定

治療位置を設定するには、次の手順で行います。

- ☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録 [▶ ページ 117 - SIDEXIS XG] を参照してください。
- ☑ 光学印象はすでにインポートされています。これに関する情報は光学印象をインポートし記録する [▶ ページ 131 - SIDEXIS XG] と他の SICAT アプリケーションからの光学印象を再使用する [▶ ページ 139 - SIDEXIS XG] を参照してください。

1. 治療位置をベースにして静的な顎関係に設定する場合は、**アクティブな顎関係：**のリストから静的な顎関係を選択します。これに関する情報は顎運動と連携する [▶ ページ 142 - SIDEXIS XG] を参照してください。
2. 治療位置をベースにして顎運動に設定する場合は、**アクティブな顎関係：**のリストから、顎運動を1件選択し、お好みの位置へ移動します。これに関する情報は顎運動と連携する [▶ ページ 142 - SIDEXIS XG] を参照してください。



3. **治療位置**のボタンをクリックします。

- ▶ 顎運動に基づく治療位置を選択したら、SICAT Function では、その該当する位置にブックマークがセットされます。
- ▶ **治療位置**のボタンが、**治療位置をキャンセルする**のボタンに切り替わります。
- ▶ SICAT Function は選択した治療位置を治療スプリントの注文のために保存します。

治療位置をキャンセルする

指定した治療位置をキャンセルするには、次の手順で行います。

- ☑ 顎の静的な相対関係か、または、顎運動のブックマークのうち、治療位置の指定でベースとしたものを選択しておきます。



1. **治療位置をキャンセルする**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function 通知ウィンドウが開き、以下の内容をお知らせします：**治療位置を本当に取り消しますか？**
2. 治療位置を削除する場合は、**継続する**をクリックしてください。

治療位置に上書きする

指定した治療位置に上書きするには、次の手順で行います。

- ☑ 治療位置はすでに設定されています。

1. 顎の静的な相対関係か、または、顎運動の位置のうち、指定した治療位置に該当しないものを選択します。



2. **治療位置**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Function 通知ウィンドウが開き、以下の内容をお知らせします：**治療位置はすでに設定されました。続行する場合は、位置が上書きされます。**

3. 治療位置に上書きする場合は、**継続する**をクリックしてください。

治療プリントをショッピングカートに入れる [▶ ページ 175 - SIDEXIS XG]で続行してください。

32.2 治療スプリントをショッピングカートに入れる



注文に誤ったデータがあると、誤った注文となる可能性があります。

注文をするときには、注文のための正しいデータの選択と転送を確認してください。



注文を誤ると誤った治療の原因となるおそれがあります。

1. 注文を送信する前にご注文内容をご確認ください。
2. 注文の適切な治療計画を確認してください。

注文プロセスに関する一般的な情報は、[注文プロセス](#) [▶ ページ 172 - SIDEXIS XG]の節をご覧ください。

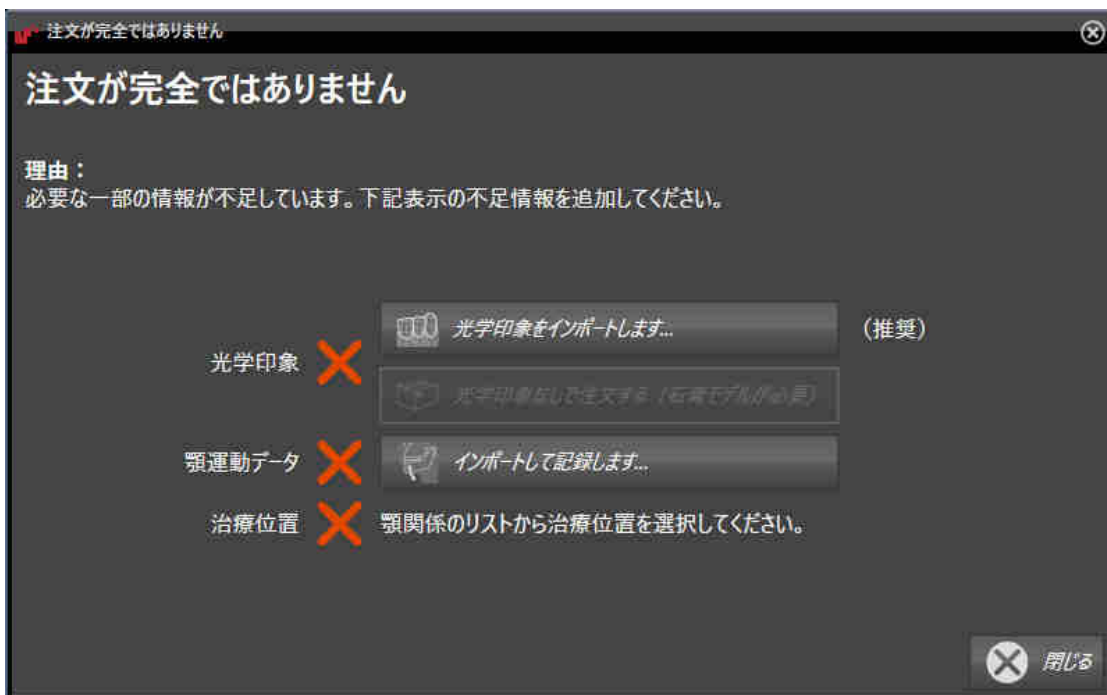
SICAT Functionで最初の注文プロセスの治療スプリントをショッピングカートに入れます。治療スプリントをショッピングカートに入れるには、特定の条件を満たす必要があります。すべての条件をまだ満たしていない場合は、SICAT Functionを参照してください。

充足されていない前提条件があるとき

- ☑ ワークフロー・ステップの**注文する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 60 - SIDEXIS XG]を参照してください。



1. 治療スプリントを注文しますのアイコンをクリックします。
 - ▶ **注文が完全ではありません**のウィンドウが開きます。





2. 光学印象をまだインポートしていない場合は、**インポートして記録します**ボタンをクリックし、3DX線撮影図のための適切な光学印象をインポートします。これに関する情報は**光学印象をインポートし記録する** [▶ ページ 131 - SIDEXIS XG]を参照してください。



3. 顎運動データをまだインポートしていない場合は、**インポートして記録します**ボタンをクリックし、顎運動データをインポートします。これに関する情報は**顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録** [▶ ページ 117 - SIDEXIS XG]を参照してください。
4. 治療位置をまだ設定していない場合は、**注文が完全ではありません**ウインドウを閉じ、治療位置を設定します。これに関する情報は**治療位置の設定** [▶ ページ 173 - SIDEXIS XG]を参照してください。



場合によっては、光学印象をインポートする前にボリュームの配置およびパノラマ曲線を調整する必要があります。**ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する**ウインドウを**光学印象をインポートし記録する**ウインドウからステップ **登録する**で直接呼び出すことができます。直接呼び出すにはボタン**パノラマエリアを調整する**をクリックします。これに関する情報は**パノラマエリアを調整する** [▶ ページ 111 - SIDEXIS XG]を参照してください。



光学印象の代わりにギブスをSICATに送信したい場合は、**注文が完全ではありません**ウインドウの**光学印象なしで注文する (石膏モデルが必要)**ボタンをクリックし、治療スプリントを光学印象なしでショッピングカートに入れることができます。その後、ステップ**治療スプリントを注文する**は情報この注文には**光学印象は含まれていません**。該当する石膏モデルをSICATまでお送りください。のを示します。

前提条件がすべて充足されているとき

- ☑ 光学印象はすでにインポートされています。
- ☑ 顎運動データはすでにインポートされています。
- ☑ 治療位置はすでに設定されています。
- ☑ ワークフロー・ステップの**注文する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 60 - SIDEXIS XG]を参照してください。



- **治療スプリントを注文します**のアイコンをクリックします。
- ▶ **治療スプリントを注文する**のウインドウが開きます。

「治療スプリントを注文する」ウィンドウの注文を確認してください

- 治療スプリントを注文するウィンドウはすでに開いています：



1. 患者情報と撮影図情報が正しいかどうか**患者エリア**と**注文への詳細エリア**を確認してください。
2. 3Dビューで治療位置が正しいかどうか確認してください。
3. 希望する場合、**追加情報欄**にSICATの追加情報を入力します。



4. ショッピングカートにのボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function 治療スプリントに適用する治療計画のデータで、お好みのものがSICAT Suiteのカートに入ります。
 - ▶ **治療スプリントを注文する**ウインドウが閉じます。
 - ▶ SICAT Function SICAT Suiteのカートが開きます。



注文がショッピングカート内にある間は、計画の光学印象、顎運動データおよび治療位置に上書きすることはできません。これは、注文を終了するか削除した場合において初めて可能です。計画の光学印象、顎運動データおよび治療位置に上書きまたは削除した場合は、同じ治療スプリントを再度注文することはできません。



中止するをクリックすると、注文をキャンセルできます。

カートをチェックして、注文プロセスを完了する [[▶ ページ 180 - SIDEXIS XG](#)]で続行してください。

32.3 カートを開く



カートアイコンでは、カート内にあるアイテムの数量を示しています。

☑ カートには、製品を1個以上、入れておきます。



- ショッピングカートはまだ開いていない場合、ナビゲーションバーのカートボタンをクリックします。

▶ カートのウィンドウが開きます。

以下の操作で、処理を続けてください。

- カートをチェックして、注文プロセスを完了する [▶ ページ 180 - SIDEXIS XG]

32.4 カートをチェックして、注文プロセスを完了する

- ☑ カートウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は[カートを開く \[▶ ページ 179 - SIDEXIS XG\]](#)を参照してください。



1 リスト **オーダーアイテムへ**

2 ボタン **オーダーを完了する**

1. カートウィンドウで、希望の製品が含まれてるか確認します。
2. **オーダーを完了する**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteは注文ステータスを**準備中**にし、さらに、SICAT WebConnector経由で、SICATサーバーに接続します。

▶ インターネットに接続して注文した場合、注文の変更はSICATポータルでのみ可能です。

以下の操作を続行します：

- インターネット接続を使用した注文の終了 [[▶ ページ 181 - SIDEXIS XG](#)]
- インターネット接続を使用しない注文の終了 [[▶ ページ 185 - SIDEXIS XG](#)]

32.5 インターネット接続を使用した注文の終了



Windowsのバージョンによっては、注文プロセスを行うために、標準的なWebブラウザに設定しなければならない場合があります。

- ☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されています。
 - ☑ SICATポータルは自動的にブラウザで開かれました。
1. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
 - ▶ 注文一覧が開き、含まれている製品および価格が患者毎にグループ分けして表示されません。
 2. SICATポータルでの注文手順 [▶ ページ 182 - SIDEXIS XG]以下の手順に従ってください。
 - ▶ SICAT Suiteはアップロード用の注文データを準備します。
 - ▶ 準備が完了すると、SICAT WebConnectorは注文データを暗号化された接続経由でSICATサーバーに転送します。
 - ▶ ショッピングカートの注文ステータスが**アップロードする**に変わります。



同一の3D X線撮影画像に関係する注文であれば、複数の注文内容をカートに追加できます。カートに入れた注文アイテムは、SICAT Functionを閉じて終了させるときに失われますので、アイテムを追加した後は、注文処理を完了させておくのがよいでしょう。



SIDEXIS XGを閉じて、再び開くと、SICAT Suiteでは、実際のステータスとは無関係に、注文内容のアップロードが完了した旨の表示が出力されます。実際のステータスは、SICAT WebConnectorでご覧ください。SICAT WebConnectorに関する内容は、*SICAT WebConnector* [▶ ページ 183 - SIDEXIS XG]の節をご覧ください。



アップロード中にWindowsをログオフすると、SICAT WebConnectorはアップロードを一時停止します。ソフトウェアは再度ログオン後に、自動的にアップロードを続行します。

32.6 SICATポータルでの注文手順

SICAT Suiteで注文プロセスを実行して完了したら、お手元の標準ブラウザでSICAT Portalのページが開きます。SICAT Portalでは、ご自分の注文内容をカスタマイズして、製作依頼先にする、有資格の歯科技工所を選択し、製品の価格を確認できます。

SICAT Portalで注文プロセスを実行するには、次の手順で行います。

1. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
2. 希望の製品が含まれてるか確認します。
3. 必要に応じて、患者および付属の全製品を注文一覧から除去してください。注文を完了すると、SICAT Suiteでは、SICAT Portalで実施した変更内容が適用されます。
4. 請求書送付先と配送先住所が正しいか確認してください。正しくない場合修正してください。
5. 希望の配達方法を選択してください。
6. 一般条件を承認し、注文を提出してください。



患者を選択し、患者の削除のボタンをクリックすることにより、患者および全ての付属スプリントをSICATポータルから除去することができます。その後、ショッピングカートでは再び製品の構成にフルアクセスすることができます。

32.7 SICAT WEBCONNECTOR



SICAT WebConnectorはSICATサーバーとの通信用に特定のポートを必要とします。これに関する情報はシステム要件 [▶ ページ 8 - SIDEXIS XG]を参照してください。



Windowsのバージョンによっては、注文プロセスを行うために、標準的なWebブラウザに設定しなければならない場合があります。

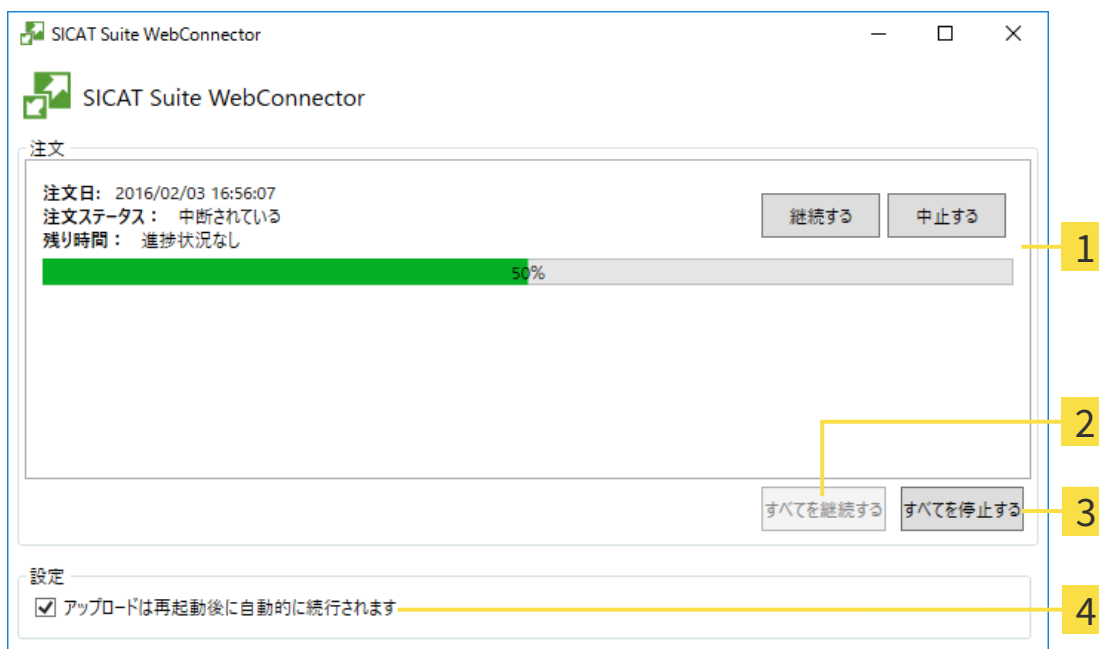
SICAT Suiteを実行させているコンピュータがインターネットに接続できるときは、SICAT Suiteで、ご自分の注文内容がバックグラウンドで暗号化され、WebConnector経由で送信されます。SICAT Function 直接、カートから送信のステータスを表示しますので、SICAT WebConnectorを一時停止させることがあります。SICAT WebConnectorが送信を再開するのは、SICAT Suiteを閉じて終了させた後になります。ご希望に沿ってアップロードが行われませんが、そのときは、SICAT WebConnectorのユーザーインターフェースを開いてください。

「SICAT SUITE WEBCONNECTOR」のウィンドウを開く



- タスクバーの通知ウィンドウで、**SICAT Suite WebConnector**アイコンをクリックします。

- ▶ **SICAT Suite WebConnector** のウィンドウが開きます。



1 リスト 注文

3 ボタン すべてを停止する

2 ボタン すべてを再開する

4 チェックボックス 再起動後にアップロードを自動で再開する

注文 のリストには、処理待機中の注文内容が表示されます。

アップロードの中断および続行

アップロードの処理は、中断させることができます。この操作は、例えば、お使いのインターネット接続で負荷が過大なときに役立ちます。設定内容で制御する対象は、SICAT WebConnectorでのアップロード処理に限定されています。Webブラウザを利用するアップロード処理は、この操作の影響を受けません。

SICAT Suite WebConnectorウインドウはすでに開いています：

1. **すべて停止する**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT WebConnectorでは、すべての注文について、アップロードを中断します。
2. **すべて再開する**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT WebConnectorでは、すべての注文について、アップロードを再開します。

再起動後の自動アップロード再開をオフにする

Windowsを再起動しても、SICAT WebConnectorでアップロードが自動で再開することがないようにすることができます。

SICAT Suite WebConnectorウインドウはすでに開いています：

- **再起動後にアップロードを自動で再開する**のチェックボックスで、チェックマークを外します。
- ▶ お手元のコンピュータを再起動させても、SICAT WebConnectorでは、ご自分の注文のアップロードが自動で再開することは、なくなります。

32.8 インターネット接続を使用しない注文の終了

SICAT Suiteを起動しているコンピューターにSICATサーバーとの接続が確立できない場合、SICAT SuiteがウィンドウSICAT サーバーへの接続エラーを開きます。ウィンドウは問題に対する以下の原因を表示します。

- インターネット接続が利用できません。SICAT WebConnectorはSICATサーバーへの接続を確立できません。
- SICATポータルにアクセスできません。
- 「SICATWebConnector」 サービスがインストールされていません。
- 「SICATWebConnector」 サービスが起動していません。
- 未知のエラーが発生しました。SICAT WebConnectorはSICATサーバーへの接続を確立できません。

この章ではインターネット接続が使用できない場合のみを対象にスクリーンショットを示しています。

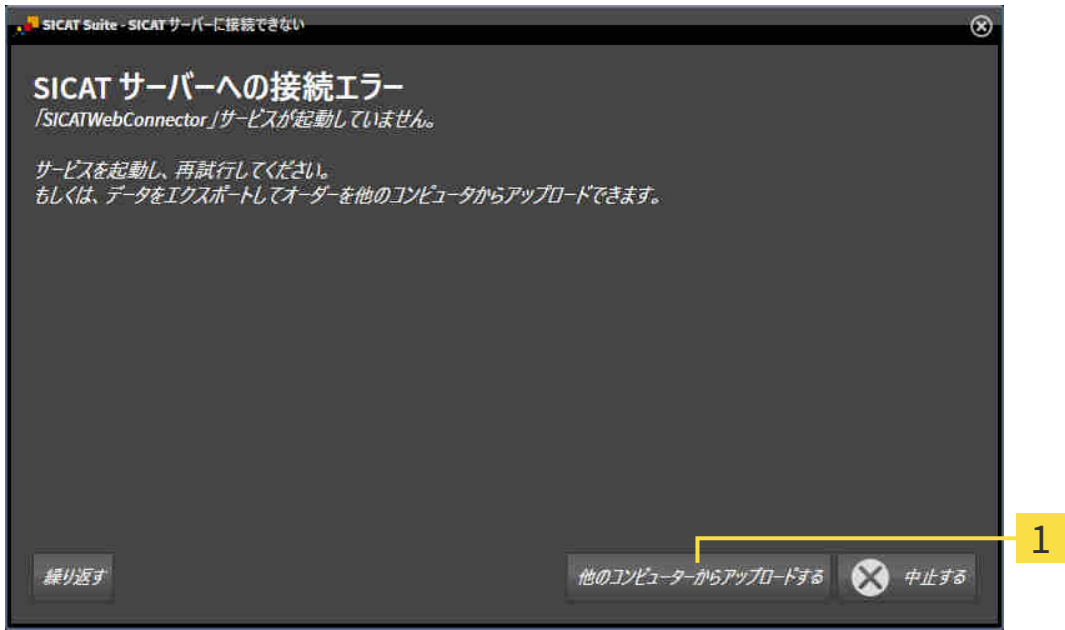
その原因の下で可能な問題を解決できる手順を発見します。

トラブルシューティングの代替手段として、注文をインターネット接続が有効な他のコンピューターのウェブブラウザからアップロードする方法があります。ウェブブラウザによる注文に対して、SICAT Suiteは一度に全ての製品をショッピングカートにエクスポートし、患者毎に一つのサブフォルダを作成します。各サブフォルダには注文情報付のXMLファイルと製造に必要なデータが付いているZIPアーカイブがあります。SICATポータルではXMLファイルとZIPアーカイブを連続してアップロードすることができます。この送信は、暗号化して行われます。

インターネット接続を利用しない注文プロセスを完了するには、次の手順で行います。

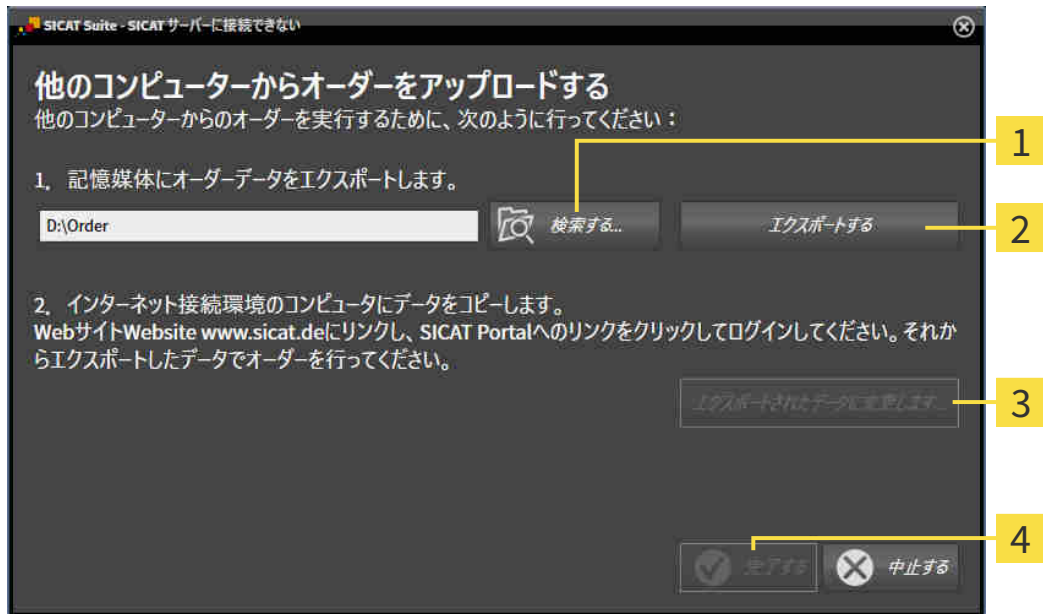
- SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されていません。

☑ ウィンドウに表示されるメッセージ： SICAT サーバーへの接続エラー



1 ボタン 他のコンピュータからアップロードする

1. 他のコンピュータからアップロードするのボタンをクリックします。
 - ▶ 他のコンピュータからオーダーをアップロードするのウィンドウが開きます。



1 ボタン 検索する

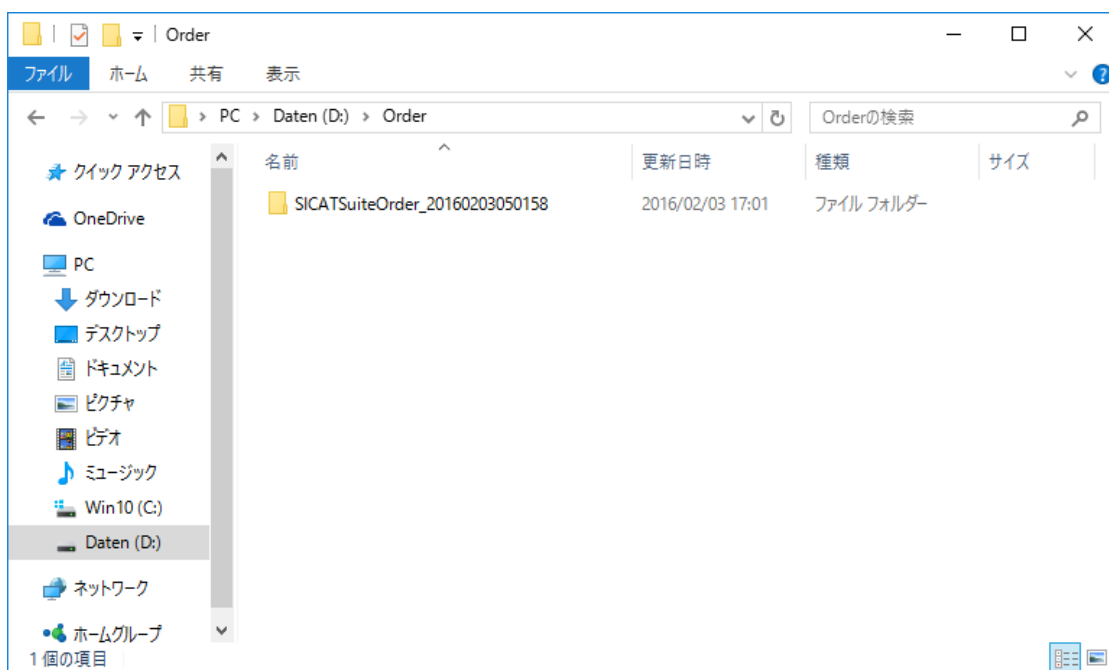
2 ボタン エクスポートする

3 ボタン エクスポートされたデータに変更します

4 ボタン 完了する

2. 検索するのボタンをクリックします。
 - ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。

3. 既存のディレクトリを選択するか、新しいディレクトリを作成して、**OK**をクリックします。ディレクトリのパス名は、字数を160字以下にしておく必要がありますので、ご注意ください。
4. **エクスポートする**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは、ショッピングカートの内容の注文に必要な全データを指定のフォルダにエクスポートします。この時、SICAT Suiteは患者毎に一つのサブフォルダを作成します。
5. **エクスポートされたデータに変更します**のボタンをクリックします。
 - ▶ Windowsファイルエクスプローラーウィンドウが開き、エクスポートしたデータのあるディレクトリが表示されます：



6. USBスティックなどの補助ツールを使用して、インターネットに接続しているコンピューターに希望のスプリントのデータが含まれるフォルダをコピーします。
7. **他のコンピューターからオーダーをアップロードする**ウィンドウの**完了する**をクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは**他のコンピューターからオーダーをアップロードする**ウィンドウを閉じます。
 - ▶ SICAT Suiteは、注文に含まれる全ての製品をショッピングカートから除去します。
8. インターネットに接続されたコンピューター上でウェブブラウザを開き、インターネットページ<http://www.sicat.de>を開きます。
9. SICATポータルへのリンクをクリックします。
 - ▶ SICATポータルが開きます。

10. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
11. 注文をアップロードするためのリンクをクリックします。
12. インターネットに接続したコンピューターで希望の注文を選択します。これは、ファイル名が**SICATSuiteOrder**で始まるXMLファイルです。
 - ▶ 注文一覧が開き、含まれている患者、付属の製品および価格が表示されます。
13. SICATポータルでの注文手順 [▶ ページ 182 - SIDEXIS XG]以下の手順に従ってください。
14. 製品の治療計画データをアップロードするためのリンクがありますので、それをクリックします。
15. インターネットに接続したコンピューターで適切な製品データを選択します。これは、以前アップロードしてXMLファイルと同じフォルダ内にあり、ファイル名が**SICATSuiteExport**で始まるZipアーカイブです。
 - ▶ 注文を実行した場合、ブラウザは製品データが含まれるアーカイブを暗号化された接続経路でSICATサーバーに転送します。



SICAT Suiteは、エクスポートしたデータを自動的に削除しません。注文プロセスが完了したら、セキュリティ上の理由により、エクスポートしたデータを手動で削除する必要があります。

33 設定




SICAT Suiteのバージョンのうち、SIDEXISと結合して、SIDEXISの設定内容の多くが適用されるものは、複数あります。こうして適用された設定内容のデータは、SICAT Functionで確認できますが、変更を加えることができるのは、SIDEXISの各種設定においてのみに限定されています。

設定ウィンドウで一般設定を変更または閲覧することができます。設定アイコンをクリックすると、設定ウィンドウの左側のページにあるオプションバーに次のタブが表示されます。

- **一般** - これに関する情報は *一般設定の使用* [▶ ページ 190 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- **ライセンス** - これに関する情報は *ライセンス* [▶ ページ 48 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- **プラクティス** - 施設のロゴおよび情報テキストを表示または変更します（例えば、プリントアウトして使用するため）。これに関する情報は *歯科医院情報の使用* [▶ ページ 194 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- **可視化** - ビジュアル化に関連する、一般的な設定内容を変更します。これに関する情報は *可視化設定の変更* [▶ ページ 195 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- **SICAT Function** - SICAT Functionで、アプリケーション固有の設定内容を変更します。これに関する情報は *SICAT Function設定の変更* [▶ ページ 197 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

設定を変更した場合、SICAT Functionが変更をすぐに反映し、お客様のユーザープロフィールに設定を保存します。

33.1 一般設定の使用



SICAT Suiteのバージョンのうち、SIDEXISと結合して、SIDEXISの設定内容の多くが適用されるものは、複数あります。こうして適用された設定内容のデータは、SICAT Functionで確認できますが、変更を加えることができるのは、SIDEXISの各種設定においてのみに限定されています。

一般的な設定内容を開くには、次の手順で行います。



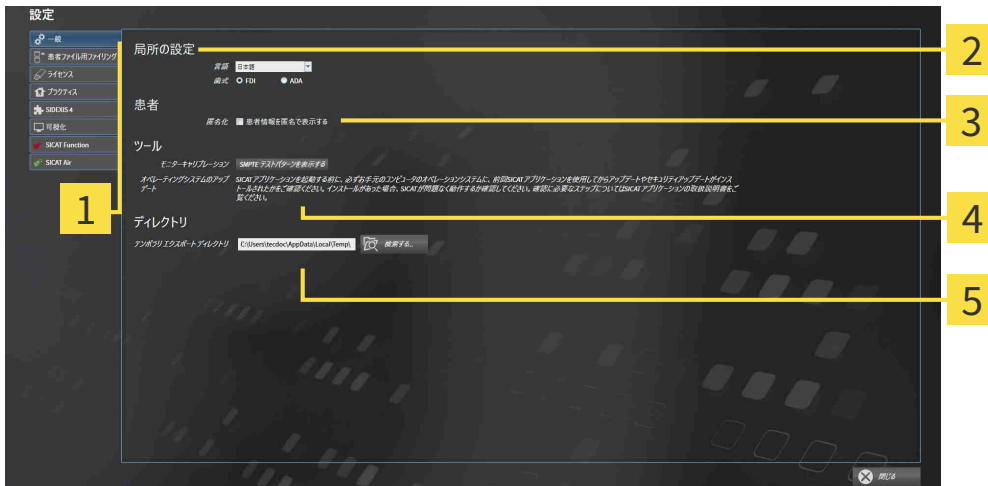
1. ナビゲーションバーで、**設定**のアイコンをクリックします。

▶ **設定**のウィンドウが開きます。



2. **一般**タブをクリックします。

▶ **一般**のウィンドウが開きます。



- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 タブ 一般 | 4 エリア ツール |
| 2 エリア 局所の設定 | 5 エリア ディレクトリ |
| 3 エリア 患者 | |

SICAT Function では、SIDEXISの各種設定のうち、以下に挙げる内容が適用されますが、これらは、このページで確認できます。

- **局所の設定**エリアでは、**言語**リストからユーザーインターフェースの言語を閲覧することができます。
- **局所の設定**エリアでは、**歯式**で現在の歯型図を閲覧できます。
- **患者**エリアでは、**患者情報を匿名で表示する**のチェックボックスのステータスを閲覧できます。このチェックボックスにチェックマークがあれば、SICAT Functionでは、SIDEXISで匿名化した患者データを引き継ぎます。

変更が可能な設定内容は、以下のとおりです。

- ディレクトリエリアでは、**テンポラリ エクスポート ディレクトリ**欄にSICAT Suiteが注文データを保存するフォルダを指定することができます。このフォルダには、フルアクセスできなくてはなりません。

一般設定の表示または変更の他に、SMPTEテスト画像を開いて、モニターをキャリブレーションすることもできます。

- ツール、**モニターキャリブレーション**で**SMPTE テストパターンを表示する**ボタンをクリックして、モニターをキャリブレーションします。これに関する情報は**SMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーション** [▶ ページ 192 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。



SICAT Functionがサポートしていない言語を、SIDEXISで選択すると、SICAT Functionでは、ユーザーインターフェースのテキストを英語で表示します。



SIDEXIS XGで表示言語を変更したら、SICAT Suiteを再起動して、変更内容をアクティブにしてください。



対応している歯型図はFDIとADAです。

33.2 SMPTEテスト画像によるモニターのカリブレーション



注意

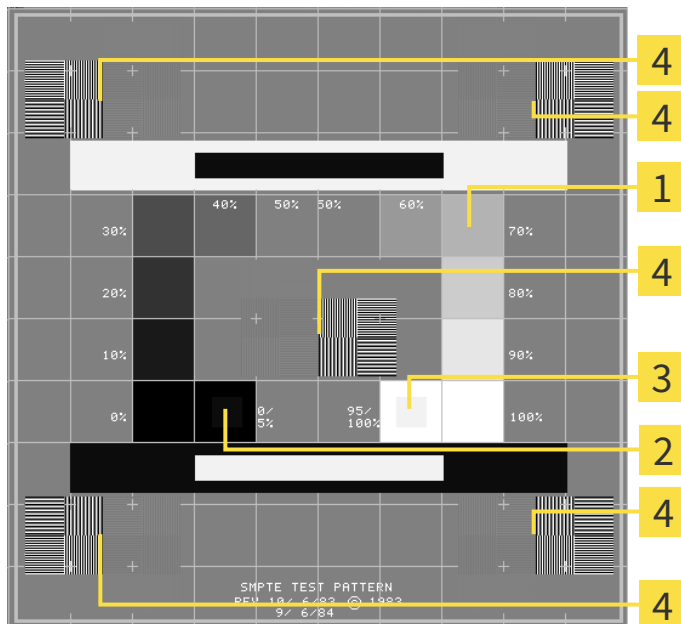
環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

4つのメインプロパティが、SICATアプリケーションのデータを表示させるモニターの特性を決定します。

- 輝度
- コントラスト
- 空間分解能（直線性）
- ひずみ（エイリアシング）

SMPTEテスト画像は参照画像であり、モニターのプロパティをチェックする際に使用します。



1 グレースケールスクエア

3 100%スクエア

2 0%スクエア

4 高コントラストのバーパターンが含まれるスクエア

輝度およびコントラストの点検

SMPTEテスト画像の中央では、一連のスクエアが黒（輝度0%）～白（輝度100%）のグレースケールを示しています。

- 0%スクエアには、0%～5%間の輝度の違いを示す小さ方のスクエアが含まれます。
- 100%スクエアには、95%～100%間の輝度の違いを示す小さ方のスクエアが含まれます。

モニターを点検または設定するには、次のように行います。

- SMPTEテスト画像はすでに開いています。
- 0%スクエアおよび100%スクエアで、内側のスクエアと外側のスクエア間に視覚的違いが見えるか点検してください。必要に応じて、モニターの設定を変更してください。



多くのモニターは、100%スクエア内の輝度の相違のみ表示され、0%スクエア内には表示されません。0%スクエア内の様々な輝度レベルの相違を改善するために、アンビエントライトを減らすことができます。

空間分解能およびひずみの点検

SMPTEテスト画像の角および中央では、6個のスクエアに高コントラストのバーパターンが表示されます。空間分解能およびひずみについては、様々な幅の、黒と白で切り替わる、垂直の線で区別できる必要があります。

- 幅が広い～狭い（6ピクセル、4ピクセル、2ピクセル）
- 水平および垂直

モニターを点検または設定するには、次のように行います。

- 高コントラストのバーパターンが表示される6個のスクエアで、全ての線が区別できるかどうか点検します。必要に応じて、モニターの設定を変更してください。

SMPTEテスト画像を閉じる

SMPTEテスト画像を閉じるには、次の手順で行います。

- ESCボタンを押します。
- ▶ SMPTEテスト画像が閉じます。

33.3 歯科医院情報の使用

SIDEXISと結合しているSICAT Suiteのバージョンには施設ロゴとSIDEXISの情報テキストが適用されています。そのため、SICAT Suiteの設定でこれらの設定の値しか閲覧できません。これらの設定内容は、SIDEXISからご希望の変更を加えるようにしてください。

SICAT Suiteの各種アプリケーションでは、このページで表示する説明文を利用して、印刷物やPDFファイルをカスタマイズします。

歯科クリニックの説明文を開くには、次の手順で行います。



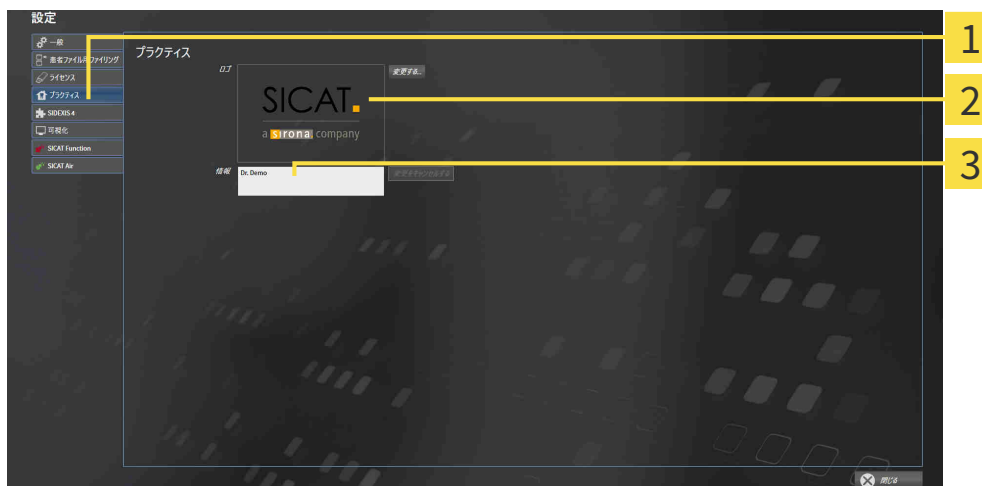
1. ナビゲーションバーで、**設定**のアイコンをクリックします。

▶ **設定**のウィンドウが開きます。



2. **プラクティスタブ**をクリックします。

▶ **プラクティス**のウィンドウが開きます。



1 タブ **プラクティス**

2 エリア **ロゴ**

3 エリア **情報**

以下の設定を閲覧することができます。

- **ロゴ**エリアでは、施設ロゴを閲覧することができます。
- **情報**エリアでは、施設を識別するテキスト（名前、住所など）を閲覧することができます。

33.4 可視化設定の変更



表示品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

SICATアプリケーションを使用する前に、表示品質が十分であるか確認してください（例えば、SMPTEテストビューで）。



環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

可視化設定は、すべてのSICATアプリケーションのボリューム、診断オブジェクト、計画オブジェクトの可視化を決定します。

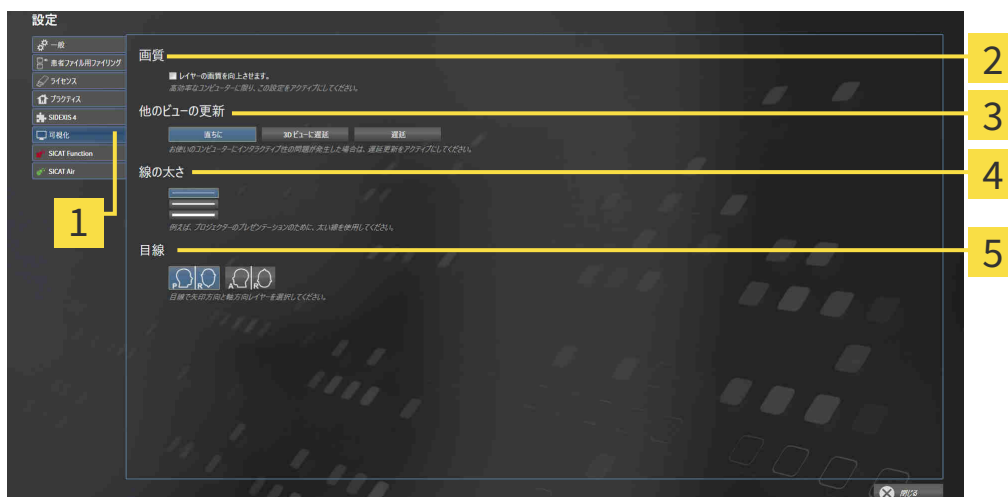
可視化 ウィンドウを開くには、次の手順で行います。



1. 設定のアイコンをクリックします。
 - ▶ 設定のウィンドウが開きます。



2. 可視化タブをクリックします。
 - ▶ 可視化のウィンドウが開きます。



1 タブ 可視化

2 エリア 画質

3 エリア 他のビューの更新

4 エリア 線の太さ

5 エリア 目線

設定：

- **レイヤーの画質を向上させます。** - ソフトウェアが隣接するレイヤーを検知することにより、レイヤーの表示品質を改善します。高効率なコンピューターに限り、この設定をアクティブにしてください。
- **他のビューの更新** - 遅延更新は、別のレイヤーの遅延更新を犠牲にして作業に使用しているビューのインタラクティブ性を向上させます。遅延更新は、コンピューターにインタラクティブ性の不具合が確認された場合のみアクティブにします。
- **線の太さ** - 線の太さを変更します。太めの線は、プロジェクターでのプレゼンテーションに使用します。
- **目線** - 軸方向レイヤービューと矢状方向レイヤービューの目線を切り替えます。

33.5 SICAT FUNCTION設定の変更

SICAT Functionの各種設定では、SICAT FunctionのTMJワークスペースにおけるパニングやズームの同期を定義します。

SICAT Function設定を変更するには、次の手順で行います。



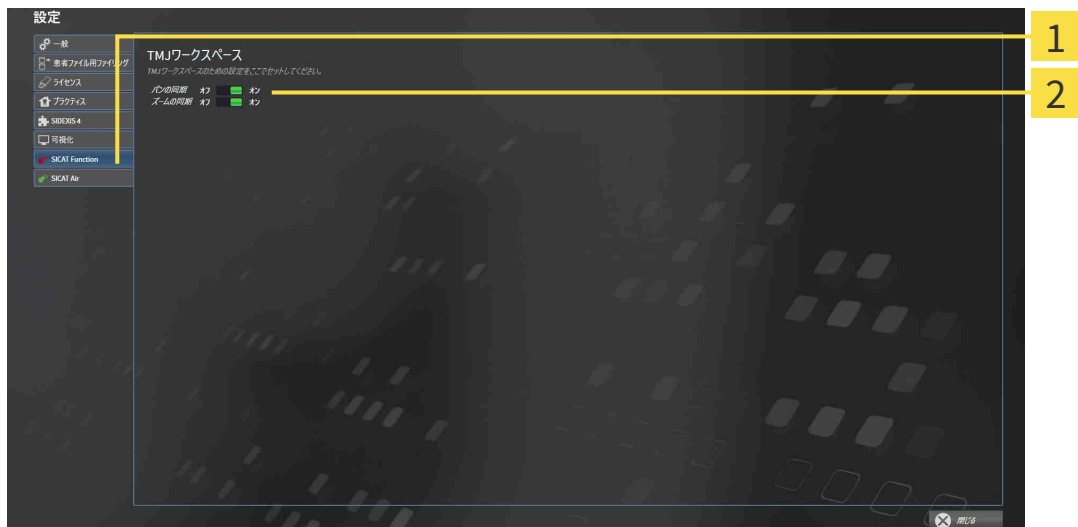
1. **設定**のアイコンをクリックします。

▶ **設定**のウィンドウが開きます。



2. **SICAT Function**タブをクリックします。

▶ **SICAT Function**のウィンドウが開きます。



1 タブ SICAT Function

2 エリア TMJワークスペースのための設定をここでセットしてください。

設定：

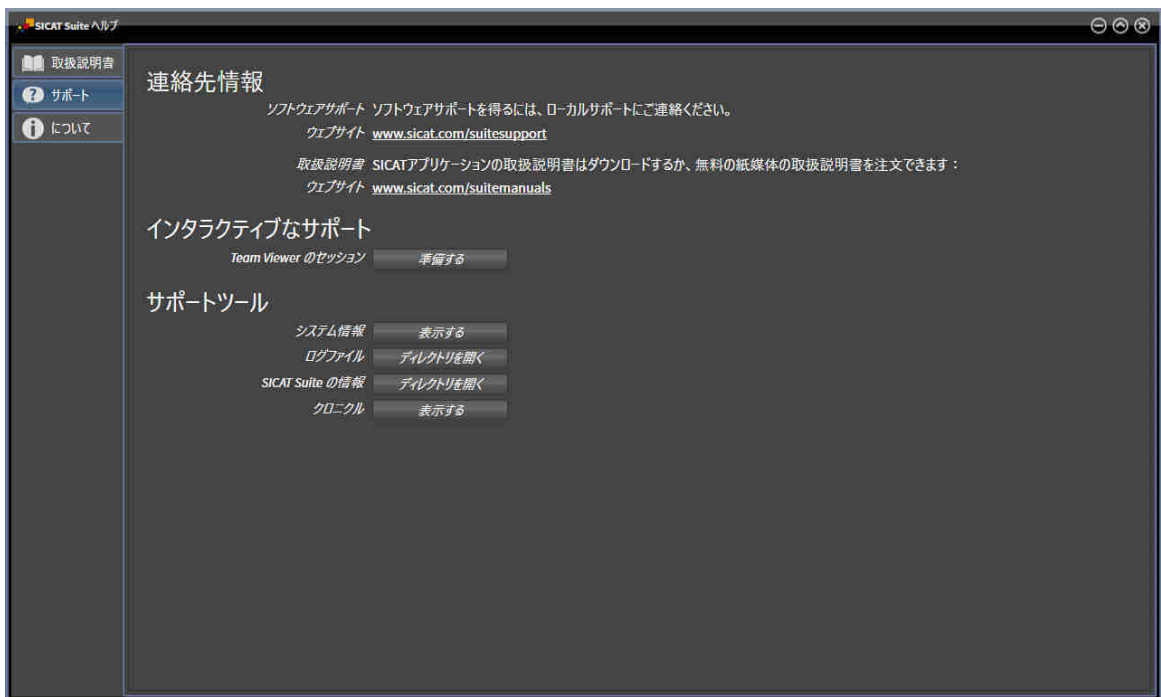
- **パンの同期**
- **ズームの同期**

SICAT FunctionのTMJワークスペースでは、下顎頭を左側と右側とで同期させながら、ビューをパニングしたりズームしたりができますが、この同期のオンとオフは、上記の設定内容で切り替えることができます。

34 サポート

SICATでご利用いただけるサポート態勢を以下に挙げます。

- PDFドキュメント
 - 連絡先情報
 - SICAT SuiteやSICATの各種アプリケーションで、インストール済みのものに関するご案内
- 以下の操作で、処理を続けてください。
- サポート態勢のページを開く [▶ ページ 199 - SIDEXIS XG]



34.1 サポート態勢のページを開く



サポートウィンドウは、ナビゲーションバーのサポートアイコンをクリックする、またはF1ボタンをクリックすることによって開くことができます。

SICAT Suiteサポートウィンドウは次のタブで構成されます。



- **取扱説明書** - これに関する情報は**取扱説明書を開く** [▶ ページ 47 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。



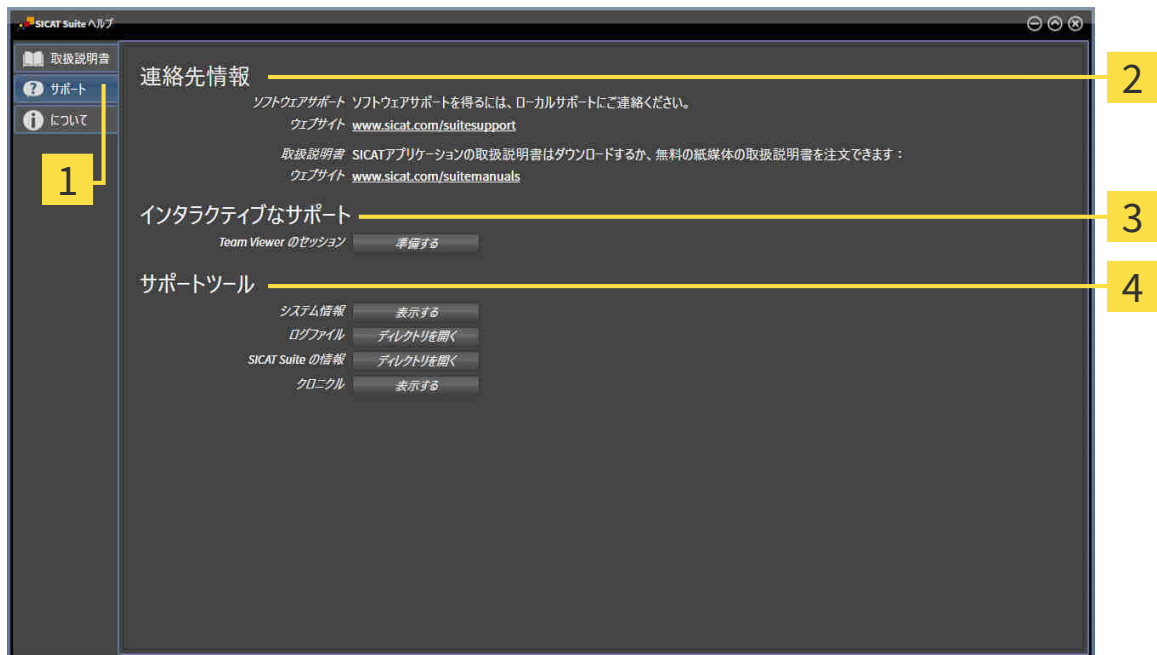
- **サポート** - これに関する情報は**連絡先情報およびサポートツール** [▶ ページ 200 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。



- **インフォメーション** - これに関する情報は**インフォメーション** [▶ ページ 202 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。

34.2 連絡先情報およびサポートツール

サポートウィンドウには、SICATサポートの補助をうけられるように、関連する全ての情報およびツールが含まれています。



1 タブ サポート

3 エリア インタラクティブなサポート

2 エリア 連絡先情報

4 エリア サポートツール

各種の取扱説明書を入手するときのお問い合わせ先は、**連絡先情報**エリアをご覧ください。

次のツールは**インタラクティブなサポート**エリアで使用することができます。

- SICAT Function では、**Team Viewer のセッション**エリアで、**準備する**のボタンをクリックすると、TeamViewerセッションが開きます。

TeamViewerは、マウス/キーボードのコマンドを遠隔操作し、コンピューターの画面に表示されている内容をインターネット接続経由で転送することのできるソフトウェアです。TeamViewerは、明確な承認がある場合のみ接続を確立します。その際、SICATサポートにTeamViewer IDとパスワードを通知します。これにより、SICATサポートは現地で直接補助できるようになります。

次のツールは**サポートツール**エリアで使用することができます。

- SICAT Function では、**システム情報**エリアで、**表示する**ボタンをクリックすると、OSのシステムに関する情報が開きます。
- SICAT Functionでは、**ログファイル**エリアで、**ディレクトリを開く**ボタンをクリックすると、Windowsエクスプローラのウィンドウで、SICAT Suiteのログディレクトリが開きます。
- SICAT Function では、**SICAT Suite の情報**エリアで、**ディレクトリを開く**ボタンをクリックすると、現時点でのインストール状況に関する情報をテキストファイルとしてエクスポートします。
- **SICAT Suite の情報**エリアでボタン**通知を表示する**をクリックするとSICAT Functionが通知ウィンドウを表示します。

34.3 インフォメーション

インフォメーションウィンドウでは、複数のタブにSICAT Suiteおよびインストールされている全SICATアプリケーション経由で情報が表示されます。



35 データを書き込み禁止で開く

データを書き込み禁止で開くことができます。

SIDEXIS XGのプラグインとしてインストールしたSICAT Function では、データのうち、確認は可能で、変更を加えたり保存したりが不可能なものは、ライセンスのステータスと、現時点の3D X線撮影画像を利用するかどうかに応じて異なります。

SICAT FUNCTIONライセンスの種類	SIDEXIS XGのワークステーションのうち、3D X線撮影画像を使用しているものが別にある	変更せずに参照することはできますか？
なし	無関係	無
ビューア	無関係	有
フルバージョン	有	有
フルバージョン	無	無

以下の場合にはビューアライセンスがなくてもSICAT Function のスタディを参照することができます。

- SIDEXIS 4からSICAT Functionのスタディを外部にエクスポートし、他のコンピューター上のデータをSIDEXISにインポートします。SICAT Function このコンピューター上にインストールされている必要があります。
- SIDEXIS 4から外部に SICAT Functionのスタディを含むWrap&Goパッケージを作成します。他のコンピューターにWrap&Goパッケージをインストールしてください。SICAT Functionの後にインストールしてください。

いずれの場合でも計画の変更も保存もできません。



SIDEXIS XGのマルチワークステーションサポートに関する詳細な情報については、SIDEXIS XG取扱説明書に記載されています。

変更や保存が不可能な状態でデータを開くには、次の手順で行います。

1. SICAT Suiteを3D X線撮影画像と一緒にSirona SIDEXIS XGから起動します。これに関する情報はSICAT Suite をスタートする [▶ ページ 42 - SIDEXIS XG]を参照してください。
 - ▶ SICAT Suiteは3D X線撮影画像および計画プロジェクトを現在のSIDEXIS XG検査からビューアモードで開きます。
 - ▶ 別のSIDEXIS XGワークステーションが現在の3D X線撮影画像を使用すると、ウィンドウが開き、というメッセージが表示されます：**患者ファイルは他のユーザーによって編集されているため、読み取り専用モードのみで開くことができます。**

2. メッセージウインドウの**読み取りモードで開く**ボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteは3D X線撮影画像および計画プロジェクトを現在のSIDEXIS XG検査からビューアモードで開きます。



ボリュームの配置とパノラマ曲線を調整するには以下の条件を満たしている必要があります。

- 3DX線撮影画像またはSICAT Functionスタディを開くことができるライセンスを有効化済みです。これに関する情報はライセンス [▶ ページ 48 - *SIDEXIS XG*]を参照してください。
- SICAT機能による、または他のSICATアプリケーションに関する3DX線撮影画像用の読み取り専用スタディ内にも、ボリュームの配置またはパノラマ曲線の変更による影響を受けるオブジェクトはありません。

条件が満たされていない場合、SICAT Functionがウィンドウ**ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する**内でボリュームの配置やパノラマ曲線の変更に使用できるボタンと制御素子を無効化します。

36 SICAT SUITEを閉じる



- SICAT Functionの右上の隅にある**閉じる**ボタンをクリックします。
- ▶ すべてのSICATアプリケーションが閉じます。
- ▶ SIDEXISは、すべてのSICATアプリケーションの変更された計画プロジェクトを保存します。これらはフルバージョンで作動します。

37 ショートカットキー



マウスポインタを特定の機能上に動かすと、SICAT Functionは機能の名称に加えて括弧内にショートカットキーを表示します。

次のショートカットキーはすべてのSICATアプリケーションで使用できます。

ショートカットキー	説明
A	角度測定を追加する
D	距離測定を追加する
F	アクティブなオブジェクトに焦点を合わせる
Ctrl + C	アクティブなビューの内容をクリップボードにコピーする
Ctrl + Z	前回のオブジェクト アクションを元に戻す
Ctrl + Y	前回戻したオブジェクト アクションをもう一度実行する
Del	アクティブなオブジェクトまたはオブジェクトグループを削除する
ESC	現在の操作を中断する（測定の追加など）
F1	有効なSICATアプリケーションで取扱説明書が開いている場合、ウィンドウ サポート が開きます。

次のショートカットキーはSICAT Functionの**下顎のセグメンテーション**ウィンドウで使用することができます。

ショートカットキー	説明
N	ナビゲーション
M	下顎骨をセグメントする
F	窩をセグメントする
B	背景をセグメントする

38 SICAT SUITEのアンインストール



SICAT Suiteアンインストールプログラムは、コンピューターに有効なライセンスを保持します。そのため、SICAT Suiteインストールプログラムはアンインストール前に、ライセンスを自動的に削除しないように警告します。SICAT Suiteを特定のコンピューターで使用するのをやめる場合、アンインストールする前にライセンスを無効にしてください。これに関する情報はライセンスをライセンスプールへ返却する [▶ ページ 55 - SIDEXIS XG] に記載されています。



アンインストールプログラムは、SICAT WebConnectorを自動的に閉じてしまうため、SICAT Suiteをアンインストールする前に、SICAT WebConnectorがすべての注文を完全にアップロードしているかを確認してください。SICAT WebConnectorに関する内容は、*SICAT WebConnector* [▶ ページ 183 - SIDEXIS XG]の節をご覧ください。

SICAT Suiteをアンインストールするには、次のように行います。

- ☑ SICAT WebConnector はすべての注文を正常にアップロードしました。
- 1. Windowsコントロールパネルで**プログラムおよび機能**をクリックします。
 - ▶ **プログラムおよび機能**のウィンドウが開きます。
- 2. リストから、SICAT Suiteのバージョンが含まれる**SICAT Suite**を選択します。
- 3. **アンインストール**のボタンをクリックします。

- ▶ アンインストールプログラムが起動し、**進捗状況**ウィンドウが開きます。



- ▶ アンインストールが終了すると、**確認**ウィンドウが開きます。



4. 終了するのボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteアンインストールプログラムが閉じます。



SICAT Suiteアンインストールプログラムを開くために、SICAT-SuiteインストールプログラムをSICAT Suiteがすでにインストールされているコンピューター上で起動することができます。



SICAT Suiteアンインストールプログラムは、SICAT Suiteと一緒にインストールされたいくつかの前提ソフトウェアのアンインストールプログラムを呼び出します。別のアプリケーションが引き続き前提ソフトウェアを必要としている場合、これらは保持されます。

39 安全に関する注意事項

3D X線撮影図



注意

不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。



注意

不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。



注意

DICOMに適合していないX線機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、DICOM規格に適合することが証明されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。

表示条件



注意

表示品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

SICATアプリケーションを使用する前に、表示品質が十分であるか確認してください（例えば、SMPTEテストビューで）。



注意

環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

データ管理



注意

患者名や3D X線撮影画像の突き合わせでミスがあると、結果として、患者を撮影した画像の取り違えを招くことになりかねません。

3D X線撮影ビューで、インポートしようとしているものや、すでにSICATのアプリケーションに読み込みのものがあれば、突き合わせる先の患者名が正しいこと、突き合わせる撮影画像に関する情報が正しいことをいずれもチェックしてください。



オリジナルデータを削除すると、データを消失するおそれがあります。
インポートした後にオリジナルデータを削除しないでください。



患者ファイリングのデータバックアップシステムが故障すると、患者データが完全に消失するおそれがあります。
定期的に全ての患者ファイリングのデータバックアップを取ってください。



患者ファイルを削除すると、それに含まれる3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルも全て削除されます。
患者ファイルの削除は、それに含まれる3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルが全て再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。



削除した患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトは元に戻すことができません。
患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトの削除は、これらのデータが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。



3D X線撮影画像を削除すると、それに依存する計画プロジェクトも全て削除されます。
3D X線撮影画像の削除は、それに依存する全計画プロジェクトが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

ネットワーク



SICATアプリケーションデータを信頼できないネットワークファイルシステムに保存すると、データの損失につながるおそれがあります。
ネットワーク管理者と共に、SICATアプリケーションデータを希望のネットワークファイルシステムに保存できるようにしてください。



SICAT Suiteおよび付属のSICATアプリケーションを他の機器と一つのコンピューターネットワークまたはメモリーネットワーク内で供用すると、患者、ユーザー、その他の人に未知の危険が及ぶおそれがあります。
ネットワークに関連する危険を特定、分析、判断するため、各組織内で規則を作成してください。



ネットワーク環境を変更すると、新しい危険につながるおそれがあります。例えば、ネットワーク構成の変更、追加機器またはコンポーネントのネットワークへの接続、機器またはコンポーネントのネットワークからの分離、ネットワーク機器またはコンポーネントのアップデートまたはアップグレードなどです。

ネットワークを変更する度に、新たなネットワークリスク分析を実施してください。

オペレーターの資格



資格のない者が本ソフトウェアを使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

ソフトウェアの使用は、必ず専門の知識のある有資格者が行ってください。

安全性



情報システムにあるセキュリティの脆弱性は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

1. 情報処理のシステム環境において、セキュリティ上の脅威を発見し、それらを回避するために、組織内部で指針を定めて周知するよう、徹底してください。
2. 最新のウイルススキャナをインストールし、ウイルススキャンを実行してください。
3. ウィルススキャナの定義ファイルを定期的に更新してください。



ワークステーションへの不正なアクセスは、患者データの秘密情報およびインテグリティに関するリスクにつながるおそれがあります。

ワークステーションへのアクセスは資格のある人に限定してください。



サイバーセキュリティの問題は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

お手元のSICATアプリケーションにおいて、サイバーセキュリティにかかわるトラブルの疑いがあるときは、直ちにテクニカルサポートまで、ご連絡ください。

ソフトウェアインストール



ソフトウェアに改変を加えると、結果として、このソフトウェアが起動しなかったり、または正常に機能しない可能性があります。

1. ソフトウェアのインストールに変更を加えないでください。
2. ソフトウェアのインストールディレクトリにあるコンポーネントを削除または変更しないでください。



インストールメディアが損傷すると、インストールに失敗する可能性があります。

インストールメディアは慎重に取り扱い、適切に保管してください。



お手元のシステムがシステム要件を満たしていない場合は、結果として、このソフトウェアが起動しなくなったり、または正常に機能しない可能性があります。

ソフトウェアをインストールする前に、ご使用のシステムが最小ソフトウェア/ハードウェア要件を満たしているか確認してください。



不十分な承認は、ソフトウェアインストールまたはソフトウェアアップデートが失敗する原因になる場合があります。

ソフトウェアをインストールまたはアップデートする場合、使用するシステムに十分な承認があることを確認してください。

注文



注文に誤ったデータがあると、誤った注文となる可能性があります。

注文をするときには、注文のための正しいデータの選択と転送を確認してください。



注文を誤ると誤った治療の原因となるおそれがあります。

1. 注文を送信する前にご注文内容をご確認ください。
2. 注文の適切な治療計画を確認してください。

顎運動データ



3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



不適切な顎運動データ用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の顎運動データを使用してください。



使用目的に適合しない顎運動撮影機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

必ずSICAT Functionで顎運動データの利用をカバーするという使用目的に適合する顎運動撮影機器を使用してください。



対応していない顎運動撮影機器または互換性のない記録装置を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

顎運動データの記録にあたり、顎運動の記録機器（例えば、SICAT JMT+）と、これに適合する、採得用の器具（例えば、SICAT Fusion Bite）をコンビにしますが、これは、SICAT Functionがサポートするものを使用し、また、それ以外の機器や器具によるデータは、利用しないでください。



間違って撮影された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データおよび3D X線撮影画像は、各機器のメーカーの指示に従って撮影してください。指定されたタイプの参照オブジェクトを使用してください。



3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない顎運動データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



顎運動データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした顎運動データのインテグリティと品質を確認してください。



顎運動データの品質、正確性、解像度が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質、解像度、正確性の顎運動データを利用してください。



過度なアーチファクト、不十分な解像度、または3D X線撮影画像の品質が十分でない場合、マーカーおよび参照オブジェクトを認識するメカニズムにエラーが生じるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確なマーカー/参照オブジェクト認識を可能にする3D X線撮影画像を使用してください。



参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が間違っていると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

JMTウィザードが参照オブジェクトを認識した後、3D X線撮影画像を考慮しながら、参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が正しいか確認してください。



間違って記録された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された顎運動データが3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

光学印象



3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



不適切な光学印象用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の光学印象データを使用してください。



注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない光学印象データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

患者データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



注意

光学印象データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした光学印象データのインテグリティと品質を確認してください。



注意

光学印象データの品質および正確性が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質および正確性の光学印象データを利用してください。



注意

過度なアーチファクト、不十分な解像度、または記録のための点の欠如は、光学印象の記録に失敗する原因になるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確な記録を可能にする光学印象と3D X線撮影画像のみを使用してください。



注意

互いに一致しない光学印象の記録プロセスでマークを選択すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

光学印象データを記録する場合、3D X線撮影画像と光学印象に一致するマーキングで慎重に選択します。



注意

間違って記録された光学印象データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された光学印象が3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

セグメンテーション



注意

3D X線撮影画像の過度なアーチファクトまたは不十分な解像度は、セグメンテーションプロセスの失敗または不十分な結果につながるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトの可能性がありま

解剖学的構造関連のセグメンテーションの品質が十分である3D X線撮影画像のみ使用してください。



注意

セグメンテーションの品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

セグメンテーションの品質が使用目的に対して十分であるか確認してください。

40 精度

次の表はすべてのSICATアプリケーションの精度を示しています。

距離測定の精度	< 100 μm
角度測定の精度	< 1度
表示精度	< 20 μm
顎運動データに関する表示の正確性	0.6 mm以下

用語集

ADA

American Dental Association（米国歯科医師会）

FDI

Fédération Dentaire Internationale（国際歯科連盟）

SICAT JMT+

SICAT JMT+は下顎の動きを記録します。

SICATポータル

SICATポータルは、SICATにプリントを注文することのできるインターネットページです。

SIXD

光学印象を交換するためのファイルフォーマット。

SMPTE

Society of Motion Picture and Television Engineers（映画テレビ技術者協会）

SSI

光学印象を交換するためのファイルフォーマット。

STL

Surface Tessellation Language、メッシュデータを交換するための標準ファイルフォーマット（例えば、光学印象を含む）。

アプリケーション

SICATの各種アプリケーションは、いずれもSICAT Suiteに付属するプログラムです。

ナビゲーションバー

SICAT Suiteの上部にあるナビゲーションバーには、SICAT Suiteの最も重要なアイコンが含まれます。患者ファイルがアクティブになっている場合、ナビゲーションバーを使用して患者ファイルと各種アプリケーション間で切り替えることができます。

バイトフォーク

バイトフォークは、SICATが3D X線撮影画像のデータと顎運動データを一致させるために使用するX線不透過性マーカー付きバイトプレートです。

フレーム

3Dビューでは、フレームに2Dレイヤービューの位置が表示されます。

記録

空間配置

光学印象

光学印象は、歯、印象材または石膏モデルの3D表面撮影の結果です。

十字線

十字線は別のレイヤービューとの交差線です。

通知ウィンドウ

通知ウィンドウとは、完了した手順に関するメッセージを、モニター画面の右下端に表示するものをいいます。

索引

アイコン

解剖学的な咬合	141	治療スプリントをショッピングカートに入れる	175
ビュー	79	カートをチェックする	180
画像のツールバー	80	用途	6
トリミング部分を移動させる	86	運動の軌跡	
十字線、フレーム	88	検査ウィンドウにより調整する	146
輝度およびコントラスト	84	運動経路	141
最大化と復元	83	3D ビューで表示する	145
スクリーンショットの作成	92	十字線により調整する	147
スクロール	87	CEREC	
切替	82	咬合器値	154
検査ウィンドウの非表示/表示	90	データを書き込み禁止で開く	203
検査ウィンドウの移動	89	データエクスポート	168
ズームング	86	データのエクスポート	170
リセットする	91	「データの転送」ウィンドウを開く	169
アプリケーションを切り替える	46	アンインストール	207
ワークスペース	70	設定	189
調整する	77	一般的な設定内容を確認する、変更する	190
ワークスペースのツールバー	58	Praxis情報を表示または変更する	194
MPR/放射性	75	SICAT Function設定の表示または変更	197
パノラマ	72	可視化設定の変更	195
スクリーンショットの作成	78	最初のステップ	36
TMJ	73	窩をセグメントする	127
切り替える	76	取扱説明書	
リセットする	77	オンラインヘルプとして開く	47
咬合器値		記号、スタイル	14
一般的なお知らせ	154	概要	15
下顎頭が視認不可能な時に読み込む	160	インストール	18
下顎頭が視認可能な時に読み込む	158	アンインストール	207
ユーザーインターフェース		JMTエリア	142
SICAT Function	58	ブックマークを管理する	143
SICAT Suite	44	顎運動データ	115
このバージョンの特徴	32	解剖学的運動経路を再生する	142
注文	172	エクスポートする	144
再起動後の自動アップロード	184	機器	116
データを別のコンピュータから送信する	185	インポートして記録する	118
バックグラウンドでのデータ送信	181	静的な顎関係または顎運動を選択する	143
アップロードの中断および続行	184	ライセンス	48
SICATポータル	182	表示する	50
治療位置をキャンセルする	173	自動アクティベート	51
治療位置の設定	173	ライセンスプールに返却する	55
治療位置に上書きする	173	手動でアクティブ化する	53
		パウチャーコードを使用する	57
		下顎骨をセグメントする	124

測定		プラグインを登録、削除する	40
距離測定を追加する	163	SMPTEテストパターン	192
測定点を移動する	166	言語	16
測定値を移動する	167	STLインポート	137
概要	162	サポート	198
移動	166	ヘルプを開く	47
角度測定を追加する	164	連絡先情報	200
モニターキャリブレーション	192	サポートウィンドウを開く	199
オブジェクト		製品情報	202
削除する	66	ツール	200
焦点を合わせる	66	システム要件	8
オブジェクトおよびオブジェクトグループをア クティブにする	64	ショートカットキー	206
オブジェクトおよびオブジェクトグループの表 示/非表示	65	TMJワークスペース	74
オブジェクトグループの開閉	64	一般的なお知らせ	73
オブジェクトバー	62	咬合器値	154
オブジェクトツールバー	66	Bonwillの三角を利用する	151
元に戻し、もう一度実行する	66	機能	148
SICAT Functionオブジェクト	68	上下顎中切歯の交点をセットする	150
光学印象	130	下顎頭を中心に顎運動を表示する	153
他のSICATアプリケーションから再使用する	140	セグメンテーション限度の表示	152
インポートして記録する	132	軌跡点を移動する	149
STLインポート	137	SICAT Suiteの概要	16
パノラマエリア	105	切替	
調整する	111	アプリケーション	46
プラグインを登録、削除する		検査ウィンドウ	71
SIDEXIS XG	40	バージョン	
閉じる	205	様々な	32
スクリーンショット		ボリュームの配置	104
ビューで作成する	92	調整する	106
ワークスペースを使って作成する	78	パウチャーコードを使用する	57
セグメンテーション	123	カート	
窩をセグメントする	127	開く	179
下顎骨をセグメントする	124	ワークフロー・ステップ	
SICAT Function		注文する	61
ユーザーインターフェース	58	診断する	61
SICATポータル	182	準備する	60
SICAT Suite		ワークフローのツールバー	60
ユーザーインターフェース	44	ワークフロー	36
閉じる	205		
開始する	42	数字	
SICAT WebConnector	183	3Dビュー	93
安全に関する情報	11	切り抜きを移動する	102
危険レベル	12	視線方向を変更する	94
オペレーターの資格	13	表示モードを切り替える	99
SIDEXIS XG		表示タイプ	97
		構成設定を行う	100



SICAT FUNCTION バージョン1.4

取扱説明書 | 日本語 | Standalone

目次 - Standalone

1 用途	7
2 バージョン履歴	8
3 システム要件	9
4 安全に関する情報.....	12
4.1 危険レベルの定義	13
4.2 オペレーターの資格	14
5 使用するアイコンおよび強調.....	15
6 取扱説明書の概要.....	16
7 SICAT Suiteの概要	17
8 SICAT Suiteのインストール	19
9 OSアップデートの確認手順を実行する	25
10 SICAT Suiteの更新、修復.....	31
11 このバージョンでの特徴.....	32
12 SICAT Functionの標準ワークフロー.....	35
13 SICAT Suite をスタートする	40
14 SICAT Suiteのユーザーインターフェース.....	41
14.1 「SICAT Suiteホーム」 ウィンドウの概要.....	43
15 SICATのアプリケーションを相互に切り替える	45
16 取扱説明書を開く	46
17 ライセンス.....	47
17.1 「ライセンス一覧」 ウィンドウを開く	49
17.2 インターネット接続を使用してライセンスを有効にする	50
17.3 ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする	52
17.4 ライセンスをライセンスプールへ返却する	54
17.5 バウチャーコードを使用する	56
18 患者ファイリング.....	57
18.1 「患者ファイリング」 ウィンドウを開く	60
18.2 患者ファイリングを追加する	61
18.3 別の患者ファイリングをアクティブにする	63
18.4 患者ファイリングを除去する	65
19 データインポート.....	66

19.1	対応しているDICOMフォーマット	69
19.2	インポートするデータを選択する	70
19.3	インポートオプションの選択	72
19.4	データインポートによる新しい患者ファイルの作成	73
19.5	既存の患者ファイルにデータを割り当てる	74
20	患者ファイル	77
20.1	「患者ファイル概要」ウインドウを開く	78
20.2	患者ファイリング内での患者ファイルの検索および並べ替え	79
20.3	患者ファイルをアクティブにする	81
20.4	アクティブな患者ファイルを使用した作業	82
20.5	患者ファイルの特性を変更する	84
20.6	患者ファイル概要から3D X線撮影画像または計画プロジェクトを開く	85
20.7	SICAT FunctionでのSICAT Air撮影結果	87
20.8	アクティブな患者ファイルを閉じ、それに含まれる計画プロジェクトを保存する	90
20.9	患者ファイリングからの患者ファイルの削除	91
20.10	患者ファイルからの3D X線撮影画像または計画プロジェクトの削除	93
21	SICAT Functionのユーザーインターフェース	95
21.1	ワークフローのツールバー	97
21.2	オブジェクトバー	99
21.3	オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理	101
21.4	オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理	103
21.5	SICAT Functionオブジェクト	105
22	ワークスペース	107
22.1	パノラマワークスペースの概要	108
22.2	TMJワークスペースに関する概要	110
22.3	MPR/放射性ワークスペースの概要	112
22.4	アクティブなワークスペースを切り替える	113
22.5	アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット	114
22.6	ワークスペースのスクリーンショットを作成する	115
23	ビュー	116
23.1	ビューの調整	117
23.2	アクティブなビューの切り替え	119
23.3	ビューの最大化および復元	120
23.4	2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット	121
23.5	ビューのズームおよび切り抜きの移動	123
23.6	レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール	124

23.7 十字線およびフレームの移動、非表示、表示.....	125
23.8 検査ウィンドウの移動、非表示、表示.....	126
23.9 ビューをリセットする.....	128
23.10画像のスクリーンショットを作成する.....	129
24 3Dビューの調整.....	130
24.1 3Dビューの目線を変更する.....	131
24.2 3Dビューの表示タイプ.....	133
24.3 3Dビューの表示タイプを切り替える.....	136
24.4 3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する.....	137
24.5 切り抜きを移動する.....	139
25 グレースケール値.....	141
25.1 グレースケール値を調整する.....	143
26 ボリュームの配置およびパノラマエリア.....	145
26.1 ボリュームの配置を調整する.....	147
26.2 パノラマエリアを調整する.....	152
27 顎運動データ.....	156
27.1 互換性のある顎運動撮影機器.....	157
27.2 顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録.....	158
28 セグメンテーション.....	164
28.1 下顎骨をセグメントする.....	165
28.2 窩をセグメントする.....	168
29 光学印象.....	171
29.1 光学印象をインポートし記録する.....	172
29.2 STLフォーマットの光学印象の場合の追加手順.....	178
29.3 他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する.....	180
30 解剖学的な咬合.....	182
30.1 顎運動と連携する.....	183
30.2 3Dビューで運動の軌跡を表示する.....	186
30.3 検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する.....	187
30.4 レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する.....	188
31 TMJワークスペースの各種機能.....	189
31.1 軌跡点を移動する.....	190
31.2 上下顎中切歯の交点をセットする.....	191
31.3 Bonwillの三角を利用する.....	192
31.4 セグメンテーション限度の表示.....	193

31.5 下顎頭を中心に顎運動を表示する	194
32 咬合器値	195
32.1 下顎頭が視認可能な時に咬合器値を読み込む	199
32.2 下顎頭が視認不可能な時に咬合器値を読み込む	201
33 距離/角度測定	203
33.1 距離測定を追加する	204
33.2 角度測定を追加する	205
33.3 測定、個々の測定ポイント、測定値を移動する	207
34 データエクスポート	209
34.1 「データの転送」ウィンドウを開く	210
34.2 データのエクスポート	211
35 注文プロセス	213
35.1 治療位置の設定	214
35.2 治療プリントをショッピングカートに入れる	216
35.3 カートを開く	220
35.4 カートをチェックして、注文プロセスを完了する	221
35.5 インターネット接続を使用した注文の終了	222
35.6 SICATポータルでの注文手順	223
35.7 SICAT WebConnector	224
35.8 インターネット接続を使用しない注文の終了	226
36 設定	230
36.1 一般設定の使用	231
36.2 SMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーション	233
36.3 歯科医院情報の使用	235
36.4 可視化設定の変更	236
36.5 SICAT Function設定の変更	238
37 サポート	239
37.1 サポート態勢のページを開く	240
37.2 連絡先情報およびサポートツール	241
37.3 インフォメーション	243
38 データを書き込み禁止で開く	244
39 SICAT Functionを閉じる	246
40 SICAT Suiteを閉じる	247
41 ショートカットキー	248

42 SICAT Suiteのアンインストール.....	249
43 安全に関する注意事項.....	252
44 精度	260
用語集.....	261
索引	263

1 用途

SICAT Functionは、口腔顎顔面部分の画像情報をビジュアル化してセグメント化し、さらに、顎運動を表示する目的で使用するソフトウェアです。

画像情報は、医療スキャナ（CT/DVT/光学印象システムスキャナなど）によるものです。運動情報は、コンジロググラフィーデバイスなどによるものです。

SICAT Functionは、MKG領域における認証、診断、治療計画および咀嚼問題の治療計画において資格のある歯科医をサポートしています。

計画データはSICAT Functionからエクスポートすることができ、治療の実施のために使用されません。

2 バージョン履歴

バージョン1.4

- SICATアプリケーションには登録要件の理由により、ビューアモードでもライセンスが必要です。アプリケーションをライセンスなしで使用することはできません。SICATは使用国で許可されているアプリケーションのビューアライセンスを顧客アクティベーションキーに自動的に追加します。任意のライセンスを無効にして再度有効にすることにより、ビューアライセンスを有効にすることができます。これに関する情報はライセンス [▶ ページ 47 - Standalone]を参照してください。
- 取扱説明書はスタンドアロン版内でもSIDEXIS XGプラグイン形式の使用時でもPDFファイルとして参照可能です。
- SICAT Function 顎運動データから仮想軸を算出することができます。
- SICAT Function ボンウィル三角の辺の長さを表示します。

バージョン1.3

- SIDEXIS 4のモジュールを追加
- 表記言語をイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、オランダ語、ロシア語でサポート
- このバージョンより、SICAT Functionのバージョン番号がSICAT Suiteのバージョン番号と一致
- 顎関節症治療用スプリントについて、石膏模型を製作してからの注文を選択可能とする
- TMJ- セグメント化した下顎頭の運動を表示するワークスペース
- セグメント化のウィンドウを閉じた後でも、セグメント化の編集を続行可能とする

バージョン1.1

- 表記言語をフランス語と日本語でサポート
- ボリュームの配置の補正機能を追加
- OPTIMOTION 治療スプリントの注文
- 顎運動データのフォーマットを.jmt形式のファイルに変更
- 顎運動の軌跡とまとめて光学印象をエクスポートする機能を追加

バージョン1.0

- 初版発行
- 表記言語を英語とドイツ語でサポート

3 システム要件



注意

お手元のシステムがシステム要件を満たしていない場合は、結果として、このソフトウェアが起動しなくなったり、または正常に機能しない可能性があります。

ソフトウェアをインストールする前に、ご使用のシステムが最小ソフトウェア/ハードウェア要件を満たしているか確認してください。

プロセッサ	クワッドコア：2.3 GHz
メインメモリ	8 GB
グラフィックカード	専用* DirectX 11以上 ビデオメモリ：2 GB 現行のドライバで、ウィンドウズ・ディスプレイ・ドライバ・メモリWDDM1.0以降のバージョンを使用できること。
ディスプレイ	画面解像度：画素密度が100%～125%のとき、1920×1080ドット以上** 画面解像度：画素密度が100%～200%のとき、3840×2160ドット以下**
ハードディスクの空き容量	20 GB、その他、データセット用の補助メモリ容量が必要
記憶媒体	インストールファイルが保存された外部記憶媒体へのアクセス
入力装置	キーボード、マウス
ネットワーク	Ethernetで、100 Mbpsまたは1000 Mbpsを推奨
患者教化用プリンター	300 dpi以上 紙形式はDIN A4またはUSレターサイズ
オペレーティングシステム	Windows 7 SP1 (64ビット版)、更新ファイルKB2670838を適用済みであること Windows 8 (64ビット版、デスクトップ) Windows 8.1 (64ビット版、デスクトップ) Windows 10 (64ビット版、デスクトップ)

ウェブブラウザ	Microsoft Internet Explorer 11以降のバージョン Mozilla Firefox 39以降のバージョン Google Chrome 44以降のバージョン JavaScriptが有効になっていること。 標準のブラウザに設定しておいてください。
PDFビューア	例えば、Adobe Reader DC以降のバージョン
SICAT Suiteをプラグインとして、SIDEKIS XGにインストール	バージョン2.6.1 (64ビット版)
SICAT Suiteをモジュールとして、SIDEKIS 4にインストール	バージョン4.2 SiPlanAPI V4
SICAT Suiteをプラグインとして、SIDEKIS 4にインストール	バージョン4.1.2 (64ビット版)



*SICAT Suiteでご使用いただけるグラフィックカードは、パフォーマンスレベルがNVIDIA GeForce 960 GTXと同等か、または、それを上回る専用のものに限りです。統合グラフィックカードには対応していません。

**画面を低解像度にして画素密度を大きくすると、それが原因で、ユーザーインターフェースのある一部で、ソフトウェアの表示が不完全になることがあります。

ディスプレイは、SMPTEテスト画像が正確に表示されるように調整する必要があります。この調整に関する内容は、*SMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーション* [▶ ページ 233 - Standalone]をご覧ください。

前提ソフトウェア

SICAT Suiteは、以下のソフトウェア・コンポーネントを必要としますが、これらコンポーネントが未インストールのときは、SICAT Suiteがインストールを行います。

- Microsoft .NET Framework 4.5
- CodeMeterライセンス管理ソフト6.30d
- SQL Server Compact Edition 4.0
- SICAT WebConnector

SICAT WebConnectorはSICATサーバーとの通信用に特定のポートを必要とします。このポートはファイアウォール内でも有効にされている必要があります。

プロトコル	接続方向	ポート
HTTP	送信	80
HTTPS	送信	443
FTPS管理	送信	21
FTPSデータ転送	送信	49152~65534



SICAT WebConnectorがなくても注文を実行することができます。これに関する情報は注文プロセス [▶ ページ 213 - Standalone]を参照してください。

4 安全に関する情報

安全関連の章節を以下に挙げますが、お読みいただくことが大切です。

- 危険レベルの定義 [▶ ページ 13 - Standalone]
- オペレーターの資格 [▶ ページ 14 - Standalone]
- 安全に関する注意事項 [▶ ページ 252 - Standalone]

4.1 危険レベルの定義

この取扱説明書では、オペレータ要員の皆様や患者様が負傷しないようにすること、および、物的損害を予防することの両者を目的として、安全にかかわる識別表示として以下のものを使用しています。



注意

この表示は、回避しなかった場合に、比較的、軽度の負傷を招く原因になりうる、危険な状況であることを示します。

注記

重要であるが、安全に関連していると思われ見なされない情報を示しています。

4.2 オペレーターの資格



注意

資格のない者が本ソフトウェアを使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

ソフトウェアの使用は、必ず専門の知識のある有資格者が行ってください。

このソフトウェアを使用する要員の皆様は、スキルを有する熟練者の方か、または、正規の教育訓練を修了された方のいずれかに限定してください。

教育またはトレーニングを終了する、または本ソフトウェアを一般的なトレーニングの枠内で使用する場合、必ず有資格者が常時監視している状態で使用してください。

本ソフトウェアを使用するための前提条件：

- 本取扱説明書を読んでいること。
- ソフトウェアの基本構造および機能に習熟していること。
- ソフトウェアの故障を認識し、必要に応じて、適切な手順を実行することができること。

5 使用するアイコンおよび強調

アイコン

この取扱説明書では、以下の記号を使用しています。



この注意アイコンは、例えば代替手順のような追加情報を示しています。

強調

SICAT Suiteに表示される要素のテキストおよび記号は、**太字**で強調されています。これに含まれるユーザーインターフェースのオブジェクト：

- 範囲の記号
- ボタンの記号
- アイコンの記号
- 画面に表示される注意およびメッセージのテキスト

取扱説明

取扱説明は番号付きリストで記載されています。

☑ 前提条件にはこのアイコンが付けられています。

1. 手順には番号が付けられています。

▶ 中間結果はこのアイコンが付けられ、挿入されています。

2. 中間結果の後、それ以降の手順が続きます。

▶ 最終条件にはこのアイコンが付けられています。

- 一つの手順のみで構成される指示にはこのアイコンが付けられています。

6 取扱説明書の概要

SICAT Function は、他の各種アプリケーションとともに、SICAT Suiteの一部を構成します。

SICAT Suiteは、SICATの各種アプリケーションを実行させる環境を提供します。したがって、各種アプリケーションのインストールは、SICAT Suiteにより行います。これに関する情報は*SICAT Suite*のインストール [▶ ページ 19 - *Standalone*]を参照してください。

現在、SICAT Suiteとしてお使いいただけるバージョンは、3種類あります。バージョンによって、操作手順の異なるものがいくらかあります。そのため、この取扱説明書では、バージョンごとに以下のように独立させています。

- SIDEXIS 4のモジュールを追加
- SIDEXIS XGのプラグイン
- スタンドアロン版

SICAT Suiteをインストールするときは、いずれか1バージョンを選択する操作は不要です。

各種アプリケーションのアンインストールも同様に、SICAT Suiteにより行います。これに関する情報は*SICAT Suite*のアンインストール [▶ ページ 249 - *Standalone*]を参照してください。

7 SICAT SUITEの概要

SICAT Suiteは、以下のコンポーネントより構成されています。

- SICAT Function - SICAT Functionの用途については、SICAT Functionの取扱説明書をご参照ください。
- SICAT Air - SICAT Airの用途については、SICAT Airの取扱説明書をご参照ください。
- SICAT Endo - SICAT Endoの用途については、SICAT Endoの取扱説明書をご参照ください。

言語

SICAT Suiteのユーザーインターフェースは以下の言語に対応しています。

- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 日本語
- スペイン語
- イタリア語
- オランダ語
- ポルトガル語
- ロシア語

ライセンス認証

SICATアプリケーションまたは各機能を有効にするには以下の手順が必要となります。

- その場で販売担当者にご連絡ください。
- バウチャーコードを受け取ることができます。
- SICATポータルでバウチャーコードからライセンスキーが生成されます (SICATホームページからアクセス可能)。
- SICATがお客様のアクティベーションキーにライセンスキーを追加します。
- アクティベーションキーでSICATアプリケーションまたはSICAT Suiteをインストールしたコンピュータ上の各機能を有効化します。

フルバージョンおよびビューアモード

SICAT Suiteは2種類のモードでスタートすることができます。

- 最低一つのSICATアプリケーションのビューアライセンスが有効な場合、SICAT Suiteがビューアモードで起動します。
- 少なくとも一つのSICATアプリケーションのフルバージョンライセンスを有効にしている場合、SICAT Suiteはフルバージョンで起動します。

原則として以下のルールを適用しています。

- 有効なフルバージョンライセンスのあるアプリケーションはフルバージョンでスタートします。
- 有効なビューアライセンスのあるアプリケーションはビューアモードでスタートします。
- 有効なライセンスのないアプリケーションはスタートしません。
- SICAT Suiteをインストールするときに、一つのモードに決定する必要はありません。

8 SICAT SUITEのインストール



注意

ソフトウェアに改変を加えると、結果として、このソフトウェアが起動しなかったり、または正常に機能しない可能性があります。

1. ソフトウェアのインストールに変更を加えないでください。
2. ソフトウェアのインストールディレクトリにあるコンポーネントを削除または変更しないでください。



注意

インストールメディアが損傷すると、インストールに失敗する可能性があります。

インストールメディアは慎重に取り扱い、適切に保管してください。



注意

お手元のシステムがシステム要件を満たしていない場合は、結果として、このソフトウェアが起動しなくなったり、または正常に機能しない可能性があります。

ソフトウェアをインストールする前に、ご使用のシステムが最小ソフトウェア/ハードウェア要件を満たしているか確認してください。



注意

不十分な承認は、ソフトウェアインストールまたはソフトウェアアップデートが失敗する原因になる場合があります。

ソフトウェアをインストールまたはアップデートする場合、使用するシステムに十分な承認があることを確認してください。



お手元のコンピュータでは、Windowsの **オートスタート** 機能がオフに設定されていることがあります。この場合、光媒体をWindowsファイルエクスプローラーで開き、ファイル名にSICAT Suiteのバージョンが含まれる **SICATSuiteSetup.exe** ファイルを手動でスタートすることができます。

SICAT Suiteをインストールするには、次のように行います。

- ☑ お手元のコンピュータでは、システムの要件が満たされているようにしておいてください。これに関する情報はシステム要件 [▶ ページ9 - Standalone]を参照してください。

1. SICAT Suiteインストールメディアをコンピューターの光学ドライブに挿入します。

▶ オートスタートのウィンドウが開きます。



2. オートスタートのウィンドウで、**SICATSuiteSetup.exe** を実行するのオプションを選択します。このとき、ファイル名には、SICAT Suiteのバージョン番号が含まれています。

▶ ソフトウェアがコンピューター上で使用できない場合、前提ソフトウェアをインストールします。

- ▶ SICAT Suiteのインストールプログラムが起動し、はじめにのウィンドウが開きます。



3. SICAT Suiteのインストールプログラムで使用する言語は、お好みのものを、はじめにのウィンドウの右上隅から選択したら、次へをクリックします。

- ▶ 使用許諾契約書のウィンドウが開きます。



4. エンドユーザー使用許諾契約書をもれなく通読し、**使用許諾契約書に同意します。** のチェックボックスにチェックマークを入れたら、**次へ**をクリックします。

- ▶ オプションのウィンドウが開きます。



5. SICAT Suiteのインストールプログラムにより、SICAT Suiteをインストールする先のフォルダが、ハードディスク上にありますが、このフォルダを変更するときは、**検索する**のボタンをクリックします。

- ▶ **フォルダを選択する**のウィンドウが開きます。

6. SICAT Suiteインストールプログラムに「SICAT Suite」ディレクトリを作成させたいフォルダを参照し、**OK**をクリックしてください。

- ▶ フォルダを選択すると、SICAT Suiteのインストールプログラムが、そのフォルダへのパスを **ソフトウェアをどこにインストールしますか?** のボックス内に貼り付けます。

7. お手元のコンピュータにSIDEXIS XGか、または、SIDEXIS 4がインストールしてある場合、**SIDEXIS 搭載の SICAT Suite を使用したい**のチェックボックスは、入力が可能です。SICAT Suiteの登録は、インストール中でも可能ですが、後ほど、SIDEXIS XGのプラグインか、または、SIDEXIS 4のモジュールとして、マニュアル操作によっても結構です。

- ▶ **SIDEXIS 搭載の SICAT Suite を使用したい**のチェックボックスにチェックマークを入れた場合、**デスクトップにショートカットを作成します**のチェックボックスは、グレースアウト表示で入力できません。

8. 入力可能な場合は、**デスクトップにショートカットを作成します**のチェックボックスにチェックマークを入れるか外すかのいずれかを行います。

9. **インストールする**のボタンをクリックします。

- ▶ **進捗状況** のウィンドウが開きます。



- ▶ SICAT Suiteと残りの前提ソフトウェアをインストールします。
- ▶ インストールが完了すると、**確認** のウィンドウが開きます。



10. **終了する**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteインストールプログラムが閉じます。

9 OSアップデートの確認手順を実行する



注意

OSに改変を加えると、結果として、SICATアプリケーションが起動しなかったり、または正常に機能しない可能性があります。

1. SICATアプリケーションを起動する前に、必ずお手元のコンピュータのオペレーションシステムが前回SICATアプリケーションを使用してからアップデートやセキュリティアップデートをインストールしたかを確認してください。
2. お手元のコンピュータのオペレーションシステムに更新プログラムまたは背級レティアアップデートがインストールされている場合、取扱説明書に記載されている必要手順でSICATアプリケーションのチェックを実行してください。
3. SICATアプリケーションの動作が取扱説明書に記載されている動作と異なる場合、ソフトウェアをそれ以上使用せず、直ちにSICATサポートまでお問い合わせください。

お使いのコンピュータのオペレーションシステムに更新プログラムがインストールされている場合、SICAT Functionが正常に動作しているか確認します。以下の点検手順を実行してください。点検中に異常を発見した場合は影響を受けるコンピュータ上のSICAT Functionの使用を中止し、SICATサポートまでお問い合わせください。

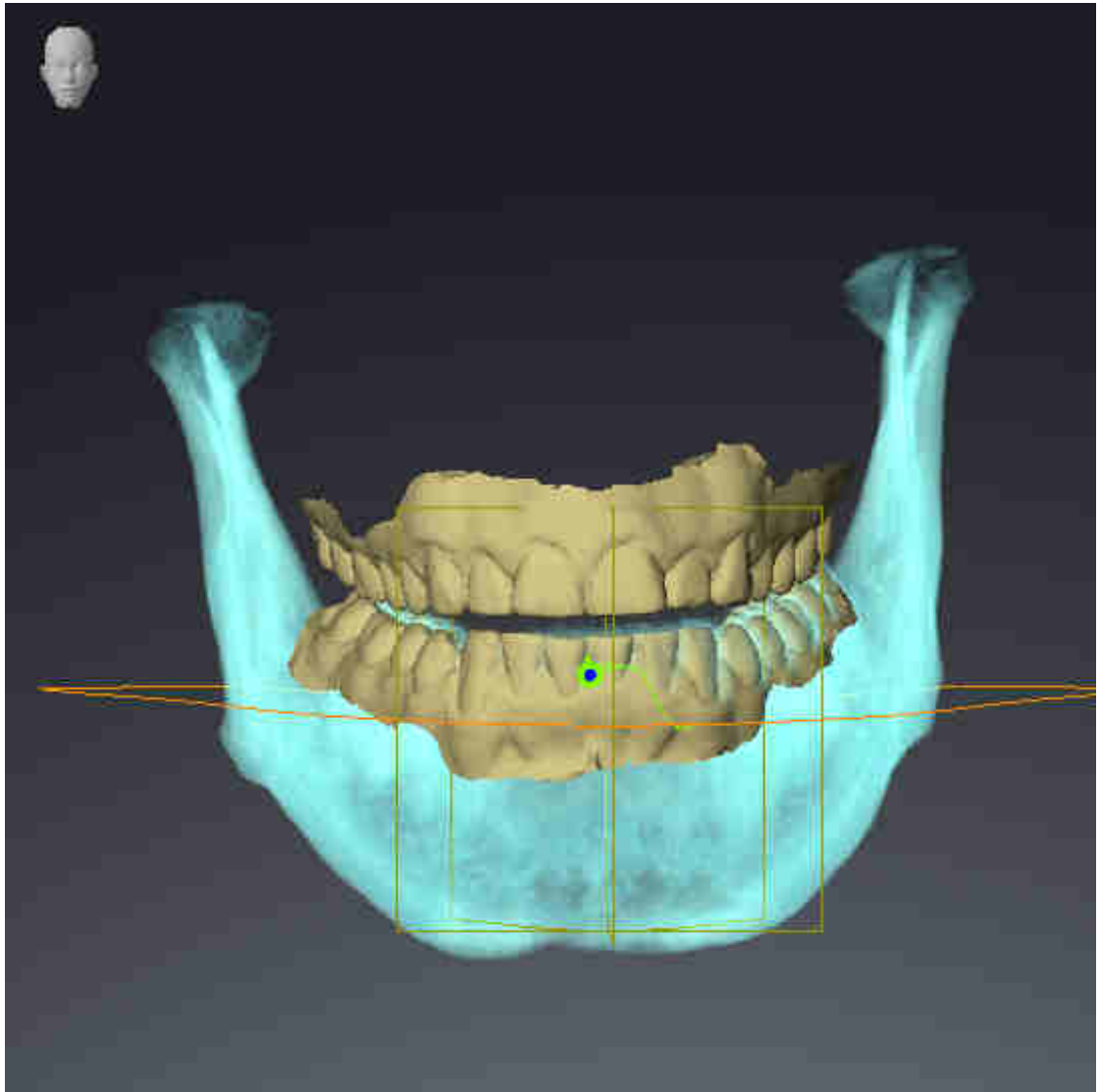
準備

1. 誰も意図せぬ変更をしていないことを確認するために、患者「Axx Patient」を削除します。
2. ファイル「SICATSuite_ReferenceDataset_1.4.zip」から基準データセットをインポートします。SICAT Suiteのインストールメディア状にデータセットがあります。
3. 基準データセット「Patient Axx」をSICAT Functionで開きます。

下顎骨セグメンテーション

1. パノラマワークスペースが有効であることを確認してください。
2. ビューを標準値に戻します。
3. 3Dビューが3DX線撮影画像を前方から示しているか確認してください。
4. 表示モードを背景領域を非表示にするにセットしてください。
5. リストアクティブな顎関係：から要素「lateral_lt.1」を選択してください。

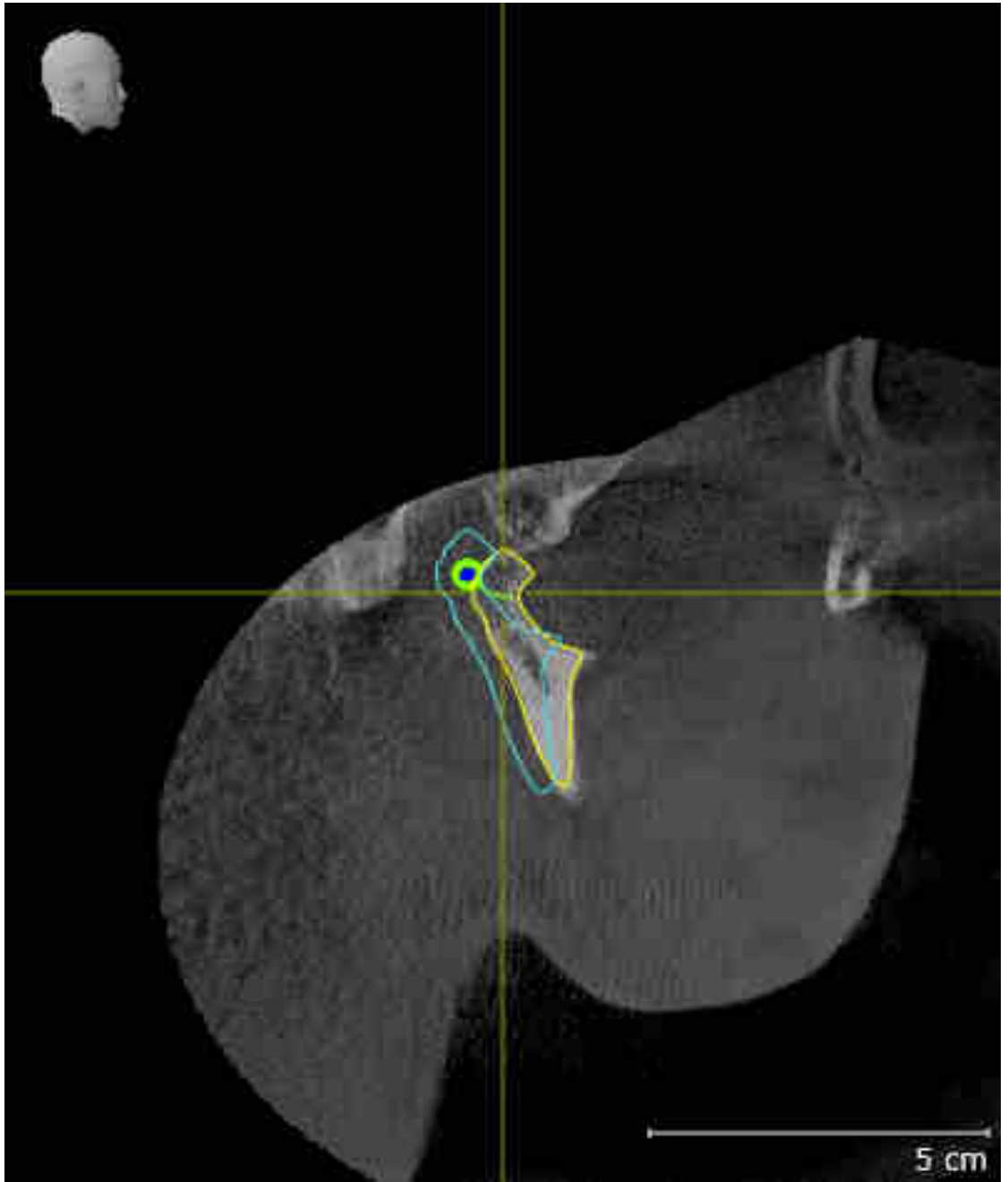
6. 以下のスクリーンショットで3Dビューを比較してください。特に、下顎骨セグメンテーションと光学印象の表示をチェックします。



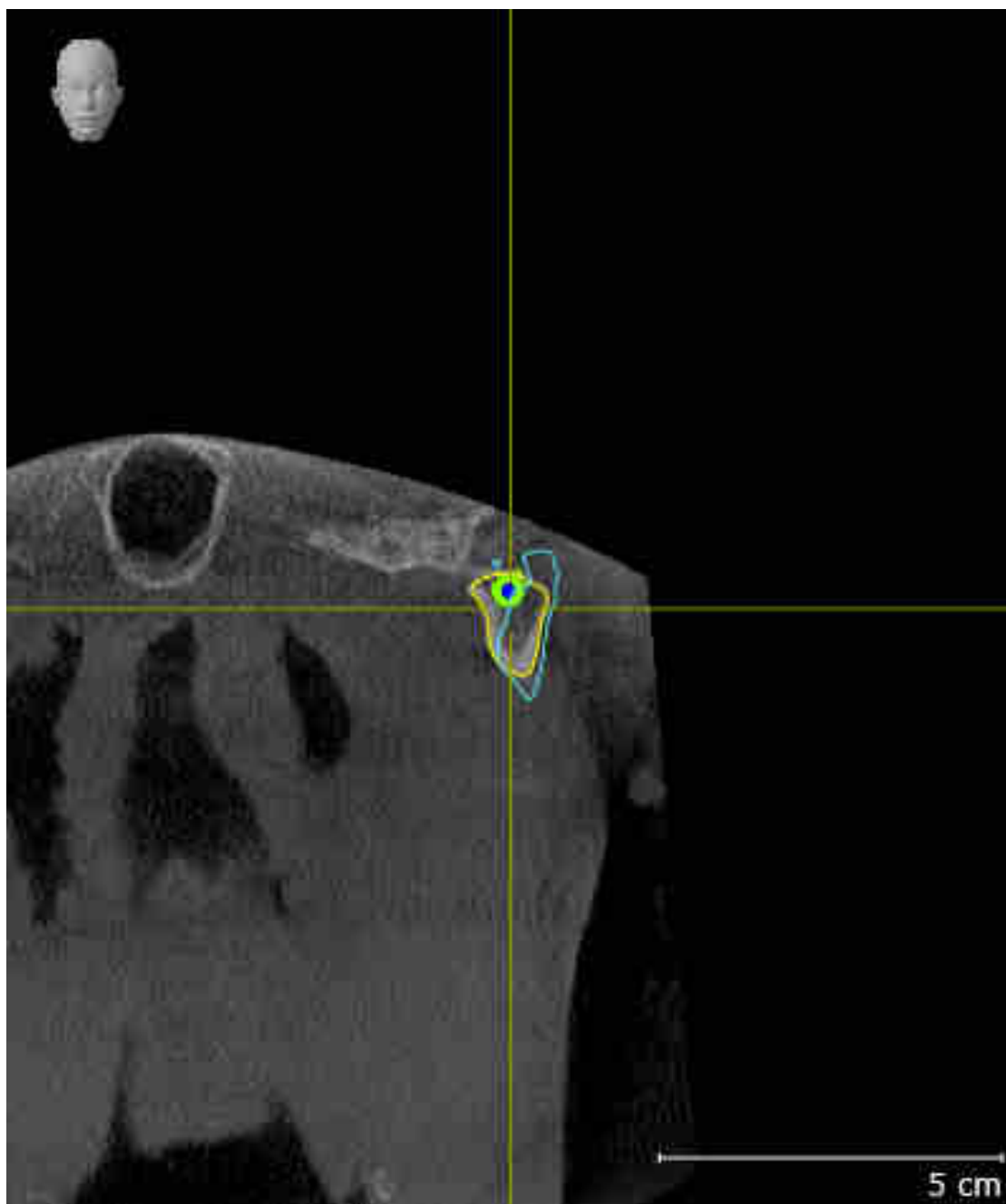
顎運動データ

1. TMJワークスペースが有効であることを確認してください。
2. 輝度およびコントラストに対する値がそれぞれ基準値の50%に一致していることを確認してください。
3. リストアクティブな顎関係：から要素「lateral_lt.1」を選択してください。
4. オブジェクトブラウザの下ボリューム-部位 > 下顎骨で要素 下顎の右側を選択し、その要素に焦点を合わせてください。
5. オブジェクトブラウザの下ボリューム-部位 > 下顎骨で要素 下顎の左側を選択し、その要素に焦点を合わせてください。
6. オブジェクトブラウザで要素ボリューム-部位を選択してください。

7. プロパティエリアでオプションセグメンテーション限度の表示を有効化してください。
8. 以下のスクリーンショットで右顆状突起矢状方向ビューを比較してください。

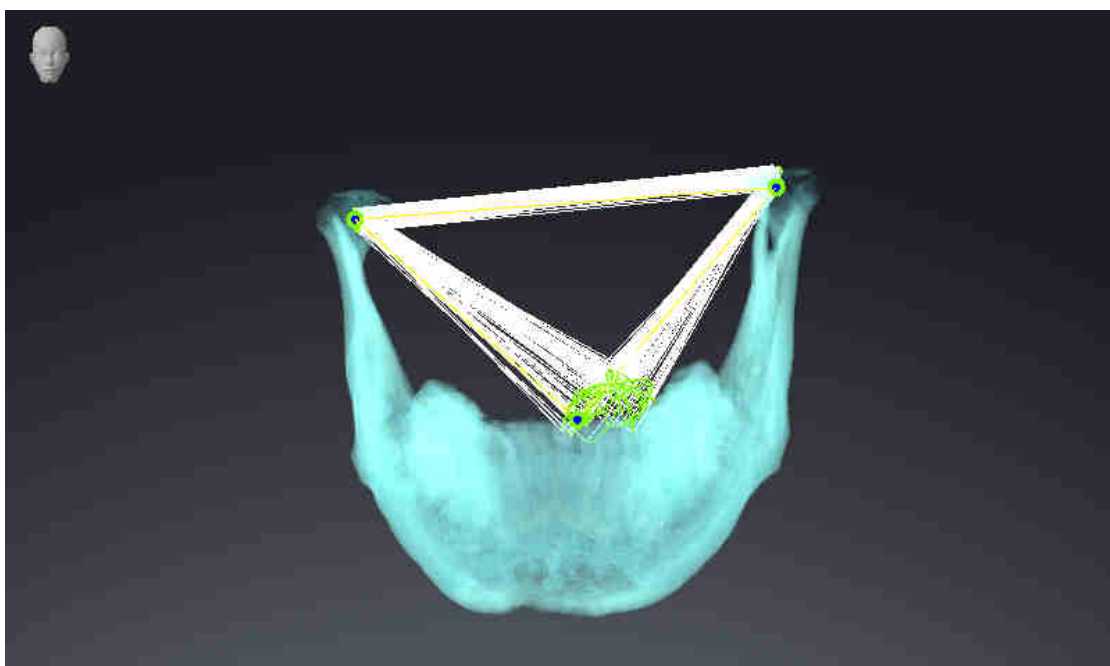


9. 以下のスクリーンショットで **左顆状突起 冠状ビュー** を比較してください。



BONWILLの三角

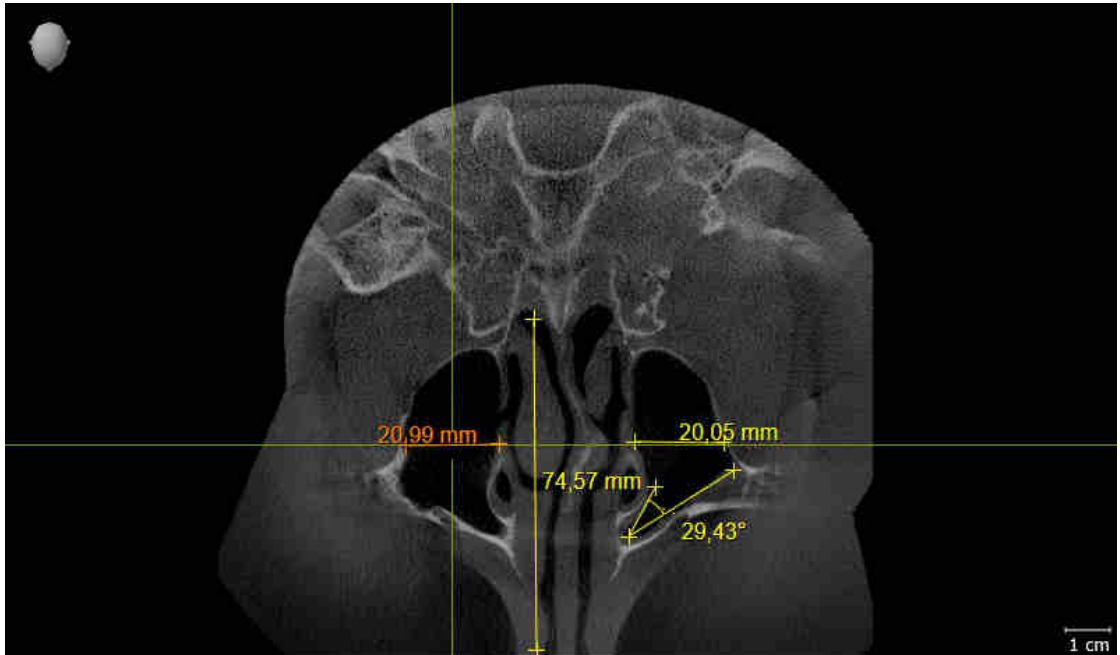
1. TMJワークスペースが有効であることを確認してください。
2. 3Dビューが3DX線撮影画像を前方から示しているか確認してください。
3. オブジェクトブラウザで要素顎運動データを選択してください。
4. プロパティエリアでオプションBonwillの三角を有効化してください。ステップ幅に対する値が5であることを確認してください。
5. リストアクティブな顎関係：から要素「chewing.1」を選択してください。
6. 3Dビューの表示モードを背景領域を非表示にするにセットしてください。
7. 光学印象を非表示にします。
8. 以下のスクリーンショットで3Dビューを比較してください。特に、ボンウィル三角の描画と使用可能なトラッキングポイントをチェックします。



測定

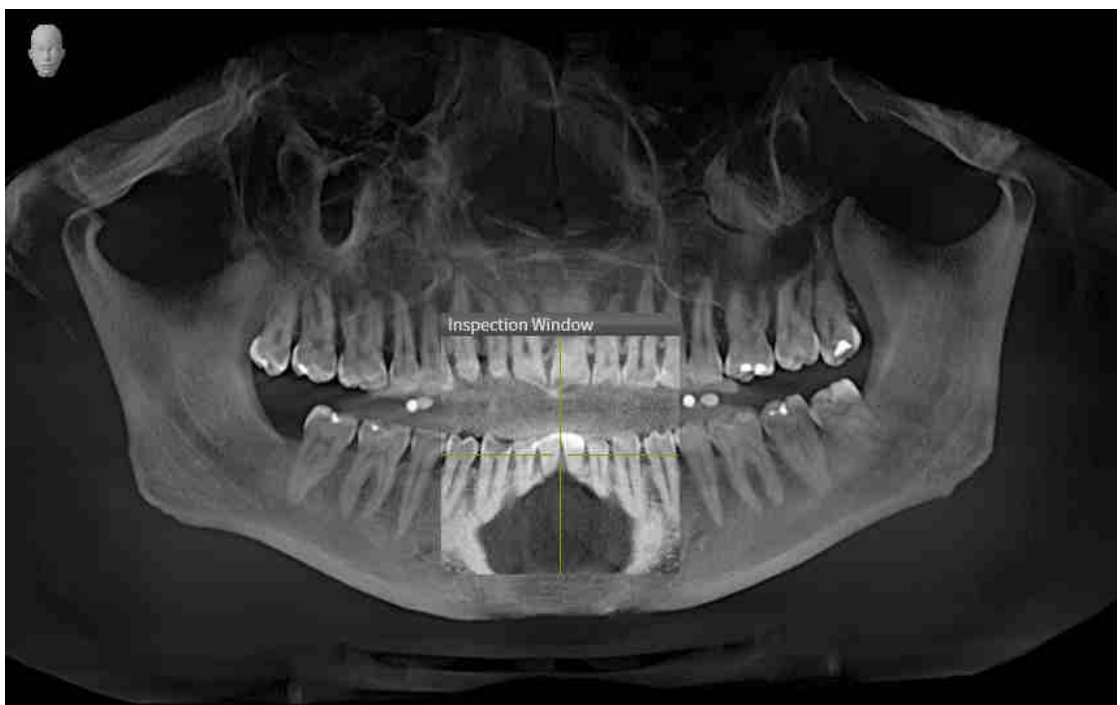
1. MPR/放射性ワークスペースが有効であることを確認してください。
2. 軸方向ビューで輝度およびコントラストに対する値がそれぞれ基準値の50%に一致していることを確認してください。
3. オブジェクトブラウザの測定下で要素「20,99 mm」を選択し、その要素に焦点を合わせてください。

4. 以下のスクリーンショットで **軸方向** ビューを比較してください。測定オブジェクトの表示を特にチェックしてください(20,99 mm、 20,05 mm、 74,57 mmおよび29,43°)。



パノラマビュー

1. パノラマワークスペースが有効であることを確認してください。
2. ビューを標準値に戻します。
3. 以下のスクリーンショットで **パノラマビュー**を比較してください。特にパノラマビューと検査ウィンドウの表示を確認してください。



10 SICAT SUITEの更新、修復

SICAT SUITEの更新

SICAT Suiteを更新するときは、SICAT Suiteのインストールプログラムを起動して、**更新する**のボタンをクリックしてください。更新にあたって、インストールプログラムは、最初にSICAT Suiteの旧バージョンをアンインストールします。データと設定内容は、いずれももれなく保持されます。



SICAT Suiteのスタンドアロン版では、バージョンの更新にあたって、患者カルテフォルダの更新が必要です。新規バージョンの初回起動時や、更新前の患者ファイリングを開いた場合、SICAT Suiteでは、患者カルテフォルダの更新を希望するかどうかを尋ねてきます。尋ねるメッセージを確認したら、SICAT Suiteは、患者ファイルの更新を自動で行います。**注意！更新後の患者ファイルは、SICAT Suiteの旧バージョンで使用することができなくなります。**



SIDEXIS XGをSIDEXIS 4.1.3以降のバージョンに更新し、その後、SICAT Suiteを更新すると、SICAT Suiteのインストールプログラムは、SICAT SuiteをSIDEXIS 4のモジュールとして登録します。3D X線撮影画像を開くと、SICAT Suiteでは、その3D X線撮影画像に関する3D治療計画スタディがSIDEXIS XG内に存在するかどうかをチェックし、存在すれば、そのスタディをSIDEXIS XGからSIDEXIS 4へ適用します。

SICAT SUITEの修復

SICAT Suiteを修復するときは、SICAT Suiteのインストールプログラムを起動して、**修理する**のボタンをクリックしてください。データと設定内容は、いずれももれなく保持されます。

SICAT Suiteでは、更新と修復の両方で、SICAT Suiteのインストールプログラムを使用します。これに関する情報はSICAT Suiteのインストール [▶ ページ 19 - Standalone]を参照してください。

11 このバージョンでの特徴

SICAT Functionを単独で使用するか、他のソフトウェアと併用するかに応じて、特定のエリアに違いがあります。

患者データ、立体画像のデータ

SICAT Suiteのスタンドアロンバージョンには、ポリウムデータおよび患者の固有の中央管理が含まれます。SICAT Suiteのスタンドアロンバージョンの患者ファイルのコンセプトは、標準的な患者ファイルに例えることができます。

- 患者ファイルは、書類整理庫に例えることのできる患者ファイリングに保存されます。
- 患者ファイルをアクティブにすることは、患者ファイルを書類保管庫から取り出してテーブルに置くことに例えることができます。
- 患者ファイルからの患者データをSICATアプリケーションで開くことは、患者ファイルから書類を取り出すことに例えることができます。
- 3D X線撮影画像を患者ファイルに追加することは、標準的な患者ファイルの2D X線撮影画像を追加することに例えることができます。
- 3D X線撮影画像は、複数のプロジェクトの基礎となり得ます。プロジェクトは患者ファイルの一部でもあります。
- 付属のプロジェクトを含む3D X線撮影画像はスタディと呼ばれます。

患者ファイルフォルダーの管理に関する内容は、[患者ファイリング](#) [▶ ページ 57 - *Standalone*]の節をご覧ください。患者ファイルの管理に関する内容は、[患者ファイル](#) [▶ ページ 77 - *Standalone*]の節をご覧ください。



患者データに加えて、SICATの各種アプリケーションのユーザー設定内容についても、バックアップ保存を行っておくのがよいでしょう。ユーザー設定内容は、各ユーザー別に2つのディレクトリに分割して保存されています。これら2つのディレクトリを開くときは、Windowsのエクスプローラで、アドレスバーに `%appdata%\SICAT GmbH & Co. KG` と `%localappdata%\SICAT GmbH & Co. KG` を入力してください。

設定

スタンドアロン版では、SICAT Suite自体が設定内容のすべてを管理します。これに関する情報は [設定](#) [▶ ページ 230 - *Standalone*]を参照してください。

ライセンス

スタンドアロン版と、別のソフトウェアに結合した、SICAT Suiteのバージョンは、いずれも共通のライセンスで使用できます。SICAT Suiteをインストールするときに、一つのバージョンに決定する必要はありません。

スタディで、書込権限のあるものとなないものを開く

SICAT Functionのスタディに対して変更を行い、その変更内容を保存するときは、以下の各条件を満たしておいてください。

- SICAT Functionのフルバージョンライセンスのアクティベーションを完了しておくこと。
- 患者ファイリングを開いておくこと。

ライセンスのアクティベーションが完了していなければ、SICAT Functionのスタディでは、変更と変更内容の保存がいずれもできません。SICAT Functionビューアライセンスをアクティベーション済みの場合、3DX線撮影画像とSICAT Functionのスタディを表示することができます。

以下の表には、SICATアプリケーションライセンスのアクティベーションを完了し、かつ、開いている患者ファイルフォルダーがあるときに、利用できる機能を示します。

機能	アプリケーションでフルバージョンライセンスのアクティベーションを完了し、かつ、患者ファイルフォルダーが開いている	アプリケーションでビューアライセンスのアクティベーションが完了しているが、患者ファイルフォルダーが開いていない	アプリケーションでライセンスのアクティベーションが未完了で、患者ファイルフォルダーも開いていない
サポート領域	有	有	有
一般設定	有	有	有
SICAT Function-設定	有	有	無
データエクスポート	有	無	無
患者ファイリングの管理	有	無	無
患者ファイルの管理	有	無	無
データインポート	有	無	無
ヘルプ	有	有	有

以下の表には、SICAT Functionについてライセンスのアクティベーションを完了し、開いている患者ファイルフォルダーがあるときに、利用できる機能を示します。

機能	SICAT FUNCTION-フルバージョンライセンスのアクティベーションを完了し、かつ、患者ファイルフォルダーが開いてある	SICAT FUNCTION-ビューアライセンスのアクティベーションを完了し、かつ、患者ファイルフォルダーが開いてある	SICAT FUNCTIONアプリケーションでライセンスのアクティベーションが未完了であるが、患者ファイルフォルダーが開いてある
SICAT Functionのスタディに変更を加える	有	無	無
データをビューアモードで開く	無	有	無

アプリケーションのライセンスに対して、アクティベーションが完了していても、条件によっては、SICAT Functionのスタディで変更を行ったり、変更内容を保存したりが、いずれもできないときがあります。その原因として、例えば注文プロセス実行中の場合が考えられます。

スタンドアロンバージョンでは、ライセンスステータスは **SICAT Suite**ホームウインドウで使用できる機能にも影響します。これに関する情報は「*SICAT Suite*ホーム」ウインドウの概要 [▶ ページ 43 - Standalone]を参照してください。

詳細はデータを書き込み禁止で開く [▶ ページ 244 - Standalone]を参照してください。

12 SICAT FUNCTIONの標準ワークフロー



注意

情報システムにあるセキュリティの脆弱性は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

1. 情報処理のシステム環境において、セキュリティ上の脅威を発見し、それらを回避するために、組織内部で指針を定めて周知するよう、徹底してください。
2. 最新のウィルススキャナをインストールし、ウィルススキャンを実行してください。
3. ウィルススキャナの定義ファイルを定期的に更新してください。



注意

ワークステーションへの不正なアクセスは、患者データの秘密情報およびインテグリティに関するリスクにつながるおそれがあります。

ワークステーションへのアクセスは資格のある人に限定してください。



注意

サイバーセキュリティの問題は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

お手元のSICATアプリケーションにおいて、サイバーセキュリティにかかわるトラブルの疑いがあるときは、直ちにテクニカルサポートまで、ご連絡ください。



SICAT Suiteを使った作業を始める前に、本取扱説明書および、特にすべての安全上の注意事項をよくお読みください。後で情報を調べる時のため、本取扱説明書は手元に置いてください。

データセット

SICAT Function では、以下に挙げる、3種類の異なるデータセットを結合します。

- 3D X線撮影画像。例として、Sirona GALILEOSによるものがあります。
- 顎運動データ。例として、SICAT JMT+によるものがあります。
- デジタル光学印象。例として、Sirona CERECによるものがあります。

インストール

SICAT Suiteをインストールする手順は、*SICAT Suiteのインストール* [▶ ページ 19 - Standalone] の節をご覧ください。

フルバージョンで使用可能にする

1. SICAT Functionのライセンスが取得済みのときは、ライセンスのアクティベーションを行って、フルバージョンで使用できるようにします。これに関する情報はライセンス [▶ ページ 47 - Standalone]を参照してください。
2. データを保存できるため、少なくとも一つの患者ファイリングを登録し、これをアクティブにします。これに関する情報は患者ファイリング [▶ ページ 57 - Standalone]を参照してください。



SICAT Functionのライセンスを取得していない場合は、3D X線撮影画像をビューアモードで個別に開いてください。ビューアモードに関する内容は、データを書き込み禁止で開く [▶ ページ 244 - Standalone]の節をご覧ください。



SICAT Suiteが作動しているコンピューターが一つのネットワーク環境にあり、ネットワーク構成がこれを可能にする場合、患者ファイリングおよび含まれている患者ファイルをネットワークファイルシステムに保存することができます。通常、ネットワークファイルシステムはそのためNFSプロトコルまたはSMBプロトコルに対応している必要があります。この表示に関する内容は、患者ファイリング [▶ ページ 57 - Standalone]の節をご覧ください。

開始

SICAT Suiteの起動手順は、SICAT Suite をスタートする [▶ ページ 40 - Standalone]の節をご覧ください。

設定

各種設定について、お好みの内容に変更するときは、設定のコーナーから行ってください。これに関する情報は設定 [▶ ページ 230 - Standalone]を参照してください。

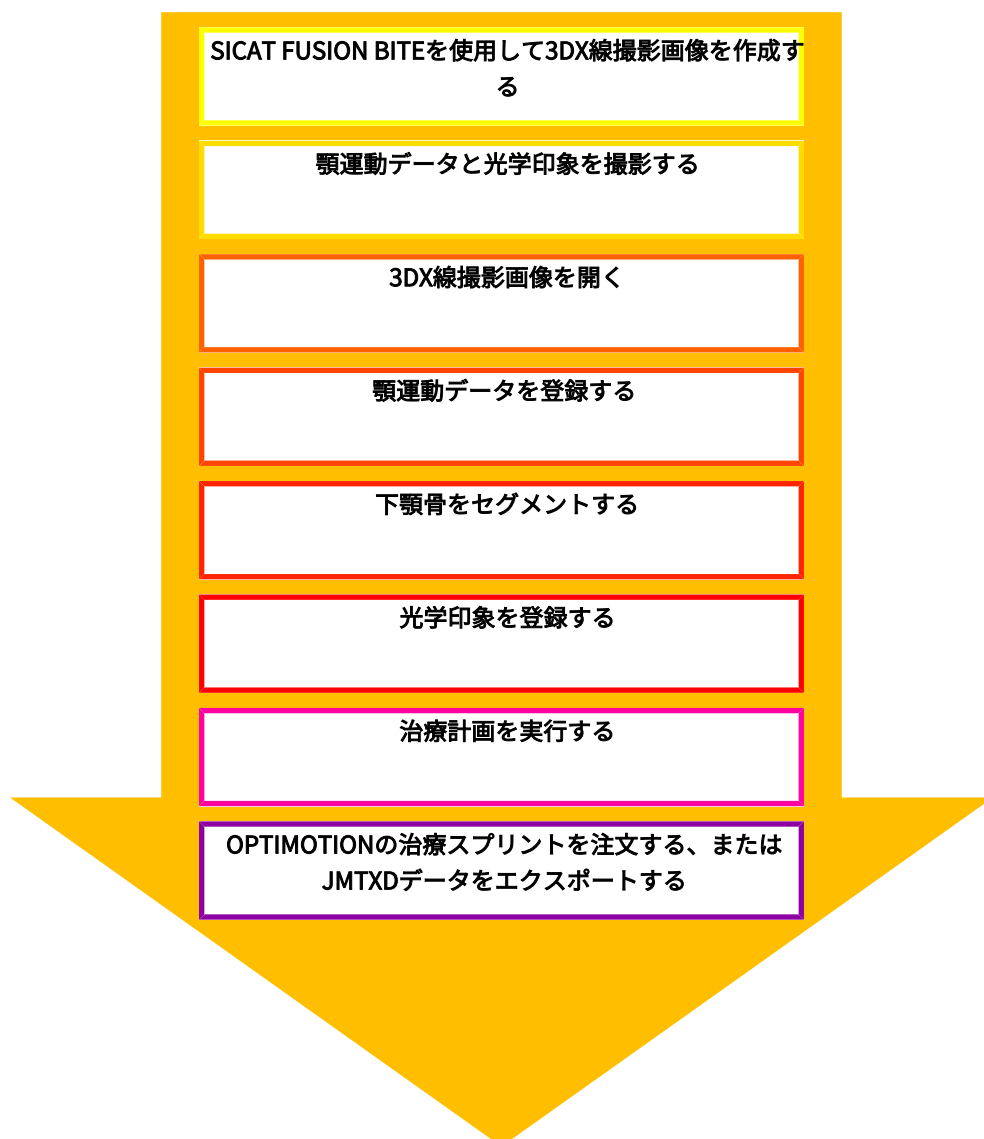
データセットを収集する

1. 患者の3D X線撮影画像は、患者がSICAT Fusion Biteを咬合している間に作成します。この手順に関する内容は、SICAT JMT*のクイックガイドをご覧ください。
2. 患者専用の顎運動データを撮影します。この手順に関する内容は、SICAT JMT*の取扱説明書をご覧ください。
3. 上顎骨と下顎骨のデジタル光学印象を作成します。この手順に関する内容は、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

データセットを開く

1. 3DX線撮影画像を患者ファイリングにインポートします。これに関する情報はデータインポート [▶ ページ 66 - Standalone]を参照してください。
2. 患者ファイルを検索し、インポートしたデータを管理する手順は、患者ファイル [▶ ページ 77 - Standalone]の節に記載の手順に従ってください。
3. 患者ファイルのデータで作業するには、SICAT Functionで、患者ファイルを開きます。これに関する情報は患者ファイル概要から3DX線撮影画像または計画プロジェクトを開く [▶ ページ 85 - Standalone]を参照してください。

SICAT FUNCTIONの処理手順



SICAT FUNCTIONでデータセットを編集する

1. 必要に応じて、ボリュームの配置とパノラマエリアを調整します。これに関する情報は**ボリュームの配置およびパノラマエリア** [[▶ ページ 145 - Standalone](#)]を参照してください。
2. SICAT Functionで、顎運動データをインポートして記録します。これに関する情報は**顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録** [[▶ ページ 158 - Standalone](#)]を参照してください。
3. 下顎骨、さらに必要に応じて、切歯窩をセグメント化します。患者との練習に関する情報は**下顎骨をセグメントする** [[▶ ページ 165 - Standalone](#)]と**窩をセグメントする** [[▶ ページ 168 - Standalone](#)]を参照してください。
▶ SICAT Function では、インポートした、顎運動データを、3D画像としてビジュアル化します。
4. 3D X線撮影画像のデータとともに、光学印象をインポートして記録します。これに関する情報は**光学印象をインポートし記録する** [[▶ ページ 172 - Standalone](#)]を参照してください。
5. **TMJワークスペース**で、顎運動を評価します。患者との練習に関する情報は**TMJワークスペースに関する概要** [[▶ ページ 110 - Standalone](#)]と**TMJワークスペースの各種機能** [[▶ ページ 189 - Standalone](#)]を参照してください。セグメンテーションが行われない場合は特に、解剖学的な運動経路を補助ツールとして使用してください。これに関する情報は**3Dビューで運動の軌跡を表示する** [[▶ ページ 186 - Standalone](#)]、**検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する** [[▶ ページ 187 - Standalone](#)]、**レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する** [[▶ ページ 188 - Standalone](#)]と**顎運動と連携する** [[▶ ページ 183 - Standalone](#)]を参照してください。
6. 顎関節症治療用スプリントのOPTIMOTION用に、治療位置を決定します。これに関する情報は**治療位置の設定** [[▶ ページ 214 - Standalone](#)]を参照してください。
7. OPTIMOTIONの治療スプリントを注文してください。これに関する情報は**注文プロセス** [[▶ ページ 213 - Standalone](#)]を参照してください。
8. 例えば、セカンドオピニオンを求める場合、データをエクスポートします。これに関する情報は**データエクスポート** [[▶ ページ 209 - Standalone](#)]を参照してください。

データセットを使用する作業を終了する、中断する

- 作業を終了または中断する時は、アクティブな患者ファイルを閉じて、これを保存してください。これに関する情報はSICAT Suiteを閉じる [▶ ページ 247 - Standalone]を参照してください。

取扱説明書、サポート

取扱説明書は、SICAT Suite ヘルプのウィンドウからご覧ください。これに関する情報は取扱説明書を開く [▶ ページ 46 - Standalone]を参照してください。

それ以降のサポートは、サポート のページをご覧ください。これに関する情報はサポート [▶ ページ 239 - Standalone]を参照してください。

13 SICAT SUITE をスタートする

SICAT Functionを開始するには、まずSICAT Suiteを起動する必要があります。

SICAT Suiteを起動するには、次の手順で行います。

- ☑ SICAT Suiteを正常にインストールします。これに関する情報はSICAT Suiteのインストール [▶ ページ 19 - Standalone]を参照してください。



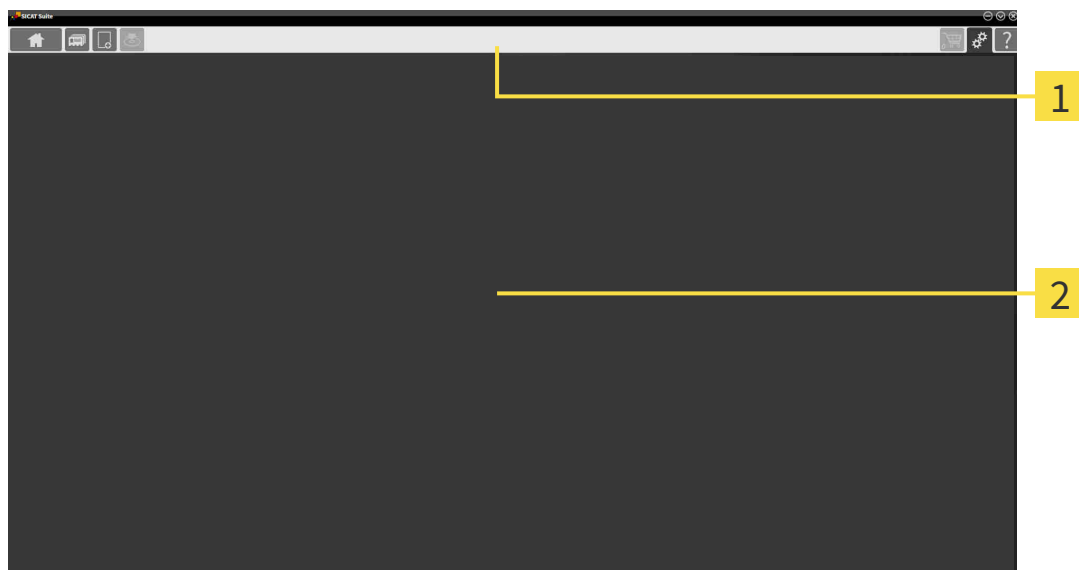
- インストール時にデスクトップアイコンを作成した場合、WindowsのデスクトップにあるアイコンSICAT Suiteをクリックします。
- ▶ SICAT Suiteがスタートし、SICAT Suiteホームウィンドウが開きます。これに関する情報は「SICAT Suiteホーム」ウィンドウの概要 [▶ ページ 43 - Standalone]を参照してください。

Windowsボタンを押し、SICAT Suite と入力して、SICAT SuiteアイコンをクリックすることによってSICAT Suiteをスタートすることもできます。



14 SICAT SUITEのユーザーインターフェース

SICAT Suiteのユーザーインターフェースは、以下のアイテムから構成されています。



1 ナビゲーションバー

2 アプリケーション領域

- SICAT Suite 上端のナビゲーションバーは、各種ウインドウとアプリケーション間で切り替えるためのタブが表示されます。
- **アプリケーション領域**は、SICAT Suiteの上記以外の部分にあって、SICATのアプリケーションのうち、開いているもののユーザーインターフェースを表示します。

ナビゲーションバーは3つのエリアで構成されています。左側のエリアと右側のエリアは常に表示されています。SICAT Suiteでは、一つの患者ファイルがアクティブになっている場合のみ、そのエリアが中央に表示されます。

左側のエリアには次のタブがあります。



- **SICAT Suiteホーム** - これに関する情報は「SICAT Suiteホーム」ウインドウの概要 [▶ ページ 43 - Standalone]を参照してください。



- **患者ファイル** - これに関する情報は患者ファイル [▶ ページ 77 - Standalone]を参照してください。



- **新規データを追加する** - これに関する情報はデータインポート [▶ ページ 66 - Standalone]を参照してください。



- **データを共有する** - これに関する情報はデータエクスポート [▶ ページ 209 - Standalone]を参照してください。

中央のエリアには次のタブがあります。



- **有効な患者ファイル** - これに関する情報はアクティブな患者ファイルを使用した作業 [▶ ページ 82 - Standalone]を参照してください。

- **アプリケーション** - これに関する情報はSICATのアプリケーションを相互に切り替える [▶ ページ 45 - Standalone]を参照してください。



右側のエリアには次のタブがあります。



- **カート** - これに関する情報は注文プロセス [▶ ページ 213 - Standalone]を参照してください。



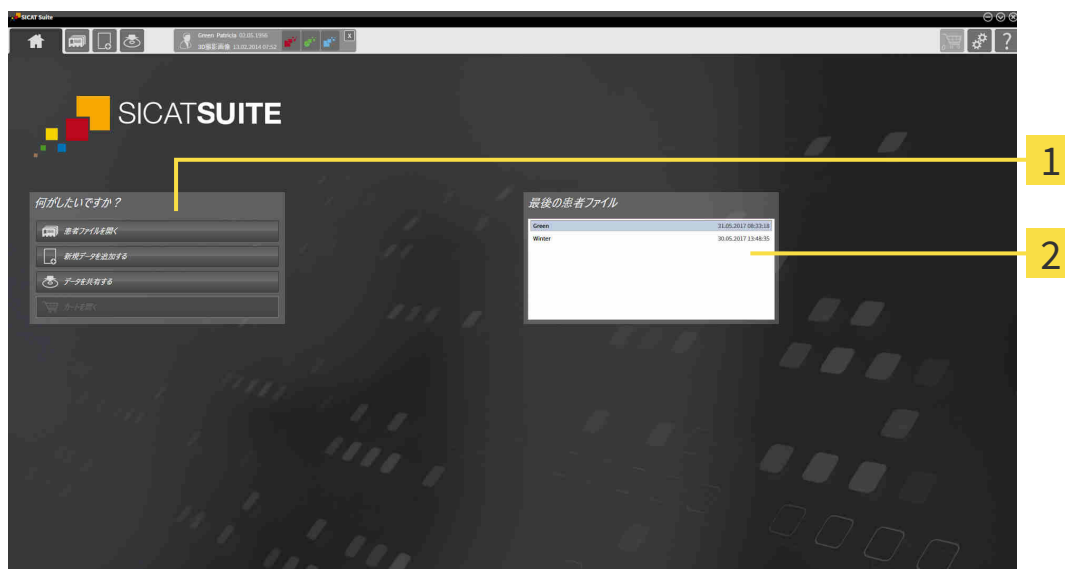
- **設定** - これに関する情報は設定 [▶ ページ 230 - Standalone]を参照してください。



- **サポート** - これに関する情報はサポート [▶ ページ 239 - Standalone]を参照してください。

14.1 「SICAT SUITEホーム」 ウィンドウの概要

SICAT Suiteのスタンドアロンバージョンをスタートすると、SICAT Suiteホームウィンドウが表示されます。



1 エリア 何がしたいですか？

2 エリア 最後の患者ファイル



SICAT Suiteホームアイコンをクリックすると、いつでもこのウィンドウに戻ることができます。SICAT Suiteホームウィンドウの内容は、以下のパラメーターによって異なります。

- アクティベーションの状態とライセンスの種類
- 患者ファイルフォルダの状態

アクティベート済みのライセンスがない場合、SICAT Suiteホームメッセージとボタンだけのライセンスを有効にするウィンドウが表示されます。

最低一つのSICATアプリケーションのビューアライセンスが有効で、SICATアプリケーションのフルバージョンライセンスがない場合はSICAT Suiteがビューアモードで起動します。このモードでは、患者ファイリングへの接続、患者ファイリングの作成ができず、患者データをインポート、編集、保存する機能が使用できません。そのため、SICAT Suiteホームボタンと新規データを見るボタンしかライセンスを有効にするウィンドウに表示されません。

フルバージョンライセンスはアクティブになっているが、SICAT Suiteで患者ファイリングが作成され、アクティブになっていない場合、患者ファイリングを作成することはできますが、患者データをインポート、編集、保存する機能は使用できません。そのため、SICAT Suiteホームボタンと新規データを見るボタンしか患者ファイリングを設定するウィンドウに表示されません。

フルバージョンライセンスがアクティブで、SICAT Suiteで患者ファイリングが作成され、アクティブになっている場合、**SICAT Suiteホーム** ウィンドウの**何がしたいですか？**エリアに次のボタンが表示されます。



- **開く** - これに関する情報は**患者ファイル** [[▶ ページ 77 - Standalone](#)]を参照してください。



- **新規データを追加する** - これに関する情報は**データインポート** [[▶ ページ 66 - Standalone](#)]を参照してください。



- **データを共有する** - これに関する情報は**データエクスポート** [[▶ ページ 209 - Standalone](#)]を参照してください。



- **カート** - これに関する情報は**注文プロセス** [[▶ ページ 213 - Standalone](#)]を参照してください。

- さらに、**最後の患者ファイル**エリアに、直近に開いた患者ファイルのリストが表示されます。これらの患者ファイルは、ダブルクリックすると開くことができます。



患者情報を匿名で表示するがアクティブになっている場合、**SICAT Suiteホーム**ウィンドウに**最後の患者ファイル**エリアが表示されます。

15 SICATのアプリケーションを相互に切り替える

SICATアプリケーションを相互に切り替えるには、次のように行います。



- ナビゲーションバーから、SICATのアプリケーションで、切替をご希望のものが表示されている方のボタンをクリックしてください。
- ▶ SICAT Suiteは、選択したアプリケーションに切り替わります。

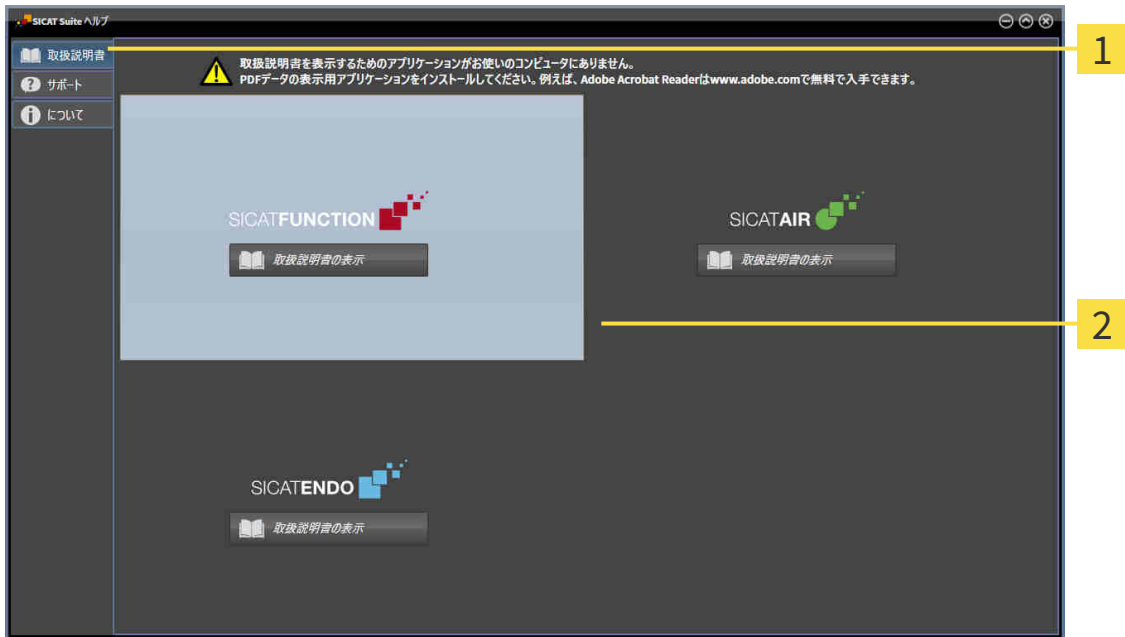
16 取扱説明書を開く

サポートウィンドウを経由することで、SICATアプリケーションの取扱説明書をPDFファイル形式で参照可能です。



サポートウィンドウは、ナビゲーションバーのサポートアイコンをクリックする、またはF1ボタンをクリックすることによって開くことができます。

サポートウィンドウは、以下に示す外観です。



1 タブ 取扱説明書

2 ウィンドウ 取扱説明書

希望するヘルプは、**取扱説明書を表示するボタン**をクリックして開くことができます。

17 ライセンス

SICAT Suiteはライセンスがアクティベート済みのSICATアプリケーションのみ表示します。



SICAT Suiteで機能 **新規データを追加する** または **新規データを見る** が有効なライセンスに基づき使用できる場合、以前エクスポートしたデータセットを有効なSICAT Functionライセンスなしで表示することができます。

以下の種類のライセンスがあります。

- ビューアライセンスがあればアプリケーションをビューアモードで無期限使用することができます。
- デモライセンスでは一つまたは複数のSICATアプリケーションのフルバージョンに期間限定でアクセスすることができます。
- フルバージョンライセンスでは一つまたは複数のSICATアプリケーションのフルバージョンに無期限でアクセスすることができます。

SICATアプリケーションまたは各機能を有効にするには以下の手順が必要となります。

- その場で販売担当者にご連絡ください。
- バウチャーコードを受け取ることができます。
- SICATポータルでバウチャーコードからライセンスキーが生成されます (SICATホームページからアクセス可能)。
- SICATがお客様のアクティベーションキーにライセンスキーを追加します。
- アクティベーションキーでSICATアプリケーションまたはSICAT Suiteをインストールしたコンピュータ上の各機能を有効化します。

以下はライセンスの有効化および無効化に適用されます。

- お客様が受け取るSICATアプリケーションのライセンスキーはお使いの国で許可されているものだけです。
- コンピューター上でアクティベーションキーを有効化すると、含まれているSICATアプリケーションの各ライセンスまたは機能がコンピューターに結合されます。使用したライセンスは、もう別のコンピューターでのアクティベーションに使用することはできません。
- ライセンスは、各SICATアプリケーションまたは各機能用に無効化することができます。ライセンスを返却すると、そのライセンスをあらためてアクティベーションできるコンピュータは、同一または別の違いを問いません。
- SICATアプリケーションのフルバージョンライセンスを返却した場合、お使いの国で許可されている限り、自動的にビューアライセンスを受け取ります。
- フルバージョンライセンスを有効化すると、自動的にお使いの国で許可されている全てのアプリケーション用のビューアライセンスを受け取ります。

バウチャーコードをアクティベーションキーと交換する方法は**バウチャーコードを使用する** [▶ ページ 56 - Standalone]をご覧ください。

お手元のコンピューターでアクティベーションが完了しているライセンスについては、**ライセンスの概要**のウィンドウで概要をご覧ください。デモライセンス使用時はSICAT Suiteは有効期限を表示します。これに関する情報は「**ライセンス一覧**」ウィンドウを開く [▶ ページ 49 - *Standalone*]を参照してください。

ライセンスは次の二通りの方法で有効にすることができます。

- SICAT Suiteが作動しているコンピューターがインターネットに接続されている場合、ライセンスのアクティベーションは自動で行うことができます。これに関する情報はインターネット接続を使用してライセンスを有効にする [▶ ページ 50 - *Standalone*]を参照してください。
- 希望に応じて、またはSICAT Suiteが作動しているコンピューターがインターネットに接続されていない場合、ライセンス要求ファイルを使用することにより、ライセンスのアクティベーションを手動で行うことができます。ライセンス要求ファイルをSICATのインターネットページにアップロードする必要があります。これで、ライセンスアクティベーションファイルを取得でき、これをSICAT Suiteで有効にしてください。これに関する情報はライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする [▶ ページ 52 - *Standalone*]を参照してください。

各アプリケーションまたは機能のライセンスを個別に無効にすることができます。ライセンスを無効にした後、同じ、または別のアクティベーションキーを入力することができます。返却されたライセンスは、同一または別のコンピューターでのアクティベーションに使用することができます。これに関する情報はライセンスをライセンスプールへ返却する [▶ ページ 54 - *Standalone*]を参照してください。

17.1 「ライセンス一覧」 ウィンドウを開く



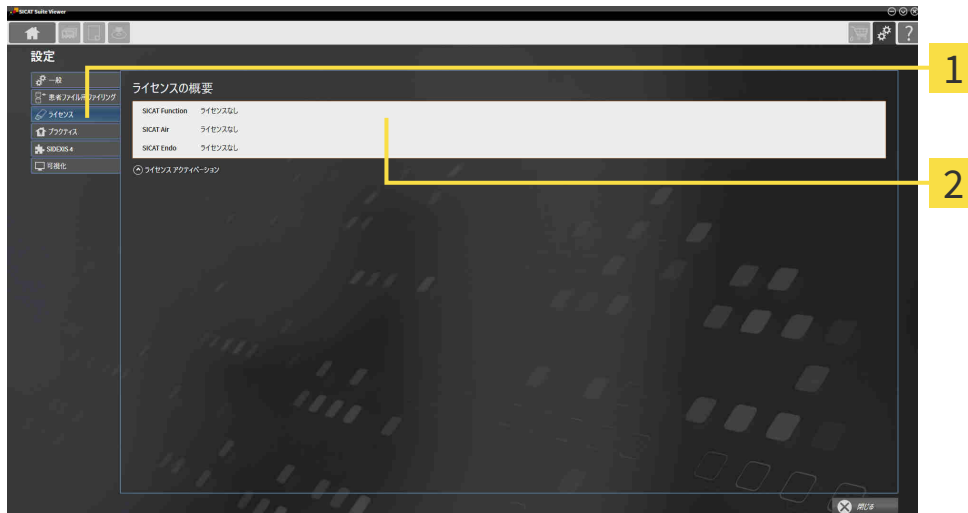
1. ナビゲーションバーで、**設定**のアイコンをクリックします。

▶ **設定**のウィンドウが開きます。



2. **ライセンス**タブをクリックします。

▶ **ライセンスの概要**のウィンドウが開きます。



1 タブ **ライセンス**

2 ウィンドウ **ライセンスの概要**

以下の操作を続行します：

- インターネット接続を使用してライセンスを有効にする [▶ ページ 50 - Standalone]
- ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする [▶ ページ 52 - Standalone]
- ライセンスをライセンスプールへ返却する [▶ ページ 54 - Standalone]

17.2 インターネット接続を使用してライセンスを有効にする

注記

患者ファイルが閉じている必要があります

ライセンスで変更を加えるときは、開いている患者ファイルを事前に閉じてください。

注記

カートが空になっている必要があります

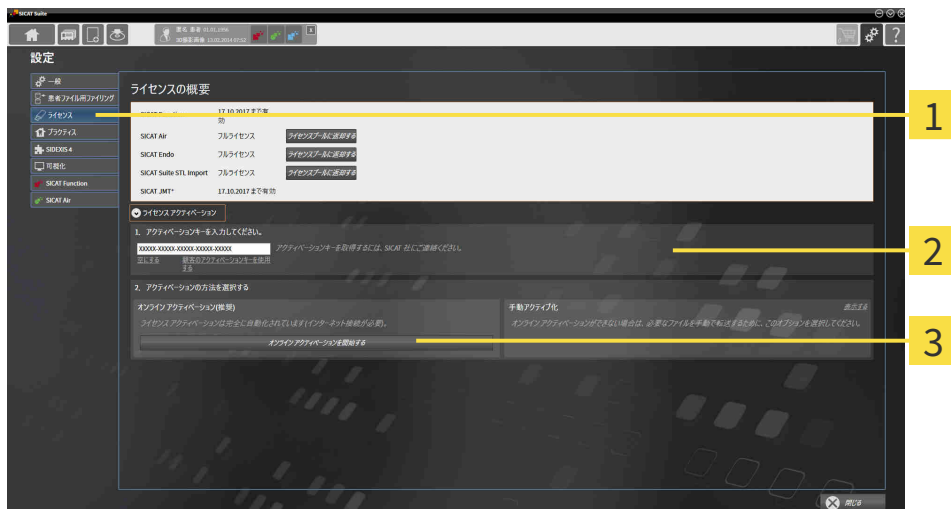
ライセンスの変更を可能にする前にカートを空にしておく必要があります。

アクティベーションの手順を開始するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 少なくとも一つのSICATアプリケーションまたは個々の機能に有効なライセンスが欠けています。
- ☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されています。
- ☑ **ライセンスの概要**ウィンドウはすでに開いています：これに関する情報は「**ライセンス一覧**」ウィンドウを開く [▶ ページ 49 - Standalone]を参照してください。

1. **ライセンスの概要**のウィンドウで、**ライセンス アクティベーション**のボタンをクリックします。

▶ **ライセンスの概要**エリアが開きます：



- 1 ボタン **ライセンス アクティベーション**
- 2 エリア
- 3 ボタン **オンライン アクティベーションを開始する**

2. 欄にアクティベーションキーを入力します。
3. **オンライン アクティベーションを開始する**のボタンをクリックします。

4. **Windows ファイヤーウォールのウィンドウが開いたら、SICAT Suiteをインターネットへ接続します。**
- ▶ 取得されてインストールされているアプリケーションまたは個々の機能のためのライセンスは、ライセンスプールから取り除かれ、使用中のコンピューター上のSICAT Suiteで有効になります。
- ▶ 通知ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。**ライセンスは正常に有効化されました。**



SICATアプリケーションのライセンスのアクティベーションをあらためて行うときは、エリアにあるボタン**顧客のアクティベーションキーを使用する**をクリックすると、アクティベーションキーが使用できるようになります。現時点のライセンスキーが入力されているボックスを空欄にするときは、ボタン**空にする**をクリックしてください。

17.3 ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする

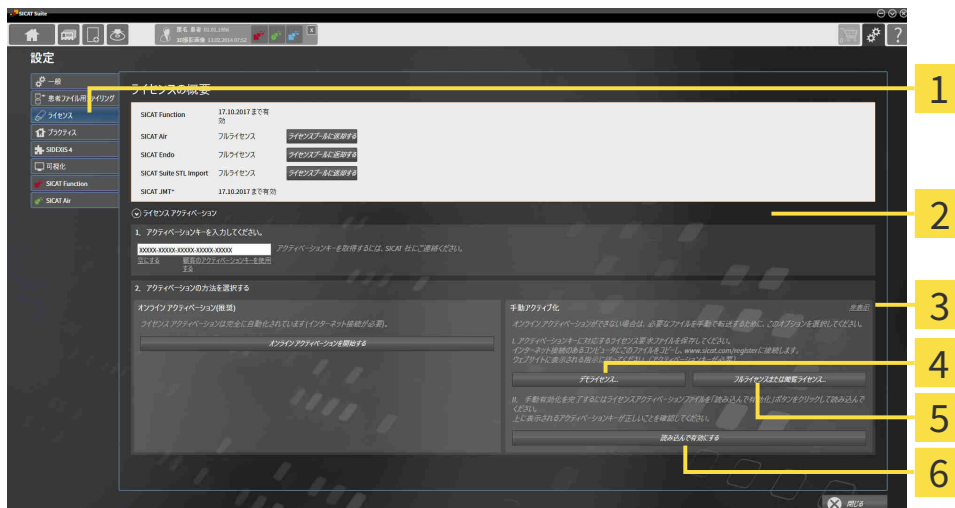
注記 患者ファイルが閉じている必要があります
ライセンスで変更を加えるときは、開いている患者ファイルを事前に閉じてください。

注記 カートが空になっている必要があります
ライセンスの変更を可能にする前にカートを空にしておく必要があります。

ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にするには、次のように行います。

- ☑ 少なくとも一つのSICATアプリケーションまたは個々の機能に有効なライセンスが欠けています。
- ☑ **ライセンスの概要**ウィンドウはすでに開いています：これに関する情報は「**ライセンス一覧**」ウィンドウを開く [▶ ページ 49 - Standalone]を参照してください。

1. **ライセンスの概要**ウィンドウの**ライセンス アクティベーション**をクリックします。
▶ **ライセンス アクティベーション**のコーナーがドロップダウンで展開します。
2. **手動アクティブ化エリア**の**表示する**をクリックします。
▶ **手動アクティブ化エリア**が開きます：



- 1 **ライセンス アクティベーション**
- 2 **エリア**
- 3 **表示する**
- 4 **ボタン デモライセンス**
- 5 **ボタン フルライセンスまたは閲覧ライセンス**
- 6 **ボタン 読み込んで有効にする**

3. フルライセンスのアクティベーションをご希望のときは、**フルライセンスまたは閲覧ライセンス**のボタンをクリックします。
4. デモライセンスのアクティベーションをご希望のときは、**デモライセンス**のボタンをクリックします。
 - ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。
5. ライセンス要求用のファイルを保存する目的で、お好みのフォルダを選択したら、**OK**をクリックします。
 - ▶ ファイル拡張子を**WibuCmRaC**として、ライセンス要求用のファイルが作成され、選択しておいたフォルダに保存されます。
6. USBスティックなどの補助ツールを使用して、インターネットに接続しているコンピューターにライセンス要求ファイルをコピーします。
7. インターネットに接続されたコンピューター上でウェブブラウザを開き、インターネットページ<http://www.sicat.com/register>を開きます。
8. インターネットのアクティベーションページに表示される指示に従ってください。
 - ▶ インストールしたアプリケーションや個別の機能のために取得してあるライセンスが、お持ちのライセンスプールからピックアップされます。
 - ▶ SICATのライセンスサーバーは、ファイル拡張子を**WibuCmRaU**として、ライセンスのアクティベーション用ファイルを作成しますので、このファイルをお手元のコンピューターへダウンロードしてください。
9. ダウンロードしたライセンスアクティベーションファイルをSICAT Suiteが作動しているコンピューターにコピーします。
10. アクティベーションキーが正確に入力されていることをチェックします。
11. **ライセンスの概要**のウィンドウで、**読み込んで有効にする**のボタンをクリックします。
 - ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。
12. ライセンスのアクティベーション用ファイルを探して見つかったら、そのファイルをハイライト表示にして、**OK**をクリックします。
 - ▶ ライセンスアクティベーションファイルのライセンスは、SICAT Suiteでは現在のコンピューターにインストールされます。
 - ▶ 通知ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。**ライセンスは正常に有効化されました。**

17.4 ライセンスをライセンスプールへ返却する

注記

患者ファイルが閉じている必要があります

ライセンスで変更を加えるときは、開いている患者ファイルを事前に閉じてください。

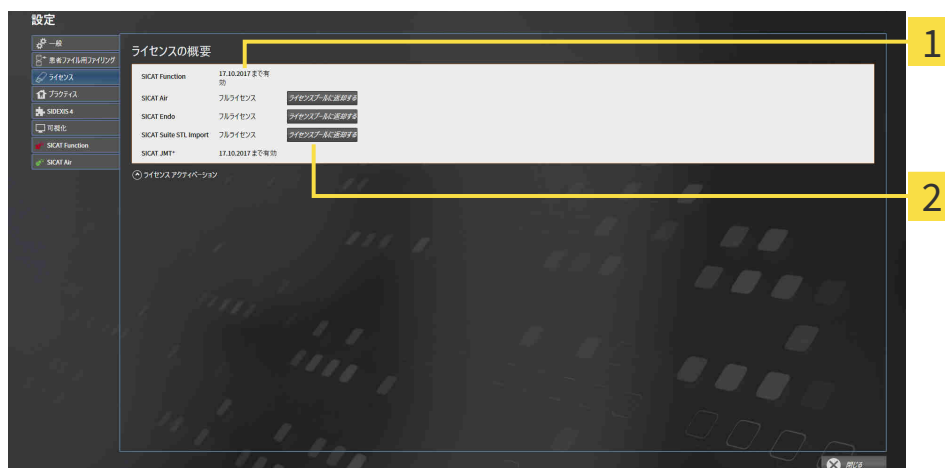
注記

カートが空になっている必要があります

ライセンスの変更を可能にする前にカートを空にしておく必要があります。

フルライセンスのアクティベーションを解除して、そのライセンスをライセンスプールに返却するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ SICATアプリケーションのフルライセンスはすでに有効になっています。
- ☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されています。
- ☑ **ライセンスの概要** ウィンドウはすでに開いています：これに関する情報は「**ライセンス一覧**」ウィンドウを開く [▶ ページ 49 - Standalone] を参照してください。



1 SICATアプリケーションおよび個々の機能のライセンスステータス

2 ボタン **ライセンスプールに返却する**

- **ライセンスの概要**のウィンドウから、SICATのアプリケーションで返却をご希望のものか、または、個別の機能の列にある**ライセンスプールに返却する**のボタンをクリックします。
- ▶ 選択したライセンスはライセンスプールに返却され、再びアクティベーションのために使用できる状態になります。
- ▶ 通知ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。**ライセンスは正常にライセンスプールに返却されました。**
- ▶ ライセンスがない場合、アプリケーションはビューアモードでしか使用できません。全てのSICATアプリケーションのライセンスがライセンスプールに返却されると、SICAT Suiteは完全にビューアモードになります。



インターネット接続のないコンピュータでライセンスを無効化したい場合はSICATサポートまでお問い合わせください。

17.5 バウチャーコードを使用する

1. インターネットに接続されたコンピューター上でウェブブラウザを開き、インターネットページ<http://www.sicat.com>を開きます。
2. SICATポータルへのリンクをクリックします。
 - ▶ SICATポータルが開きます。
3. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
4. アカウントマネジャーに、ご自分のライセンスを管理するためのアイテムがありますので、それをクリックします。
5. ご自分のバウチャーコードを入力し、コードを確認します。
 - ▶ SICATポータルがライセンスキーを生成し、ライセンスキーをお客様のアクティベーションキーに追加します。
6. SICAT Suiteを起動して、ライセンスのアクティベーションを行います。

これに関する情報はインターネット接続を使用してライセンスを有効にする [▶ ページ 50 - Standalone] と ライセンスを手動、またはアクティブなインターネット接続なしで有効にする [▶ ページ 52 - Standalone] を参照してください。



詳細なヘルプは、SICATのポータルページにFAQ（よくあるご質問）がありますので、そちらをご覧ください。

18 患者ファイリング

ヒューズ



注意

患者ファイリングのデータバックアップシステムが故障すると、患者データが完全に消失するおそれがあります。

定期的に全ての患者ファイリングのデータバックアップを取ってください。

患者ファイルフォルダーにある患者データにつきましては、ご自分自身の責任でバックアップファイルを作成してください。患者ファイルフォルダーの保存場所は、患者ファイル用ファイリングの各種設定で確認できます。患者ファイルフォルダーを患者ファイル用ファイリングのリストから削除してあるときは、適切なデータ保存媒体にその患者ファイルフォルダーが保存してあっても、SICAT Suiteでは、該当する患者ファイルフォルダーを表示しません。



患者データに加えて、SICATの各種アプリケーションのユーザー設定内容についても、バックアップ保存を行っておくのがよいでしょう。ユーザー設定内容は、各ユーザー別に2つのディレクトリに分割して保存されています。これら2つのディレクトリを開くときは、Windowsのエクスプローラで、アドレスバーに %appdata%\SICAT GmbH & Co. KGと %localappdata%\SICAT GmbH & Co. KG を入力してください。

データのセキュリティ



注意

SICATアプリケーションデータを信頼できないネットワークファイルシステムに保存すると、データの損失につながるおそれがあります。

ネットワーク管理者と共に、SICATアプリケーションデータを希望のネットワークファイルシステムに保存できるようにしてください。



注意

SICAT Suiteおよび付属のSICATアプリケーションを他の機器と一つのコンピューターネットワークまたはメモリーネットワーク内で供用すると、患者、ユーザー、その他の人に未知の危険が及ぶおそれがあります。

ネットワークに関連する危険を特定、分析、判断するため、各組織内で規則を作成してください。



ネットワーク環境を変更すると、新しい危険につながるおそれがあります。例えば、ネットワーク構成の変更、追加機器またはコンポーネントのネットワークへの接続、機器またはコンポーネントのネットワークからの分離、ネットワーク機器またはコンポーネントのアップデートまたはアップグレードなどです。

ネットワークを変更する度に、新たなネットワークリスク分析を実施してください。

一般的なお知らせ



患者ファイリングの管理機能は、SICAT Suiteでアプリケーションのライセンスがアクティブになっている場合のみ使用することができます。



SICAT Suiteのスタンドアロン版では、バージョンの更新にあたって、患者カルテフォルダの更新が必要です。新規バージョンの初回起動時や、更新前の患者ファイリングを開いた場合、SICAT Suiteでは、患者カルテフォルダの更新を希望するかどうかを尋ねてきます。尋ねるメッセージを確認したら、SICAT Suiteは、患者ファイルの更新を自動で行います。**注意！更新後の患者ファイルは、SICAT Suiteの旧バージョンで使用することができなくなります。**

SICAT Suiteは患者データを次のように管理します。

- 一人の患者の全3D撮影画像と付属する全ての計画プロジェクトが患者ファイルに整理されています。
- 患者ファイルが患者ファイリングに保存されます。
- 患者ファイリングはローカルファイルシステムまたはネットワークファイルシステム上のフォルダに保存されます。

SICAT Suiteをフルバージョンで作動させるには、少なくとも一つの患者ファイリングが必要です。複数の患者ファイリングを管理することができます。ただし、ある時点で同時にアクティブにできる患者ファイリングは、常に一つだけです。ローカルファイルシステムでもネットワークファイルシステムでも、患者ファイリングに同時にアクセスできるSICAT Suiteは一つだけです。使用中の患者ファイリングの患者ファイルのみ編集および保存することができます。



ネットワークファイルシステム上の患者ファイリングには、特定の最小帯域幅のネットワーク接続が必要です。システムの要件に関する内容は、システム要件 [▶ ページ 9 - Standalone]の節をご覧ください。

患者ファイリングを管理するために使用できる操作：

- 「患者ファイリング」 ウィンドウを開く [▶ ページ 60 - Standalone]
- 患者ファイリングを追加する [▶ ページ 61 - Standalone]
- 別の患者ファイリングをアクティブにする [▶ ページ 63 - Standalone]
- 患者ファイリングを除去する [▶ ページ 65 - Standalone]

18.1 「患者ファイリング」ウィンドウを開く

患者ファイル用ファイリング ウィンドウを開くには、次の手順で行います。



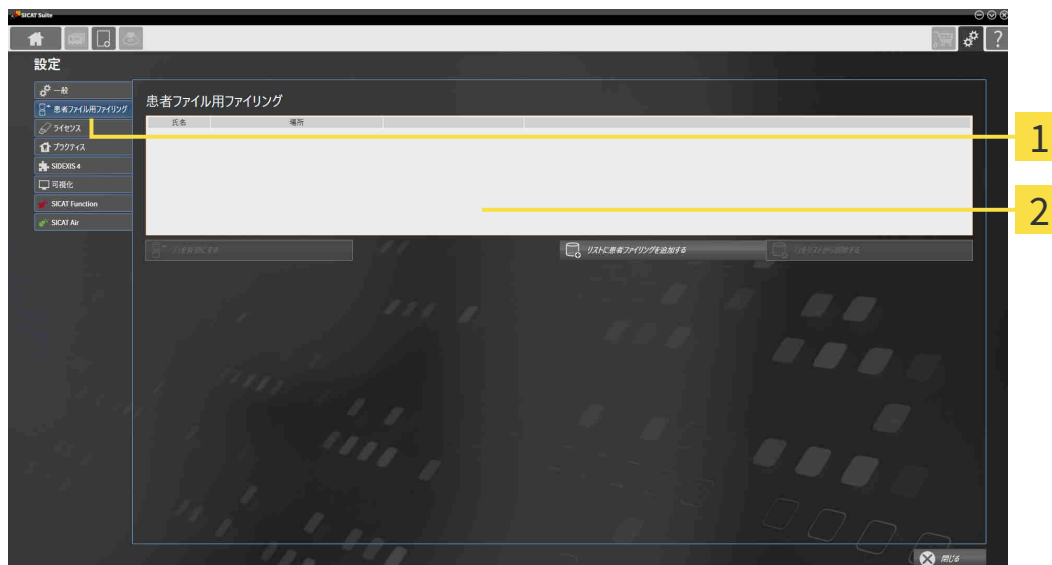
1. ナビゲーションバーで、設定のアイコンをクリックします。

▶ 設定のウィンドウが開きます。



2. 患者ファイル用ファイリングタブをクリックします。

▶ 患者ファイル用ファイリングのウィンドウが開きます。



1 タブ 患者ファイル用ファイリング

2 ウィンドウ 患者ファイル用ファイリング

以下の操作を続行します：

- 患者ファイリングを追加する [▶ ページ 61 - Standalone]
- 別の患者ファイリングをアクティブにする [▶ ページ 63 - Standalone]
- 患者ファイリングを除去する [▶ ページ 65 - Standalone]

18.2 患者ファイリングを追加する



注意

患者ファイリングのデータバックアップシステムが故障すると、患者データが完全に消失するおそれがあります。

定期的に全ての患者ファイリングのデータバックアップを取ってください。



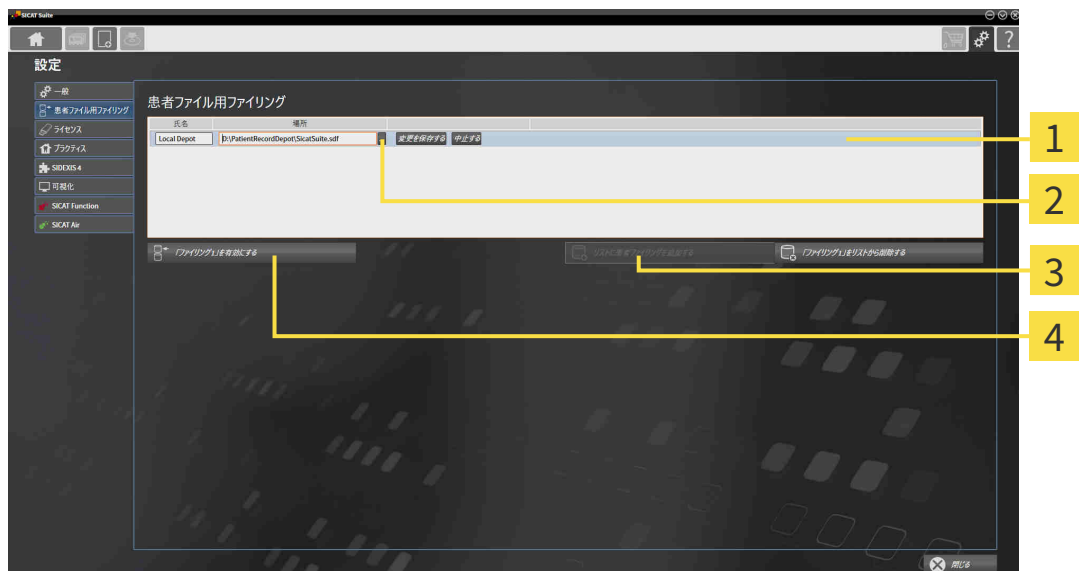
SICAT Suiteは、患者ファイリングをファイルシステムに保存します。患者ファイリングは、各フォルダに一つしか保存できません。そのため、新しい患者ファイリングを保存するフォルダは空でなくてはなりません。



以下の条件に該当する場合、SICAT Suiteは既存の患者ファイリングを追加します。選択したフォルダには、すでに一つの患者ファイリングが入っていますが、患者ファイリングのリストには記載されていません。

新しい患者ファイリングを作成、または既存の患者ファイリングを追加するには、次の手順で行います。

- ☑ **患者ファイル用ファイリング** のウィンドウを開いておきます。この表示に関する内容は、「患者ファイリング」ウィンドウを開く [▶ ページ 60 - Standalone]の節をご覧ください。



1 新しい患者ファイリングの行

2 ボタン **検索する**

3 ボタン **リストに患者ファイリングを追加する**

4 選択した患者ファイリングをアクティブにするボタン



1. **患者ファイル用ファイリング** のウィンドウで、**リストに患者ファイリングを追加する**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは、**患者ファイル用ファイリング**のリストに新しい患者ファイリングのために新しい行を追加します。
2. 新しい患者ファイリングの行にある**検索する**ボタンをクリックします。

- ▶ **検索する** のウィンドウが開きます。
- 3. **検索する** ウィンドウで任意のフォルダを選択し、**OK**をクリックします。
 - ▶ **検索する** ウィンドウは閉じ、SICAT Suiteは任意のフォルダへのパスを新しい患者ファイリングの行に追加します。
- 4. 新しい患者ファイリングの行にある**氏名**欄をクリックし、新しい患者ファイリングに対して覚えやすい名前を入力します。
- 5. 新しい患者ファイリングがなおも選択されている場合は、**変更を保存する**をクリックします。
 - ▶ 患者ファイルがアクティブになっている場合、確認メッセージが表示されます。
- 6. 確認メッセージにある**患者ファイリングを変更する(患者ファイルが閉じます)**ボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは新しい患者ファイリングをアクティブにします。これに付属する行の書式は太字に変わります。
 - ▶ SICAT Suiteは、それまでアクティブになっていた患者ファイリングを無効にします。これに付属する行の書式は標準に変わります。



中止するをクリックして、患者ファイリングの追加を中断することができます。



作成した患者ファイリングは、各フォルダ内に一つのSDFファイルであることから識別することができます。

18.3 別の患者ファイリングをアクティブにする

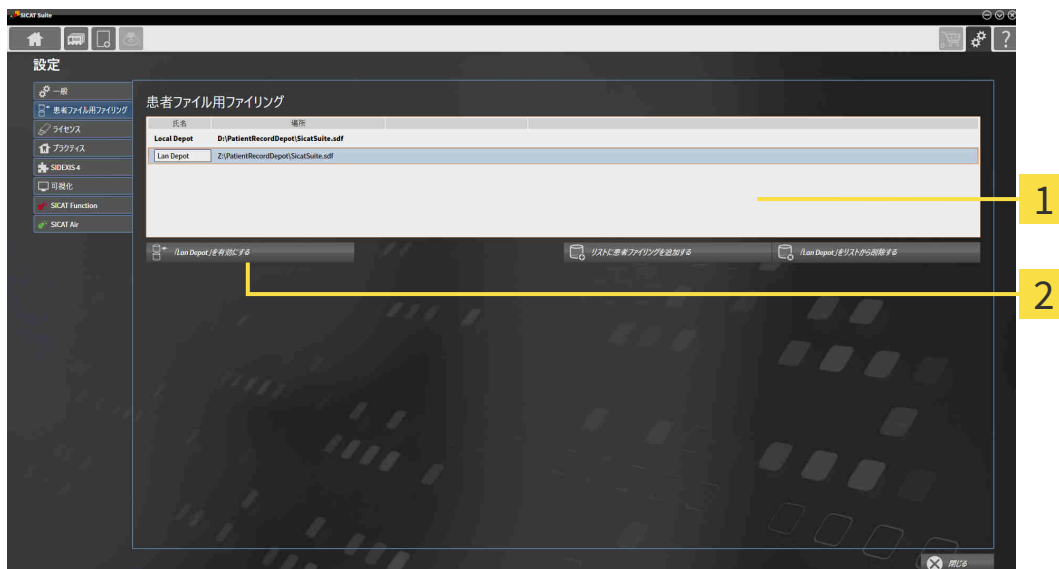
アクティブな患者ファイリングの変更は、次のようなケースに役立つことがあります。



- 施設のネットワークファイルシステム上にある患者ファイリングとノートPC上の患者ファイリング間で切り替えたいとします。
- 別の患者ファイリングに匿名で保存されている患者データを、例えば、研修などの目的で公開したいとします。

別の患者ファイルフォルダを開くときは、次の手順で行います。

- ☑ アクティブになっている患者ファイルはありません。患者ファイルがアクティブになっている場合、SICAT Suiteによって自動的に閉じられます。
- ☑ アクティブにしたい患者ファイリングは、別のコンピューターのSICAT Suiteで開かれていません。
- ☑ **患者ファイル用ファイリングウィンドウはすでに開いています**：これに関する情報は「患者ファイリング」ウィンドウを開く [▶ ページ 60 - Standalone] を参照してください。



1 リスト 患者ファイル用ファイリング

2 選択した患者ファイリングをアクティブにするボタン

1. 患者ファイル用ファイリングウィンドウで患者ファイル用ファイリングのリストから希望の患者ファイリングをクリックします。



2. 選択した患者ファイリングをアクティブにするボタンをクリックします。

▶ 患者ファイルがアクティブになっている場合、確認メッセージが表示されます。

3. 確認メッセージにある**患者ファイリングを変更する(患者ファイルが閉じます)**ボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteは選択した患者ファイリングをアクティブにします。



SICAT Suiteのスタンドアロン版では、バージョンの更新にあたって、患者カルテフォルダの更新が必要です。新規バージョンの初回起動時や、更新前の患者ファイリングを開いた場合、SICAT Suiteでは、患者カルテフォルダの更新を希望するかどうかを尋ねてきます。尋ねるメッセージを確認したら、SICAT Suiteは、患者ファイルの更新を自動で行います。**注意！更新後の患者ファイルは、SICAT Suiteの旧バージョンで使用することができなくなります。**

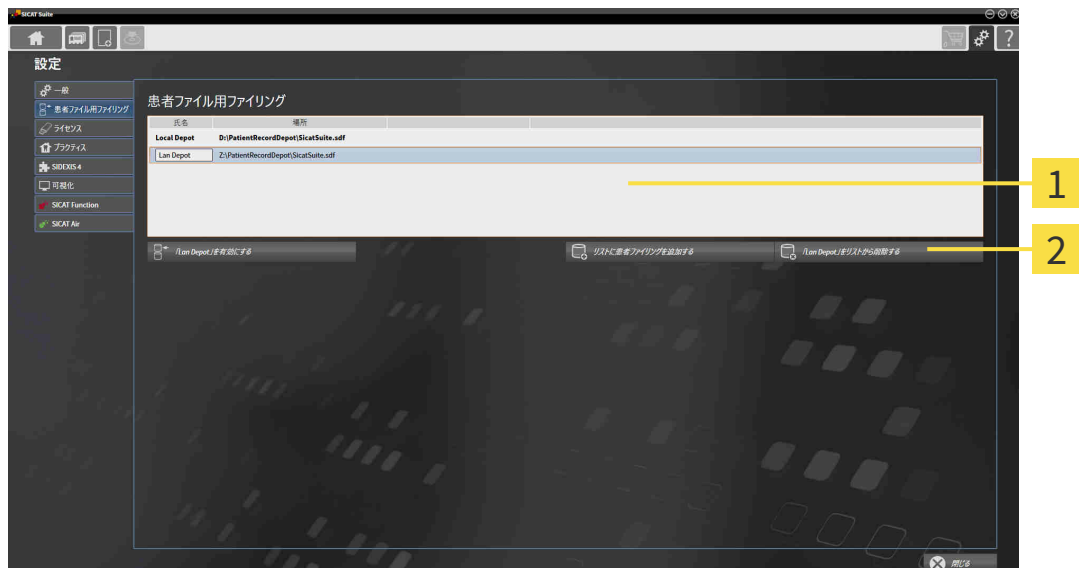
18.4 患者ファイリングを除去する



SICAT Suiteは患者ファイリングを**患者ファイル用ファイリング**のリストから除去するだけです。患者ファイリングをファイルシステムから削除することはありません。**患者ファイル用ファイリング**のリストから除去された既存の患者ファイリングは、改めて追加することができます。この表示に関する内容は、**患者ファイリングを追加する** [▶ ページ 61 - Standalone]の節をご覧ください。

患者ファイリングを**患者ファイル用ファイリング**のリストから除去するには、次のように行います。

- ☑ 開いている患者ファイルはありません。
- ☑ **患者ファイル用ファイリング**のウィンドウを開いておきます。この表示に関する内容は、「**患者ファイリング**」ウィンドウを開く [▶ ページ 60 - Standalone]の節をご覧ください。



1 のリスト **患者ファイル用ファイリング**

2 選択した患者ファイリングを除去するボタン

1. **患者ファイル用ファイリング**ウィンドウで**患者ファイル用ファイリング**のリストから希望の患者ファイリングをクリックします。



2. 選択した患者ファイリングを除去するボタンをクリックします。

- ▶ SICAT Suiteは選択した患者ファイリングを**患者ファイル用ファイリング**のリストから除去します。

19 データインポート



注意

不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。



注意

オリジナルデータを削除すると、データを消失するおそれがあります。

インポートした後にオリジナルデータを削除しないでください。



データインポートは、ライセンスがアクティブで、患者ファイリングが作成され、アクティブになっている場合のみ実行可能です。ライセンスまたは患者ファイリングがない場合は、ビューアモードでしかデータを開くことができません。ビューアモードに関する内容は、[データを書き込み禁止で開く](#) [▶ ページ 244 - Standalone]の節をご覧ください。

SICAT Suiteは、以下のデータフォーマットの3D X線撮影画像をインポートすることができます。

- SICAT Suite DICOMデータ
- 3D X線撮影画像（DICOM形式、DICOMに関する内容は、[対応しているDICOMフォーマット](#) [▶ ページ 69 - Standalone]の節をご覧ください）
- SICATインプラントデータ
- SICATドリルテンプレート注文データ
- GALILEOS Wrap&Goデータ

次の二つの設定で、SICAT Suite 3D X線撮影画像を使用中の患者ファイリングにインポートする方法を規定します。

- インポート設定は、SICAT Suiteが3D X線撮影画像をインポートするか、インポートしないか、既存の3D X線撮影画像に上書きするか、コピーを作成するか規定します。
- 割り当て設定は、SICAT Suiteがインポートした3D X線撮影画像を割り当てる患者ファイルを規定します。

1件のデータセットに、SICATのアプリケーションで作成した3D治療計画スタディが複数、含まれているときは、SICAT Suiteでは、3D治療計画スタディを、それら含まれる3D X線撮影画像と併せてインポートを行います。

3D X線撮影画像のインポートに適用する設定内容

アクティブな患者ファイリングに患者ファイルが含まれている場合、3D X線撮影画像用に異なるインポート設定を選択することができます。使用可能なインポート設定は、インポートするデータのIDがアクティブな患者ファイリング内の患者ファイルのIDと一致するかどうかによって異なります。

各3D X線撮影画像に対して、それぞれインポート設定を選択することができます。

データタイプ	IDが一致する	IDが一致しない	常に使用可能
SICAT Suite DICOMデータ SICATインプラントデータ SICATドリルテンプレート注文データ	既存に上書きする – SICAT Suiteは3D X線撮影画像をインポートし、同じIDを持つ既存のデータセットに上書きします。	追加する – SICAT Suiteは3D X線撮影画像を新規データセットとしてインポートします。	追加しないでください – SICAT Suiteは3D X線撮影画像をインポートしません。
第三者のDICOMデータ Galileos Wrap&Goデータ	さらに追加する – SICAT Suiteは3D X線撮影画像を既存のデータセットのコピーとしてインポートします。	追加する – SICAT Suiteは3D X線撮影画像を新規データセットとしてインポートします。	追加しないでください – SICAT Suiteは3D X線撮影画像をインポートしません。

患者ファイル割り当て用の特性比較

SICAT Suiteはインポートするデータの様々な特性を分析します。特性の種類：

- 姓
- 名
- 誕生日
- 患者ID、社会保険番号、施設の内部患者IDなど

患者ファイル割り当て用の設定

次のリストは、SICAT Suiteが特性比較に基づいて提案するインポートオプションを示しています。

- インポートするデータの全特性がアクティブな患者ファイリングにある患者ファイルの特性と一致しています。SICAT Suiteは**既存の患者ファイルに追加する**および対応する患者ファイルを提案します。
- インポートするデータの特性の一部がアクティブな患者ファイリングにある患者ファイルの特性と一致しています。SICAT Suiteは**新規患者ファイルを作成する**を提案します。

どちらの場合も、データを手動で別の患者ファイルに割り当てることができます。

データをインポートするには、次の操作を規定の手順で実行します。

- インポートするデータを選択する [[▶ ページ 70 - Standalone](#)]
- インポートオプションの選択 [[▶ ページ 72 - Standalone](#)]
- 既存の患者ファイルにデータを割り当てる [[▶ ページ 74 - Standalone](#)]

あるいは

- データインポートによる新しい患者ファイルの作成 [[▶ ページ 73 - Standalone](#)]

19.1 対応しているDICOMフォーマット

DICOMデータセットをインポートする場合、SICAT Suiteは次の基準を満たしているデータセットに対応しています。

- データセットのフォーマットがDICOM 3.0である。
- データセットにパラレルレイヤーしか含まれない。
- データセットが圧縮されていない、JPEG形式またはJPEG 2000形式で圧縮されている。
- データセットが次のリストの対応しているタイプのいずれかと一致する。

対応しているデータセットタイプ：

- CT画像
- デジタルX線画像
- デジタル口内X線画像
- X線3D頭蓋顔面画像
- セカンダリーキャプチャー画像（グレースケール）（モダリティCT用のみ）
- マルチフレームグレースケールワードセカンダリーキャプチャー画像（モダリティCT用のみ）

その他の基準については、DICOM適合性宣言を参照してください。この宣言書は、ご要望に応じてSICATからご提供させていただきます。お問い合わせ先が必要のときは、裏面をご覧ください。

19.2 インポートするデータを選択する



不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。



DICOMに適合していないX線機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

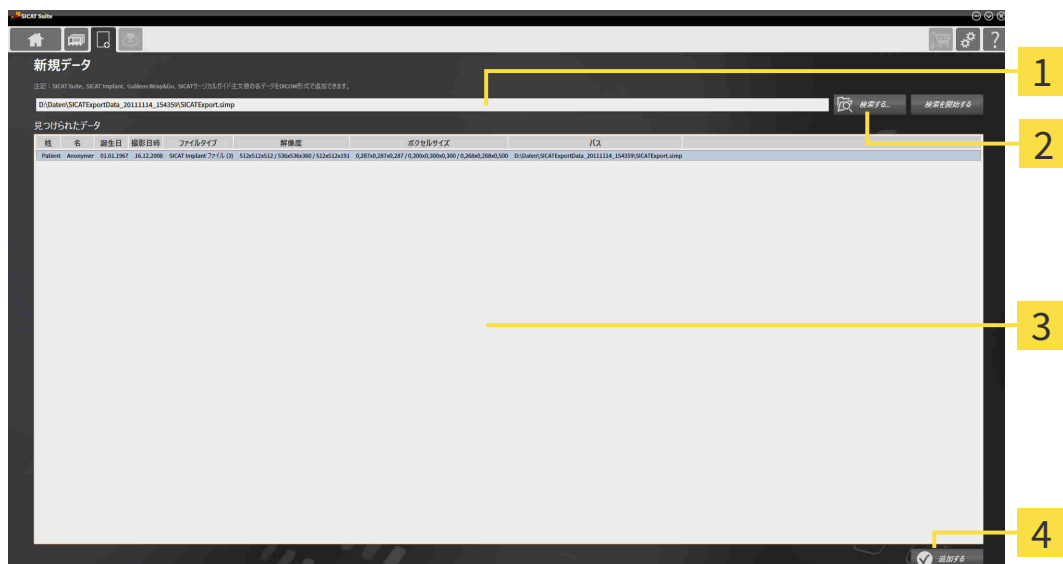
利用する3D X線撮影画像は、DICOM規格に適合することが証明されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。

アクティブな患者ファイリングのデータをインポートするには、次の手順で行います。



1. ナビゲーションバーで、**新規データ**のアイコンをクリックします。

▶ **新規データ**のウィンドウが開きます。



1 欄 データはどこにあるのですか？

3 のリスト 見つめられたデータ

2 ボタン 検索する

4 ボタン 追加する



2. **検索する**のボタンをクリックします。

▶ **ファイルまたはディレクトリを選択する**のウィンドウが開きます。

3. **ファイルまたはディレクトリを選択する** ウィンドウで任意のファイルまたはフォルダを選択し、**OK**をクリックします。
- ▶ SICAT Suiteは**ファイルまたはディレクトリを選択する**のウィンドウが閉じ、ファイルかフォルダで選択したもののパスを**データはどこにあるのですか？**欄に転記します。
 - ▶ SICAT Suiteは、検索したフォルダのいずれかに含まれている互換性のあるファイルを見つけられたデータリストにファイルの内容を表示します。
 - ▶ フォルダを選択した場合、SICAT Suiteはそのフォルダおよび全てのサブフォルダを検索します。SICAT Suiteは、検索したフォルダのいずれかに含まれている互換性のあるファイルを見つけられたデータリストに表示します。



SICAT Suiteにデータをインポートする際に、ドラッグ&ドロップを利用することもできます。



説明されている手順を利用する場合、検索は自動で開始します。検索は、**検索を停止する**ボタンをクリックして中断することができます。ファイルまたはフォルダへのパスを手動で**データはどこにあるのですか？**欄に入力する場合、**検索を開始する**ボタンをクリックします。フォルダの内容が変わった、または誤って検索を終了した場合、検索を新たに開始するには、これが役に立つこともあります。



互換性があるにもかかわらず、SICAT Suiteが特定のファイルを検出しない場合、そのファイルへのパスが長過ぎることが原因の可能性があります。それらのファイルをファイルシステムの一つ上の階層にコピーし、改めて検索を開始してください。

以降の操作は、**インポートオプションの選択** [▶ ページ 72 - Standalone]の節に沿って、進めてください。

19.3 インポートオプションの選択

各スタディのインポートオプションを選択するには、次の手順で行います。



1. 見つめられたデータリストから希望のスタディを選択し、**追加する**ボタンをクリックします。

▶ **追加する** のウィンドウが開きます。



1 列 アクション

2. **追加する** ウィンドウで**アクション**列から各スタディ用に以下のエントリを選択します。**追加しない**、**さらに追加する**、**追加する** または **既存に上書きする**。オプションに関する詳細な説明は、**データインポート** [▶ ページ 66 - Standalone]の節をご覧ください。

▶ これらをインポートするかどうかについては、全てのスタディに対して個別に設定します。

以下の操作を続行します：

- **既存の患者ファイルにデータを割り当てる** [▶ ページ 74 - Standalone]
- **データインポートによる新しい患者ファイルの作成** [▶ ページ 73 - Standalone]

19.4 データインポートによる新しい患者ファイルの作成



アクティブな患者ファイリングに同じ特性の組み合わせを持つ患者ファイルがない場合、データインポートによって新しい患者ファイルを作成することができます。



1 オプション **新規患者ファイルを作成する**

2 ボタン **続行する**

インポートするデータを新しい患者ファイルに割り当てるには、次の手順で行います。

- **患者リストへの割り当てエリアで新規患者ファイルを作成するオプションを選択し、続行するボタンをクリックします。**
- ▶ SICAT Suiteは、選択したデータの特性を持つ新しい患者ファイルを作成します。
- ▶ SICAT Suiteは、選択したデータをインポートし、これらを新しい患者ファイルに割り当てます。
- ▶ **患者ファイルの概要**ウインドウが開き、SICAT Suiteでインポートされた患者ファイルが**患者ファイルリスト**内で強調されます。この表示に関する内容は、**患者ファイル** [▶ ページ 77 - Standalone]の節をご覧ください。

19.5 既存の患者ファイルにデータを割り当てる



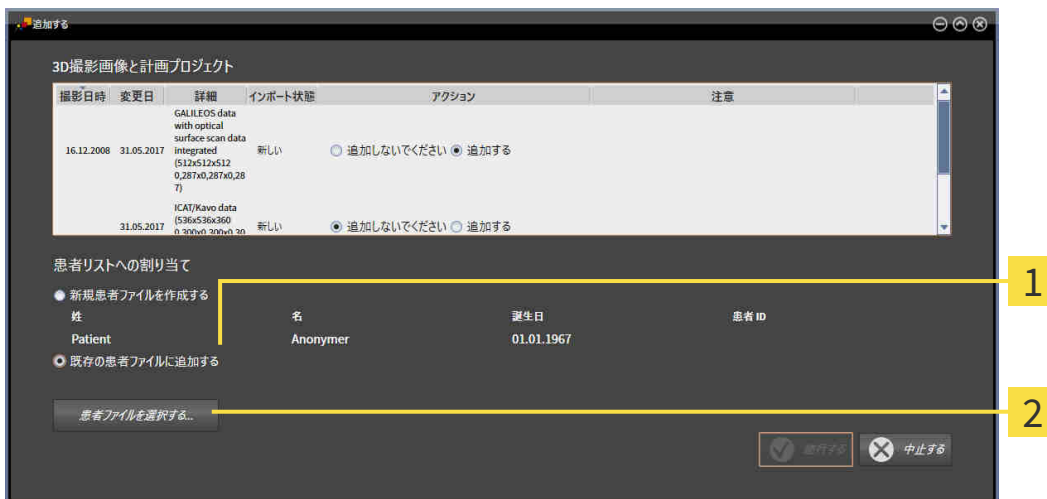
注意

患者名や3D X線撮影画像の突き合わせでミスがあると、結果として、患者を撮影した画像の取り違えを招くことになりかねません。

3D X線撮影ビューで、インポートしようとしているものや、すでにSICATのアプリケーションに読み込みのものがあれば、突き合わせる先の患者名が正しいこと、突き合わせる撮影画像に関する情報が正しいことをいずれもチェックしてください。



次の条件に該当する場合、SICAT Suiteは**既存の患者ファイルに追加する**オプションを付属の患者ファイルによって自動的に選択します：インポートするデータの全特性がアクティブな患者ファイリングにある患者ファイルの特性と一致しています。



1 オプション **既存の患者ファイルに追加する**

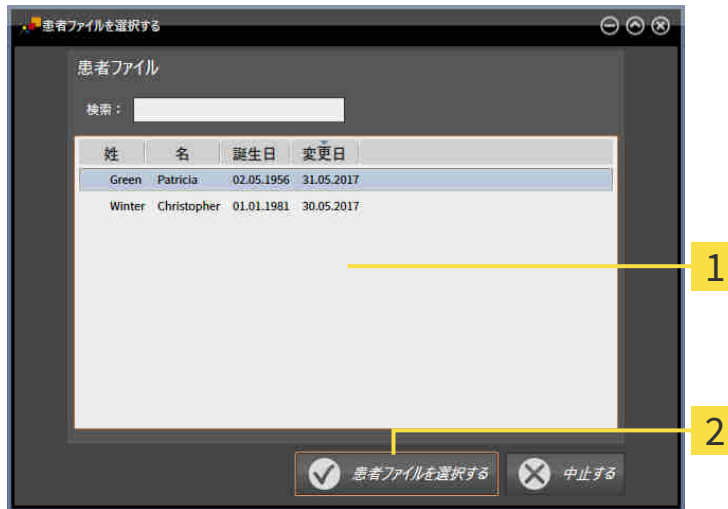
2 ボタン **患者ファイルを選択する**

インポートするデータを既存の患者ファイルに手動で割り当てるには、次の手順で行います。

☑ アクティブな患者ファイリングには、最低一つの患者ファイルが含まれます。

1. 患者リストへの割り当てエリアで**既存の患者ファイルに追加する**オプションを選択し、**患者ファイルを選択する**ボタンをクリックします。

- ▶ **患者ファイルを選択する**のウィンドウが開き、既存の患者ファイルのリストが表示されます。



1 のリスト 患者ファイル

2 ボタン 患者ファイルを選択する

2. 希望する患者ファイルをクリックし、**患者ファイルを選択する**のボタンをクリックします。

- ▶ **患者ファイルを選択する**のウィンドウが閉じます。
- ▶ **追加する**のウィンドウに選択した患者ファイルの特性が表示されます。

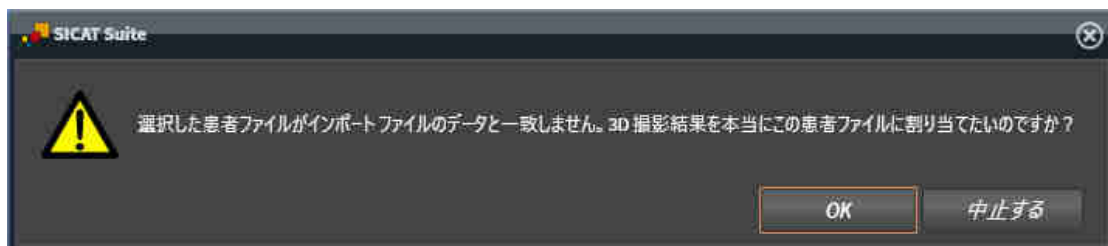


1 選択した患者ファイルの特性

2 ボタン 続行する

3. **追加する**のウィンドウで、**続行する**のボタンをクリックします。

- インポートするデータの特性が選択した患者ファイルの特性と一致しない場合、次の警告メッセージが表示されます。



- それでもデータをインポートする場合、**OK**をクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは、選択したデータをインポートし、これらを既存の患者ファイルに割り当てます。
 - ▶ **患者ファイルの概要**ウインドウが開き、SICAT Suiteでインポートされた患者ファイルが**患者ファイルリスト**内で強調されます。この表示に関する内容は、**患者ファイル** [▶ ページ 77 - Standalone]の節をご覧ください。

20 患者ファイル

患者ファイルには複数の3Dスタディが含まれる可能性があります。スタディは3D X線撮影画像と付属の計画プロジェクトで構成されています。さらに、患者ファイルには計画中に作成された文書が含まれる場合があります。

患者ファイルを管理するために使用できる操作：

- 「患者ファイル概要」 ウィンドウを開く [▶ ページ 78 - Standalone]
- 患者ファイリング内での患者ファイルの検索および並べ替え [▶ ページ 79 - Standalone]
- 患者ファイルをアクティブにする [▶ ページ 81 - Standalone]
- 患者ファイル概要から3D X線撮影画像または計画プロジェクトを開く [▶ ページ 85 - Standalone]
- アクティブな患者ファイルを使用した作業 [▶ ページ 82 - Standalone]
- 患者ファイルの特性を変更する [▶ ページ 84 - Standalone]
- 患者ファイリングからの患者ファイルの削除 [▶ ページ 91 - Standalone]
- 患者ファイルからの3D X線撮影画像または計画プロジェクトの削除 [▶ ページ 93 - Standalone]

さらに、患者ファイルへのデータのインポートおよび患者ファイルからのデータのエクスポートを行うことができます。

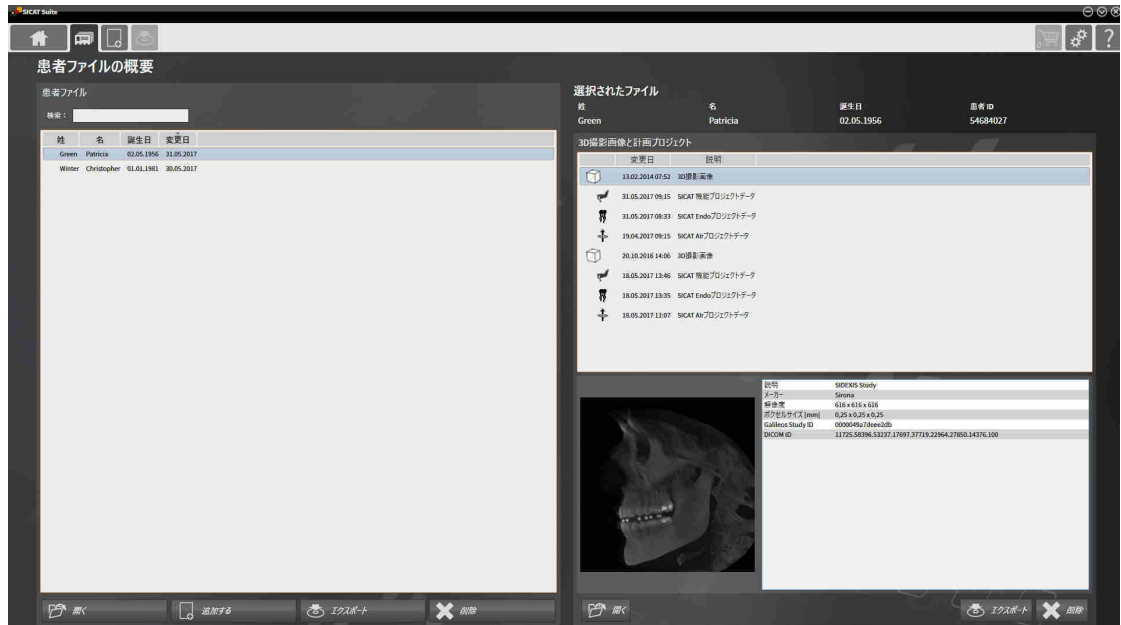
- データインポート [▶ ページ 66 - Standalone]
- データエクスポート [▶ ページ 209 - Standalone]

20.1 「患者ファイル概要」ウィンドウを開く

患者ファイルの概要ウィンドウを開くには、次の手順で行います。



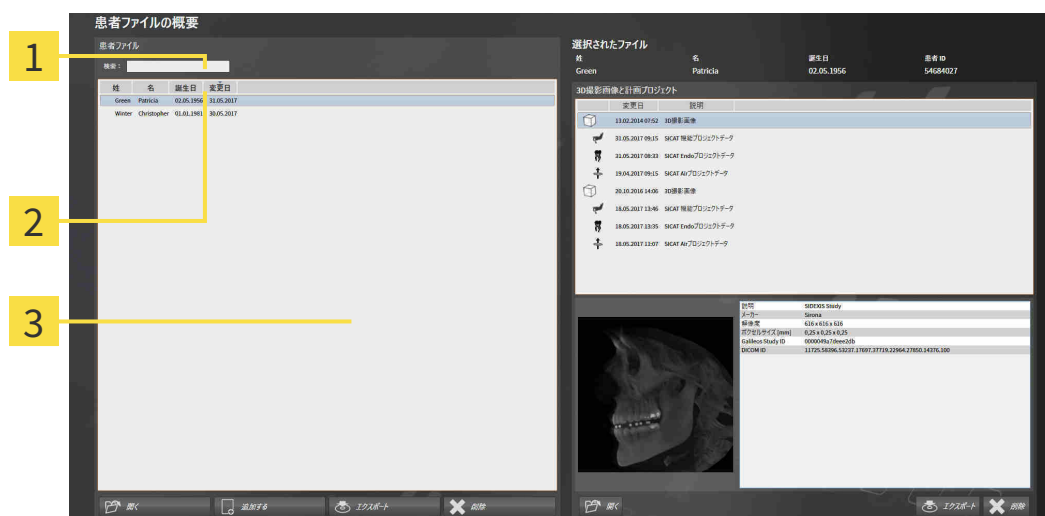
- ナビゲーションバーで、患者ファイルのアイコンをクリックします。
- ▶ 患者ファイルの概要のウィンドウが開きます。



以下の操作を続行します：

- 患者ファイリング内での患者ファイルの検索および並べ替え [▶ ページ 79 - Standalone]
- 患者ファイルをアクティブにする [▶ ページ 81 - Standalone]
- 患者ファイル概要から3D X線撮影画像または計画プロジェクトを開く [▶ ページ 85 - Standalone]
- アクティブな患者ファイルを使用した作業 [▶ ページ 82 - Standalone]
- 患者ファイルの特性を変更する [▶ ページ 84 - Standalone]
- 患者ファイリングからの患者ファイルの削除 [▶ ページ 91 - Standalone]
- 患者ファイルからの3D X線撮影画像または計画プロジェクトの削除 [▶ ページ 93 - Standalone]

20.2 患者ファイリング内での患者ファイルの検索および並び替え



- 1 欄 検索：
- 2 列のタイトル（特性を含む）
- 3 のリスト 患者ファイル

患者ファイルの検索

SICAT Suiteは、入力した検索テキストに従って全ての患者ファイルの特性を検索します。

患者ファイルを検索するには、次のように行います。

- ☑ **患者ファイルの概要** のウィンドウを開いておきます。この表示に関する内容は、「患者ファイル概要」ウィンドウを開く [▶ ページ 78 - Standalone]の節をご覧ください。
 - **検索：** 欄に希望の検索テキストを入力します。
 - ▶ **患者ファイルリスト**に、入力した検索テキストが特性に含まれる全患者ファイルが表示されます。

SICAT Suiteは、入力を始めると直ちに検索を開始します。

特性に基づく患者ファイルの並べ替え

以下の特性に基づいて、患者ファイルを並べ替えることができます。

- 姓
- 名
- 誕生日
- 変更日

患者ファイルを特性に基づいて並べ替えるには、次のように行います。

- ☑ **患者ファイルの概要** のウィンドウを開いておきます。この表示に関する内容は、「患者ファイル概要」ウィンドウを開く [▶ ページ 78 - Standalone] の節をご覧ください。



1. **患者ファイルリスト**で希望の特性の列のタイトルをクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは、**患者ファイルリスト**を希望の特性で順番に並べ替えます。
2. **患者ファイルリスト**で希望の特性の列のタイトルをもう一度クリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは、**患者ファイルリスト**を希望の特性で逆の順序に並べ替えます。

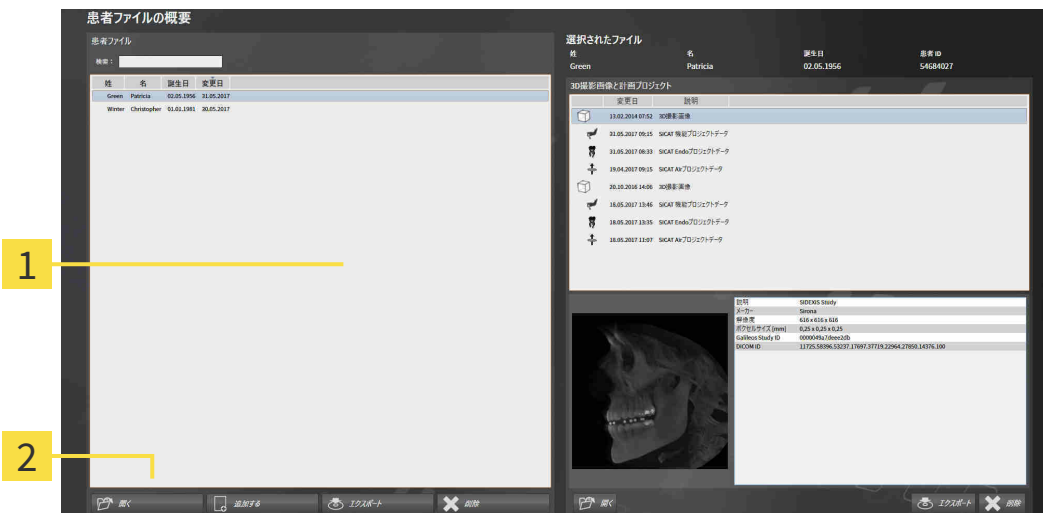


通常、患者ファイルは変更日の降順に並べ替えられています。

20.3 患者ファイルをアクティブにする

患者ファイルを使用して作業するために、これを次のようにアクティブにします。

- ☑ **患者ファイルの概要** のウィンドウを開いておきます。この表示に関する内容は、「**患者ファイル概要**」ウィンドウを開く [▶ ページ 78 - Standalone] の節をご覧ください。



1 のリスト **患者ファイル**

2 選択した患者ファイルをアクティブにするボタン

1. **患者ファイル**リストから希望の患者ファイルを選択します。
2. 選択した患者ファイルをアクティブにするボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteは選択した患者ファイルをアクティブにします。

以降の操作は、**アクティブな患者ファイルを使用した作業** [▶ ページ 82 - Standalone]の節に沿って、行ってください。

20.4 アクティブな患者ファイルを使用した作業



注意

削除した患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトは元に戻すことができません。

患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトの削除は、これらのデータが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。



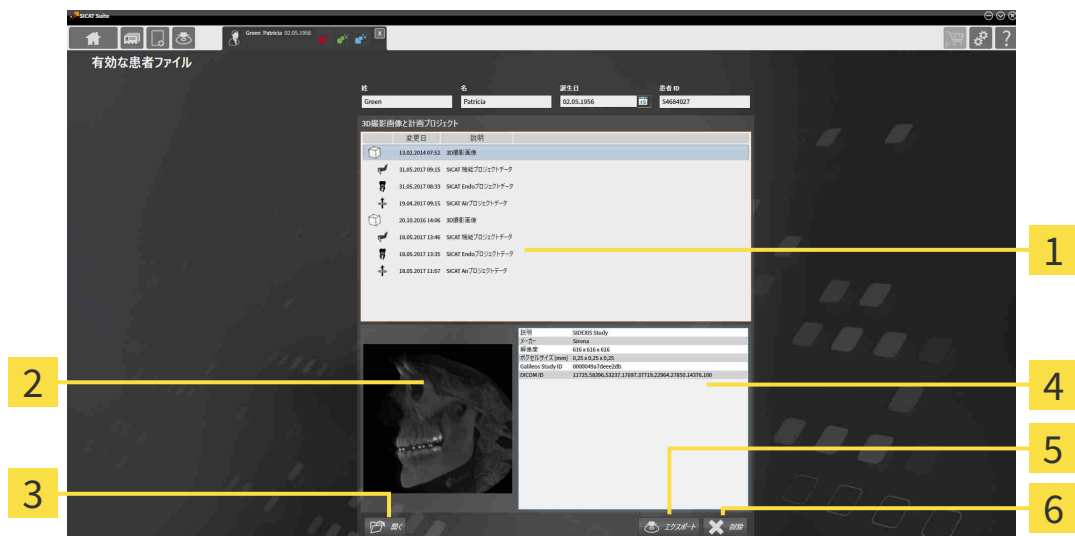
注意

3D X線撮影画像を削除すると、それに依存する計画プロジェクトも全て削除されます。

3D X線撮影画像の削除は、それに依存する全計画プロジェクトが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

開いた患者ファイルで作業するには、次の手順で行います。

- ☑ 患者ファイルがすでにアクティブです。これに関する情報は患者ファイルをアクティブにする [▶ ページ 81 - Standalone] を参照してください。



1 リスト 3D撮影図と計画プロジェクト

4 エリア 詳細

2 エリア 概要

5 ボタン エクスポート

3 ボタン 開く

6 ボタン 削除

1. アクティブな患者ファイルウィンドウで 3D撮影図と計画プロジェクトリストから希望の3D X線撮影画像または希望の計画プロジェクトまたは希望の計画プロジェクトを選択します。
 - ▶ 概要エリアに、選択した3D X線撮影画像または選択した計画プロジェクトのプレビューが表示されます。
 - ▶ 詳細エリアに、選択した3D X線撮影画像または選択した計画プロジェクトの詳細 (DICOMメタデータなど) が表示されます。



2. SICATアプリケーションの選択した3D X線撮影画像、または付属のSICATアプリケーションの選択した計画プロジェクトを開くには、**開く** ボタンをクリックします。
3. 選択した文書を標準のPDFビューアで開くには、**開く** ボタンをクリックします。
4. 選択したスタディをアクティブな患者ファイルからエクスポートするには、**エクスポート** ボタンをクリックします。これに関する情報はデータエクスポート [▶ ページ 209 - *Standalone*]を参照してください。
5. 選択した3D X線撮影画像または計画プロジェクトをアクティブな患者ファイルから削除するには、**削除** ボタンをクリックします。これに関する情報は患者ファイルからの3D X線撮影画像または計画プロジェクトの削除 [▶ ページ 93 - *Standalone*]を参照してください。
6. アクティブな患者ファイルの特性の変更手順は、*患者ファイルの特性を変更する* [▶ ページ 84 - *Standalone*]の節をご覧ください。



3D X線撮影画像を、それが関係するスタディなしに開き、かつ、ライセンスのアクティベーションを完了している、SICATのアプリケーションが1つのみのときは、そのSICATのアプリケーションが起動します。3D X線撮影画像を、それが関係する、複数のスタディとともに開き、かつ、ライセンスのアクティベーションを完了している、SICATのアプリケーションが複数あるときは、前回、スタディに変更を加えたアプリケーションが起動します。

20.5 患者ファイルの特性を変更する



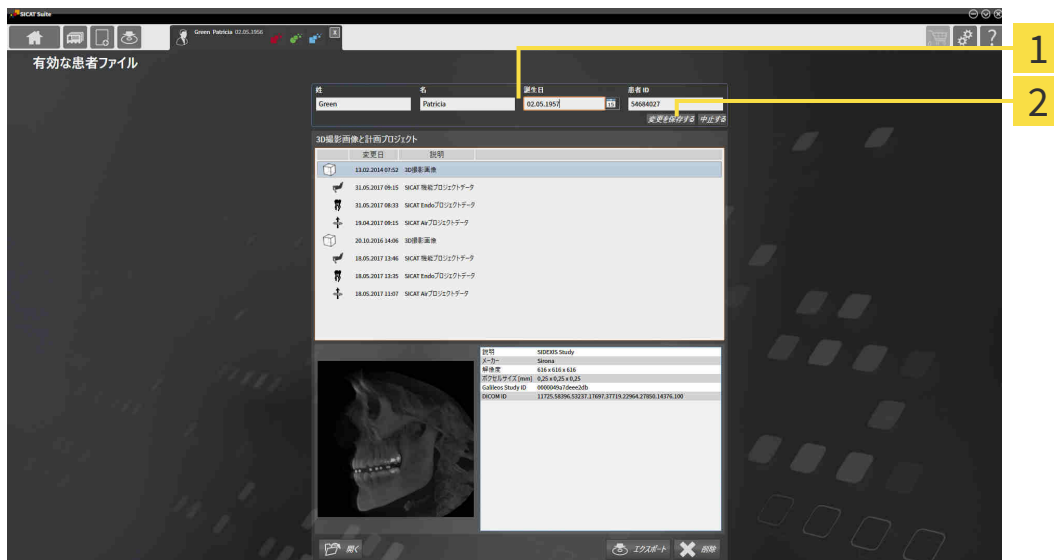
アクティブな患者ファイリング内にある各患者ファイルの特性の組み合わせは明確でなくてはなりません。

患者ファイルの以下の特性を変更することができます。

- 姓
- 名
- 誕生日
- 患者ID

患者ファイルの特性を変更するには、次の手順で行います。

- ☑ 患者ファイルがすでにアクティブです。これに関する情報は患者ファイルをアクティブにする [▶ ページ 81 - Standalone] を参照してください。



1 特性欄

2 ボタン 変更を保存する

1. アクティブな患者ファイルウィンドウで特性欄に希望の値を入力します。
2. 変更を保存するのボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteが変更内容を保存します。



患者IDはDICOM IDと一致しません。任意の各IDを患者IDとして入力することができます（社会保険番号、施設の内部患者IDなど）。

20.6 患者ファイル概要から3D X線撮影画像または計画プロジェクトを開く



患者名や3D X線撮影画像の突き合わせでミスがあると、結果として、患者を撮影した画像の取り違えを招くことになりかねません。

3D X線撮影ビューで、インポートしようとしているものや、すでにSICATのアプリケーションに読み込み済みのものがあれば、突き合わせる先の患者名が正しいこと、突き合わせる撮影画像に関する情報が正しいことをいずれもチェックしてください。



不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。

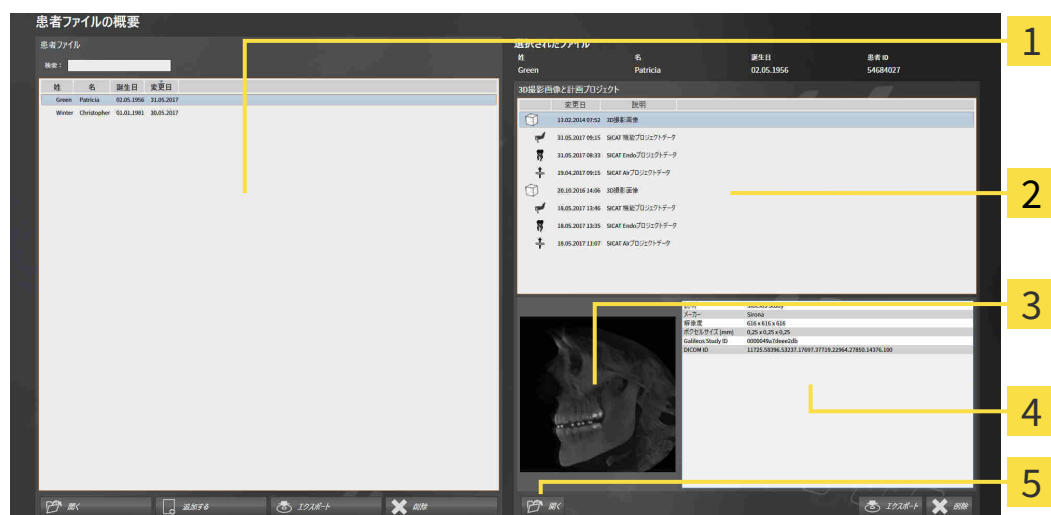


不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。

3D X線撮影画像または計画プロジェクトを患者ファイルの概要から開くには、次の手順で行います。

- ☑ **患者ファイルの概要** のウィンドウを開いておきます。この表示に関する内容は、「患者ファイル概要」ウィンドウを開く [▶ ページ 78 - Standalone] の節をご覧ください。



1 のリスト 患者ファイル

4 エリア 詳細

2 のリスト 3D撮影図と計画プロジェクト

5 ボタン 開く

3 エリア 概要

1. 患者ファイルの概要ウィンドウで患者ファイルリストから希望の患者ファイルを選択します。
 - ▶ 選択されたファイルエリアで3D撮影図と計画プロジェクトリストに選択した患者ファイルの全ての3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルが表示されます。
2. 3D撮影図と計画プロジェクトリストから任意のデータセットまたは文書を選択します。
 - ▶ 概要エリアと詳細エリアに、選択したデータセットまたは文書に関する情報が表示されます。



3. 開く のボタンをクリックします。

- ▶ データセットを選択すると、これはSICATアプリケーションで開かれます。



- ▶ 文書を選択すると、これは標準のPDFビューアで開かれます。



3D X線撮影画像を、それが関係するスタディなしに開き、かつ、ライセンスのアクティベーションを完了している、SICATのアプリケーションが1つのみのときは、そのSICATのアプリケーションが起動します。3D X線撮影画像を、それが関係する、複数のスタディとともに開き、かつ、ライセンスのアクティベーションを完了している、SICATのアプリケーションが複数あるときは、前回、スタディに変更を加えたアプリケーションが起動します。

20.7 SICAT FUNCTIONでのSICAT AIR撮影結果



注意

DICOMに適合していないX線機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、DICOM規格に適合することが証明されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。



注意

不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。



注意

不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。



注意

表示品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

SICATアプリケーションを使用する前に、表示品質が十分であるか確認してください（例えば、SMPTEテストビューで）。



注意

環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

注記

正確な診断、正確な治療、顎運動データの正確な記録を確実にするため、SICATは次のパラメーターを含む3D X線データを使用することを推奨します。

1. レイヤーの厚さ：0.7mm以下
2. ボクセルサイズ：全3次元で0.7mm以下

以下の条件が満たされた場合、**患者ファイルの概要**は、SICAT Function - スタディの情報を表示します：

- SICAT Suiteをスタンドアロンバージョンとして使用します。
- 3D撮影図と計画プロジェクトのエリアからSICAT Functionスタディを選択しました。

選択されたファイル

姓	名	誕生日	患者 ID
Green	Patricia	02.05.1956	54684027

3D撮影画像と計画プロジェクト

変更日	説明
13.02.2014 07:52	3D撮影画像
31.05.2017 09:15	SICAT 機能プロジェクトデータ
31.05.2017 08:33	SICAT Endoプロジェクトデータ
19.04.2017 09:15	SICAT Airプロジェクトデータ

3D撮影画像と計画プロジェクトの詳細

換面データ	使用できる
JMT 記録	使用できる (13.02.2014)
顎関節のセグメント化	使用できる (30.05.2017)
注文	使用できない

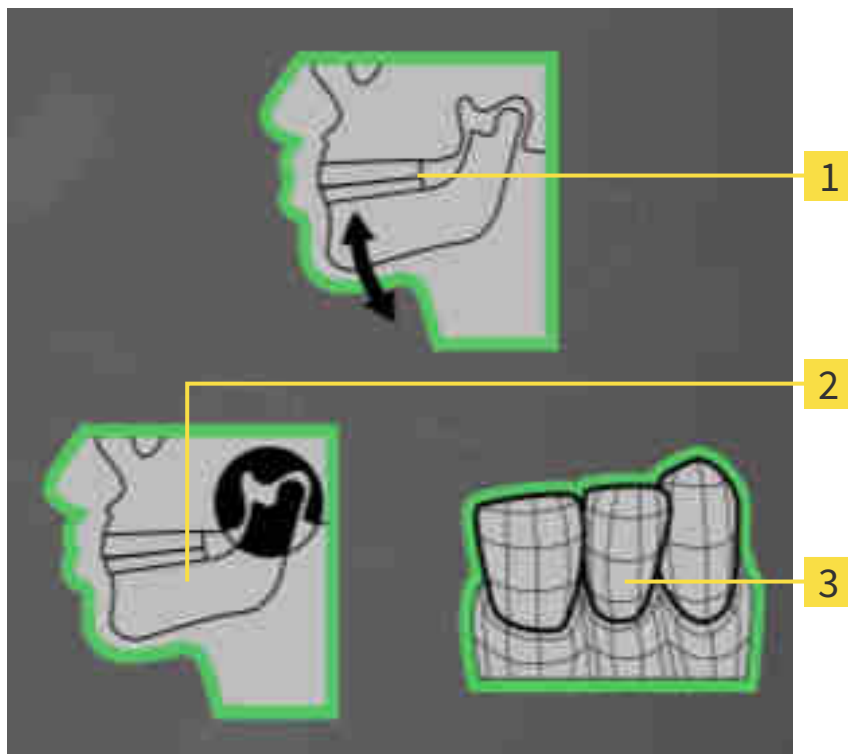
操作ボタン: 削除, エクスポート, 削除

1 選択したSICAT Functionスタディ

2 エリア **概要**

3 エリア **詳細**

概要エリアに次の情報が表示されます：



1 顎運動データ

2 セグメンテーション

3 光学印象

緑色の囲みは、各要素がスタディに存在していることを意味しています。

詳細エリアに次の情報が表示されます：

- 光学印象の可用
- 撮影日時の入った顎運動データの可用
- 作成日が入った顎関節のセグメンテーションの可用
- ステータスと日付が入った注文の可用

20.8 アクティブな患者ファイルを閉じ、それに含まれる計画プロジェクトを保存する



アクティブな患者ファイルを閉じるために、それに含まれる計画プロジェクトを保存するには、次のように行います。

- X ■ アクティブな患者ファイルのエリアで**閉じる**ボタンをクリックします。
- ▶ SICAT Suiteはアクティブな患者ファイルを閉じ、計画プロジェクトで実行した変更内容を保存します。

20.9 患者ファイリングからの患者ファイルの削除

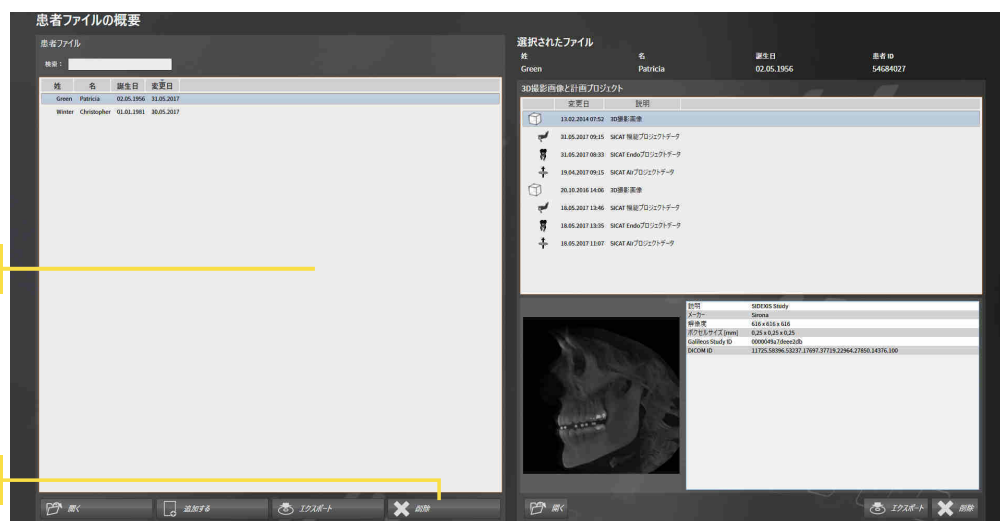


患者ファイルを削除すると、それに含まれる3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルも全て削除されます。

患者ファイルの削除は、それに含まれる3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルが全て再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

患者ファイルおよびそれに含まれる全ての3D X線撮影画像および計画プロジェクトを削除するには、次の手順で行います。

- ☑ **患者ファイルの概要**のウィンドウを開いておきます。この表示に関する内容は、「患者ファイル概要」ウィンドウを開く [▶ ページ 78 - Standalone]の節をご覧ください。



1 のリスト 患者ファイル

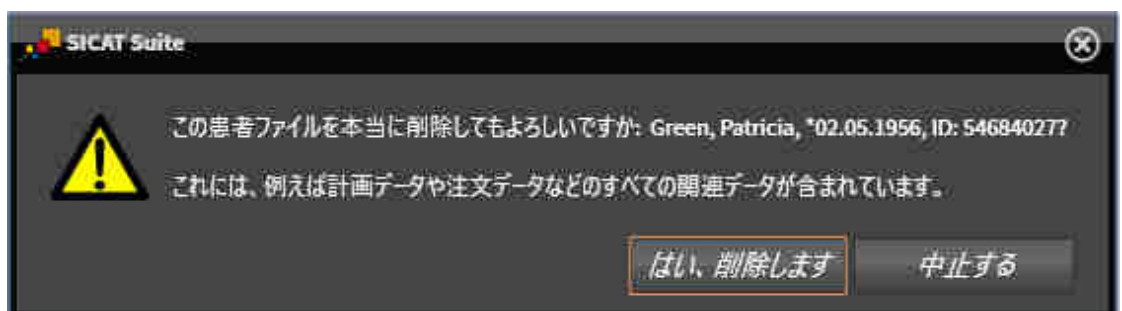
2 選択した患者ファイルを削除するボタン

1. **患者ファイルの概要**ウィンドウで**患者ファイル**リストから希望の患者ファイルを選択します。



2. 選択した患者ファイルを削除するボタンをクリックします。

▶ 確認メッセージが開きます。



3. 選択したデータを削除する場合、確認メッセージの**はい、削除します**をクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは選択した患者ファイル、それに含まれる全ての3D X線撮影画像および計画プロジェクトをアクティブな患者ファイリングから削除し、**患者ファイル**のリストから除去します。

20.10 患者ファイルからの3D X線撮影画像または計画プロジェクトの削除



削除した患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトは元に戻すことができません。

患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトの削除は、これらのデータが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

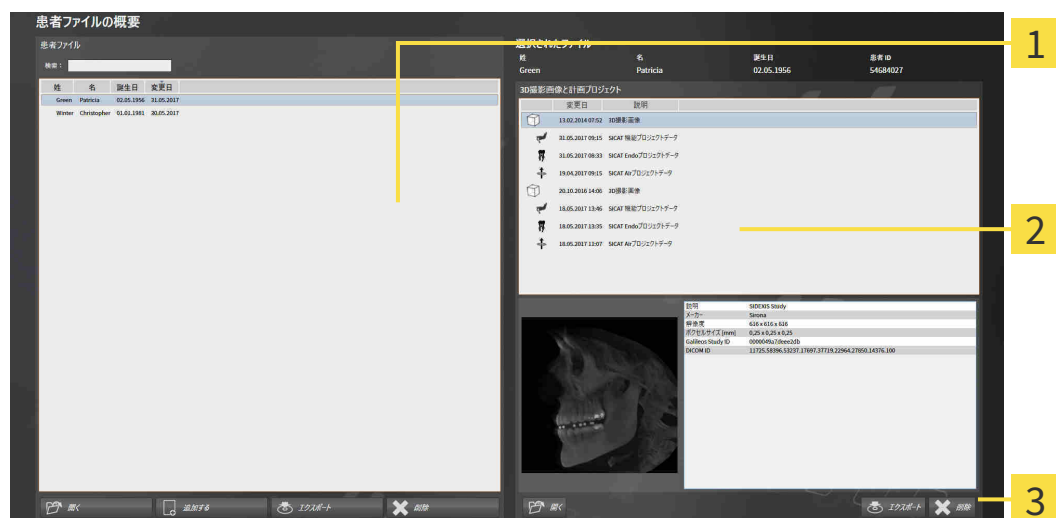


3D X線撮影画像を削除すると、それに依存する計画プロジェクトも全て削除されます。

3D X線撮影画像の削除は、それに依存する全計画プロジェクトが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

3D X線撮影画像および計画プロジェクトを患者ファイルから削除するには、次の手順で行います。

- ☑ **患者ファイルの概要** のウィンドウを開いておきます。この表示に関する内容は、「患者ファイル概要」ウィンドウを開く [▶ ページ 78 - Standalone] の節をご覧ください。



1 のリスト 患者ファイル

2 のリスト 3D撮影図と計画プロジェクト

3 ボタン 削除

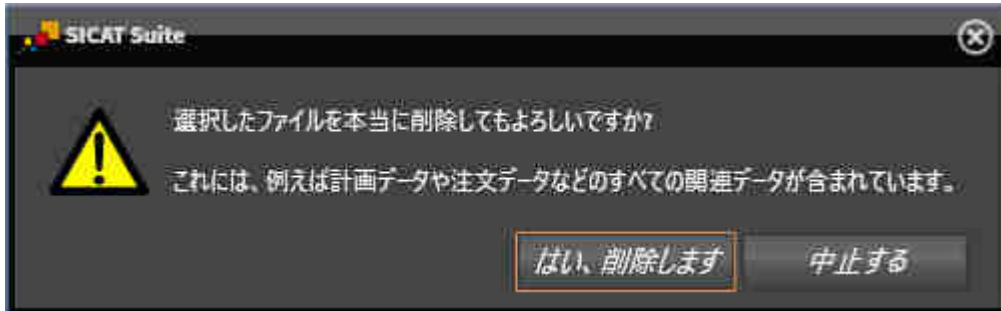
1. **患者ファイルの概要** ウィンドウで**患者ファイル**リストから希望の患者ファイルを選択します。
 - ▶ **選択されたファイル** エリアで**3D撮影図と計画プロジェクト**リストに選択した患者ファイルの全ての3D X線撮影画像と計画プロジェクトが表示されます。

2. 3D撮影図と計画プロジェクトリストから希望の3D X線撮影画像または希望の計画プロジェクトまたは希望の計画プロジェクトを選択します。



3. 削除のボタンをクリックします。

▶ 確認メッセージが開きます。



4. 選択したデータを削除する場合、確認メッセージのはい、削除します をクリックします。

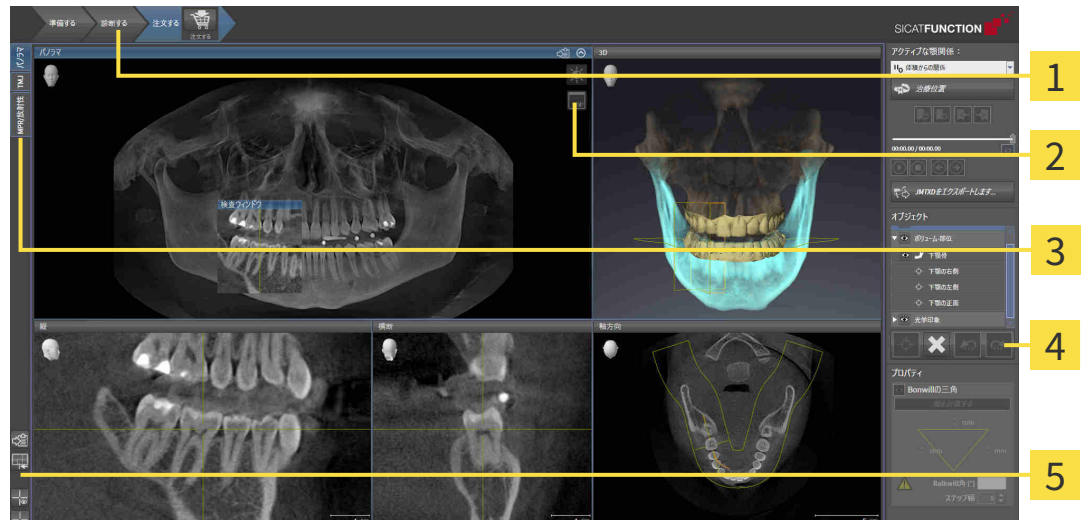
▶ SICAT Suiteは、選択した3D X線撮影画像または計画プロジェクトを患者ファイルおよび3D撮影図と計画プロジェクトリストから削除します。



3D X線撮影画像または計画プロジェクトを **アクティブな患者ファイル** ウィンドウで患者ファイルから削除することもできます。この表示に関する内容は、**アクティブな患者ファイルを使用した作業** [▶ ページ 82 - Standalone] の節をご覧ください。

21 SICAT FUNCTIONのユーザーインターフェース

SICAT Functionのユーザーインターフェースは、以下のアイテムから構成されています。



1 ワークフローのツールバー

4 オブジェクトバー

2 画像のツールバー

5 ワークスペースのツールバー

3 ワークスペースの切替用ボタン

- **ワークフローのツールバー**は、複数のワークフロー・ステップから構成されますが、その中には、アプリケーションのワークフローで使用する主要ツールが用意されています。これには、診断オブジェクトおよび計画オブジェクトを追加およびインポートすることのできるツールが含まれます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 97 - Standalone]を参照してください。
- **ワークスペースエリア**は、ワークフローのツールバーの下側にあって、ユーザーインターフェースの一部を構成します。この部分には、SICAT Functionで開いているワークスペースを表示します。各ワークスペースに特定のビュー構造が含まれています。これに関する情報はワークスペース [▶ ページ 107 - Standalone]を参照してください。
- 有効なビューにのみ**画像のツールバー**が表示されます。付属のビューの表示を調整するツールがあります。これに関する情報は**ビューの調整** [▶ ページ 117 - Standalone]と**3Dビューの調整** [▶ ページ 130 - Standalone]を参照してください。
- **オブジェクトバー**には、診断や治療計画のそれぞれで対象とするもの（オブジェクト）を管理するための各種ツールが用意されています。これに関する情報は**オブジェクトバー** [▶ ページ 99 - Standalone]を参照してください。
- **ワークスペースのツールバー**には、各種ツールが用意されていますが、これらのツールで、ワークスペースの一般的な各種設定や、含まれる画像のすべてに対して変更を加えたり、ワークスペースの内容を記録したりすることができます。これに関する情報は**十字線およびフレームの移動、非表示、表示** [▶ ページ 125 - Standalone]、**ビューをリセットする** [▶ ページ

128 - Standalone]、アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット [▶ ページ 114 - Standalone]とワークスペースのスクリーンショットを作成する [▶ ページ 115 - Standalone]を参照してください。

21.1 ワークフローのツールバー

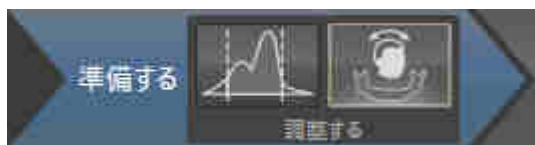
SICAT Functionでは、ワークフローのツールバーは3つのワークフローステップで構成されています：

1. 準備する
2. 診断する
3. 注文する

ワークフローステップの開閉

以下の各アイコンをクリックすると、ワークフロー・ステップを展開させたり畳み込んだりすることができます。

1. ワークフロー・ステップ「準備する」



ワークフロー・ステップ「準備する」では、以下のツールが使用できます。



- **グレースケール値を調整する** - これに関する情報は**グレースケール値を調整する** [▶ ページ 143 - Standalone]を参照してください。このツールが使用でき、また、必要になるのは、シロナ社製以外の機器で表示するボリュームに限ります。



- **ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整します** - これに関する情報は**ボリュームの配置を調整する** [▶ ページ 147 - Standalone]と**パノラマエリアを調整する** [▶ ページ 152 - Standalone]を参照してください。

2. ワークフロー・ステップ「診断する」



ワークフロー・ステップ「診断する」では、以下のツールが使用できます。



- 顎運動データをインポートして記録する - これに関する情報は顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録 [▶ ページ 158 - Standalone]を参照してください。



- 下顎と顎状突起をセグメントする - これに関する情報はセグメンテーション [▶ ページ 164 - Standalone]を参照してください。



- 光学印象をインポートし記録する - これに関する情報は光学印象をインポートし記録する [▶ ページ 172 - Standalone]を参照してください。



- 距離測定を追加する(D) - これに関する情報は距離測定を追加する [▶ ページ 204 - Standalone]を参照してください。



- 角度測定を追加する(A) - これに関する情報は角度測定を追加する [▶ ページ 205 - Standalone]を参照してください。

3. ワークフロー・ステップ「注文する」

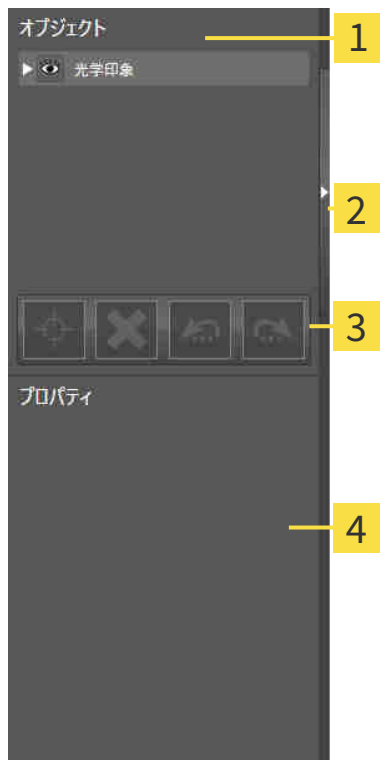


ワークフロー・ステップ「注文する」では、以下のツールが使用できます。



- 治療スプリントを注文します - これに関する情報は治療スプリントをショッピングカートに入れる [▶ ページ 216 - Standalone]を参照してください。

21.2 オブジェクトバー



1 オブジェクトブラウザ

2 ボタンオブジェクトバーを非表示にするまたはボタンオブジェクトバーを表示する

3 オブジェクトツールバー

4 エリアプロパティ

オブジェクトバーには、以下のアイテムが用意されています。

- **オブジェクトブラウザ**には、診断や治療計画の対象（オブジェクト）として、現時点のスタディに追加したりインポートしたりしたものをもれなく、カテゴリ分類して列挙したリストを表示します。**オブジェクトブラウザ**は、複数のオブジェクトを自動でグループ分けします。例えば、**測定**のグループには、測定対象のオブジェクトがもれなく含まれています。オブジェクトグループを開閉する、オブジェクトおよびオブジェクトグループをアクティブに

する、オブジェクトおよびオブジェクトグループを非表示または表示にすることができます。これに関する情報は以下を参照してください [オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理](#) [▶ ページ 101 - Standalone]。

- **オブジェクトツールバー**には、各種のツールが用意されていますが、これらのツールにより、オブジェクトに合焦すること、オブジェクトやオブジェクトグループを削除すること、オブジェクトまたはオブジェクトグループに対して行った操作を取り消して元に戻したり、再度、実行したりすることができます。これに関する情報は[オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理](#) [▶ ページ 103 - Standalone]を参照してください。
- **プロパティ** のコーナーには、作業対象として選択しているオブジェクトについて、その詳細を表示します。

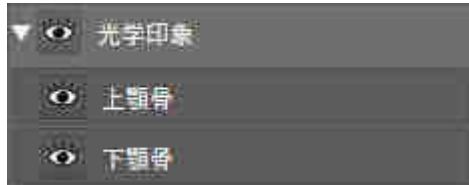
オブジェクトバーの視点をオブジェクトバーの右側の二つのボタンで変更することができます。
オブジェクトバーを非表示にする および **オブジェクトバーを表示する**

SICAT Function で作業対象として選択可能なオブジェクトは、[SICAT Functionオブジェクト](#) [▶ ページ 105 - Standalone]の節をご覧ください。

21.3 オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理

オブジェクトグループの開閉

オブジェクトグループを展開したり畳み込んだりするときは、以下の手順に沿って操作を行ってください。



☑ 現在、希望のオブジェクトグループが開いています。



1. 畳み込みたいオブジェクトグループの横にある **閉じる** のアイコンをクリックします。

▶ オブジェクトグループの畳み込みが行われます。



2. 畳み込みたいオブジェクトグループの横にある **開く** のアイコンをクリックします。

▶ オブジェクトグループが展開します。

オブジェクトおよびオブジェクトグループをアクティブにする

ツールによっては、作業対象として選択しているオブジェクトやオブジェクトグループ以外では、利用できないものが、いくらかあります。

オブジェクトまたはオブジェクトグループを有効にするには、次のように行います。

☑ 現在、希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループが無効になっています。

- 希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は、それまで有効であったオブジェクトまたはオブジェクトグループを無効にします。
 - ▶ SICAT Function は希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループを有効にします。
 - ▶ SICAT Function は、**オブジェクトブラウザ**と画像のそれぞれで、オブジェクトやオブジェクトグループに色を付けてハイライト表示します。



オブジェクトをクリックすることによって、2Dビューで特定のオブジェクトも有効にすることができます。

オブジェクトおよびオブジェクトグループの表示/非表示



この機能は、特定のオブジェクトタイプを除いて利用できません。

オブジェクトやオブジェクトグループを非表示/表示にするには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 現在、希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループは表示されています。



1. お好みのオブジェクトまたはオブジェクトグループの横にある **表示** のアイコンか、または、**一部表示** のアイコンをクリックします。



- ▶ SICAT Function はオブジェクトまたはオブジェクトグループを非表示にします。
- ▶ SICAT Function では、オブジェクトまたはオブジェクトグループの横に **アイコン非表示** が表示されます。



2. お好みのオブジェクトまたはオブジェクトグループの横にある **非表示** のアイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function はオブジェクトまたはオブジェクトグループを表示します。
 - ▶ SICAT Function では、オブジェクトまたはオブジェクトグループの横に **アイコン表示** が表示されます。

21.4 オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理



この機能は、特定のオブジェクトタイプを除いて利用できません。

オブジェクトに焦点を合わせる

この機能は、画像内でオブジェクトを探す目的で使用してください。

あるオブジェクトに焦点を合わせる時は、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望のオブジェクトはすでにアクティブになっています。これに関する情報は以下を参照してください [オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理](#) [▶ ページ 101 - Standalone]。



- **アクティブ オブジェクトを合わせる(F)**のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function は、ビューの焦点をアクティブなオブジェクトに移動させます。
- ▶ SICAT Function には、ビュー内でアクティブなオブジェクトが表示されます。



オブジェクトへの合焦は、**オブジェクトブラウザ**からか、または、ビューで、オブジェクトをダブルクリックしても同様に可能です。ただし、**3D**画像を除きます。

オブジェクトおよびオブジェクトグループの除去

オブジェクトまたはオブジェクトグループを削除するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループは既にアクティブにしています。これに関する情報は以下を参照してください [オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理](#) [▶ ページ 101 - Standalone]。



- **アクティブ オブジェクト/アクティブ グループを削除する(Del)**のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function はオブジェクトまたはオブジェクトグループを除去します。

オブジェクトアクションを元に戻し、もう一度実行する

オブジェクトまたはオブジェクトグループに対して直前に行った操作を取り消して元に戻したり、再度、実行したりするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



1. **前回のオブジェクト アクションを元に戻す (Ctrl+Z)** のアイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は、最後のオブジェクトアクションまたはグループアクションを元に戻します。



2. オブジェクト/グループアクションを再実行する (Ctrl+Y) のアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function は、前回戻したオブジェクトアクションまたはグループアクションをもう一度実行します。



SICATアプリケーションで撮影結果を開いている間のみ、元に戻してもう一度実行することができます。

21.5 SICAT FUNCTIONオブジェクト

SICAT Functionでは、**オブジェクトブラウザ**で、アプリケーション固有のオブジェクトが以下のグループに分類されます。

- 顎運動データ
- ボリューム-部位
 - 下顎骨
- 光学印象

顎運動データ-オブジェクト



顎運動データのインポートを完了すると、SICAT Functionでは、**オブジェクトブラウザ**に、**顎運動データ**オブジェクトを表示します。

ボリューム-部位-オブジェクトおよび 下顎骨-オブジェクト

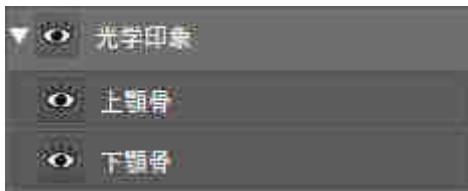


下顎骨をセグメントした後、SICAT Functionが**オブジェクトボリューム-部位**を**オブジェクトブラウザ**に表示します。**ボリューム-部位**オブジェクトは**下顎骨**オブジェクトを含んでいます。下顎骨のオブジェクトは、以下の下位オブジェクトから構成されます。

- 下顎の左側
- 下顎の右側
- 下顎の正面

下位オブジェクトのいずれか1つにピントを合わせると、SICAT Functionでは、いずれの2Dビューでも、選択しているオブジェクトにピントが合います。

光学印象オブジェクト



光学印象のインポートと登録が完了すると、SICAT Functionが**光学印象**オブジェクトを**オブジェクトブラウザ**に表示します。**光学印象**のオブジェクトは、以下の下位オブジェクトから構成されます。

- 上顎骨
- 下顎骨

下位オブジェクトのいずれか1つにピントを合わせると、SICAT Functionでは、いずれの2Dビューでも、選択しているオブジェクトにピントが合います。

上顎骨のオブジェクトや**下顎骨**のオブジェクトを削除すると、SICAT Functionでは、既存の光学印象がもれなくスタディから削除されます。

22 ワークスペース

SICATのアプリケーションでは、スタディを複数のビューで表示し、ワークスペースに画像をまとめて配置します。

SICAT Functionでは、異なる3種類のワークスペースが用意されています。

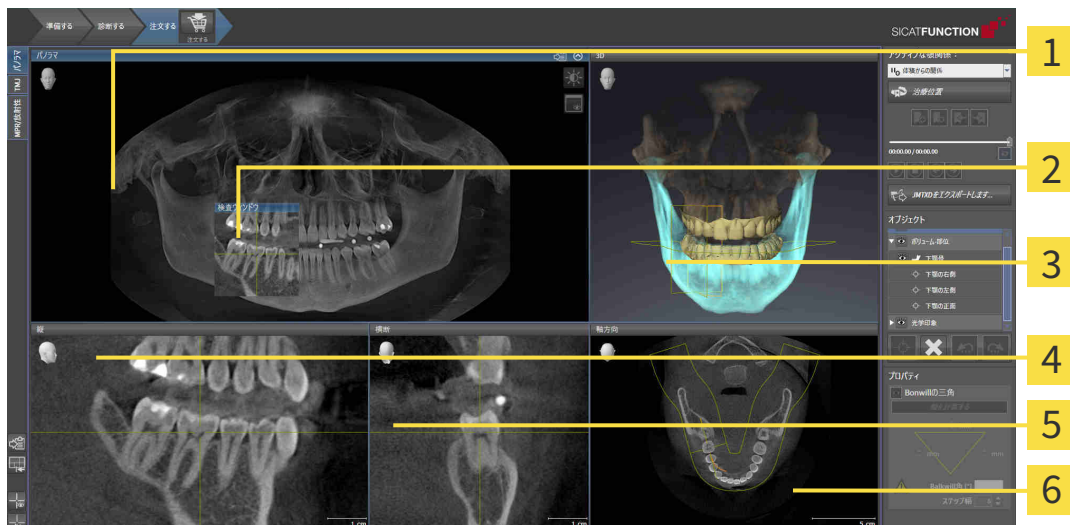


- **パノラマ**-ワークステーション-これに関する情報は**パノラマワークスペースの概要** [▶ ページ 108 - *Standalone*]を参照してください。
- **TMJ**-ワークステーション-これに関する情報は**TMJワークスペースに関する概要** [▶ ページ 110 - *Standalone*]を参照してください。
- **MPR/放射性**-ワークステーション-これに関する情報は**MPR/放射性ワークスペースの概要** [▶ ページ 112 - *Standalone*]を参照してください。

ワークスペースおよびそれに含まれるビュー用として、以下の操作を行うことができます。

- アクティブなワークスペースを切り替える。 [▶ ページ 113 - *Standalone*].
- アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット [▶ ページ 114 - *Standalone*].
- ビューの調整 [▶ ページ 117 - *Standalone*].
- 3Dビューを調整することもできます。これに関する情報は**3Dビューの調整** [▶ ページ 130 - *Standalone*]を参照してください。
- アクティブなワークスペースは、その内容を記録することができます。これに関する情報は**ワークスペースのスクリーンショットを作成する** [▶ ページ 115 - *Standalone*]を参照してください。

22.1 パノラマワークスペースの概要



1 パノラマビュー

2 検査ウィンドウ

3 3Dビュー

4 縦ビュー

5 横断ビュー

6 軸方向ビュー

パノラマビュー

パノラマビューは、仮想的なオルソパントモグラフィ（OPG）に相当します。これは、正射影を特定の太さのパノラマ曲線上に表示します。パノラマ曲線および太さを両顎に調整することができます。この調整に関する内容は、[パノラマエリアを調整する](#) [▶ ページ 152 - Standalone]の節をご覧ください。

検査ウィンドウ

検査ウィンドウは、パノラマビューに埋め込まれています。レイヤーをパノラマ曲線に対して平行にすることによって、パノラマビューに、3次元の画像が追加されることになります。検査ウィンドウは、表示/非表示することができます。この切替に関する内容は、[検査ウィンドウの移動、非表示、表示](#) [▶ ページ 126 - Standalone]の節をご覧ください。

3Dビュー

3Dビューには、開いている3D治療計画スタディの3Dビューを表示します。

縦ビュー

縦ビューには、パノラマ歯列弓に対して接線をなすレイヤーを表示します。

横断ビュー

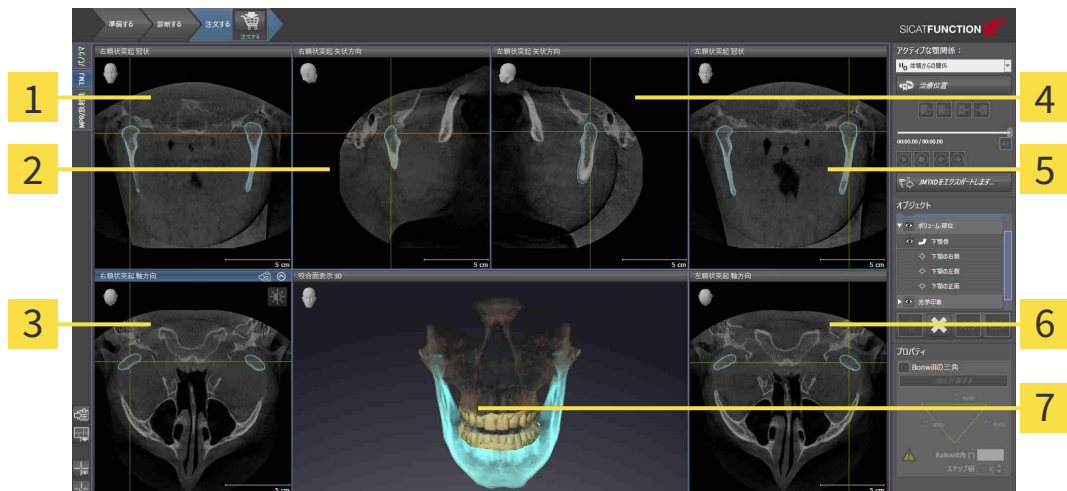
横断ビューには、パノラマ歯列弓に対して矢状断のレイヤーを表示します。

軸方向ビュー

デフォルトの**軸方向**ビューでは、上方からみたレイヤーを表示します。**軸方向**ビューでは、視線方向の切替が可能です。この切替に関する内容は、[可視化設定の変更](#) [▶ ページ 236 - *Standalone*]の節をご覧ください。

ビューの機能に関しては、[ビューの調整](#) [▶ ページ 117 - *Standalone*]および[3Dビューの調整](#) [▶ ページ 130 - *Standalone*]をご参照ください。

22.2 TMJワークスペースに関する概要

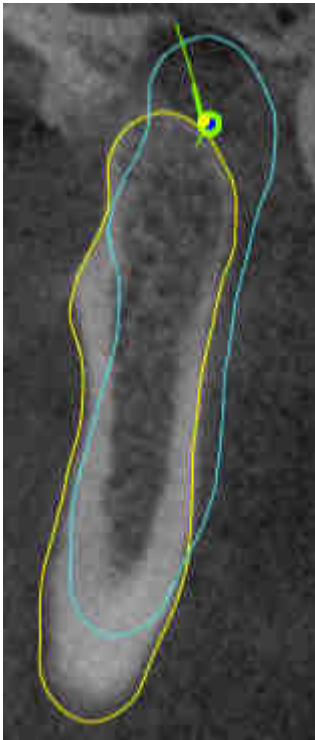


- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 右顆状突起 冠状-ビュー | 5 左顆状突起 冠状-ビュー |
| 2 右顆状突起 矢状方向-ビュー | 6 左顆状突起 軸方向-ビュー |
| 3 右顆状突起 軸方向-ビュー | 7 咬合面表示 3D |
| 4 左顆状突起 矢状方向-ビュー | |

患者個別の解剖学的な咬合は、JMTのコーナーで選択して、画像中で所見を検討することが可能です。JMTのコーナーに関する内容は、[顎運動と連携する \[▶ ページ 183 - Standalone\]](#)の節をご覧ください。

TMJワークスペースには、下顎頭を左側と右側とで同時に表示します。同時に表示することで、左右両側の顎関節が直接、比較できるようになります。また、顎関節の運動や形態の上で非対称性があれば、この比較を利用して特定できます。

SICAT Function では、下顎頭が移動しても、その位置の違いを識別表示します。

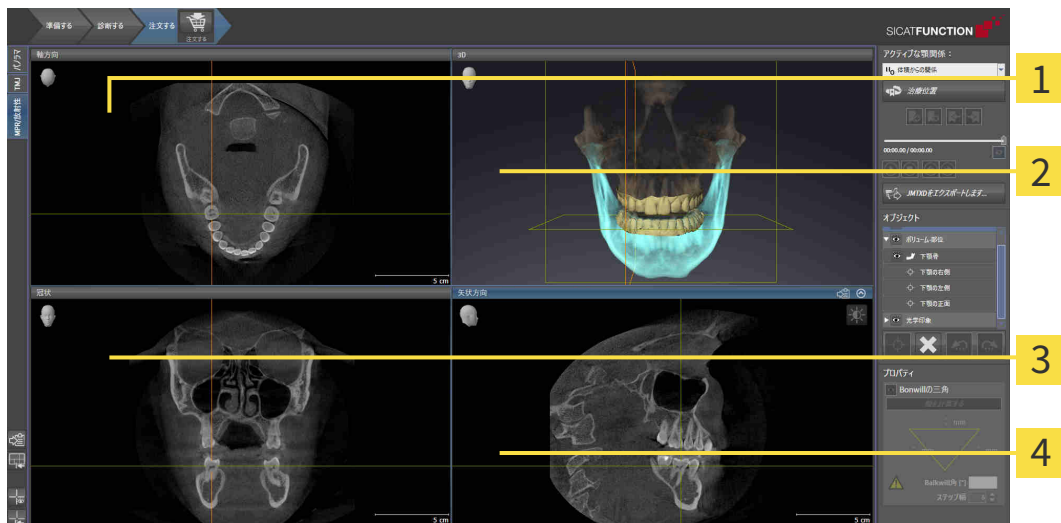


- SICAT Functionでは、下顎頭が移動すると、それをレイヤービューで青色の輪郭により、表示します。
- SICAT Functionでは、セグメント化した境界線を、レイヤービューで黄色の輪郭により、表示します。
- SICAT Function では、下顎頭が移動すると、それを3Dビューで青色の3Dオブジェクトとして表示します。

頭部を正中矢状面（鏡像対称面）で分割した方向に、各画像を揃えると、左側の顎関節と右側の顎関節とが互いに比較しやすくなります。3DX線の撮影中に位置決めを誤って、それを調整するときは、**ボリュームの配置を調整する**の機能を利用してください。これに関する情報は**ボリュームの配置を調整する** [▶ ページ 147 - Standalone]を参照してください。ボリュームの配置を調整するには、顎関節が正中矢状面に対して、可能な限り対称な位置で表示されるようにしてください。

TMJワークスペースでは、顎運動データとボリューム-部位の分析用に追加のオプションが用意されています。これに関する情報は**TMJワークスペースの各種機能** [▶ ページ 189 - Standalone]、**Bonwillの三角を利用する** [▶ ページ 192 - Standalone]、**セグメンテーション限度の表示** [▶ ページ 193 - Standalone]と**下顎頭を中心に顎運動を表示する** [▶ ページ 194 - Standalone]を参照してください。

22.3 MPR/放射性ワークスペースの概要



1 軸方向-ビュー

3 冠状-ビュー

2 3D-ビュー

4 矢状方向-ビュー

軸方向ビュー

デフォルトの軸方向ビューでは、上方から見たレイヤーを表示します。軸方向ビューでは、視線方向の切替が可能です。この切替に関する内容は、[可視化設定の変更](#) [▶ ページ 236 - Standalone]の節をご覧ください。

3Dビュー

3Dビューには、開いている3D治療計画スタディの3Dビューを表示します。

冠状ビュー

冠状ビューには、前方から見たレイヤーを表示します。

矢状方向ビュー

デフォルトの矢状方向ビューでは、右側から見たレイヤーを表示します。矢状方向ビューでは、視線方向の切替が可能です。この切替に関する内容は、[可視化設定の変更](#) [▶ ページ 236 - Standalone]の節をご覧ください。

ビューの機能については以下をご覧ください。 [ビューの調整](#) [▶ ページ 117 - Standalone] および [3Dビューの調整](#) [▶ ページ 130 - Standalone]。

22.4 アクティブなワークスペースを切り替える.

アクティブなワークスペースを切り替えるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



- ワークスペースエリアの左上の隅にある任意のワークスペースタブをクリックします。
- ▶ 選択したワークスペースが開きます。

22.5 アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット

アクティブなワークスペースのレイアウトを調整する

アクティブなワークスペースのレイアウトのレイアウトを調整するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを二つ以上のビューの間を境界線上に移動させます。
 - ▶ マウスポインタの形状が切り替わります。



2. マウスの左ボタンをクリックしたら、その左ボタンを押したままにします。
3. マウスを動かします。
 - ▶ 境界線の位置が変わります。
 - ▶ 境界線の全側面でビューの大きさが変わります。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、境界線の現在位置、および、ビューの現在のサイズが、境界線のすべての側で維持されます。

アクティブなワークスペースのレイアウトをリセットする

アクティブなワークスペースのレイアウトをデフォルトに復元するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



- ワークスペースのツールバーで、アクティブなワークスペースのレイアウトをリセットするのアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function は、アクティブなワークスペースを標準のレイアウトにリセットします。これは、ソフトウェアがすべてのビューを標準サイズに表示することを意味しています。

22.6 ワークスペースのスクリーンショットを作成する

ワークスペースのスクリーンショットは、Windowsのクリップボードにコピーして、文書を作成する目的で使用することができます。

ワークスペースのスクリーンショットをWINDOWSのクリップボードにコピーする

ワークスペースのスクリーンショットをWindowsのクリップボードに追加するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ ご希望のワークスペースはすでにアクティブです。これに関する情報はアクティブなワークスペースを切り替える。[▶ ページ 113 - Standalone]を参照してください。



- ワークスペースのツールバーから、**アクティブなワークスペースのスクリーンショットをクリップボードにコピーする**のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function では、ワークスペースのスクリーンショットがWindowsのクリップボードにコピーされます。



クリップボードからスクリーンショットを貼り付けることができるアプリケーションは、例えば、画像処理やワープロのソフトウェアなど多数あります。貼り付けのショートカットキーは、大半のアプリケーションで「Ctrl +V」を使用します。

23 ビュー

ビューはワークスペースに含まれています。ワークスペースとビューは、各種ありますが、その詳細は以下の節をご覧ください。ワークスペース [[▶ ページ 107 - Standalone](#)].

ビューを調整することができます。これに関する情報は[ビューの調整](#) [[▶ ページ 117 - Standalone](#)]と[3Dビューの調整](#) [[▶ ページ 130 - Standalone](#)]を参照してください。

23.1 ビューの調整

ビューの調整に用いるツールの中には、アクティブなビュー以外では使用できないものもあります。ビューを有効にする手順は、次をご参照ください。 [アクティブなビューの切り替え \[▶ ページ 119 - Standalone\]](#)。

アクティブなビューに含まれる要素：



- 1 タイトルバー
- 2 オリエンテーションヘッド
- 3 画像のツールバー
- 4 十字線
- 5 尺度

2Dレイヤービューには十字線が表示されます。十字線は別のレイヤービューとの交差線です。SICAT Function すべてのレイヤービューを同期させます。これは、全ての十字線が3D X線データ内で同じ位置に表示されることを意味します。これにより、円弧構造をビュー超しに割り当てることができます。

3Dビューでは、フレームを表示して、2Dレイヤービューの現在位置を表示します。

ビューの調整には、次の操作が使用できます：

- アクティブなビューの切り替え [▶ ページ 119 - Standalone]
- ビューの最大化および復元 [▶ ページ 120 - Standalone]
- 2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット [▶ ページ 121 - Standalone]
- ビューのズームおよび切り抜きの移動 [▶ ページ 123 - Standalone]
- レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール [▶ ページ 124 - Standalone]
- 十字線およびフレームの移動、非表示、表示 [▶ ページ 125 - Standalone]
- 検査ウィンドウの移動、非表示、表示 [▶ ページ 126 - Standalone]
- ビューをリセットする [▶ ページ 128 - Standalone]

3Dビューを調整することもできます。これに関する情報は、[3Dビューの調整](#) [▶ ページ 130 - Standalone]をご参照ください。

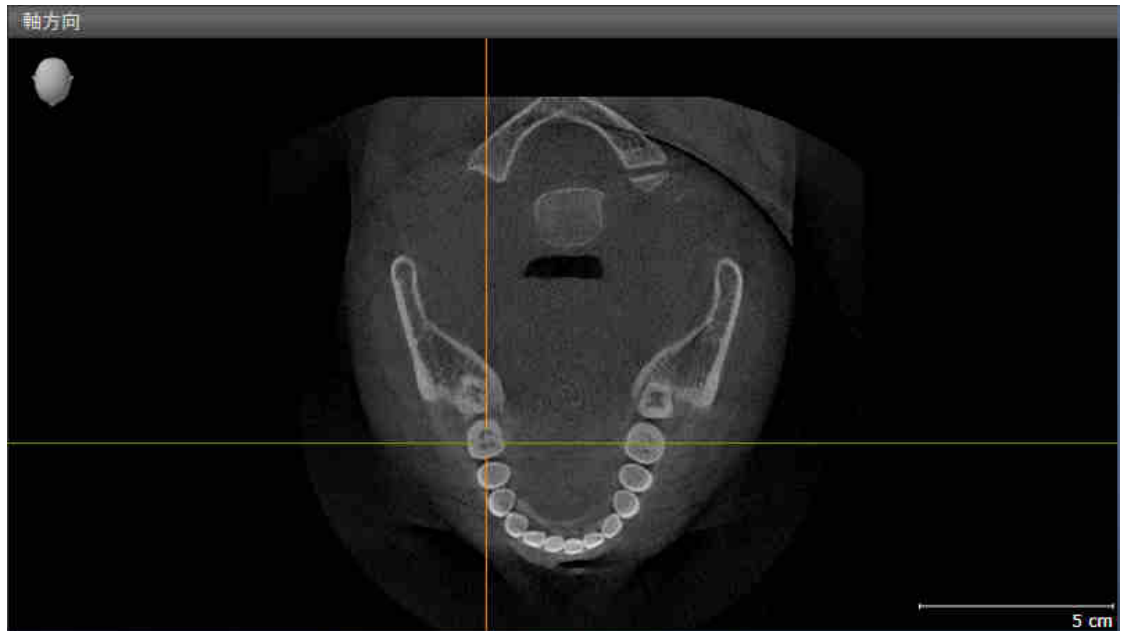
アクティブなビューの内容を記録することができます。これに関する情報は、[画像のスクリーンショットを作成する](#) [▶ ページ 129 - Standalone]をご参照ください。

23.2 アクティブなビューの切り替え

画像のツールバーとタイトルバーが表示されるのは、アクティブなビューに限ります。

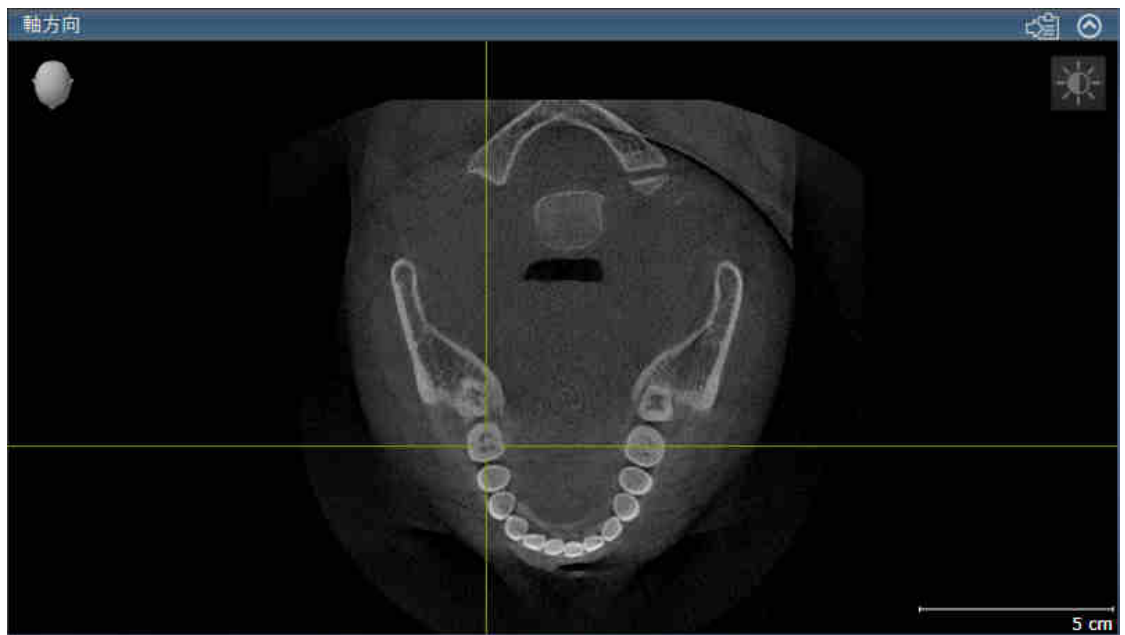
ビューをアクティブにするには、次のように行います。

1. マウスポインタを希望のビュー上に動かします。



2. 希望のビューをクリックします。

▶ SICAT Function がビューをアクティブにします。



アクティブなビューは、タイトルバーがオレンジ色になりますので、それとわかります。

23.3 ビューの最大化および復元

ビューの最大化および前回のサイズの復元は、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望のビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報は以下を参照してください [アクティブなビューの切り替え](#) [▶ ページ 119 - Standalone]。
- ☑ 希望のビューは最大化していません。

- ① 1. 希望のビューのタイトルバーにある**最大化する**のアイコンをクリックします。
▶ SICAT Function がビューを最大化します。
- ② 2. 最大化したビューのタイトルバーにある、**戻す**のアイコンをクリックします。
▶ SICAT Function では、ビューが元のサイズに戻ります。



ビューの最大化および前回のサイズの復元のために、次の代替操作を使用できます。

- ビューを最大化するために、希望のビューのタイトルバーをダブルクリックすることができます。
- ビューの前回のサイズを復元するために、最大化したビューのタイトルバーをダブルクリックすることができます。

23.4 2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット

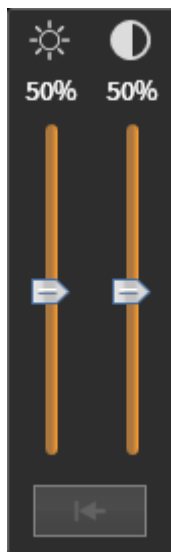
2Dビューで、明るさとコントラストを調整するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望の2Dビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報はアクティブなビューの切り替え [▶ ページ 119 - Standalone]を参照してください。



1. 2Dビューの画像のツールバーに**輝度およびコントラストの調整**のアイコンがありますので、それにマウスポインタを重ねます。

▶ **輝度およびコントラストの調整**の透明なウィンドウが開きます。



2. マウスポインタを**輝度**のスライダーに重ねます。
3. 左マウスボタンをクリックしたら、押したままにして、マウスポインタを上下方向に移動させます。

▶ SICAT Function では、2Dビューを**輝度**のスライダー位置に応じた明るさに調整します。

4. マウスの左ボタンを放します。
- ▶ SICAT Function は2Dビューの現在の輝度を保持します。



5. マウスポインタを**コントラスト**のスライダーに重ねます。
6. 左マウスボタンをクリックしたら、左マウスボタンを押したままにして、マウスポインタを上下方向に移動させます。

▶ SICAT Function では、2Dビューを**コントラスト**のスライダー位置に応じたコントラストに調整します。

7. マウスの左ボタンを放します。
- ▶ SICAT Function は2Dビューの現在のコントラストを保持します。

- マウスポインタを、**輝度およびコントラストの調整**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

▶ **輝度およびコントラストの調整**の透明なウィンドウが閉じます。

2Dビューの明るさとコントラストをデフォルトに復元するときは、**明るさとコントラストをリセットする**のアイコンをクリックしてください。



全2Dレイヤービューの輝度とコントラストは相互に関連しています。

23.5 ビューのズームおよび切り抜きの移動

ビューのズーム

ズーム機能は、ビューの内容を拡大または縮小します。

ビューをズームするときには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを希望のビュー上に動かします。
2. マウスホイールを前に回します。
▶ ビューがズームインします。
3. マウスホイールを後ろに回します。
▶ ビューがズームアウトします。



上記の手順に代えて、マウスホイールをクリックして、マウスを上下方向に移動させても、ズームインやズームアウトができます。

ビューの切り抜きを移動する

トリミング部分を移動させるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを希望のビュー上に動かします。
2. マウスの右ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
▶ マウスポインタの形が切り替わります。
3. マウスを動かします。
▶ ビューの切り抜きは、マウスポインタの動きに応じて移動します。
4. マウスの右ボタンを放します。
▶ SICAT Function では、移動後のトリミング部分がそのまま維持されます。

23.6 レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール

2Dレイヤービューで、レイヤーをスクロールするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを希望の2Dレイヤビュー上に動かします。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
 - ▶ マウスポインタは双方向の矢印になります。
3. マウスを上下方向に移動させます。
 - ▶ **横断**のレイヤーを除き、レイヤーは、平行に移動します。
 - ▶ **横断**のレイヤーは、パノラマ歯列弓に沿って移動した状態が表示されます。
 - ▶ SICAT Function は別のビューのレイヤーおよび十字線を現在の焦点に応じて調整します。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで、その時点の焦点でピントが合うようにフレームの調整が行われます。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、スクロールしてからのレイヤーが維持されます。

23.7 十字線およびフレームの移動、非表示、表示

十字線の移動

2Dレイヤービューで、十字線を移動させるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

現在、すべての字線とフレームが表示されています。

1. マウスポインタを希望のビューで十字線の中心に動かします。

▶ マウスポインタが下記の十字線に切り替わります。



2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。

3. マウスを動かします。

▶ ビューの十字線は、マウスポインタの動きに従います。

▶ SICAT Function は別のビューのレイヤーおよび十字線を現在の焦点に応じて調整します。

▶ SICAT Function では、**3D**ビューで、その時点の焦点でピントが合うようにフレームの調整が行われます。

4. マウスの左ボタンを放します。

▶ SICAT Function では、十字線が移動後の位置を維持します。



十字線をすぐにマウスポインタの位置へ移動させる場合、2Dビューでダブルクリックすることができます。

十字線およびフレームの非表示/表示

十字線およびフレームを非表示/表示にするには、次のように行います。

現在、すべての字線とフレームが表示されています。



1. ワークスペースのツールバーで、**十字線とフレームを非表示にする**のアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function では、すべての2Dレイヤービューで十字線が隠れます。

▶ SICAT Function では、**3D**ビューでフレームが隠れます。



2. **十字線とフレームを表示する**のアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function では、すべての2Dレイヤービューで十字線が表示されます。

▶ SICAT Function では、**3D**ビューでフレームが表示されます。

23.8 検査ウィンドウの移動、非表示、表示

検査ウィンドウの移動

検査ウィンドウを移動させるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ パノラマワークスペースはすでに開いています。これに関する情報は以下を参照してください
アクティブなワークスペースを切り替える [▶ ページ 113 - Standalone]。
- ☑ 検査ウィンドウは、隠さずに表示しておきます。



1. パノラマビューで、**検査ウィンドウ**のタイトルバーにマウスポインタを重ねます。
 - ▶ マウスポインタは手のマークになります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスを動かします。
 - ▶ **検査ウィンドウ**は、マウスポインタの動きに追従します。
 - ▶ SICAT Function は別のビューのレイヤーおよび十字線を現在の焦点に応じて調整します。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで、その時点の焦点でピントが合うようにフレームの調整が行われます。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、**検査ウィンドウ**が移動後の位置を維持します。

検査ウィンドウの非表示/表示



検査ウィンドウの表示と隠すの別を表示するアイコンは、ステータス表示と切替用のアイコンとを同時に兼ねています。

検査ウィンドウを隠したり表示したりするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ パノラマワークスペースはすでに開いています。これに関する情報はアクティブなワークスペースを切り替える。[▶ ページ 113 - Standalone]を参照してください。
- ☑ 検査ウィンドウは、隠さず表示しておきます。



1. パノラマビューで、**画像のツールバーから、検査ウィンドウを非表示にするのアイコン**をクリックします。

▶ SICAT Function では、**検査ウィンドウ**が隠れます。



2. パノラマビューで、**画像のツールバーから、検査ウィンドウを表示するのアイコン**をクリックします。

▶ SICAT Function では、**検査ウィンドウ**が表示されます。

23.9 ビューをリセットする

すべてのビューをリセットするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



- ワークスペースのツールバーで、**ビューをリセットする**のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function では、すべてのビューで、ズームング、トリミング部分の移動、スクロール、十字線の移動、**検査ウィンドウ**の移動のそれぞれがデフォルト値に復元されます。
- ▶ SICAT Function では、3Dビューで視線方向がデフォルト値に復元されます。

23.10 画像のスクリーンショットを作成する

画像のスクリーンショットを作成し、以下の手順で出力すると、文書作成を目的として使用することができます。

- Windowsのクリップボードにコピーする

画像のスクリーンショットをWINDOWSのクリップボードにコピーする

画像のスクリーンショットをWindowsのクリップボードに追加するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 希望のビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報は[アクティブなビューの切り替え \[▶ ページ 119 - Standalone\]](#)を参照してください。



- ビューのタイトルバーから、**スクリーンショットをクリップボードにコピーする (Ctrl+C)** のアイコンをクリックします。
- ▶ SICAT Function では、画像のスクリーンショットがWindowsのクリップボードにコピーされます。



クリップボードからスクリーンショットを貼り付けることができるアプリケーションは、例えば、画像処理やワープロのソフトウェアなど多数あります。貼り付けのショートカットキーは、大半のアプリケーションで「Ctrl+V」を使用します。

24 3Dビューの調整

3Dビューでは、随時、視線方向を変更することが可能です。これに関する情報は以下を参照してください [3Dビューの目線を変更する \[▶ ページ 131 - Standalone\]](#)。

3D画像の構成設定を行うときは、以下の操作を行うことができます。

- [3Dビューの表示タイプを切り替える \[▶ ページ 136 - Standalone\]](#)
- [3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する \[▶ ページ 137 - Standalone\]](#)
- [切り抜きを移動する \[▶ ページ 139 - Standalone\]](#)

24.1 3Dビューの目線を変更する

3Dビューで視線方向を変更する手段は、2種類あります。

- インタラクティブ方式により変更を行う
- 標準目線を選択する

インタラクティブ方式により3Dビューの目線を変更する

3Dビューでインタラクティブ方式により視線方向を変更するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを **3D** 画像に重ねます。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
 - ▶ マウスポインタは手のマークになります。
3. マウスを動かします。
 - ▶ 目線はマウスの動きに合わせて変化します。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで変更後の視線方向をそのまま維持します。

標準目線を選択する

3Dビューで、デフォルトの視線方向を選択するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。



1. **3D**ビューで左上隅にある、オリエンテーションヘッドのアイコンにマウスポインタを重ねます。
 - ▶ 目線の透明なウィンドウが開きます。



- ▶ 目線の透明なウィンドウ中央部で、オリエンテーションヘッドのハイライト表示されているものがありますが、それが現時点の視線方向です。
2. オリエンテーションヘッドのアイコンのうち、デフォルトにしたい視線方向を示しているものをクリックします。

- ▶ 3D画像の視線方向が、選択した視線方向に切り替わります。
3. マウスポインタを、目線の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。
- ▶ 目線の透明なウィンドウが閉じます。

24.2 3Dビューの表示タイプ

3Dビューに関する一般的な情報は3Dビューの調整 [▶ ページ 130 - Standalone]に記載されています。

SICAT Function では、**3D**画像の表示タイプとして、異なる2種類が用意されています。



- **概要**の表示タイプでは、3D X線撮影画像全体の概要を表示します。





- セグメントの表示タイプでは、3D X線撮影画像のトリミング部分に限りますが、移動自在です。



3D画像の表示タイプを選択する手順は、3Dビューの表示タイプを切り替える [[▶ ページ 136 - Standalone](#)]の節をご覧ください。

有効な表示タイプを調整する手順は、3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する [[▶ ページ 137 - Standalone](#)]の節をご覧ください。

24.3 3Dビューの表示タイプを切り替える



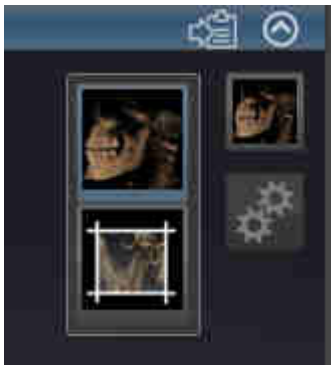
いずれの表示タイプも、すべてのワークスペースで使用できます。

3D画像の表示タイプを切り替えるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 3D画像を作業対象として選択しておきます。これに関する情報は以下を参照してください [アクティブなビューの切り替え](#) [▶ ページ 119 - Standalone]。

1. 3Dビューの画像のツールバーで、**表示モードを切り替える**のアイコンにマウスポインタを重ねます。

▶ **表示モードを切り替える**の透明なウィンドウが開きます。



2. 任意の表示タイプのアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function は希望の表示タイプをアクティブにします。

3. マウスポインタを、**表示モードを切り替える**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

▶ **表示モードを切り替える**の透明なウィンドウが閉じます。

24.4 3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する



アクティブな表示モードを設定するのアイコンを表示する表示タイプは、構成設定が可能なものに限られています。アクティブな表示モードを設定するの透明なウィンドウで表示される設定内容は、選択した表示タイプに適用されるものに限られています。

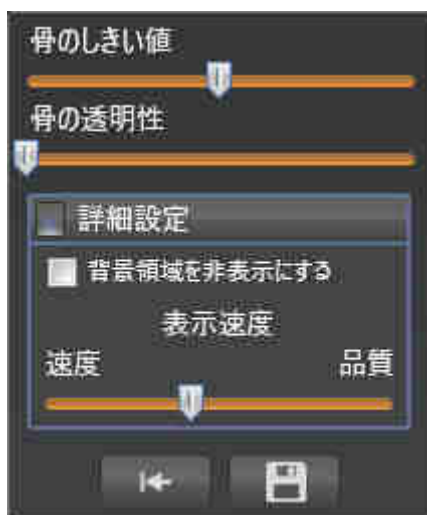
3Dビューで選択している表示タイプについて、構成設定を行うときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ☑ 3D画像を作業対象として選択しておきます。これに関する情報はアクティブなビューの切り替え [▶ ページ 119 - Standalone] を参照してください。
- ☑ 希望の表示タイプはすでにアクティブになっています。これに関する情報は3Dビューの表示タイプを切り替える [▶ ページ 136 - Standalone] を参照してください。
- ☑ アクティブな表示タイプは設定可能です。



1. 3Dビューの画像のツールバーで、アクティブな表示モードを設定するのアイコンにマウスポインタを重ねます。

▶ アクティブな表示モードを設定するの透明なウィンドウが開きます。



2. 希望のスライダーを動かします。
 - ▶ SICAT Function では、3D画像に対して、スライダーの位置に応じた調整が行われます。
3. 表示があれば、**詳細設定**の横にある矢印アイコンをクリックします。
 - ▶ **詳細設定**のコーナーがドロップダウンで展開します。
4. 使用できるチェックボックスをアクティブまたは無効にします。
 - ▶ SICAT Function では、3D画像に対して、チェックボックス内のチェックマーク有無に応じた調整が行われます。
5. 希望のスライダーを動かします。
 - ▶ SICAT Function では、3D画像に対して、スライダーの位置に応じた調整が行われます。

- マウスポインタを、**アクティブな表示モードを設定する**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

▶ **アクティブな表示モードを設定する** の透明なウィンドウが閉じます。



現在の設定内容は、**現在の表示タイプの設定をデフォルト設定にリセットする**のボタンをクリックすると、変更前にプリセットしていた設定内容へ戻して復元することができます。



現在の設定内容は、**現在の表示タイプの設定をデフォルト設定として保存する**のボタンをクリックすると、プリセットの設定内容として保存できます。



利用できる場合、処理速度が低速のコンピュータでは、**表示速度**のスライダーの位置を左の方向へスライドさせてください。

24.5 切り抜きを移動する

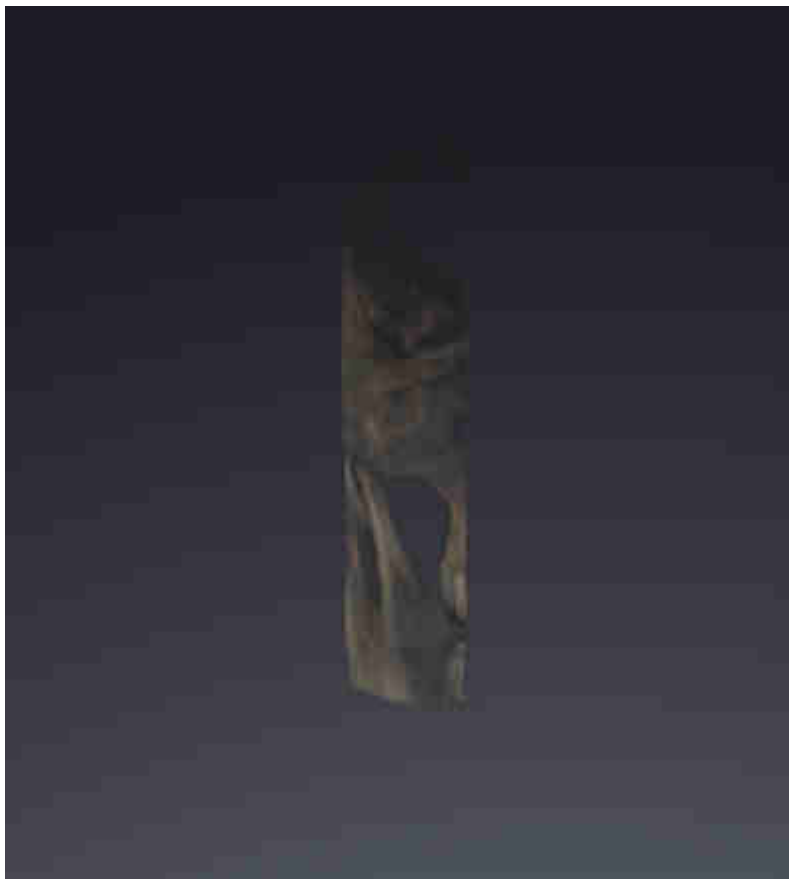
3Dビューに関する一般的な情報は以下に記載されています。 *3Dビューの調整* [▶ ページ 130 - Standalone].

セグメントの表示タイプを利用すると、3Dビューで、立体画像の一部を隠すことができます。その後、SICAT Functionはボリュームの切り抜きデスクのみ表示し、その位置でSICAT Functionが十字線と同期します。切り抜きデスクを移動するには、次のように行います：

- ☑ **セグメント**の表示タイプはすでにアクティブになっています。これに関する情報は以下を参照してください *3Dビューの表示タイプを切り替える* [▶ ページ 136 - Standalone]。



- **軸方向画像、冠状画像、矢状方向画像**のいずれかで、お好みのレイヤーへスクロールします。これに関する情報は**レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール** [▶ ページ 124 - *Standalone*]を参照してください。
- ▶ SICAT Functionは選択したレイヤーに応じて切り抜きデスクを移動します：

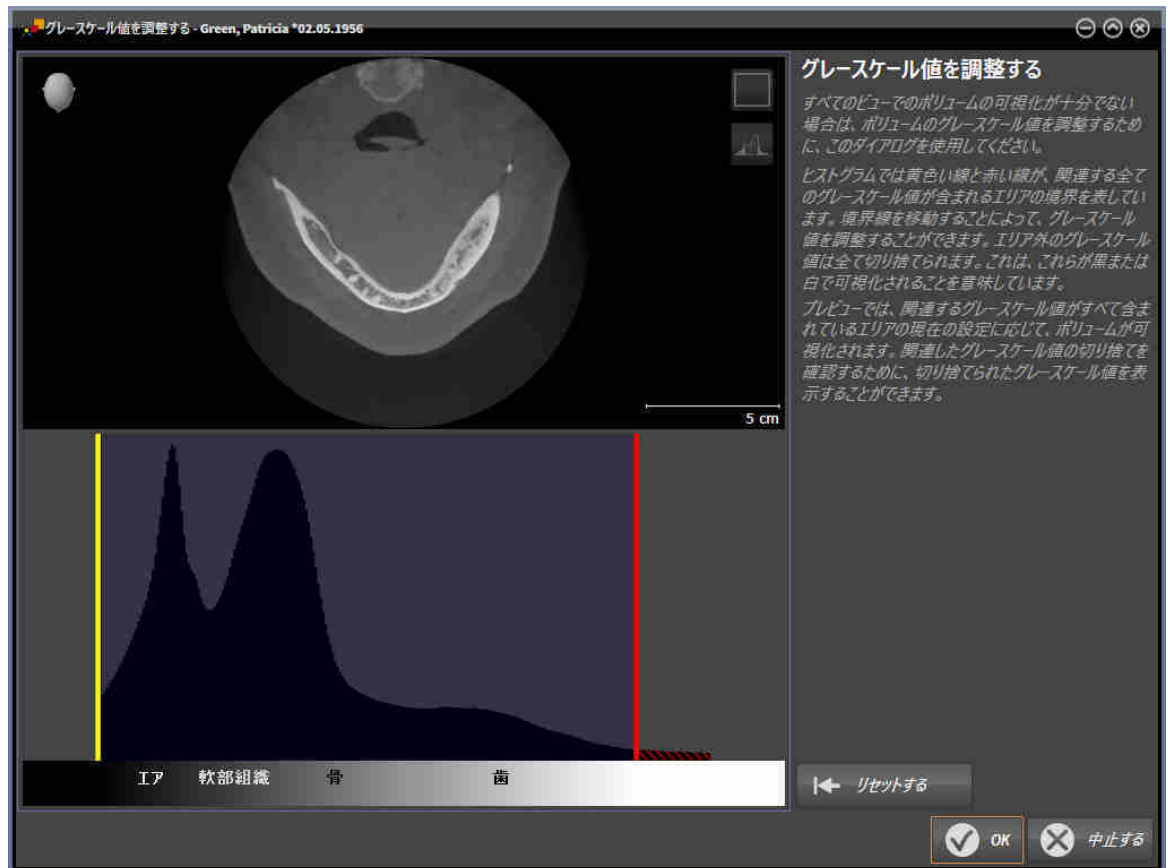


25 グレースケール値



グレースケール値を他社製3D X線機器によって作成されたボリューム用としてのみ調整することができます。

ボリュームの表示が不十分な場合、ボリュームのグレースケール値をグレースケール値を調整するウィンドウで調整することができます。



グレースケール値を調整するウィンドウは二つの部分で構成されています。

- 上側は軸方向レイヤービューまたは冠状投影ビューを示しています。
- 下側は、グレースケール値の度数分布を含むヒストラムを示しています。

ヒストグラムでは黄色い線と赤い線が、関連する全てのグレースケール値が含まれるエリアの境界を表しています。境界を移動することによって、グレースケール値を調整することができます。SICAT Function エリア外のグレースケール値を全て切り捨てます。これは、ソフトウェアがこれらを黒または白で表示することを意味しています。

SICAT Function ボリュームを軸方向レイヤービューまたは冠状投影ビューで、関連する全てのグレースケール値が含まれるエリアに応じて表示します。SICAT Functionに関連するビュー情報が隠れていないことを確認するために、ソフトウェアは切り捨てたグレースケール値を表示することができます。

軸方向レイヤービューでは、レイヤーをスクロールし、これらを個別に切り捨てたグレースケール値でチェックすることができます。

冠状投影ビューでは、全てのレイヤーを一度に切り捨てたグレースケール値でチェックすることができます。

グレースケール値の調整は、全てのビューでボリュームの表示が不十分な場合にのみ行います。これに関する情報はグレースケール値を調整する [▶ ページ 143 - Standalone]を参照してください。

例えば、特定の解剖学的組織をハイライト表示するときは、2Dビューの明るさやコントラストを調整して、一時的に変更することができます。これに関する情報は2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット [▶ ページ 121 - Standalone]を参照してください。

その他、3Dビューの表示を調整することができます。これに関する情報は3Dビューの表示タイプを切り替える [▶ ページ 136 - Standalone]、3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する [▶ ページ 137 - Standalone]と3Dビューの切り抜きモードの切り替えを参照してください。

25.1 グレースケール値を調整する

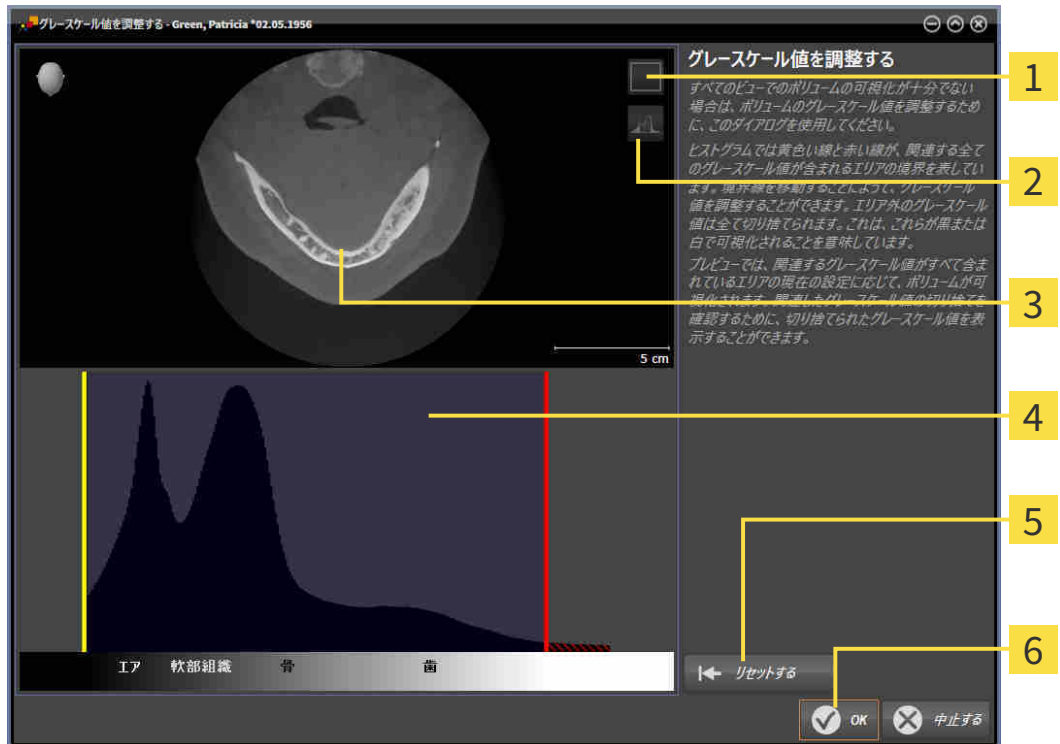
グレースケール値に関する一般的な情報は、[グレースケール値 \[▶ ページ 141 - Standalone\]](#)の節をご覧ください。

ボリュームのグレースケール値を調整するには、次の手順で行います。

- ☑ ワークフロー・ステップの**準備する**は、展開させておきます。



1. **グレースケール値を調整する**のアイコンをクリックします。
▶ **グレースケール値を調整する**のウィンドウが開きます。



- 1 アイコン**冠状の投影モード**をアクティブにするまたはアイコン **軸方向レイヤーモード**をアクティブにする
 - 2 アイコン切り捨てた**グレースケール値**を表示しないまたはアイコン **切り捨てたグレースケール値**を表示する
 - 3 **軸方向レイヤービュー**または**冠状投影ビュー**
 - 4 **ヒストグラム**
 - 5 ボタン**リセットする**
 - 6 ボタン**OK**
2. 軸方向レイヤーモードがアクティブであることを確認してください。必要に応じて、**軸方向レイヤーモード**をアクティブにするのアイコンをクリックします。
 3. 関連する全てのグレースケール値が含まれるエリアの下限を調整するには、**黄色い線**を移動させます。

- ▶ SICAT Function は**軸方向**レイヤービューで全てのグレースケール値を適度に調整します。
 - ▶ SICAT Function は関連する最低グレースケール値より低い全てのグレースケール値を黄色で表示します。
4. 軸方向レイヤーをスクロールします。関連する全てのグレースケール値が黄色で表示されていないことを確認します。必要に応じて、黄色い線をもう一度移動させます。
 5. 関連する全てのグレースケール値が含まれるエリアの上限を調整するには、赤色の線を移動させます。
 - ▶ SICAT Function は**軸方向**レイヤービューで全てのグレースケール値を適度に調整します。
 - ▶ SICAT Function は関連する最高グレースケール値より高い全てのグレースケール値を赤色で表示します。
 6. 軸方向レイヤーをスクロールします。関連する全てのグレースケール値が赤色で表示されていないことを確認します。必要に応じて、赤色の線をもう一度移動させます。
 7. OKをクリックします。
- ▶ **グレースケール値を調整する**ウィンドウが閉じ、SICAT Functionが調整されたグレースケール値に応じてすべてのビューでボリュームを表示します。

記載されている手順に加え、以下の操作が**グレースケール値を調整する**ウィンドウで使用できます：



- **冠状の投影モードをアクティブにする**アイコンをクリックして、すべてのレイヤーを一度に判断することもできます。**軸方向レイヤーモードをアクティブにする**アイコンをクリックすることにより、**軸方向レイヤービュー**を再び切り替えることができます。
- 両方の境界を一度に移動させるには、関連する全てのグレースケール値が含まれるエリアをクリックして移動させます。
- 関連する全てのグレースケール値が含まれるエリアを標準設定にリセットするには、**リセットする**ボタンをクリックします。
- 切り捨てられたグレースケール値を表示したくない場合、**切り捨てたグレースケール値を表示しない**アイコンをクリックします。
- 変更内容を保存しない場合、**中止する**をクリックします。

26 ボリュームの配置およびパノラマエリア



ボリュームの配置の調整が必要な場合は、作業開始に3D X線ビューでこれを実行してください。ボリュームの配置を後で調整する場合は、診断または計画の一部の場合によっては繰り返す必要があります。

ボリュームの配置

すべてのビューのボリューム配置は、3本の主軸にボリュームを回して調整できます。これは、次のような場合に必要になることがあります。

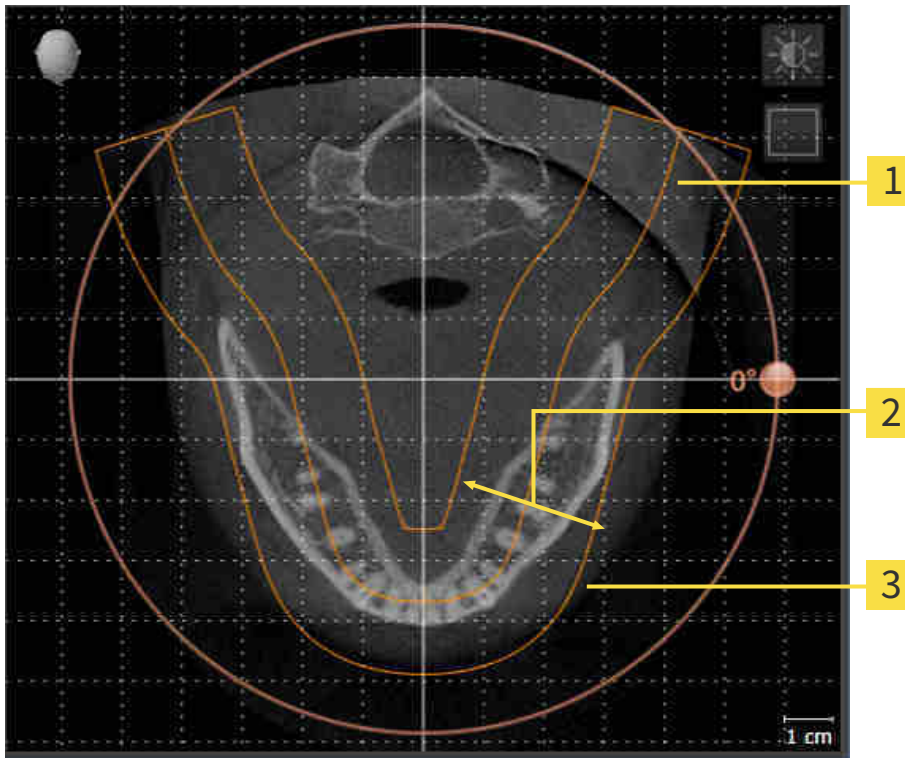
- 3D X線撮影の際に、患者の位置決めが最適ではなかった
- 軸方向レイヤーの配置がフランクフルト水平に平行または咬合平面に平行などの用途後の配置
- パノラマビューの最適化

SICAT Functionで、ボリュームの配置を調整すると、この調整した内容は、SICATの別アプリケーションすべてに適用されます。

ボリュームの配置を調整する手順は、*ボリュームの配置を調整する* [[▶ ページ 147 - Standalone](#)] の節をご覧ください。

パノラマエリア

SICAT Functionでは、ボリュームとパノラマエリアをベースとして計算を行い、パノラマ画像を出力します。パノラマビューを最適化するには、パノラマエリアが患者の両顎と合致するように調整を行うとよいでしょう。これは、効果的かつ効率的な診断および治療計画のために重要となります。



1 パノラマ曲線

2 厚さ

3 パノラマエリア

パノラマエリアは次の二つの要素によって確定されています。

- パノラマ歯列弓の形状と位置
- パノラマエリアの幅

最適な調整結果を得るために、パノラマエリアは、以下の2項目の条件をいずれも満たしておいてください。

- パノラマエリアは、全ての歯と両顎が完全に含まれていなくてはなりません。
- パノラマエリアは、できるだけ薄くしてください。

SICAT Functionで、パノラマエリアを調整すると、この調整した内容は、SICATの別アプリケーションのすべてに適用されます。

パノラマエリアを調整する手順は、以下の節をご覧ください。 [パノラマエリアを調整する](#) [▶ ページ 152 - Standalone].

26.1 ボリウムの配置を調整する

ボリウムの配置に関する一般的な情報はボリウムの配置およびパノラマエリア [▶ ページ 145 - Standalone] に記載されています。

ボリウムの配置は、以下の手順で調整を行います。

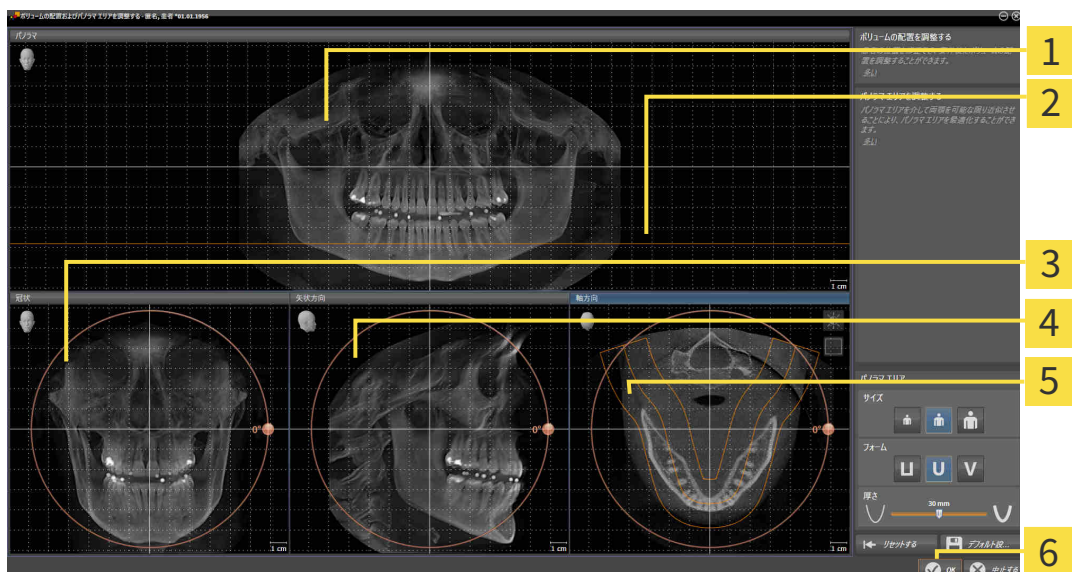
- ボリウムの配置およびパノラマエリアを調整するのウィンドウを開く
- 冠状ビューでボリウムを回す
- 矢状方向ビューでボリウムを回す
- 軸方向ビューでボリウムを回す

「ボリウムの配置およびパノラマエリアを調整する」のウィンドウを開く

ワークフロー・ステップの準備するは、展開させておきます。



- ボリウムの配置およびパノラマエリアを調整しますのアイコンをクリックします。
- ▶ ボリウムの配置およびパノラマエリアを調整するのウィンドウが開きます。



1 パノラマ-ビュー

2 軸方向基準線

3 冠状ビューと回転スライダー

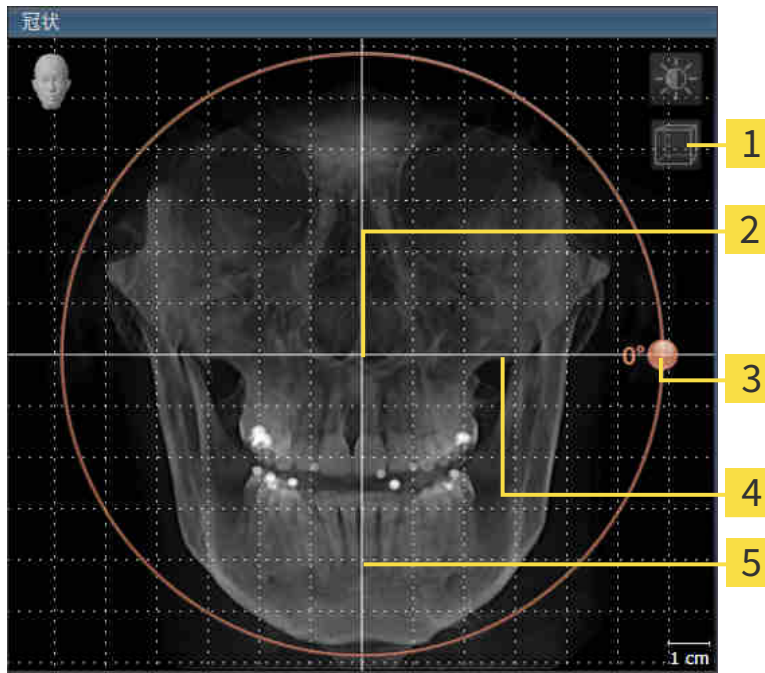
4 矢状方向ビューと回転スライダー

5 軸方向ビューと回転スライダー

6 ボタン OK

冠状ビューでボリウムを回す

1. 冠状ビューをアクティブにします。

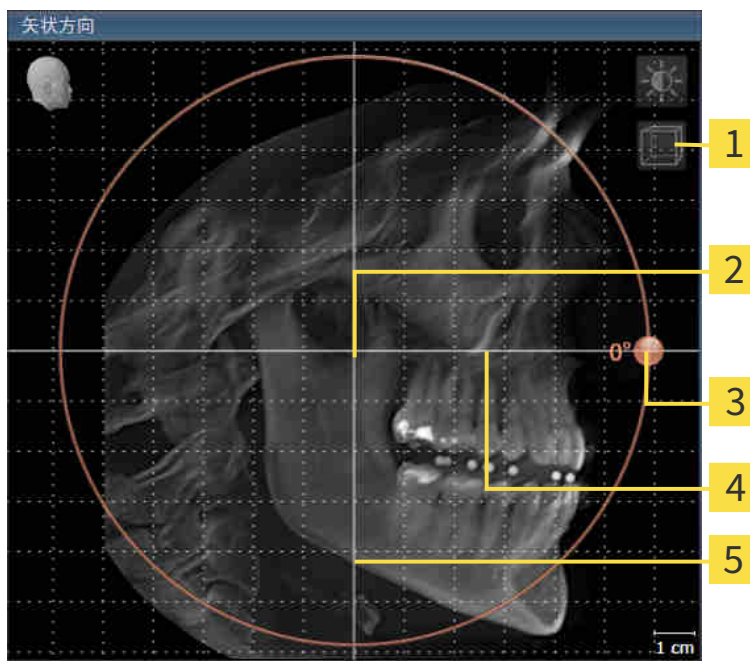


- | | | | |
|---|--|---|-------|
| 1 | アイコンレイヤーモードをアクティブにするまたはアイコン 投影モードをアクティブにする | 4 | 水平基準線 |
| 2 | 回転中心 | 5 | 垂直基準線 |
| 3 | 回転調整つまみ | | |

2. 投影モードがアクティブであることを確認してください。必要に応じて、**投影モードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。
3. マウスポインタを**回転調整つまみ**に重ねます。
4. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
5. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転調整つまみ**を移動させます。
 - ▶ SICAT Function では、**冠状ビュー**で立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。
6. 希望するボリウムの回転がなされた場合はマウスの左ボタンを放します。水平基準線、垂直基準線、格子線は、位置や方向の確認に利用します。

矢状方向ビューでボリユームを回す

1. 矢状方向ビューをアクティブにします。

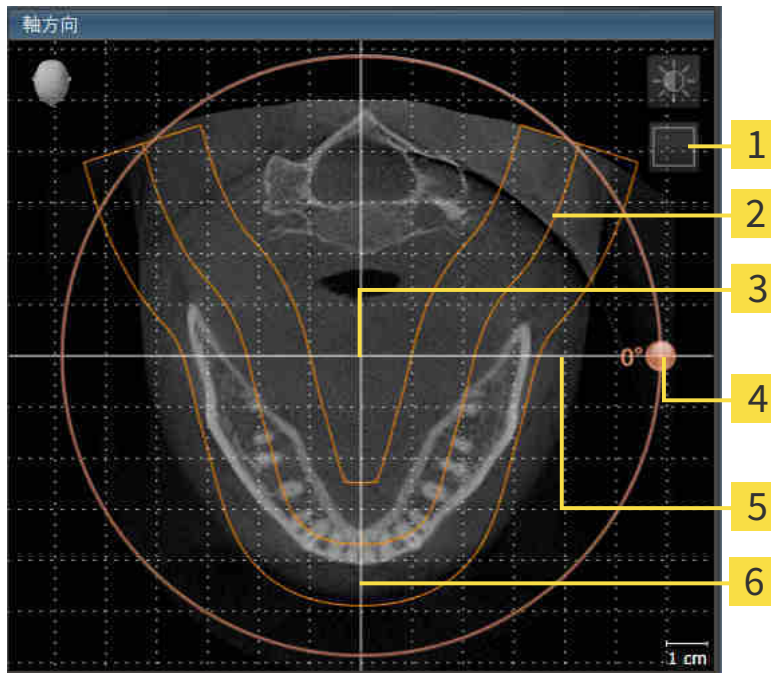


- | | |
|---|---|
| <p>アイコンレイヤーモードをアクティブにするまたはアイコン 1 投影モードをアクティブにする</p> <p>2 回転中心</p> <p>3 回転調整つまみ</p> | <p>4 水平基準線</p> <p>5 垂直基準線</p> |
|---|---|

2. 投影モードがアクティブであることを確認してください。必要に応じて、**投影モードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。
3. マウスポインタを**回転調整つまみ**に重ねます。
4. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
5. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転調整つまみ**を移動させます。
 - ▶ SICAT Function では、**矢状方向ビュー**で立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。
6. 希望するボリユームの回転がなされた場合はマウスの左ボタンを放します。水平基準線、垂直基準線、格子線は、位置や方向の確認に利用します。

軸方向ビューでボリユームを回す

1. 軸方向ビューをアクティブにします。



アイコン投影モードをアクティブにする

- | | |
|----------------------------------|------------------|
| 1 またはアイコンレイヤーモードをアクティブにする | 4 回転調整つまみ |
| 2 パノラマエリア | 5 水平基準線 |
| 3 回転中心 | 6 垂直基準線 |

2. レイヤーモードがアクティブであることを確認してください。必要に応じて、**レイヤーモードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。
3. 例えば、パノラマビューで軸方向基準線をマウスの左ボタンをクリックし、左ボタンを押したままマウスを上下に動かして下顎骨/歯の根のレイヤーをスクロールします。
4. その必要があれば、パノラマエリアの移動は、**軸方向ビュー**で行います。このときは、パノラマエリア上で左マウスボタンをクリックしたら、左マウスボタンを押したまま、マウスを移動させます。SICAT Function では、パノラマエリアが移動すれば、それに応じて、回転中心、水平基準線、垂直基準線がいずれも移動します。
5. マウスポインタを**回転調整つまみ**に重ねます。
6. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
7. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転調整つまみ**を移動させます。
 - ▶ SICAT Function では、**軸方向ビュー**で立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。

8. 希望するボリュームの回転がなされた場合はマウスの左ボタンを放します。パノラマエリア、水平基準線、垂直基準線、格子線は、位置や方向の確認に利用します。
9. 調整した後の内容を保存するときは、**OK**をクリックします。
 - ▶ ボリュームの配置を調整すると、それがSICATのアプリケーションに現在あるオブジェクトに影響する場合は、SICAT Functionで、通知ウィンドウが開き、影響の詳細についてお知らせします。
10. それでもなお、ボリュームの配置の調整を行いたいときは、通知ウィンドウに**調整する**のボタンがありますので、それをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は調整されたボリュームの配置を保存し、配置に応じてボリュームをすべてのビューで表示します。

説明のある手順に加えて、**ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する**のウィンドウでは、以下の各操作が可能です。



- 2Dビューでは、明るさやコントラストを調整できます。このときは、希望のビューをアクティブにし、**輝度およびコントラストの調整**のアイコンをクリックしてください。これに関する情報は**2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット** [▶ ページ 121 - Standalone]を参照してください。
- ビューでズームすることができます。SICAT Function **軸方向**ビューの画像付のビュー間のズームを同期します。
- **リセットする**のボタンをクリックすると、ボリュームの配置やパノラマエリアをデフォルトに復元できます。
- **デフォルト設定を保存する**のボタンをクリックすると、立体画像の現時点の方向や現時点のパノラマエリアを、プリセットの設定内容として保存できます。
- 調整した後の内容を保存する必要がないときは、**中止する**をクリックしてください。

26.2 パノラマエリアを調整する

パノラマエリアに関する一般的な情報は、*ボリュームの配置およびパノラマエリア* [▶ ページ 145 - Standalone]の節をご覧ください。

パノラマエリアの調整は、以下の手順で調整を行います。

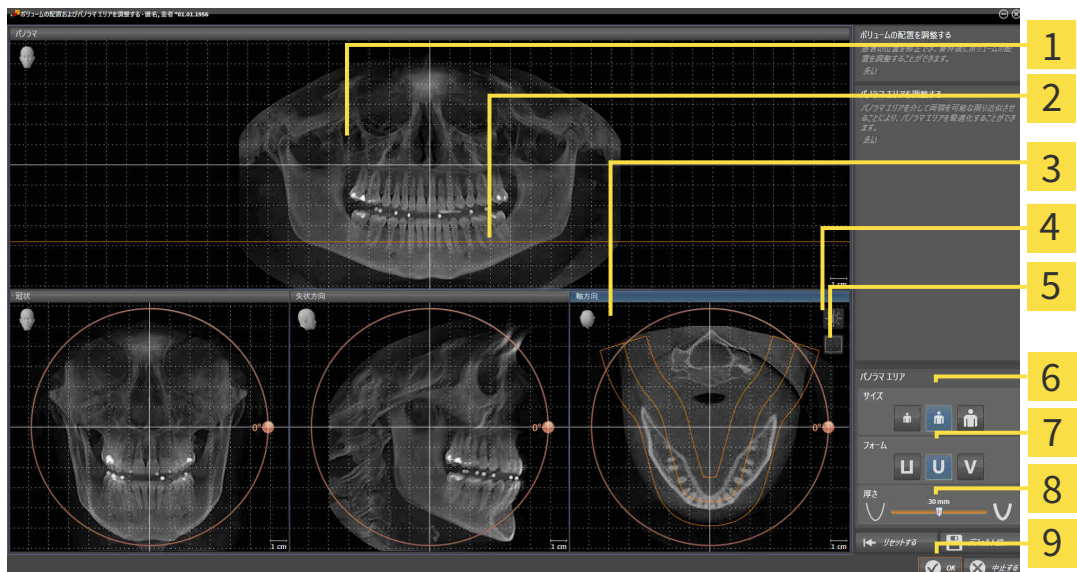
- **ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する**のウィンドウを開く
- 軸方向ビューのレイヤー位置を調整する
- パノラマエリアを移動する
- 軸方向ビューでボリュームを回す
- サイズ、フォーム、厚さのそれぞれのパノラマエリアを調整する

「ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する」のウィンドウを開く

ワークフロー・ステップの**準備する**は、展開させておきます。



- ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整しますのアイコンをクリックします。
- ▶ ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する のウィンドウが開きます。



- | | |
|--|-------------------|
| 1 パノラマ-ビュー | 6 サイズ-ボタン |
| 2 軸方向基準線 | 7 フォーム-ボタン |
| 3 軸方向ビューと回転スライダー | 8 厚さ-スライダー |
| 4 アイコン 輝度およびコントラストの調整 | 9 ボタン OK |
| 5 アイコン 投影モードをアクティブにする
またはアイコン レイヤーモードをアクティブにする | |

軸方向ビューのレイヤー位置を調整する



1. 軸方向ビューで、レイヤーモードが選択されていることを確認します。必要に応じて、**レイヤーモードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。
2. パノラマビューで、軸方向基準線にマウスポインタを重ねます。軸方向基準線は、**軸方向ビュー**の現在のレイヤー位置を示しています。
3. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
4. マウスを上下方向に移動させます。
 - ▶ **軸方向画像**のレイヤーは、**パノラマビュー**で、水平断面の基準線がある位置に合わせて、調整が行われます。
5. 軸方向基準線が下顎骨/歯の根に来たら、マウスの左ボタンから指を放します。
 - ▶ **軸方向ビュー**では、調整後のレイヤーが表示されて維持されます。

パノラマエリアを移動する

1. **軸方向**ビューで、マウスポインタをパノラマエリアに重ねます。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
 - ▶ マウスポインタの形が切り替わります。
3. マウスを動かします。
 - ▶ SICAT Function では、マウスポインタの位置に合わせて、パノラマエリアの調整が行われます。
4. パノラマエリアの中央の曲線が下顎骨/歯の根に来たら、マウスの左ボタンから指を放します。
 - ▶ パノラマエリアは現在位置を保持します。

軸方向ビューでボリウムを回す

1. **軸方向**ビューで、マウスポインタを**回転調整つまみ**に重ねます。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転調整つまみ**を移動させます。
 - ▶ SICAT Function では、**軸方向**ビューで、回転調整つまみに合わせて、立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。
4. 下顎骨/歯の根がパノラマエリアの中央の曲線に来たら、マウスの左ボタンから指を放します。

パノラマエリアのサイズ、フォームおよび厚さを調整する



1. パノラマエリアの**サイズ**は、患者の下顎骨と合致が最も良好なものを選択します。このときは、そのサイズに該当する、**サイズ**のボタンをクリックします。



2. パノラマエリアの**フォーム**は、患者の下顎骨と合致が最も良好なものを選択します。このときは、そのサイズに該当する、**フォーム**のボタンをクリックします。



3. **軸方向**ビューで、投影モードが選択してあることを確認します。必要に応じて、**投影モードをアクティブにする**のアイコンをクリックします。



4. **厚さ**のスライダー位置を移動させて、パノラマエリアの**厚さ**を選択します。パノラマエリアに全ての歯と両顎が完全に含まれていることを確認します。厚さは、できるだけ薄くしてください。

5. 調整した後の内容を保存するときは、**OK**をクリックします。

▶ SICAT Function では、ボリュームの配置とパノラマエリアについて、いずれも調整した後のものが保存され、パノラマ画像は、その調整後のデータにより表示されます。

説明のある手順に加えて、**ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する**のウィンドウでは、以下の各操作が可能です。



- 2Dビューでは、明るさやコントラストを調整できます。このときは、希望のビューをアクティブにし、**輝度およびコントラストの調整**のアイコンをクリックしてください。これに関する情報は**2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット** [▶ ページ 121 - Standalone]を参照してください。
- ビューでズームすることができます。SICAT Function **軸方向**ビューの画像付のビュー間のズームを同期します。
- **リセットする**のボタンをクリックすると、ボリュームの配置やパノラマエリアをデフォルトに復元できます。
- **デフォルト設定を保存する**のボタンをクリックすると、立体画像の現時点の方向や現時点のパノラマエリアを、プリセットの設定内容として保存できます。
- 調整した後の内容を保存する必要がないときは、**中止する**をクリックしてください。

27 顎運動データ

顎運動や顎の位置は、患者別で固有ですが、これらより患者の咀嚼動作に関する情報が得られます。これらの情報は、患者の分析および診断のために利用することができます。さらに、これらのデータを患者の治療計画に組み込むこともできます。

SICAT Functionは、患者固有の顎運動と顎位置を可視化します。アプリケーションは、以下の顎運動データソースを使用します。

- 顎運動撮影機器（JMT）からの顎運動データ
- 顎運動撮影機器の静的位置
- 口内カメラで撮影した頬の咀嚼位置

顎運動データを収集する機器として、ソフトウェアを使用できるもののリストは、*互換性のある顎運動撮影機器* [▶ ページ 157 - Standalone]の節をご覧ください。

頬の咀嚼位置光学印象と共にインポートすることができます。これに関する情報は*光学印象* [▶ ページ 171 - Standalone]を参照してください。

顎運動データを表示するための準備をするには、顎運動データのインポートの他に、その他のステップを実施する必要があります。これに関する情報は*SICAT Functionの標準ワークフロー* [▶ ページ 35 - Standalone]を参照してください。

必要なデータがすべて準備できたら、顎運動データに関する次の操作を行うことができます：

- *顎運動と連携する* [▶ ページ 183 - Standalone]
- *3Dビューで運動の軌跡を表示する* [▶ ページ 186 - Standalone]
- *検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する* [▶ ページ 187 - Standalone]
- *レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する* [▶ ページ 188 - Standalone]

顎運動データに関する表示の正確性

0.6 mm以下

27.1 互換性のある顎運動撮影機器



注意

使用目的に適合しない顎運動撮影機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

必ずSICAT Functionで顎運動データの利用をカバーするという使用目的に適合する顎運動撮影機器を使用してください。



注意

対応していない顎運動撮影機器または互換性のない記録装置を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

顎運動データの記録にあたり、顎運動の記録機器（例えば、SICAT JMT⁺）と、これに適合する、採得用の器具（例えば、SICAT Fusion Bite）をコンビにしますが、これは、SICAT Functionがサポートするものを使用し、また、それ以外の機器や器具によるデータは、利用しないでください。

必ず互換性のある顎運動撮影機器と対応している記録装置の組み合わせで取得した顎運動データを使用してください。互換性のある顎運動撮影機器で撮影した顎運動データのみSICAT Functionにインポートしてください。SICAT JTIフォーマットV1.0インターフェースに対応している顎運動撮影機器で撮影した顎運動撮影データのみSICAT Functionにインポートすることができます。

現在、SICAT Functionは、次の顎運動撮影機器と顎運動記録装置の組合せに対応しています。

- SICAT JMT⁺とSICAT Fusion Biteの組合せ。製造元は、次のとおりです：SICAT GmbH & Co. KG, Brunnenallee 6, 53177 Bonn

27.2 顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録



注意

3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



注意

不適切な顎運動データ用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の顎運動データを使用してください。



注意

間違って撮影された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データおよび3D X線撮影画像は、各機器のメーカーの指示に従って撮影してください。指定されたタイプの参照オブジェクトを使用してください。



注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない顎運動データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



注意

顎運動データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした顎運動データのインテグリティと品質を確認してください。



注意

顎運動データの品質、正確性、解像度が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質、解像度、正確性の顎運動データを利用してください。



過度なアーチファクト、不十分な解像度、または3D X線撮影画像の品質が十分でない場合、マーカーおよび参照オブジェクトを認識するメカニズムにエラーが生じるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確なマーカー/参照オブジェクト認識を可能にする3D X線撮影画像を使用してください。



参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が間違っていると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

JMTウィザードが参照オブジェクトを認識した後、3D X線撮影画像を考慮しながら、参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が正しいか確認してください。



間違って記録された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された顎運動データが3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。



顎運動データを正確に記録するために、SICATは次のパラメーターを含む3D X線データを使用することを推奨します。

1. レイヤーの厚さ：0.7mm以下
2. ボクセルサイズ：全3次元で0.7mm以下



撮影した顎運動データをSICAT Functionにインポートする前に、顎運動データ用機器のソフトウェアからデータをエクスポートする必要があります。SICAT Functionに適合しているファイルのエクスポートについては、顎運動データ用機器の取扱説明書に記載されています。



開いている撮影結果がすでに記録済みの顎運動データを含んでいる場合、**顎運動データをインポートして記録する**を再度開く際に、SICAT Functionがこれらのデータを削除することを確認する必要があります。



顎運動データのインポート中に、SICAT Functionが後で認識できるように、**軸方向の顎運動データをインポートして記録する**ビュー内に3個のボールマーカーを識別表示する必要があります。

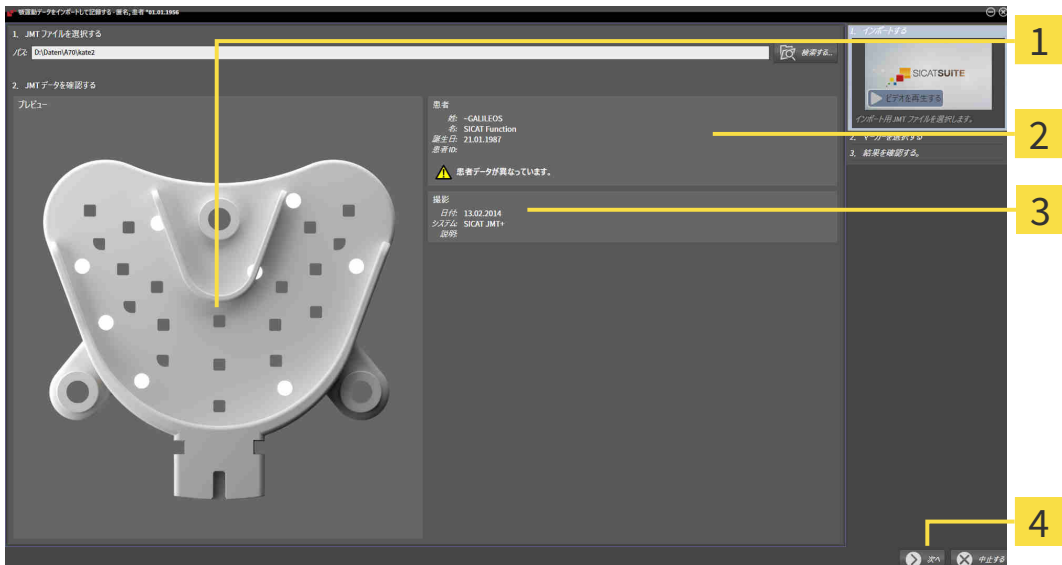
顎運動データに関しての一般的な内容は以下の節をご覧ください。 [顎運動データ \[▶ ページ 156 - Standalone\]](#)。

顎運動データのインポートおよび記録は、次のように行います。

- ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [\[▶ ページ 97 - Standalone\]](#)を参照してください。



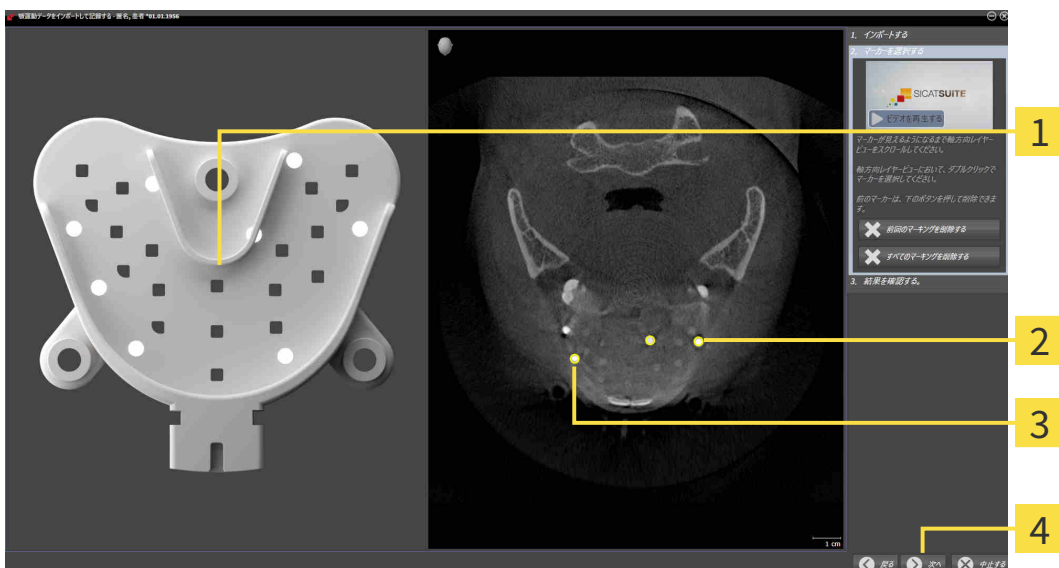
1. **顎運動データをインポートして記録する**のアイコンをクリックします。
 - ▶ のステップで、アシスタント機能**顎運動データをインポートして記録する**が開いています。
2. アシスタントの **顎運動データをインポートして記録する** で、**検索する**のボタンをクリックします。
 - ▶ **JMT エクスポートファイルを読み込む**のウィンドウが開きます。
3. **JMT エクスポートファイルを読み込む**のウィンドウで、顎運動データを保存してある、お好みのファイルに変更したら、そのファイルをハイライト表示にして、**開く**をクリックします。
 - ▶ **JMT エクスポートファイルを読み込む**のウィンドウが閉じ、SICAT Functionは、顎運動データを保存してある、お好みのファイルへのパスを、**パス**のボックスへ転送します。
 - ▶ **バイトフォークビュー**には、顎運動データを記録する間に使用した咬合ピースのプレビューを表示します。
 - ▶ **患者** エリアと **撮影** エリアには、顎運動データのファイルに保存してある情報を表示します。



- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1 SICAT Fusion Biteのビュー | 3 エリア 撮影 |
| 2 エリア 患者 | 4 ボタン 次へ |

4. 顎運動データを含むファイルが現在のスタディに適合するか確認します。
5. **次へ**をクリックします。

▶ のステップが開きます。



1 バイトフォーク-ビュー

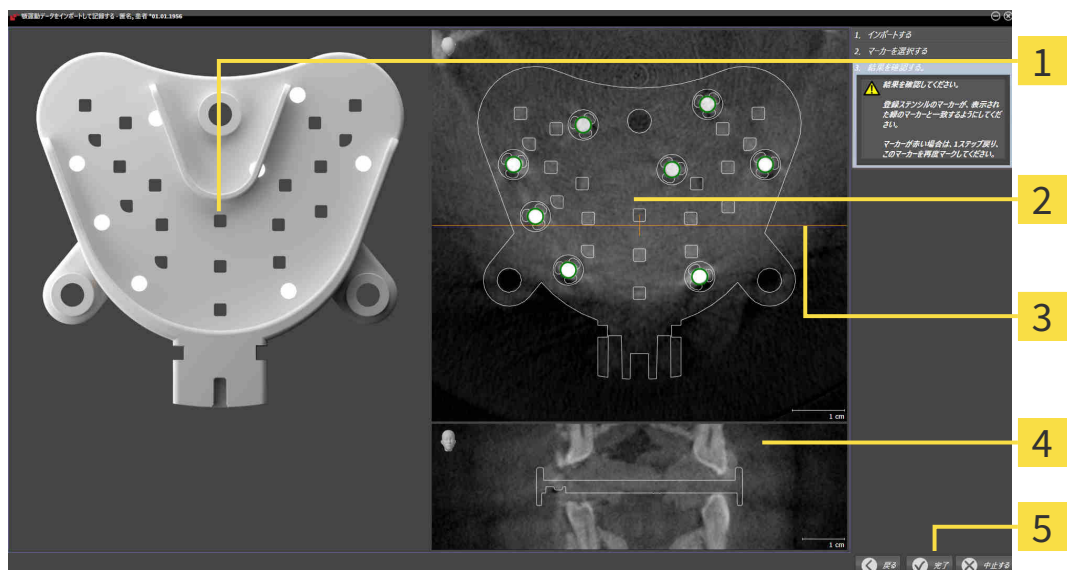
3 選択されたマーキング

2 軸方向-ビュー

4 ボタン 次へ

6. 軸方向のレイヤービューにボールマーカーが1個以上表示されるまで、軸方向レイヤーをスクロールします。
7. 軸方向のレイヤービューで、ボールマーカーをダブルクリックします。
 - ▶ SICAT Function がボールマーカーにマークを付けます。
8. 3個のボールマーカーにマークが付けられるまで、最後の手順を繰り返します。
9. 次へをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は顎運動データを記録します。

▶ のステップが開きます。



1 バイトフォーク-ビュー

4 冠状-ビュー

2 軸方向-レイヤービュー

5 ボタン完了

3 冠状の基準線

10. ボールマーカーがバイトフォーク上と軸方向レイヤービュー内で一致していることを確認してください。

11. SICAT Functionでは、咬合ピースの位置が正確に認識されていることを、**冠状ビュー**で確認します。**軸方向ビュー**で、冠状断の基準線を移動させるか、または、**冠状ビュー**で、断面面をスクロールします。

12. **完了**をクリックします。

▶ SICAT Function は記録済みの顎運動データをインポートします。

▶ アシスタント機能の **顎運動データをインポートして記録する** が閉じます。

▶ SICAT Function では、**オブジェクトブラウザ**で、**顎運動データ**のオブジェクトを表示します。これに関する情報は **SICAT Functionオブジェクト** [▶ ページ 105 - Standalone]を参照してください。



記載されている手順に加え、以下の操作が**顎運動データをインポートして記録する**で使用できます。

- 前回セットしたマーカーを取り消したいときは、**前回のマーキングを削除する**のボタンをクリックします。
- **バイトフォーク**がX線データに正確に合わせられていない場合、**戻る**ボタンをクリックし、別の位置にあるマーカーでの手順を繰り返します。
- 顎運動データのインポートおよび記録を中断する場合、**中止する**をクリックすることができます。

28 セグメンテーション



注意

3D X線撮影画像の過度なアーチファクトまたは不十分な解像度は、セグメンテーションプロセスの失敗または不十分な結果につながるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトの可能性ががあります。

解剖学的構造関連のセグメンテーションの品質が十分である3D X線撮影画像のみ使用してください。



注意

セグメンテーションの品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

セグメンテーションの品質が使用目的に対して十分であるか確認してください。

下顎骨の運動を表示するときは、下顎骨と背景の境界線を指定してください。これがセグメンテーションと呼ばれます。下顎のセグメンテーションで、患者の下顎と窩の両方ともセグメントすることができます。SICAT Functionでは、セグメンテーションは半自動プロセスです。

半自動プロセスとは、下顎と窩のパーツを描画ツールにより手動で下顎のセグメンテーションに描かなくてはならないことを意味します。マークを付けると、セグメンテーションアシストは類似のエリアを自動指定します。

下顎と窩のセグメンテーション用として、以下の操作を行うことができます。

- 下顎骨をセグメントする [▶ ページ 165 - Standalone]
- 窩をセグメントする [▶ ページ 168 - Standalone]

下顎をセグメントした後、以下の操作を行うことができます。

- 3Dビューでの患者の解剖学的動作の可視化および再生。これに関する情報は顎運動と連携する [▶ ページ 183 - Standalone]を参照してください。
- 3Dビューでの患者の解剖学的運動経路の可視化および再生。これに関する情報は3Dビューで運動の軌跡を表示する [▶ ページ 186 - Standalone]を参照してください。
- TMJのワークスペースで、移動後の顎関節をビジュアル化する。これに関する情報はTMJワークスペースの各種機能 [▶ ページ 189 - Standalone]を参照してください。

28.1 下顎骨をセグメントする



アシスタント機能の **下顎と顎状突起をセグメントする**は、起動時に毎回セグメントの事前計算を実行します。事前計算の時間は、使用するコンピューターの性能によって異なります。



SICAT Function のセグメンテーションは解剖学的輪郭の代わりにエリアで作業します。従って、解剖学的輪郭を正確にトレースする必要はありません。それに代えて、そのエリアの内部にラインを引いて、セグメント化に関するエリアを指定してください。

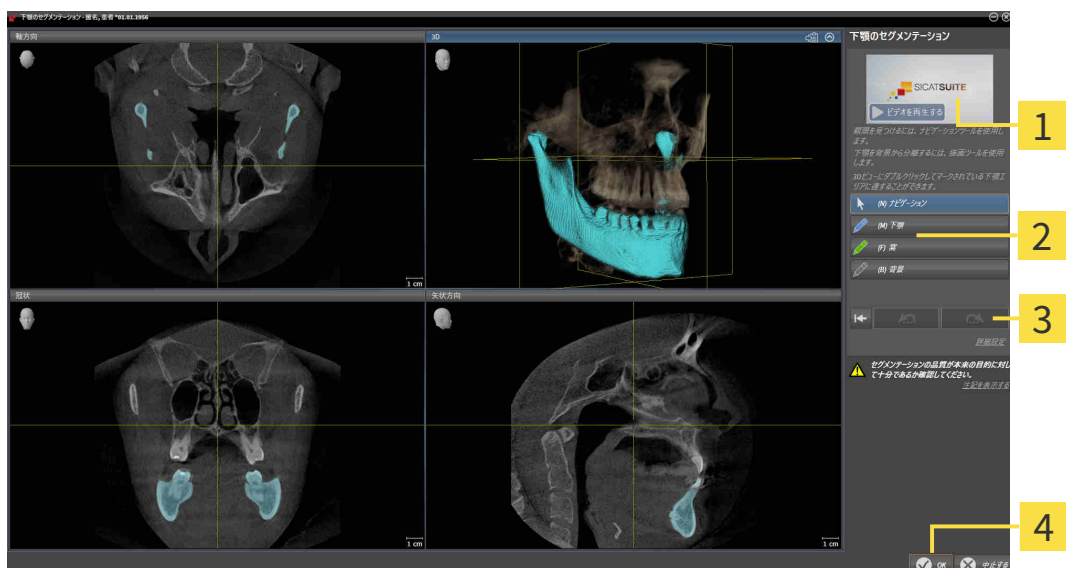
セグメンテーションに関する内容は、**セグメンテーション** [▶ ページ 164 - Standalone]の節をご覧ください。

下顎骨をセグメントするには、次のように行います。

- ☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 97 - Standalone]を参照してください。



1. **下顎と顎状突起をセグメントする**のアイコンをクリックします。
▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション**が開きます。



1 事例ビデオ

3 ボタンリセットする、ボタン戻す、およびボタン繰り返す

2 エリア 描画ツール

4 ボタン OK

- ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション**は、セグメントの事前計算を実行します。

2. 軸方向ビュー、冠状ビュー、矢状方向ビューを下顎と窩が見えるように調整します。



3. 下顎のボタンをクリックします。
4. マウスポインタを希望の2Dレイヤービューで下顎骨上に動かします。

- ▶ マウスポインタはペンになります。
- 5. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
- 6. 下顎骨の内側の部分でマウスをドラッグします。
 - ▶ SICAT Function に、青色の線によるマーキングが表示されます。
- 7. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function はマーキングに従って下顎骨をセグメントします。
- 8. 補助エリアを下顎骨に追加する場合、ナビゲーションアイコンをクリックし、2Dビュー内で希望の構造に移動し、これらに上記の手順でマークを付けます。
- 9. セグメンテーションが希望通りの場合、OK ボタンをクリックします。
 - ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** が閉じます。
 - ▶ SICAT Function では、オブジェクトブラウザで、**ボリューム-部位**のオブジェクトを表示します。これに関する情報は *SICAT Function* オブジェクト [▶ ページ 105 - Standalone] を参照してください。
 - ▶ 3Dビューにセグメンテーション結果が表示されます



背景描画ツールは、範囲に背景としてマークを付ける、または半自動セグメンテーションの大き過ぎる範囲を修正する際に使用することができます。

セグメント作業は、後からの時点でも、再開したり、修正したりすることが可能です。



ナビゲーションモードに切り替えると、2Dレイヤービューをスクロールすることができます。

記載されている手順に加え、以下の操作が**下顎と顎状突起をセグメントする**のウィンドウでは、以下の操作を行うことができます。



- **下顎と顎状突起をセグメントする**ウィンドウで使用できます。これに関する情報はショートカットキー [▶ ページ 248 - Standalone]を参照してください。
- **3Dビュー**で、セグメントしたエリアに含まれる1箇所をダブルクリックすると、すべての2Dレイヤービューで、それに帰属する断層面が表示されます。SICAT Functionでは、さらに、このダブルクリックした箇所に十字線の中心が移動します。この誘導アシストツールを使用すれば、例えば、はみ出た部分を補正したり、穴を塞いだりすることができます。
- セグメンテーションが解剖学的条件と一致している場合、**戻す**ボタンをクリックしてください。
- 取り消した実行アクションを再度行いたい場合は、**繰り返す**ボタンをクリックします。
- すべてのステップを元に戻したいときは、**リセットする**タンをクリックします。
- データセットの事前計算が最適な結果を示さない場合もあります。事前に行った計算で最適な結果が得られないときは、**詳細設定**をクリックして、**背景を自動的に検出**のチェックボックスからチェックマークを外してください。その後、**背景**のツールを利用して、下顎と窩のいずれからも外れた箇所で、1本以上のラインを引いて、エリア指定を行います。
- 下顎頭や下顎骨部分のセグメンテーションを中断する場合、**中止する**をクリックします。

28.2 窩をセグメントする

TMJのワークスペースを導入すると、大半のケースで、窩のセグメントが不可欠ではなくなります。また、TMJのワークスペースを利用すると、窩のセグメントをすることなく、下顎と窩の動的な相互関係についても、評価を行うことができるようになります。



アシスタント機能の **下顎と顎状突起をセグメントする**は、起動時に毎回セグメントの事前計算を実行します。事前計算の時間は、使用するコンピューターの性能によって異なります。



SICAT Function のセグメンテーションは解剖学的輪郭の代わりにエリアで作業します。従って、解剖学的輪郭を正確にトレースする必要はありません。それに代えて、そのエリアの内部にラインを引いて、セグメント化に関するエリアを指定してください。

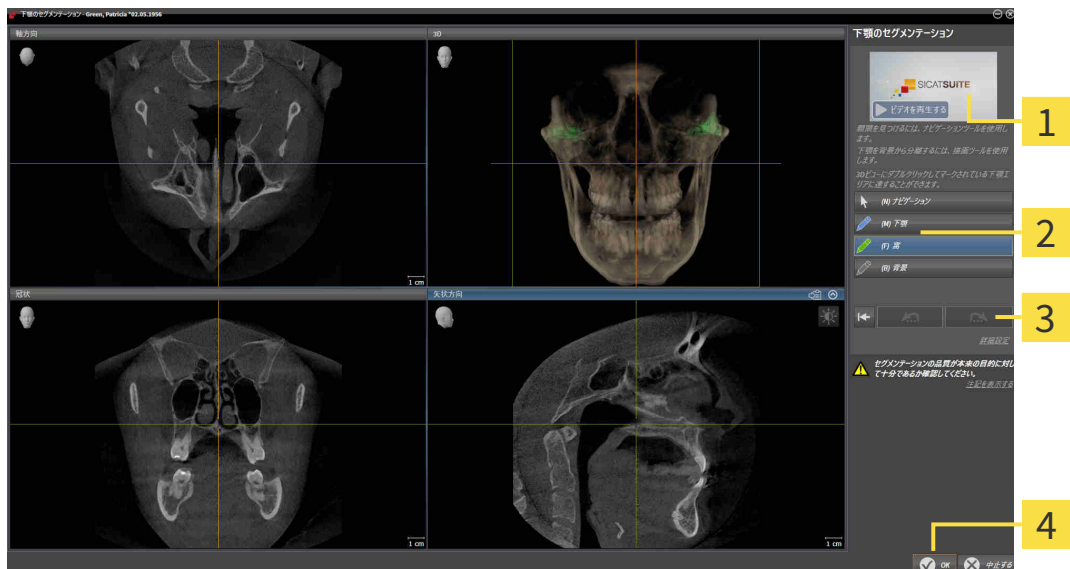
セグメンテーションに関する内容は、[セグメンテーション](#) [▶ ページ 164 - Standalone]の節をご覧ください。

窩をセグメントするには、次のように行います。

- ☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 97 - Standalone]を参照してください。



1. **下顎と顎状突起をセグメントする**のアイコンをクリックします。
▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** が開きます。



1 事例ビデオ

2 エリア 描画ツール

3 ボタンリセットする、ボタン戻す、およびボタン繰り返す

4 ボタン OK

- ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** は、セグメントの事前計算を実行しません。

2. **軸方向ビュー、冠状ビュー、矢状方向ビュー**を下顎と窩が見えるように調整します。



3. 窩のボタンをクリックします。
4. マウスポインタを希望の2Dレイヤービューで窩上に動かします。
 - ▶ マウスポインタはペンになります。
5. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
6. 窩の内側部分でマウスをドラッグします。
 - ▶ SICAT Function に、緑色の線によるマーキングが表示されます。
7. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function はマーキングに従って窩をセグメントします。
8. 補助エリアを窩に追加する場合、ナビゲーションアイコンをクリックし、2Dビュー内で希望の構造に移動し、これらに上記の手順でマークを付けます。
9. セグメンテーションが希望通りの場合、OK ボタンをクリックします。
 - ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** が閉じます。
 - ▶ SICAT Function では、**オブジェクトブラウザ**で、**ボリューム-部位**のオブジェクトを表示します。これに関する情報は *SICAT Function* オブジェクト [[▶ ページ 105 - Standalone](#)]を参照してください。

▶ 3Dビューにセグメンテーション結果が表示されます



背景描画ツールは、範囲に背景としてマークを付ける、または半自動セグメンテーションの大き過ぎる範囲を修正する際に使用することができます。

セグメント作業は、後からの時点でも、再開したり、修正したりすることが可能です。



ナビゲーションモードに切り替えると、2Dレイヤービューをスクロールすることができます。

記載されている手順に加え、以下の操作が**下顎と顎状突起をセグメントする**のウィンドウでは、以下の操作を行うことができます。

- **下顎と顎状突起をセグメントする**ウィンドウで使用できます。これに関する情報はショートカットキー [▶ ページ 248 - Standalone] を参照してください。
- 3Dビューで、セグメントしたエリアに含まれる1箇所をダブルクリックすると、すべての2Dレイヤービューで、それに帰属する断層面が表示されます。SICAT Functionでは、さらに、このダブルクリックした箇所に十字線の中心が移動します。この誘導アシストツールを使用すれば、例えば、はみ出た部分を補正したり、穴を塞いだりすることができます。
- セグメンテーションが解剖学的条件と一致している場合、**戻す**ボタンをクリックしてください。
- 取り消した実行アクションを再度行いたい場合は、**繰り返す**ボタンをクリックします。
- すべてのステップを元に戻したいときは、**リセットする**タンをクリックします。
- データセットの事前計算が最適な結果を示さない場合もあります。事前に行った計算で最適な結果が得られないときは、**詳細設定**をクリックして、**背景を自動的に検出**のチェックボックスからチェックマークを外してください。その後、**背景**のツールを利用して、下顎と窩のいずれからも外れた箇所で、1本以上のラインを引いて、エリア指定を行います。
- 下顎頭や下顎骨部分のセグメンテーションを中断する場合、**中止する**をクリックします。



29 光学印象



光学印象は、Sirona 3D X線機器で作成したX線データにのみインポートおよび記録することができます。

SICAT Function 同じ患者1名について、X線撮影画像と光学印象の対応が相互にとれていれば、その両者を同時に表示できます。表示の組み合わせは、分析および診断のための追加情報を提供します。さらに、治療の実施は光学印象をベースにしています。

光学印象を含むデータを SICAT Function で使用するには、次の操作が必要となります。

- 下顎骨の撮影ビューと上顎骨の撮影ビューから構成される光学印象のファイルをインポートする。このファイルには、例えば、Open GALILEOSのライセンスが付属するCERECなどの光学印象システムで採得した光学印象のデータを含めます。
- X線データへの光学印象の記録

SICAT Function は、次の光学印象用ファイルフォーマットに対応しています。

- SIXDファイル（上顎骨の光学印象と下顎骨の光学印象が含まれます）
- SSIファイル（上顎骨の光学印象と下顎骨の光学印象が含まれます）
- 上顎または下顎の光学印象を含むSTLファイル (SICAT Suite STL インポートライセンスが必要です)

次のツールは光学印象に使用することができます。

- [光学印象をインポートし記録する \[▶ ページ 172 - Standalone\]](#)
- [他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する \[▶ ページ 180 - Standalone\]](#)
- 光学印象のアクティベーション、非表示および表示に関する情報は[オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 101 - Standalone\]](#)をご覧ください。
- 光学印象に焦点を当てること、および光学印象を削除することに関する情報は、[オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 103 - Standalone\]](#)の節をご覧ください。

STL形式の光学印象はインポートの際に追加の操作が必要です。これに関する情報は[STLフォーマットの光学印象の場合の追加手順 \[▶ ページ 178 - Standalone\]](#)を参照してください。

29.1 光学印象をインポートし記録する



注意

3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



注意

不適切な光学印象用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の光学印象データを使用してください。



注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない光学印象データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

患者データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



注意

光学印象データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした光学印象データのインテグリティと品質を確認してください。



注意

光学印象データの品質および正確性が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質および正確性の光学印象データを利用してください。



注意

過度なアーチファクト、不十分な解像度、または記録のための点の欠如は、光学印象の記録に失敗する原因になるおそれがあります。
例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確な記録を可能にする光学印象と3D X線撮影画像のみを使用してください。



注意

互いに一致しない光学印象の記録プロセスでマークを選択すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

光学印象データを記録する場合、3D X線撮影画像と光学印象に一致するマーキングで慎重に選択します。

**注意**

間違って記録された光学印象データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された光学印象が3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。



これにより、3DX線撮影画像と光学印象が互いに適合しているかどうか確認することができ、アシスタント**光学印象をインポートし記録する**が患者データを常時表示し、設定**匿名にする**を無視します。



光学印象がX線データに正確に配置されているか検査するには、**検査ウィンドウ**を使用することができます。**検査ウィンドウ**を移動し、**検査ウィンドウ**でレイヤーをスクロールすることができます。

光学印象に関する一般的な情報は、**光学印象** [▶ ページ 171 - Standalone]の節をご覧ください。

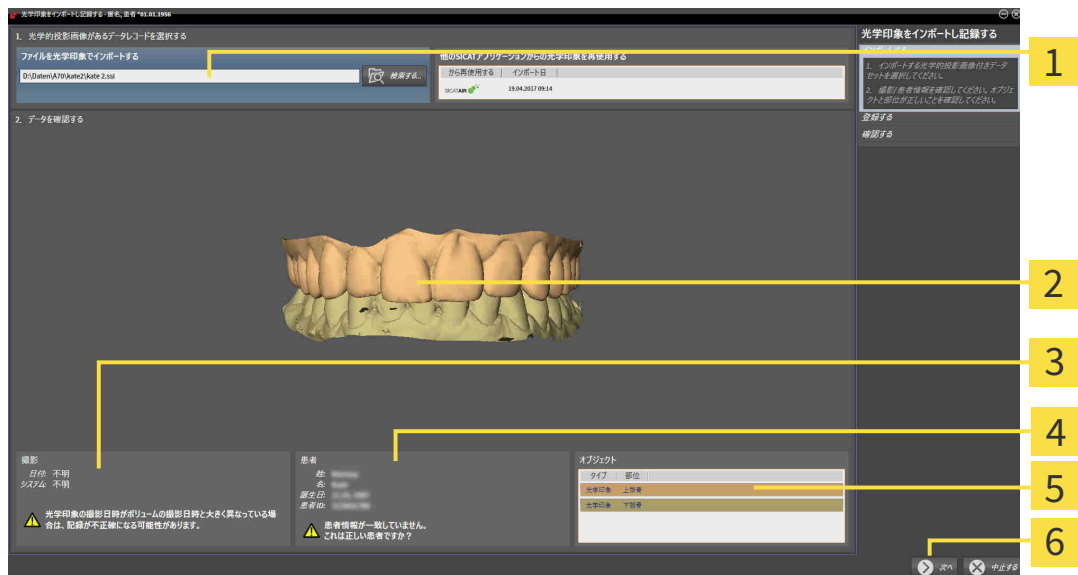
光学印象のインポートおよび記録は、次のように行います。

ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。



1. **光学印象をインポートし記録する**のアイコンをクリックします。
 - ▶ **インポートする**のステップで、アシスタント機能**光学印象をインポートし記録する**が開いています。
2. **検索する**のボタンをクリックします。
 - ▶ **ファイルを光学印象で開く**のウィンドウが開きます。
3. **ファイルを光学印象で開く** ウィンドウで、光学印象を含む任意のファイルに切り替え、ファイルを選択し、**開く**をクリックします。
 - ▶ **ファイルを光学印象で開く**ウインドウが閉じます。

▶ SICAT Function 選択した光学印象を含むファイルを開きます：



- | | |
|--------------------------------|--------------------|
| 1 エリア ファイルを光学印象でインポートする | 4 患者情報 |
| 2 3D光学印象のビュー | 5 オブジェクトリスト |
| 3 撮影図情報 | 6 ボタン 次へ |

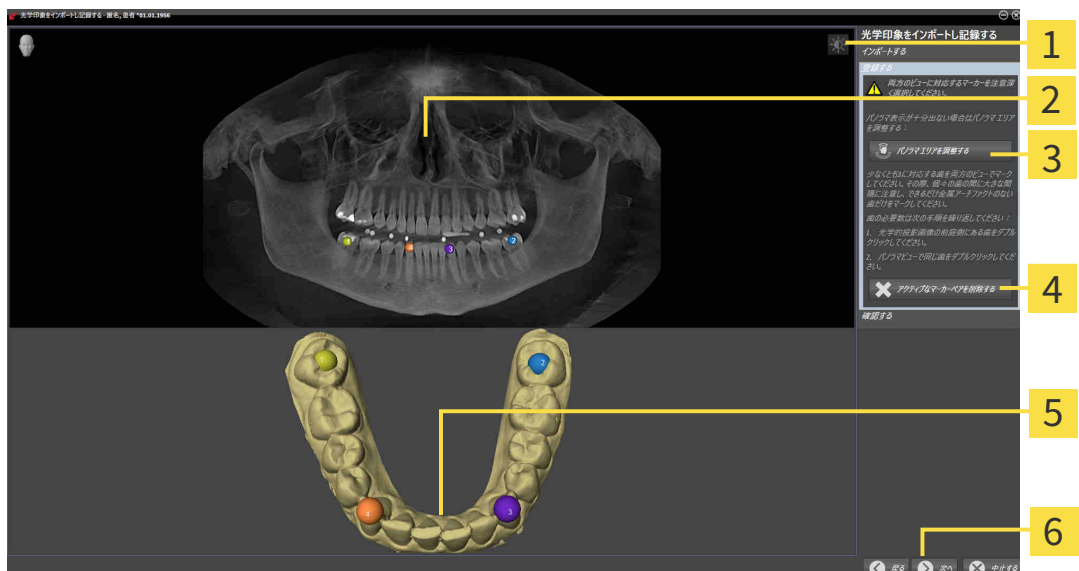
4. 撮影図情報と患者情報を確認してください。
5. オブジェクトと部位が正しいことを確認してください。オブジェクトリストの背景色は3Dビューでのオブジェクトの色に相当します。
6. 次へをクリックします。

- ▶ 3DX線撮影画像内と光学印象内の患者データが一致しない場合、SICAT Functionがウィンドウ異なる患者情報を開きます。



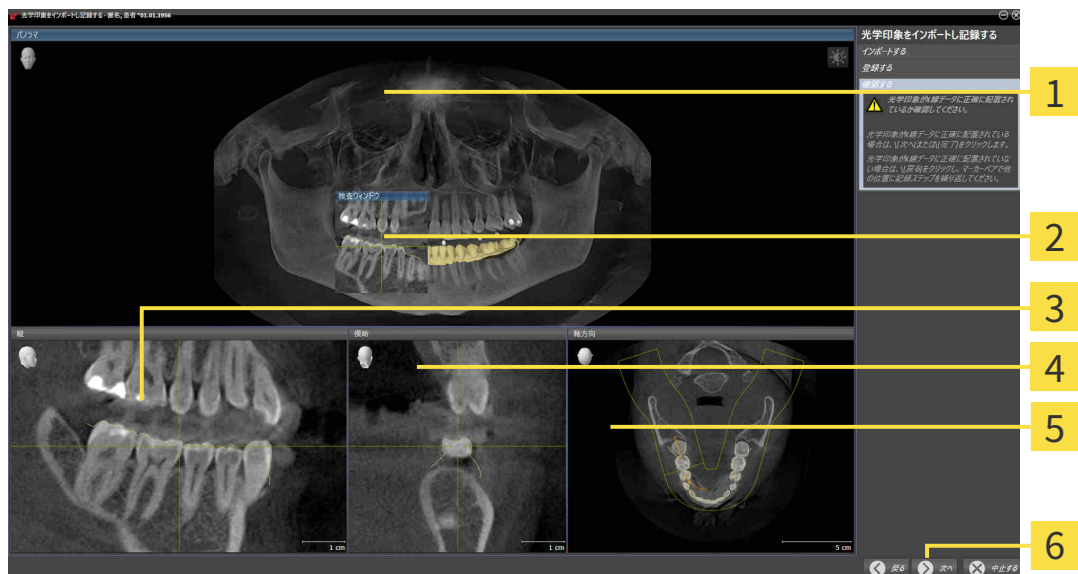
- 7. 患者情報を比較してください。光学印象が現在の患者に合わせて調整されていることを確認したらはいボタンをクリックしてください。

- ▶ 最初の光学印象用に登録するのステップが開きます。



- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 アイコン 輝度およびコントラストの調整 | 4 ボタン アクティブなマーカークラスを削除する |
| 2 パノラマ-ビュー | 5 3Dビュー（最初の光学印象が表示されます） |
| 3 ボタン パノラマエリアを調整する | 6 ボタン 次へ |

8. 最初の光学印象に関して、**パノラマビュー**と**3Dビュー**の光学印象の前庭側の両方で、同じ歯をダブルクリックします。その際、個々の歯の間に大きな間隔に注意し、金属アーチファクトのない歯だけをマークしてください。両方のビューで一致する歯が3個以上識別表示されるまで、この手順を繰り返します。
 - ▶ 両方のビューにある様々な色と番号のマークは、最初の光学印象の割り当てられた歯を示しています。
9. **次へ**をクリックします。
 - ▶ SICAT Function は、X線データによる最初の光学印象の記録を計算します。
 - ▶ 最初の光学印象用に**確認する**のステップが開きます。



1 パノラマ-ビュー

4 横断-ビュー

2 検査ウィンドウ

5 軸方向-ビュー

3 縦-ビュー

6 ボタン次へ

10. 光学印象がX線データに正確に配置されているか2Dレイヤービューを確認してください。レイヤーをスクロールし、表示されている輪郭をチェックしてください。
11. 光学印象がX線データに正確に配置されていない場合、**戻る** ボタンをクリックし、別の位置にあるマーカーのペアで **登録する** の手順を繰り返します。
12. 最初の光学印象がX線データに正確に配置されている場合は、**次へ**ボタンをクリックします。
 - ▶ 2番目の光学印象用に **登録する** のステップが開きます。
13. 2番目の光学印象に関して、**パノラマビュー**と**3Dビュー**の光学印象の前庭側の両方で、同じ歯をダブルクリックします。その際、個々の歯の間に大きな間隔に注意し、できるだけ金属アーチファクトのない歯だけをマークしてください。両方のビューで一致する歯が3個以上識別表示されるまで、この手順を繰り返します。歯の本数として5本まで指定すれば、取込の精度を向上させることができます。

- ▶ 両方のビューにある様々な色と番号のマークは、2番目の光学印象の割り当てられた歯を示しています。

14. 次へをクリックします。

- ▶ SICAT Function は、X線データによる2番目の光学印象の記録を計算します。
- ▶ 2番目の光学印象用に **確認する** のステップが開きます。

15. 光学印象がX線データに正確に配置されているか2Dレイヤービューを確認してください。レイヤーをスクロールし、表示されている輪郭をチェックしてください。

16. 光学印象がX線データに正確に配置されていない場合、**戻る** ボタンをクリックし、別の位置にあるマーカのペアで **登録する** の手順を繰り返します。歯の本数として5本まで指定すれば、取込の精度を向上させることができます。

17. 2回目の光学印象がX線データに正確に配置されている場合は、**完了** ボタンをクリックします。

- ▶ アシスタント機能の **光学印象をインポートし記録する** が閉じます。
- ▶ SICAT Function 選択した光学印象を **オブジェクトブラウザ** に追加する
- ▶ SICAT Function に記録されている光学印象が表示されます。

記載されている手順に加え、以下の操作が**光学印象をインポートし記録する**で使用できます。



- アイコン**輝度およびコントラストの調整**をクリックして、2Dビューの輝度およびコントラストを調整することができます。これに関する情報は**2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット** [▶ ページ 121 - Standalone]を参照してください。
- パノラマエリアは、**パノラマエリアを調整する**アイコンをクリックして調整することができます。これに関する情報は**パノラマエリアを調整する** [▶ ページ 152 - Standalone]を参照してください。
- **登録する** で特定のマーカペアを削除する場合、ペアのマーカを選択し、**アクティブなマーカペアを削除する** ボタンをクリックします。
- 光学印象のインポートおよび記録を中断する場合、**中止する**をクリックします。

29.2 STLフォーマットの光学印象の場合の追加手順

STLファイルに光学印象の位置と向きに関する情報は含まれていません。そのため、位置と向きを必要に応じて調整する必要があります。

☑ SICAT Suite STL Importライセンスは既に有効化済みです。

1. STL形式のファイルから光学印象を開きます。これに関する情報は[光学印象をインポートし記録する](#) [▶ ページ 172 - Standalone]を参照してください。

▶ ウィンドウSTLインポートアシスタントが開きます。



1 顎の選択

3 内側と外側の交換

2 向きの変更

4 ボタン OK

2. 顎エリアで光学印象が上顎骨か下顎骨のいずれを含んでいるか、対応するアイコンをクリックして選択してください。



3. 大まかな事前配置のために、向きエリアで矢印アイコンまたは回転アイコンをクリックすることで、必要に応じて光学印象の向きを変更してください。

4. パラメータエリアで光学印象表示をクリックすることで、光学印象の内側と外側を必要に応じて交換してください。

5. OKのボタンをクリックします。

6. 必要に応じて二つ目のSTLファイルに同様の手順を行ってください。SICAT Function 二つ目のSTFファイルをそれぞれ異なる顎に割り当てます。

▶ SICAT Function にインポートした光学印象が[光学印象をインポートし記録する](#)がアシスタントに表示されます。

7. 光学印象の登録に進みます。これに関する情報は[光学印象をインポートし記録する \[▶ ページ 172 - Standalone\]](#)を参照してください。

29.3 他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する



注意

3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



注意

不適切な光学印象用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の光学印象データを使用してください。



注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない光学印象データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

患者データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



注意

光学印象データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした光学印象データのインテグリティと品質を確認してください。



注意

光学印象データの品質および正確性が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質および正確性の光学印象データを利用してください。



注意

間違って記録された光学印象データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された光学印象が3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

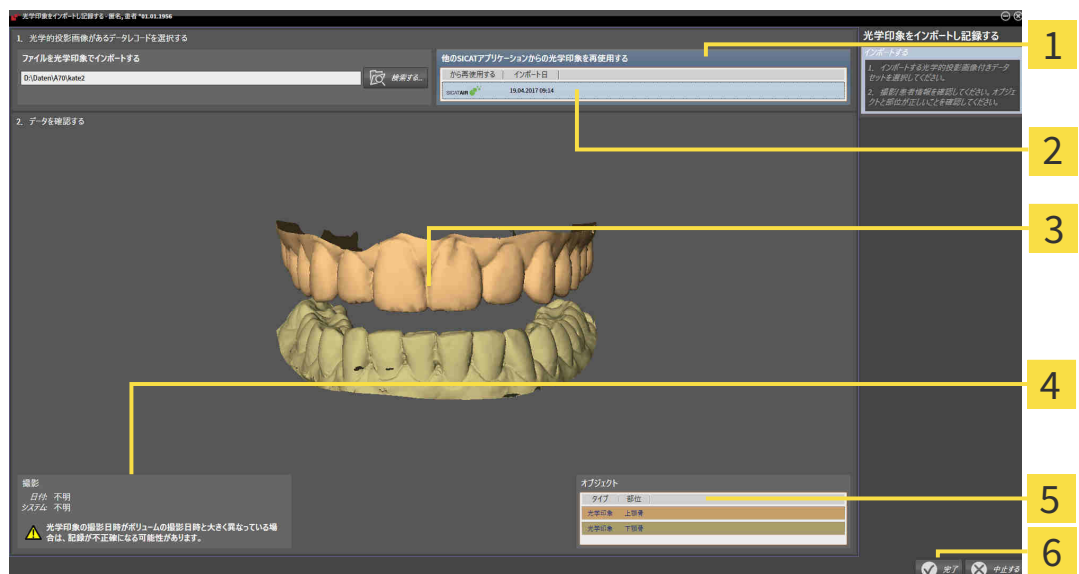


これにより、3DX線撮影画像と光学印象が互いに適合しているかどうか確認することができ、アシスタント光学印象をインポートし記録するが患者データを常時表示し、設定匿名にするを無視します。

光学印象に関する一般的な情報は、以下の節をご覧ください。 [光学印象](#) [▶ ページ 171 - Standalone].

他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用するには、次のように行います：

- ☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。
 - ☑ 開いているスタディのために、光学印象を他のSICATアプリケーションにすでにインポートしましたが、SICAT Functionでまだ使用していません。
1. **光学印象をインポートし記録する**のアイコンをクリックします。
 - ▶ **インポートする**のステップで、アシスタント機能**光学印象をインポートし記録する**が開いています。
 2. **他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する**エリアで希望の光学印象のある行をクリックします。
 3. SICAT Function に選択した光学印象が表示されます。



- | | |
|--|------------------------|
| 1 エリア 他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する | 4 撮影図情報 |
| 2 他のSICATアプリケーションからの光学印象のリスト | 5 オブジェクトリスト |
| 3 3D光学印象のビュー | 6 ボタン 完了 |

4. 撮影図情報と患者情報を確認してください。オブジェクトと部位が正しいことを確認してください。オブジェクトリストの背景色は3Dビューでのオブジェクトの色に相当します。

5. **完了**のボタンをクリックします。

- ▶ アシスタント機能の **光学印象をインポートし記録する** が閉じます。
- ▶ SICAT Function 選択した光学印象を**オブジェクトブラウザ**に追加する
- ▶ SICAT Function に選択した光学印象が表示されます。

他のSICATアプリケーションからの光学印象の引き継ぎを中断する場合は、**中止する**をクリックします。

30 解剖学的な咬合

SICAT Function 患者の解剖学的な咬合をビジュアル化できます。すなわち、測定機器で顎運動を記録し、ソフトウェアがその顎運動データと3D X線撮影画像とを同期させます。これを解剖学的な咬合と呼びます。下顎骨をセグメントすると、顎関節に至るまで、患者の顎運動をもれなく再現できます。

SICAT Function 解剖学的な咬合に以下のデータが必要です。

- セグメントされた3D X線撮影データ - これに関する情報は、[セグメンテーション \[▶ ページ 164 - Standalone\]](#)の節をご覧ください。
- 記録された顎運動データ - これに関する情報は、[顎運動データ \[▶ ページ 156 - Standalone\]](#)の節をご覧ください。

SICAT Function は、光学印象を追加の情報源として利用することができます。例えば、顎を完全に閉じる咬合までの顎運動が、光学印象を利用して解析できます。これに関する情報は[光学印象 \[▶ ページ 171 - Standalone\]](#)を参照してください。

これらのツールを使用して、患者の個々の顎運動を判定することができます。

- JMTエリア - この表示に関する内容は、[顎運動と連携する \[▶ ページ 183 - Standalone\]](#)の節をご覧ください。JMTエリアでは、動画再生ボタンを押すと、3Dビュー内で、患者の下顎骨の運動を個別に再生できます。さらに、JMTエリアでは、顎運動データをエクスポートできるボタンが用意されています。
- 3D- ビュー-これに関する情報は[3Dビューの調整 \[▶ ページ 130 - Standalone\]](#)を参照してください。
- 検査ウィンドウ -これに関する情報は[検査ウィンドウの移動、非表示、表示 \[▶ ページ 126 - Standalone\]](#)を参照してください。

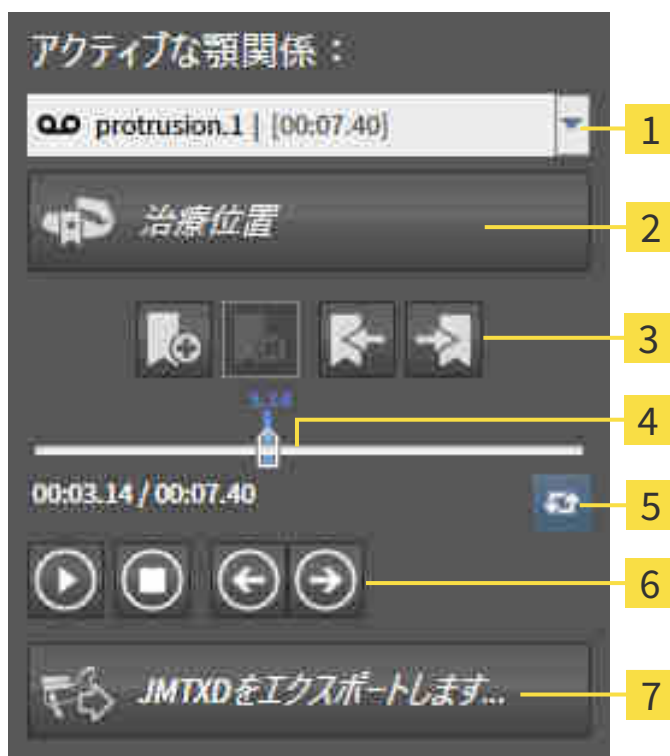
患者の下顎骨の個々の動作を判定するために、2Dレイヤービューで十字線を下顎骨の選択した位置にセットします。SICAT Function その後、3Dのビューには、選択しておいた位置に、その位置に対応する、運動の軌跡が表示されます。これに関する情報は[十字線およびフレームの移動、非表示、表示 \[▶ ページ 125 - Standalone\]](#)を参照してください。

また、**検査ウィンドウ**を下顎骨の選択した位置にセットすることもできます。これに関する情報は[3Dビューで運動の軌跡を表示する \[▶ ページ 186 - Standalone\]](#)を参照してください。

3Dビューでは、SICAT Functionは、選択した位置がセグメントされた下顎骨上または外側にあるか、様々な色で表示します。これに関する情報は[検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する \[▶ ページ 187 - Standalone\]](#)と [レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する \[▶ ページ 188 - Standalone\]](#)を参照してください。

30.1 顎運動と連携する

顎運動データを管理するために、SICAT Functionでは、JMTのエリアが用意されています。



- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| 1 リスト アクティブな顎関係： | 5 アイコン 再生モードを切り替える |
| 2 ボタン 治療位置 | 6 動画再生ボタン |
| 3 ブックマークボタン | 7 ボタン JMTXDをエクスポートします |
| 4 スライダー付きシークバー | |

JMTエリアでは、これで次の操作を行うことができます。

- 静的な顎関係または顎運動を選択する。
- 顎運動と連携する。
- ブックマークを管理する。
- 治療位置を設定する。これに関する情報は治療位置の設定 [▶ ページ 214 - Standalone]を参照してください。
- 顎運動データをエクスポートする。

静的な顎関係または顎運動を選択する

静的な顎関係や動的な顎関係を選択するには、次の手順で行います。

1. アクティブな顎関係：リストをクリックします。

▶ アクティブな顎関係：リストが開きます。



2. 希望の静的な顎関係または、動的な顎関係を選択します。

▶ アクティブな顎関係：リストが閉じます。



▶ JMTエリアでは、顎の相対関係のうち、選択したものの名称を表示します。

▶ 3Dビューに選択した顎関係が表示されます。

顎運動と連携する

顎運動と連携するには、次のように行います：

☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録 [▶ ページ 158 - Standalone] を参照してください。



1. 動画の再生を開始するときは、**開始** アイコンをクリックします。



2. 動画の再生を停止するときは、**停止** アイコンをクリックします。



3. フレームを早送りには、**次に進む** アイコンをクリックします。



4. フレームを巻き戻すには、**前に戻る** アイコンをクリックします。



5. 再生モードをシングルとエンドレスの間で切り替える時は、**再生モードを切り替える** アイコンをクリックします。

6. 時間軸上の位置を手動で変更する時は、JMTエリアのスライダーをクリックし、マウスを動かし、希望の位置でマウスの左ボタンから指を放します。

JMTエリアでブックマークを管理する

JMTエリアでブックマークを管理するには、次の手順で行います。



1. 時間軸上の現在の位置にブックマークを追加するには、**ブックマークを追加**アイコンをクリックします。



2. 時間軸上の現在の位置からブックマークを削除するには、**ブックマークを削除**アイコンをクリックします。



3. スライダーを次のブックマークの位置に移動させるには、**次のブックマークに進む**アイコンをクリックします。



4. スライダーを前のブックマークの位置に移動させるには、**前のブックマークに戻る**アイコンをクリックします。

以下の場合には、ブックマークを削除することができません。

- 治療位置として指定したブックマークがあり、その治療位置に関する注文がカートに入っている場合です。そのブックマークを削除するときは、注文を完了するか、または、注文を削除するかのいずれかを行ってください。
- 削除するために選択したブックマークが、顎の相対関係で、表示中のものにセットしてある場合。そのブックマークを削除するときは、運動の軌跡か、または、静止した状態の顎の相対関係で、該当するものを選択して、**次のブックマークに進む**アイコンをクリックします。

顎運動データをエクスポートします

顎運動データをエクスポートは、次のように行います。

- 顎運動データはすでにインポートされ、記録されています。
- 両顎の光学印象はすでにインポートされ、記録されています。



1. **JMTXDをエクスポートします**のボタンをクリックします。
 - ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。
2. ディレクトリを選択し、必要に応じてファイル名を変更してください。
3. **保存**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function Windowsファイルエクスプローラーウィンドウを閉じます。
 - ▶ SICAT Function 指定したファイルへ顎運動データと光学印象がエクスポートされます（ファイル形式は、JMTXDで、CEREC 4.4やInLab 15で使用できます）。



事前に設定で匿名化をアクティブにすると、顎運動データを匿名でエクスポートすることができます。

30.2 3Dビューで運動の軌跡を表示する

顎運動の軌跡では、動きの3次元推移を下顎骨の各点個別に表示します。従来式のアキシオグラフ装置で描く軌跡と類似しています。運動の軌跡を表示する各点は、軌跡点と呼びます。SICAT Functionでは、軌跡点を任意に選択できます。JMTエリアで患者の個々の運動を選択し、3Dビューで判定することができます。JMTエリアに関する内容は、**顎運動と連携する** [▶ ページ 183 - *Standalone*]の節をご覧ください。

運動経路を3Dビューに表示させるには、次の手順を実行する必要があります。

- 3D X線撮影画像を含む顎運動データを記録します。これに関する情報は、**顎運動データ** [▶ ページ 156 - *Standalone*]の節をご覧ください。
- セグメントされた3D X線撮影画像 - これに関する情報は、**セグメンテーション** [▶ ページ 164 - *Standalone*]の節をご覧ください。

顎運動データをインポートし、3D X線撮影画像を3セグメントした後、3Dビューは、次に3D X線撮影図の元の関係を示します。撮影された動作を選択すると、3Dビューに運動経路が表示されます。

SICAT Function 様々な色によって運動経路の位置を識別表示します。

- SICAT Functionでは、運動の軌跡が患者の下顎骨上にあるときは、この軌跡を緑色で表示します。
- SICAT Functionでは、運動の軌跡が患者の下顎骨上にないときは、この軌跡を赤色で表示します。

解剖学的運動経路は、患者の下顎骨上にセットすることができます。これに関する情報は**検査ウインドウにより運動の軌跡を調整する** [▶ ページ 187 - *Standalone*]と**レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する** [▶ ページ 188 - *Standalone*]を参照してください。

3Dビューの表示タイプを選択し、これを需要に応じて調整することができます。これに関する情報は**3Dビューの調整** [▶ ページ 130 - *Standalone*]を参照してください。

軌跡点は、異なる3点を結んで表示させることができます。これに関する情報は**Bonwillの三角を利用する** [▶ ページ 192 - *Standalone*]を参照してください。

セグメントした部分の境界線は、表示したり隠したりの切替ができます。これに関する情報は**セグメンテーション限度の表示** [▶ ページ 193 - *Standalone*]を参照してください。

顎運動は、下顎頭を中心にして表示させることができますこれに関する情報は**下顎頭を中心に顎運動を表示する** [▶ ページ 194 - *Standalone*]を参照してください。

30.3 検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する

下顎骨全体で患者の顎運動を個別に解析する目的で、**検査ウィンドウ**を利用するには、次の手順で行います：

- ☑ **パノラマワークスペース**はすでにアクティブです。これに関する情報は**アクティブなワークスペースを切り替える**。[▶ ページ 113 - Standalone]を参照してください。
- ☑ **パノラマ画像**を作業対象として選択しておきます。これに関する情報は**アクティブなビューの切り替え** [▶ ページ 119 - Standalone]を参照してください。
- ☑ **検査ウィンドウ**は、隠さず表示しておきます。これに関する情報は**検査ウィンドウの移動、非表示、表示** [▶ ページ 126 - Standalone]を参照してください。

- **検査ウィンドウ**を希望の部位に動かします。



- ▶ SICAT Function 運動経路の位置を**3Dビュー**で**検査ウィンドウ**の位置に応じて更新します。その時点で最新の軌跡点は、検査ウィンドウの十字線で囲まれています。
- ▶ 運動経路は新しい位置にあります。

軌跡点が患者の下顎骨を外れた箇所にあるときは、運動経路を患者の下顎骨上に位置決めすることが可能です。これに関する情報は**レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する** [▶ ページ 188 - Standalone]を参照してください。

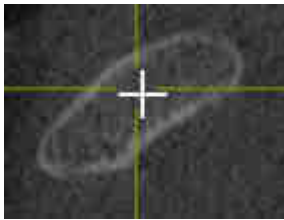


検査ウィンドウを直ちに希望の解剖学的部位に移動させるには、**パノラマビュー**で希望の位置をダブルクリックします。

30.4 レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する

下顎骨全体で患者の顎運動を個別に解析する目的で、十字線を利用するには、次の手順で行います：

- ☑ 十字線は現在2Dレイヤービューに表示されています。これに関する情報は *十字線およびフレームの移動、非表示、表示* [▶ ページ 125 - Standalone] を参照してください。
- 1. 任意の2Dレイヤービューをアクティブにします。これに関する情報は *アクティブなビューの切り替え* [▶ ページ 119 - Standalone] を参照してください。
- 2. 十字線を希望の解剖学的部位に動かします。これに関する情報は *十字線およびフレームの移動、非表示、表示* [▶ ページ 125 - Standalone] を参照してください。



▶ SICAT Function 運動経路の位置を3Dビューで十字線の位置に更新します。



3Dビューでは、SICAT Functionは患者の下顎骨以外の位置を選択すると、運動経路を赤色で識別表示します。

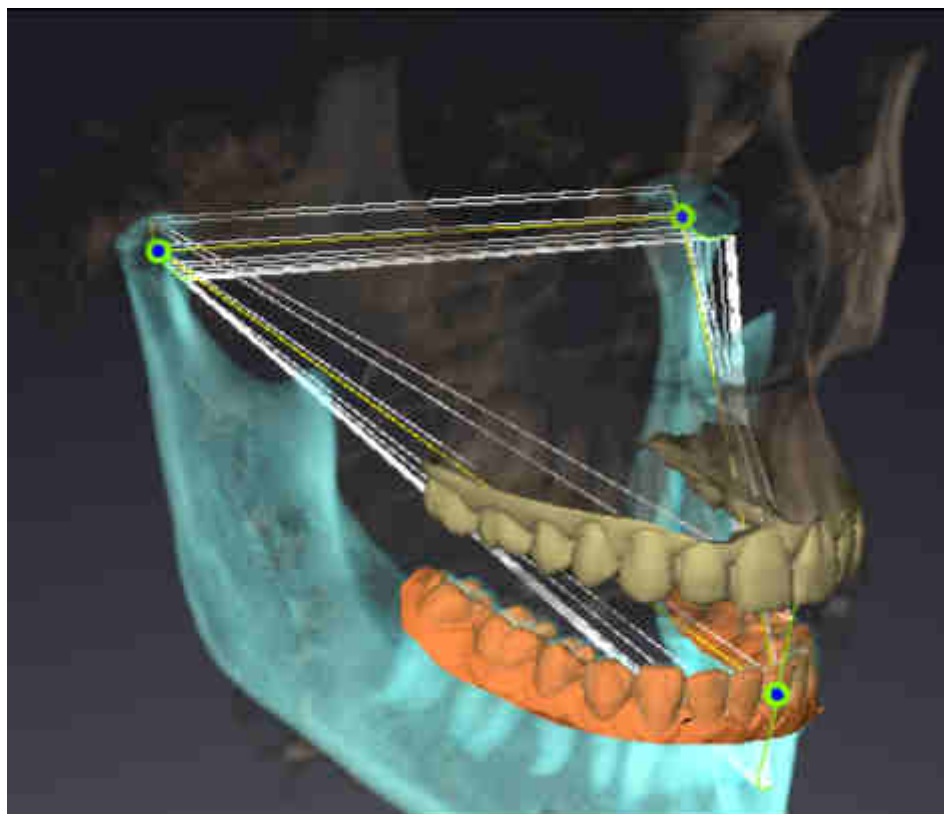


十字線をすぐにマウスポインタの位置へ移動させる場合、2Dビューでダブルクリックすることができます。

31 TMJワークスペースの各種機能

TMJワークスペースは、顎関節機能障害の診断と治療計画の立案を行うときに役立ちます。TMJワークスペースでは、形態と運動の面から、顎関節を左側と右側とで互いに比較できます。

TMJワークスペースでは、1つの顎運動ごとで3種類の異なる、運動経路を表示できます。



- 左側の下顎頭の軌跡
- 右側の下顎頭の軌跡
- 咬合上にある1点の軌跡。例えば、上下顎中切歯の交点

TMJワークスペースのレイヤービューでは、左側と右側のそれぞれについて、下顎頭の軌跡点を移動させることができます。これに関する情報は軌跡点を移動する [▶ ページ 190 - Standalone] を参照してください。

3Dビューでは、ダブルクリックにより、上下顎中切歯の交点の軌跡点をセットできます。これに関する情報は上下顎中切歯の交点をセットする [▶ ページ 191 - Standalone] を参照してください。

患者の解剖学的咬合について、個別に所見の検討を行うにあたっては、TMJワークスペースにオプションとして追加されているアイテムがいくらかあります。これに関する情報はセグメンテーション限度の表示 [▶ ページ 193 - Standalone]、下顎頭を中心に顎運動を表示する [▶ ページ 194 - Standalone] と Bonwillの三角を利用する [▶ ページ 192 - Standalone] を参照してください。同様にBonwillの三角は咬合器値の読み取りに使用できます。これに関する情報は咬合器値 [▶ ページ 195 - Standalone] を参照してください。

31.1 軌跡点を移動する

SICAT Function では、下顎頭の左側と右側とで互いに対応する軌跡点の軌跡を同時に表示します。この軌跡を利用すると、顎関節の運動全体を左右相互で比較することができます。

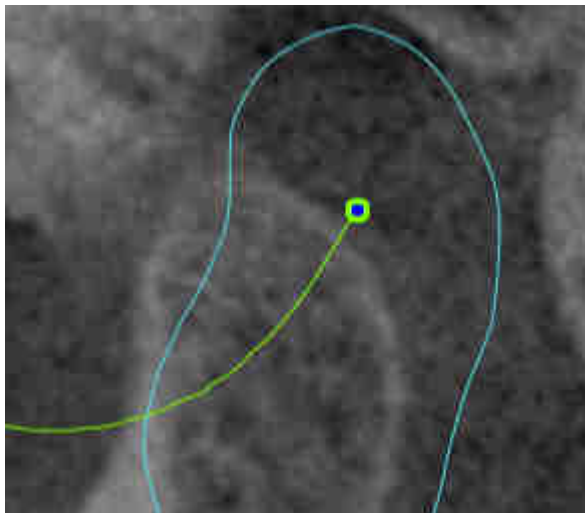
レイヤービューで、下顎頭の左側と右側の各軌跡点を移動させるには、次の手順で行います。

☑ **TMJ**ワークスペースはすでに開いています。**TMJ**ワークスペースに関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能* [▶ ページ 189 - Standalone]と *TMJワークスペースに関する概要* [▶ ページ 110 - Standalone]の節をご覧ください。

☑ 既に動的顎関係が選択されています。

1. マウスポインタを希望の軌跡点上に動かします。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタをご希望の軌跡点の位置に動かします。
4. マウスの左ボタンを放します。

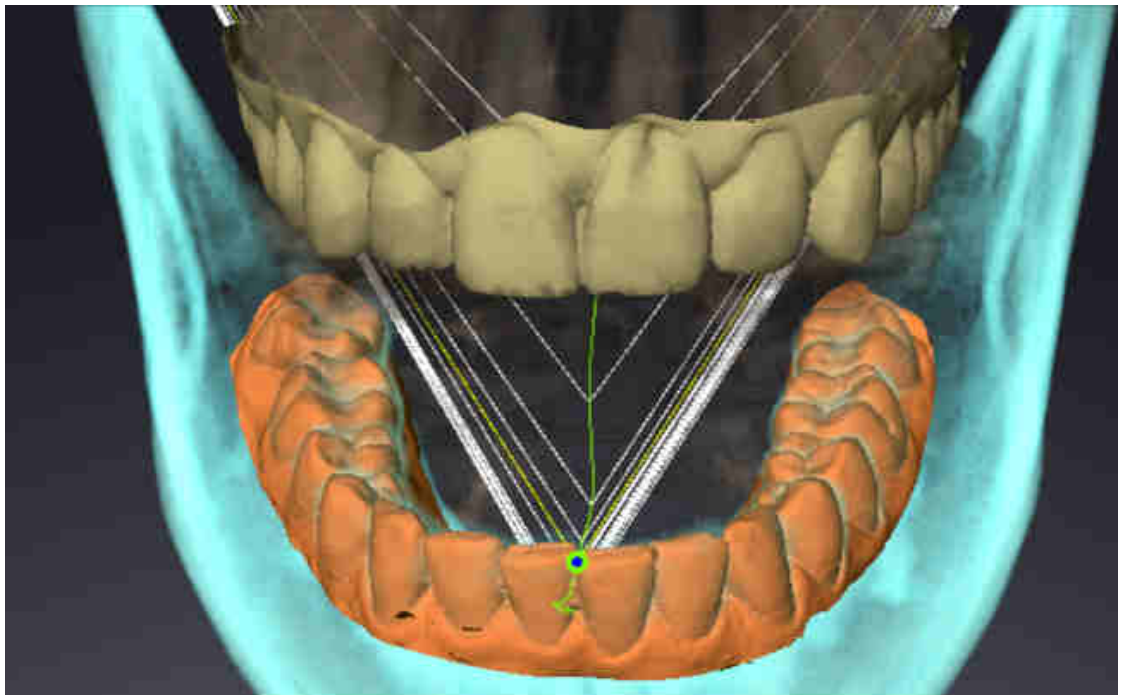
▶ SICAT Function レイヤービューで、選択しておいた位置へ下顎頭の左側と右側の各軌跡点が移動します。



31.2 上下顎中切歯の交点をセットする

3Dビューで、上下顎中切歯の交点をセットするには、次の手順で行います。

- ☑ TMJワークスペースはすでに開いています。TMJワークスペースに関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能* [▶ ページ 189 - Standalone]と *TMJワークスペースに関する概要* [▶ ページ 110 - Standalone]の節をご覧ください。
- ☑ 既に動的顎関係が選択されています。
 - 3Dビューでマウスポインタをお好みの位置に重ねたら、左マウスボタンをダブルクリックします。
 - ▶ SICAT Function では、光学印象上で選択した位置を軌跡点として利用します。



上下顎中切歯の交点を正面から見ると、下顎の側方運動が識別できてより詳細な観察が可能になります。

31.3 BONWILLの三角を利用する

BONWILLの三角を表示する

SICAT Functionでは、**Bonwillの三角**により、3点の軌跡点を結んで表示します。顎運動に非対称性や急激な変動があれば、この表示により、それらがより特定しやすくなります。

Bonwillの三角を表示するには、次の手順で行います：

- ☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。**TMJワークスペース**に関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能* [▶ ページ 189 - Standalone]と *TMJワークスペースに関する概要* [▶ ページ 110 - Standalone]の節をご覧ください。
- ☑ 既に動的顎関係が選択されています。
 - オブジェクトブラウザで、**顎運動データ**をクリックします。
 - ▶ SICAT Function **プロパティ**の下に**Bonwillの三角**を表示します。



BONWILLの三角の構成設定を行う

Bonwillの三角の表示個数を設定するには、次の手順で行います。

1. オブジェクトブラウザで、**顎運動データ**をクリックします。
2. **プロパティ** エリアにある**ステップ幅横**の上下矢印キーのいずれかをクリックします。
 - ▶ SICAT Function では、**ステップ幅**のボックスの数値が切り替わります。
 - ▶ 3Dビューでは、選択した個数でBonwillの三角が表示されます。



上記の個数は、顎運動に非対称性があったときに、それが検出しやすくなる数値に設定してください。

31.4 セグメンテーション限度の表示

セグメンテーション限度の表示ようにしておく、セグメント化の質を3D X線撮影画像と比較することができます。セグメントした部分の境界線が3D X線撮影画像と異なるときは、**下顎と顎状突起をセグメントする**のウィンドウで、セグメントした部分を修正することができます。

青色の輪郭線は、現時点での運動に基づく下顎頭の位置を表示します。そのため、通常、この青色の輪郭線が3D X線撮影画像と重なって一致することはなく、セグメントの質をチェックする目的には、適切ではありません。代わりに黄色い輪郭をセグメンテーション限度のチェックに使用してください。

セグメンテーション限度の表示には、次の手順で行います。

- ☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。**TMJワークスペース**に関する一般的な情報は、以下の節をご覧ください。*TMJワークスペースの各種機能* [▶ ページ 189 - Standalone] および *TMJワークスペースに関する概要* [▶ ページ 110 - Standalone]。

- ☑ 既に動的または静的顎関係を選択しています。

1. オブジェクトブラウザで、ボリューム-部位をクリックします。

- ▶ SICAT Function プロパティに、**セグメンテーション限度の表示**のオプションが表示されます：



2. セグメンテーション限度の表示のオプションで、スライダーをオンの位置に移動させます。

- ▶ 2Dビューでは、セグメントした部分の境界線を黄色の輪郭で表示します。

SICAT Function 咬合でセグメントした位置を色違いで識別表示します。

- SICAT Functionでは、セグメントした位置にあって運動中の下顎頭を青色で識別表示します。
- 3D X線撮影画像の元来のセグメンテーションはSICAT Functionをチェックラインで表示します。SICAT Function チェックラインを黄色で識別表示します。

31.5 下顎頭を中心に顎運動を表示する

下顎を中心とする顎運動を利用すると、運動する下顎頭を窩との相対関係で表示することができます。下顎を中心とする顎運動を起動すると、TMJのレイヤービューで顎運動が開始して終了するまでの間、下顎にある点のすべてをワークスペースに表示させることができます。下顎を中心とする顎運動を停止すると、TMJのレイヤービューで顎運動が開始して終了するまでの間、窩にある点のすべてをワークスペースに表示させることができます。

下顎を中心とする顎運動を表示するには、次の手順で行います。

☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。**TMJワークスペース**に関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能* [▶ ページ 189 - Standalone]と *TMJワークスペースに関する概要* [▶ ページ 110 - Standalone]の節をご覧ください。

☑ 既に動的または静的顎関係を選択しています。

1. **オブジェクトブラウザ**で、**ボリューム**部位をクリックします。

▶ **SICAT Function プロパティ**に、**顎状突起中心の動作**のオプションが表示されます：



2. **顎状突起中心の動作**のオプションで、スライダーを**オン**の位置に移動させます。

▶ **3Dビュー**で、下顎を中心とする顎運動を表示します。

32 咬合器値



注意

誤ったボリュームの配置や切歯点の固定は、誤った診断および治療につながるおそれがあります。

1. 3DX線撮影画像の方向が上顎骨の咬合平面が軸レイヤーと平行になるようになっているか確認してください。
2. 患者の歯が上顎骨と下顎骨の咬合平面が一致する咬合状態にある顎関係を選択していることを確認してください。
3. 切歯点がソフトウェア内で下顎中切歯間の解剖学的に正しい位置に設置されているか確認してください。



注意

正確性に欠けるボンウィル三角の定義は間違った診断および治療につながるおそれがあります。

1. 正確な解剖学的指標に応じたボンウィル三角の定義を採用したことを確認してください。
2. ボンウィル三角の定義が本来の使用目的に対して適切かどうか確認してください。



注意

不適切な顎運動データの使用は誤った蝶番軸の算出につながるおそれがあります。

蝶番軸の算出には実際の開口運動または閉口運動を使用してください。

SICAT Function 患者固有の咬合器値を決定する際、サポートします。咬合器上の値を送信することにより、個別修復を構成し、完了することができます。現時点では咬合平面を基準平面として使用する咬合器のパラメータの決定は最適化されています。

咬合平面を基準平面として使用する咬合器の例はCEREC-Software (Dentsply Sirona)の仮想咬合器です。CEREC咬合器を個々の値を使ってプログラムする手順はCERECの取扱説明書をご覧ください。

必要な顎運動データ

最大の咬合器値を顎運動の記録を基に決定することができます。値を決定するには特定の種類の顎運動データが必要です。

咬合器値	必要な顎運動データ
左右の顎関節の矢状顎路角	突起
左右のベネット角および左右の即時切替	左右のラテロトルージョン
蝶番軸	実際の開口運動または閉口運動

CEREC咬合器用の値

SICAT Functionを使用してCEREC咬合器用の以下の値を決定することができます。

CEREC咬合器のパラメータ	説明
辺	辺とは下顎中切歯間の左または右の下顎頭から切歯点までの距離です。SICAT Function ボンウィル三角の辺の長さを直接示します。
基準	基準は左右の下顎頭間の距離です（下顎頭間距離）。SICAT Function ボンウィル三角の基準の長さを直接示します。
バルクウィル角	バルクウィル角は咬合平面とボンウィル三角の間の角です。SICAT Function ボンウィル三角でバルクウィル角を直接示します。
左右の矢状顆路角	矢状顆路角は左の突起部または右の下顎頭と咬合平面の間の角です。この角をTMJワークスペースの矢状ビューで突起部を使って測定することができます。3DX線撮影画像が上顎骨の咬合平面に対して水平方向を向いていることを確認してください。この点についてボリュームの配置についての安全指示に必ず留意してください。左右の顎関節の突起部と水平面の間の角を測定してください。
左右のベネット角	ベネット角は突起部運動とラテロトルージョンの間の角です。この角をTMJワークスペースの軸方向ビューでラテロトルージョンを使って右側および左側で測定することができます。3DX線撮影データが上顎骨の咬合平面に対して水平方向を向いていることを確認してください。この点についてボリュームの配置についての安全指示に必ず留意してください。ラテロトルージョン突起と矢状平面の間の角を測定してください。
左右の即時切替	

3DX線撮影画像における視認可能な下顎頭

咬合器値は主に顎運動の記録をもとに決定することができます。下顎頭間距離（CEREC咬合器でのボンウィル三角の「基準」長さ）を顎運動データのみで決定することはできません。

3DX線撮影画像で顎関節が見えない場合、ボンウィル三角の「基準」辺長さを蝶番軸を使って決定することができます。蝶番軸は実際の開口または閉口運動から決定することができます。その際に重要なのは下顎骨は純粋な回転運動を行い、前進はしないことです。

ただし、下顎頭間距離は3DX線撮影画像から決定することができます。どの咬合器値にどの顎運動データが必要かは以下の表を参照してください。

	下顎頭が3DX線撮影画像で視認可能	下顎頭が3DX線撮影画像で視認不可能
原因	<ul style="list-style-type: none"> 大きなField of View (FOV)付の3DX線撮影用のX線装置を持っています。 	<p>小さなField of View (FOV)付の3DX線撮影用のX線装置を持っています。</p> <p>石膏模型の3DX線撮影画像を作成しました。</p>
結果	3DX線撮影画像では下顎頭に左右のトレースポイントを配置することができます。	3DX線撮影画像では下顎頭に左右のトレースポイントを配置することができません。
必要な手順	<p>TMJワークスペースのレイヤービューに左右のトレースポイントを配置してください。その際、3DX線撮影画像内で下顎頭の位置を参照してください。</p>	<p>蝶番軸の算出には実際の開口運動または閉口運動の画像が必要です。患者が顎を数ミリメートル開けるか閉めるかすること、およびお客様が下顎骨が前進しないように下顎頭をLauritzenグリップまたはDawsonグリップで操作することにより、実際の開口運動または閉口運動の特徴が決まります。</p> <p>SICAT Function 両方のトレースポイントが顎関節の蝶番軸上に来るように左右のトレースポイントを配置します。</p>

ボンウィル三角 SICAT FUNCTION

以下の咬合器値を決定する際、SICAT Function内でボンウィル三角をサポートしてください。

- 左右の辺 [mm]
- 基準 [mm]
- バルクウィル角 [°]

ボンウィル三角の3つの頂点が正確に配置されている必要があります。

- 左トレースポイント
- 右トレースポイント
- 切歯点

TMJワークスペース内で3Dビューで解剖学的に正確な点をダブルクリックすることで、切歯点を配置することができます。下顎頭が3DX線撮影画像内で見えるかどうかによって左右両方のトレースポイントが異なる配置になるかどうかが決まります。

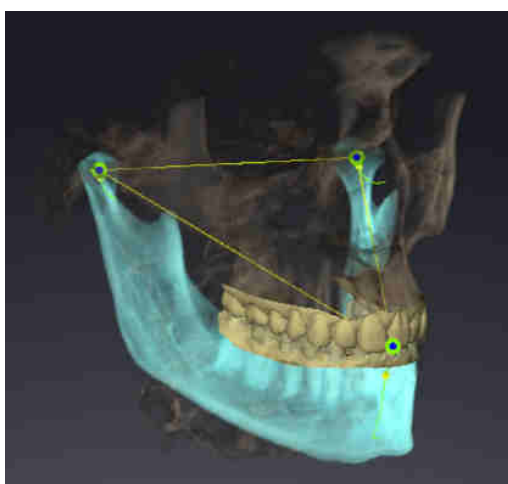
咬合器値を読み取る手順は、下顎頭が視認可能な時に咬合器値を読み込む [▶ ページ 199 - Standalone]、または下顎頭が視認不可能な時に咬合器値を読み込む [▶ ページ 201 - Standalone]の節をご覧ください。

32.1 下顎頭が視認可能な時に咬合器値を読み込む

下顎頭が視認可能な場合のボンウィル三角の設定

以下の手順にはTMJワークスペース内でレイヤービューを使用してください。

1. 左右いずれかのトレースポイントをクリックし、マウスの左ボタンを押したまま各下顎頭にトレースポイントを配置します。
2. 解剖学的に正確な位置をダブルクリックして下顎の切歯間に切歯点を配置します。下顎骨の切歯間に切歯点が見えない場合は開口運動を選択し、顎を少しだけ開いてください。顎運動データ内で特定の位置を選択する方法に関する情報は顎運動と連携する [▶ ページ 183 - Standalone] を参照してください。



スクリーンショットは3DX線撮影画像を大きなField of View (FOV)で示します。その中にはボンウィル三角が患者の解剖学的構造と整合しています。下顎頭が視認可能です。左右のトレースポイントは視認可能な下顎頭の中央に配置されています。SICAT機能内の切歯点の下顎骨切歯間の中央に配置されています。



SICAT機能はボンウィル三角の辺の長さをmm単位で表示します。咬合器に対して直接値を記録することができます。SICAT機能が同様にバルクウィル角を表示します。バルクウィル角は閉じた顎に対してのみ適用されます。

下顎頭が可視の場合の咬合器値の決定

咬合器値を決定するには、次のように行います。

- ☑ 上顎骨の咬合平面が水平に向き、顎が正中矢状面に対して可能な限り対称になるように3DX線撮影画像の位置を調整済みです。正確なデータを収集し、咬合器に転送するには、正確な調整が必要です。これに関する情報はボリュームの配置およびパノラマエリア [▶ ページ 145 - Standalone] を参照してください。
- ☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は顎運動データ [▶ ページ 156 - Standalone] を参照してください。
- ☑ TMJワークスペースはすでに開いています。これに関する情報はTMJワークスペースに関する概要 [▶ ページ 110 - Standalone] を参照してください。

☑ リスト **アクティブな顎関係**：で既に動的顎関係が選択されています。これに関する情報は**顎運動と連携する** [▶ ページ 183 - Standalone]を参照してください。

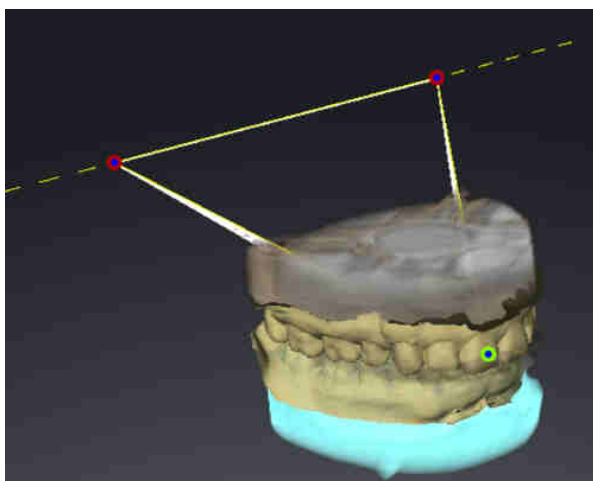
1. **オブジェクトブラウザ**でオブジェクト **顎運動データ**を選択します。
 - ▶ **プロパティ**エリアにSICAT Functionボンウィル三角が表示されます。
2. セグメンテーションされた下顎上で解剖学的に正確な位置または光学印象をダブルクリックして**3Dビュー**で下顎中切歯間に切歯点をセットします。下顎から切歯までの切歯点が隠れている場合、下顎から切歯までが表示されるまで、顎の運動を再開して開きます。ダブルクリックで切歯点を配置し、顎を再び閉じてください。
3. トレースポイントを冠状、矢状、および事項方向に動かして下顎頭の中央に左右のトレースポイントをセットしてください。
4. 辺の長さが対称であることを確認してください。
5. 基準値、辺の値（これらの値は両側で同じです）およびバルクウィル角を記録しておきます。
6. 選択した突起部運動の際は顎が閉じている時点を選択してください。顎運動データ内で特定の位置を選択する方法に関する情報は**顎運動と連携する** [▶ ページ 183 - Standalone]を参照してください。
7. 歯がしっかり閉じていることを確認してください。
8. ツール**角度測定を追加する(A)**を使って矢状ビューで左右の顎関節での下顎頭の傾きを測定してください。値を記録しておきます。
9. 左へのラテロトルージョンを選択してください。ツール**角度測定を追加する(A)**を使って軸方向ビューで右の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。
10. もしある場合は、右の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。
11. 右へのラテロトルージョンを選択してください。ツール**角度測定を追加する(A)**を使って軸方向ビューで左の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。
12. もしある場合は、左の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。

32.2 下顎頭が視認不可能な時に咬合器値を読み込む

下顎頭が視認不可能な場合のボンウィル三角の設定

手順は次の通りです。

1. リストアクティブな顎関係：から実際の開口または閉口運動を選択します。
2. 軸を計算するのボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function 3Dビューで算出された軸を破線で示します。SICAT Function TMJワークスペースで両方のトレースポイントが算出された蝶番軸上に来るように、左のトレースポイントと右のトレースポイントを自動的に配置します。
 - ▶ オブジェクトブラウザで顎運動データオブジェクトを選択すると、SICAT Functionが算出された軸をプロパティエリアに表示します。



スクリーンショットは例として下顎頭が見えない石膏模型のスキャンを示しています。蝶番軸は実際の開口運動から決定されました。破線は算出された軸を意味しています。SICAT機能は自動的に左右のトレースポイントを両方が算出された軸上に来るように配置します。SICAT機能内の切歯点が下顎骨切歯間の中央に配置されています。



SICAT機能はボンウィル三角の辺の長さをmm単位で表示します。咬合器に対して直接値を記録することができます。SICAT機能が同様にバルクウィル角を表示します。バルクウィル角は閉じた顎に対してのみ適用されます。

下顎頭が不可視の場合の咬合器値の決定

咬合器値を決定するには、次のように行います。

- ☑ 上顎骨の咬合平面が水平に向き、顎が正中矢状面に対して可能な限り対称になるように3DX線撮影画像の位置を調整済みです。正確なデータを収集し、咬合器に転送するには、正確な調整が必要です。これに関する情報はボリウムの配置およびパノラマエリア [▶ ページ 145 - Standalone]を参照してください。
- ☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は顎運動データ [▶ ページ 156 - Standalone]を参照してください。

- ☑ **TMJワークスペース**はすでに開いています。これに関する情報は**TMJワークスペースに関する概要** [▶ ページ 110 - Standalone]を参照してください。
 - ☑ リスト **アクティブな顎関係**：で既に動的顎関係が選択されています。これに関する情報は**顎運動と連携する** [▶ ページ 183 - Standalone]を参照してください。
1. **オブジェクトブラウザ**でオブジェクト **顎運動データ**を選択します。
 - ▶ **プロパティエリア**にSICAT Functionボンウィル三角が表示されます。
 2. セグメンテーションされた下顎上で解剖学的に正確な位置または光学印象をダブルクリックして**3Dビュー**で下顎中切歯間に切歯点をセットします。下顎から切歯までの切歯点が隠れている場合、下顎から切歯までが表示されるまで、顎の運動を再開して開きます。ダブルクリックで切歯点を配置し、顎を再度閉じます。
 3. リスト**アクティブな顎関係**：から実際の開口または閉口運動を選択します。
 4. **プロパティ**のコーナーで、**軸を計算する**のボタンをクリックします。必要に応じて基準の長さを100mmの平均値にセットします。
 5. 辺の長さが対称であることを確認してください。
 6. **オブジェクトブラウザ**でオブジェクト **顎運動データ**を選択します。
 - ▶ SICAT Function **プロパティエリア**に基準、辺、およびバルクウィル角用の値を表示します。
 7. 基準値、辺の値(咬合器のプログラミングのため、左右両方の値が等しくなければなりません)とバルクウィル角を記録しておきます。
 8. 突起部運動を選択します。突起部運動の際は顎が閉じている時点を選択してください。顎運動データ内で特定の位置を選択する方法に関する情報は**顎運動と連携する** [▶ ページ 183 - Standalone]を参照してください。
 9. 歯がしっかり閉じていることを確認してください。
 10. ツール**角度測定を追加する(A)**を使って矢状ビューで左右の顎関節での下顎頭の傾きを測定してください。値を記録しておきます。
 11. 左へのラテロトルージョンを選択してください。ツール**角度測定を追加する(A)**を使って軸方向ビューで右の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。
 12. もしある場合は、右の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。
 13. 右へのラテロトルージョンを選択してください。ツール**角度測定を追加する(A)**を使って軸方向ビューで左の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。
 14. もしある場合は、左の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。

33 距離/角度測定

SICAT Functionには2種類の測定タイプがあります：



- 距離測定



- 角度測定

測定を追加するツールは、ワークフローのツールバーの**診断する**に記載されています。すべての2Dレイヤービューに測定を追加することができます。測定を追加する度に、SICAT Functionはその測定を**測定**のグループオブジェクトブラウザにも追加します。

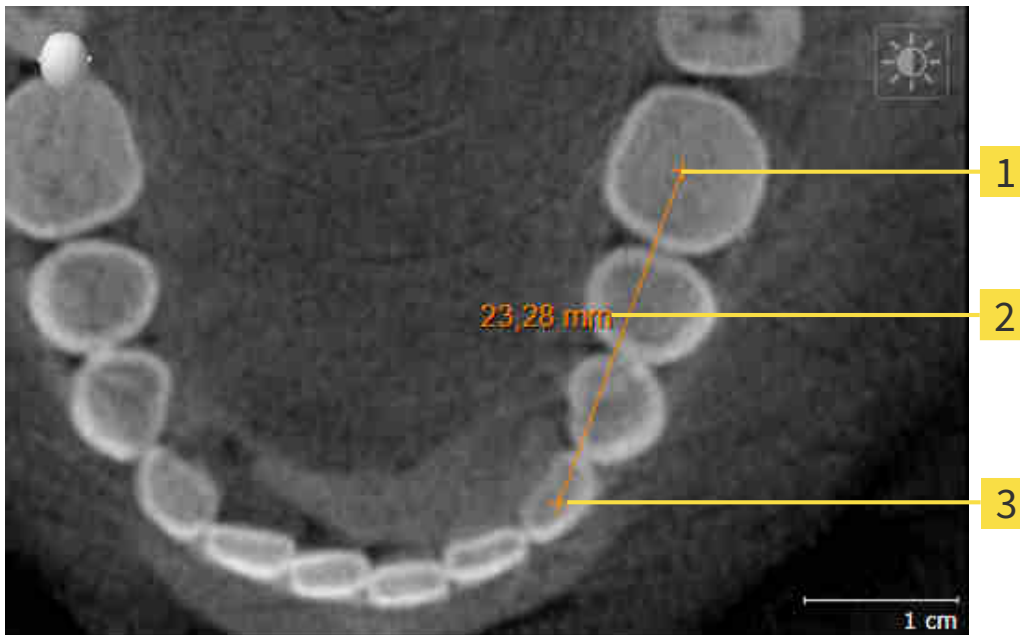


検査ウィンドウには、測定対象のオブジェクトを追加できません。

測定に使用できる操作：

- [距離測定を追加する \[▶ ページ 204 - Standalone\]](#)
- [角度測定を追加する \[▶ ページ 205 - Standalone\]](#)
- [測定、個々の測定ポイント、測定値を移動する \[▶ ページ 207 - Standalone\]](#)
- 測定のアクティベーション、非表示および表示に関する情報は**オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 [▶ ページ 101 - Standalone]**をご覧ください。
- 測定に焦点を当てる、測定を削除する、測定操作を元に戻して再度実行する手順に関する情報は、**オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 [▶ ページ 103 - Standalone]**の節をご覧ください。

33.1 距離測定を追加する



1 始点

2 測定値

3 終点

距離測定を追加するには、次の手順で行います。

☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。

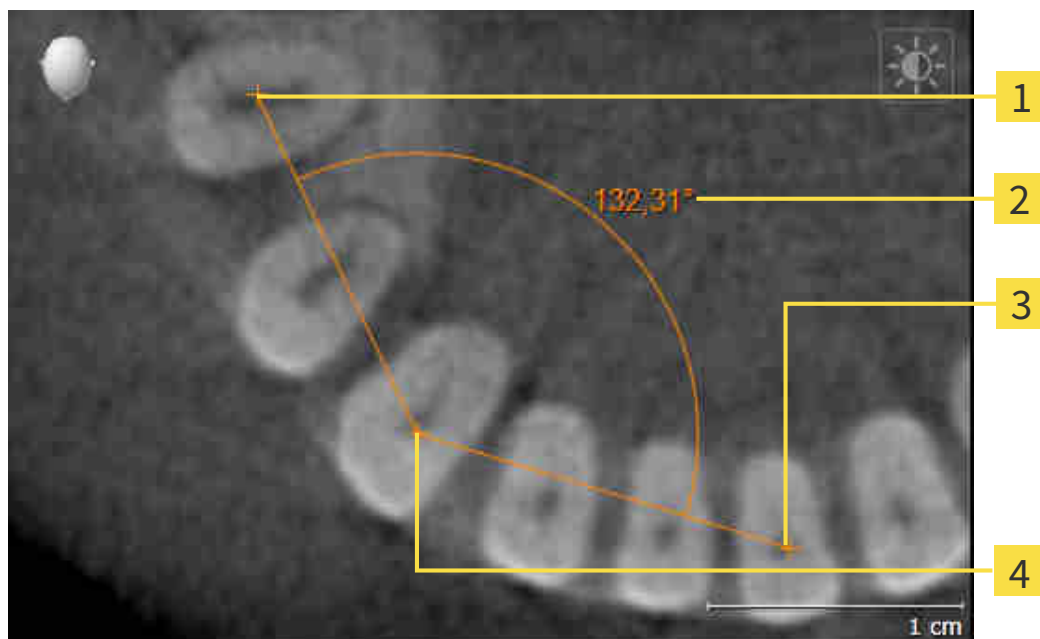


1. ワークフローステップ **診断する** で **距離測定を追加する(D)** アイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function 新しい距離測定を**オブジェクトブラウザ**に追加します。
2. マウスポインタを希望の2Dレイヤビュー上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
3. 距離測定の始点をクリックします。
 - ▶ SICAT Function は小さい十字で始点を表します。
 - ▶ SICAT Function は始点とマウスポインタ間に距離線を表示します。
 - ▶ SICAT Function 距離線の中央および **オブジェクトブラウザ**に始点とマウスポインタ間の現在の距離を表示します。
4. マウスポインタを距離測定の終点に移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は小さい十字で終点を表します。



測定の追加は、**ESC**を押すことによっていつでも中断することができます。

33.2 角度測定を追加する



1 始点

2 測定値

3 終点

4 頂点

角度測定を追加するには、次の手順で行います。

☑ ワークフロー・ステップの**診断する**は、展開させておきます。



1. ワークフローステップ **診断する** で **角度測定を追加する(A)** アイコンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function 新しい角度測定を**オブジェクトブラウザ**に追加します。
2. マウスポインタを希望の2Dレイヤビュー上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
3. 角度測定の始点をクリックします。
 - ▶ SICAT Function は小さい十字で始点を表します。
 - ▶ SICAT Function は、角度測定の1本目の辺を始点からマウスポインタまでの線で表します。
4. マウスポインタを角度測定の頂点に移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function は小さい十字で頂点を表します。
 - ▶ SICAT Function は、角度測定の2本目の辺を頂点からマウスポインタまでの線で表します。

- ▶ SICAT Function 角度測定の2つの頂点の間およびオブジェクトブラウザに現在の角度を表示します。

5. マウスポインタを2本目の辺の終点に移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。

- ▶ SICAT Function は小さい十字で終点を表します。



測定の追加は、**ESC**を押すことによっていつでも中断することができます。

33.3 測定、個々の測定ポイント、測定値を移動する

測定を移動する

測定を移動させるには、次の手順で行います。

- ☑ SICAT Function はすでに希望の測定をいずれかの2Dレイヤービューに表示しています。これに関する情報は [オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 101 - Standalone\]](#) と [オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 103 - Standalone\]](#) を参照してください。

1. マウスポインタを測定の線上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタを任意の測定位置に動かします。
 - ▶ 測定はマウスポインタの動きに従います。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function は現在の測定ポイントを保持します。

個々の測定ポイントを移動する

個々の測定ポイントを移動するには、次の手順で行います。

- ☑ SICAT Function はすでに希望の測定をいずれかの2Dレイヤービューに表示しています。これに関する情報は [オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 101 - Standalone\]](#) と [オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 103 - Standalone\]](#) を参照してください。

1. マウスポインタを希望の測定ポイント上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタをご希望の測定ポイントの位置に動かします。
 - ▶ 測定ポイントはマウスポインタの動きに従います。
 - ▶ マウスを動かすと、測定値は変化します。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function は現在の測定ポイントの位置を保持します。

測定値を移動する

測定値を移動するには、次の手順で行います。

☑ SICAT Function はすでに希望の測定をいずれかの2Dレイヤービューに表示しています。これに関する情報は[オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 101 - Standalone\]](#)と [オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 \[▶ ページ 103 - Standalone\]](#)を参照してください。

1. マウスポインタを希望の測定値上に動かします。
 - ▶ マウスポインタは十字になります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタをご希望の測定値の位置に動かします。
 - ▶ 測定値はマウスポインタの動きに従います。
 - ▶ SICAT Function は、測定値と付属の測定間に点線を表示します。
4. マウスの左ボタンを放します。
 - ▶ SICAT Function は現在の測定値の位置を保持します。



1回の測定の値を移動すると、SICAT Functionはその値を1つの絶対位置に設定します。その数値の位置を、そのときの測定ツールに対する相対位置に戻すときは、その数値をダブルクリックします。

34 データエクスポート

データをエクスポートすることができます。

現在開いている患者ファイルのスタディをエクスポートすることができます。

SICAT Suiteは以下のデータをエクスポートすることができます。

- 患者ファイル (DICOM)
- 3Dスタディ
- 文書

エクスポートしたデータには次の要素が含まれています。

データタイプ	エクスポートフォーマット
3D撮影画像	DICOM
3Dスタディ	SICAT所有者
文書	PDF

SICAT Suiteでは、3D X線撮影画像とスタディのエクスポートにあたって、ZIP形式の圧縮ファイルか、または、DICOMディレクトリのいずれかを利用します。必要な場合、SICAT Suiteは患者ファイルをエクスポートのために匿名化することができます。



文書をエクスポートするには、**3D撮影図と計画プロジェクトエリア**の文書を選択し、**エクスポート**ボタンをクリックします。その後、Windows ファイルエクスプローラーウィンドウが開き、エクスポート先のディレクトリを選択することができます。

データをエクスポートするには、次の操作を規定の手順で実行します。

- **データを共有する**ウィンドウを開く。これに関する情報は「データの転送」ウィンドウを開く [▶ ページ 210 - Standalone]を参照してください。
- 希望のデータをエクスポートします。これに関する情報はデータのエクスポート [▶ ページ 211 - Standalone]を参照してください。

34.1 「データの転送」ウィンドウを開く

データをエクスポートするにはまず**データを共有する**ウィンドウを開く必要があります。

SICAT Suiteのスタンドアロンバージョンで **データを共有する**ウィンドウを開くには、次の操作のうちいずれかを実行します：



- 患者ファイルが有効になっている場合、**ナビゲーションバー**で**データを共有する**アイコンをクリックします。
 - ▶ **データを共有する**のウィンドウが開きます。
- SICAT Suiteホームのウィンドウで、**データを共有する**のボタンをクリックします。
 - ▶ **データを共有する**のウィンドウが開きます。
- **アクティブな患者ファイル**ウィンドウで3D X線撮影図、スタディまたは計画プロジェクトを選択し、**データを共有する**ボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは患者ファイルを有効にし、選択したデータに関する**データを共有する**ウィンドウが開きます。
- **患者ファイルの概要**ウィンドウで患者ファイルを選択し、選択した患者ファイルを転送するボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは患者ファイルを有効にし、**データを共有する**ウィンドウが開きます。患者ファイルの全ての3D X線撮影図と計画プロジェクトをエクスポートするために選択します。
- **患者ファイルの概要**ウィンドウで3D X線撮影図または計画プロジェクトを選択し、**データを共有する**ボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは患者ファイルを有効にし、**データを共有する**ウィンドウが開きます。



SICAT Suiteはアクティブな患者ファイルの選択した3D X線撮影画像と計画プロジェクトのみエクスポートします。

データのエクスポート [▶ ページ 211 - Standalone]で続行してください。

34.2 データのエクスポート

スタディをエクスポートするには、次の手順で行います。

- ☑ **データを共有する** ウィンドウはすでに開いています：これに関する情報は「データの転送」ウィンドウを開く [▶ ページ 210 - Standalone] を参照してください。



1 チェックボックス **匿名にする**

4 欄 **目的のパスを選択してください。**

2 患者ファイルの特性

5 ボタン **データを共有する**

3 3Dスタディのリスト

6 チェックボックス **結果をZipファイルにする**

1. 希望する場合、**データを共有する** ウィンドウで**匿名にする**のチェックボックスにチェックを入れます。
 - ▶ エクスポートした患者ファイルの特性は、**姓 (患者)**、**名 (匿名)**、**1月1日 (誕生日が誕生日年)** に変わります。患者ファイリング内の患者ファイルの特性は変更されません。

2. 希望の患者の任意の3Dスタディが選択されていることを確認してください。



3. **検索する**のボタンをクリックします。

▶ **フォルダを検索する** のウィンドウが開きます。

4. **フォルダを検索する** ウィンドウでエクスポート先フォルダを選択し、**OK**をクリックします。

▶ **フォルダを検索する** ウィンドウが閉じ、SICAT Suiteが任意のフォルダへのパスを**目的のパス**を選択してください。欄に転記します。

5. **結果をZipファイルにする**のチェックボックスをアクティブまたは無効にします。



6. データを共有するのボタンをクリックします。

- ▶ SICAT Suiteは選択したスタディをZIP形式の圧縮ファイルか、または、選択したフォルダにエクスポートします。

ZIP形式の圧縮ファイルとフォルダの両者いずれにおいても、それぞれで保存されるのは、DICOM形式の3D X線撮影画像、および、ファイル形式がプロプライエタリ・フォーマットの治療計画データです。3D X線撮影画像は、すべてのDICOMビューワで確認できますが、治療計画データは、SICATの各種アプリケーションのうち、そのデータが関係するものを使用します。

35 注文プロセス

希望の製品を注文するには、次の手順で行います。

- SICAT Functionで、治療位置を設定し、治療スプリントのための希望する計画データをショッピングカートに入れます。これに関する情報は[治療位置の設定 \[▶ ページ 214 - Standalone\]](#)と [治療スプリントをショッピングカートに入れる \[▶ ページ 216 - Standalone\]](#)を参照してください。
- ショッピングカートを確認し、注文を開始します。これに関する情報は[カートをチェックして、注文プロセスを完了する \[▶ ページ 221 - Standalone\]](#)を参照してください。
- 注文は、SICAT Suiteが作動しているコンピューターで直接終了するか、インターネットに接続されている別のコンピューターで終了します。これに関する情報は[インターネット接続を使用した注文の終了 \[▶ ページ 222 - Standalone\]](#)または[インターネット接続を使用しない注文の終了 \[▶ ページ 226 - Standalone\]](#)を参照してください。



様々な患者、3D X線撮影図およびアプリケーションに属する注文をショッピングカートに追加することができます。ショッピングカートの内容は、SICAT Suite終了時も保持されます。

35.1 治療位置の設定

治療位置を設定するには、次の手順で行います。

- ☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録 [▶ ページ 158 - Standalone] を参照してください。
- ☑ 光学印象はすでにインポートされています。これに関する情報は光学印象をインポートし記録する [▶ ページ 172 - Standalone] と他のSICATアプリケーションからの光学印象を再使用する [▶ ページ 180 - Standalone] を参照してください。

1. 治療位置をベースにして静的な顎関係に設定する場合は、**アクティブな顎関係：**のリストから静的な顎関係を選択します。これに関する情報は顎運動と連携する [▶ ページ 183 - Standalone] を参照してください。
2. 治療位置をベースにして顎運動に設定する場合は、**アクティブな顎関係：**のリストから、顎運動を1件選択し、お好みの位置へ移動します。これに関する情報は顎運動と連携する [▶ ページ 183 - Standalone] を参照してください。



3. **治療位置**のボタンをクリックします。

- ▶ 顎運動に基づく治療位置を選択したら、SICAT Functionでは、その該当する位置にブックマークがセットされます。
- ▶ **治療位置**のボタンが、**治療位置をキャンセルする**のボタンに切り替わります。
- ▶ SICAT Function は選択した治療位置を治療スプリントの注文のために保存します。

治療位置をキャンセルする

指定した治療位置をキャンセルするには、次の手順で行います。

- ☑ 顎の静的な相対関係か、または、顎運動のブックマークのうち、治療位置の指定でベースとしたものを選択しておきます。



1. **治療位置をキャンセルする**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Function 通知ウィンドウが開き、以下の内容をお知らせします：**治療位置を本当に取り消しますか？**
2. 治療位置を削除する場合は、**継続する**をクリックしてください。

治療位置に上書きする

指定した治療位置に上書きするには、次の手順で行います。

治療位置はすでに設定されています。

1. 顎の静的な相対関係か、または、顎運動の位置のうち、指定した治療位置に該当しないものを選択します。



2. 治療位置のボタンをクリックします。

▶ SICAT Function 通知ウィンドウが開き、以下の内容をお知らせします：**治療位置はすでに設定されました。続行する場合は、位置が上書きされます。**

3. 治療位置に上書きする場合は、**継続する**をクリックしてください。

治療スプリントをショッピングカートに入れる [▶ ページ 216 - Standalone]で続行してください。

35.2 治療スプリントをショッピングカートに入れる



注文に誤ったデータがあると、誤った注文となる可能性があります。

注文をするときには、注文のための正しいデータの選択と転送を確認してください。



注文を誤ると誤った治療の原因となるおそれがあります。

1. 注文を送信する前にご注文内容をご確認ください。
2. 注文の適切な治療計画を確認してください。

注文プロセスに関する一般的な情報は、[注文プロセス](#) [▶ ページ 213 - Standalone]の節をご覧ください。

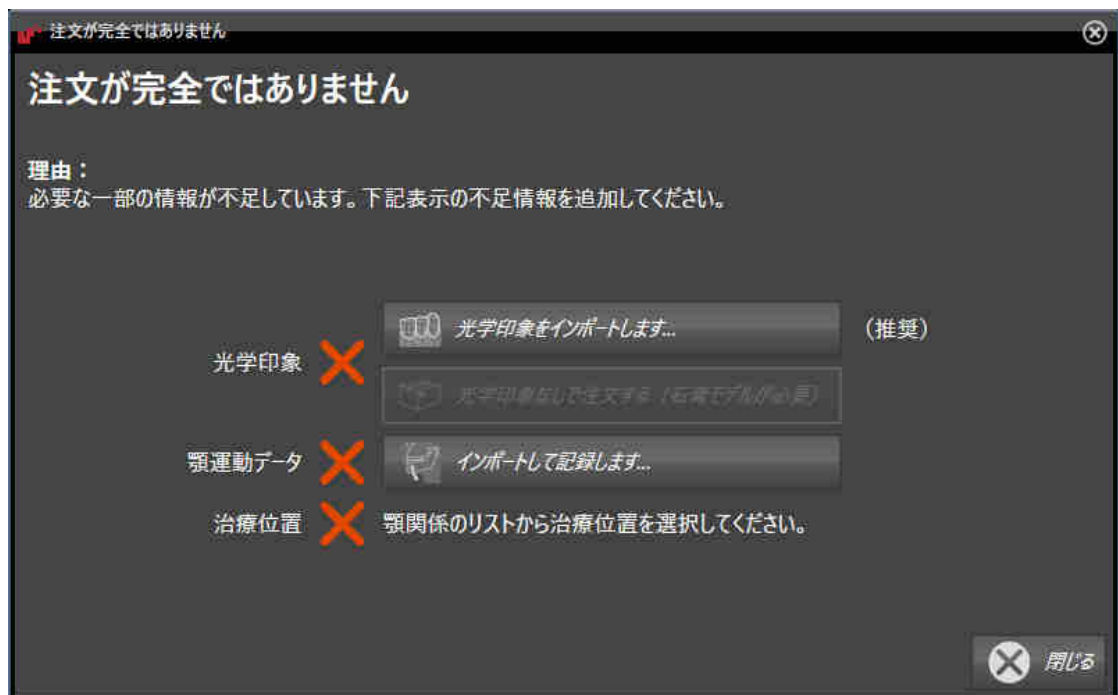
SICAT Functionで最初の注文プロセスの治療スプリントをショッピングカートに入れます。治療スプリントをショッピングカートに入れるには、特定の条件を満たす必要があります。すべての条件をまだ満たしていない場合は、SICAT Functionを参照してください。

充足されていない前提条件があるとき

- ☑ ワークフロー・ステップの**注文する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 97 - Standalone]を参照してください。



1. 治療スプリントを注文しますのアイコンをクリックします。
 - ▶ **注文が完全ではありません**のウィンドウが開きます。





2. 光学印象をまだインポートしていない場合は、**インポートして記録します**ボタンをクリックし、3D X線撮影図のための適切な光学印象をインポートします。これに関する情報は**光学印象をインポートし記録する** [▶ ページ 172 - Standalone]を参照してください。



3. 顎運動データをまだインポートしていない場合は、**インポートして記録します**ボタンをクリックし、顎運動データをインポートします。これに関する情報は**顎運動データ用機器からの顎運動データのインポートおよび記録** [▶ ページ 158 - Standalone]を参照してください。
4. 治療位置をまだ設定していない場合は、**注文が完全ではありません**ウインドウを閉じ、治療位置を設定します。これに関する情報は**治療位置の設定** [▶ ページ 214 - Standalone]を参照してください。



場合によっては、光学印象をインポートする前にボリュームの配置およびパノラマ曲線を調整する必要があります。**ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する**ウインドウを**光学印象をインポートし記録する**ウインドウからステップ**登録する**で直接呼び出すことができます。直接呼び出すにはボタン**パノラマエリアを調整する**をクリックします。これに関する情報は**パノラマエリアを調整する** [▶ ページ 152 - Standalone]を参照してください。



光学印象の代わりにギブスをSICATに送信したい場合は、**注文が完全ではありません**ウインドウの**光学印象なしで注文する (石膏モデルが必要)**ボタンをクリックし、治療スプリントを光学印象なしでショッピングカートに入れることができます。その後、ステップ**治療スプリントを注文する**は情報この注文には光学印象は含まれていません。該当する石膏モデルをSICATまでお送りください。のを示します。

前提条件がすべて充足されているとき

- 光学印象はすでにインポートされています。
- 顎運動データはすでにインポートされています。
- 治療位置はすでに設定されています。
- ワークフロー・ステップの**注文する**は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー [▶ ページ 97 - Standalone]を参照してください。



- **治療スプリントを注文します**のアイコンをクリックします。
 - ▶ **治療スプリントを注文する**のウインドウが開きます。

「治療スプリントを注文する」ウィンドウの注文を確認してください

- 治療スプリントを注文するウィンドウはすでに開いています：



1. 患者情報と撮影図情報が正しいかどうか**患者エリア**と**注文への詳細エリア**を確認してください。
2. **3Dビュー**で治療位置が正しいかどうか確認してください。
3. 希望する場合、**追加情報欄**にSICATの追加情報を入力します。



4. ショッピングカートにのボタンをクリックします。

- ▶ SICAT Function 治療スプリントに適用する治療計画のデータで、お好みのものがSICAT Suiteのカートに入ります。
- ▶ **治療スプリントを注文する**ウィンドウが閉じます。
- ▶ SICAT Function SICAT Suiteのカートが開きます。



注文がショッピングカート内にある間は、計画の光学印象、顎運動データおよび治療位置に上書きすることはできません。これは、注文を終了するか削除した場合において初めて可能です。計画の光学印象、顎運動データおよび治療位置に上書きまたは削除した場合は、同じ治療スプリントを再度注文することはできません。



中止するをクリックすると、注文をキャンセルできます。

カートをチェックして、注文プロセスを完了する [[▶ ページ 221 - Standalone](#)]で続行してください。

35.3 カートを開く



カートアイコンでは、カート内にあるアイテムの数量を示しています。

☑ カートには、製品を1個以上、入れておきます。



- ショッピングカートはまだ開いていない場合、ナビゲーションバーのカートボタンをクリックします。

▶ カートのウィンドウが開きます。

以下の操作で、処理を続けてください。

- カートをチェックして、注文プロセスを完了する [▶ ページ 221 - Standalone]

35.4 カートをチェックして、注文プロセスを完了する

- ☑ カートウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は[カートを開く \[▶ ページ 220 - Standalone\]](#)を参照してください。



1 リスト オーダーアイテムへ

2 ボタン オーダーを完了する

1. カートウィンドウで、希望の製品が含まれてるか確認します。
2. **オーダーを完了する**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteは注文ステータスを**準備中**にし、さらに、SICAT WebConnector経由で、SICATサーバーに接続します。

▶ インターネットに接続して注文した場合、注文の変更はSICATポータルでのみ可能です。

以下の操作を続行します：

- インターネット接続を使用した注文の終了 [[▶ ページ 222 - Standalone](#)]
- インターネット接続を使用しない注文の終了 [[▶ ページ 226 - Standalone](#)]

35.5 インターネット接続を使用した注文の終了



Windowsのバージョンによっては、注文プロセスを行うために、標準的なWebブラウザに設定しなければならない場合があります。

- ☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されています。
 - ☑ SICATポータルは自動的にブラウザで開かれました。
1. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
 - ▶ 注文一覧が開き、含まれている製品および価格が患者毎にグループ分けして表示されません。
 2. SICATポータルでの注文手順 [▶ ページ 223 - Standalone] 以下の手順に従ってください。
 - ▶ SICAT Suiteはアップロード用の注文データを準備します。
 - ▶ 準備が完了すると、SICAT WebConnectorは注文データを暗号化された接続経路でSICATサーバーに転送します。
 - ▶ ショッピングカートの注文ステータスが**アップロードする**に変わります。



SICAT Suiteでは、アップロードが完了するまで、注文内容の表示を続けます。複数のコンピューターで、同じ患者ファイルフォルダーを開いているときは、注文をアップロードしているのが別のコンピューターであっても、すべてのコンピューターで、その注文内容が表示されます。注文内容のアップロードを開始したコンピューターであれば、そのコンピューターで、注文プロセスを一時停止する、再開する、キャンセルするの各操作を行うことができます。



アップロード中にWindowsをログオフすると、SICAT WebConnectorはアップロードを一時停止します。ソフトウェアは再度ログオン後に、自動的にアップロードを続行します。

35.6 SICATポータルでの注文手順

SICAT Suiteで注文プロセスを実行して完了したら、お手元の標準ブラウザでSICAT Portalのページが開きます。SICAT Portalでは、ご自分の注文内容をカスタマイズして、製作依頼先にする、有資格の歯科技工所を選択し、製品の価格を確認できます。

SICAT Portalで注文プロセスを実行するには、次の手順で行います。

1. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
2. 希望の製品が含まれてるか確認します。
3. 必要に応じて、患者および付属の全製品を注文一覧から除去してください。注文を完了すると、SICAT Suiteでは、SICAT Portalで実施した変更内容が適用されます。
4. 請求書送付先と配送先住所が正しいか確認してください。正しくない場合修正してください。
5. 希望の配達方法を選択してください。
6. 一般条件を承認し、注文を提出してください。



患者を選択し、患者の削除のボタンをクリックすることにより、患者および全ての付属プリントをSICATポータルから除去することができます。その後、ショッピングカートでは再び製品の構成にフルアクセスすることができます。

35.7 SICAT WEBCONNECTOR



SICAT WebConnectorはSICATサーバーとの通信用に特定のポートを必要とします。これに関する情報はシステム要件 [▶ ページ 9 - Standalone]を参照してください。



Windowsのバージョンによっては、注文プロセスを行うために、標準的なWebブラウザに設定しなければならない場合があります。

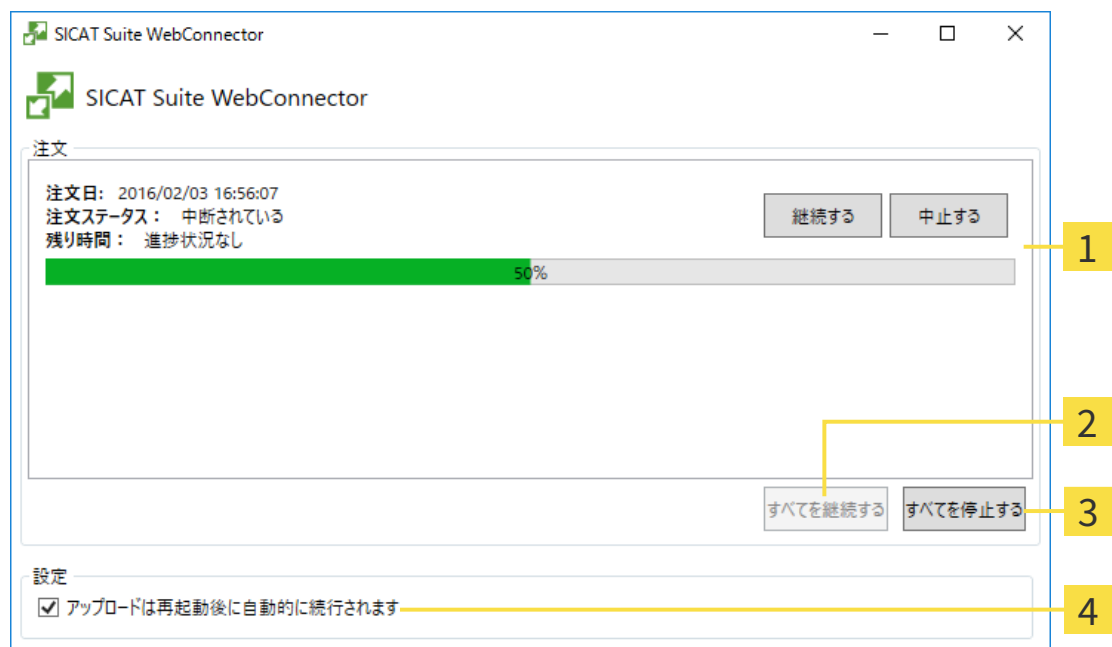
SICAT Suiteを実行させているコンピュータがインターネットに接続できるときは、SICAT Suiteで、ご自分の注文内容がバックグラウンドで暗号化され、WebConnector経由で送信されます。SICAT Function 直接、カートから送信のステータスを表示しますので、SICAT WebConnectorを一時停止させることがあります。SICAT WebConnectorが送信を再開するのは、SICAT Suiteを閉じて終了させた後になります。ご希望に沿ってアップロードが行われないことがありますが、そのときは、SICAT WebConnectorのユーザーインターフェースを開いてください。

「SICAT SUITE WEBCONNECTOR」のウィンドウを開く



- タスクバーの通知ウィンドウで、**SICAT Suite WebConnector**アイコンをクリックします。

▶ SICAT Suite WebConnector のウィンドウが開きます。



1 リスト 注文

2 ボタン すべて再開する

3 ボタン すべて停止する

4 チェックボックス 再起動後にアップロードを自動で再開する

注文 のリストには、処理待機中の注文内容が表示されます。

アップロードの中断および続行

アップロードの処理は、中断させることができます。この操作は、例えば、お使いのインターネット接続で負荷が過大なときに役立ちます。設定内容で制御する対象は、SICAT WebConnectorでのアップロード処理に限定されています。Webブラウザを利用するアップロード処理は、この操作の影響を受けません。

SICAT Suite WebConnectorウインドウはすでに開いています：

1. **すべて停止する**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT WebConnectorでは、すべての注文について、アップロードを中断します。
2. **すべて再開する**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT WebConnectorでは、すべての注文について、アップロードを再開します。

再起動後の自動アップロード再開をオフにする

Windowsを再起動しても、SICAT WebConnectorでアップロードが自動で再開することがないようにすることができます。

SICAT Suite WebConnectorウインドウはすでに開いています：

- **再起動後にアップロードを自動で再開する**のチェックボックスで、チェックマークを外します。
- ▶ お手元のコンピュータを再起動させても、SICAT WebConnectorでは、ご自分の注文のアップロードが自動で再開することは、なくなります。

35.8 インターネット接続を使用しない注文の終了

SICAT Suiteを起動しているコンピューターにSICATサーバーとの接続が確立できない場合、SICAT SuiteがウィンドウSICAT サーバーへの接続エラーを開きます。ウィンドウは問題に対する以下の原因を表示します。

- インターネット接続が利用できません。SICAT WebConnectorはSICATサーバーへの接続を確立できません。
- SICATポータルにアクセスできません。
- 「SICATWebConnector」サービスがインストールされていません。
- 「SICATWebConnector」サービスが起動していません。
- 未知のエラーが発生しました。SICAT WebConnectorはSICATサーバーへの接続を確立できません。

この章ではインターネット接続が使用できない場合のみを対象にスクリーンショットを示しています。

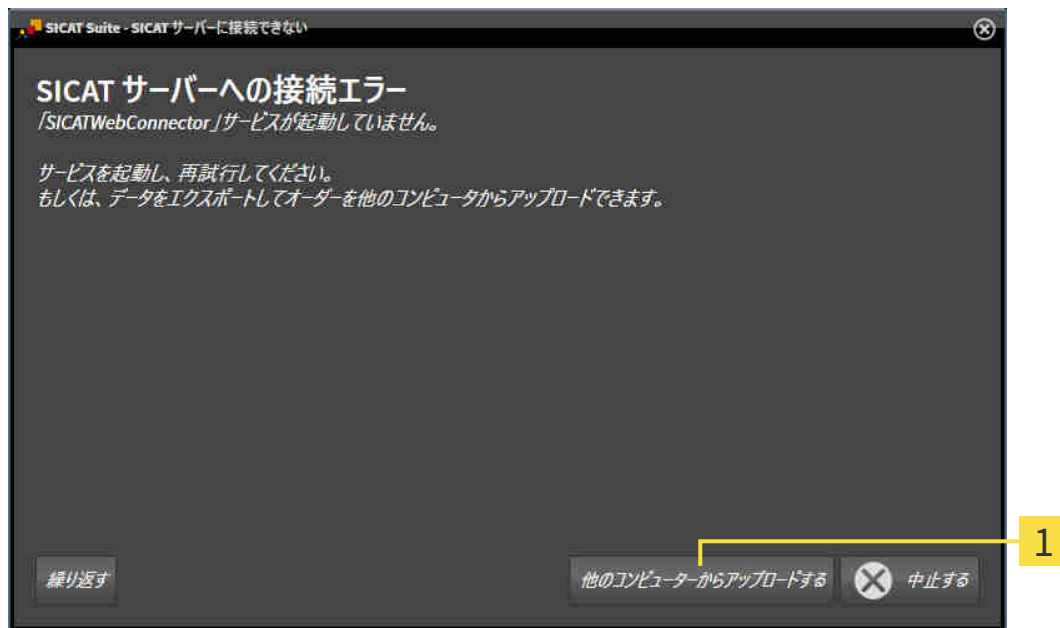
その原因の下で可能な問題を解決できる手順を発見します。

トラブルシューティングの代替手段として、注文をインターネット接続が有効な他のコンピューターのウェブブラウザからアップロードする方法があります。ウェブブラウザによる注文に対して、SICAT Suiteは一度に全ての製品をショッピングカートにエクスポートし、患者毎に一つのサブフォルダを作成します。各サブフォルダには注文情報付のXMLファイルと製造に必要なデータが付いているZIPアーカイブがあります。SICATポータルではXMLファイルとZIPアーカイブを連続してアップロードすることができます。この送信は、暗号化して行われます。

インターネット接続を利用しない注文プロセスを完了するには、次の手順で行います。

- ☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されていません。

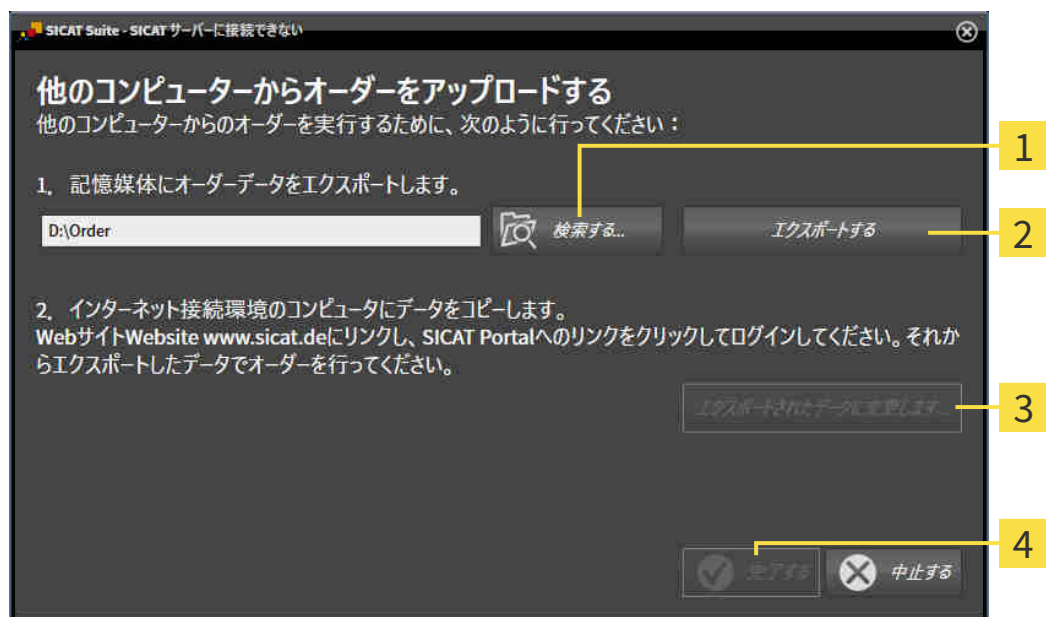
☑ ウィンドウに表示されるメッセージ： SICAT サーバーへの接続エラー



1 ボタン 他のコンピューターからアップロードする

1. 他のコンピューターからアップロードするのボタンをクリックします。

▶ 他のコンピューターからオーダーをアップロードする のウィンドウが開きます。



1 ボタン 検索する

2 ボタン エクスポートする

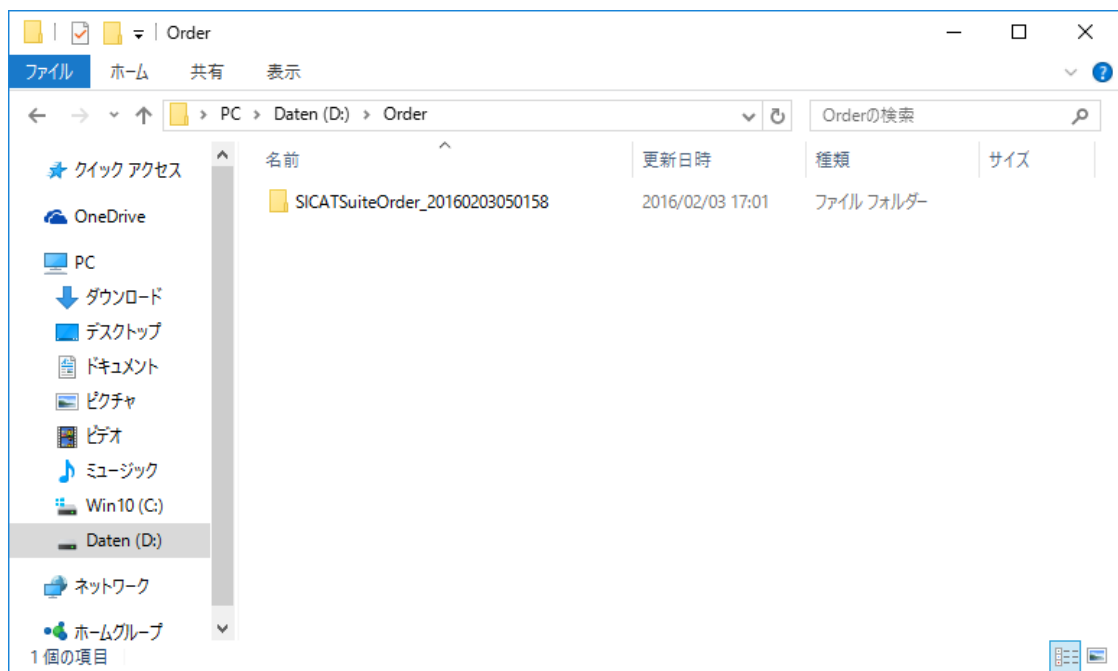
3 ボタン エクスポートされたデータに変更
します

4 ボタン 完了する

2. 検索するのボタンをクリックします。

▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。

3. 既存のディレクトリを選択するか、新しいディレクトリを作成して、**OK**をクリックします。ディレクトリのパス名は、字数を160字以下にしておく必要がありますので、ご注意ください。
4. **エクスポートする**のボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは、ショッピングカートの内容の注文に必要な全データを指定のフォルダにエクスポートします。この時、SICAT Suiteは患者毎に一つのサブフォルダを作成します。
5. **エクスポートされたデータに変更します**のボタンをクリックします。
 - ▶ Windowsファイルエクスプローラーウインドウが開き、エクスポートしたデータのあるディレクトリが表示されます：



6. USBスティックなどの補助ツールを使用して、インターネットに接続しているコンピューターに希望のスプリントのデータが含まれるフォルダをコピーします。
7. **他のコンピューターからオーダーをアップロードするウインドウの完了する**をクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは**他のコンピューターからオーダーをアップロードするウインドウ**を閉じます。
 - ▶ SICAT Suiteは、注文に含まれる全ての製品をショッピングカートから除去します。
8. インターネットに接続されたコンピューター上でウェブブラウザを開き、インターネットページ<http://www.sicat.de>を開きます。
9. SICATポータルへのリンクをクリックします。
 - ▶ SICATポータルが開きます。

10. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
11. 注文をアップロードするためのリンクをクリックします。
12. インターネットに接続したコンピューターで希望の注文を選択します。これは、ファイル名が**SICATSuiteOrder**で始まるXMLファイルです。
 - ▶ 注文一覧が開き、含まれている患者、付属の製品および価格が表示されます。
13. SICATポータルでの注文手順 [▶ ページ 223 - Standalone]以下の手順に従ってください。
14. 製品の治療計画データをアップロードするためのリンクがありますので、それをクリックします。
15. インターネットに接続したコンピューターで適切な製品データを選択します。これは、以前アップロードしてXMLファイルと同じフォルダ内にあり、ファイル名が**SICATSuiteExport**で始まるZipアーカイブです。
 - ▶ 注文を実行した場合、ブラウザは製品データが含まれるアーカイブを暗号化された接続経由でSICATサーバーに転送します。



SICAT Suiteは、エクスポートしたデータを自動的に削除しません。注文プロセスが完了したら、セキュリティ上の理由により、エクスポートしたデータを手動で削除する必要があります。

36 設定

設定ウィンドウで一般設定を変更または閲覧することができます。設定アイコンをクリックすると、設定ウィンドウの左側のページにあるオプションバーに次のタブが表示されます。

- **一般** - これに関する情報は **一般設定の使用** [▶ ページ 231 - Standalone] を参照してください。
- **患者ファイル用ファイリング** - SICAT Suiteのスタンドアロンバージョンでのみ使用可能。これに関する情報は **患者ファイリング** [▶ ページ 57 - Standalone] を参照してください。
- **ライセンス** - これに関する情報は **ライセンス** [▶ ページ 47 - Standalone] を参照してください。
- **プラクティス** - 施設のロゴおよび情報テキストを表示または変更します（例えば、プリントアウトして使用するため）。これに関する情報は **歯科医院情報の使用** [▶ ページ 235 - Standalone] を参照してください。
- **可視化** - ビジュアル化に関連する、一般的な設定内容を変更します。これに関する情報は **可視化設定の変更** [▶ ページ 236 - Standalone] を参照してください。
- **SICAT Function** - SICAT Functionで、アプリケーション固有の設定内容を変更します。これに関する情報は **SICAT Function設定の変更** [▶ ページ 238 - Standalone] を参照してください。

設定を変更した場合、SICAT Functionが変更をすぐに反映し、お客様のユーザープロフィールに設定を保存します。

36.1 一般設定の使用

一般的な設定内容を開くには、次の手順で行います。



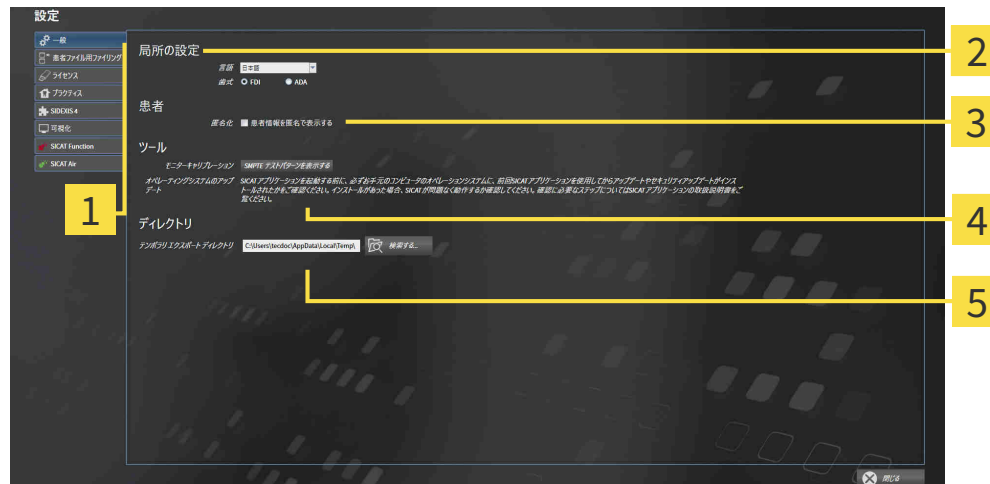
1. ナビゲーションバーで、設定のアイコンをクリックします。

▶ 設定のウィンドウが開きます。



2. 一般タブをクリックします。

▶ 一般のウィンドウが開きます。



1 タブ 一般

4 エリア ツール

2 エリア 局所の設定

5 エリア ディレクトリ

3 エリア 患者

以下の設定を変更することができます。

- **局所の設定**エリアでは、言語リストからユーザーインターフェースの言語を変更することができます。
- **局所の設定**エリアでは、歯式で現在の歯型図を変更できます。
- **患者**エリアでは、患者情報を匿名で表示するのチェックボックスのステータスを変更または閲覧できます。チェックボックスが選択されている場合、SICAT Suiteでは患者ファイルの特性はナビゲーションバーに患者（姓）、匿名（名）、誕生年月で01.01.（誕生日）と表示されます。SICAT Suiteホームウィンドウで、SICAT Suiteは最後の患者ファイルリストを表示しません。
- **ディレクトリ**エリアでは、テンポラリー エクスポート ディレクトリ欄にSICAT Suiteが注文データを保存するフォルダを指定することができます。このフォルダには、フルアクセスできなくてはなりません。

一般設定の表示または変更の他に、SMPTEテスト画像を開いて、モニターをキャリブレーションすることもできます。

- ツール、モニターキャリブレーションでSMPTEテストパターンを表示するボタンをクリックして、モニターをキャリブレーションします。これに関する情報はSMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーション [▶ ページ 233 - Standalone]を参照してください。



対応している歯型図はFDIとADAです。

36.2 SMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーション



注意

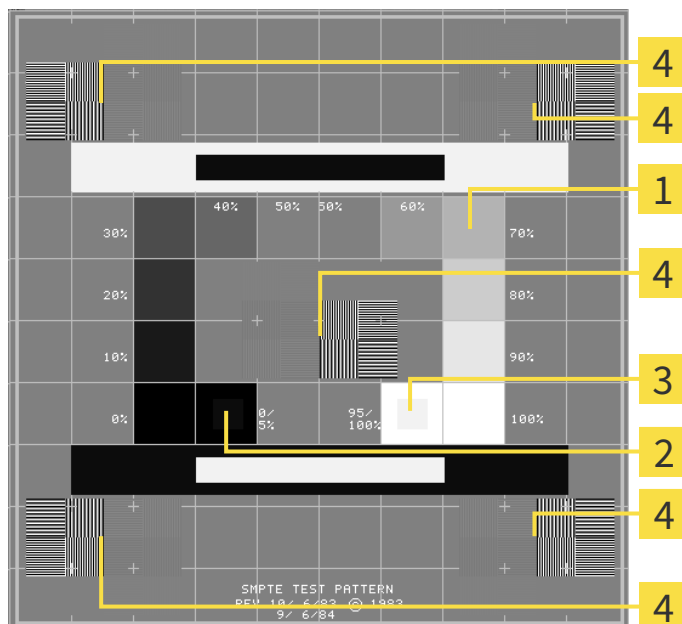
環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

4個のメインプロパティが、SICATアプリケーションのデータを表示させるモニターの特性を決定します。

- 輝度
- コントラスト
- 空間分解能（直線性）
- ひずみ（エイリアシング）

SMPTEテスト画像は参照画像であり、モニターのプロパティをチェックする際に使用します。



1 グレースケールスクエア

2 0%スクエア

3 100%スクエア

4 高コントラストのバーパターンが含まれるスクエア

輝度およびコントラストの点検

SMPTEテスト画像の中央では、一連のスクエアが黒（輝度0%）～白（輝度100%）のグレースケールを示しています。

- 0%スクエアには、0%～5%間の輝度の違いを示す小さ方のスクエアが含まれます。
- 100%スクエアには、95%～100%間の輝度の違いを示す小さ方のスクエアが含まれます。

モニターを点検または設定するには、次のように行います。

SMPTEテスト画像はすでに開いています。

- 0%スクエアおよび100%スクエアで、内側のスクエアと外側のスクエア間に視覚的違いが見えるか点検してください。必要に応じて、モニターの設定を変更してください。



多くのモニターは、100%スクエア内の輝度の相違のみ表示され、0%スクエア内には表示されません。0%スクエア内の様々な輝度レベルの相違を改善するために、アンビエントライトを減らすことができます。

空間分解能およびひずみの点検

SMPTEテスト画像の角および中央では、6個のスクエアに高コントラストのバーパターンが表示されます。空間分解能およびひずみについては、様々な幅の、黒と白で切り替わる、垂直の線で区別できる必要があります。

- 幅が広い～狭い（6ピクセル、4ピクセル、2ピクセル）
- 水平および垂直

モニターを点検または設定するには、次のように行います。

- 高コントラストのバーパターンが表示される6個のスクエアで、全ての線が区別できるかどうか点検します。必要に応じて、モニターの設定を変更してください。

SMPTEテスト画像を閉じる

SMPTEテスト画像を閉じるには、次の手順で行います。

- ESCボタンを押します。
- ▶ SMPTEテスト画像が閉じます。

36.3 歯科医院情報の使用

SICAT Suiteの各種アプリケーションでは、このページで表示する説明文を利用して、印刷物やPDFファイルをカスタマイズします。

歯科クリニックの説明文を開くには、次の手順で行います。



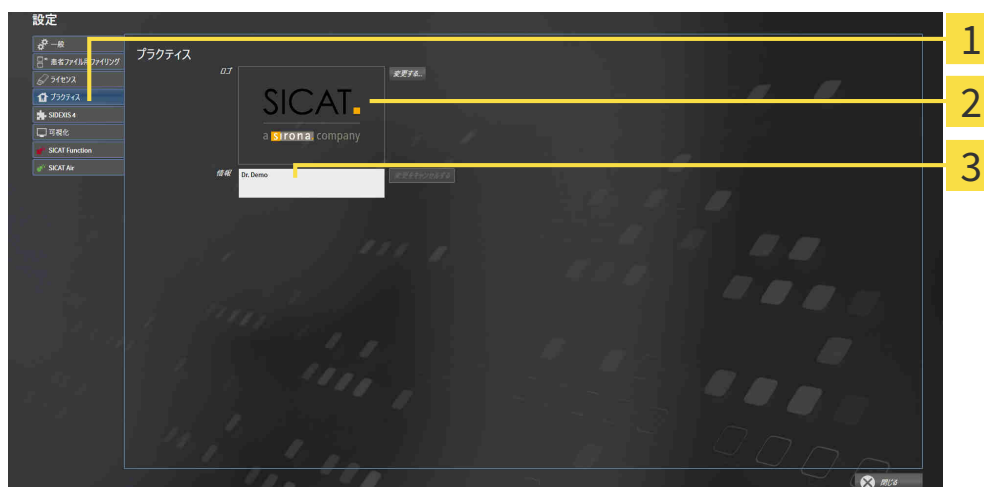
1. ナビゲーションバーで、**設定**のアイコンをクリックします。

▶ **設定**のウィンドウが開きます。



2. **プラクティスタブ**をクリックします。

▶ **プラクティス**のウィンドウが開きます。



1 タブ プラクティス


2 エリア ロゴ

3 エリア 情報


以下の設定を変更することができます。

- **ロゴ**エリアでは、歯科医院のロゴを設定することができます。**変更する**ボタンで歯科医院のロゴを選択することができます。SICAT Suiteは指定のファイルをSICAT Suiteユーザーディレクトリにコピーします。
- **情報**エリアでは、歯科医院を識別するテキスト（名前、住所など）を入力することができます。**Enter**ボタンを押して、行数を最大5行まで増やすことができます。**変更をキャンセルする**ボタンをクリックして、情報テキストの変更を元に戻すことができます。

36.4 可視化設定の変更

注意  表示品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

SICATアプリケーションを使用する前に、表示品質が十分であるか確認してください（例えば、SMPTEテストビューで）。

注意  環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

可視化設定は、すべてのSICATアプリケーションのボリューム、診断オブジェクト、計画オブジェクトの可視化を決定します。

可視化ウィンドウを開くには、次の手順で行います。



1. 設定のアイコンをクリックします。
▶ 設定のウィンドウが開きます。



2. 可視化タブをクリックします。
▶ 可視化のウィンドウが開きます。



- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 タブ 可視化 | 4 エリア 線の太さ |
| 2 エリア 画質 | 5 エリア 目線 |
| 3 エリア 他のビューの更新 | |

設定：

- **レイヤーの画質を向上させます。** - ソフトウェアが隣接するレイヤーを検知することにより、レイヤーの表示品質を改善します。高効率なコンピューターに限り、この設定をアクティブにしてください。
- **他のビューの更新** - 遅延更新は、別のレイヤーの遅延更新を犠牲にして作業に使用しているビューのインタラクティブ性を向上させます。遅延更新は、コンピューターにインタラクティブ性の不具合が確認された場合のみアクティブにします。
- **線の太さ** - 線の太さを変更します。太めの線は、プロジェクターでのプレゼンテーションに使用します。
- **目線** - 軸方向レイヤービューと矢状方向レイヤービューの目線を切り替えます。

36.5 SICAT FUNCTION設定の変更

SICAT Functionの各種設定では、SICAT FunctionのTMJワークスペースにおけるパニングやズームの同期を定義します。

SICAT Function設定を変更するには、次の手順で行います。



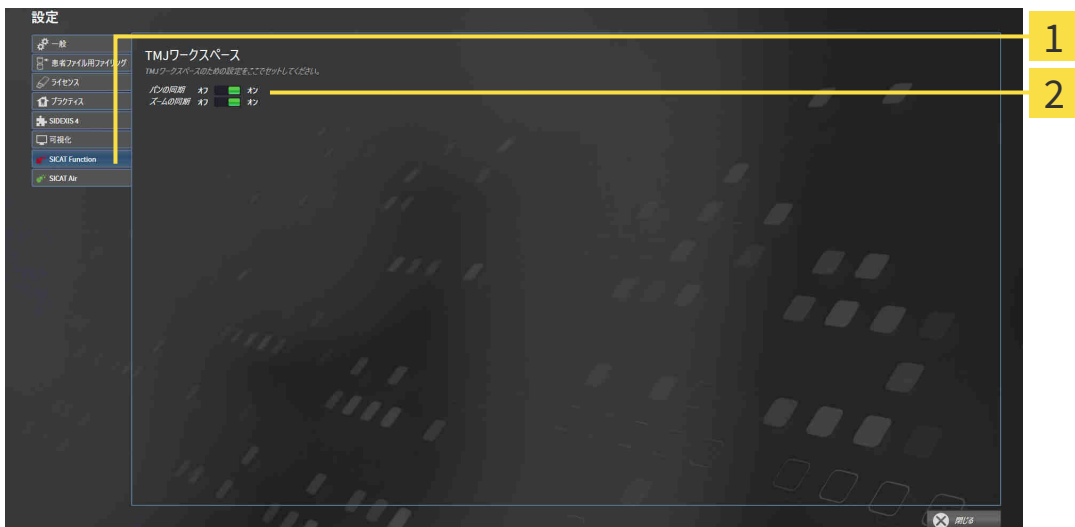
1. 設定のアイコンをクリックします。

▶ 設定のウィンドウが開きます。



2. SICAT Functionタブをクリックします。

▶ SICAT Functionのウィンドウが開きます。



1 タブ SICAT Function

2 エリア TMJワークスペースのための設定をここでセットしてください。

設定：

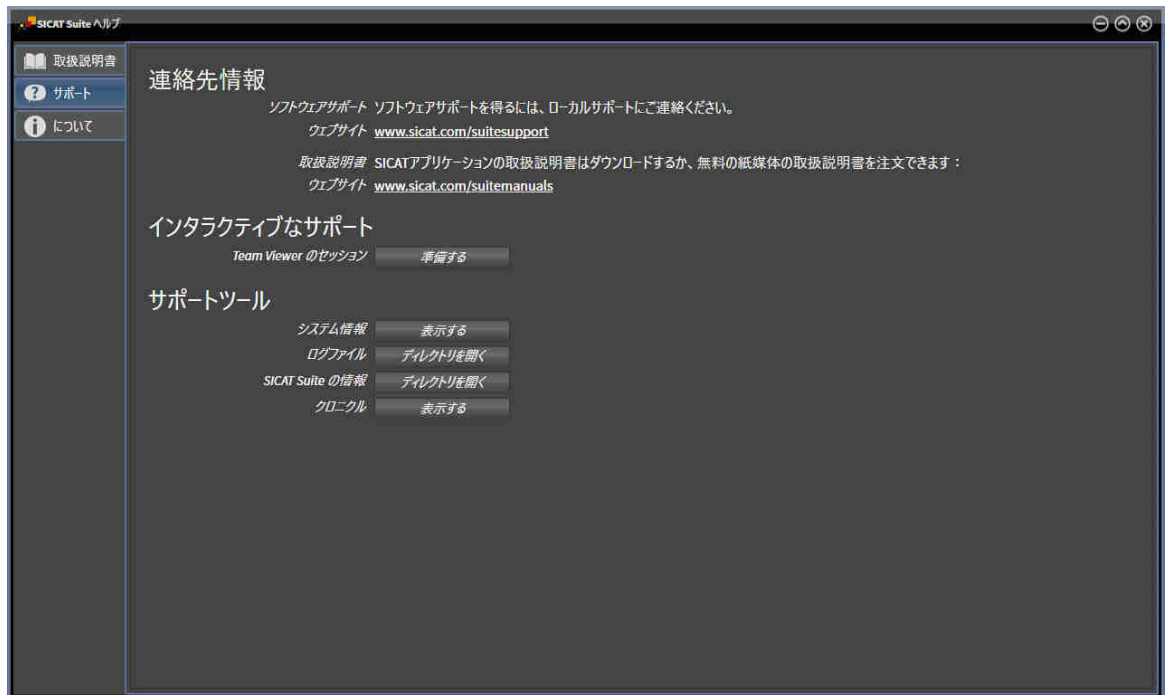
- パンの同期
- ズームの同期

SICAT FunctionのTMJワークスペースでは、下顎頭を左側と右側とで同期させながら、ビューをパニングしたりズームしたりができますが、この同期のオンとオフは、上記の設定内容で切り替えることができます。

37 サポート

SICATでご利用いただけるサポート態勢を以下に挙げます。

- PDFドキュメント
 - 連絡先情報
 - SICAT SuiteやSICATの各種アプリケーションで、インストール済みのものに関するご案内
- 以下の操作で、処理を続けてください。
- サポート態勢のページを開く [▶ ページ 240 - Standalone]



37.1 サポート態勢のページを開く



サポートウィンドウは、ナビゲーションバーのサポートアイコンをクリックする、またはF1 ボタンをクリックすることによって開くことができます。

SICAT Suiteサポートウィンドウは次のタブで構成されます。



- **取扱説明書** - これに関する情報は**取扱説明書を開く** [▶ ページ 46 - *Standalone*]を参照してください。



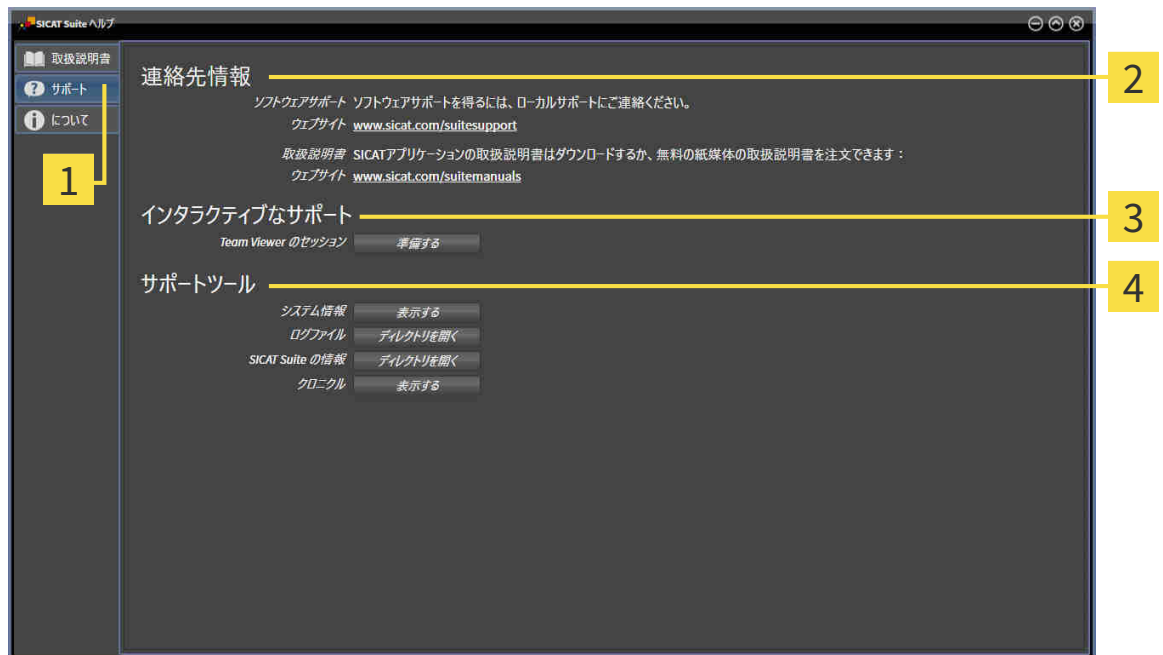
- **サポート** - これに関する情報は**連絡先情報およびサポートツール** [▶ ページ 241 - *Standalone*]を参照してください。



- **インフォメーション** - これに関する情報は**インフォメーション** [▶ ページ 243 - *Standalone*]を参照してください。

37.2 連絡先情報およびサポートツール

サポートウィンドウには、SICATサポートの補助をうけられるように、関連する全ての情報およびツールが含まれています。



1 タブ サポート

3 エリア インタラクティブなサポート

2 エリア 連絡先情報

4 エリア サポートツール

各種の取扱説明書を入手するときのお問い合わせ先は、**連絡先情報**エリアをご覧ください。

次のツールは**インタラクティブなサポート**エリアで使用することができます。

- SICAT Function では、**Team Viewer のセッション**エリアで、**準備する**のボタンをクリックすると、TeamViewerセッションが開きます。

TeamViewerは、マウス/キーボードのコマンドを遠隔操作し、コンピューターの画面に表示されている内容をインターネット接続経由で転送することのできるソフトウェアです。TeamViewerは、明確な承認がある場合のみ接続を確立します。その際、SICATサポートにTeamViewer IDとパスワードを通知します。これにより、SICATサポートは現地で直接補助できるようになります。

次のツールは**サポートツール**エリアで使用することができます。

- SICAT Function では、**システム情報**エリアで、**表示する**ボタンをクリックすると、OSのシステムに関する情報が開きます。
- SICAT Functionでは、**ログファイル**エリアで、**ディレクトリを開く**ボタンをクリックすると、Windowsエクスプローラのウィンドウで、SICAT Suiteのログディレクトリが開きます。
- SICAT Function では、**SICAT Suite の情報**エリアで、**ディレクトリを開く**ボタンをクリックすると、現時点でのインストール状況に関する情報をテキストファイルとしてエクスポートします。
- **SICAT Suite の情報**エリアでボタン**通知を表示する**をクリックするとSICAT Functionが通知ウィンドウを表示します。

37.3 インフォメーション

インフォメーションウィンドウでは、複数のタブにSICAT Suiteおよびインストールされている全SICATアプリケーション経由で情報が表示されます。



38 データを書き込み禁止で開く

データを書き込み禁止で開くことができます。

スタンドアロンバージョンで変更を加えることなく、保存せずに閲覧ができるデータタイプは、患者ファイリングのライセンスステータスの有無によって異なります。

SICAT FUNCTIONライセンスの種類	患者ファイリングはアクティブですか？	変更せずに参照することはできますか？
なし	無関係	無
ビューア	無関係	SICATデータ用
フルバージョン	無	有
フルバージョン	有	無

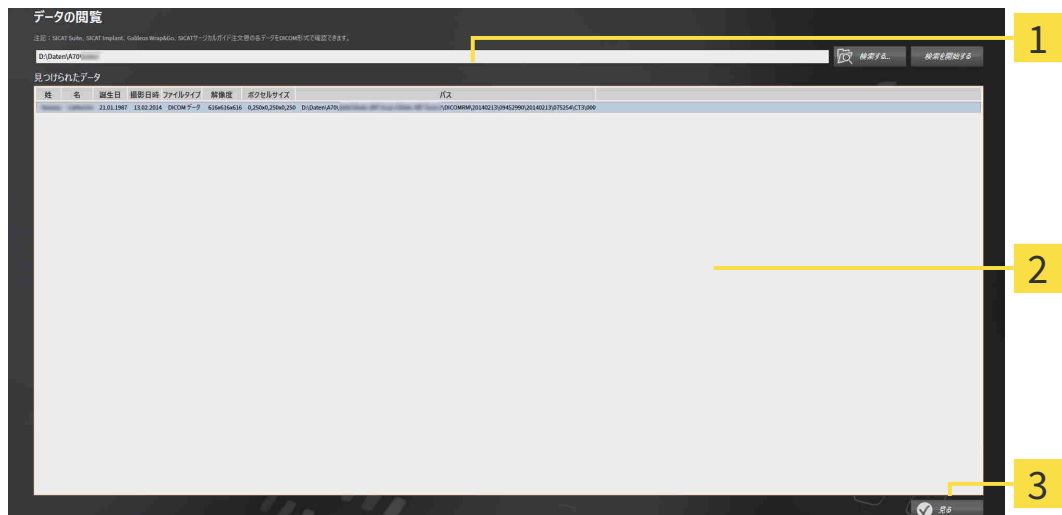
SICAT Functionのフルバージョンライセンスを有効化済みでアクティブな患者ファイリングがない場合は、DICOMデータは表示のみ可能です。

データを変更を加えることなく、保存せずに閲覧ができるようにするには、次のように行います。



1. ナビゲーションバーで、**データの閲覧**のアイコンをクリックします。

▶ **データの閲覧**のウィンドウが開きます。



1 欄 データはどこにあるのですか？

2 リスト 見つかったデータ

3 ボタン 見る



2. **検索する**のボタンをクリックします。

▶ **ファイルまたはディレクトリを選択する**のウィンドウが開きます。

3. **ファイルまたはディレクトリを選択する**ウィンドウで、閲覧したいファイルまたはフォルダとファイルを選択し、**OK**をクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは**ファイルまたはディレクトリを選択する**のウィンドウが閉じ、ファイルかフォルダで選択したもののパスを**データはどこにあるのですか？**欄に転記します。
 - ▶ SICAT Suiteは、検索したフォルダのいずれかに含まれている互換性のあるファイルを見つけられたデータリストにファイルの内容を表示します。
 - ▶ フォルダを選択した場合、SICAT Suiteはそのフォルダおよび全てのサブフォルダを検索します。SICAT Suiteは、検索したフォルダのいずれかに含まれている互換性のあるファイルを見つけられたデータリストに表示します。
4. **見つけられたデータリストから希望の3D X線撮影図または計画プロジェクトを選択し、データの閲覧ボタン**をクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteは、3D X線撮影図と計画プロジェクトが含まれる一時的な患者ファイルを作成し、これを有効にします。
5. **アクティブな患者ファイルを使用した作業** [▶ ページ 82 - *Standalone*]で続行してください。

データを選択するために、互換性のあるファイルやフォルダを**データはどこにあるのですか？**欄にドラッグ&ドロップすることができます。



説明されている手順を利用する場合、検索は自動で開始します。検索は、**検索を停止する**ボタンをクリックして中断することができます。ファイルまたはフォルダへのパスを手動で**データはどこにあるのですか？**欄に入力する場合、**検索を開始する**ボタンをクリックします。フォルダの内容が変わった、または誤って検索を終了した場合、検索を新たに開始するには、これが役に立つこともあります。



ボリュームの配置とパノラマ曲線を調整するには以下の条件を満たしている必要があります。

- 3DX線撮影画像またはSICAT Functionスタディを開くことができるライセンスを有効化済みです。これに関する情報は**ライセンス** [▶ ページ 47 - *Standalone*]を参照してください。
- SICAT機能による、または他のSICATアプリケーションに関する3DX線撮影画像用の読み取り専用スタディ内にも、ボリュームの配置またはパノラマ曲線の変更による影響を受けるオブジェクトはありません。

条件が満たされていない場合、SICAT Functionがウィンドウ**ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する**内でボリュームの配置やパノラマ曲線の変更を使用できるボタンと制御素子を無効化します。

39 SICAT FUNCTIONを閉じる

SICAT Functionを閉じるには、次の手順で行います。



- アクティブな患者ファイルのエリアで閉じるボタンをクリックします。
 - ▶ SICAT Suiteはアクティブな患者ファイルを保存します。
 - ▶ SICAT SuiteはすべてのSICATアプリケーションを閉じます。
 - ▶ SICAT Suiteはアクティブな患者ファイルを閉じます。

40 SICAT SUITEを閉じる



- SICAT Suiteの右上の隅にある閉じるボタンをクリックします。
- ▶ SICAT Suiteがフルバージョンで作動し、編集権限があり、スタディを開いている場合、全ての計画プロジェクトを保存します。
- ▶ SICAT Suiteが閉じます。

41 ショートカットキー



マウスポインタを特定の機能上に動かすと、SICAT Functionは機能の名称に加えて括弧内にショートカットキーを表示します。

次のショートカットキーはすべてのSICATアプリケーションで使用できます。

ショートカットキー	説明
A	角度測定を追加する
D	距離測定を追加する
F	アクティブなオブジェクトに焦点を合わせる
Ctrl + C	アクティブなビューの内容をクリップボードにコピーする
Ctrl + Z	前回のオブジェクト アクションを元に戻す
Ctrl + Y	前回戻したオブジェクト アクションをもう一度実行する
Del	アクティブなオブジェクトまたはオブジェクトグループを削除する
ESC	現在の操作を中断する（測定の追加など）
F1	有効なSICATアプリケーションで取扱説明書が開いている場合、ウィンドウ サポート が開きます。

次のショートカットキーはSICAT Functionの**下顎のセグメンテーション**ウィンドウで使用することができます。

ショートカットキー	説明
N	ナビゲーション
M	下顎骨をセグメントする
F	窩をセグメントする
B	背景をセグメントする

42 SICAT SUITEのアンインストール



SICAT Suiteアンインストールプログラムは、コンピューターに有効なライセンスを保持します。そのため、SICAT Suiteインストールプログラムはアンインストール前に、ライセンスを自動的に削除しないように警告します。SICAT Suiteを特定のコンピューターで使用するのをやめる場合、アンインストールする前にライセンスを無効にしてください。これに関する情報はライセンスをライセンスプールへ返却する [▶ ページ 54 - Standalone] に記載されています。



アンインストールプログラムは、SICAT WebConnectorを自動的に閉じてしまうため、SICAT Suiteをアンインストールする前に、SICAT WebConnectorがすべての注文を完全にアップロードしているかを確認してください。SICAT WebConnectorに関する内容は、*SICAT WebConnector* [▶ ページ 224 - Standalone]の節をご覧ください。

SICAT Suiteをアンインストールするには、次のように行います。

- ☑ SICAT WebConnector はすべての注文を正常にアップロードしました。
- 1. Windowsコントロールパネルで**プログラムおよび機能**をクリックします。
 - ▶ **プログラムおよび機能**のウィンドウが開きます。
- 2. リストから、SICAT Suiteのバージョンが含まれる**SICAT Suite**を選択します。
- 3. **アンインストール**のボタンをクリックします。

- ▶ アンインストールプログラムが起動し、**進捗状況**ウィンドウが開きます。



- ▶ アンインストールが終了すると、**確認**ウィンドウが開きます。



4. 終了するのボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteアンインストールプログラムが閉じます。



SICAT Suiteアンインストールプログラムを開くために、SICAT-SuiteインストールプログラムをSICAT Suiteがすでにインストールされているコンピューター上で起動することができます。



SICAT Suiteアンインストールプログラムは、SICAT Suiteと一緒にインストールされたいくつかの前提ソフトウェアのアンインストールプログラムを呼び出します。別のアプリケーションが引き続き前提ソフトウェアを必要としている場合、これらは保持されます。

43 安全に関する注意事項

3D X線撮影図



注意

不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。



注意

不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。



注意

DICOMに適合していないX線機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、DICOM規格に適合することが証明されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。

表示条件



注意

表示品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

SICATアプリケーションを使用する前に、表示品質が十分であるか確認してください（例えば、SMPTEテストビューで）。



注意

環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

データ管理



注意

患者名や3D X線撮影画像の突き合わせでミスがあると、結果として、患者を撮影した画像の取り違えを招くことになりかねません。

3D X線撮影ビューで、インポートしようとしているものや、すでにSICATのアプリケーションに読み込みのものがあれば、突き合わせる先の患者名が正しいこと、突き合わせる撮影画像に関する情報が正しいことをいずれもチェックしてください。



オリジナルデータを削除すると、データを消失するおそれがあります。
インポートした後にオリジナルデータを削除しないでください。



患者ファイリングのデータバックアップシステムが故障すると、患者データが完全に消失するおそれがあります。
定期的に全ての患者ファイリングのデータバックアップを取ってください。



患者ファイルを削除すると、それに含まれる3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルも全て削除されます。
患者ファイルの削除は、それに含まれる3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルが全て再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。



削除した患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトは元に戻すことができません。
患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトの削除は、これらのデータが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。



3D X線撮影画像を削除すると、それに依存する計画プロジェクトも全て削除されます。
3D X線撮影画像の削除は、それに依存する全計画プロジェクトが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

ネットワーク



SICATアプリケーションデータを信頼できないネットワークファイルシステムに保存すると、データの損失につながるおそれがあります。
ネットワーク管理者と共に、SICATアプリケーションデータを希望のネットワークファイルシステムに保存できるようにしてください。



SICAT Suiteおよび付属のSICATアプリケーションを他の機器と一つのコンピューターネットワークまたはメモリーネットワーク内で供用すると、患者、ユーザー、その他の人に未知の危険が及ぶおそれがあります。
ネットワークに関連する危険を特定、分析、判断するため、各組織内で規則を作成してください。



ネットワーク環境を変更すると、新しい危険につながるおそれがあります。例えば、ネットワーク構成の変更、追加機器またはコンポーネントのネットワークへの接続、機器またはコンポーネントのネットワークからの分離、ネットワーク機器またはコンポーネントのアップデートまたはアップグレードなどです。

ネットワークを変更する度に、新たなネットワークリスク分析を実施してください。

オペレーターの資格



資格のない者が本ソフトウェアを使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

ソフトウェアの使用は、必ず専門の知識のある有資格者が行ってください。

安全性



情報システムにあるセキュリティの脆弱性は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

1. 情報処理のシステム環境において、セキュリティ上の脅威を発見し、それらを回避するために、組織内部で指針を定めて周知するよう、徹底してください。
2. 最新のウィルススキャナをインストールし、ウィルススキャンを実行してください。
3. ウィルススキャナの定義ファイルを定期的に更新してください。



ワークステーションへの不正なアクセスは、患者データの秘密情報およびインテグリティに関するリスクにつながるおそれがあります。

ワークステーションへのアクセスは資格のある人に限定してください。



サイバーセキュリティの問題は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

お手元のSICATアプリケーションにおいて、サイバーセキュリティにかかわるトラブルの疑いがあるときは、直ちにテクニカルサポートまで、ご連絡ください。

ソフトウェアインストール



ソフトウェアに改変を加えると、結果として、このソフトウェアが起動しなかったり、または正常に機能しない可能性があります。

1. ソフトウェアのインストールに変更を加えないでください。
2. ソフトウェアのインストールディレクトリにあるコンポーネントを削除または変更しないでください。



インストールメディアが損傷すると、インストールに失敗する可能性があります。

インストールメディアは慎重に取り扱い、適切に保管してください。



お手元のシステムがシステム要件を満たしていない場合は、結果として、このソフトウェアが起動しなくなったり、または正常に機能しない可能性があります。

ソフトウェアをインストールする前に、ご使用のシステムが最小ソフトウェア/ハードウェア要件を満たしているか確認してください。



不十分な承認は、ソフトウェアインストールまたはソフトウェアアップデートが失敗する原因になる場合があります。

ソフトウェアをインストールまたはアップデートする場合、使用するシステムに十分な承認があることを確認してください。

注文



注文に誤ったデータがあると、誤った注文となる可能性があります。

注文をするときには、注文のための正しいデータの選択と転送を確認してください。



注文を誤ると誤った治療の原因となるおそれがあります。

1. 注文を送信する前にご注文内容をご確認ください。
2. 注文の適切な治療計画を確認してください。

顎運動データ



3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



不適切な顎運動データ用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の顎運動データを使用してください。



使用目的に適合しない顎運動撮影機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

必ずSICAT Functionで顎運動データの利用をカバーするという使用目的に適合する顎運動撮影機器を使用してください。



対応していない顎運動撮影機器または互換性のない記録装置を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

顎運動データの記録にあたり、顎運動の記録機器（例えば、SICAT JMT+）と、これに適合する、採得用の器具（例えば、SICAT Fusion Bite）をコンビにしますが、これは、SICAT Functionがサポートするものを使用し、また、それ以外の機器や器具によるデータは、利用しないでください。



間違って撮影された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データおよび3D X線撮影画像は、各機器のメーカーの指示に従って撮影してください。指定されたタイプの参照オブジェクトを使用してください。



3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない顎運動データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



顎運動データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした顎運動データのインテグリティと品質を確認してください。



顎運動データの品質、正確性、解像度が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質、解像度、正確性の顎運動データを利用してください。



過度なアーチファクト、不十分な解像度、または3D X線撮影画像の品質が十分でない場合、マーカーおよび参照オブジェクトを認識するメカニズムにエラーが生じるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確なマーカー/参照オブジェクト認識を可能にする3D X線撮影画像を使用してください。



参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が間違っていると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

JMTウィザードが参照オブジェクトを認識した後、3D X線撮影画像を考慮しながら、参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が正しいか確認してください。



間違って記録された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された顎運動データが3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

光学印象



3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。



不適切な光学印象用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の光学印象データを使用してください。



注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない光学印象データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

患者データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。



注意

光学印象データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした光学印象データのインテグリティと品質を確認してください。



注意

光学印象データの品質および正確性が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質および正確性の光学印象データを利用してください。



注意

過度なアーチファクト、不十分な解像度、または記録のための点の欠如は、光学印象の記録に失敗する原因になるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確な記録を可能にする光学印象と3D X線撮影画像のみを使用してください。



注意

互いに一致しない光学印象の記録プロセスでマークを選択すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

光学印象データを記録する場合、3D X線撮影画像と光学印象に一致するマーキングで慎重に選択します。



注意

間違って記録された光学印象データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された光学印象が3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

セグメンテーション



注意

3D X線撮影画像の過度なアーチファクトまたは不十分な解像度は、セグメンテーションプロセスの失敗または不十分な結果につながるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトの可能性ががあります。

解剖学的構造関連のセグメンテーションの品質が十分である3D X線撮影画像のみ使用してください。



注意

セグメンテーションの品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

セグメンテーションの品質が使用目的に対して十分であるか確認してください。

44 精度

次の表はすべてのSICATアプリケーションの精度を示しています。

距離測定の精度	< 100 μm
角度測定の精度	< 1度
表示精度	< 20 μm
顎運動データに関する表示の正確性	0.6 mm以下

用語集

3D X線撮影画像

3D X線撮影画像とは容積測定タイプのX線画像のことです。

ADA

American Dental Association (米国歯科医師会)

FDI

Fédération Dentaire Internationale (国際歯科連盟)

SICAT JMT+

SICAT JMT+は下顎の動きを記録します。

SICATポータル

SICATポータルは、SICATにスプリントを注文することのできるインターネットページです。

SIXD

光学印象を交換するためのファイルフォーマット。

SMPTE

Society of Motion Picture and Television Engineers (映画テレビ技術者協会)

SSI

光学印象を交換するためのファイルフォーマット。

STL

Surface Tessellation Language、メッシュデータを交換するための標準ファイルフォーマット (例えば、光学印象を含む)。

アプリケーション

SICATの各種アプリケーションは、いずれもSICAT Suiteに付属するプログラムです。

ナビゲーションバー

SICAT Suiteの上部にあるナビゲーションバーには、SICAT Suiteの最も重要なアイコンが含まれます。患者ファイルがアクティブになっている場合、ナビゲーションバーを使用して患者ファイルと各種アプリケーション間で切り替えることができます。

バイトフォーク

バイトフォークは、SICATが3D X線撮影画像のデータと顎運動データを一致させるために使用するX線不透過性マーカー付きバイトプレートです。

フレーム

3Dビューでは、フレームに2Dレイヤービューの位置が表示されます。

患者ファイリング

患者ファイリングには患者ファイルが含まれています。SICAT Suiteは患者ファイリングをローカルファイルシステムまたはネットワークファイルシステム上のフォルダ内に保存します。

患者ファイル

患者ファイルには、特定の患者に属するすべての3D撮影画像および計画プロジェクトが含まれます。SICAT Suiteは、患者ファイルを患者ファイリングに保存します。

記録

空間配置

計画プロジェクト

計画プロジェクトは、SICATアプリケーションの3D X線撮影画像をベースにした計画データで構成されます。

光学印象

光学印象は、歯、印象材または石膏モデルの3D表面撮影の結果です。

撮影結果

3D治療計画スタディは、3DX線撮影画像と、それに関する治療計画プロジェクトとで構成されます。

十字線

十字線は別のレイヤービューとの交差線です。

通知ウィンドウ

通知ウィンドウとは、完了した手順に関するメッセージを、モニター画面の右下端に表示するものをいいます。

索引

アイコン

解剖学的な咬合	182	治療スプリントをショッピングカートに入れる	
ビュー	116	216	
画像のツールバー	117	カートをチェックする	221
トリミング部分を移動させる	123	用途	7
十字線、フレーム	125	運動の軌跡	
輝度およびコントラスト	121	検査ウィンドウにより調整する	187
最大化と復元	120	運動経路	182
スクリーンショットの作成	129	3Dビューで表示する	186
スクロール	124	十字線により調整する	188
切替	119	CEREC	
検査ウィンドウの非表示/表示	127	咬合器値	195
検査ウィンドウの移動	126	データを書き込み禁止で開く	244
ズームング	123	データエクスポート	209
リセットする	128	データのエクスポート	211
アプリケーションを切り替える	45	「データの転送」ウィンドウを開く	210
ワークスペース	107	データインポート	66
調整する	114	データを選択する	70
ワークスペースのツールバー	95	インポート関係の設定内容	72
MPR/放射性	112	新規患者ファイルに帰属させる	73
パノラマ	109	既存の患者ファイルに追加する	74
スクリーンショットの作成	115	アンインストール	249
TMJ	110	設定	230
切り替える	113	一般的な設定内容を確認する、変更する	231
リセットする	114	Praxis情報を表示または変更する	235
咬合器値		SICAT Function設定の表示または変更	238
一般的なお知らせ	195	可視化設定の変更	236
下顎頭が視認不可能な時に読み込む	201	最初のステップ	35
下顎頭が視認可能な時に読み込む	199	窩をセグメントする	168
ユーザーインターフェース		取扱説明書	
SICAT Function	95	オンラインヘルプとして開く	46
SICAT Suite	41	記号、スタイル	15
SICAT Suite Homeウィンドウ	43	概要	16
このバージョンの特徴	32	グレースケール値	141
注文	213	調整する	143
再起動後の自動アップロード	225	インストール	19
データを別のコンピュータから送信する	226	アンインストール	249
バックグラウンドでのデータ送信	222	JMTエリア	183
アップロードの中断および続行	225	ブックマークを管理する	185
SICATポータル	223	顎運動データ	156
治療位置をキャンセルする	214	解剖学的運動経路を再生する	183
治療位置の設定	214	エクスポートする	185
治療位置に上書きする	215	機器	157
		インポートして記録する	159
		静的な顎関係または顎運動を選択する	184

ライセンス	47	並び替え分類を行う	80
表示する	49	検索	79
自動アクティベート	50	閉じる	247
ライセンスプールに返却する	54	スクリーンショット	
手動でアクティブ化する	52	ビューで作成する	129
パウチャーコードを使用する	56	ワークスペースを使って作成する	115
下顎骨をセグメントする	165	セグメンテーション	164
測定		窩をセグメントする	168
距離測定を追加する	204	下顎骨をセグメントする	165
測定点を移動する	207	SICAT Function	
測定値を移動する	208	ユーザーインターフェース	95
概要	203	閉じる	246
移動	207	SICAT Functionのスタディ	
角度測定を追加する	205	スタンドアロン版内	88
モニターキャリブレーション	233	SICATポータル	223
オブジェクト		SICAT Suite	
削除する	103	ユーザーインターフェース	41
焦点を合わせる	103	閉じる	247
オブジェクトおよびオブジェクトグループをア		開始する	40
クティブにする	101	SICAT Suite Homeウィンドウ	43
オブジェクトおよびオブジェクトグループの表		SICAT WebConnector	224
示/非表示	102	安全に関する情報	12
オブジェクトグループの開閉	101	危険レベル	13
オブジェクトバー	99	オペレーターの資格	14
オブジェクトツールバー	103	SMPTEテストパターン	233
元に戻し、もう一度実行する	103	言語	17
SICAT Functionオブジェクト	105	スタンドアロン版	
光学印象	171	SICAT Functionのスタディ	88
他のSICATアプリケーションから再使用する	181	STLインポート	178
インポートして記録する	173	サポート	239
STLインポート	178	ヘルプを開く	46
パノラマエリア	146	連絡先情報	241
調整する	152	サポートウィンドウを開く	240
患者ファイリング	58	製品情報	243
「患者ファイリング」ウインドウを開く	60	ツール	241
別の患者ファイリングをアクティブにする	63	システム要件	9
削除する	65	ショートカットキー	248
追加する	61	TMJワークスペース	111
患者ファイル	77	一般的なお知らせ	110
3D X線撮影画像および計画プロジェクトを削除		咬合器値	195
する	93	Bonwillの三角を利用する	192
開く	81	機能	189
開いた患者ファイルを使用した作業	82	上下顎中切歯の交点をセットする	191
属性を変更する	84	下顎頭を中心に顎運動を表示する	194
「患者ファイル概要」ウインドウを開く	78	セグメンテーション限度の表示	193
削除	91	軌跡点を移動する	190
患者ファイル概要から開く	85	SICAT Suiteの概要	17

切替	
アプリケーション	45
検査ウィンドウ	108
バージョン	
様々な	32
ボリュームの配置	145
調整する	147
バウチャーコードを使用する	56
カート	
開く	220
ワークフロー・ステップ	
注文する	98
診断する	98
準備する	97
ワークフローのツールバー	97
ワークフロー	35

数字

3Dビュー	130
切り抜きを移動する	139
視線方向を変更する	131
表示モードを切り替える	136
表示タイプ	134
構成設定を行う	137

記号の説明



- 注意！添付書類を参照してください。



- 取扱説明書を参照してください。



- メーカー



- バッチコード

バッチコードの例：

1020130921

1	2	3	4
---	---	---	---

1 ABフォーマットでの製造バージョン（10はV1.0を示します）

3 製造月

2 製造年

4 製造日

状態: 2017-12-19

お問い合わせ先



製造者

SICAT GMBH & CO. KG

BRUNNENALLEE 6

53177 BONN、ドイツ

WWW.SICAT.COM

CE0197

世界各地のサポート

WWW.SICAT.COM/SUITESUPPORT

電話番号: +49 6251 161670

全ての権利は当社に帰属します。この取扱説明書につきましては、翻訳を含め、全部または一部の別を問わず、複写をお断りいたします。ただし、SICAT社が書面により承諾している場合を除きます。

本取扱説明書に記載されている情報は発行当時のものであり、予告なしに変更される場合があります。

医療機器製造販売認証番号：227AABZI00055000

販売名：シーキャット JMT+

一般的名称：歯科用下顎運動測定器

分類：管理医療機器 特定保守管理医療機器

選任外国製造医療機器等製造販売業者

デンツプライシロナ株式会社

東京都港区麻布台1-8-10 麻布偕成ビル

外国特例認証取得者

Sirona Dental Systems GmbH

(ドイツ連邦共和国)

外国製造業者

SICAT GmbH & Co. KG

(ドイツ連邦共和国)

SICAT.

a sirona company